静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第７集

富士石遺跡Ⅲ

第二東名№142地点

縄文時代以降編

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

長泉町－11

（第１分冊）

２０１２

中日本高速道路株式会社東京支社

静岡県埋蔵文化財センター

序

この度『富士石遺跡Ⅲ　縄文時代以降編』を刊行いたします。これは、第二東名高速道路建設に伴い発掘調査が実施されました富士石遺跡（沼津工区№142地点）の報告書のうち最終刊にあたります。

この富士石遺跡は愛鷹山東南麓に位置します。遺跡からは、県内最古級の旧石器時代の石器から中世の陶器に至るまで幅広い時代の遺物が出土しました。縄文時代では早期・前期の集落跡、後期の住居跡、焼土や集石、土坑などの遺構や、縄文時代早期を中心に大量の縄文土器が出土しました。弥生時代では中期後半の土器や、後期の中部高地の土器も散見されました。

これらの成果は、富士石遺跡の周囲に展開する遺跡の調査成果とも相俟って、そこに暮らした人々の生活像と文化の流れを詳らかにし、歴史の理解と文化財保護、そしてふじのくに静岡の文化力向上、文化意識の醸成へとつながりましょう。本書が、研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。

最後になりましたが、本発掘調査にあたり、中日本高速道路株式会社東京支社ほか各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2012年３月

静岡県埋蔵文化財センター所長
勝　田　順　也

例　言

1　本書は、静岡県駿東郡長泉町東野字八分平285-18他に所在する富士石遺跡（第二東名№142地点）の発掘調査報告書の３冊目である。なお、本書は第１分冊と第２分冊によって構成されており、本書は第１分冊である。

2　発掘調査は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本高速道路株式会社東京支社（旧日本道路公団静岡建設局）の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課（旧文化課）の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施し、平成23年度以降は静岡県埋蔵文化財センターが同研究所の業務を引き継いで実施した。

3　調査期間は以下のとおりである。

確認調査　　平成12年11月～平成14年８月
本発掘調査　平成13年10月～平成21年３月
資料整理　　平成21年４月～平成24年３月

4　現地調査体制は『富士石遺跡Ⅰ』に掲載した。『富士石遺跡Ⅲ』の資料整理体制は下記の通りである。

平成21年度（資料整理：財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所）
所長兼常務理事：天野　忍　次長兼総務課長：松村　享　次長兼事業係長：稲葉保幸
次長兼調査課長：及川　司　東部統括係長（次長兼）：中鉢賢治　調査課副主任：中鉢京子
東部調査係長：笹原千賀子　調査研究員：壬生亮輔

平成22年度（資料整理：財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所）
所長兼常務理事：石田　彰　次長兼総務課長：松村　亨　調査課長：中鉢賢治
専門監兼事業係長：稲葉保幸　調査第一係長：勝又直人

平成23年度（資料整理：静岡県埋蔵文化財センター）
所長：勝田順也　次長兼総務課長：八木利眞　調査課長：中鉢賢治
調査第一係長：富樫孝志　主査：勝又直人

5　本書の執筆分担は以下の通りである。
第１章：壬生亮輔　第２章：壬生亮輔・勝又直人　第３章：壬生亮輔・勝又直人
第４章第１節：勝又直人　第２節１：杉山和徳　２：勝又直人　３：杉山和徳　第５章：勝又直人

6　石器石材の同定は森嶋富士夫が行った。

7　本書の編集は静岡県埋蔵文化財センターが行った。

8　平成21年度、作業の迅速化を図るため、一部の剥片石器実測を株式会社ラングに、土器付着炭化物等の放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所に委託した。また平成22年度、黒曜石原産地分析を望月明彦氏（独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授）に、縄文土器復元を株式会社シン技術コンサルに委託した。平成23年度は資料整理を㈱パソナに委託した。

9　発掘・整理作業において、以下の方々に御指導・御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。
池谷信之　石神孝子　金子直行　小崎晋　篠原武　澁谷昌彦　鈴木敏中　谷藤保彦　戸田哲也
原田雄紀　廣瀬高文　毒島正明　水野蛍　森下泉太（五十音順）

10　発掘調査の資料は、すべて静岡県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

1　本書で用いた遺物・遺構等の位置を表す国土座標は、すべて世界測地系による。

2　調査区の方眼設定は、国土座標平面直角座標Ⅷ系を基準に、(－93210.00, 34630.00＊富士石Ⅰ参照)＝（A，O）と設定した。1グリッドは10m×10mで、各グリッドの呼称は、該当グリッドの南西角の座標名称を用いている。

3　出土遺物は、それぞれに5桁の通し番号を付し、上記国土座標と標高値を付して取り上げた。

4　遺構図・遺物図の縮尺は各図に示す通りである。

5　本文中、遺物表に用いる色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』(農林水産省技術会議事務局監修1992)を使用した。

6　層位名の略号は、土層の説明と共に、第2章第2節の基本層序に明示する。

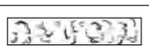
7　報告にあたり、遺構番号を付け直した。

8　石器の実測は、原則として第三角投影図法に拠った。

9　第1図「富士石遺跡周辺の主要遺跡」は、国土地理院発行1：25,000地形図「沼津」を複写し加工・加筆した。

10　実測図中の指示記号及び表現、黒曜石産地、他の石材の略号は以下の通りである。

遺　物

⊢--------⊣	敲打痕の範囲	⊢————⊣	磨面の範囲	■	発掘時の欠損
	敲打痕		磨面		

黒曜石産地一覧（挿図掲載分）

略号	産地	略号	産地	略号	産地
SWHD	諏訪星ヶ台群	HNHJ	箱根畑宿群	KZOB	神津島恩馳島群
WDTY	和田鷹山群	AGKT	天城柏峠群		

石材一覧（挿図掲載分）

和名	英名	標準資料略号	和名	英名	標準資料略号
玄武岩	basalt	Ba	緑色片岩	greenschist	GS
多孔質玄武岩	vesicularbasalt	VBa	ホルンフェルス	hornfels	Hor
ガラス質黒色安山岩	glassy　black　andesite	GAn	細粒凝灰岩	fine-grained　tuff	FT
輝石安山岩	pyroxene　andesite	An(Py)	硬質細粒凝灰岩	hard　fine-grained　tuff	HFT
多孔質安山岩	vesicular　andesite	VAn	軟質細粒凝灰岩	soft　fine-grainedtuff	SFT
デイサイト	dacite	Da	緑色凝灰岩	green　tuff	GT
下呂石	gerostone	GRS	珪質シルト岩	siliceous　siltstone	SSi
流紋岩	rhyolita	Rhy	頁岩	shale	Sh
黒曜石	obsidian	Ob	赤色頁岩	ret　shale	Sh(Re)
軽石	pumice	Pm	珪質頁岩	siliceous　shale	SSh
アプライト	aplite	Ap	珪質粘板岩	siliceous　slate	SSl
ひん岩	porphyrite	Po	細粒砂岩	fine-grained　sandstone	FSS
蛇紋岩	sarpentinita	Sp	中粒砂岩	medium-grained sandstone	MSS
カンラン岩	paridotite	Pe	粗粒砂岩	corse-grained　sandstone	CSS
斑レイ岩	gabbro	Ga	硬質砂岩	hard　sandstone	HSS
細粒斑レイ岩	fine-grained　gabbro	FG	細礫岩	granule　conglomerate	GC
滑石	talc	Ta	チャート	chert	Ch
結晶片岩	crystalline　schist	CSc			

目　次

第１章　資料整理の概要 …… 1

第２章　遺跡周辺の環境

第１節　地理・歴史的環境 …… 2
第２節　土層堆積状況と遺跡の地形 …… 6

第３章　縄文時代の遺構と遺物

第１節　遺構と遺構出土遺物 …… 10
第２節　包含層出土遺物
1　土器 …… 111
2　石器 …… 201

第４章　弥生時代以降の遺構と遺物

第１節　遺構と遺構出土遺物 …… 266
第２節　包含層出土遺物
1　土器 …… 282
2　石器・石製品 …… 288
3　金属器 …… 292

第５章　まとめ …… 293

抄録

挿図目次

第１図　富士石遺跡周辺の主要遺跡 …… 4
第２図　富士石遺跡の基本層序 …… 6
第３図　第二東名関連遺跡の調査範囲 …… 7
第４図　トレンチ・テストピット位置図 …… 8
第５図　調査区名称と地形名称 …… 9
第６図　縄文時代早～前期遺構位置図 …… 12
第７図　縄文時代中～後期遺構位置図 …… 13
第８図　１号住居跡 …… 14
第９図　１号住居跡遺物出土状況と
出土遺物 …… 15
第10図　２号住居跡と出土遺物 …… 16
第11図　３号住居跡 …… 18
第12図　３号住居跡出土遺物 …… 19
第13図　４号住居跡と出土遺物１ …… 20
第14図　４号住居跡遺物出土状況と
出土遺物２ …… 21
第15図　５号住居跡と出土遺物 …… 22
第16図　６号住居跡 …… 23
第17図　６号住居跡出土遺物１ …… 24
第18図　６号住居跡出土遺物２ …… 25
第19図　７号住居跡 …… 26
第20図　７号住居跡遺物出土状況と

出土遺物１ …… 27
第21図　７号住居跡出土遺物２ …… 28
第22図　８号住居跡と出土遺物 …… 30
第23図　９号住居跡 …… 31
第24図　９号住居跡出土遺物 …… 32
第25図　10号住居跡 …… 33
第26図　10号住居跡遺物出土状況と
出土遺物１ …… 34
第27図　10号住居跡出土遺物２ …… 35
第28図　11号住居跡と出土遺物 …… 36
第29図　12号住居跡 …… 38
第30図　12号住居跡出土遺物 …… 39
第31図　13号住居跡と出土遺物１ …… 40
第32図　13号住居跡遺物出土状況と
出土遺物２ …… 41
第33図　14号住居跡 …… 42
第34図　15号住居跡と出土遺物 …… 43
第35図　16号住居跡 …… 44
第36図　17号住居跡と出土遺物 …… 45
第37図　18号住居跡 …… 46
第38図　19号住居跡 …… 47
第39図　20号住居跡 …… 50
第40図　20号住居跡出土遺物 …… 51
第41図　21号住居跡 …… 52
第42図　21号住居跡遺物出土状況と
出土遺物 …… 53
第43図　22号住居跡と出土遺物 …… 54
第44図　23号住居跡 …… 55
第45図　23号住居跡出土遺物１ …… 56
第46図　23号住居跡出土遺物２ …… 57
第47図　24号住居跡と出土遺物 …… 58
第48図　25号住居跡 …… 60
第49図　25号住居跡遺物出土状況と
出土遺物１ …… 61
第50図　25号住居跡出土遺物２ …… 62
第51図　25号住居跡出土遺物３ …… 63
第52図　26号住居跡 …… 64
第53図　26号住居跡遺物出土状況 …… 65
第54図　26号住居跡出土遺物 …… 66
第55図　縄文時代の集石１ …… 68
第56図　縄文時代の集石２ …… 70
第57図　縄文時代の集石３ …… 71
第58図　縄文時代の集石４ …… 72
第59図　縄文時代の集石５ …… 73
第60図　縄文時代の集石６ …… 74
第61図　集石出土遺物１ …… 76
第62図　集石出土遺物２ …… 77
第63図　集石出土遺物３ …… 78
第64図　集石出土遺物４ …… 79
第65図　縄文時代の土坑１ …… 80
第66図　縄文時代の土坑２ …… 82
第67図　縄文時代の土坑３ …… 83
第68図　縄文時代の土坑４ …… 84
第69図　縄文時代の土坑５ …… 86
第70図　縄文時代の土坑６ …… 87
第71図　縄文時代の土坑７ …… 88
第72図　縄文時代の土坑８ …… 89
第73図　縄文時代の土坑９ …… 90
第74図　縄文時代の土坑10 …… 91
第75図　縄文時代の土坑遺物出土状況と
出土遺物１ …… 92
第76図　縄文時代の土坑遺物出土状況と
出土遺物２ …… 93
第77図　縄文時代の炉跡１ …… 94
第78図　縄文時代の炉跡２ …… 96
第79図　竪穴状遺構と出土遺物 …… 98
第80図　配石遺構 …… 99
第81図　配石遺構出土遺物１ …… 100
第82図　配石遺構出土遺物２・
石斧埋納遺構 …… 101
第83図　埋甕 …… 102
第84図　縄文土器第Ⅰ群１ …… 112
第85図　縄文土器第Ⅰ群２ …… 114
第86図　縄文土器第Ⅰ群３ …… 116
第87図　縄文土器第Ⅰ群４ …… 118
第88図　土器分布図１ …… 120
第89図　土器分布図２ …… 121
第90図　縄文土器第Ⅰ群５ …… 122
第91図　縄文土器第Ⅱ群１ …… 124
第92図　縄文土器第Ⅱ群２ …… 125
第93図　縄文土器第Ⅱ群３ …… 128
第94図　縄文土器第Ⅱ群４ …… 129

第95図　縄文土器第Ⅱ群５ …… 130
第96図　縄文土器第Ⅱ群６ …… 131
第97図　縄文土器第Ⅱ群７ …… 134
第98図　縄文土器第Ⅱ群８ …… 136
第99図　縄文土器第Ⅱ群９ …… 138
第100図 縄文土器第Ⅱ群10 …… 140
第101図 縄文土器第Ⅱ群11 …… 142
第102図 縄文土器第Ⅱ群12 …… 143
第103図 縄文土器第Ⅱ群13 …… 146
第104図 縄文土器第Ⅱ群14 …… 148
第105図 縄文土器第Ⅱ群15 …… 149
第106図 縄文土器第Ⅱ群16 …… 150
第107図 縄文土器第Ⅱ群17 …… 152
第108図 土器分布図３ …… 154
第109図 土器分布図４ …… 155
第110図 縄文土器第Ⅱ群18・第Ⅲ群１ …… 156
第111図 縄文土器第Ⅲ群２・第Ⅳ群１ …… 158
第112図 縄文土器第Ⅳ群２ …… 159
第113図 縄文土器第Ⅳ群３・第Ⅴ群１ …… 162
第114図 縄文土器第Ⅴ群２ …… 163
第115図 縄文土器第Ⅴ群３ …… 166
第116図 縄文土器第Ⅴ群４・第Ⅵ群１ …… 168
第117図 縄文土器第Ⅵ群２ …… 169
第118図 土器分布図５ …… 170
第119図 土器分布図６ …… 171
第120図 縄文土器第Ⅵ群３ …… 172
第121図 縄文土器第Ⅵ群４ …… 173
第122図 縄文土器第Ⅶ群１ …… 174
第123図 縄文土器第Ⅶ群２ …… 176
第124図 縄文土器第Ⅶ群３ …… 178
第125図 縄文土器第Ⅶ群４ …… 179
第126図 縄文土器第Ⅶ群５・第Ⅷ群 …… 180
第127図 土器分布図７ …… 182
第128図 土器分布図８ …… 183
第129図 縄文土器第Ⅸ群１ …… 184
第130図 縄文土器第Ⅸ群２・第Ⅹ群 …… 186
第131図 石鏃（石材別）分布 …… 207
第132図 スクレイパー（石材別）分布 …… 208
第133図 石匙（石材別）分布 …… 209
第134図 石錐（石材別）分布 …… 209
第135図 楔形石器（石材別）分布 …… 210
第136図 石核（タイプ別）分布 …… 211
第137図 石核（石材別）分布 …… 212
第138図 石斧（タイプ別）分布 …… 213
第139図 石斧（石材別）分布 …… 214
第140図 石錘・礫器分布 …… 215
第141図 磨石・敲石類分布 …… 216
第142図 石皿・台石分布 …… 218
第143図 剥片・砕片・二次加工剥片・
使用痕剥片分布 …… 219
第144図 石鏃１ …… 220
第145図 石鏃２ …… 221
第146図 石鏃３ …… 222
第147図 石鏃４ …… 223
第148図 石鏃５ …… 224
第149図 スクレイパー１ …… 225
第150図 スクレイパー２ …… 226
第151図 スクレイパー３ …… 227
第152図 スクレイパー４ …… 228
第153図 石匙１ …… 229
第154図 石匙２ …… 230
第155図 石錐・楔形石器 …… 231
第156図 石核１ …… 232
第157図 石核２ …… 233
第158図 石核３ …… 234
第159図 石核４ …… 235
第160図 石核５ …… 236
第161図 石核６ …… 237
第162図 石核７ …… 238
第163図 石核８ …… 239
第164図 打製石斧１ …… 240
第165図 打製石斧２ …… 241
第166図 打製石斧３ …… 242
第167図 打製石斧４ …… 243
第168図 打製石斧５ …… 244
第169図 打製石斧６ …… 245
第170図 打製石斧７・磨製石斧１ …… 246
第171図 磨製石斧２ …… 247
第172図 石錘・礫器 …… 248
第173図 磨石・敲石類１ …… 249
第174図 磨石・敲石類２ …… 250
第175図 磨石・敲石類３ …… 251

第176図 磨石・敲石類４ …… 252
第177図 磨石・敲石類５ …… 253
第178図 磨石・敲石類６ …… 254
第179図 磨石・敲石類７ …… 255
第180図 磨石・敲石類８ …… 256
第181図 磨石・敲石類９・石皿１ …… 257
第182図 石皿２ …… 258
第183図 石皿３・台石１ …… 259
第184図 台石２ …… 260
第185図 弥生時代の遺構 …… 268
第186図 古代～近世の遺構位置図 …… 269
第187図 古代のカマド跡１ …… 270
第188図 古代のカマド跡２ …… 271
第189図 古代１号遺物集中 …… 272
第190図 中世以降の溝状遺構１ …… 274
第191図 中世以降の溝状遺構２ …… 275
第192図 中近世の土坑 …… 276
第193図 土坑列配置概念図 …… 277
第194図 中近世の炉跡１ …… 278
第195図 中近世の炉跡２ …… 279
第196図 中世墓 …… 280
第197図 弥生時代以降出土遺物分布図 …… 284
第198図 弥生以降の土器１ …… 285
第199図 弥生以降の土器２ …… 286
第200図 弥生以降の土器３ …… 287
第201図 弥生以降の石器類１ …… 289
第202図 弥生以降の石器類２ …… 290
第203図 鉄製紡錘車 …… 292
第204図 時期別住居跡変遷図 …… 294

挿表目次

第１表　周辺の主要遺跡一覧表 …… 5
第２表　縄文時代住居跡計測表 …… 104
第３表　縄文時代集石計測表 …… 104
第４表　縄文時代土坑計測表 …… 104～105
第５表　縄文時代炉跡計測表 …… 105
第６表　縄文時代竪穴状遺構計測表 …… 105
第７表　縄文時代配石遺構計測表 …… 105
第８表　縄文時代石斧埋納遺構計測表 …… 105
第９表　縄文時代埋甕計測表 …… 105
第10表　縄文時代
　遺構出土土器観察表 …… 106～108
第11表　縄文時代
　遺構出土石器計測表 …… 109～110
第12表　縄文時代
　包含層出土土器観察表 …… 188～200
第13表　縄文時代石器組成表 …… 202
第14表　縄文時代磨石・敲石類組成表 …… 217
第15表　縄文時代
　包含層出土石器計測表 …… 261～265
第16表　弥生時代土坑計測表 …… 279
第17表　古代カマド跡計測表 …… 279
第18表　古代遺物集中計測表 …… 279
第19表　中世以降溝状遺構計測表 …… 280
第20表　中近世炉跡計測表 …… 280
第21表　中近世土坑計測表 …… 280～281
第22表　中世墓計測表 …… 281
第23表　弥生時代以降
　遺構出土土器観察表 …… 281
第24表　弥生時代以降
　包含層出土土器観察表 …… 291
第25表　弥生時代以降
　包含層出土石器・石製品計測表 … 291
第26表　鉄製紡錘車計測表 …… 292

第１章　資料整理の概要

富士石遺跡における縄文時代以降の成果に係る資料整理・報告書作成の作業期間は平成21年６月～平成24年３月である。

まず整理を開始するにあたり、大量の撹乱土内採取の遺物の取り扱いが問題となった。第５図にあるように当該遺跡４－１区高台部および４－３区においては特に激しく撹乱されており、縄文時代の包含層を含む富士黒土層以上の層がほとんど残存していなかった。撹乱土は残置されており、そこから包含層出土遺物とほぼ同量の遺物が取り上げられた。

これら撹乱土から採取した土器・石器・石製品については以下のように取り扱った。土器については、長辺２センチ以下の破片または無文の胴部破片を除き、全て分類の対象とした。石器については、剥片石器は器種分類を行い、実測したもののみを遺跡管理システムに登録した。石製品は全点を実測、遺跡管理システムに登録した。報告書内での表記はすべて撹乱とした。

上記作業に並行し、旧石器時代の遺物包含層と考えられる休場層の上面と、弥生時代の包含層と考えられる新期スコリア層の下面を境に形式的に分離した。次に遺物の形態や風化の程度を観察し、浮き上がりや沈み込み等の理由で混入の可能性がある遺物を抽出し、それぞれを再分類した。剥片・砕片類については、当初の分離を活かし層位によって形式的に分類した。その結果、縄文時代草創期の剥片・砕片が縄文時代早期以降の石器に混入している可能性もある。弥生時代以降の遺物に関しては遺構に伴う遺物も少なく、出土量も少ないため、個々の遺物を観察し時期判断をした。

整理の結果、縄文時代の遺構・遺物に関しては早期・前期の遺構・遺物を主とし、中期・後期の遺物を確認した。弥生時代以降の遺物は中期後半から後期の土器と石器を確認した。古墳時代以降の遺物に関しては土器と石製品を確認した。

撹乱・表採以外の出土遺物の内訳は、縄文土器16,633点、石器7,774点、礫33,330点、弥生時代以降の土器691点、石器・石器製品98点、礫247点、金属製品１点である。合計点数は58,774点である。

土器は施文・器形・調整・胎土を手がかりに型式分類を行った後、文様構成が明確なものを中心に拓本・断面実測を行った。また、残存状態が良好な５個体に関しては復原を試みた。

石器は調整・加工の施されているものを中心に実測図を作成した。石器実測については、礫石器類（磨石・敲石・石皿・台石等）と一部の剥片石器類を除き、石器実測図業務を株式会社ラングに委託した。

黒曜石製石器については、889点を抽出の上、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授の望月明彦氏に依頼し、産地推定分析を行った。抽出基準は、調整・加工のあるもの全てを分析の対象とした。また出土した炭化物の年代測定、遺構内から出土した炭化材の年代測定・樹種同定を行った。測定業務は株式会社加速器分析研究所に委託し、^{14}Ｃ年代測定（ＡＭＳ法）を用いた。また土器付着炭化物の年代測定について、名古屋大学大学院の水野蛍氏にも委託した。これらの成果は第２分冊に集成、掲載した。

報告書作成に伴い、全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、整理成果を踏まえて本文を執筆した。

調査現場で用いた光波測定機の記録データはＣＡＤで図化されるが、図化されたデータをベクトルグラフィックソフトに取り込み、主にパソコンソフト上で図版の編集を行った。

第２章　遺跡周辺の環境

第１節　地理・歴史的環境

愛鷹山麓は、静岡県東部、富士山の南～南東麓に接する場所に立地する。昨今の第二東名関連の発掘調査において、愛鷹山南麓～東麓にかけて多くの縄文・旧石器の遺跡が確認されている。富士石遺跡もそれらの遺跡の一つである。

愛鷹火山は約40万年前に活動を開始し、約10万年前に活動を停止した円錐形をした成層火山である。山麓には約８万年前に活動していたとされる古富士火山及び約１万年前に活動していたとされる新富士火山を供給源とするローム層が堆積し、特に山麓南東側では20ｍもの厚さになる。これは愛鷹ローム層と呼ばれ、上・中・下の３層に分層されている。今までのところ、上部ローム層以上においてのみ人類の遺跡が確認されており、旧石器時代の遺構・遺物は上部ローム層から、縄文時代以降の遺構・遺物は現生腐植質火山灰層から出土している。

現在の愛鷹山麓は複数の峰に分岐しており、そこから生ずる水系は、浸食作用によって多数の入り組んだ開析谷を形成している。本遺跡の存在する愛鷹山南東麓も枝尾根が深く入り込み、周囲には、主に尾根上の比較的平坦な場所を選んで多くの遺跡が存在する。

富士石遺跡は標高約182ｍ～195ｍに位置する遺跡である。その周辺には、二筋の大きな開析谷が発達し、東名高速道路が横断する標高150ｍ付近では、尾根上と谷底部との比高差約20～30ｍを測る深い開析谷によって三分されている。これらの尾根筋は、標高が下がるにつれ更に分岐してゆく。この尾根筋には、それぞれの丘陵末端部（標高約80～90ｍ）まで、断続的に遺跡の分布が確認されている。

愛鷹山麓の縄文時代草創期遺跡の多くは愛鷹山南麓に位置する沼津市に存在する。丸尾北遺跡、清水柳北遺跡、尾上イラウネ遺跡、住居跡が検出された葛原沢第Ⅳ遺跡などがその一例である。しかし土器の出土例は少なく、石器や遺構の検出状況から草創期の生活面が想定されている遺跡も存在する。長泉町においては尾尻遺跡、茶木畑遺跡が知られているが、詳細はわかっていない。早期前半の資料は草創期に比べ飛躍的に増加する。長泉町では平畦遺跡、陣場上遺跡、陣場上Ｂ遺跡、野台遺跡、中尾遺跡、イラウネ遺跡等で撚糸文系土器、押型文系土器が出土している。集落跡としては清水柳北遺跡、尾上イラウネ遺跡や清水柳遺跡等が知られている。この尾上イラウネ遺跡では押型文、条痕文を伴う時期の住居跡が検出されている。また、当該富士石遺跡では、昭和55年に丘陵を東西方向に走る町道591号線の拡幅工事に伴う発掘調査（長泉町教育委員会が実施）が行われており、縄文時代早期の住居跡４軒ほか、土坑、集石等の検出が報告されている。続く前期の遺跡には、清水柳遺跡、清水柳北遺跡、尾上第２遺跡などがあり、木島式土器、諸磯式土器が出土している。また、木島式土器・関山式土器を伴う住居跡が検出された梅ノ木平遺跡、有尾式、関山式、清水ノ上Ⅱ式～上の坊式併行の土器が中見代遺跡、東野Ⅱ橋下遺跡、追平Ｂ遺跡から出土している。東野Ⅱ橋下遺跡からはこの時期の住居跡11基が検出されている。中期前半の遺跡には柏窪遺跡や上山地遺跡などがあり、五領ヶ台式、勝坂式、東海系の北屋敷式等の土器が出土している。上山地遺跡からは勝坂式期の住居跡27基が検出されている。中期後半の遺跡には中峰遺跡、同桜畑上遺跡などがあり、これらの遺跡では曽利式土器が主体となっている。後期、晩期になると愛鷹山麓の遺跡数は再び減少してゆく。長泉町内では池田遺跡、上野遺跡が知られるが、詳細は不明である。これには、今からおよそ2,800年前のカワゴ平・仙石火山砂礫噴出の影響があると考えられる。後期の遺跡は裾野市域でもわずかな遺物が散発的に出土しているのみで、内野山Ⅰ遺跡、田

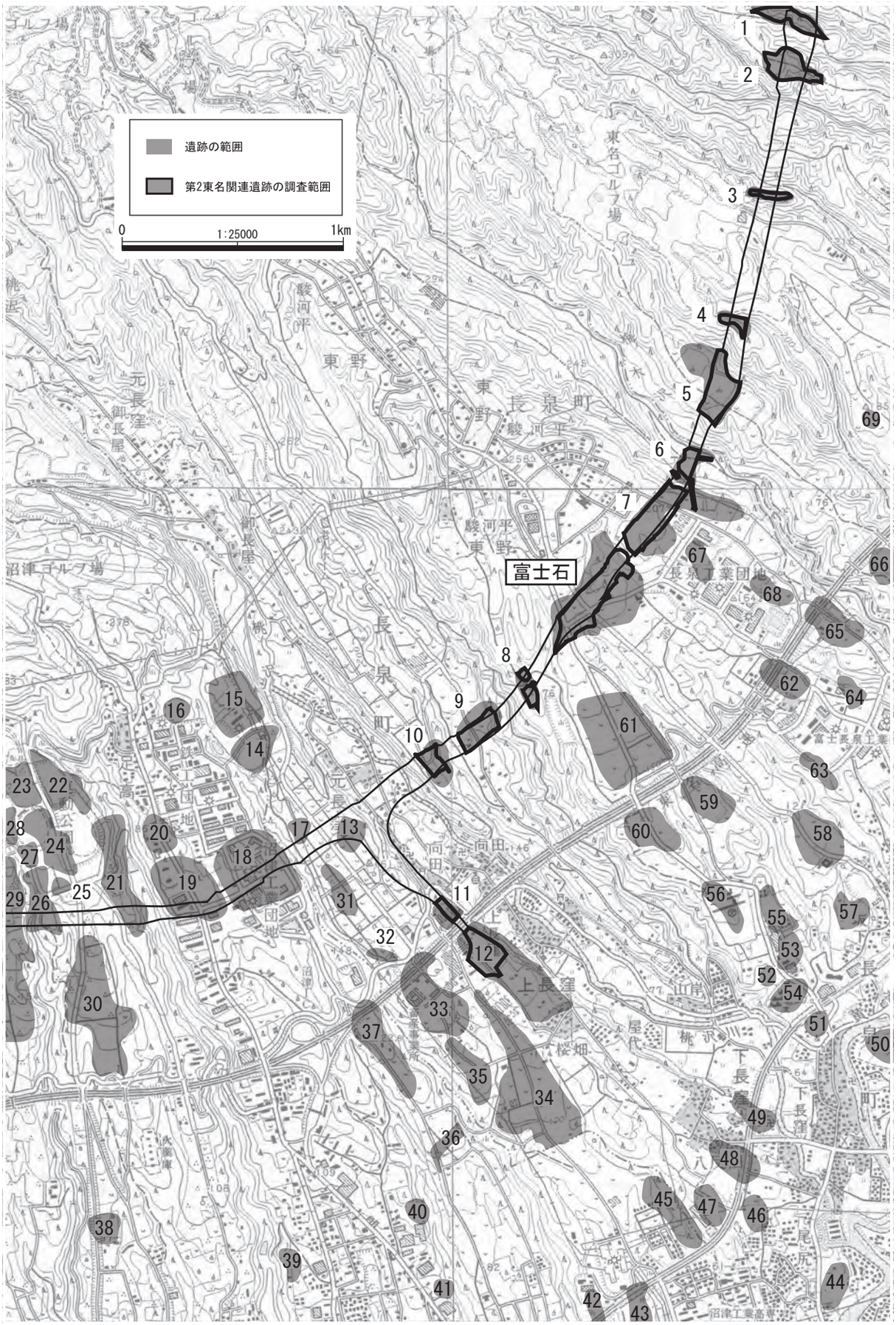
場沢裏山遺跡の他、中里遺跡、下条遺跡、一色原遺跡が挙げられるが、資料は極めて少ない。

静岡県東部では丘陵部末端付近に弥生時代の遺跡が存在し、黄瀬川扇状地の平坦部分に古墳時代後期～終末期の古墳群が確認されている。長泉町内では大平遺跡において弥生時代前期末の竪穴住居跡が確認され、該期の遺構としては県内唯一のものとして評価されている。また第二東名路線上では梅ノ木沢遺跡で弥生時代の打製石鏃や磨製石鏃が出土している。この遺跡では弥生土器の出土が確認できておらず、遺跡周辺に集落域が形成されていた可能性を想起させる。またＳ字甕や古墳時代中期後半～後期の土師器や刀子形石製模造品の出土が報告されている。そもそも当該遺跡の調査区は尾根筋に囲まれており耕作地に相応しい平野部を望む事ができない。従ってこれらの痕跡を残した人々の生業は平野部ではなく丘陵部を指向したものである。富士石遺跡も含め弥生・古墳時代の遺構・遺物が点在する愛鷹山麓生業形態については、今後一考を要する。また原分古墳から馬具や石棺等が出土し、古墳が移築保存されたことは記憶に新しい。

古代の遺跡として長泉町内で的場遺跡や天神原遺跡が知られるが、愛鷹山丘陵上では顕著ではない。当該地域は駿河国駿河郡の領域に位置し、古代東海道が郡内を貫通していた。延暦21年（802年）の富士山噴火により古代東海道（足柄路）が通行不能となり、筥荷（箱根）路が開かれたとされる。この古代交通路の位置は判然としないものの、長泉町内を貫通していたものと想像に難くない。また駅制に伴う組織として駅家「うまや」が古代東海道沿いに設置され、付近には長倉駅家と横走駅家が設けられたと推定されているが、長泉町域を含む県東部域に駅家の所在が判然としていない。しかし奈良・平安時代における集落もその多くが平坦な黄瀬川沿いの土地に展開していたのであろう。

中世の遺跡としては長久保城跡や中世墓が検出された大平遺跡、平畝遺跡があげられる。長久保城跡は愛鷹山から延びた舌状台地先端に位置し、眼下の黄瀬川は大きく屈曲する地点でもある。当該城が文献で確認できる最古の記述は天文６年（1537年）のものである。駿河国今川義元がそれまでの相模国北条氏との同盟関係を破棄し、甲斐国武田氏と同盟を結ぶことに端を発した「河東一乱」に起因し、北条氏綱がそれまであった古い城を修築した記事がある。これが長久保城を指すものと考えられ、天文14年（1545年）には武田軍の加勢も受けた今川義元の軍が北条軍の守備するこの城を攻囲している。当該地域が伊豆国・相模国・甲斐国に隣接する駿河国東辺部にあり、そこにある長久保城は北条方にせよ今川方にせよ要の城として機能している。また周辺には天神川古城、南一色城が位置し、長久保城の出城等の諸説が散見される。一方、中世の墓域が形成されていた大平遺跡は黄瀬川が形成した河岸段丘上に位置し、集石墓等の中世墓が検出されている。出土品では古瀬戸（前期～後期）、瀬戸大窯、常滑、渥美等の国産陶器や龍泉窯系・同安窯系青磁の輸入陶磁器、かわらけや羽釜等の土師器、銅銭等の金属製品が認められる。墓域形成の元となる集落遺跡は判然としないが、駿河国と相模国の国境でもある足柄峠へ向かう交通路が当該地域に存在する事も勘案すれば、決して看過できない地域であることは謂うまでもない。

なお、今回の調査区の南西端付近は周知の埋蔵文化財包蔵地である追平Ａ遺跡と重複している。



第１図　富士石遺跡周辺の主要遺跡

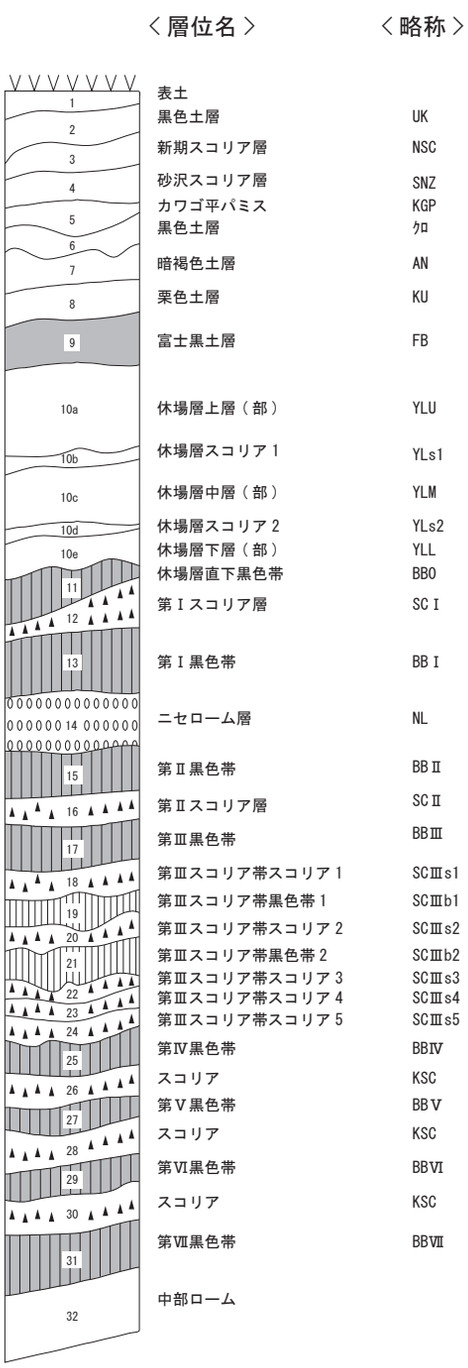
第１表　周辺の主要遺跡一覧表

No.	遺跡名	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	弥生	古墳	古代	中世
★	富士石	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	下ノ大窪		○	○	○	○		○			
2	老平		○	○	○						
3	入ノ洞B		○	○							
4	内野山Ⅴ		○		○						
5	塚松		○	○	○						
6	梅ノ木沢		○	○	○	○					
7	東野		○	○	○	○		○			
8	八分平E		○	○	○						
9	細尾		○	○	○				○		
10	向田A		○	○	○	○					
11	西山	○	○	○	○						
12	桜畑上	○	○	○	○	○					
13	イラウネ		○	○	○						
14	尾上イラウネ	○	○	○	○						
15	尾上イラウネ北		○	○							
16	拓南東	○	○	○	○						
17	中尾		○	○	○						
18	清水柳北	○	○	○	○	○					
19	尾上第１		○	○							
20	尾上第Ⅱ		○					○			
21	二ツ洞	○	○	○	○						
22	土手上		○	○	○						
23	葛原沢第Ⅳ	○	○	○	○	○					
24	広合		○	○	○						
25	広合南		○		○						
26	中見代Ⅰ	○	○	○	○						
27	中見代Ⅱ		○	○	○						
28	中見代Ⅲ		○								
29	西洞	○	○	○	○	○					
30	植出	○	○	○	○	○	○	○	○		
31	野台		○	○	○						
32	野台南		○	○	○	○				○	
33	中峯		○	○	○	○					
34	柏窪A			○	○						
35	柏窪B				○						
36	丸尾北				○						
37	清水柳		○		○						
38	木戸上		○								
39	上松沢平		○								
40	寺林		○		○						
41	寺林南		○		○						
42	大谷津		○	○	○	○					
43	子ノ神		○		○	○					
44	尾尻	○	○								
45	柏葉尾		○		○						
46	陣場上A		○		○						
47	陣場上B		○		○						
48	平畔		○	○	○						
49	西願寺		○	○	○	○					
50	大久根		○		○						
51	長久保城跡		○		○	○	○				
52	池田		○								
53	上野A		○	○	○	○					
54	上野B		○	○	○	○	○				
55	上野E		○	○	○	○					
56	茶木畑	○	○	○	○						
57	鉄平		○		○						
58	池田B		○	○	○	○					
59	東野Ⅱ橋下		○	○	○						
60	中見代		○	○							
61	追平B		○	○							
62	大峰A				○	○					
63	大峰B		○	○	○	○					
64	上山地A				○						
65	梅ノ木平		○	○							
66	平林Ⅰ		○		○						
67	八分平B		○	○							
68	八分平D		○		○						
69	内野山Ⅰ		○		○	○					

第２節　土層堆積状況と遺跡の地形

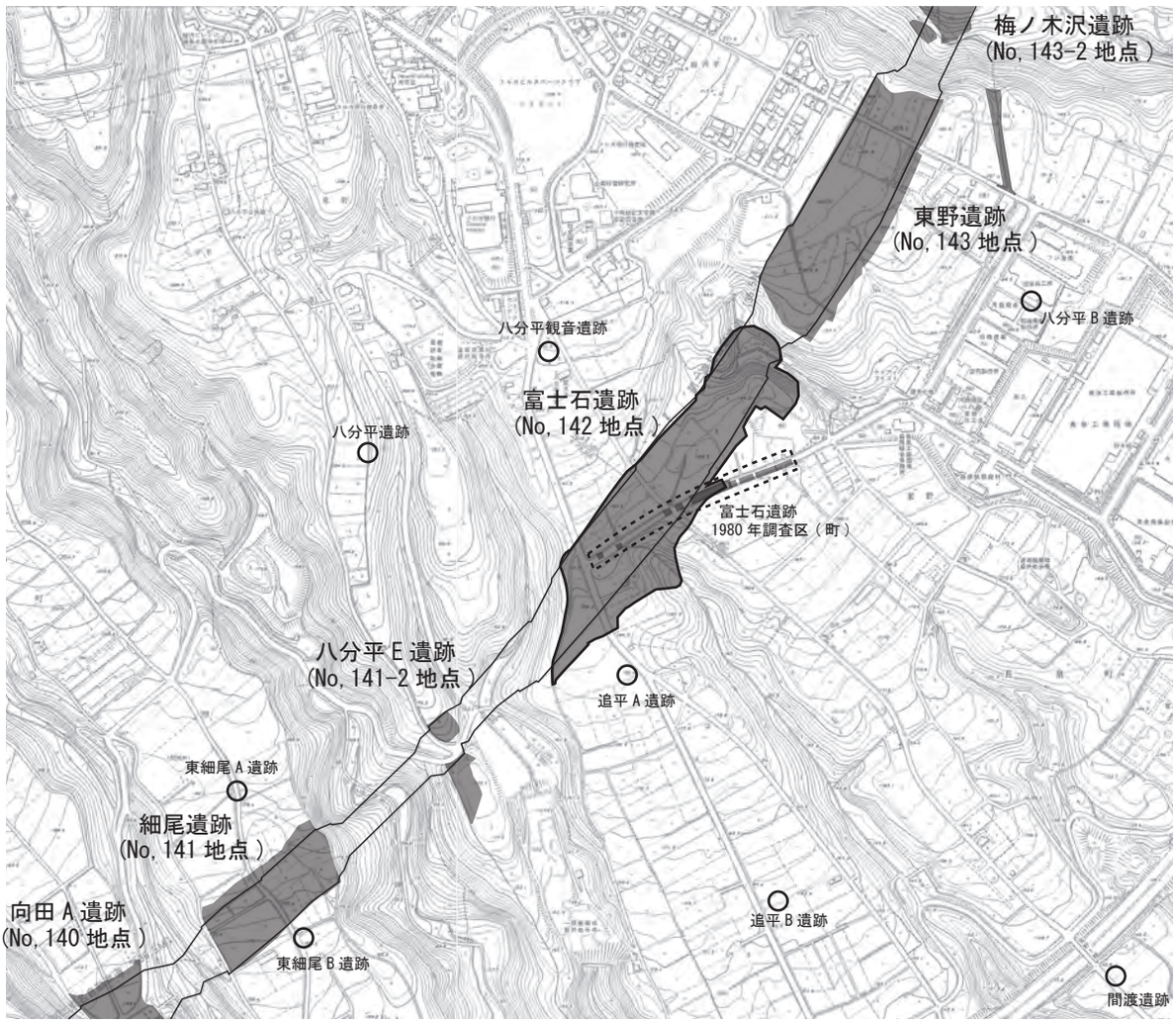
１　富士石遺跡の基本層序

箱根西麓、愛鷹南～東麓の尾根上に堆積する土層は、箱根・富士山噴出物で構成された火山灰層（愛鷹ローム）とその上部に発達した現世火山灰腐植土層である。愛鷹ロームは上部ローム層・中部ローム層・下部ローム層に区分され、各々、関東ローム層の立川ローム・武蔵野ローム・下末吉ロームに比定されている。現在のところ、上部ローム以上で人間の活動痕跡が確認されており、この下面までが発掘調査対象である。富士石遺跡で確認された土層はこの箱根・愛鷹基本層序を準用している。第２図は富士石遺跡の基本層序を示したものである。当該報告書で対象とするのは１～９層で、２～９層は現世火山灰腐植土層に該当する。



第２図　富士石遺跡の基本層序

１層は表土で、地目が畑の場合はその耕作土であり、谷部の道路下部では盛土である。２層は黒色土層である。シルト質で粘性がまったく無く、締りも弱い。径２～３㎜程度の褐色スコリアを含む。弥生時代以降の遺物を含む。場所により色調差で上下２層に分ける（比較的上層が淡い印象）ことが可能であるが、遺構・遺物による年代差・年代特定の所見は得られなかった。３層は新期スコリア層である。緻密な粒径のスコリアが堆積し、谷の一部で縄文時代の土器を含む。縄文時代末から弥生時代初頭に降灰か。４層は暗赤褐色のスコリア層で、径２～５㎜程度の粒径のスコリアが集中する。３層の下面で部分的に検出される。縄文時代後期に降灰した砂沢スコリアか。５層は微細な白色軽石粒を含む黒色土層である。上層からのスコリア粒の沈下がある。また軽石粒も浮き沈みが激しく、１枚の確固たる層を形成していない。この層の軽石は縄文時代に降灰したカワゴ平パミスか。６層は黒色土層である。一部、５層と同じ軽石粒の沈み込みを受けているが、密度の差で分層される。縄文時代中期の遺物を含む。７層は暗褐色土層である。下層の８層の漸位的土層の性格を持つ。８層は箱根・愛鷹基本層序の栗色土層。遺跡付近では黄褐～褐色を呈する。緻密な火山灰ローム層。尾根上では堆積が薄く、部分的な検出に止まる場所もある。谷地形では色調も明るく堆

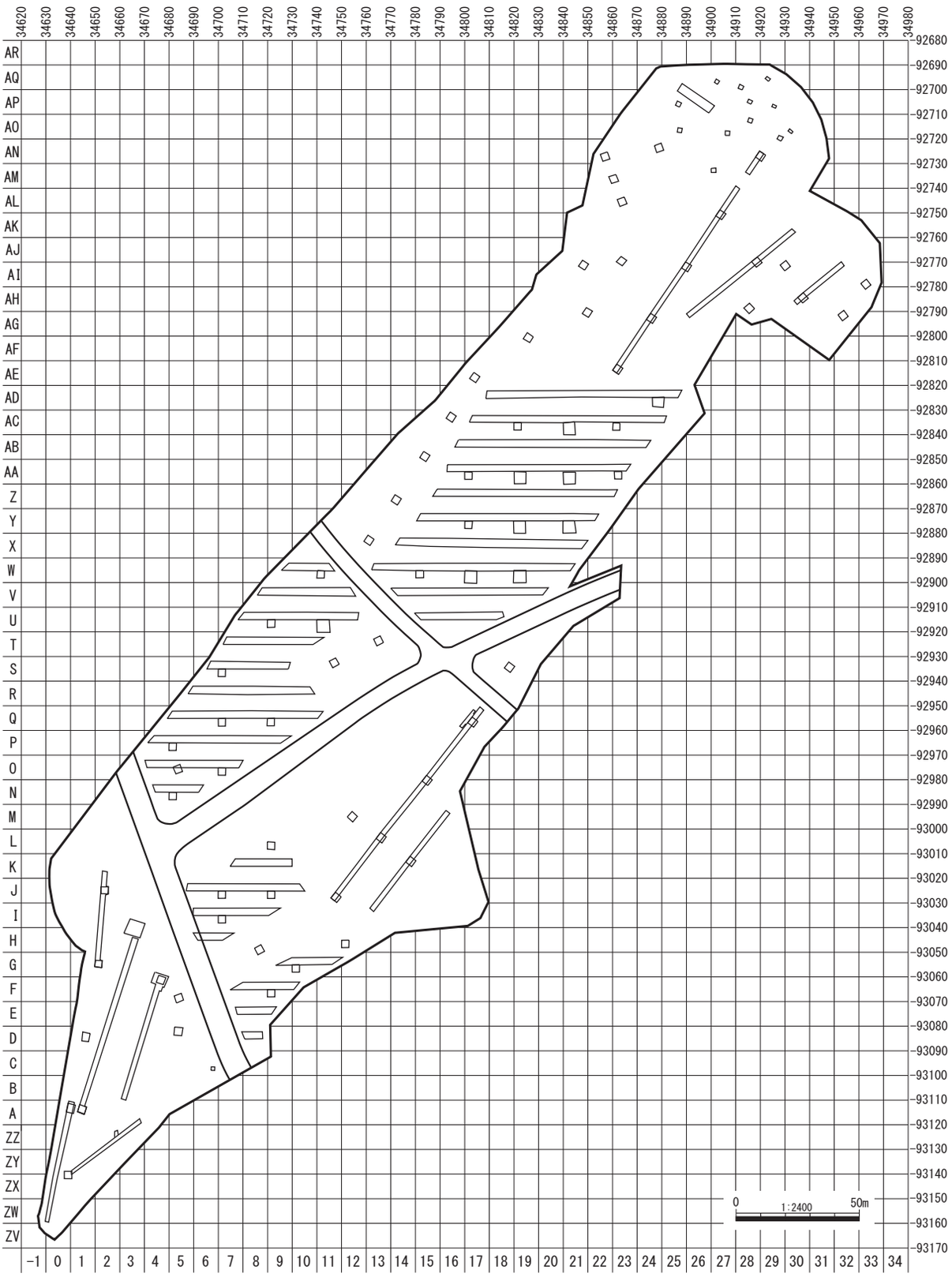


第３図　第二東名関連遺跡の調査範囲

積も厚い。９層は箱根・愛鷹基本層序の富士黒土層に比定される。やや暗褐色を呈する。径１～２㎜程度の赤褐色スコリアを散漫に含む。８層下位～９層上位にかけて、縄文時代早期後半の遺物が含まれる。10層は休場層でａ～ｅに細分される。縄文時代の遺構は休場層上層で多く検出される。

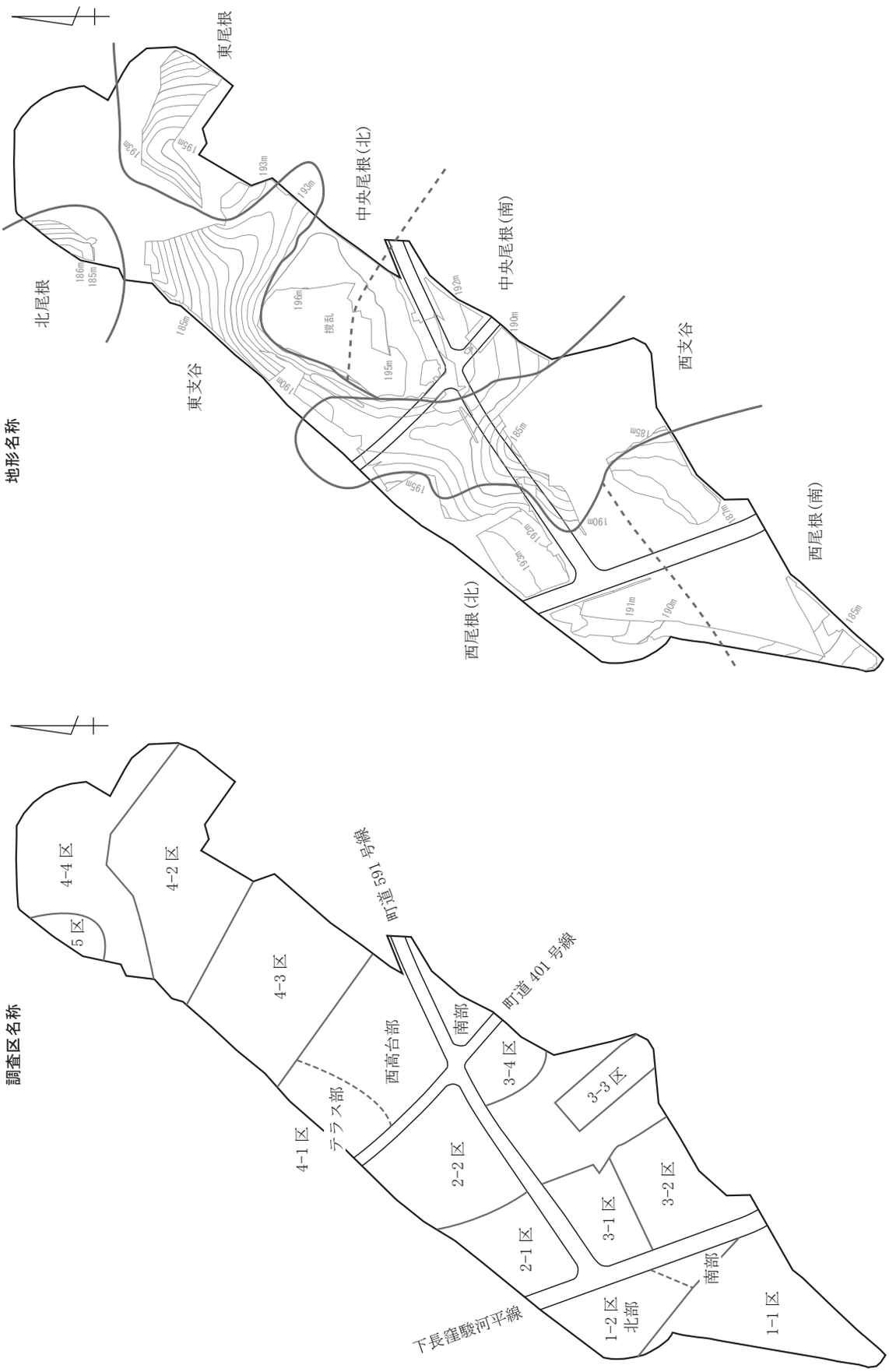
２　調査区名称と確認地形

第１章でも触れたように当該遺跡は撹乱により破壊され、撹乱土内より大量の遺物が確認されるに至っている。第５図は調査区名称と検出地形の名称を示し、第４図は地形に合わせて設定されたトレンチとテストピットの配置図である。調査区は１－１区～５区、町道591・401号線及び下長窪駿河平線区に至る。１－１～２区・２－１区・３－１～２区は地形としては「西尾根」に該当し、「西支谷」とした谷地形で区分される。標高183～195ｍを測り、南南東に向かって緩やかに傾斜する尾根地形を呈するが、下長窪駿河平線を挟んで撹乱を大きく受けている。一方西支谷は標高約170～150ｍに位置する追平Ｂ遺跡東縁に延びる大きな谷地形へ継続、発達する。２－２区及び３－４区・４－１区のテラス部付近が西支谷に該当しよう。この西支谷と「東支谷」により囲繞されているのは「中央尾根」である。標高約195～196ｍ程度の平坦な尾根頂部を有し、南東方向へ傾斜する。この中央尾根も撹乱により大きく破壊されている。特に中央尾根の撹乱は休場層直下黒色帯まで及ぶ。竪穴住居跡群が多く検出されたのは当該尾根で、撹乱は住居跡群を大きく破壊したため、撹乱土中に土器・石器が大量に含まれるに至った。４－１区西高台部・南部、４－３区が中央尾根に該当する。東支谷は西支谷にも接続するが、富士石遺



第４図　トレンチ・テストピット配置図

跡東側、長泉工業団地付近で確認された八分平Ｂ遺跡の方向から延びる谷地形の谷頭付近として考えたい。東支谷は４－２～３区が該当しよう。この東支谷が樹枝状に発達した結果、形成されたのが「北尾根」「東尾根」、それぞれ５区、４－２区に該当する地形である。



第５図　調査区名称と地形名称

第３章　縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構と遺構出土の遺物は富士黒土層～新期スコリア層において検出されている。概ね富士黒土層からは早期の遺物、栗色土層からは前期の遺物、黒色土層からは前期～中期の遺物、カワゴ平パミス層～新期スコリア層からは後期の遺物が出土しているが、堆積状況が良好だったと思われる高台部の状況が不明であり、他の地区は傾斜する地形のため、単純に層位をもって遺構・遺物の時期を決定することはできなかった。本書では、遺構とそれに伴う遺物について第１節で報告する。第２節では包含層出土の土器について時期別に分類し、出土分布図と共に報告する。第３節では、包含層出土の石器について時期の特定が困難であったため全てを一括し、器種別に分類した上で出土分布図と共に報告する。

第１節　遺構と遺構出土遺物

覆土や出土遺物により縄文時代の遺構と考えられるものは第２～９表の通りである。検出された遺構の主体は集落の存在を示す竪穴住居跡で合計26基を検出した。竪穴住居跡を含む多くの遺構は、４－１区および４－３区高台部、すなわち中央尾根にて多く検出されているが、そのエリアは最も撹乱を受けた箇所でもあり、縄文時代の包含層を含む富士黒土層以上の層がほとんど残存していなかった。そのため遺構配置等の全容は判明していない。この撹乱土の直下が遺構の検出面となった遺構や、遺構の検出が遅れ、遺構検出面より高い位置で遺物を検出する形となった遺構もあり、遺構把握に難が生じている。

第６・７図は遺跡の主体時期である縄文時代早～前期、縄文時代中～後期の遺構位置を示したものである。本来ならば時期毎細分された遺構分布図を作成し、集落の変遷を提示した上で報告するのが望ましいが、上記の撹乱状況に併せ、集石、焼土、土坑の時期特定が困難であったことに起因する。本節において、遺構の時期に関わると考えられる遺物は出土状況と共に報告するが、掲載できなかった土器・剥片類・炭化物・礫は遺構図上に検出位置のみを記す。なお検出遺構間で接合した遺物についても、それぞれ出土位置と番号を付与しており、遺構時期推定の参考とされたい。なお第２節で縄文土器の分類を行っており、第１節で報告する遺物にも適用し、表に示している。

１　竪穴住居跡（ＳＢ）

富士石遺跡において、竪穴住居跡は総数26基確認した。住居跡から出土した土器で各住居の所属時期を推定すると縄文時代早期前半～縄文時代後期初頭と考えられる。時期毎の住居跡では早期前半の押型文を伴う住居跡２基、早期前半、判ノ木山西式土器・子母口式土器を伴う住居跡１基、早期後半で清水柳Ｅ類土器や条痕文土器等を伴う住居跡10基、その他早期代と考えられる住居跡６基、前期土器を伴う住居６基、後期初頭の堀之内式土器を伴う住居跡が１基で、竪穴住居跡の主体は縄文時代早期といえる。住居跡は１－２区北部、すなわち西尾根（北）に17～19号住居跡が見られるが、大半は４－１区西高台部から４－３区にかけての中央尾根丘陵頂部から東側南斜面にかけて、標高約193～196ｍまでの間に集中している。丘陵頂部は撹乱により破壊されているが、撹乱土からの大量の土器や石器が出土しているという事実から、本来、竪穴住居跡が中央尾根頂部に多く分布していたに違いない。その撹乱土内には中期の土器も散見され、中期の住居跡が存在した蓋然性が認められる。なお後期の住居跡のみが４－２区、すなわち東尾根の丘陵西斜面に単独で確認され、中央尾根の集落としての利用は見られないのである。なお住居跡の事実記載部には調査時の旧遺構番号を併記している。

早期前半の竪穴住居跡

１号住居跡（旧ＳＢ05　第８～９図　写真図版15・44）

当該住居跡はＶ－17・18グリッドにて検出した。中央尾根（南）に位置し、他の住居跡群からやや距離を置く。住居跡の平面形は円形を呈する。遺構の計測値は長さ3.37m、幅3.07mを測り、中央南西寄りには石囲炉と思しき土坑が検出されている。残存する壁の高さは最高0.14mを測る。壁際には断続的に壁溝と柱穴Ｐ１～５が確認された。また炉から土器・石器等が出土している。石囲炉等の検出状況から覆土第２層は住居の貼床である可能性が高い。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器23点、石器４点、礫12点出土し、そのうち４点を図化した。多くが石囲炉からの出土で、貼床土内からの出土も認められる。１～３は縄文土器である。１・２は両者とも口唇部を平坦に仕上げられ、１は内外面ともに縄文が施されている。３には縦位に山形の押型文が認められる。４は石器である。磨・敲石である。扁平で長方形の礫を利用し、磨痕は平坦面・側面に、敲打痕は長軸下端部に観察される。石材は玄武岩である。

２号住居跡（旧ＳＢ20　第10図　写真図版16・44）

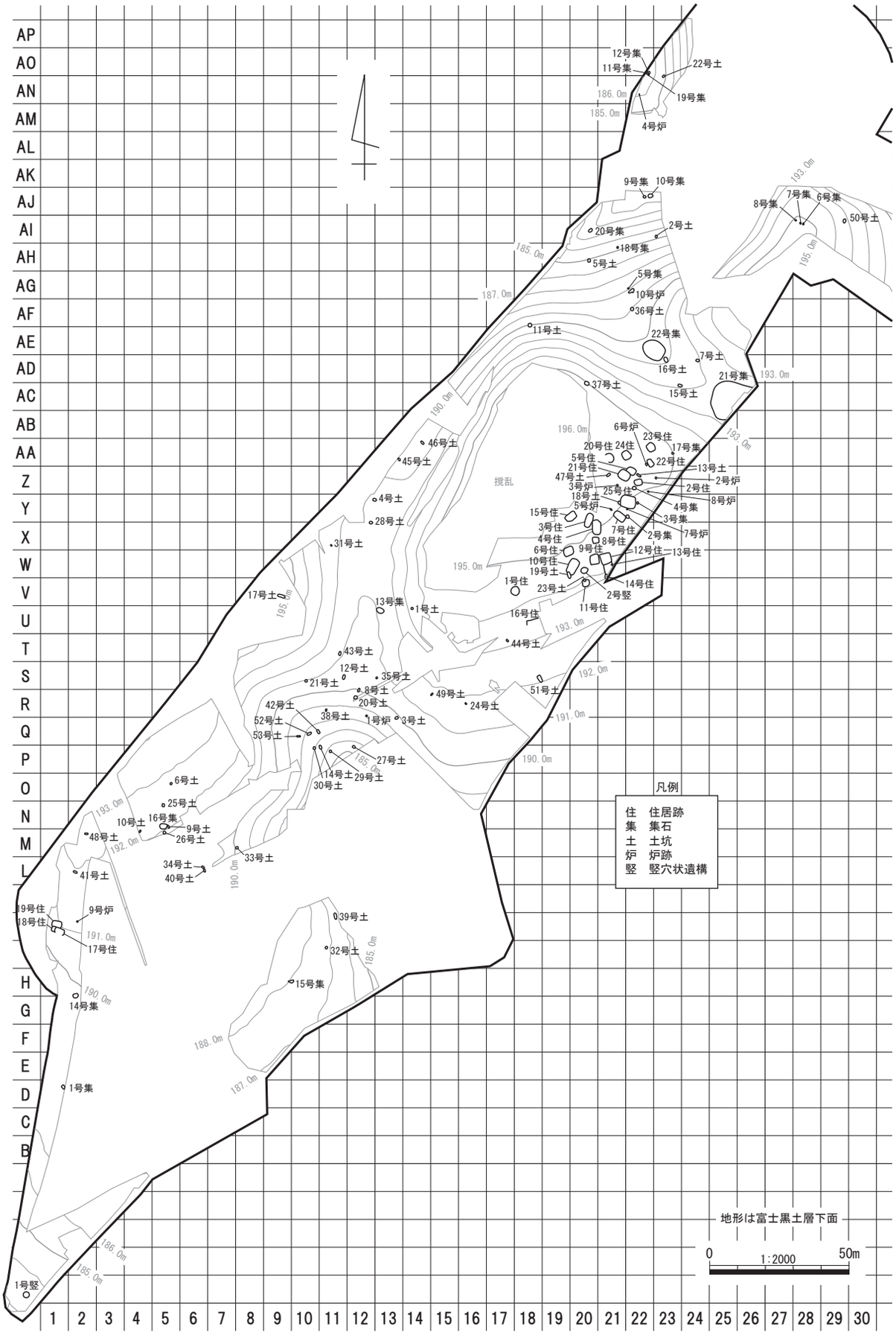
当該住居跡はＺ－22グリッド付近にて検出した。中央尾根（北）に位置する。住居跡の平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の計測値は長さ2.87m、幅2.16m、残存する壁の高さは最高0.20mを測る。住居跡中心部は撹乱により破壊されていた。住居跡内には壁際に柱穴Ｐ１・２が、また壁からやや離れた位置にＰ３が確認される。住居跡中央からやや東側寄りに炉跡が認められる。炉跡の平面形は楕円形を呈し、炉跡の掘り方は長径0.92m、短径0.58m、深さ0.22mを測る。住居跡内には焼土の堆積が見られた。主にＰ１上住居跡西半部に堆積しているが、その状況から火災住居では無い。貼床の存在は判然としなかった。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器２点、石器３点、礫１点のみである。そのうち２点を図化した。多くが炉跡付近からの出土である。５は縄文土器である。外面に楕円押型文を施している。６は石器である。敲石で、扁平な礫の両端部に敲打痕が観察される。石材はひん岩である。

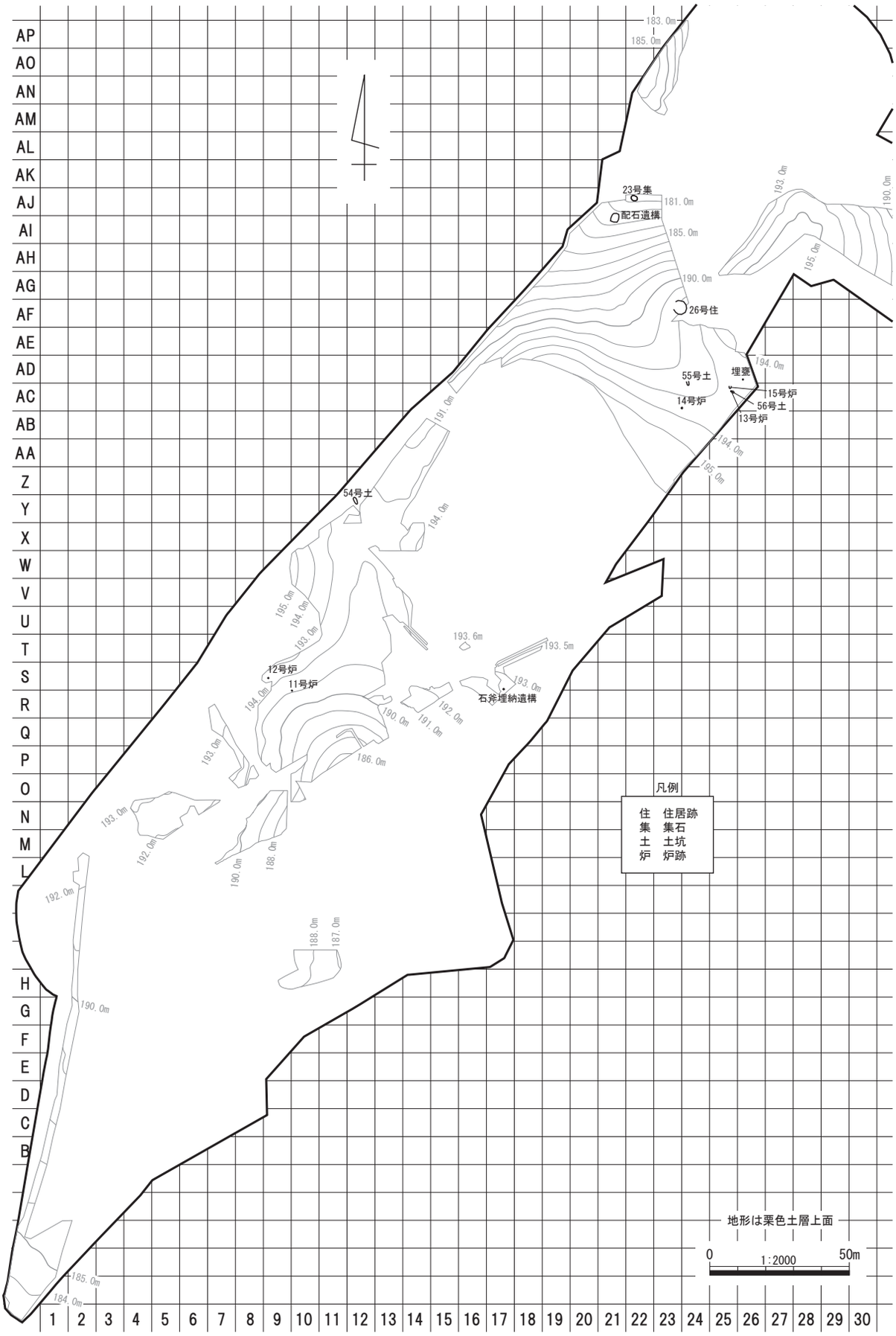
３号住居跡（旧ＳＢ07　第11・12図　写真図版16・44・45）

当該住居跡はＸ・Ｙ－20グリッドにて検出した。中央尾根に位置し、東側で４号住居跡に近接する。住居跡の平面形は長楕円形を呈する。遺構の計測値は長さ5.22m、幅2.52m、残存する壁の高さは最高0.18mを測る。住居内には柱穴が12基確認され、住居跡中心部にあるＰ12を除き、すべて壁際に位置している。炉跡は未確認である。なお現地調査時点で当該住居跡の平面形が狭長な印象を与えたため、２軒の住居の重複もしくは拡張した可能性も想起し精査されたが、そのような痕跡は確認できなかった。また覆土等の状況から貼床の存在は認められない。覆土の主体は富士黒土層相当土である。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器98点、石器78点、礫74点である。図でも明らかのように住居跡北半部で多くの遺物が出土している。そのうち土器９点、石器７点を図化した。７～15は縄文土器である。７～９は第Ⅰ群６類に分類した判ノ木山西式土器か。７は口縁部に縦位の沈線文が認められる資料である。10・11は第Ⅱ群１類に分類した子母口式土器か。両者とも口縁部の破片資料である。前者には横位に施された隆帯上に、後者は口唇部に絡条体圧痕が施されている。12は口縁部のみの破片資料である。平坦に仕上げられた口唇部に刻目文を施し、外面には条痕上に沈線文、刺突文が認められる。他に無文土器である13～15が出土している。13・14は口縁部の破片資料である。16～22は石器である。16は楔形石器である。石材は神津島恩馳島群の黒曜石である。17～21は磨石・敲石類である。18～21には磨面・敲打痕が、17は敲打痕のみ観察される。他に石皿である22が出土している。17・21の石材は玄

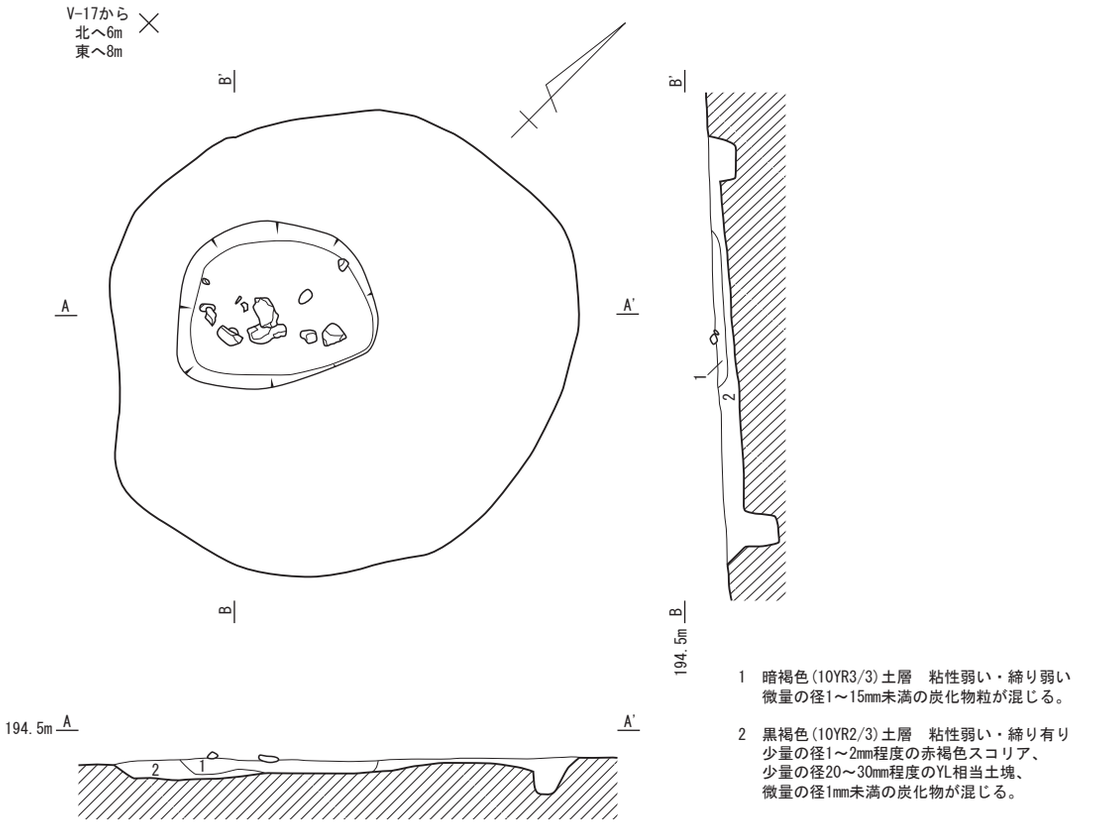


第６図　縄文時代　早～前期遺構位置図



第７図　縄文時代　中～後期遺構位置図

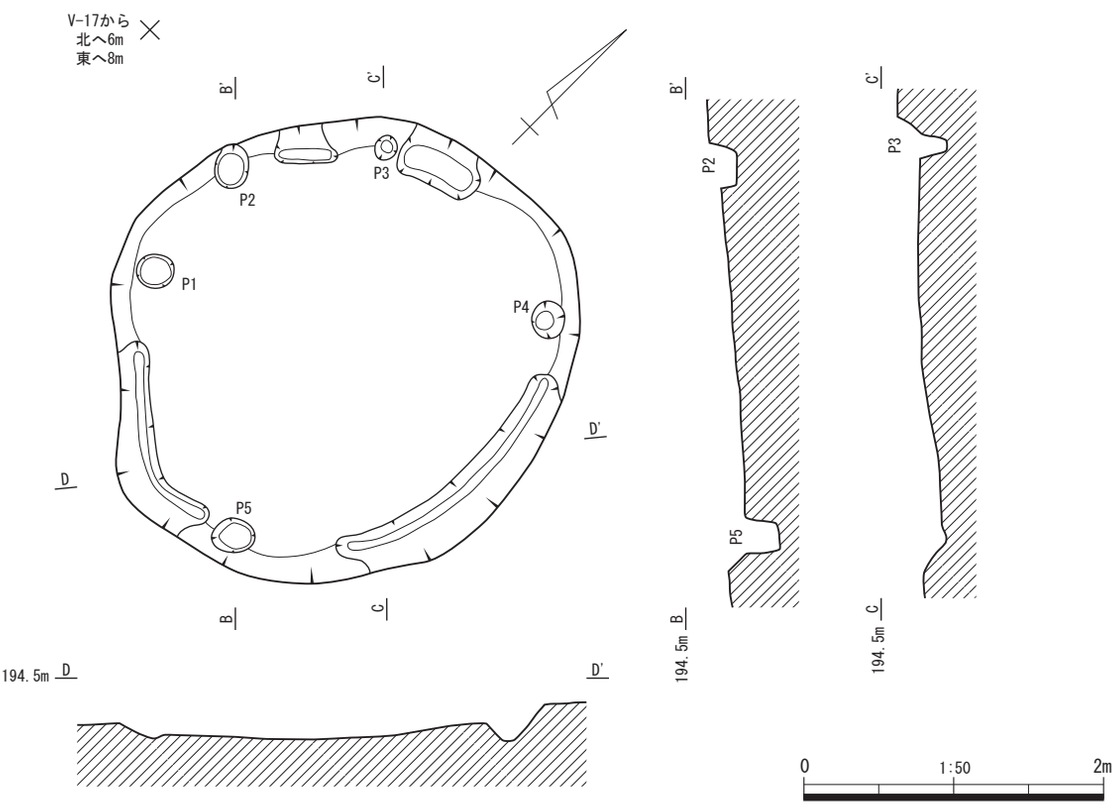
住居跡検出時（炉跡）



1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り弱い
　微量の径1～15mm未満の炭化物粒が混じる。

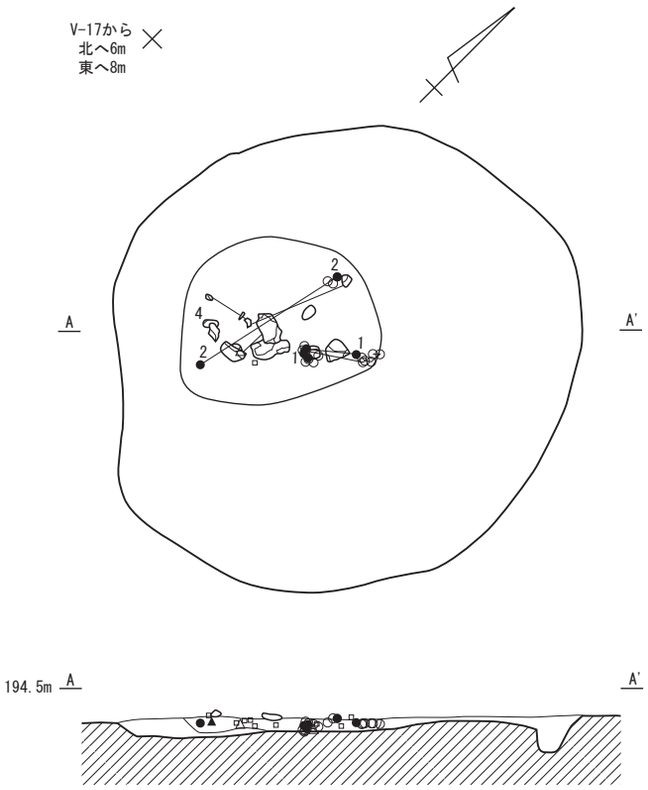
2　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り有り
　少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
　少量の径20～30mm程度のYL相当土塊、
　微量の径1mm未満の炭化物が混じる。

住居跡完掘時

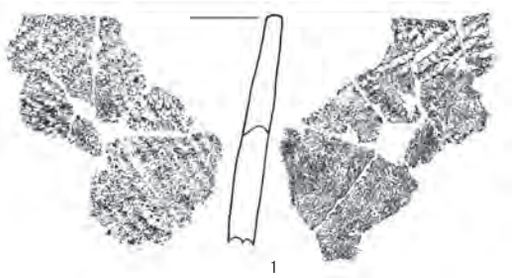


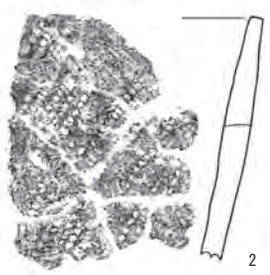
第８図　１号住居跡

炉跡内遺物出土状況

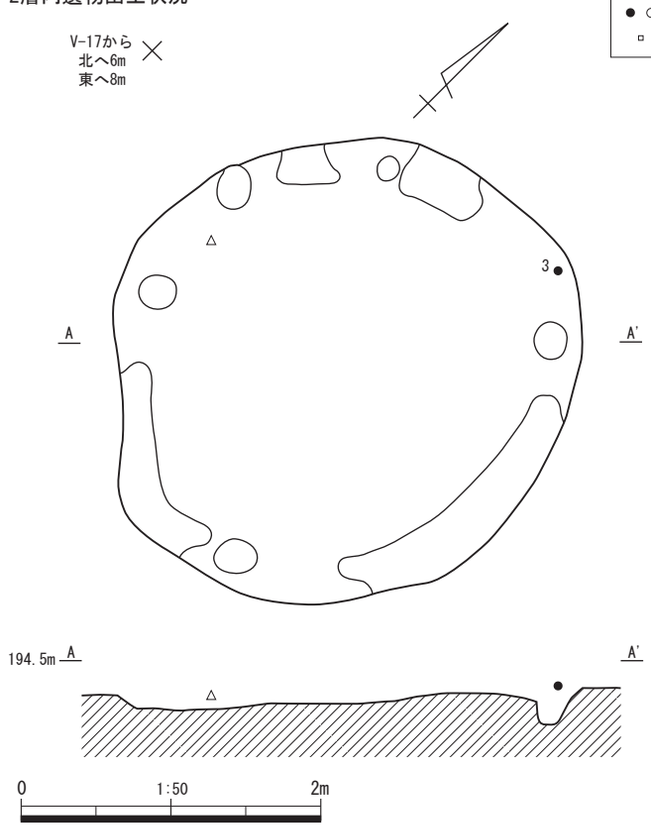


出土遺物



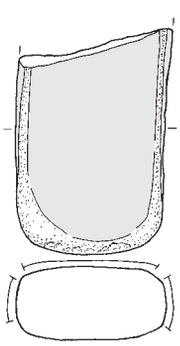


2層内遺物出土状況



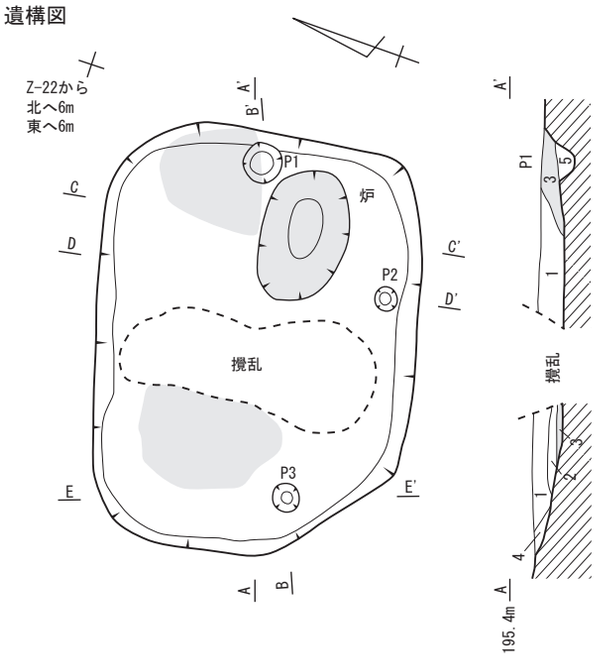
凡例

▲ △　石器
● ○　土器
▫　礫

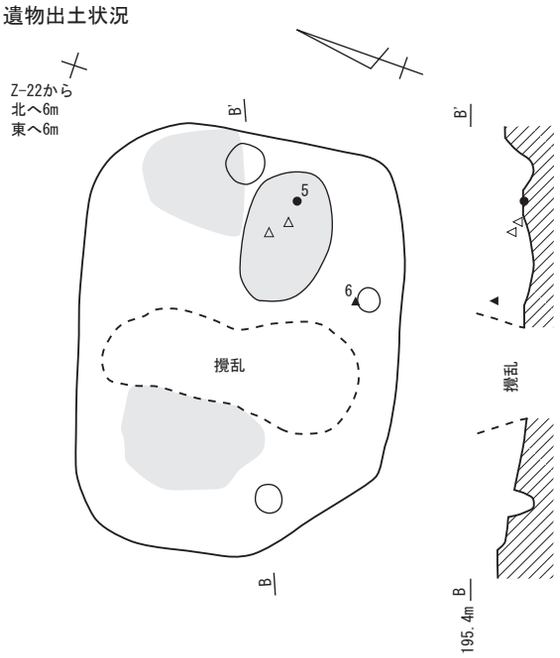


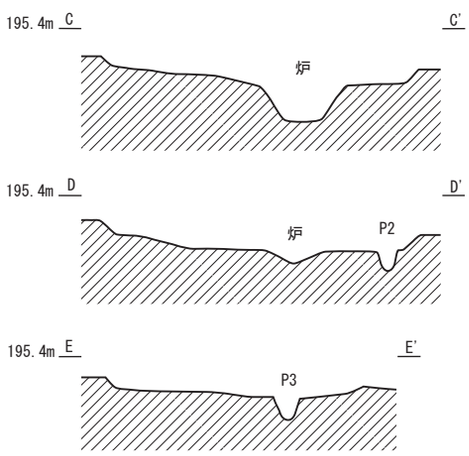
第９図　１号住居跡　遺物出土状況と出土遺物

遺構図



遺物出土状況





1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り弱い
　少量の径1mm程度の焼土粒、
　径3～10mm程度のYL相当土塊、
　微量の径1mm程度の炭化物粒が混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り有り
　微量の径1～3mm程度の焼土粒、
　微量の径1mm程度の炭化物粒が混じる。

3　赤褐色焼土(5YR4/6)土層　粘性有り・締り有り
　少量の径2～5mm程度の炭化物粒、
　少量の径5mm程度のYL相当土粒が混じる。

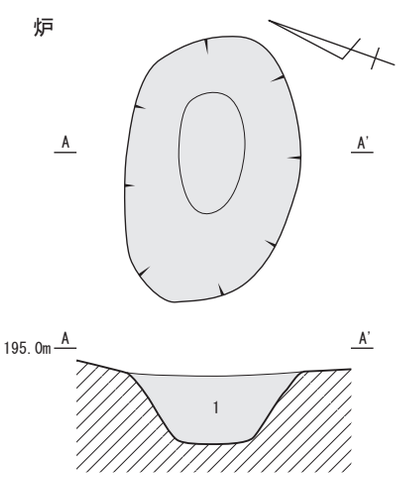
4　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
　YL相当土とFB相当土の混合土。
　径10～20mm程度のYL相当土塊が混じる。

5　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
　微量の径1～2mm程度の焼土粒、炭化物、
　少量の径3～5mm程度のYL相当土粒が混じる。

凡例
▲ △　石器
● ○　土器
　焼土範囲

0　1:50　2m

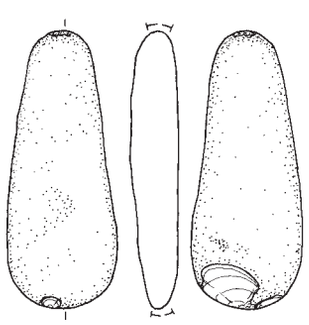
炉



1　赤褐色(5YR4/6)土層　粘性有り・締り有り
　炉の焼成層。
　少量の径2～5mm程度の炭化物粒、
　少量の径5mm程度のYL相当土粒が混じる。

0　1:25　1m

出土遺物



6　敲石　Po

0　1:3　10cm

第10図　２号住居跡と出土遺物

武岩、18・19・20・22は輝石安山岩である。

早期後半の竪穴住居跡

４号住居跡（旧ＳＢ08　第13・14図　写真図版17・45）

当該住居跡はＸ・Ｙ－20・21グリッドにて検出した。中央尾根に位置し、前述した３号住居跡と隣接する。住居跡の平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の計測値は長さ5.25m、幅3.11m、残存する壁の高さは最高0.19mを測る。住居内には柱穴が12基確認された。これらの柱穴は西壁際に近い位置に認められている。炉跡は未確認である。また住居跡南半部に床面の硬化域が認められた。なお現地調査時点で当該住居跡の平面形が狭長な印象を与えたため、２軒の住居の重複もしくは拡張した可能性も想起し精査されたが、その事実は確認できなかった。覆土は富士黒土層を主体としており、貼床の存在は認められなかった。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器53点、石器133点、礫82点である。そのうち土器７点、石器５点図化した。23～29は縄文土器である。23～25は判ノ木山西式土器か。異方向の沈線文が認められる。23の内面には条痕が認められる。26・27は清水柳Ｅ類土器か。両者とも絡条体圧痕文が施される。26は波状口縁か。28・29は無文土器である。前者は胴下半部、後者は深鉢底部か。丸底であったのだろう。30～33は石器である。30は石鏃である。基部は凹基に分類されるが、抉りが浅いため、平基に近い。箱根畑宿群の黒曜石である。31は石錐である。両面から調整を加え、錐部を仕上げている。錐部の断面は三角形を呈する。諏訪星ヶ台群の黒曜石である。32は石核である。石材はホルンフェルスである。33は磨・敲石である。上半分は欠損し、下半部端部を中心に敲打痕が観察される。石材は輝石安山岩である。

なお住居跡覆土中より炭化材が出土している。放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92013）したところ、8,020±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

５号住居跡（旧ＳＢ19　第15図　写真図版17・45）

当該住居跡はＺ－22グリッドにて検出した。中央尾根（北）に位置している。住居跡の平面形は隅丸長方形を呈するが、21号住居跡と一部重複し、西隅部は失われている。遺構の計測値は長さ3.35m、幅2.46m、残存する壁の高さは最高0.16mを測る。住居内には柱穴が５基確認されている。Ｐ２が埋没後に覆土第２層が堆積している。炉跡は確認されていない。貼床の存在は判然としない。当該住居跡と21号住居跡との新旧関係は、その検出状況から21号住居跡が時期的に新しいと考えられる。

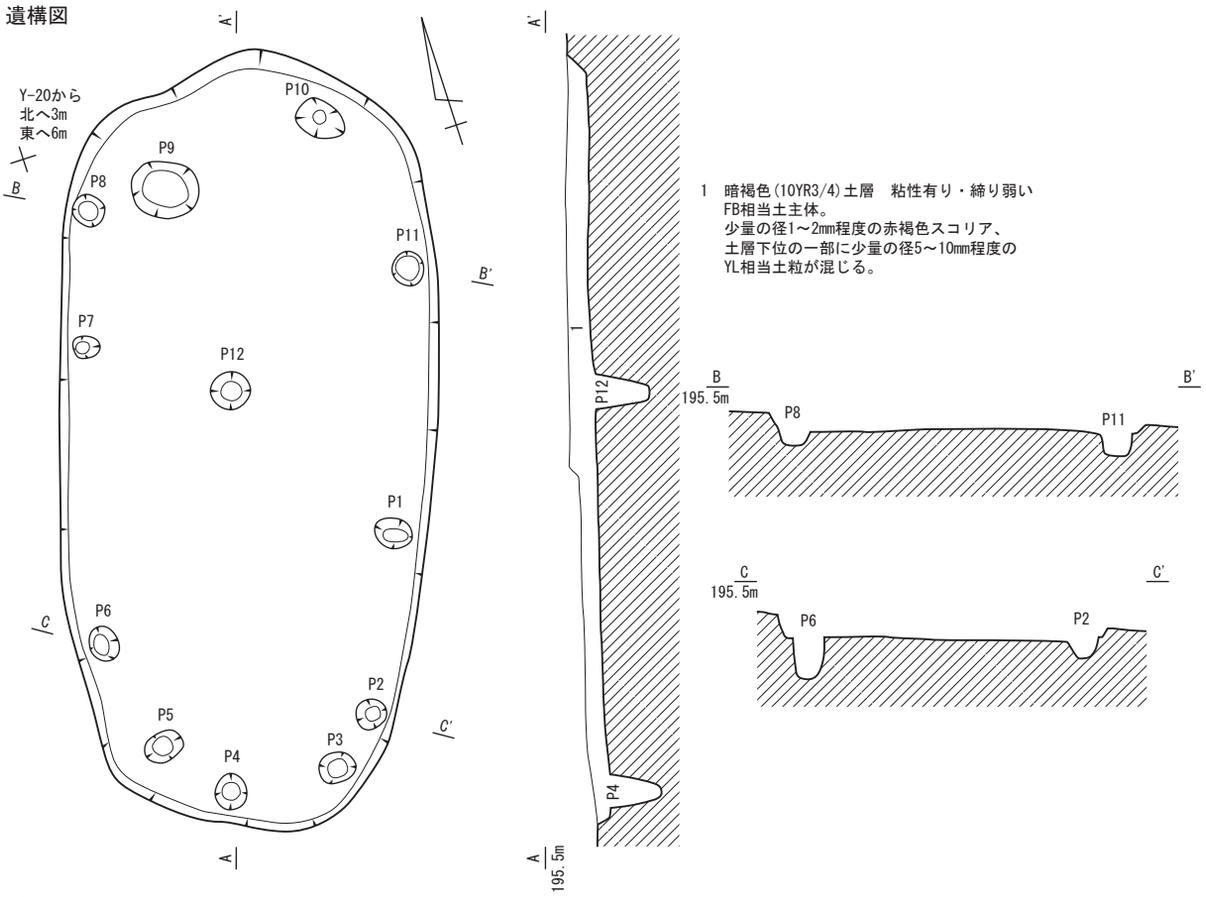
当該住居跡から出土した遺物の点数は、土器18点、石器49点、礫18点を数える。そのうち土器３点、石器４点を図化した。34～36は縄文土器である。34は子母口式土器か。口縁部のみの破片資料である。口唇部と口縁部に絡条体圧痕が施されている。35・36は清水柳Ｅ類土器か。35は波状口縁か。波頂部から隆起線が垂下する。36は胴部の破片資料である。横位・斜位の沈線文が施されている。

37～40は石器である。37・38は石鏃である。両者とも基部は凹基で、37の石材は神津島恩馳島群の黒曜石、38はガラス質黒色安山岩である。39・40は磨・敲石である。両者とも扁平な礫を利用したものである。石材は輝石安山岩・デイサイトである。

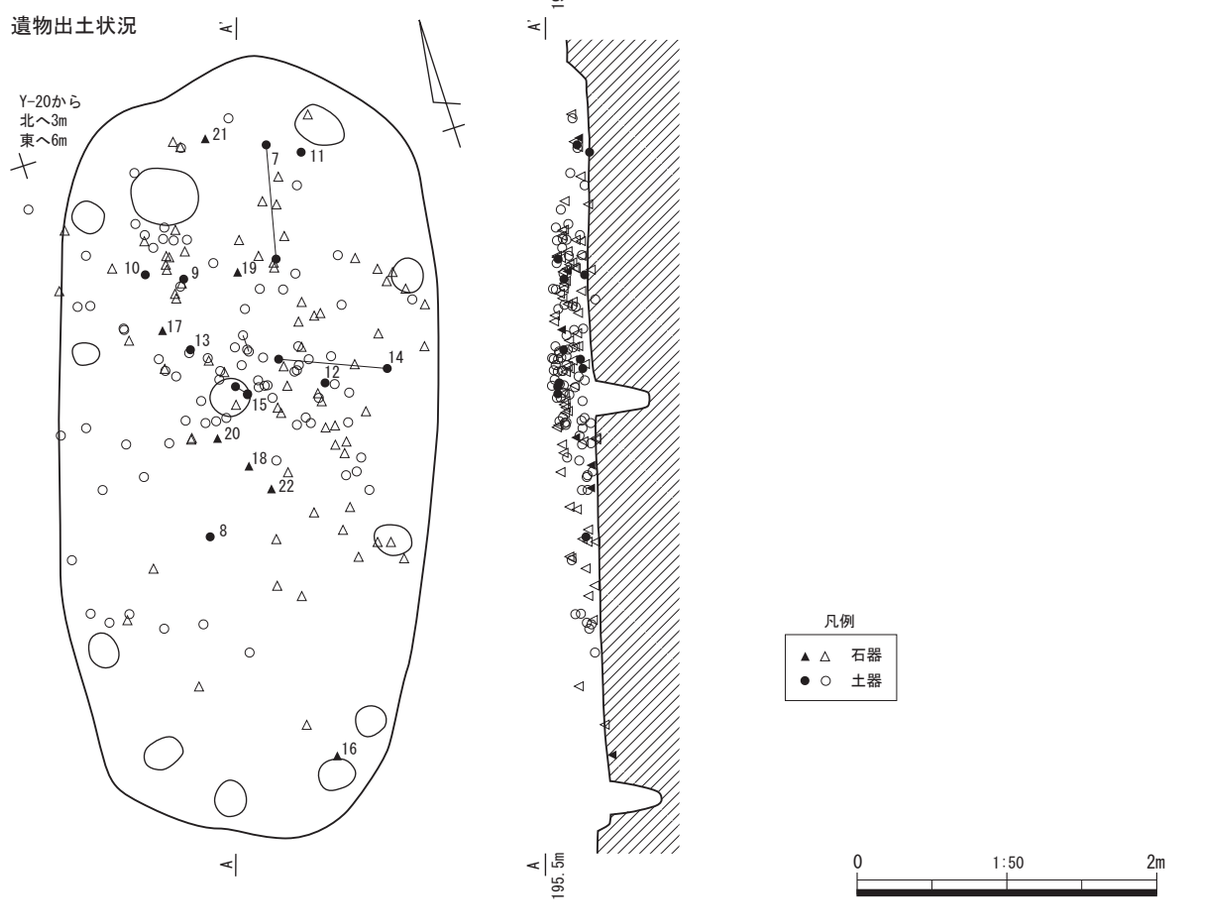
６号住居跡（旧ＳＢ11　第16～18図　写真図版18・46・47）

当該住居跡はＷ・Ｘ－19・20グリッドにて検出した。中央尾根（南）に位置している。住居跡の平面形は隅丸方形を呈する。遺構の計測値は長さ3.70m、幅2.99m、残存する壁の高さは最高0.33mを測る。住居内には柱穴が５基確認されている。いずれの柱穴も壁際付近に位置している。炉跡は確認されてい

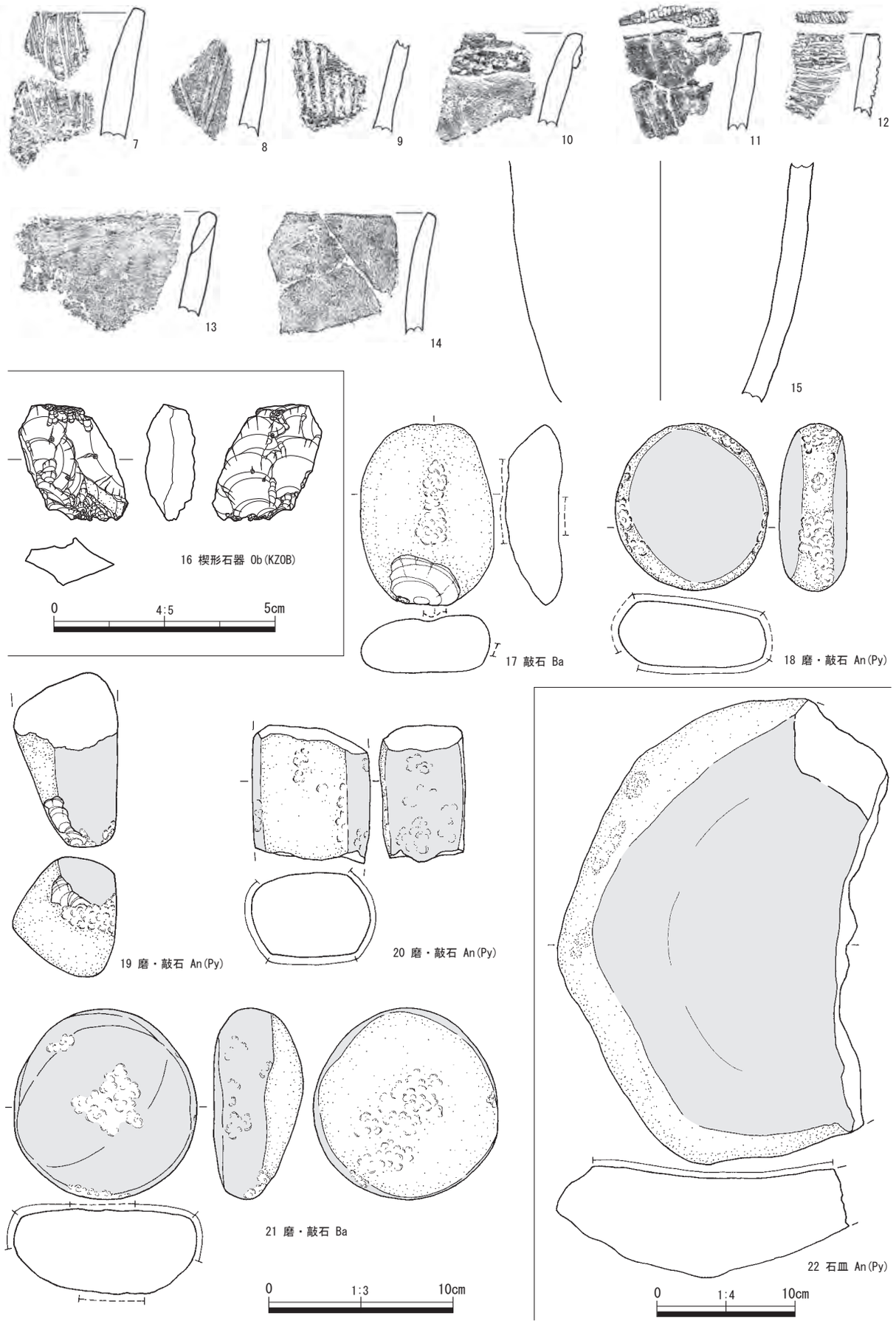
遺構図



遺物出土状況

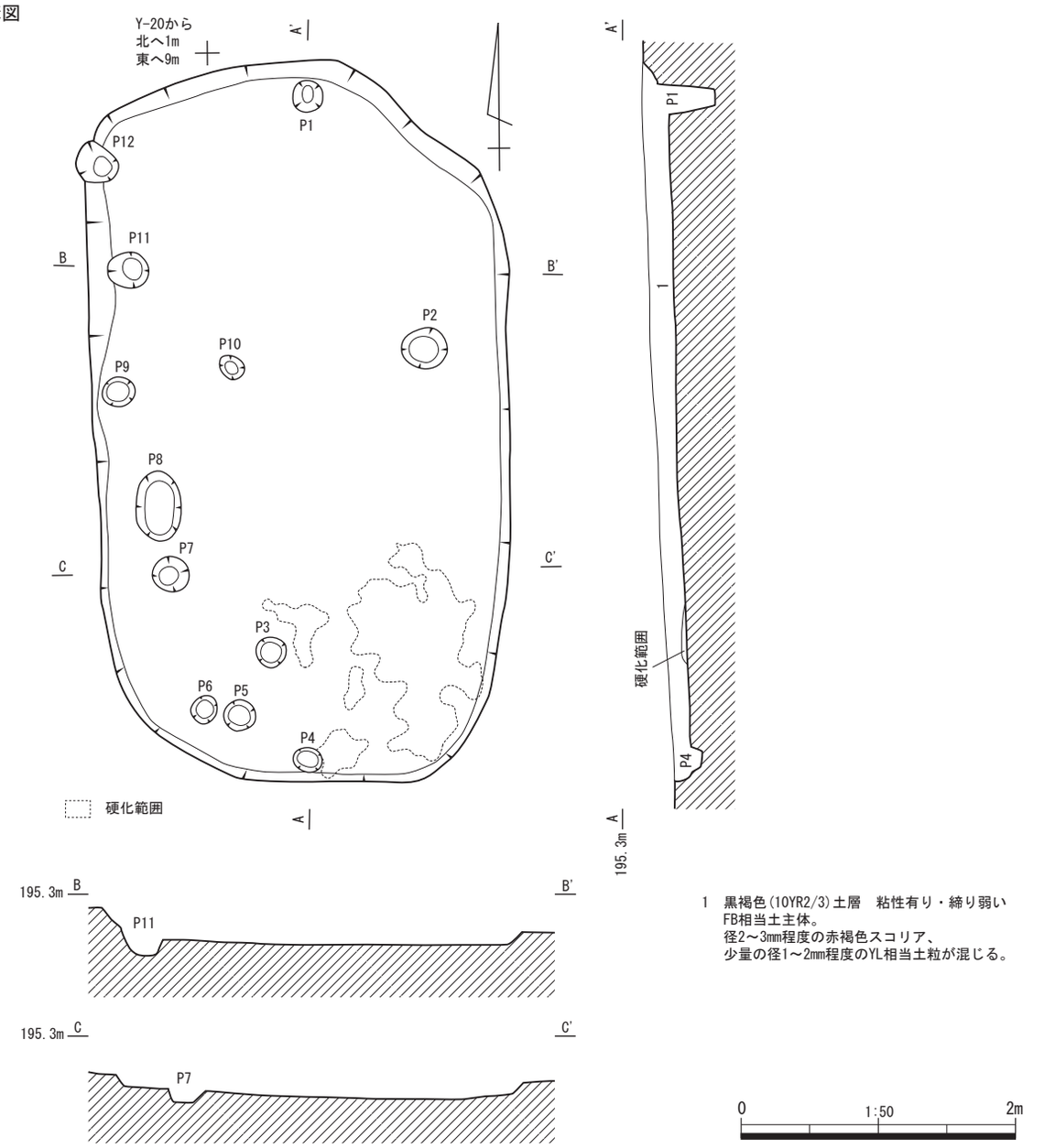


第11図　３号住居跡

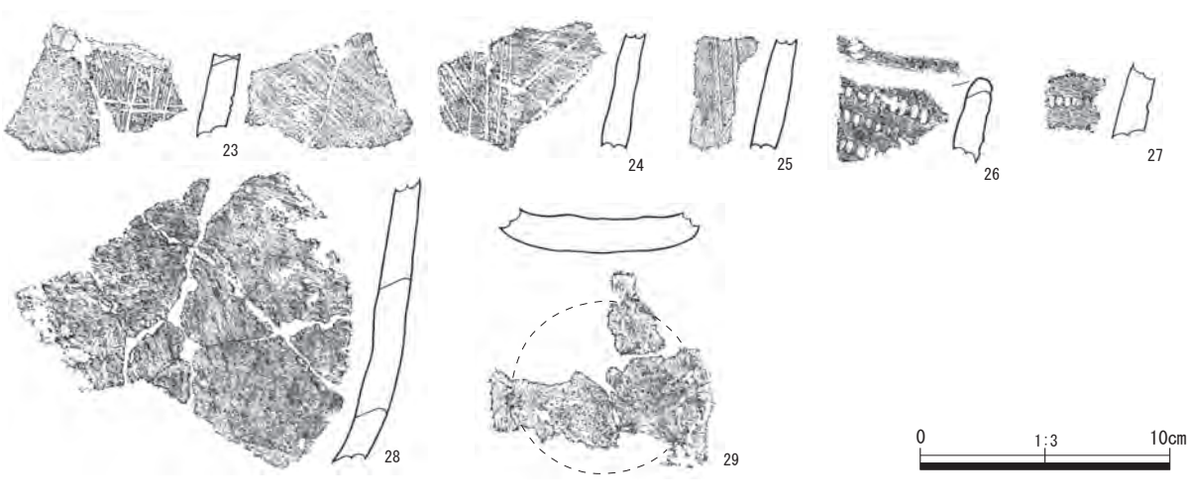


第12図　３号住居跡出土遺物

遺構図

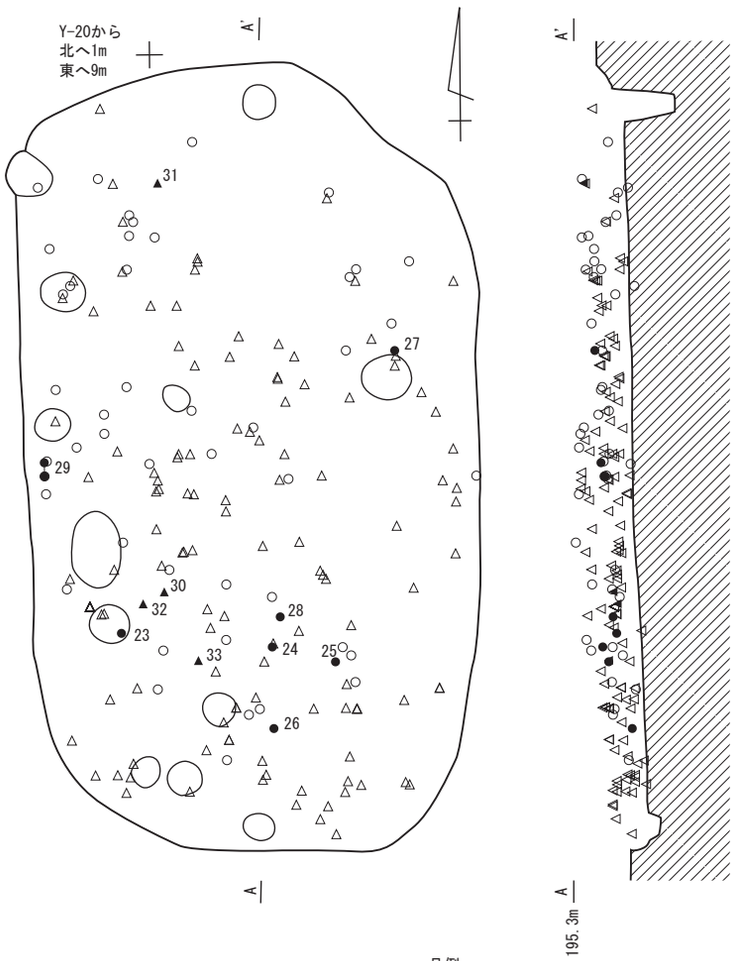


出土遺物



第13図　４号住居跡と出土遺物１

遺物出土状況

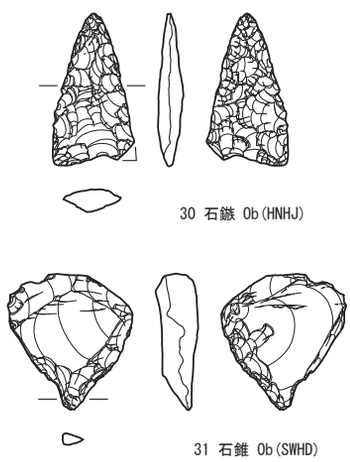


凡例

▲ △　石器
● ○　土器

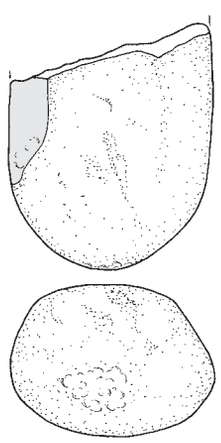
0　1:50　2m

出土遺物

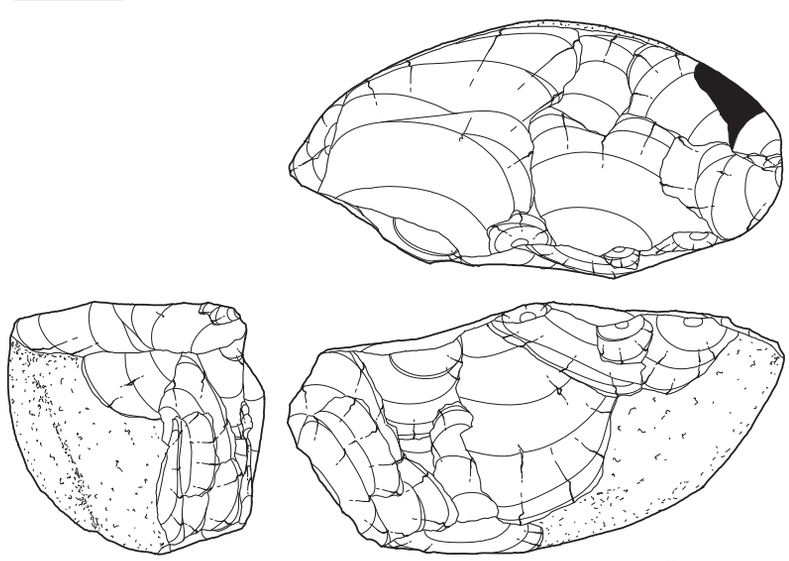


30 石鏃 Ob(HNHJ)

31 石錐 Ob(SWHD)



33 磨・敲石 An(Py)



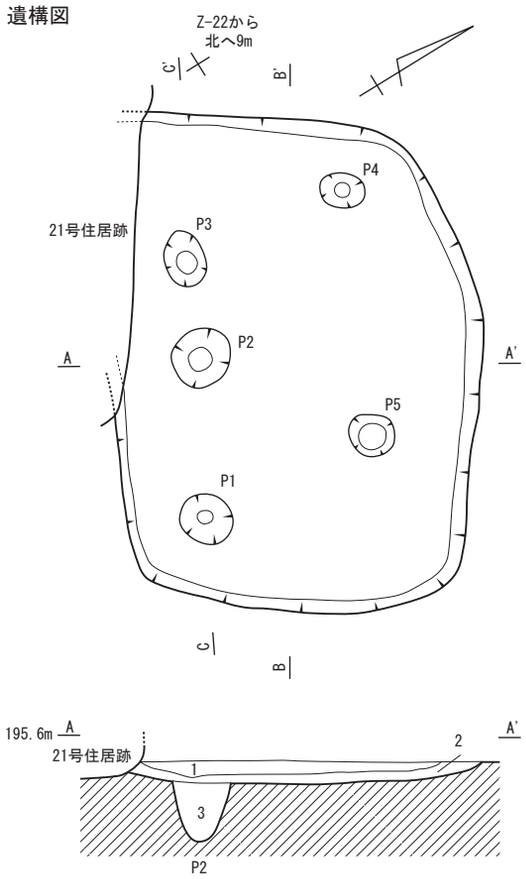
32 石核 Hor

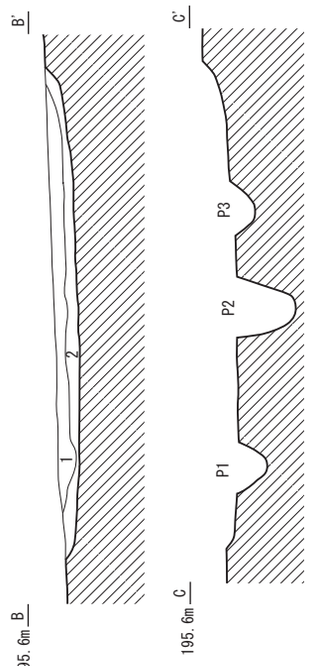
0　1:3　10cm

0　4:5　5cm

第14図　４号住居跡　遺物出土状況と出土遺物２

遺構図





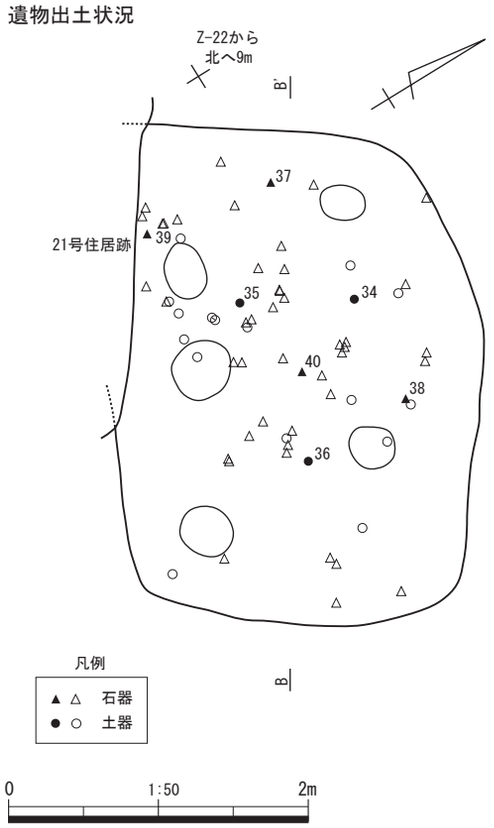
1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り有り
　微量の径1mm程度の焼土粒、
　微量の径1mm程度の炭化物粒が混じる。

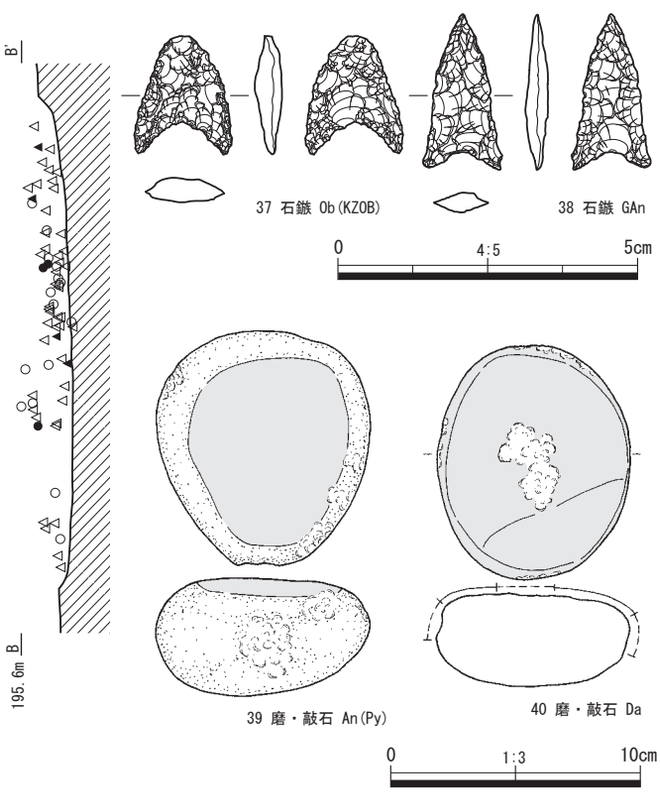
2　褐色(10YR4/6)土層　粘性有り・締り有り
　微量の径1mm程度の焼土粒、
　少量の径5～50mm程度のYL相当土塊が混じる。

3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性無し・締り弱い
　微量の径1～2mm程度の焼土粒、
　少量の径1～20mm程度のYL相当土塊、
　径1mm程度の炭化物粒が混じる。

出土遺物

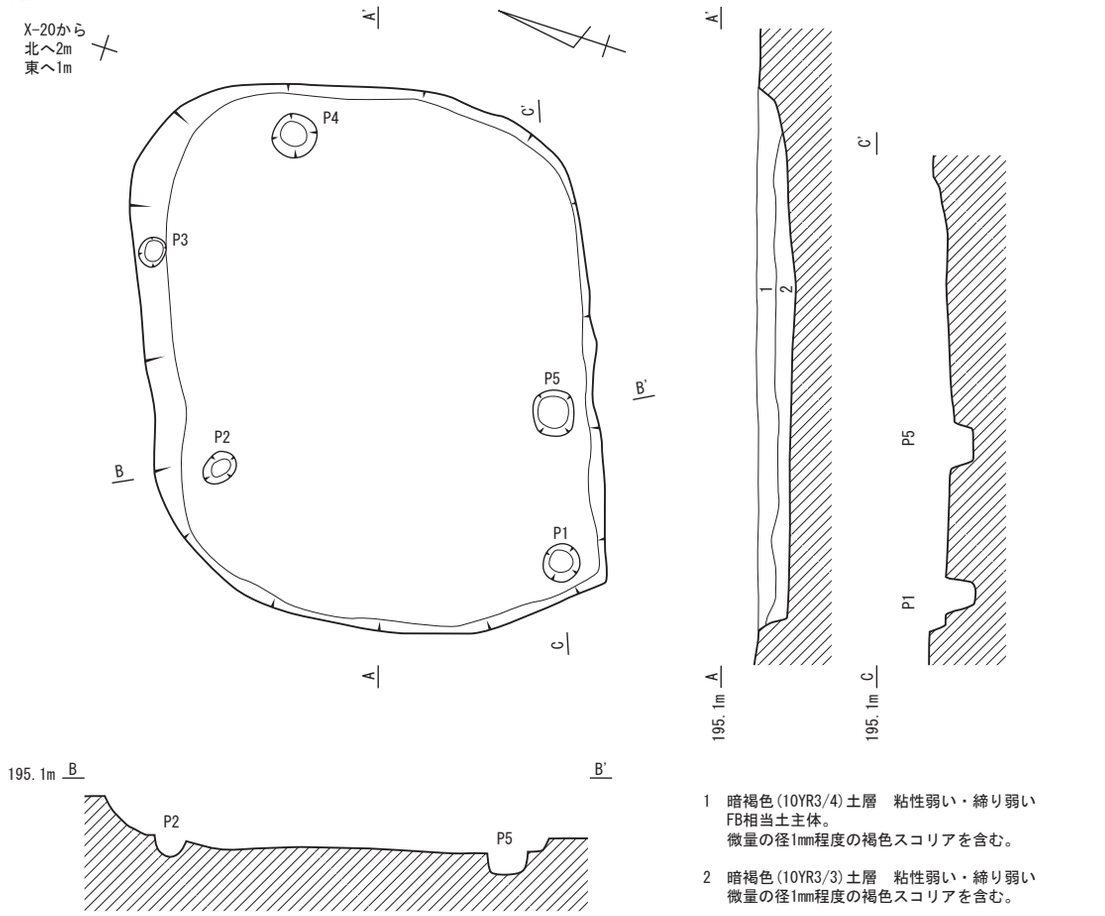
遺物出土状況



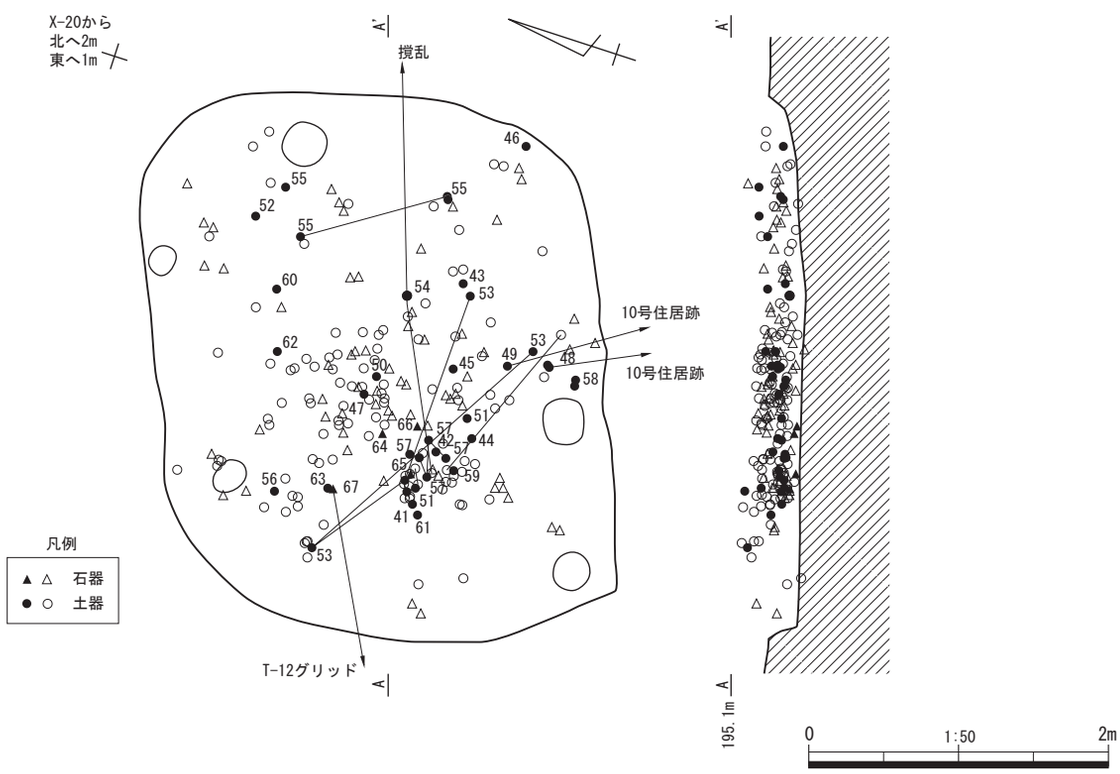


第15図　５号住居跡と出土遺物

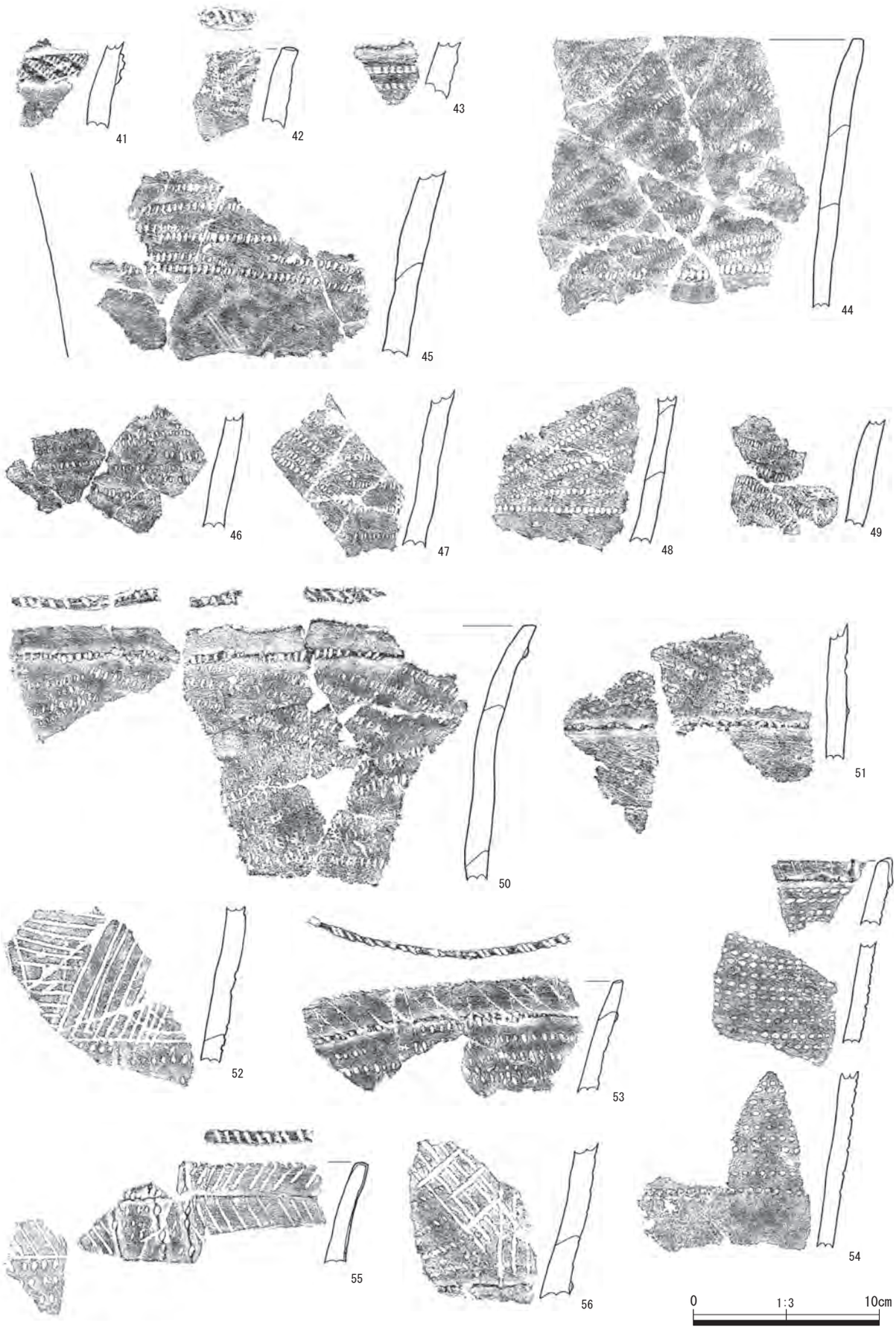
遺構図



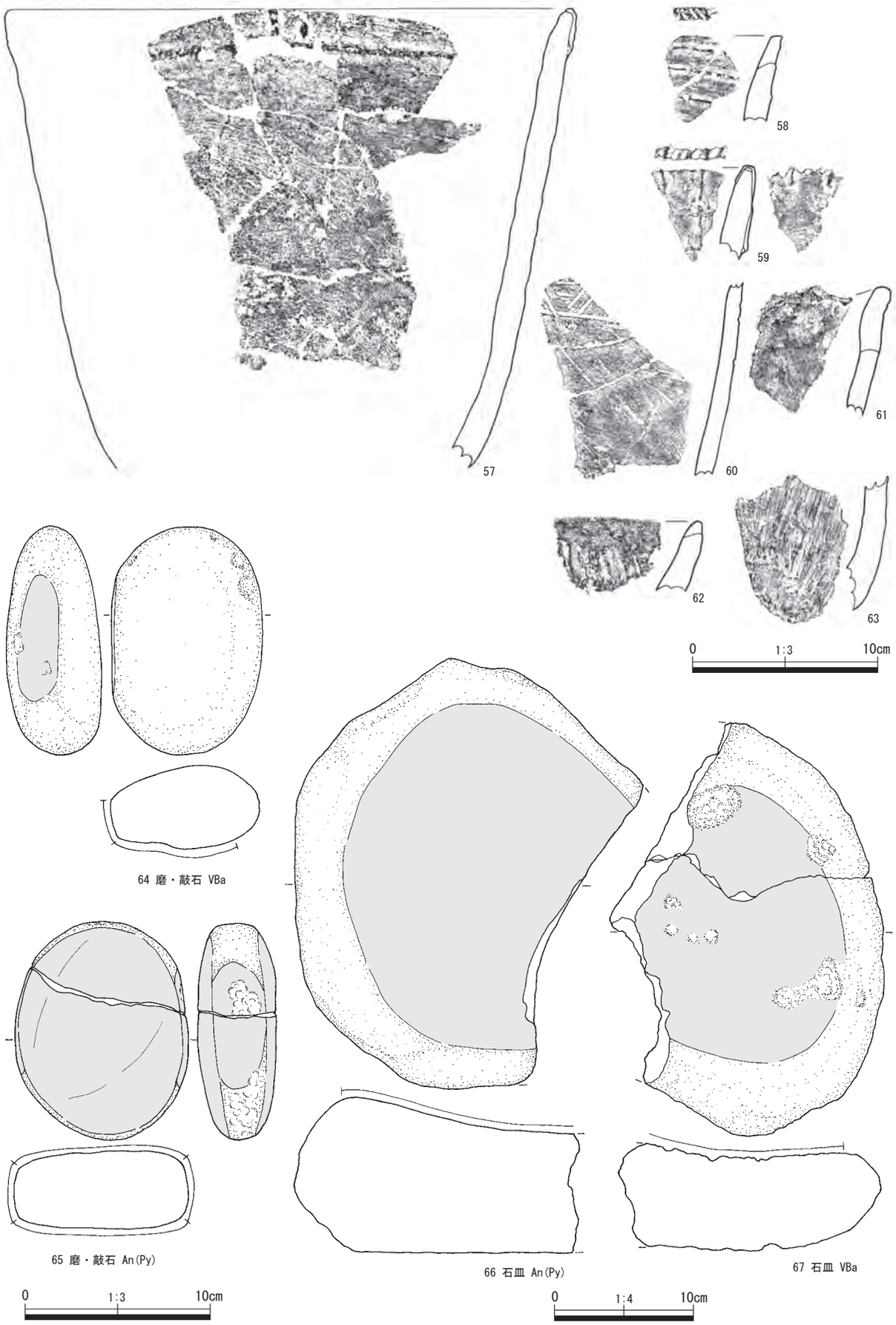
遺物出土状況



第16図　６号住居跡

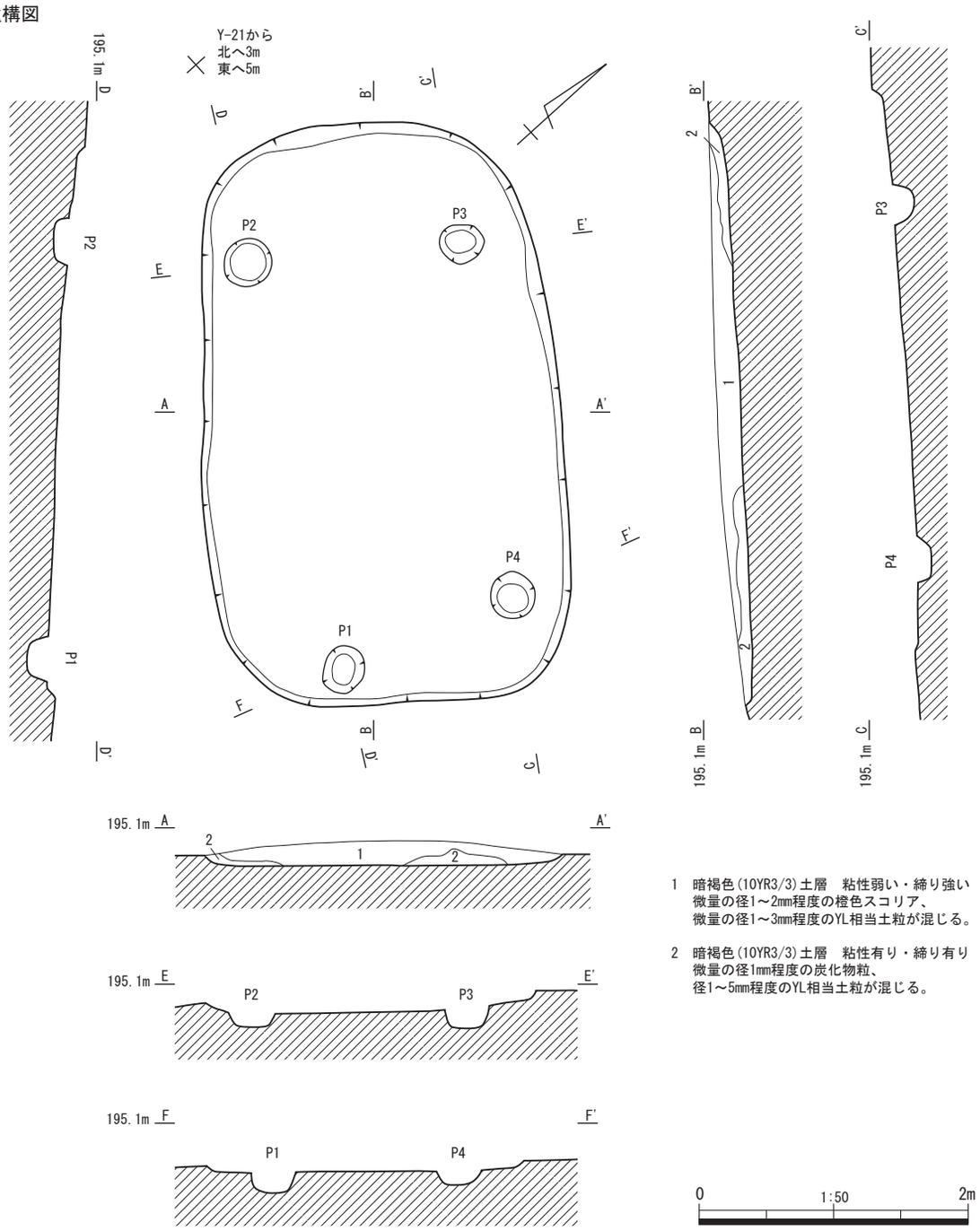


第17図　６号住居跡出土遺物１



第18図　６号住居跡出土遺物２

遺構図

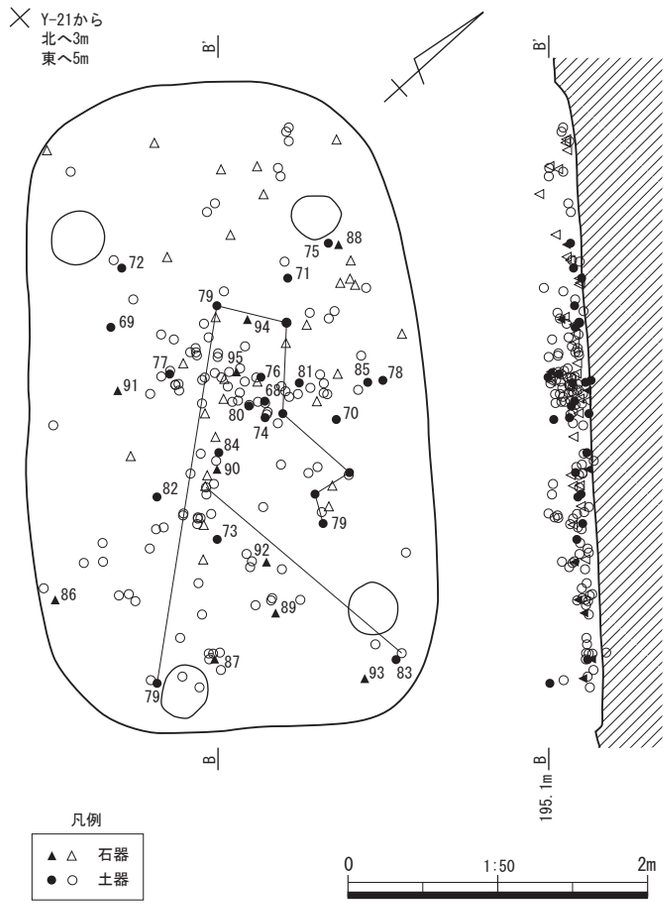


第19図　７号住居跡

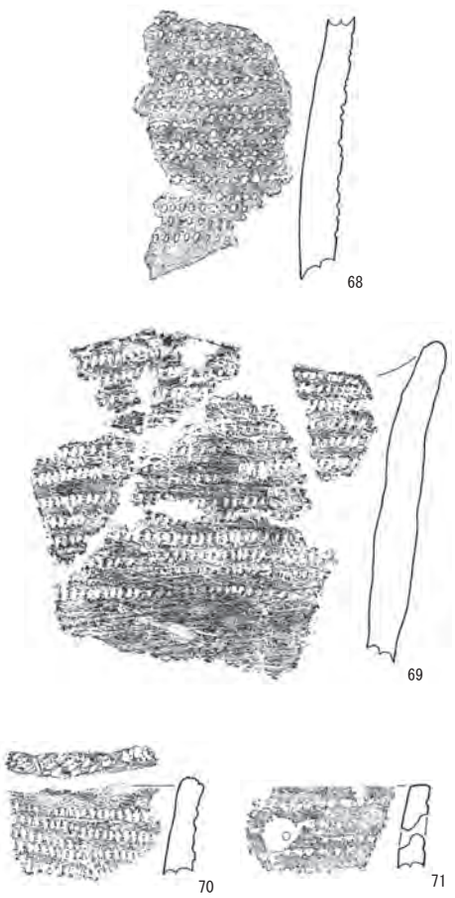
ない。覆土の第１層は富士黒土層を主体で遺物も多く含む。第２層との層界にも遺物は多く分布しているが、第２層を貼床として考えるのは困難である。

当該住居跡から出土した遺物の点数は、土器148点、石器69点、礫17点を数える。そのうち土器23点、石器４点を図化した。41～63は縄文土器である。41・42は子母口式土器か。前者は胴部資料で、横位に太めの隆帯が認められる。後者は口縁部のみの破片資料である。口唇部と口縁部に絡条体圧痕文が観察される。43～60は第Ⅱ群２類に分類した清水柳Ｅ類土器か。43～49は絡条体圧痕文のみで文様が構成さ

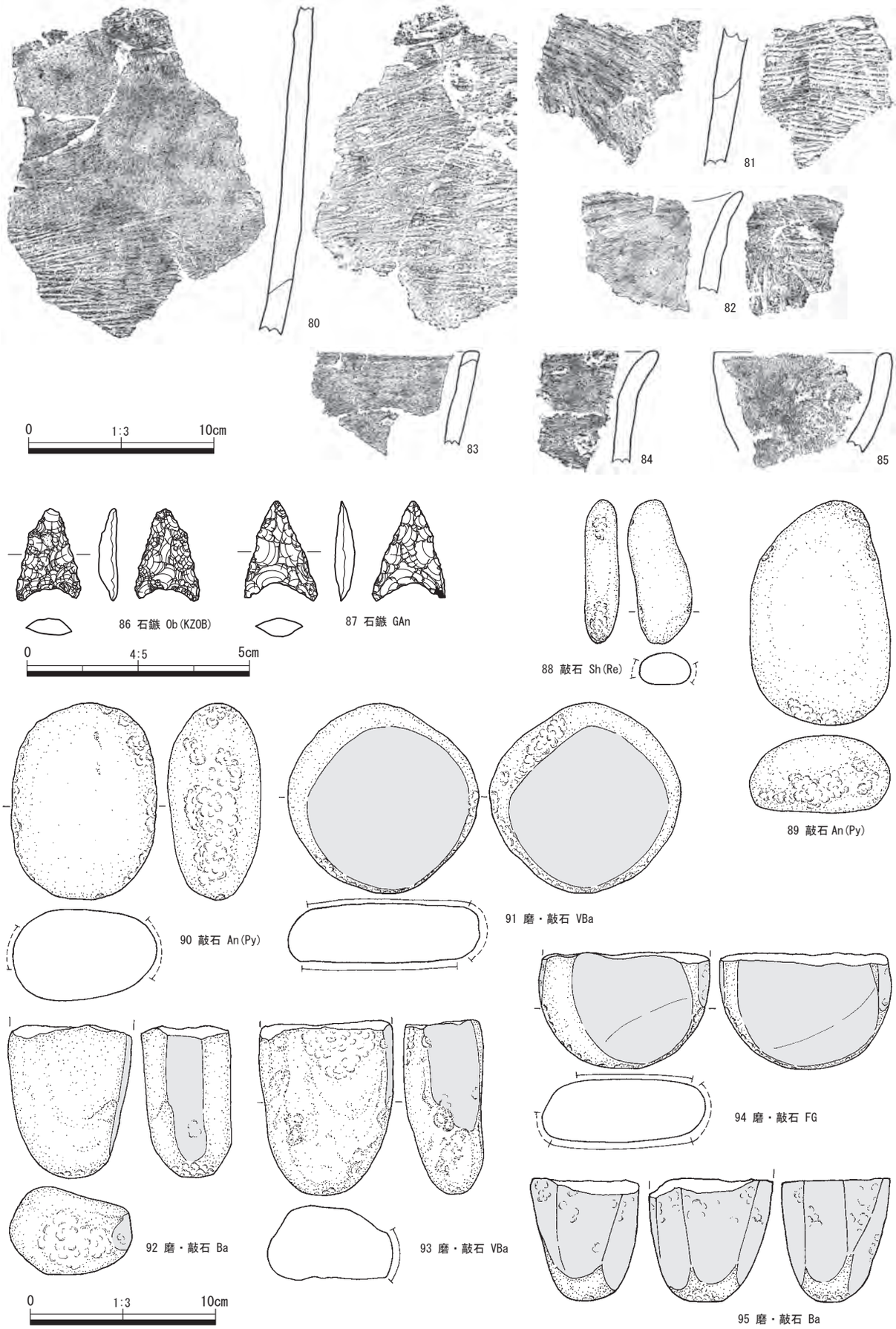
遺物出土状況



出土遺物



第20図　７号住居跡遺物出土状況と出土遺物１



第21図　７号住居跡出土遺物２

れている。44は口縁部から胴部上半にかけての資料である。口唇部が平坦に仕上げられている。50～51は絡条体圧痕文と細隆起線文で文様が構成されている。50は口縁部から胴部上半にかけての資料である。口唇部に刻目文、口縁部に細隆起線文が横位に１条貼り付けられている。口唇部及び細隆起線文より下位に絡条体圧痕文が施されている。51は胴部中位付近の資料か。細隆起線文より上位に絡条体圧痕文が施されている。52は絡条体圧痕文と沈線文で文様が構成されている。横位と斜位に施された沈線文の下位に絡条体圧痕文が施されている。53～56は絡条体圧痕文と細隆起線文、沈線文の３種の文様で構成されている。53は口縁部の資料である。口縁部に細隆起線文、その上位に斜位に施された沈線文、口唇部及び細隆起線文より下位に絡条体圧痕文が施されている。54は同一個体と考えられる。55は口唇部に刻目文、口縁部には沈線文を矢羽状に配置し、細隆起線文を３条垂下させている。細隆起線文間及び横位沈線文の直下に絡条体圧痕文が観察される。56は横位の細隆起線文の上位に絡条体圧痕文と沈線文が施されている。57～59は細隆起線文のみで構成される。57は口縁部から胴部下半にかけての資料である。口縁部に横位の細隆起線文を１条、口唇部からも細隆起線文を垂下させている。この57には炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92019）したところ、7,980±40yrBP、すなわち縄文時代早期代の^{14}Ｃ年代が測定されている。58・59は両者とも口縁部のみの破片資料である。口唇部に刻目文か。60は沈線文のみ観察される資料である。61～63は無文土器である。61・62は口縁部のみの資料で、61は波状口縁か。63は尖底であろう。

64～67は石器である。64・65は磨・敲石で、両者とも扁平な円礫を利用している。64は片側側縁にのみ磨面が見られる。66・67は石皿である。よく使い込まれた使用面を持つ。両者とも欠損部がある。石材については64・67が多孔質玄武岩、65・66が輝石安山岩である。

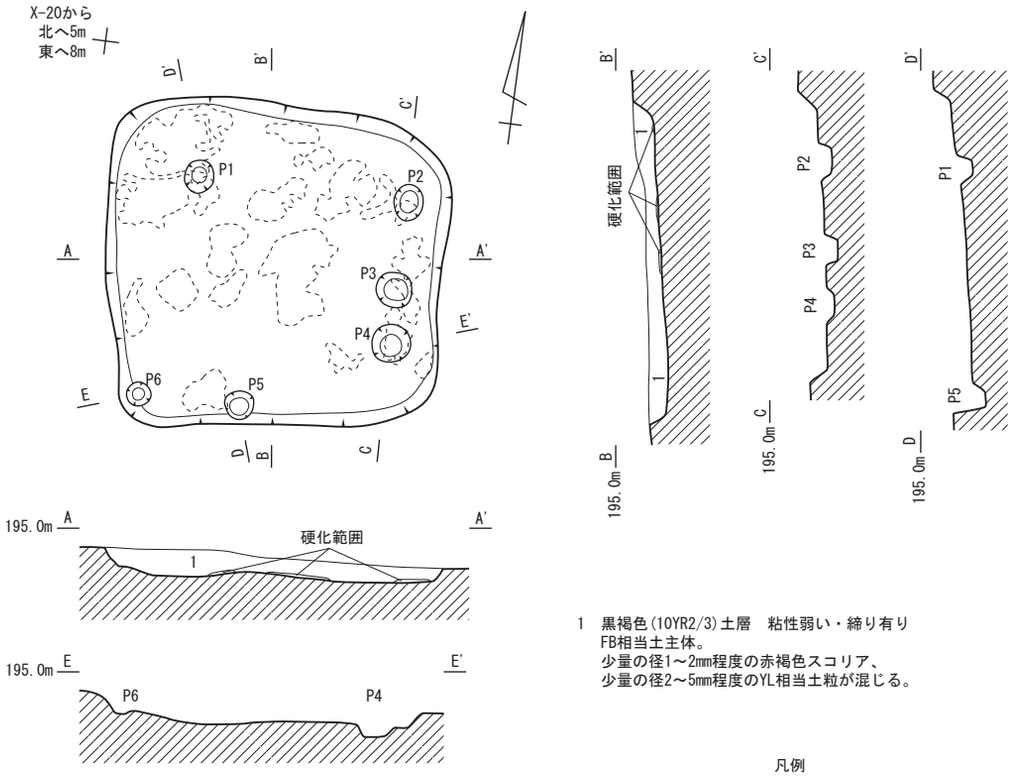
７号住居跡（旧ＳＢ23　第19～21図　写真図版18・48・49）

当該住居跡はＹ－21・22グリッドにて検出した。中央尾根（北）に位置する。住居跡の平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の計測値は長さ4.32m、幅2.70m、残存する壁の高さは最高0.18mを測る。住居内には柱穴が４基確認されている。いずれの柱穴も壁際、隅部寄りに位置している。炉穴は確認されていない。覆土の状況から貼床は確認されていない。遺物は覆土第１層に多く含む。

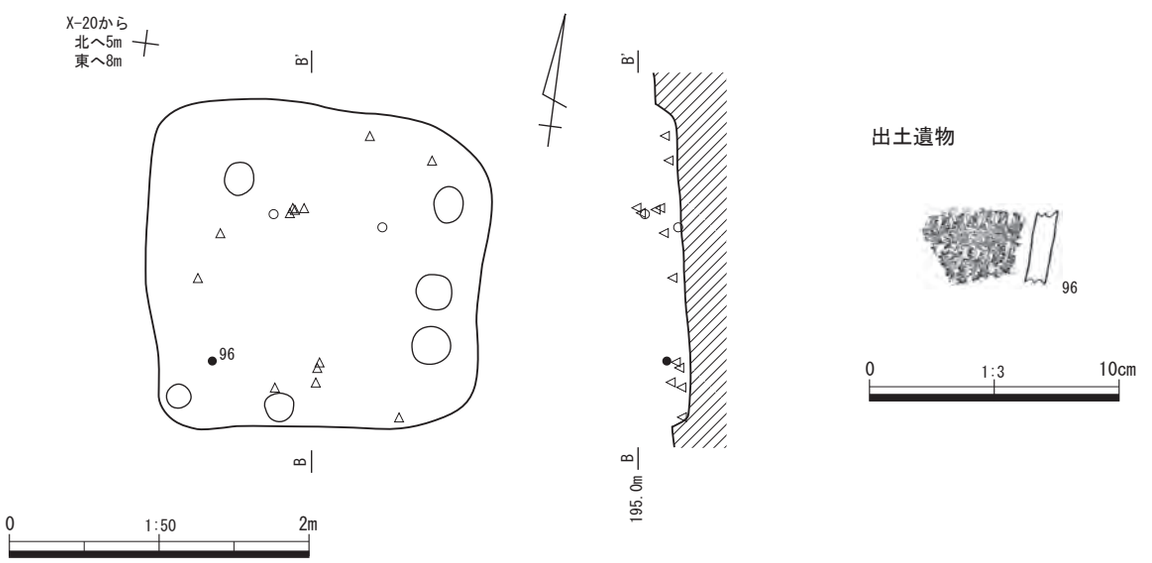
当該住居跡から出土した遺物の点数は、土器145点、石器42点、礫68点を数える。そのうち土器18点、石器10点を図化した。68～85は縄文土器である。68～77は第Ⅱ群２類の清水柳Ｅ類土器か。68～71は絡条体圧痕文のみで文様が構成されている。いずれも絡条体圧痕文は横位に施されている。69・70は口縁部の資料で、波状口縁である。71は穿孔資料である。72は穿孔を試みた痕跡が残るが、未貫通である。71・72両者とも両面からの穿孔である。76は絡条体圧痕文と細隆起線文で文様が構成されている。77は絡条体圧痕文と細隆起線文、沈線文の三者で文様が構成されている。78は型式不明のため第Ⅲ群とした資料である。先端が割れた棒状の工具で刺突している。79～82は条痕文が観察される資料である。82は内面のみで、それ以外は両面に条痕文が施されている。79は口縁部から胴部下半までの資料である。口唇部は平坦に仕上げられ、胴部中位に屈曲する。82の器厚は薄手に仕上げられている。83～85は無文土器である。85は小型品であろうか。

86～95は石器である。86・87は石鏃である。基部は凹基で、86の石材は神津島恩馳島群の黒曜石、87はガラス質黒色安山岩である。88～90は敲石である。88は片側側縁にのみ、89は両端部を中心に、90は周縁部に敲打痕が観察される。91～95は磨・敲石である。91・94は円盤状の円礫を使用している。92・93・95はいずれも欠損した資料であるが、本来は扁平で棒状の円礫を使用したものであろう。石材について88は赤色頁岩、89・90が輝石安山岩、91・93が多孔質玄武岩、92・95は玄武岩、94は細粒斑レイ岩を使用している。

遺構図



遺物出土状況

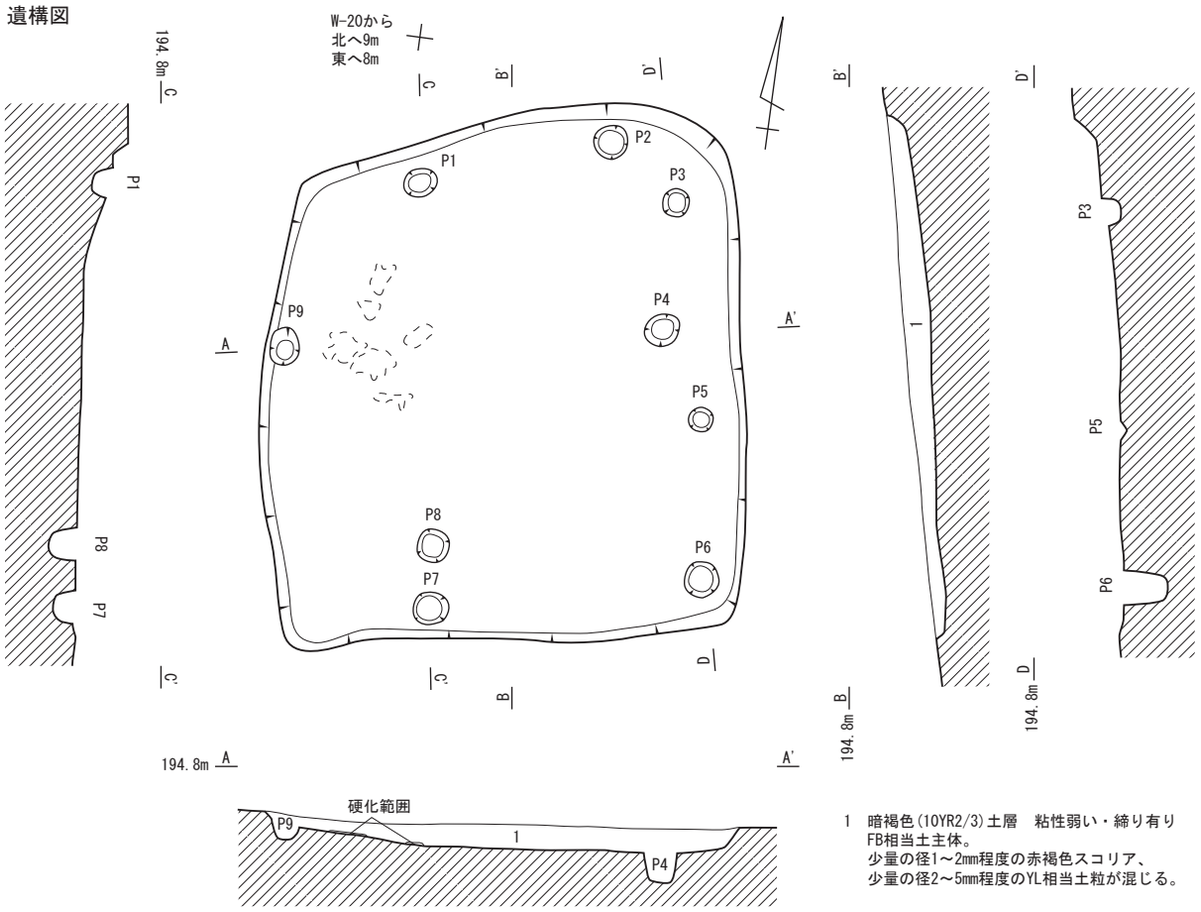


第22図　８号住居跡と出土遺物

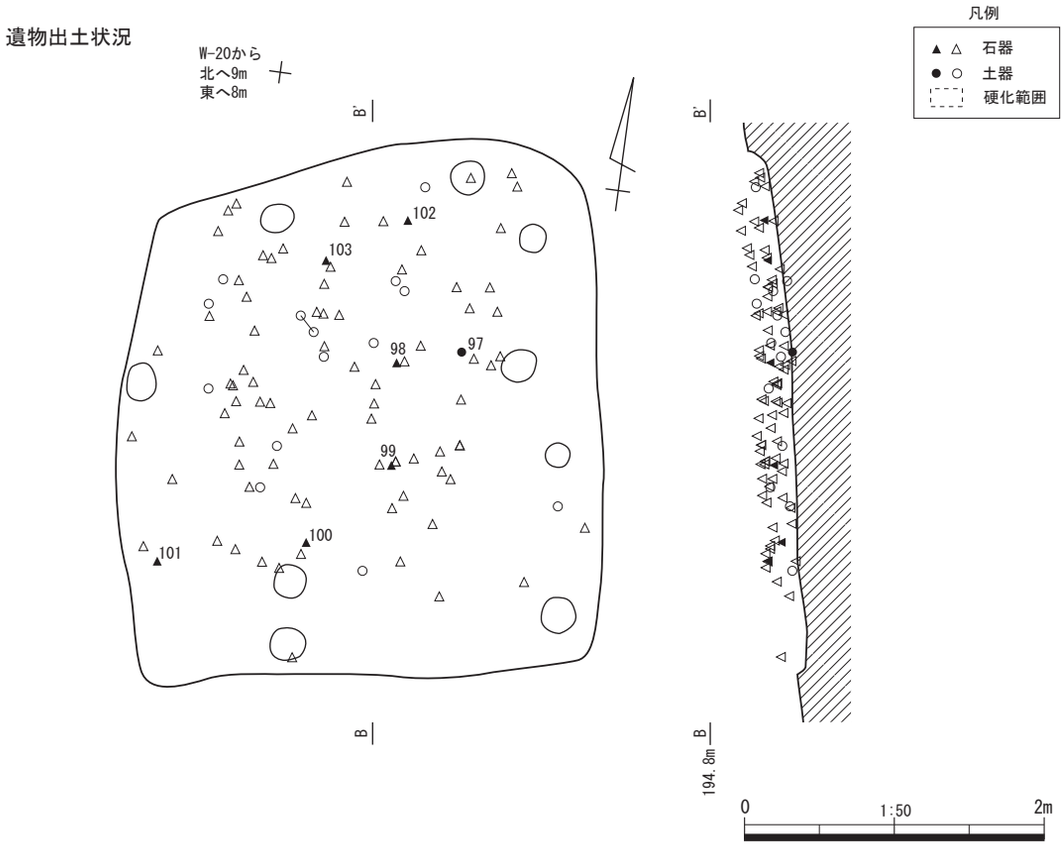
８号住居跡（旧ＳＢ09　第22図　写真図版19・49）

当該住居跡はＸ－20・21グリッド付近にて検出した。中央尾根に位置する。住居跡の平面形は方形を呈する。遺構の計測値は長さ2.31m、幅2.20m、残存する壁の高さは最高0.13mを測る。住居内には柱穴が６基確認されている。そのうちＰ５・６は壁中に穿たれ、Ｐ１～４は壁から0.1～0.3m程度の間隔を開けている。住居跡の床面には硬化部が散見された。炉跡は確認されていない。覆土の状況から貼床は確認されていない。

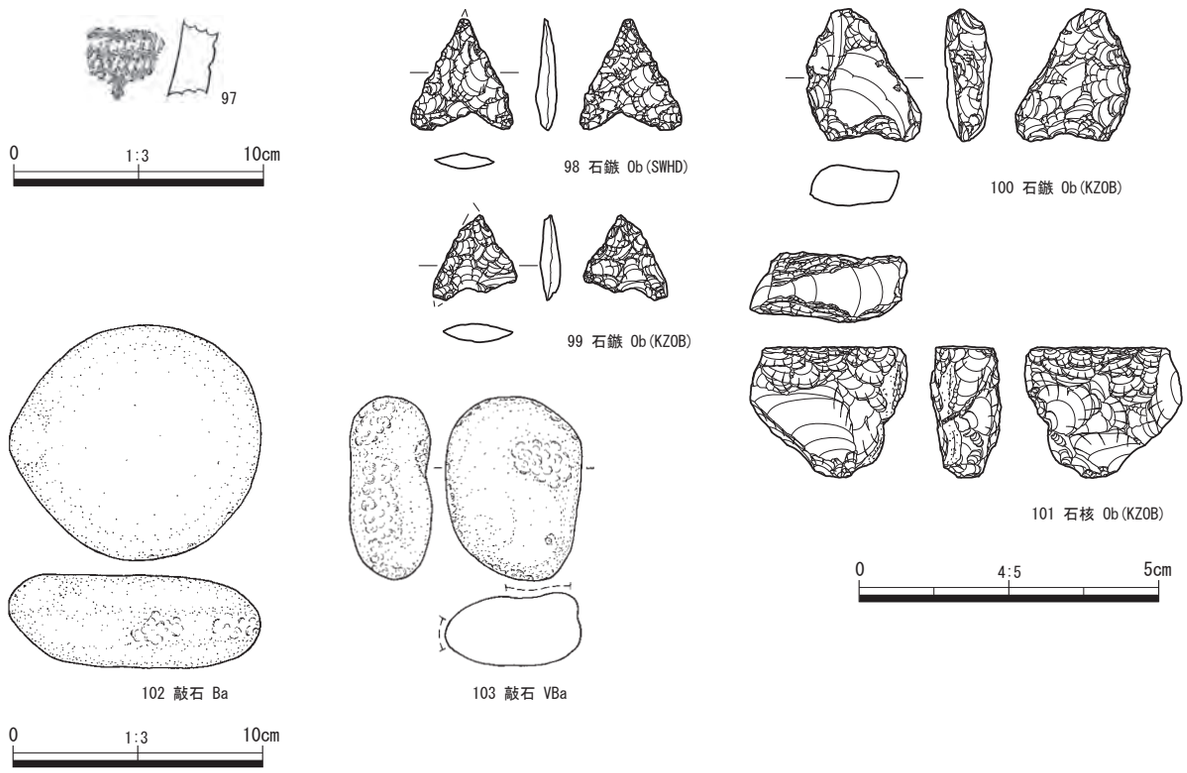
遺構図



遺物出土状況



第23図　９号住居跡



第24図　９号住居跡出土遺物

当該住居跡から出土した遺物の点数は、土器３点、石器13点、礫９点を数える。そのうち図化できたのは土器１点である。96は縄文土器である。清水柳Ｅ類土器か。横位に絡条体圧痕文を施している。

９号住居跡（旧ＳＢ10　第23・24図　写真図版19・49）

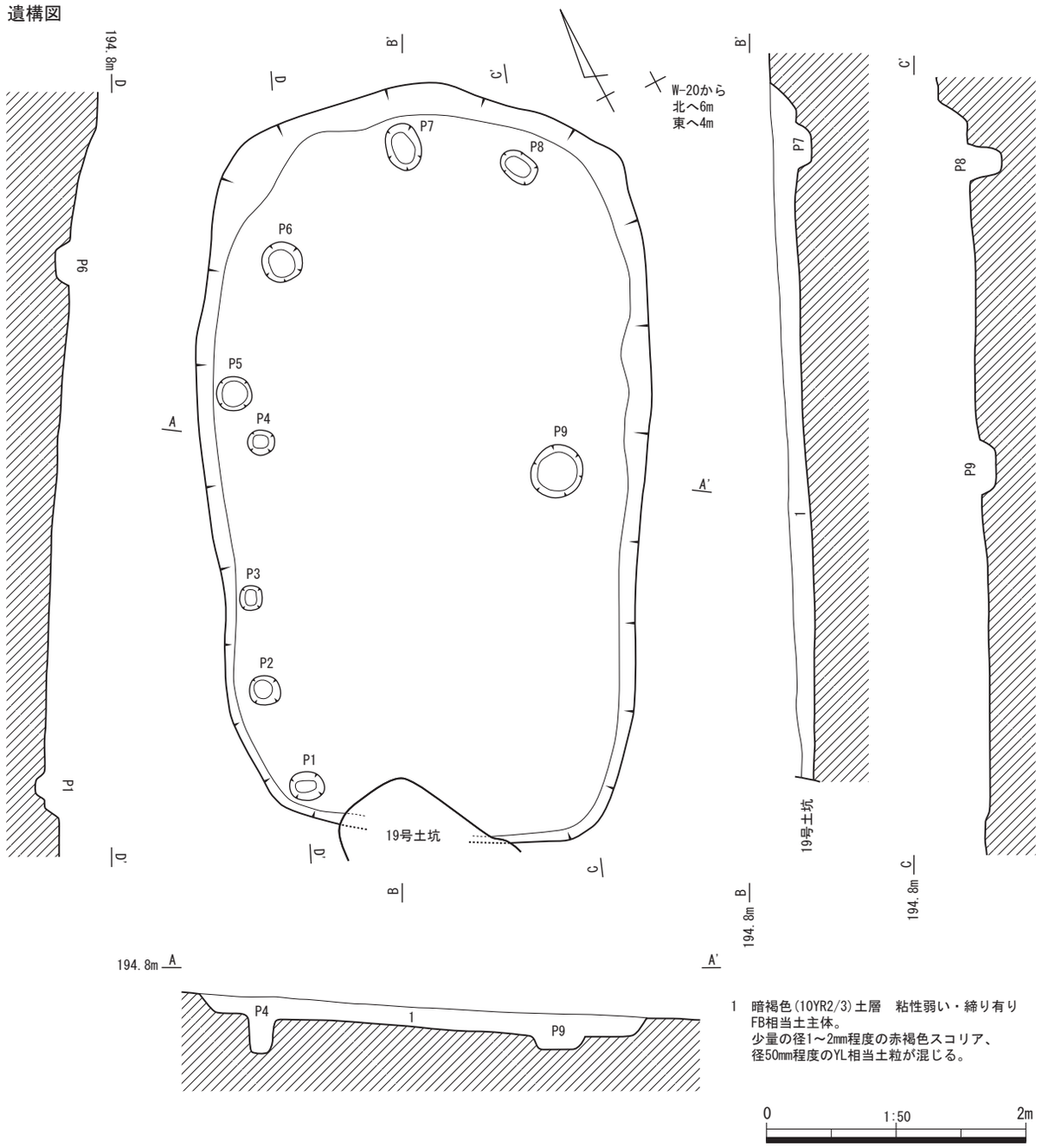
当該住居跡はＷ－20・21グリッド付近にて検出した。中央尾根（南）に位置し、12号住居跡に近接する。住居跡の平面形は方形を呈する。遺構の計測値は長さ3.65m、幅3.25m、残存する壁の高さは最高0.18mを測る。住居内には柱穴が９基確認されている。Ｐ８を除く８基が壁際近くに配されている。住居跡西半部の一部に硬化面が確認されたが、炉跡は未確認である。貼床は確認されていない。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器15点、石器87点、礫22点を数える。そのうち図化できたのは土器１点、石器６点である。97は縄文土器である。清水柳Ｅ類土器か。横位に絡条体圧痕文を施している。

98～103は石器である。98・99は石鏃である。凹基である。98は諏訪星ヶ台群、99は神津島恩馳島群の黒曜石である。100は石鏃の未製品か。神津島恩馳島群の黒曜石である。101は石核である。神津島恩馳島群の黒曜石である。102・103は敲石である。103は周縁部にも敲打痕が観察される。石材は102が玄武岩、103は多孔質玄武岩を使用している。

10号住居跡（旧ＳＢ12　第25～27図　写真図版20・49・50）

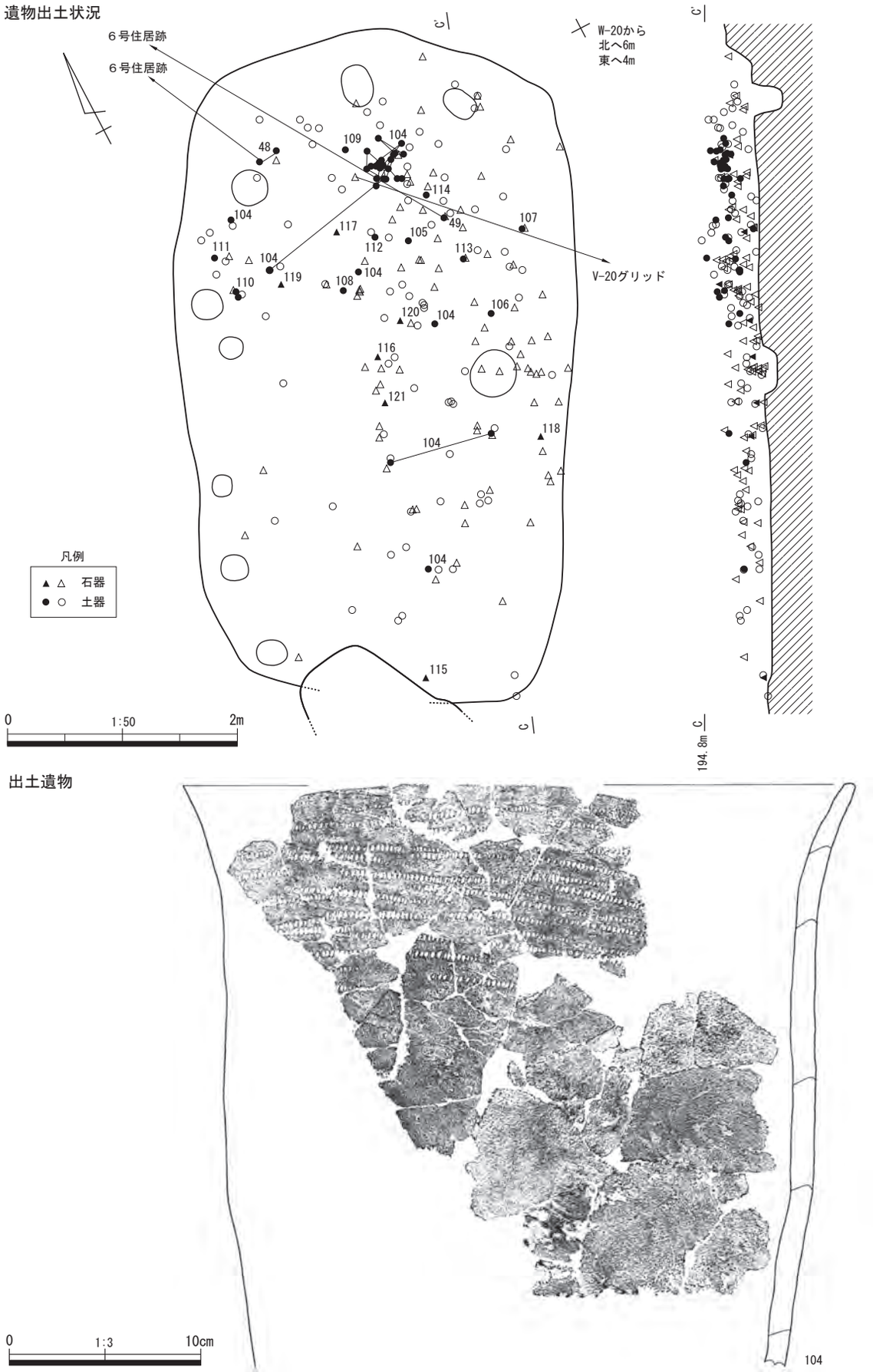
当該住居跡はＷ－19・20グリッドにて検出した。中央尾根（南）に位置し、19号土坑と重複する。住居跡の平面形は隅丸長方形を呈する。長さ5.83m、幅3.51m、残存する壁の高さは最高0.17mを測る。住居南辺中央部は19号土坑と重複する。住居内には柱穴が９基確認されている。Ｐ９を除き８基の柱穴は住居北辺から西辺にかけての壁際に配されている。住居のプランや柱穴の配置は４号住居跡に酷似す



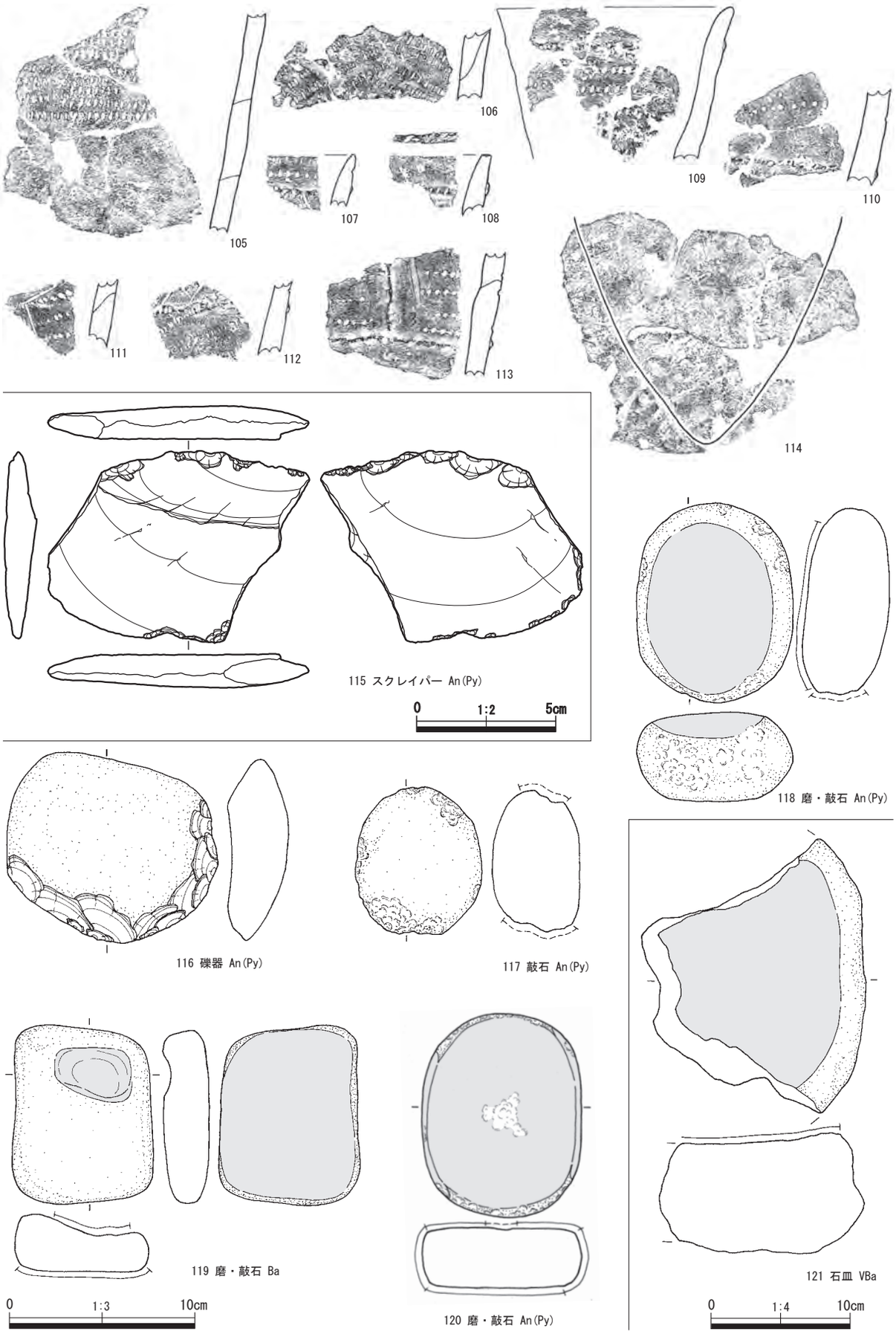
第25図　10号住居跡

る。現地調査時点で当該住居のプランが狭長という点から、居住域の拡張の可能性も想起されたが裏付ける状況は看取できなかった。覆土は富士黒土層を主体としており、炉跡や貼床の存在は確認できなかった。なおこの住居跡は19号土坑と重複しているが、検出状況から土坑よりも時期的に先行する。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器123点、石器96点、礫63点を数える。そのうち図化できたのは土器11点、石器７点である。104～114は縄文土器である。無文土器の114を除き、全て第Ⅱ群２類の清水柳Ｅ類土器か。104～106は絡条体圧痕文のみで文様が構成されている。104は口縁部～胴部下半部にかけての資料である。胴部中位で屈曲、やや直線的に胴部が立ち上がり、口縁部は緩やかに外反させる。口縁部から胴部上位にかけて絡条体圧痕文が観察される。出土位置から判断して遺構内への流れ込みか。107～110は絡条体圧痕文と細隆起線文で文様が構成されている。111は絡条体圧痕文と沈線文で、

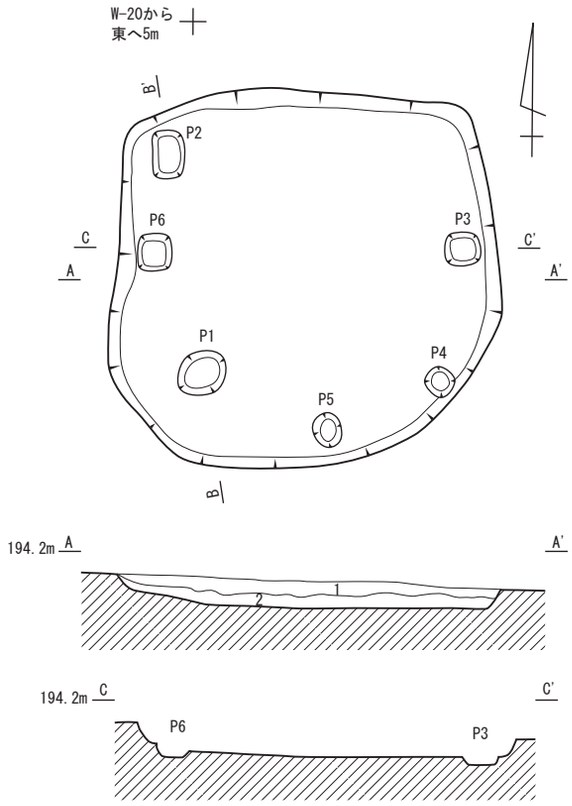


第26図　10号住居跡遺物出土状況と出土遺物１



第27図　10号住居跡出土遺物２

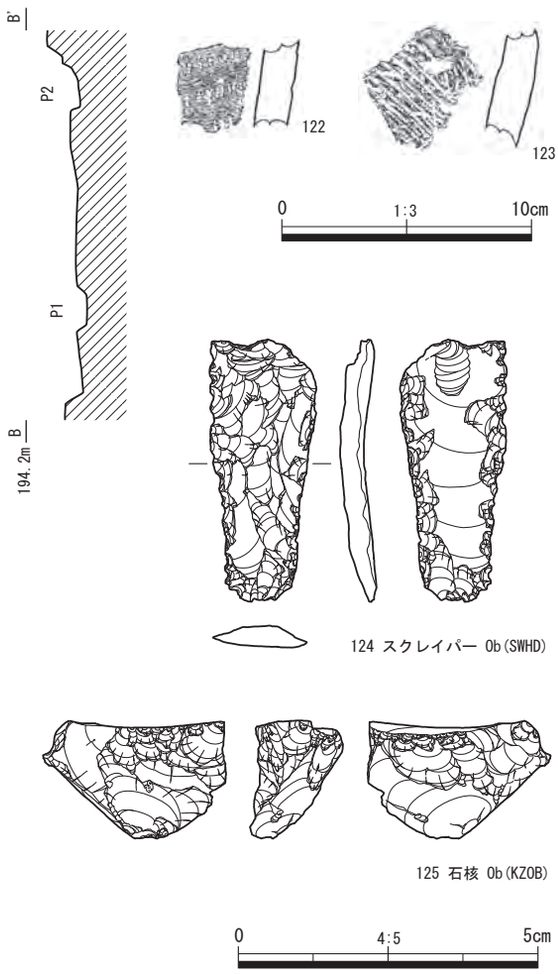
遺構図



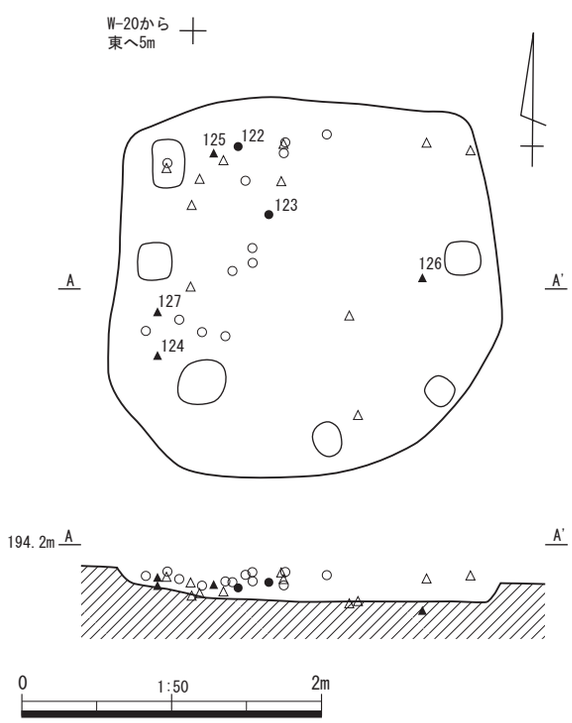
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
FB相当土主体。
少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
微量の径1mm程度の炭化物粒が混じる。

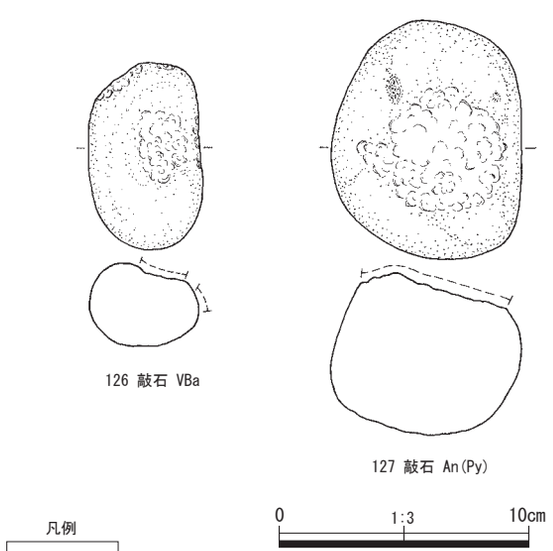
2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
径1～2mm程度のYL相当土粒が混じる。

出土遺物



遺物出土状況





第28図　11号住居跡と出土遺物

112・113は絡条体圧痕文、細隆起線文、沈線文の三者で文様が構成されている。114は深鉢の底部で、尖底である。なお、104には炭化物が付着していたため放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92021）したところ、7,660±40yrBP、すなわち縄文時代早期代の^{14}Ｃ年代が測定された。また今回包含層出土土器719（第Ⅱ群３類）も現地調査時に10号住居跡出土遺物として扱われ、放射性炭素年代測定を実施したが出土レベル検討から、包含層出土遺物として判断し、報告している。

115～121は石器である。115はスクレイパーである。縁辺に剥離が見られる。石材は輝石安山岩である。116は礫器である。礫面を打面とし、片刃である。輝石安山岩を石材とする。117は敲石である。楕円形の礫を利用し、長軸端部に敲打痕が顕著に観察される。石材は輝石安山岩である。118～120は磨・敲石類である。いずれも扁平な礫を利用しているが、118・120は楕円形、119は方形の礫を利用している。120は側縁・平坦部も磨跡が明瞭である。石材については118・120が輝石安山岩、119は玄武岩、121は多孔質玄武岩を使用している。

11号住居跡（旧ＳＢ14　第28図　写真図版21・50）

当該住居跡はＶ－20グリッドにて検出した。中央尾根に位置する住居群の中で南側に位置する。また1980年に長泉町教育委員会が実施した調査区に近接する住居跡でもある。調査が実施された住居跡の平面形は北半部が隅丸方形、南半部は隅部が明瞭でないため、円形に近い。一応、隅丸方形としておく。遺構の計測値は長さ2.52m、幅2.62m、残存する壁の高さは最高0.18mを測る。住居内には柱穴が６基確認されている。柱穴は住居北西隅部から間隔をおいて壁際に配置されている。住居北辺及び北東隅部には柱穴跡が認められない。炉跡や貼床の存在は確認できなかった。当該住居跡はまた23号土坑と重複している。時期的には土坑が先行する。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器14点、石器15点、礫14点を数える。そのうち図化できたのは土器２点、石器４点である。122・123は縄文土器である。122は清水柳Ｅ類土器か。絡条体圧痕文が横位に施されている。123は型式不明である。先端が割れた棒状の工具で施文か。

124～127は石器である。124はスクレイパーである。剝片の打瘤は除かれている。端部は連続して剝離調整を施し、刃部を仕上げている。諏訪星ヶ台群の黒曜石である。125は石核か。神津島恩馳島群の黒曜石である。126・127は敲石である。両者とも平坦面中央に敲打痕が観察される。石材は多孔質玄武岩・輝石安山岩である。

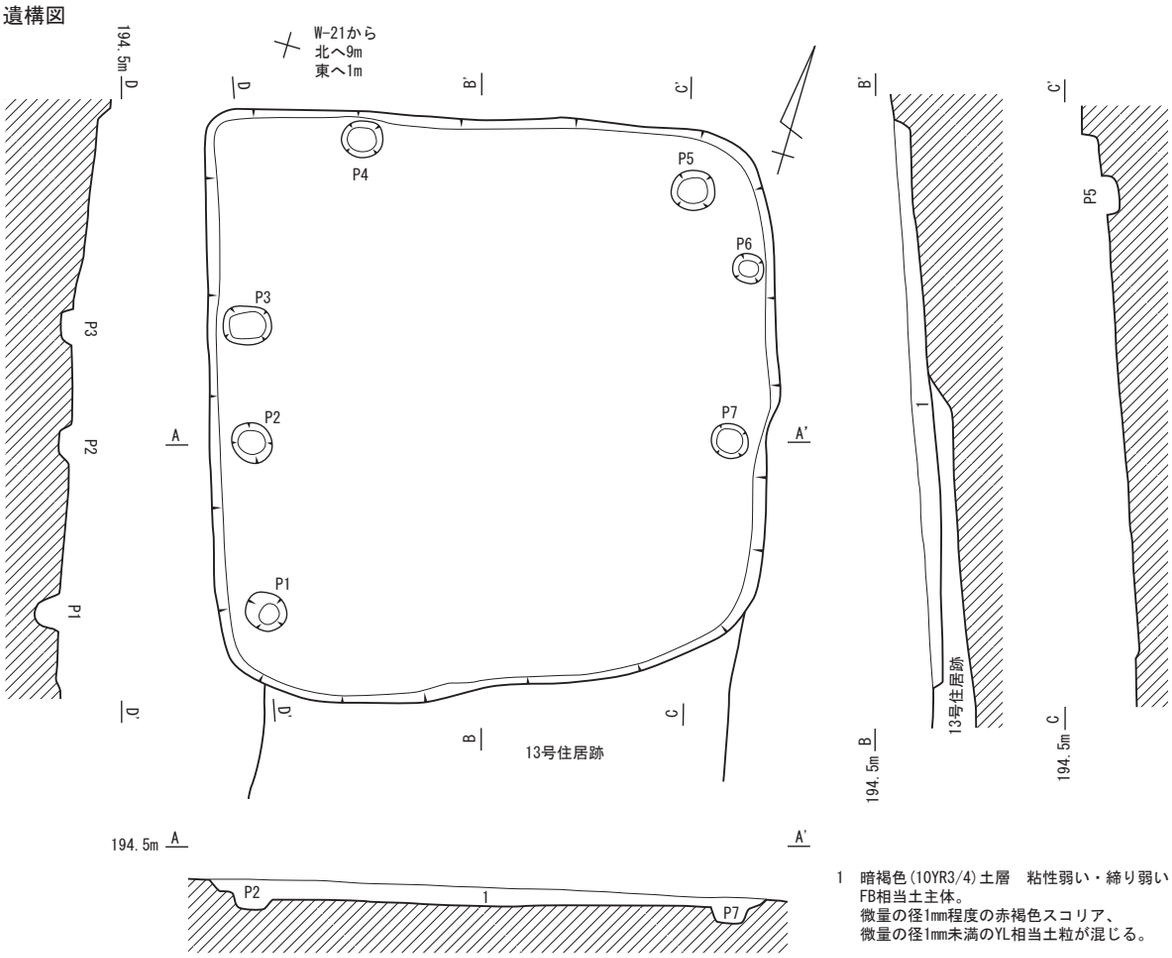
12号住居跡（旧ＳＢ13　第29・30図　写真図版20・51）

当該住居跡はＷ－21グリッド付近にて検出した。中央尾根に位置し、９号住居跡と近接、13号住居跡と重複する。この住居跡の平面形は方形を呈するが南西隅部が丸みを帯びるため、歪な印象を与えている。遺構の計測値は長さ3.93m、幅3.83m、残存する壁の高さは最高0.13mを測る。住居内には柱穴が７基確認されている。これらは住居北東隅部、東辺、西辺、北辺西半の壁際に配置されているが、南辺から南東隅部にかけては柱穴が認められない。炉跡や貼床の存在は確認できなかった。12号住居跡は南半部で13号住居跡と重複する。時期的には13号住居跡が先行する。

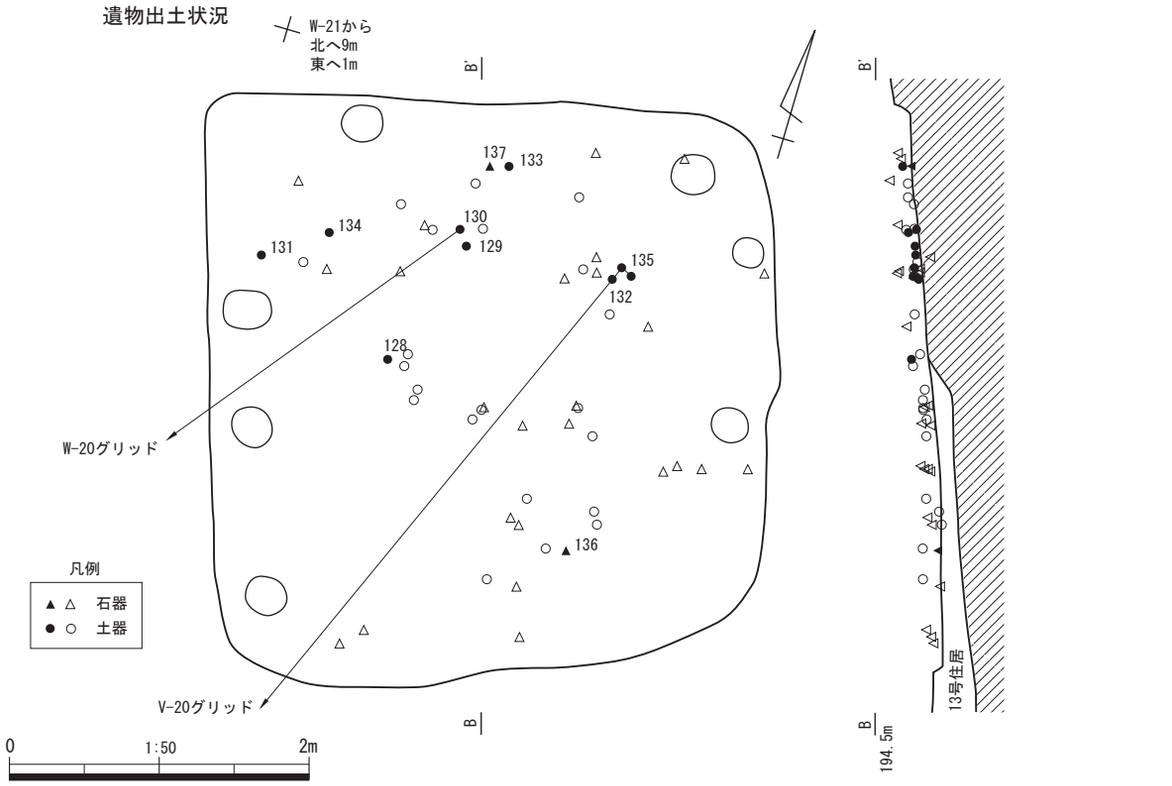
当該住居跡から出土した遺物の点数は土器35点、石器27点、礫29点を数える。そのうち図化できたのは土器８点、石器２点である。128～135は縄文土器である。128～133は清水柳Ｅ類土器か。128・129は絡条体圧痕文のみで文様が構成される。130～132は絡条体圧痕文と細隆起線文が施される。３者とも口縁部資料で130は波状口縁、132は穿孔資料である。133は沈線文が観察される。134は条痕文土器か。135は無文土器である。口唇部が平坦に仕上げられている。

136は敲石である。扁平で楕円形の礫を利用し、敲打痕が散見される。137は磨・敲石である。円盤状

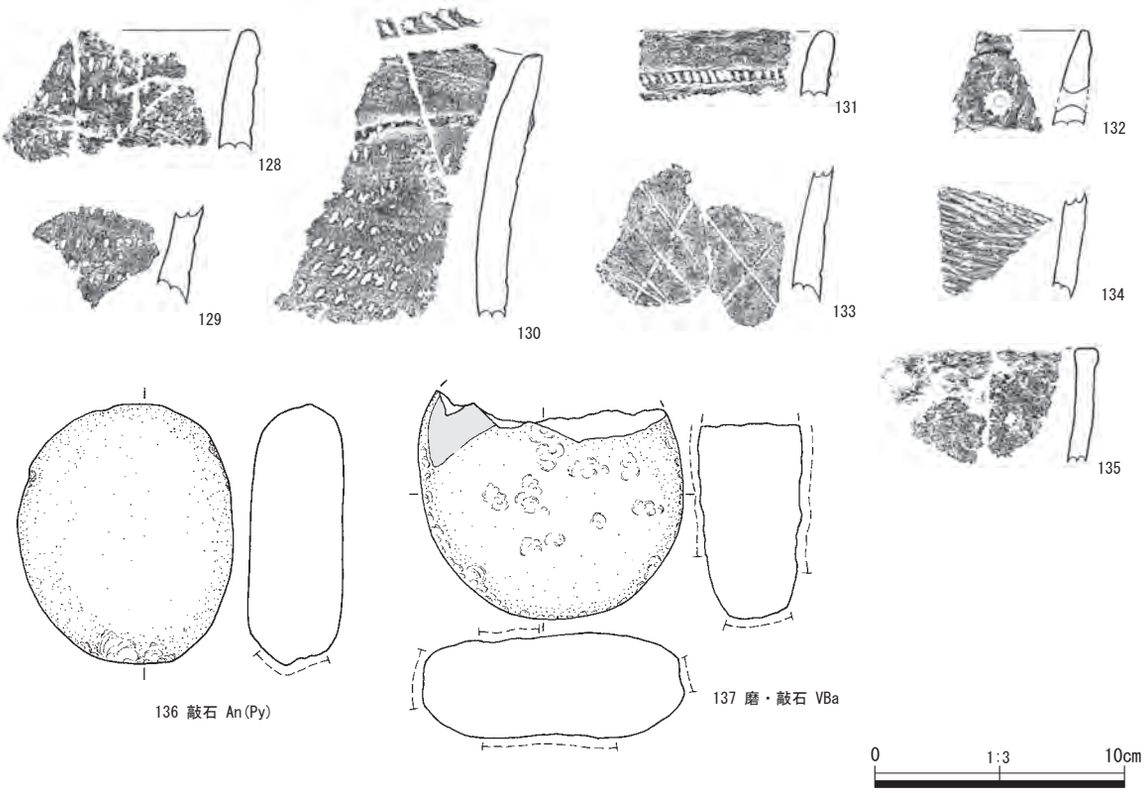
遺構図



遺物出土状況



第29図　12号住居跡



第30図　12号住居跡出土遺物

の扁平な礫を利用し、平坦面に磨痕、敲打痕が明瞭に観察される。石材は前者が輝石安山岩、後者が多孔質玄武岩である。

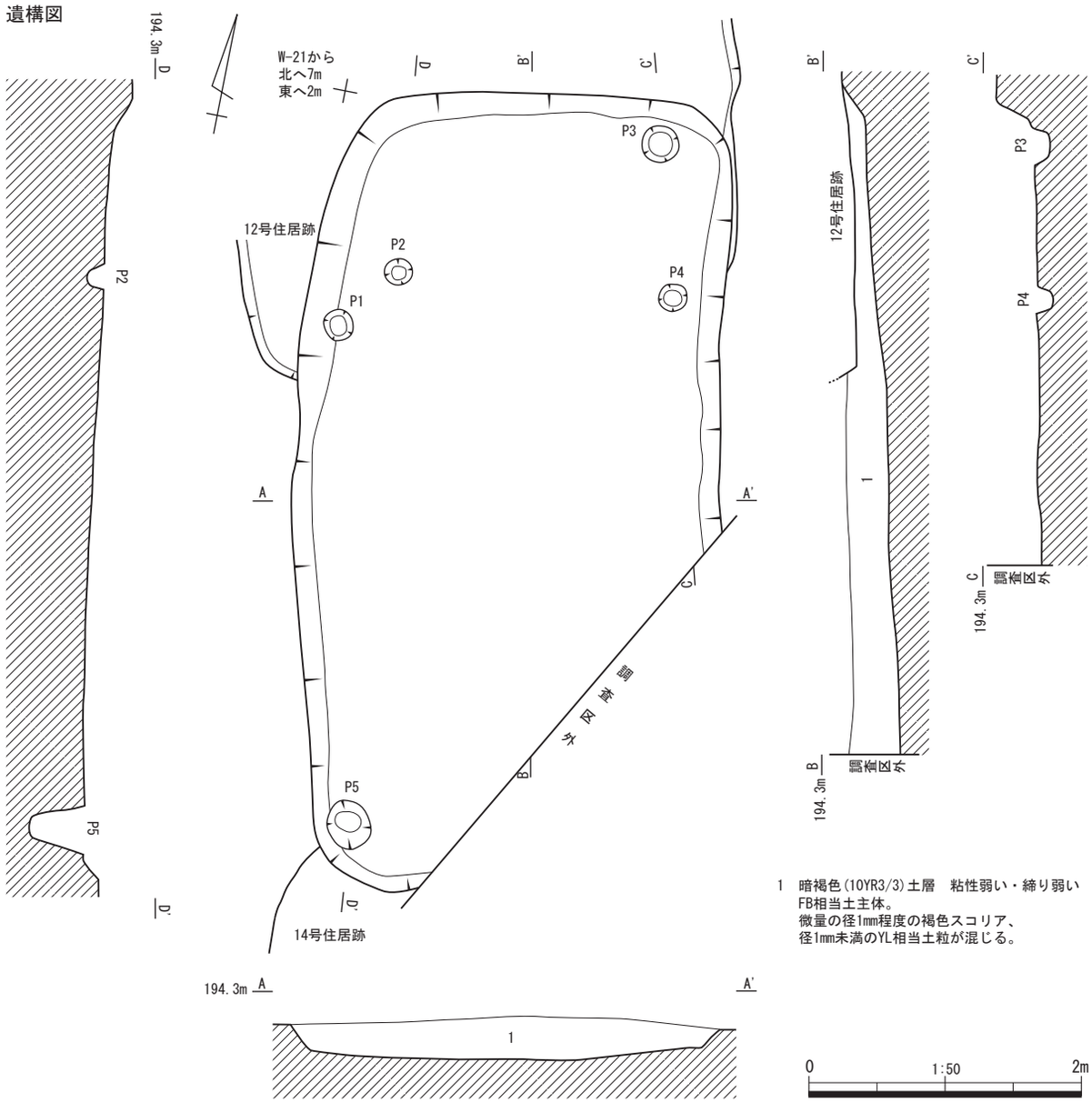
13号住居跡　（旧ＳＢ15　第31・32図　写真図版22・51）

当該住居跡はW－21グリッド付近にて検出した。中央尾根（南）に位置し、12号住居跡・14号住居跡と重複する。住居跡の平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の計測値は長さ5.85m、幅3.23m、残存する壁の高さは最高0.37mを測る。住居南西隅部は調査区外へ広がる。住居内には柱穴が５基確認されている。住居北東隅部に１基、南西隅部に１基、住居西辺中位から北寄りの位置に２基、東辺中位から北寄りの位置に１基確認されている。炉跡や貼床は確認できなかった。この13号住居跡は12号住居跡と重複しているが、13号住居跡が時期的に先行するものと考えられる。また南西隅部は14号住居跡と重複しており、調査の結果、14号住居跡を破壊しているのが確かめられた。従って14号住居跡→13号住居跡→12号住居跡という時期的な変遷が考えられる。

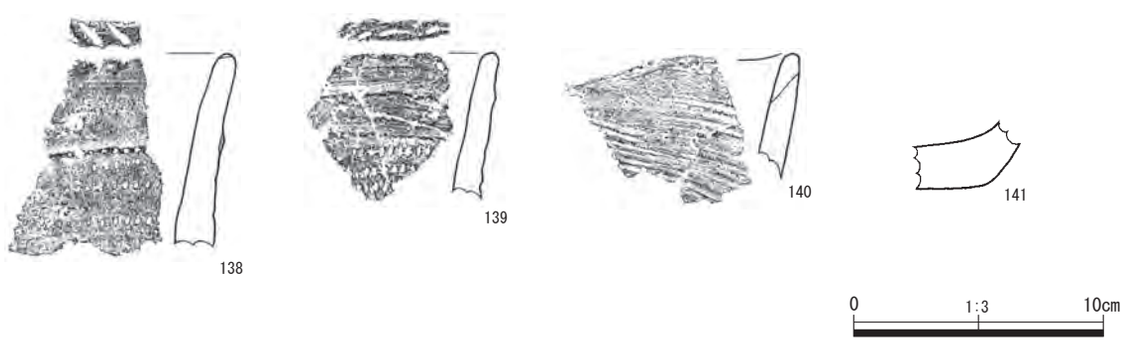
当該住居跡から出土した遺物の点数は土器30点、石器34点、礫22点を数える。そのうち図化できたのは土器４点、石器４点である。138～141は縄文土器である。138・139は清水柳Ｅ類土器か。絡条体圧痕文と細隆起線文で文様が構成されており、両者とも口縁部の資料である。口唇部は丸く仕上げられ、刻目文・絡条体圧痕文が観察される。140は条痕文土器である。口縁部の資料である。141は無文土器である。底部のみの資料である。

142～145は石器である。142・143は楔形石器である。両者とも神津島恩馳島群の黒曜石である。144・145は磨・敲石である。144は円柱状の礫を利用し、長軸端部に敲打痕が観察され、磨痕と敲打痕との重複は認められない。145は扁平で楕円形を呈する礫を利用し、敲打痕はほぼ中央、磨痕は両側縁にある。石材は輝石安山岩・多孔質玄武岩である。

遺構図

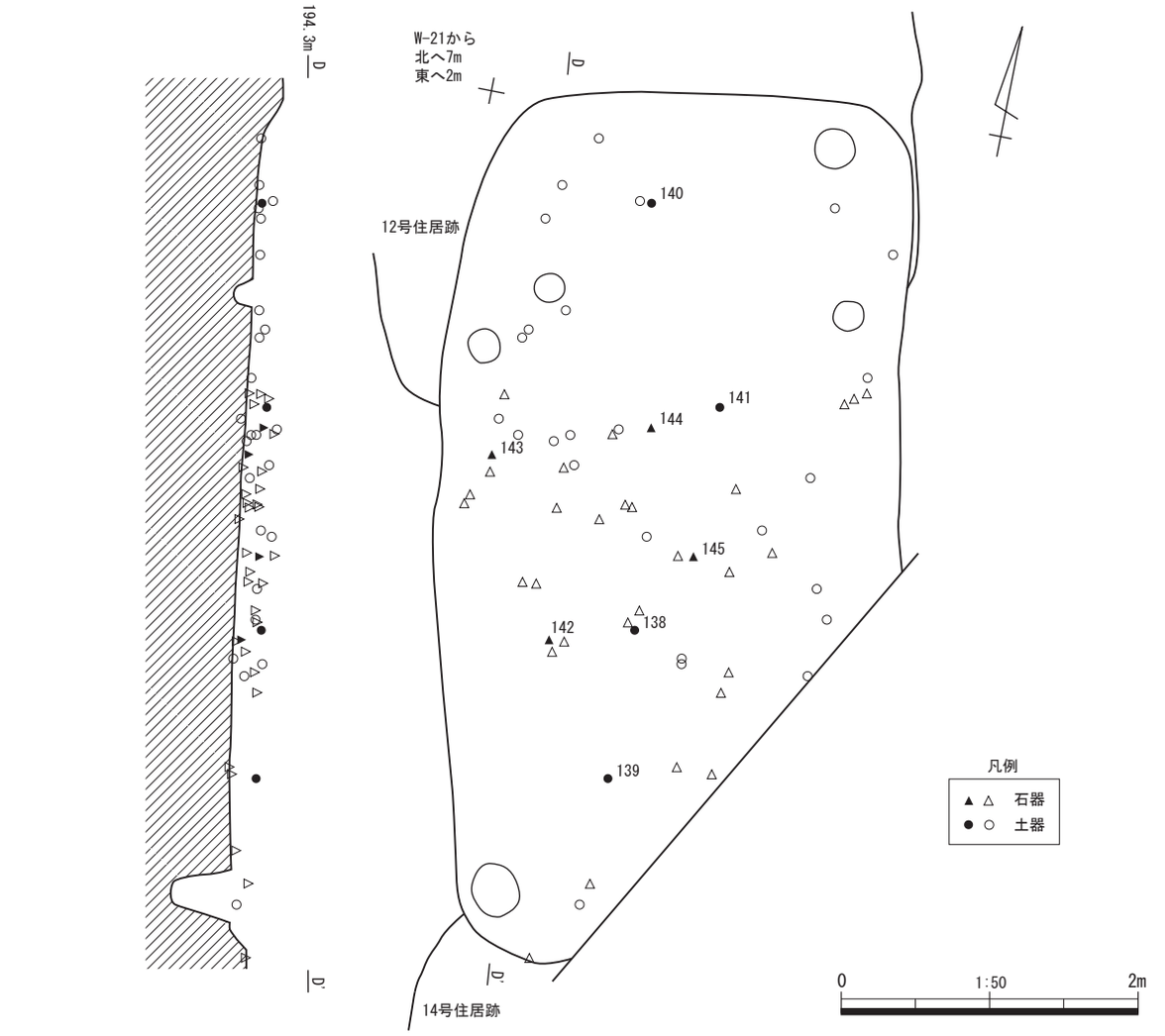


出土土器

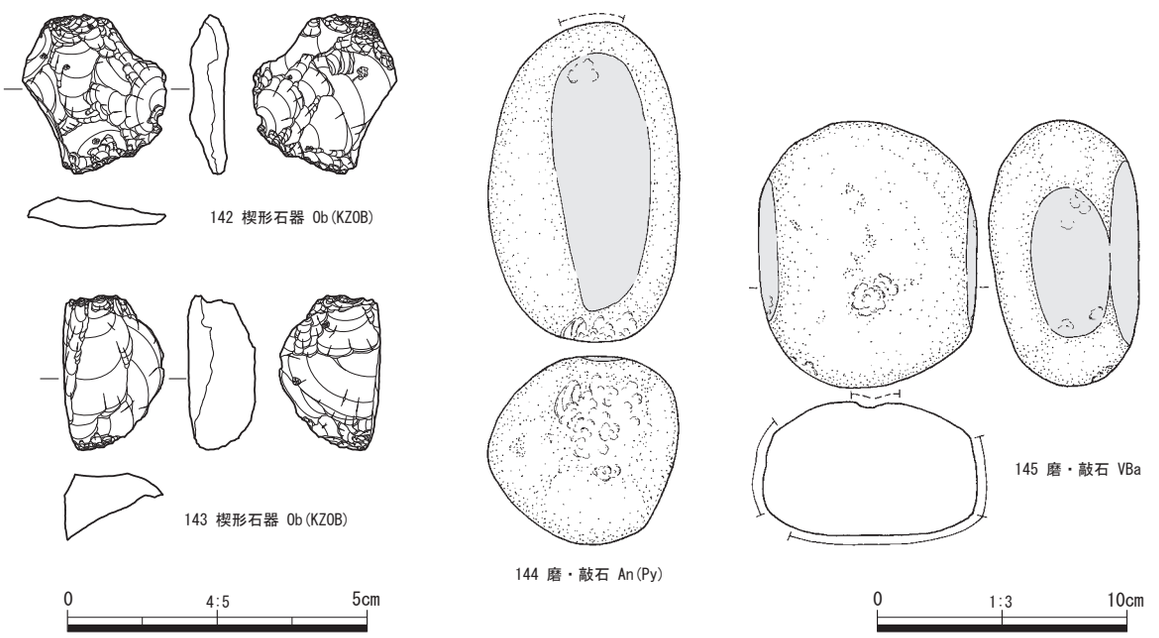


第31図　13号住居跡と出土遺物1

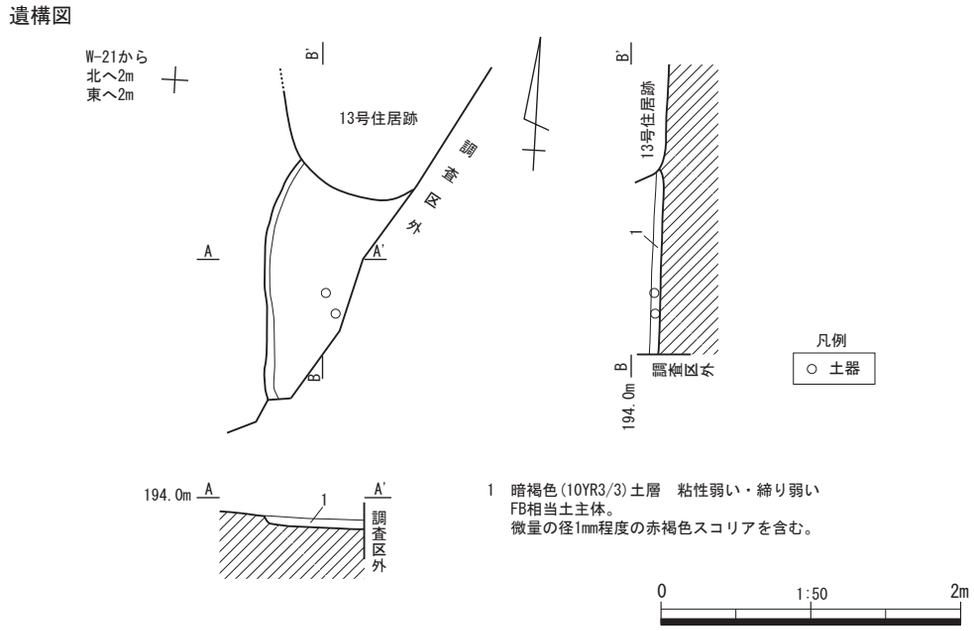
遺物出土状況



出土石器



第32図　13号住居跡遺物出土状況と出土遺物2



第33図　14号住居跡

14号住居跡（旧ＳＢ16　第23図）

当該住居跡はW－21グリッド付近にて検出した。中央尾根（南）に位置し、調査区外に遺構が広がる。遺構自体が大部分、調査区外に広がり、なおかつ北側は13号住居跡に破壊されているため、住居本来の平面形は全く不明である。残存する遺構の計測値は長さ1.30m、幅0.69m、残存する壁の高さは最高0.06mを測る。住居内には柱穴・貼床・炉跡は確認されていない。なお13号住居跡により破壊されていることから、13号住居跡よりも時期的に先行するものと考えられる。

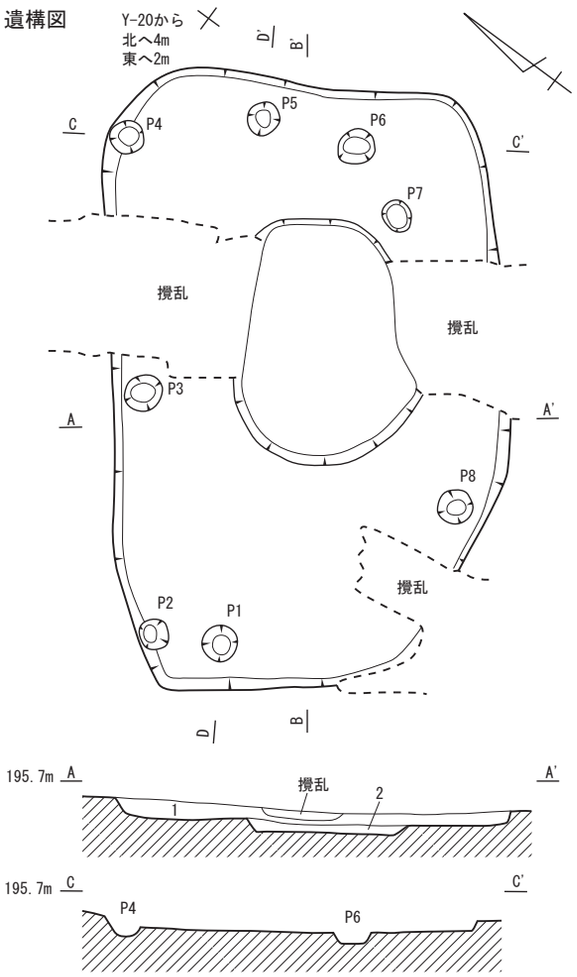
当該住居跡から出土した遺物の点数は土器２点のみで、図化に耐えうる遺物は無かった。

15号住居跡（旧ＳＢ06　第34図　写真図版22・51）

当該住居跡はＹ－19・20グリッド付近にて検出した。中央尾根に位置している。住居跡の平面形は歪な隅丸長方形を呈する。遺構の計測値は長さ4.14m、幅2.72m、残存する壁の高さは最高0.16mを測る。住居跡は中央部を横一文字に重機による撹乱を受けている。住居内には柱穴が８基確認されている。Ｐ２・３・４は住居南西隅部・西辺中央部・北西隅部とそれぞれ壁際で等間隔に配置されているが、他の柱穴も壁際と近い位置にあるものの規則性は見出し難い。住居跡中央部には撹乱を受けているものの住居内土坑が確認されている。長さ1.63m、残存幅1.28m、深さは0.08mを測る。平面形は本来、楕円形であったと考えられる。平坦な底面を持つ。被熱による赤色化等は確認できないものの、覆土中に微量の炭化物粒が混じるため、炉跡の可能性もある。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器４点、石器18点、礫８点を数える。そのうち石器２点を図化した。146・147は磨・敲石である。両者とも扁平な円盤状の礫を利用している。146の敲打痕は磨痕と重複しない。147は側縁以外に平坦部の磨痕と敲打痕が重複する。２点とも石材は輝石安山岩である。

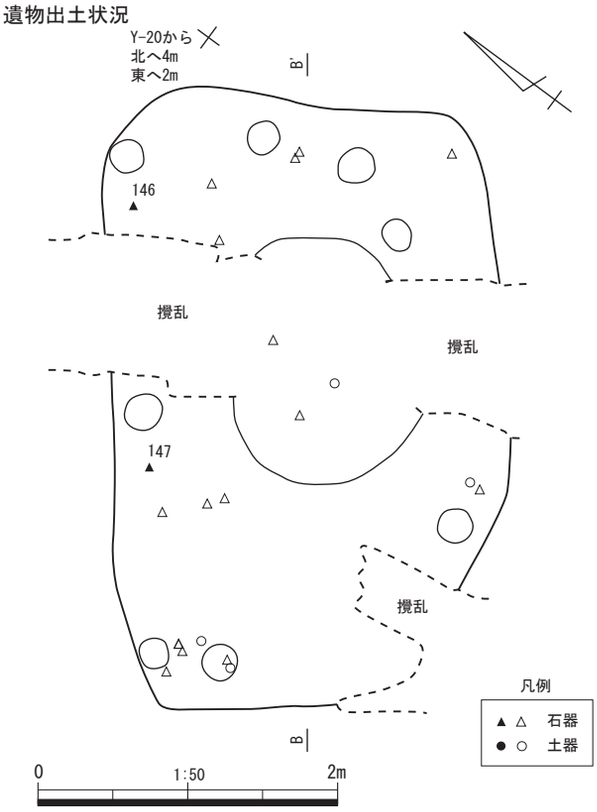
遺構図



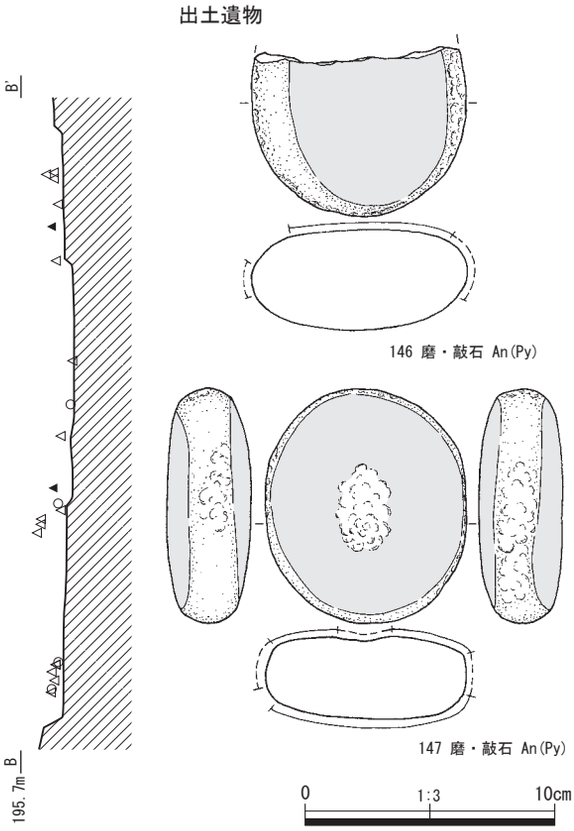
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り弱い
FB相当土主体。少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
少量の径5～30mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り有り
径5～20mm程度のYL相当土粒・塊、微量の径1mm未満の炭化物粒が混じる。

遺物出土状況

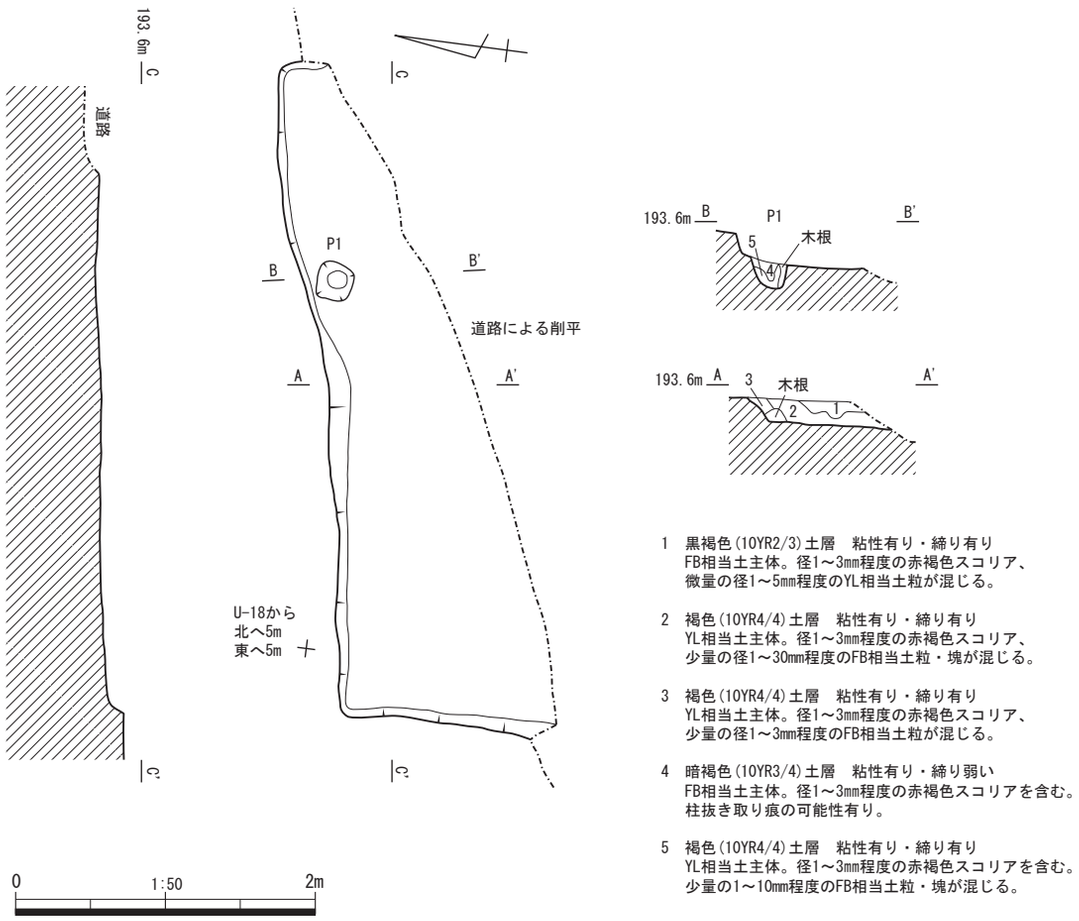


出土遺物



第34図　15号住居跡と出土遺物

遺構図



第35図　16号住居跡

縄文時代早期代の竪穴住居跡

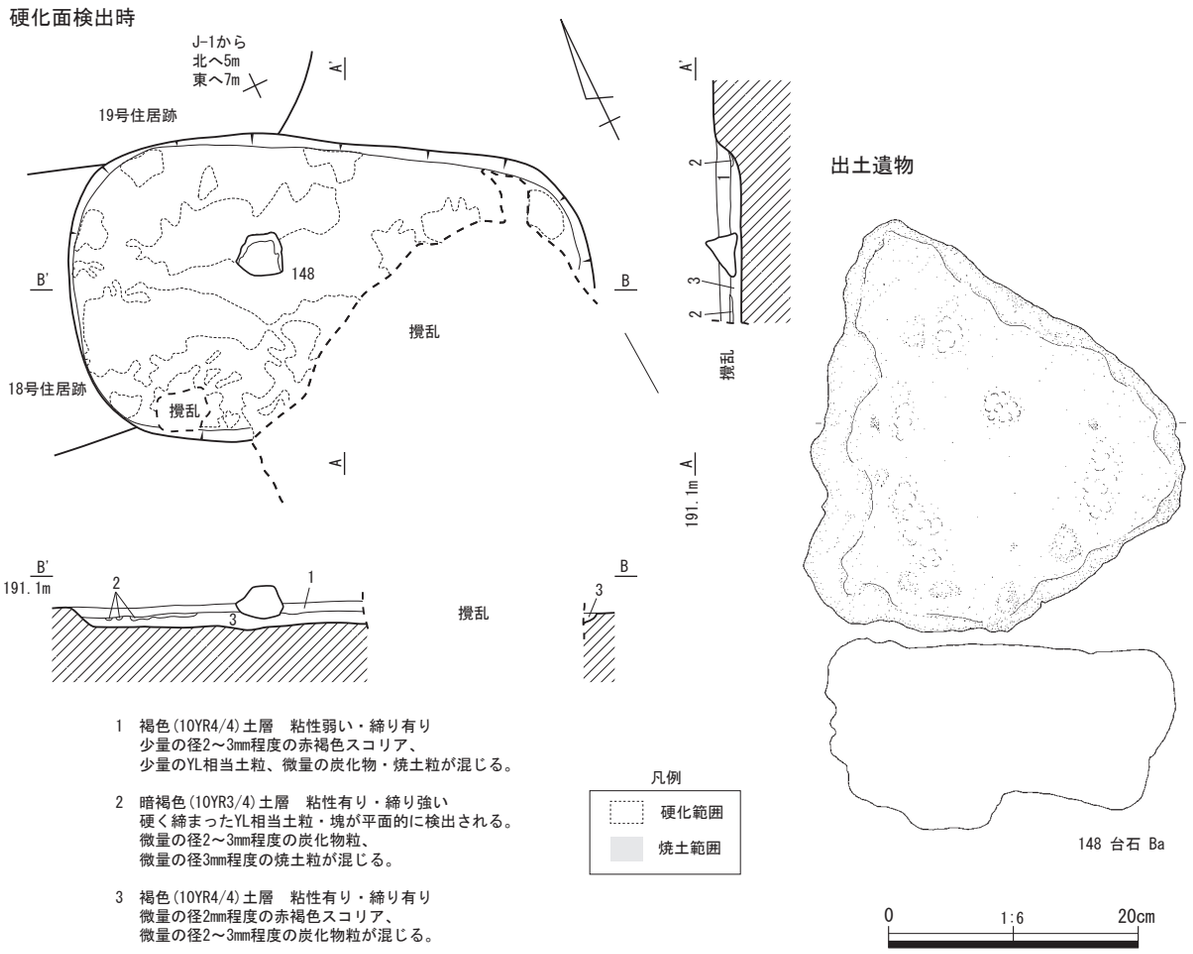
16号住居跡（旧ＳＢ26　第35図）

当該住居跡はＵ－18グリッド付近にて検出した。中央尾根（南）に位置し、中央尾根で確認された竪穴住居跡では南西端に位置する。1980年の長泉町教育委員会による発掘調査の調査区に接し、遺構の大部分は判然としない。残存状況から住居跡の平面形は方形、もしくは長方形と考えられる。遺構の計測値は長さ4.52m、残存幅1.86m、残存する壁の高さは最高0.15mを測る。住居内に柱穴が１基確認されている。炉跡・貼床は確認されていない。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器１点、礫１点のみで、図化に耐え得る資料は無かった。

17号住居跡（旧ＳＢ02　第36図　写真図版23・51）

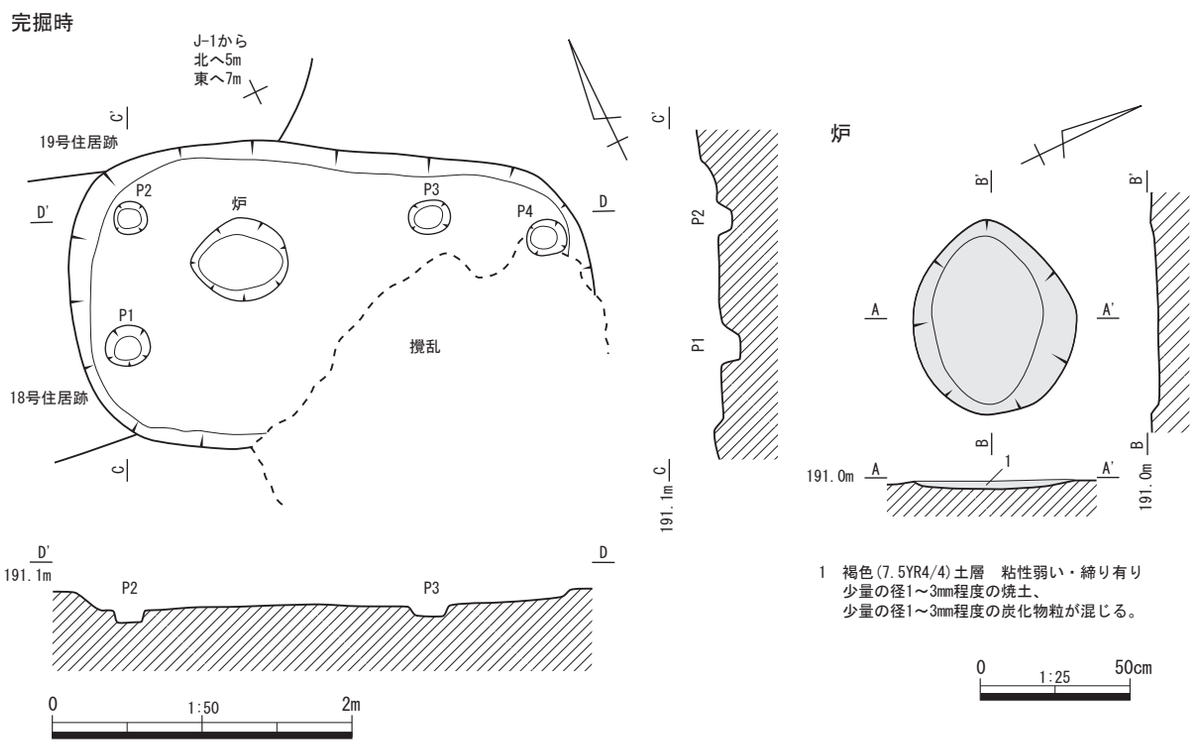
当該住居跡はＪ－１グリッド付近にて検出した。西尾根（北）に位置し、18号住居跡・19号住居跡と重複する。住居跡の平面形は隅丸長方形を呈するが、住居南半部は大きく撹乱を受けている。遺構の計測値は残存長3.50m、残存幅2.05m、残存する壁の高さは最高0.16mを測る。住居内に柱穴が４基確認されている。４基とも壁際に配置され、Ｐ１・２は住居西辺際に対の関係である。覆土第１層を除去したところ、硬化面（第２層）が広がることが判明した。この層と第３層を除去し、住居の掘り方底面を検出している。従って硬化面を住居機能時の生活面とするならば、第３層は住居貼床であった可能性が想起される。住居跡中央部より西寄りの位置には炉跡が確認されているが、これは第３層除去後に確認



1　褐色(10YR4/4)土層　粘性弱い・締り有り
　少量の径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
　少量のYL相当土粒、微量の炭化物・焼土粒が混じる。

2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り強い
　硬く締まったYL相当土粒・塊が平面的に検出される。
　微量の径2～3mm程度の炭化物粒、
　微量の径3mm程度の焼土粒が混じる。

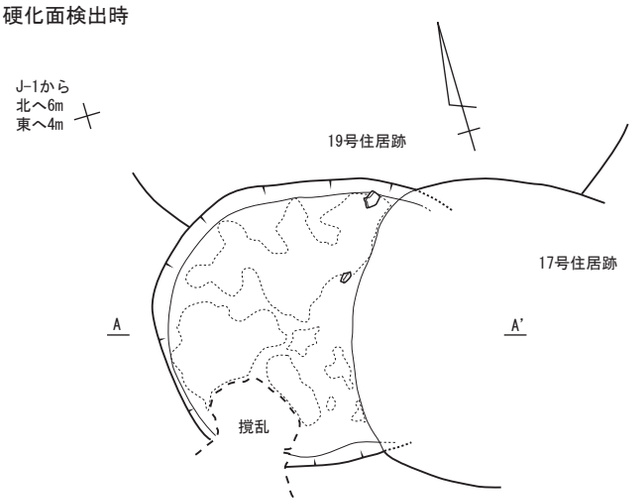
3　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り有り
　微量の径2mm程度の赤褐色スコリア、
　微量の径2～3mm程度の炭化物粒が混じる。

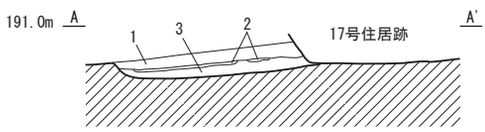


1　褐色(7.5YR4/4)土層　粘性弱い・締り有り
　少量の径1～3mm程度の焼土、
　少量の径1～3mm程度の炭化物粒が混じる。

第36図　17号住居跡と出土遺物

硬化面検出時



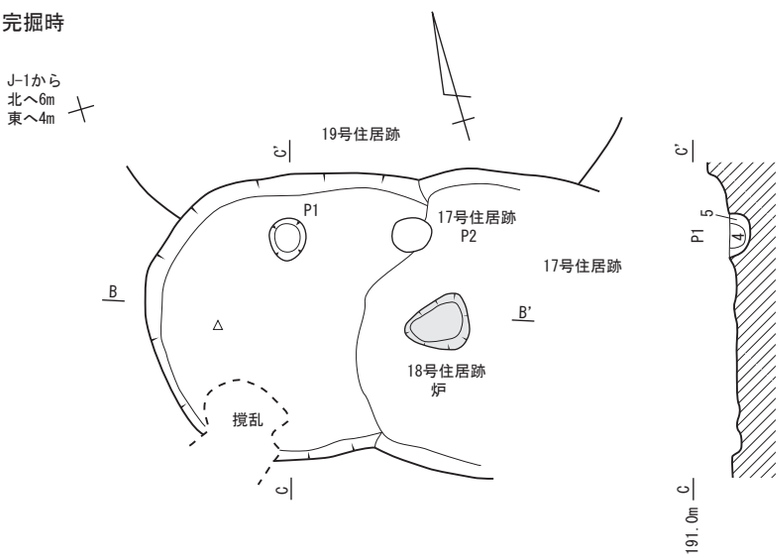


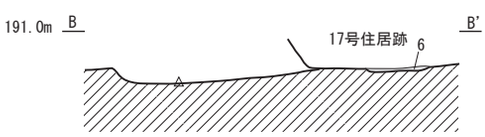
1　褐色(10YR4/4)土層　粘性弱い・締り有り
少量の径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
少量のYL相当土粒,微量の炭化物粒が混じる。

2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
硬く締まったYL相当土粒・塊が平面的に
検出される。

3　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り有り
少量のYL相当土粒・炭化物が混じる。

完掘時

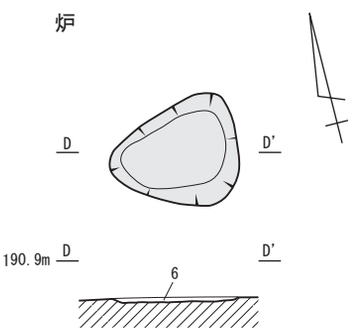




18号住居 P1

4　明褐色(7.5YR5/6)土層　粘性有り・締り有り
極少量の径1mm程度の赤褐色スコリアを含む。

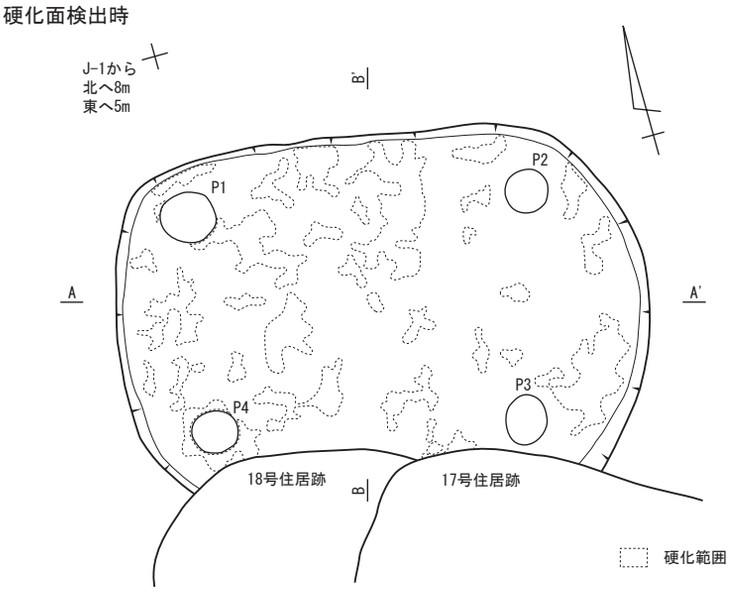
5　褐色(10YR4/4)土層　粘性弱い・締り有り
極少量の径1mm程度の赤褐色スコリアを含む。

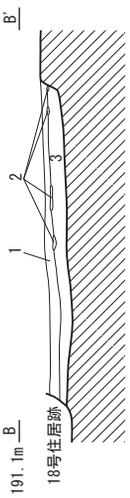


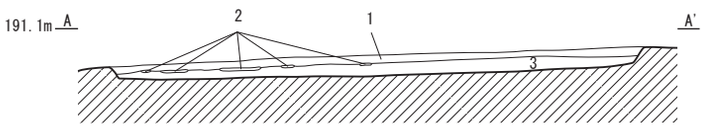
6　褐色(7.5YR4/4)土層　粘性弱い・締り有り
炉の焼成層。微量の径2～4mm程度の焼土粒、
径2mm程度の炭化物粒が混じる。

第37図　18号住居跡

硬化面検出時





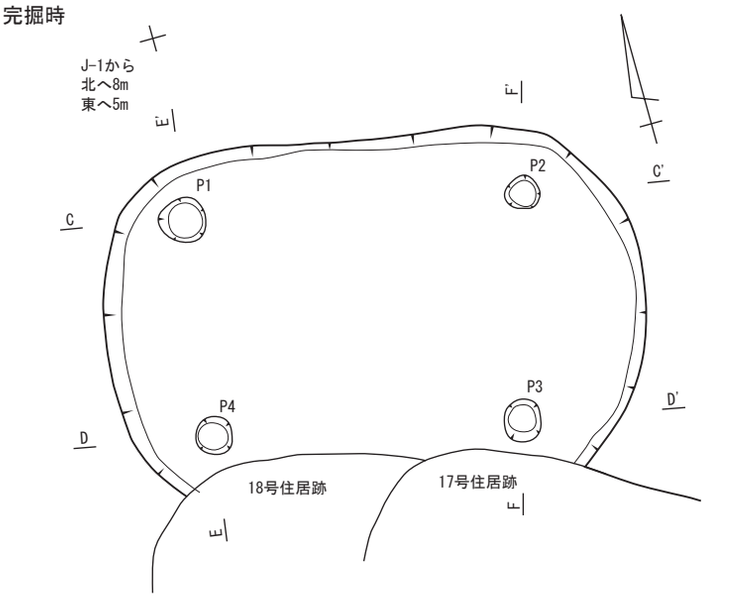


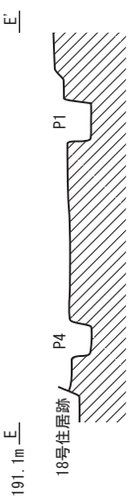
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
　少量の径2～3㎜程度の赤褐色スコリア、
　微量の青灰色スコリア、少量の焼土粒・
　炭化物が混じる。

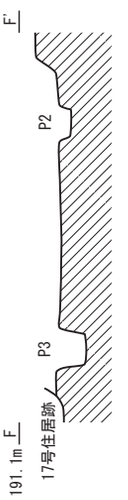
2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
　硬く締まったYL相当土粒・塊が平面的に検出
　される。

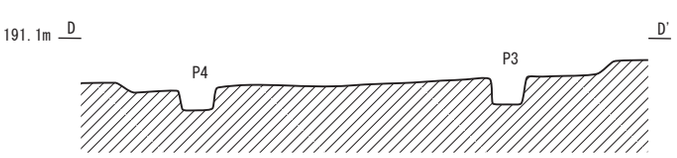
3　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り有り
　少量の径2～3㎜程度の赤褐色スコリアを含む。

完掘時









第38図　19号住居跡

されたものである。第３層上の硬化域と重なり、また土層堆積状況でも第３層上面までつながる炉の遺構線が観察できなかったため、当該住居の最終段階において、この炉は機能していなかった可能性もあることを指摘しておく。覆土第１層上位には礫が集中しており、住居埋没過程の中で礫の投棄がなされていたものと考えられる。なおこの住居跡は18号住居跡及び19号住居跡と重複関係にあるが、その検出状況から19号住居跡→18号住居跡→17号住居跡の順に構築されたものと考えられる。

当該住居跡から出土した遺物の点数は石器１点、礫３点のみで、石器のみ図化した。148は台石である。長さ34.4㎝、幅30.1㎝、重量は19.7㎏を測る。上面は敲打痕が観察される。石材は玄武岩である。住居跡のほぼ中央部、貼床層と考えられた第３層に埋め込まれたように出土している。

なお17号住居跡の炉跡から炭化物が出土している。放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92012）したところ、8,060±30yrBP、すなわち縄文時代早期代の^{14}Ｃ年代が測定されている。

18号住居跡（旧ＳＢ03　第37図　写真図版24）

当該住居跡はＪ－１グリッドにて検出した。西尾根（北）に位置している。住居跡の平面形は上記の17号住居跡により破壊されているため判然としないが、その検出状況から楕円形であった可能性がある。当該住居跡が重複する17号住居跡と同じ主軸方向であったと仮定すれば、遺構の計測値は残存長1.83m、幅1.89m、残存する壁の高さは最高0.17ｍを測る。柱穴は１基のみ確認された。この住居跡に属するとも考えられる炉跡は重複した17号住居跡調査時に確認されている。この18号住居跡は調査時に第１層を除去したところ、17号住居跡と同様、硬化面（第２層）が広がることが判明した。この層と第３層を除去したところ、住居跡の掘り方底面が検出された。従って硬化面を住居機能時の生活面とするならば、第３層は住居貼床であった可能性が想起される。なおこの住居跡は17号住居跡及び19号住居跡と重複関係にある。その検出状況から19号住居跡→18号住居跡→17号住居跡の順に構築されたものと考えられる。

当該住居跡から出土した遺物の点数は石器１点、礫２点のみで、図化に耐え得る資料は無かった。

19号住居跡（旧ＳＢ04　第38図　写真図版24）

当該住居跡はＪ－１グリッド付近にて検出した。西尾根（北）に位置し、17号住居跡・18号住居跡と重複している。住居跡の平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の計測値は長さ3.55m、残存する壁の高さは最高0.13ｍを測る。この住居跡は南辺を17号住居跡及び18号住居跡により破壊されている。残存幅は2.41ｍである。住居跡からは柱穴が４基確認された。４基とも住居跡の隅部付近に配置されている。炉跡は確認されていない。覆土第１層を除去したところ、17号住居跡・18号住居跡と同様、硬化面（第２層）が広がることが判明した。この層と第３層を除去し、住居跡の掘り方底面が検出されている。従って硬化面を住居機能時の生活面とするならば、第３層は住居貼床であった可能性が想起される。なおこの住居跡は17号住居跡及び18号住居跡と重複関係にある。前述したように、その検出状況から19号住居跡→18号住居跡→17号住居跡の順に構築されたものと考えられる。

当該住居跡から出土した遺物の点数は礫３点のみである。図化に耐え得る資料は無かった。

縄文時代前期の竪穴住居跡

20号住居跡（旧ＳＢ01　第39・40図　写真図版25・52）

当該住居跡はＡＡ－21グリッドにて検出した。中央尾根（北）に位置し、住居跡の標高値は約195.7ｍを測り、検出された住居跡群では最も高い位置にある。住居跡の平面形はＴＰ09で破壊されており判然としないが、その残存状況は歪な隅丸方形か定まらぬ多角形のようでもある。遺構の計測値は長さ3.15ｍ、残存幅2.09m、残存する壁の高さは最高0.21ｍを測る。住居内から柱穴が３基確認された。３基と

も住居壁際、もしくは壁中に配置されている。炉跡や貼床は確認されていない。

当該住居跡から出土した遺物は土器65点、石器32点、礫31点を数える。そのうち土器６点、石器６点を図化した。149～153は縄文土器である。無文土器と考えられる153を除き、全て第Ⅳ群１類に分類した木島式土器か。149ａは口縁部である。口唇部は平坦に仕上げられ、刺突文が観察される。他の資料にも刺突文が観察されるが、150には横位に施された刺突文の下位に細線文がわずかに観察される。無文土器である153は胴部を直線的に立ち上げ、口唇部は丸く仕上げている。

154～159は石器である。154・155は石鏃である。両者とも凹基で諏訪星ヶ台群の黒曜石である。156は石錐である。両面から調整を加えて錐部を仕上げている。157は石核である。156・157両者とも神津島恩馳島群の黒曜石である。158は磨・敲石である。扁平で長楕円形の礫を利用したものである。長軸端部等に敲打痕、平坦面や側縁に磨痕が観察される。石材は多孔質安山岩である。159は石皿である。磨痕が上面に観察される。輝石安山岩である。

21号住居跡（旧ＳＢ18　第41・42図　写真図版26・52・53）

当該住居跡はＺ－21・22グリッド付近にて検出した。中央尾根（北）に位置し、５号住居跡と重複する。住居跡の平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の計測値は長さ4.18m、幅3.38m、残存する壁の高さは最高0.22mを測る。柱穴は４基確認された。対で確認されたＰ１とＰ４の柱間距離は0.88m、Ｐ３及びＰ４の柱間距離は1.83mを測り、４基を結ぶ線は台形を描く。ただしＰ１は住居北壁付近に設けられた段状施設、床面の硬化面（第６層）と重複するため、柱穴としての機能について一考を要する。硬化面は住居中央部に位置する炉跡を中心に広がり、さらにその上に炭化物を含むロームと富士黒土層の混合土（第４層）が堆積している。硬化面の下に貼床である第７層が認められる。炉跡の平面形は楕円形を呈し、遺構の計測値は長径0.74m、短径0.44m、深さ0.06mを測り、貼床である第６・７層上面で検出されている。住居跡南東部は５号住居跡と重複する。検出状況から５号住居跡の方が時期的に先行するものであろう。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器32点、石器61点、礫23点である。そのうち土器６点、石器３点を図化した。160～165は縄文土器である。160は木島式土器か。刺突文が施されている。161は清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊式土器か。波状口縁で口唇部には刺突文を施し、平坦に仕上げている。口縁部に刺突文を３条、横位に施している。162ａ・ｂは第Ⅳ群４類に分類した関山式土器か。同一個体と考えられ、注口が設えられている。縄文はＬＲＬか。163も縄文が施されたものだが型式は判然としない。黒浜Ⅰ式並行土器の可能性もある。165は清水柳Ｅ類土器か。波状口縁で絡条体圧痕文が施されている。

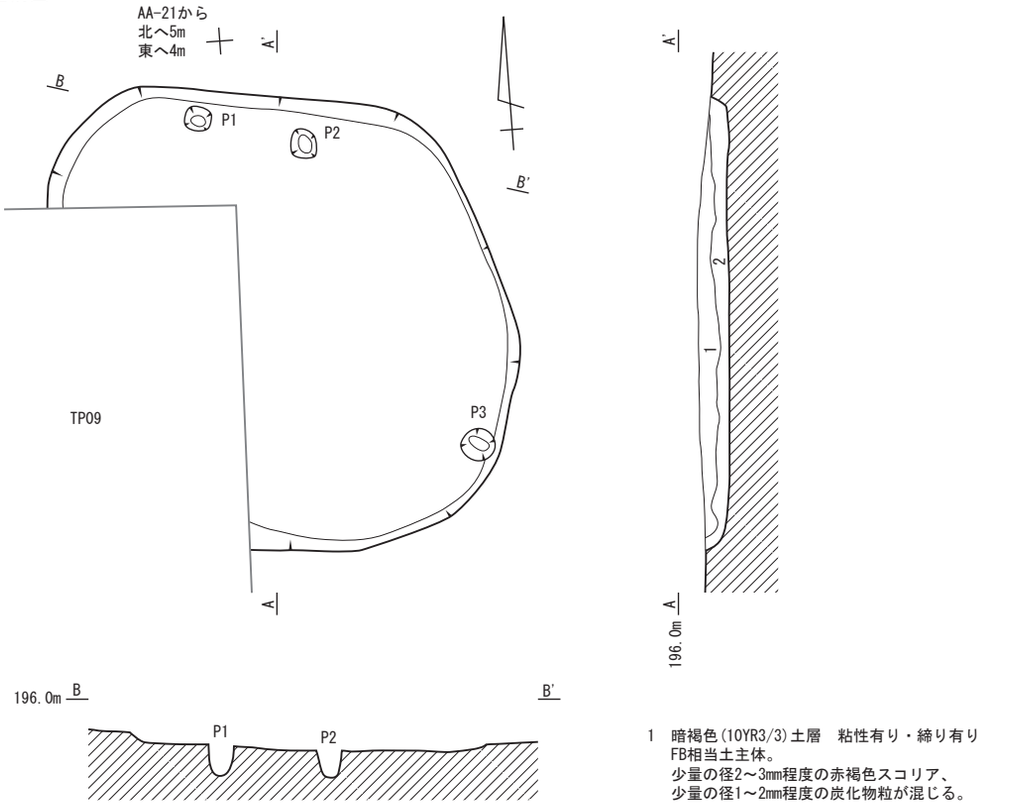
166～168は石器である。166は敲石である。円球状の礫を利用している。167・168は磨・敲石である。167は円柱状の礫を利用し、顕著な磨痕が三面観察される。断面は三角形状である。168は両側縁に磨痕・敲打痕が観察される。これらの石材は３点とも輝石安山岩である。

22号住居跡（旧ＳＢ25　第43図　写真図版27・53）

当該住居跡はＡＡ－22・23グリッド付近にて検出した。中央尾根（北）に位置し、６号炉跡と近接する。住居跡の平面形は歪な隅丸長方形である。遺構の計測値は長さ2.92m、幅1.97m、残存する壁の高さは最高0.18mを測る。住居内からは柱穴、炉跡は確認できなかった。覆土は第１層のみ確認したが、土器・礫等の出土状況から貼床であった可能性が想起される。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器18点、石器33点、礫39点を数える。そのうち土器２点、石器４点を図化した。169・170は縄文土器である。169は第Ⅳ群２類の清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊式土器に該当か。口縁部から胴部上半の資料である。刺突文列が横位に３条施されている。胴部は直線的に立

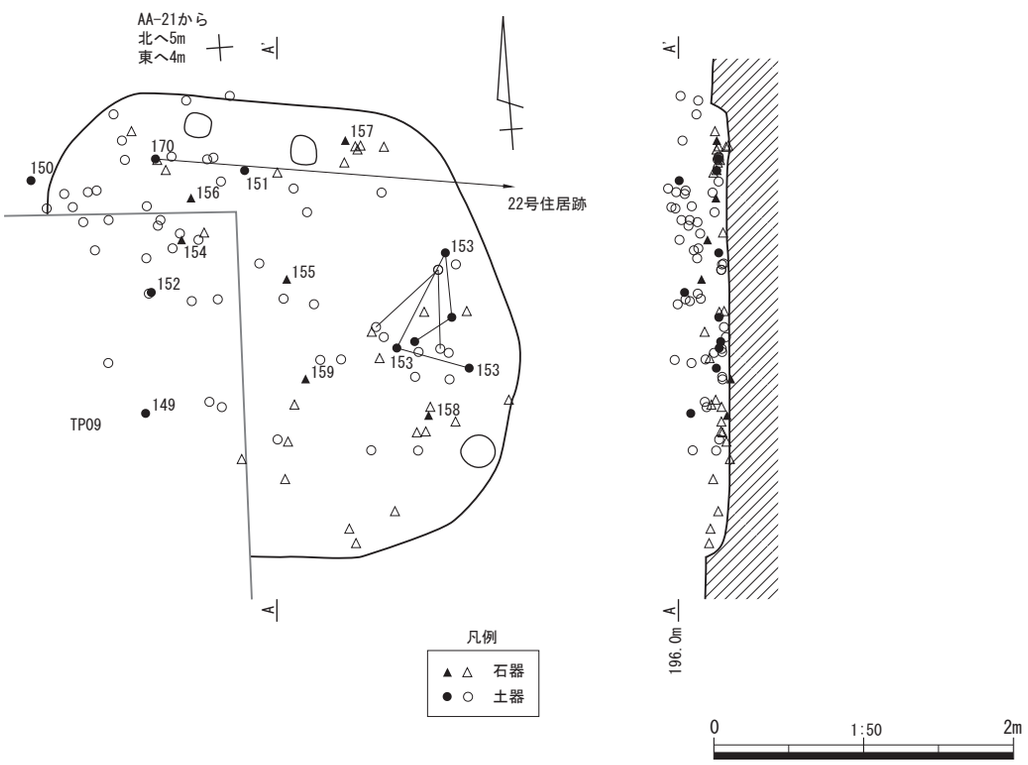
遺構図



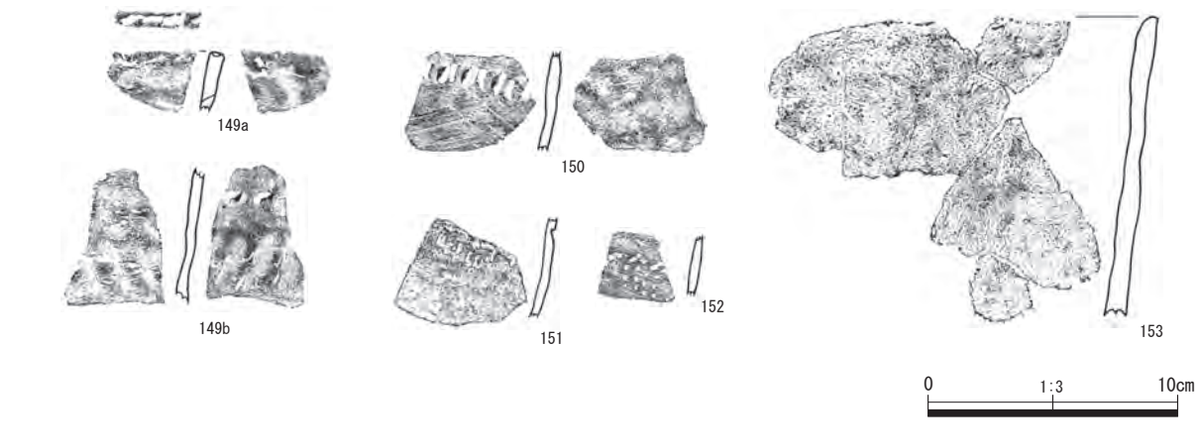
1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
FB相当土主体。
少量の径2～3㎜程度の赤褐色スコリア、
少量の径1～2㎜程度の炭化物粒が混じる。

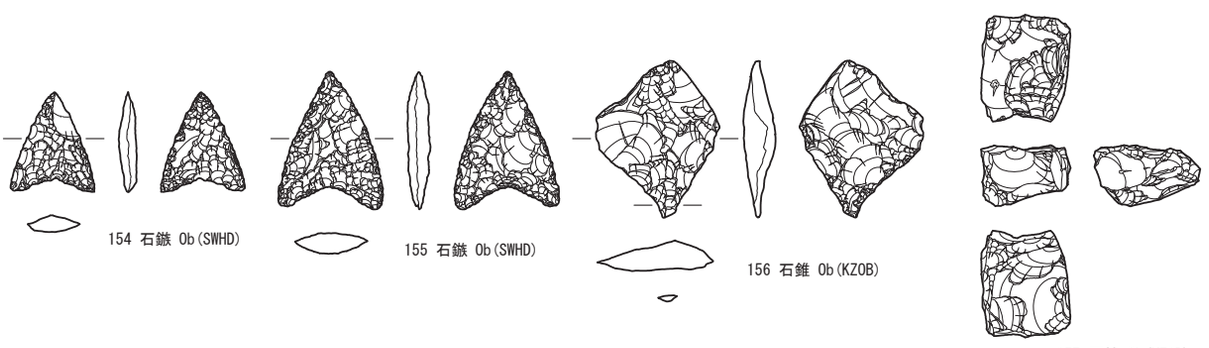
2　黄褐色(10YR5/6)土層　粘性有り・締り強い
少量の径2㎜程度の焼土粒、径30㎜程度の
YL相当土塊が混じる。

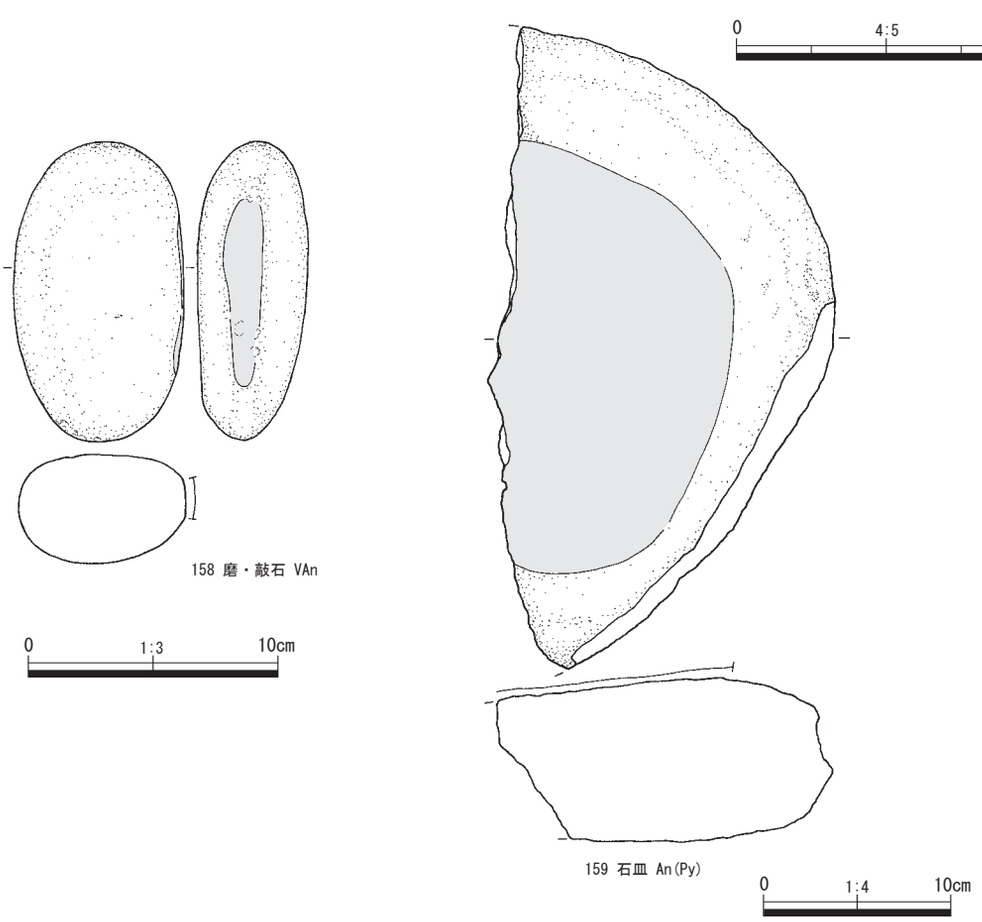
遺物出土状況



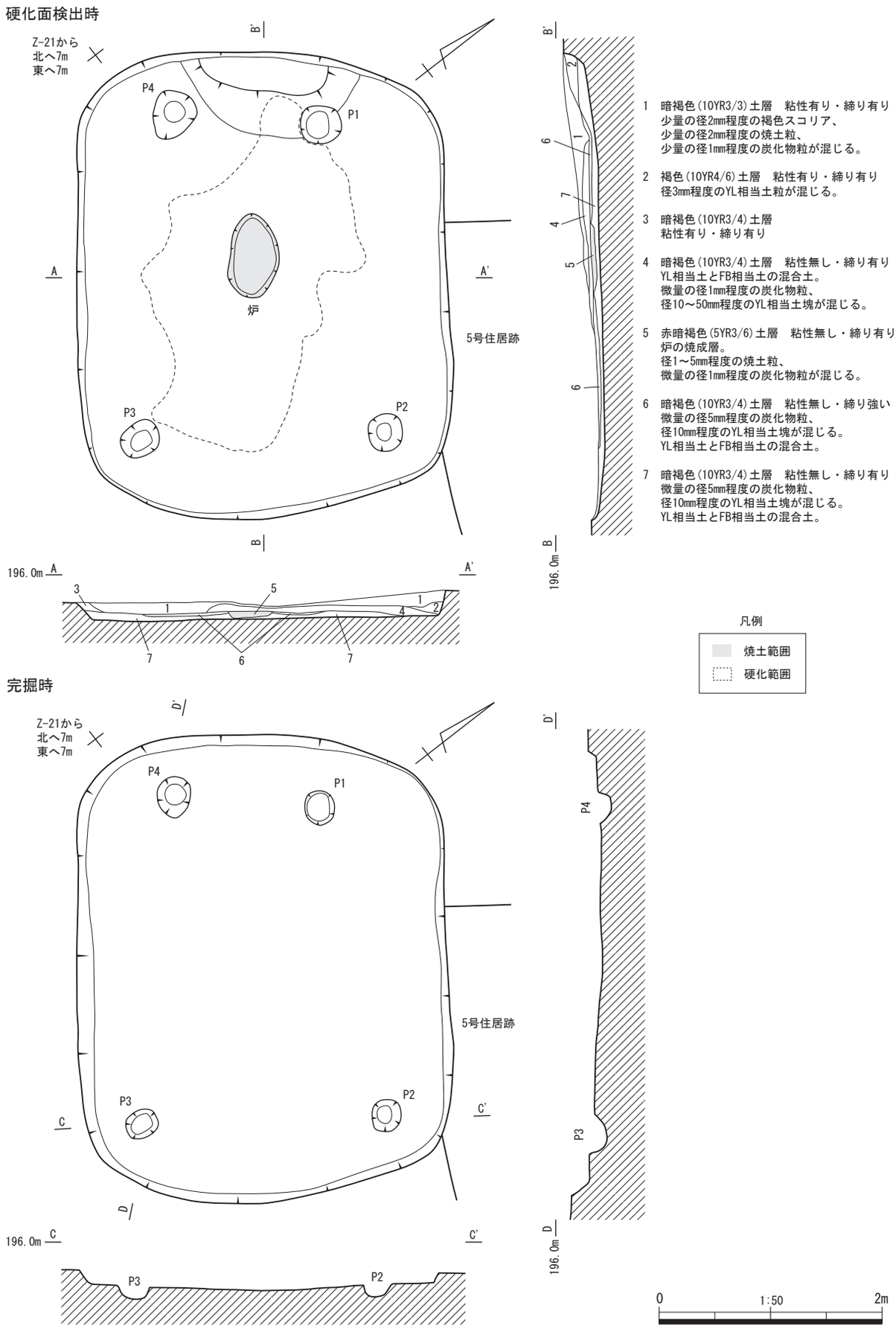
第39図　20号住居跡





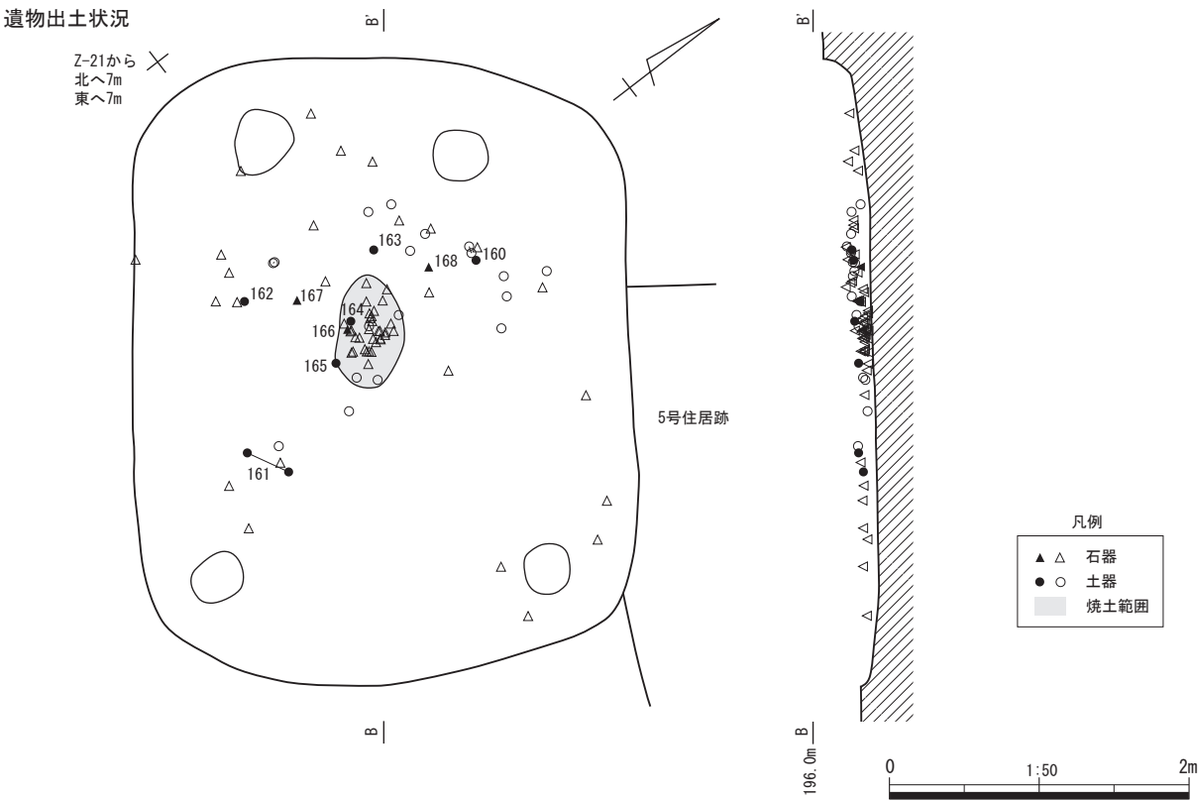


第40図　20号住居跡出土遺物

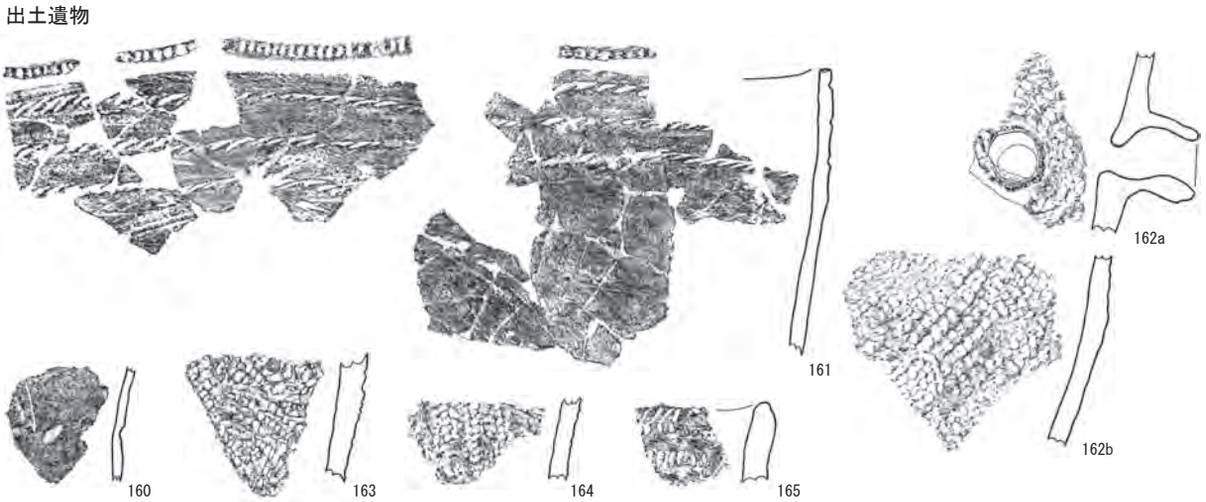

硬化面検出時
Z-21から
北へ7m
東へ7m
P4
P1
P3
P2
炉
5号住居跡
A
A'
B
B'
196.0m
1 暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
少量の径2mm程度の褐色スコリア、
少量の径2mm程度の焼土粒、
少量の径1mm程度の炭化物粒が混じる。
2 褐色(10YR4/6)土層　粘性有り・締り有り
径3mm程度のYL相当土粒が混じる。
3 暗褐色(10YR3/4)土層
粘性有り・締り有り
4 暗褐色(10YR3/4)土層　粘性無し・締り有り
YL相当土とFB相当土の混合土。
微量の径1mm程度の炭化物粒、
径10～50mm程度のYL相当土塊が混じる。
5 赤暗褐色(5YR3/6)土層　粘性無し・締り有り
炉の焼成層。
径1～5mm程度の焼土粒、
微量の径1mm程度の炭化物粒が混じる。
6 暗褐色(10YR3/4)土層　粘性無し・締り強い
微量の径5mm程度の炭化物粒、
径10mm程度のYL相当土塊が混じる。
YL相当土とFB相当土の混合土。
7 暗褐色(10YR3/4)土層　粘性無し・締り有り
微量の径5mm程度の炭化物粒、
径10mm程度のYL相当土塊が混じる。
YL相当土とFB相当土の混合土。
凡例
焼土範囲
硬化範囲
完掘時
Z-21から
北へ7m
東へ7m
P4
P1
P3
P2
5号住居跡
C
C'
D
D'
196.0m
0
1:50
2m

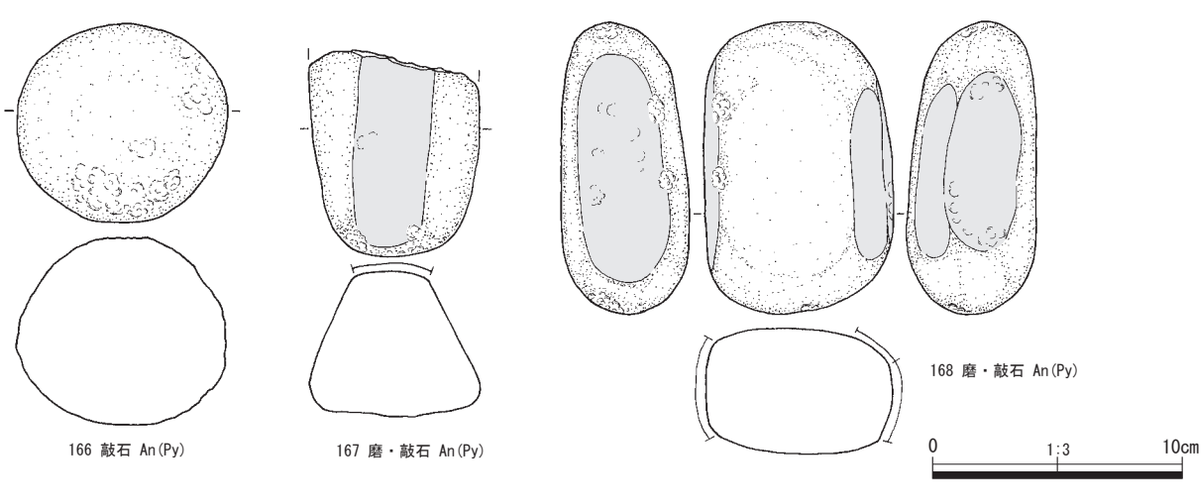
第41図　21号住居跡

遺物出土状況



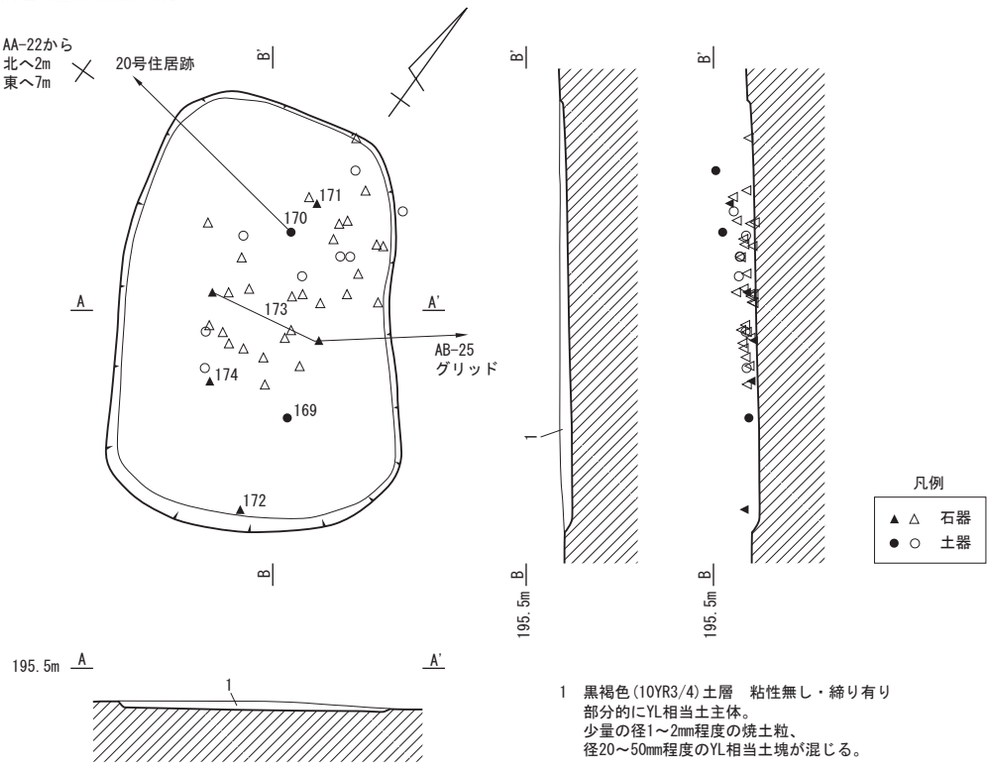
出土遺物



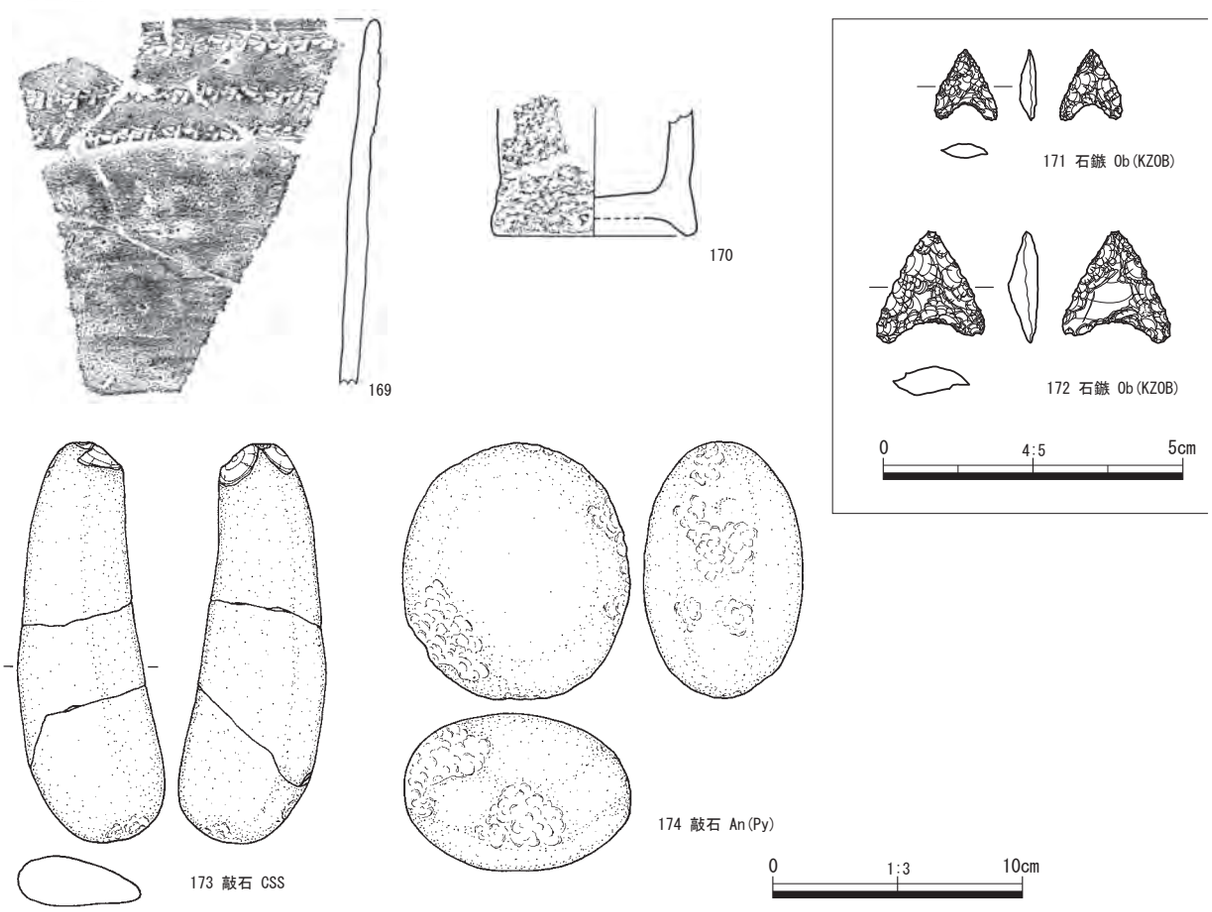


第42図　21号住居跡遺物出土状況と出土遺物

遺構図(遺物出土状況)

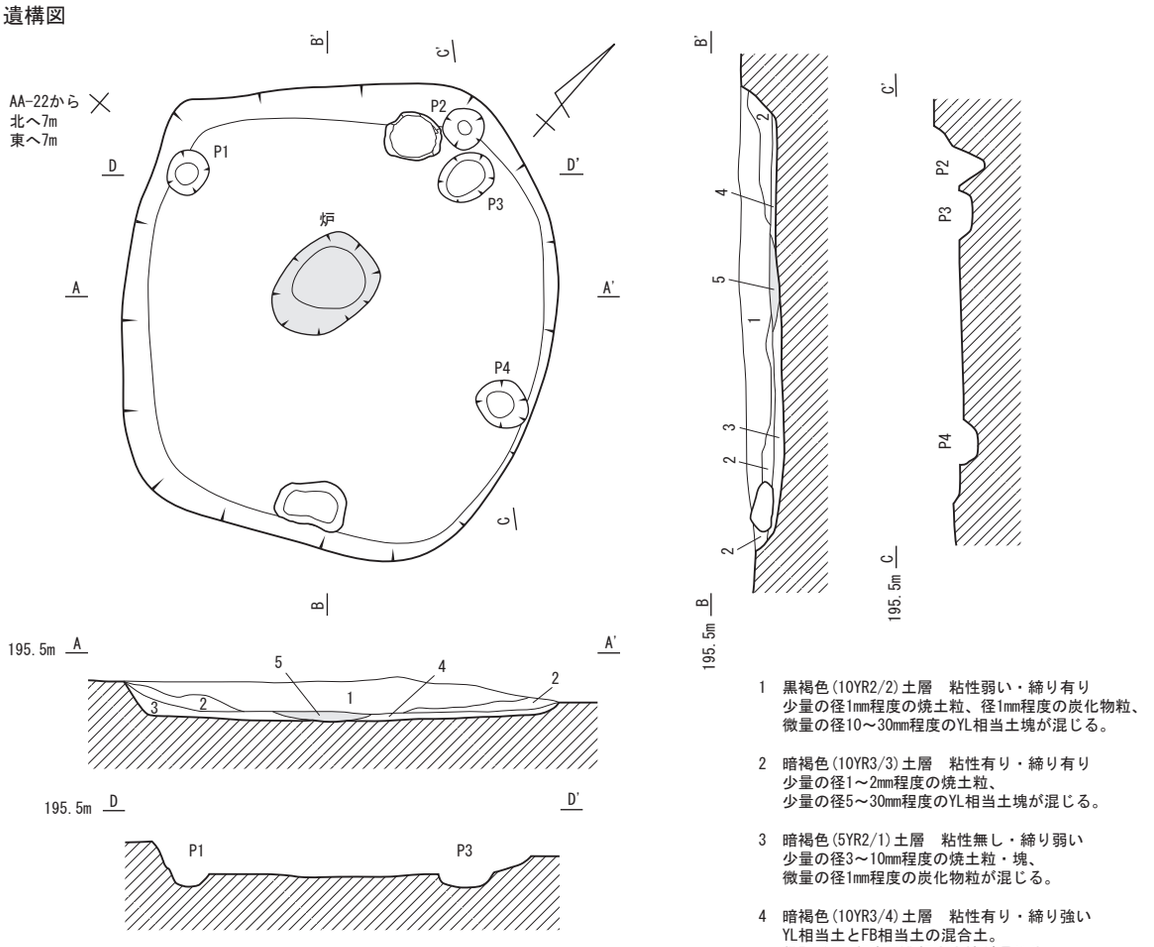


出土遺物



第43図　22号住居跡と出土遺物

遺構図



1　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性弱い・締り有り
　少量の径1mm程度の焼土粒、径1mm程度の炭化物粒、
　微量の径10～30mm程度のYL相当土塊が混じる。

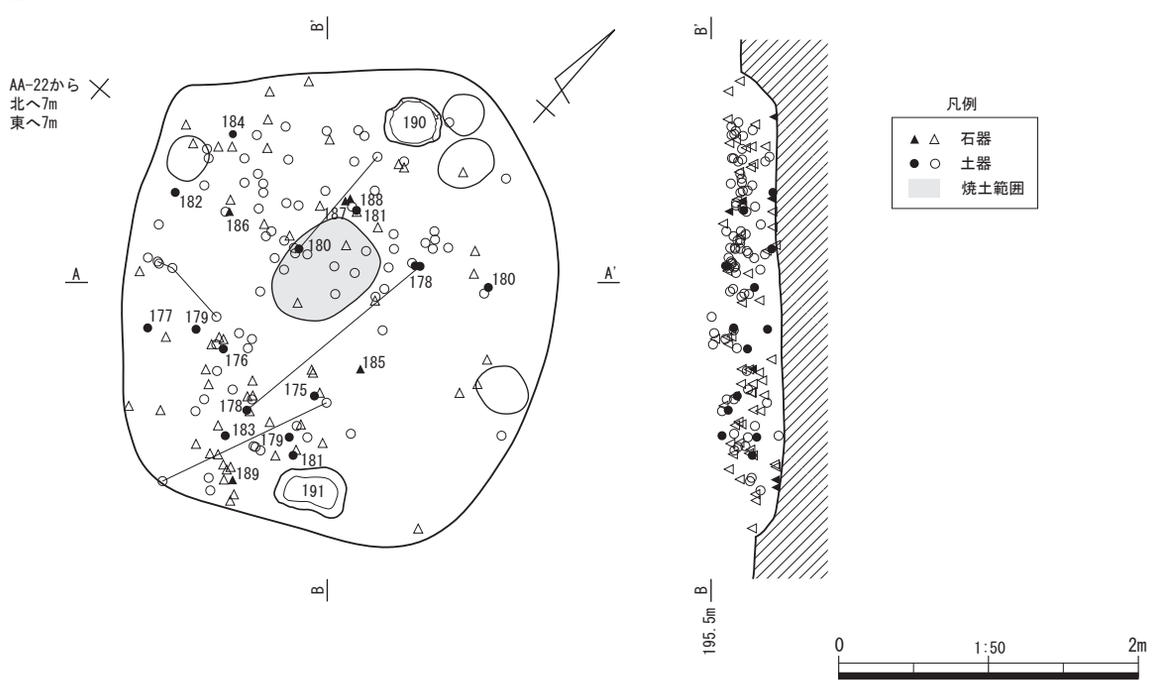
2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
　少量の径1～2mm程度の焼土粒、
　少量の径5～30mm程度のYL相当土塊が混じる。

3　暗褐色(5YR2/1)土層　粘性無し・締り弱い
　少量の径3～10mm程度の焼土粒・塊、
　微量の径1mm程度の炭化物粒が混じる。

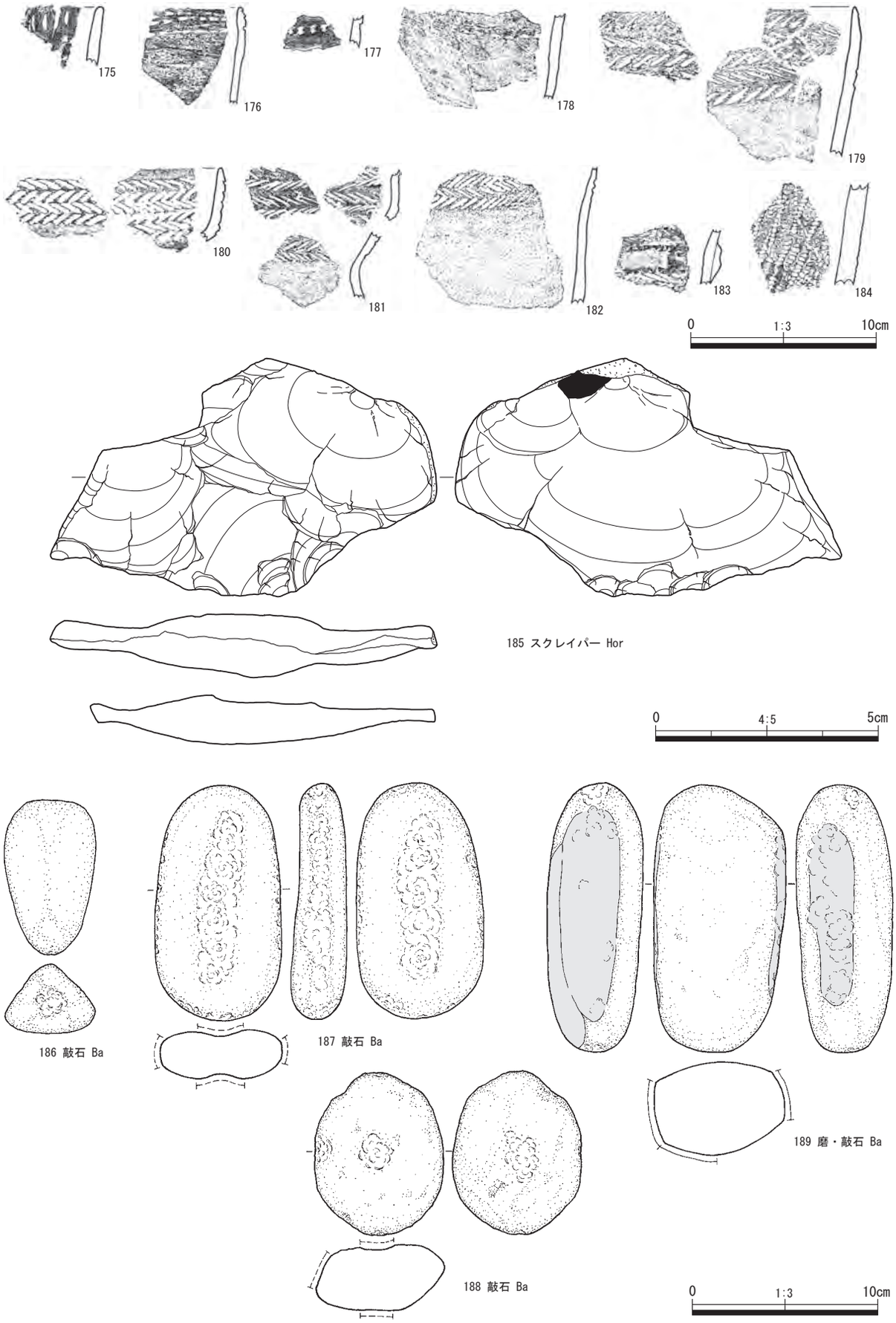
4　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り強い
　YL相当土とFB相当土の混合土。
　径5～30mm程度のYL相当土塊が混じる。

5　暗褐色(5YR2/1)土層　粘性無し・締り弱い
　少量の径3～10mm程度の焼土粒・塊、
　微量の径0.5mm～1mm程度の炭化物粒が混じる。
　炉床はよく焼けている。

遺物出土状況



第44図　23号住居跡



第45図　23号住居跡出土遺物１

第46図　23号住居跡出土遺物２

ち上がる。170は底部のみの資料で上げ底状である。関山式並行土器か。

171～174は石器である。171・172は石鏃である。両者とも凹基で神津島恩馳島群の黒曜石である。173・174は敲石である。扁平で細長い礫を利用し、長軸両端部に敲打痕が観察される。174はやや扁平・楕円形の礫を利用したもので、側縁を中心に敲打痕が観察される。石材は粗粒砂岩・輝石安山岩を使用している。

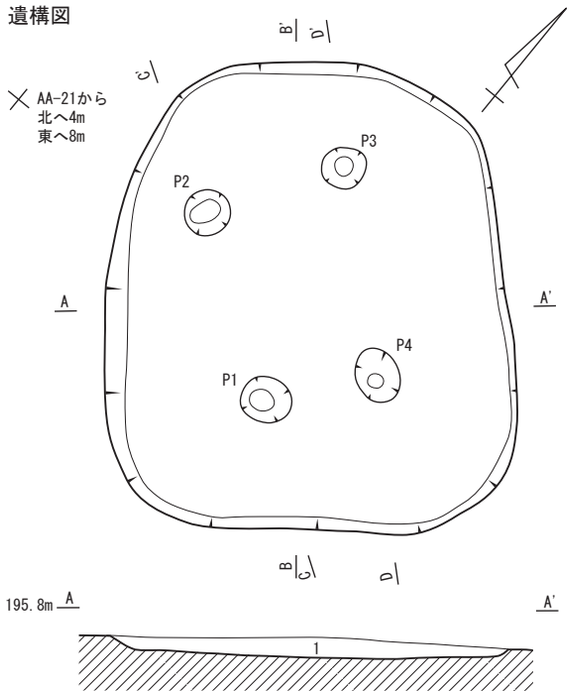
23号住居跡（旧ＳＢ21　第44～46図　写真図版28・53・54）

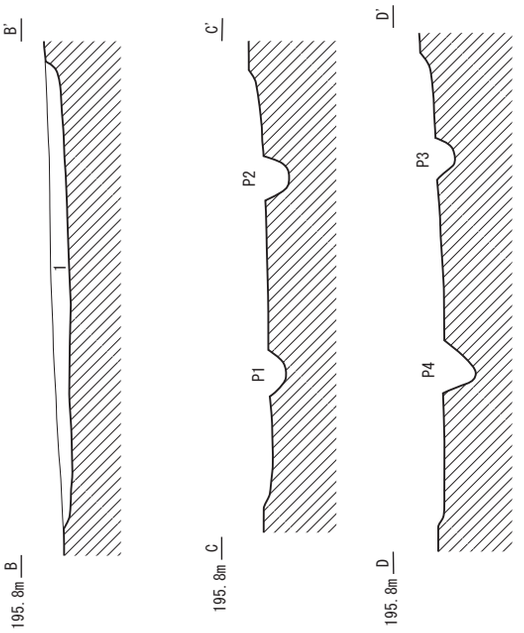
当該住居跡はＡＡ－22・23グリッド付近にて検出した。中央尾根に位置する住居跡群の中で北端に位置する。住居跡の平面形は方形に近いが、東辺が大きく膨らむため多角形状にも見える。遺構の計測値は長さ3.17m、幅2.91m、残存する壁の高さは0.27mを測る。住居内から柱穴は４基確認した。いずれも壁際、壁中に設けられている。住居跡の中央部に炉跡が１基検出された。炉跡の平面形は楕円形を呈する。遺構の計測値は長径0.75m、短径0.55m、深さは0.08mを測る。この炉跡が覆土第３層上面で検出されたことにより、第３・４層は貼床と理解される。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器96点、石器65点、礫71点を数える。そのうち土器10点、石器７点を図化した。175～184は縄文土器である。型式名が判然としない184を除き、清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊式土器か。このうち文様が横位の刺突文で構成されるのが175～178である。これらのうち176には炭化物が付着しており、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92024）した。その結果、5,850±30yrBP、すなわち縄文時代前期前葉の^{14}Ｃ年代が測定されている。179～182は刺突文を矢羽状に傾けて施す文様構成が観察される。183には横位に細隆起線文、浮線文か。

185～191は石器である。185はスクレイパーか。ホルンフェルスの剝片を利用したもので、上端部には礫面を残す。186～189は敲石、磨・敲石である。敲石である186は三角柱状の礫を利用している。長軸下端部に敲打痕が観察される。187・188は扁平で楕円形の礫を利用している。187は両平坦面・側面に、

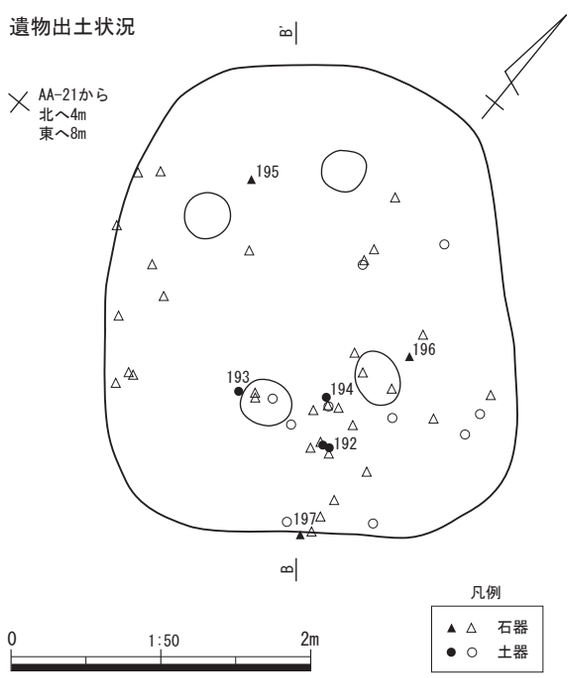
遺構図

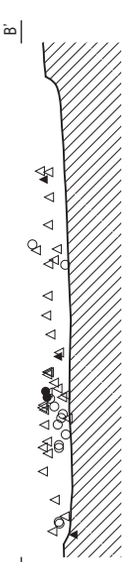


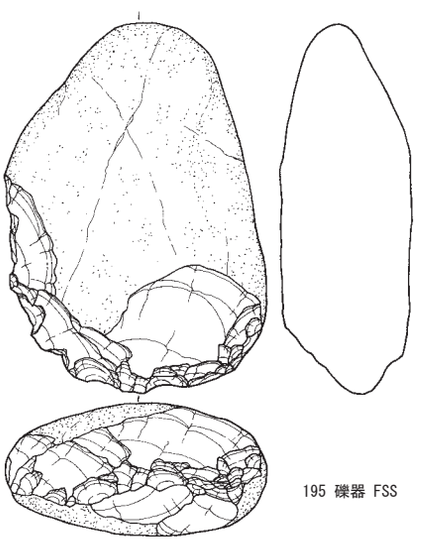


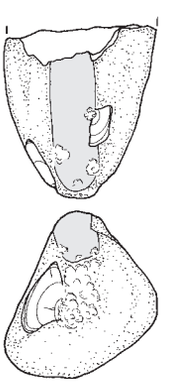
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り強い
少量の径1mm程度の焼土粒、径10～30mm程度のYL相当土塊、
微量の径3mm程度の炭化物粒が混じる。

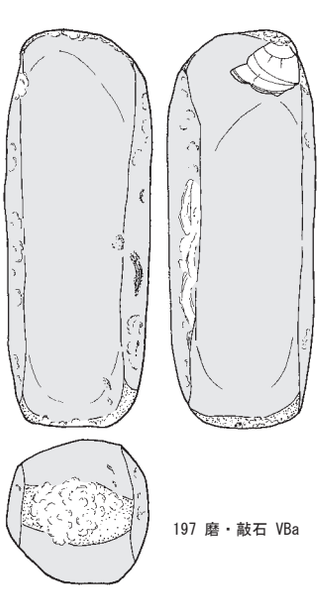
遺物出土状況



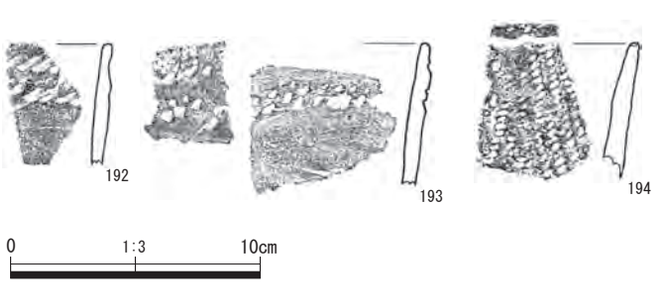








出土遺物



第47図　24号住居跡と出土遺物

188は平坦部に敲打痕が観察される。磨・敲石である189はやや扁平な円柱状の礫を利用している。以上４点の石材は玄武岩である。190・191は石皿である。２点とも輝石安山岩で、よく使い込まれた面が観察される。

24号住居跡（旧ＳＢ24　第47図　写真図版26・54）

当該住居跡はＡＡ－21・22グリッド付近にて検出した。中央尾根（北）に位置し、前期代の住居跡である20号住居跡・23号住居跡、25号住居跡が付近に展開する。住居跡の平面形は隅丸方形であるが、北辺と南辺の長さがやや異なるため、台形様な外観を呈する。遺構の計測値は長さ3.15m、幅2.75m、残存する壁の高さは最高0.13mを測る。住居内から柱穴が４基確認されている。いずれも壁際ではなく、住居跡中心部寄りに配置されている。住居内には炉跡は確認されていない。調査時の見解から覆土第１層は貼床であった可能性がある。

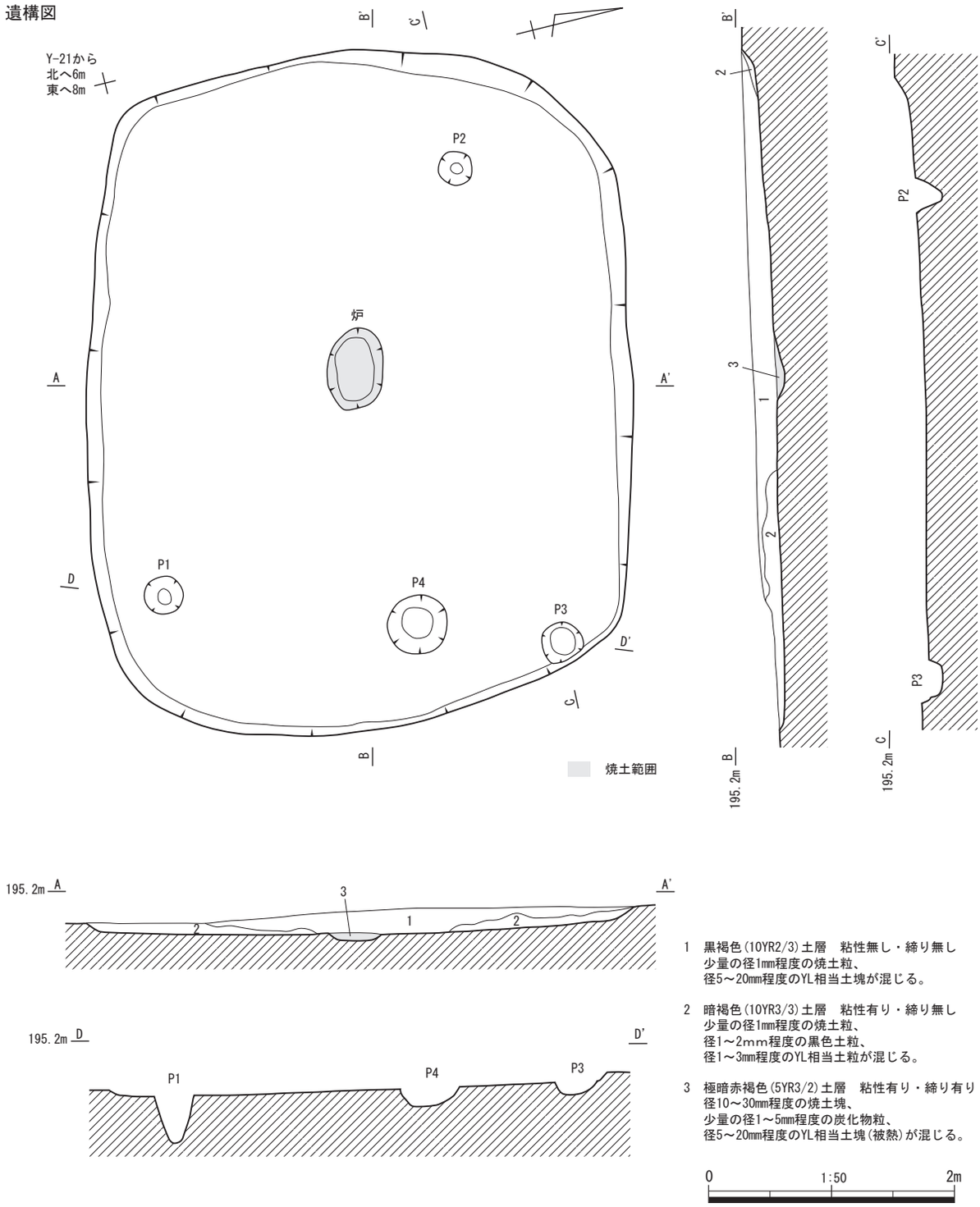
当該住居跡から出土した遺物の点数は土器18点、石器35点、礫16点を数える。そのうち土器３点、石器３点を図化した。192～194は縄文土器である。192・193は清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊式土器か。口縁部に刺突文が施されている。194は第Ⅵ群に分類した。195～197は石器である。195は礫器である。扁平な細粒砂岩礫を利用している。刃部は両面から剝離調整を行い、両刃に仕上げている。石材は細粒砂岩である。196・197は磨・敲石である。196は欠損品であるが、本来は三角柱状の礫か。磨痕は明瞭で三面観察できる。長軸下端部に敲打痕が認められる。197は長めの円柱状の礫を利用している。磨痕は明瞭に各面に観察できる。敲打痕は長軸端部にも観察される。石材は玄武岩・多孔質玄武岩である。

25号住居跡（旧ＳＢ22　第48～51図　写真図版29・55・56）

当該住居跡はＹ－21・22グリッド付近にて検出した。中央尾根（北）に位置している。住居跡の平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の計測値は長さ5.55m、幅4.45m、残存する壁の高さは最高0.20mを測る。今回で確認された竪穴住居跡の中では最も大きい。この住居内から柱穴が４基確認されている。炉跡は住居跡中央部に１基確認している。貼床は確認できなかった。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器140点、石器82点、礫11点を数える。そのうち土器21点、石器11点を図化した。198～217は縄文土器である。198～211は第Ⅳ群２類清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊土器である。198は口縁部から胴部中位の資料である。刺突文列が横位に３条施されている。波状口縁か。199は口縁部から胴部上半にかけての資料である。波状口縁で波頂部に棒状工具で抉りを入れ、なおかつ突起を作り出している。口唇部には刻目文が観察される。口縁部には198よりも傾斜し、間隔も密に刺突文が３条施されている。その下位には細い粘土紐を貼り付けた後に、指頭でつまむことで刻目状に仕上げている。この199は胴部を直線的に立ち上げ、この粘土紐付近で屈折・直立させている。202は198～201と比較して刺突文の長さが短く、直立した半月状を呈している。また203の刺突文は横臥した半月状を呈している。204は口縁部に細かな刺突文列が２条観察される。206～210は刺突文を矢羽状に施している。206は口縁部から胴部上半の資料である。胴部と口縁部との境は段状をなし、口縁部には刺突文列を矢羽状に６条施している。口唇部は刻目文が施されている。口縁部と胴部との境が器形で観察されるのは208も同様である。この208には炭化物が付着しており放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92026）したところ、5,620±40yrBP、すなわち縄文時代前期前葉の^{14}Ｃ年代が測定されている。211ａ及びｂは同一個体と考えられる。204と同様の細かな刺突文と細長い刺突文の２種で文様が構成されている。212～214は諸磯ｂ式土器か。212は胴部、213・214は底部の資料である。三者とも地文を縄文とし、浮線文を施している。215～217は198～214とは異なり、胎土に繊維を多く含むため黒浜式の可能性もあるが、型式が判然としないため第Ⅵ群に分類した。

遺構図



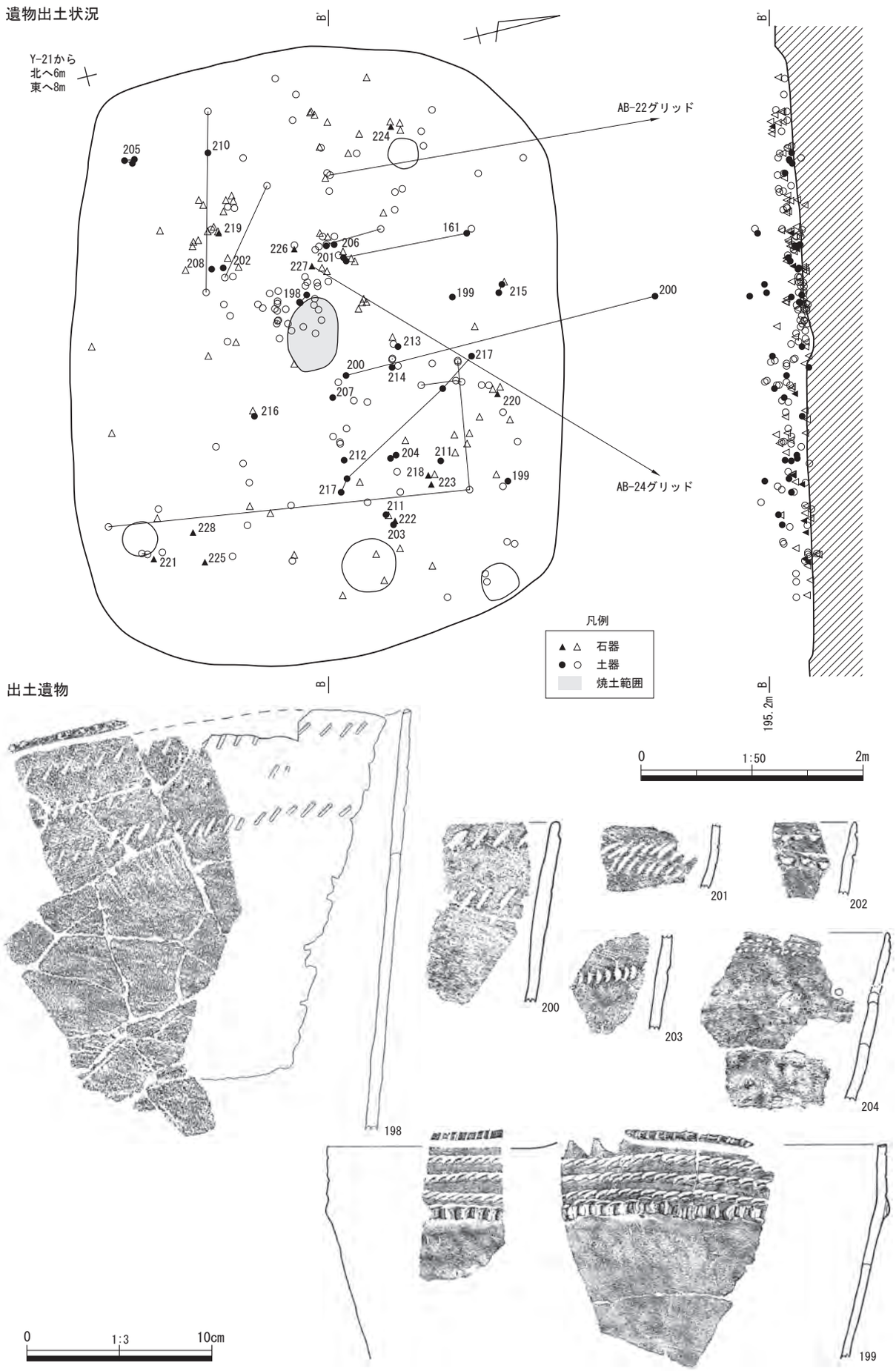
1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性無し・締り無し
　少量の径1mm程度の焼土粒、
　径5～20mm程度のYL相当土塊が混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り無し
　少量の径1mm程度の焼土粒、
　径1～2mm程度の黒色土粒、
　径1～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

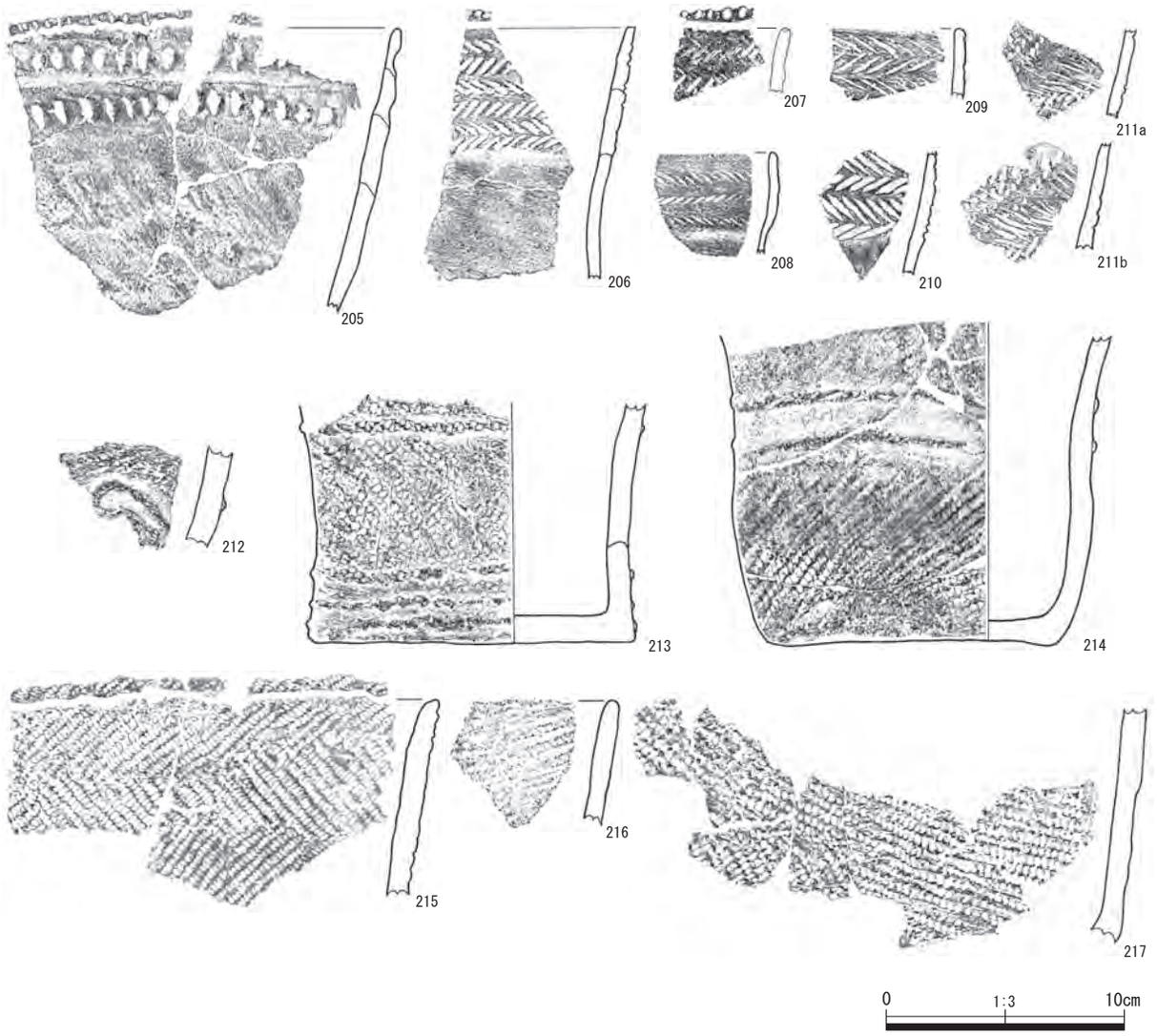
3　極暗赤褐色(5YR3/2)土層　粘性有り・締り有り
　径10～30mm程度の焼土塊、
　少量の径1～5mm程度の炭化物粒、
　径5～20mm程度のYL相当土塊(被熱)が混じる。

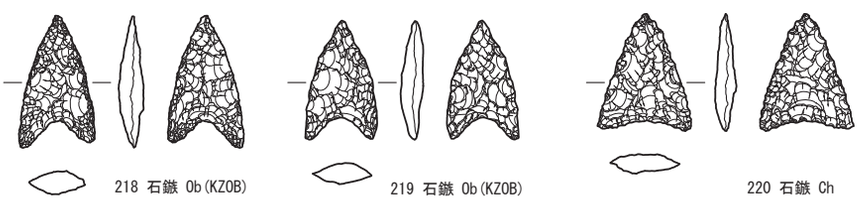
0　1:50　2m

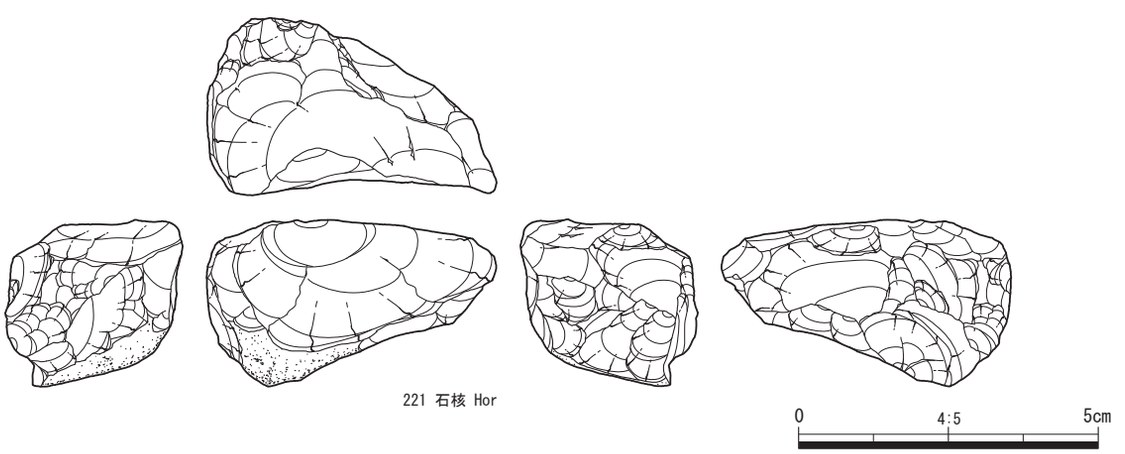
第48図　25号住居跡



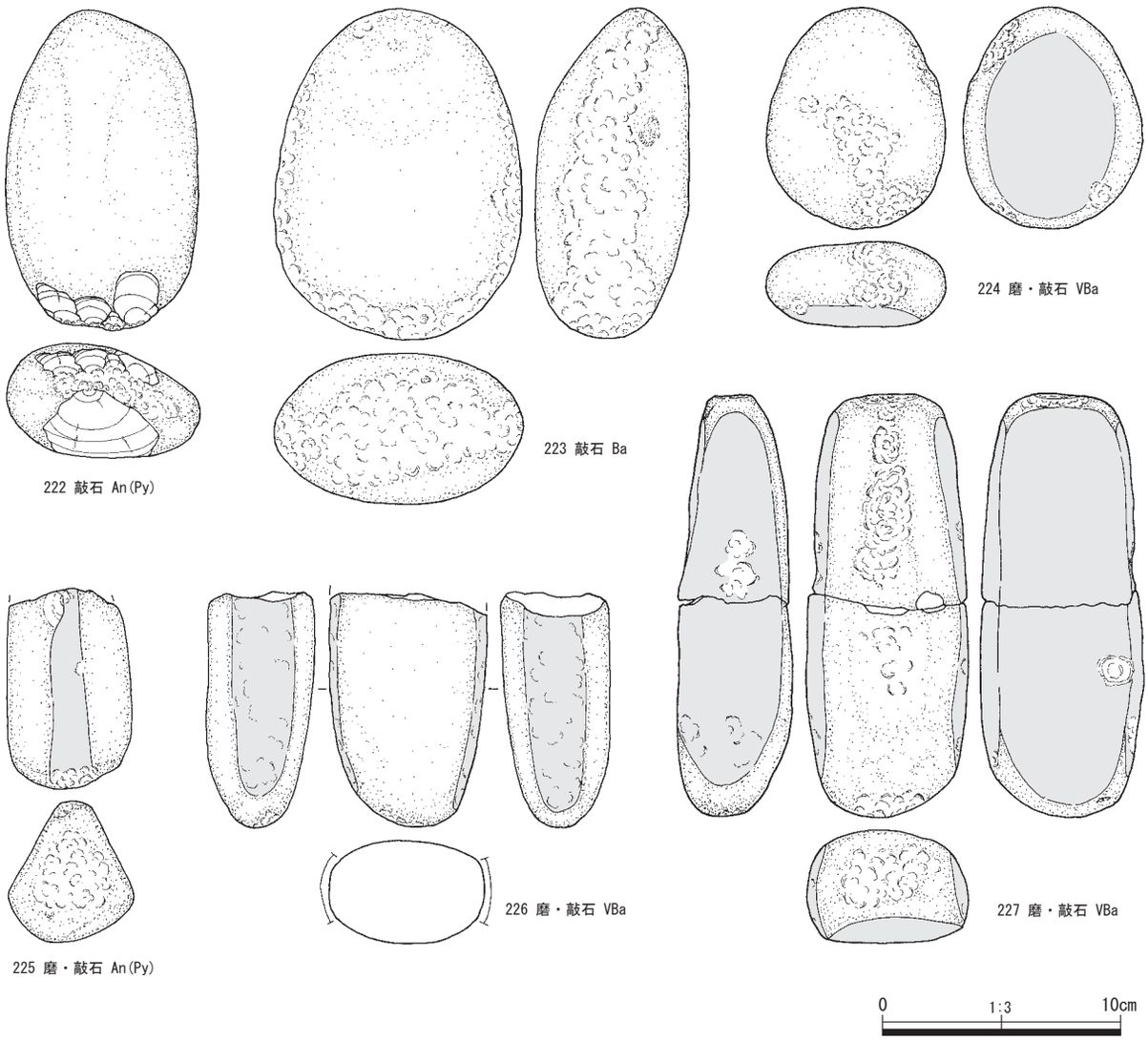
第49図　25号住居跡遺物出土状況と出土遺物１

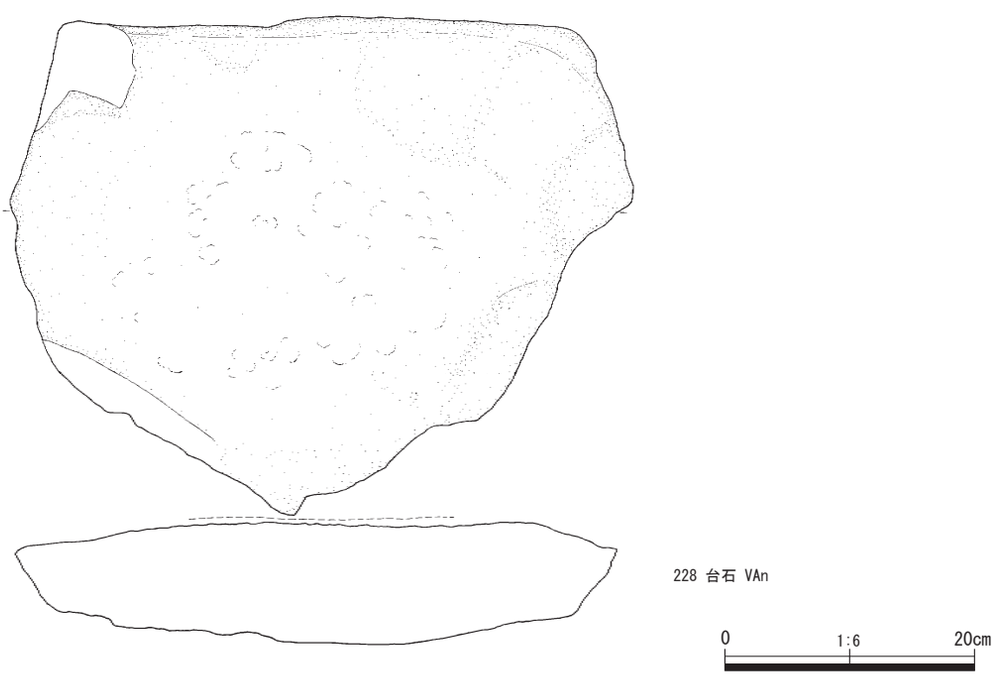




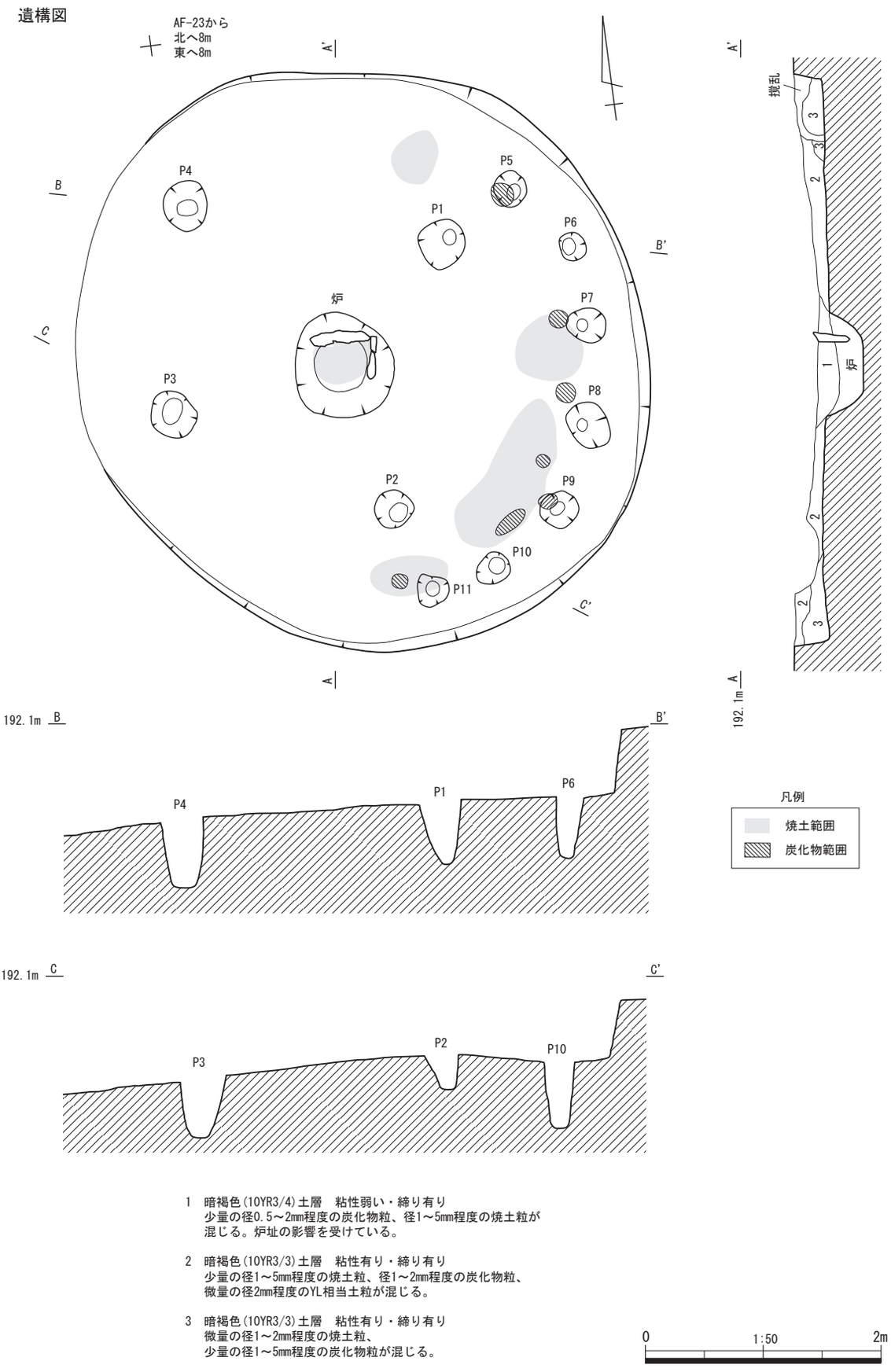


第50図　25号住居跡出土遺物２

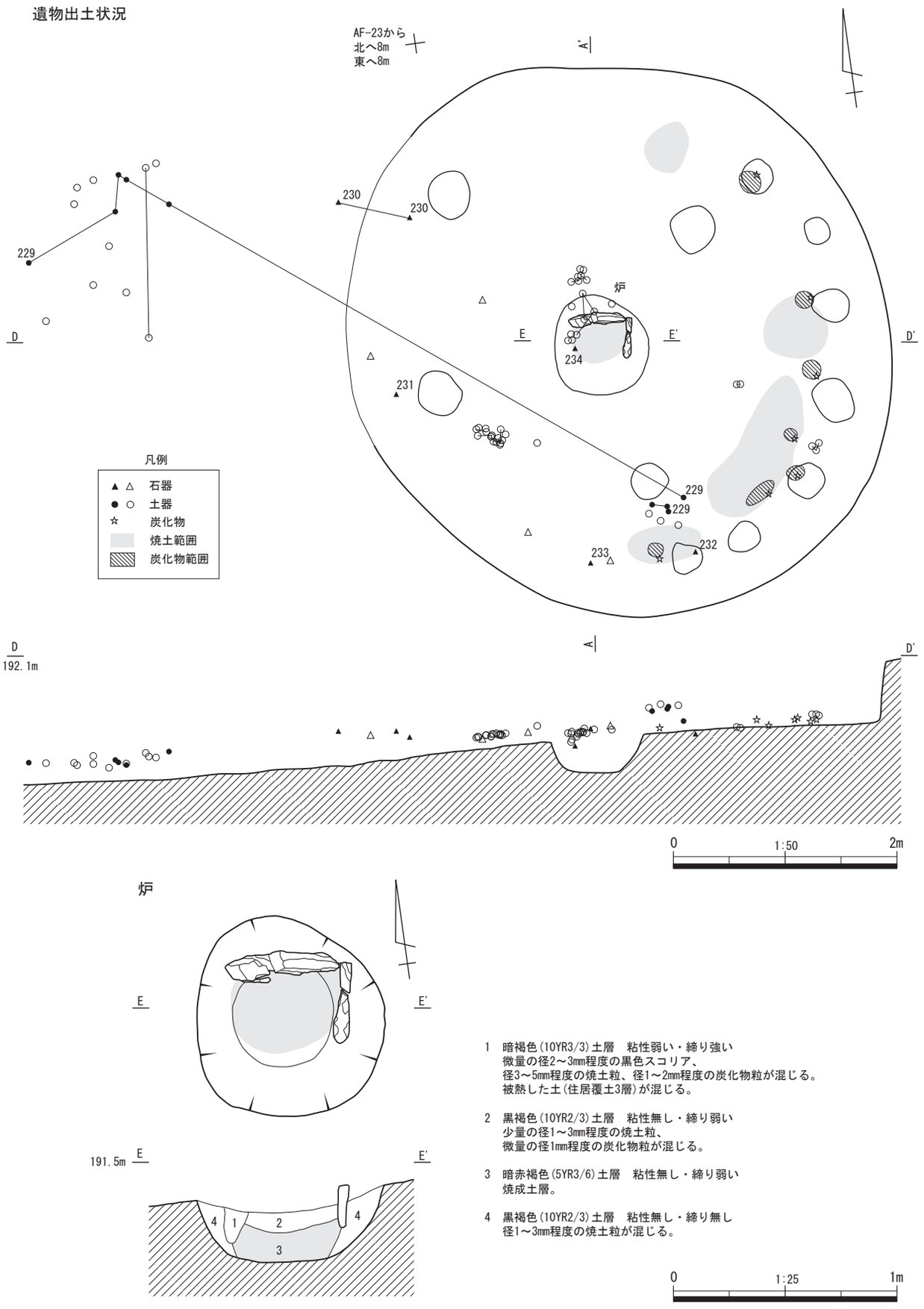




第51図　25号住居跡出土遺物３


遺構図
AF-23から
北へ8m
東へ8m
A
A'
B
B'
C
C'
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
炉
撹乱
192.1m
凡例
焼土範囲
炭化物範囲
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
少量の径0.5～2mm程度の炭化物粒、径1～5mm程度の焼土粒が
混じる。炉址の影響を受けている。
2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
少量の径1～5mm程度の焼土粒、径1～2mm程度の炭化物粒、
微量の径2mm程度のYL相当土粒が混じる。
3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
微量の径1～2mm程度の焼土粒、
少量の径1～5mm程度の炭化物粒が混じる。
0
1:50
2m

第52図　26号住居跡



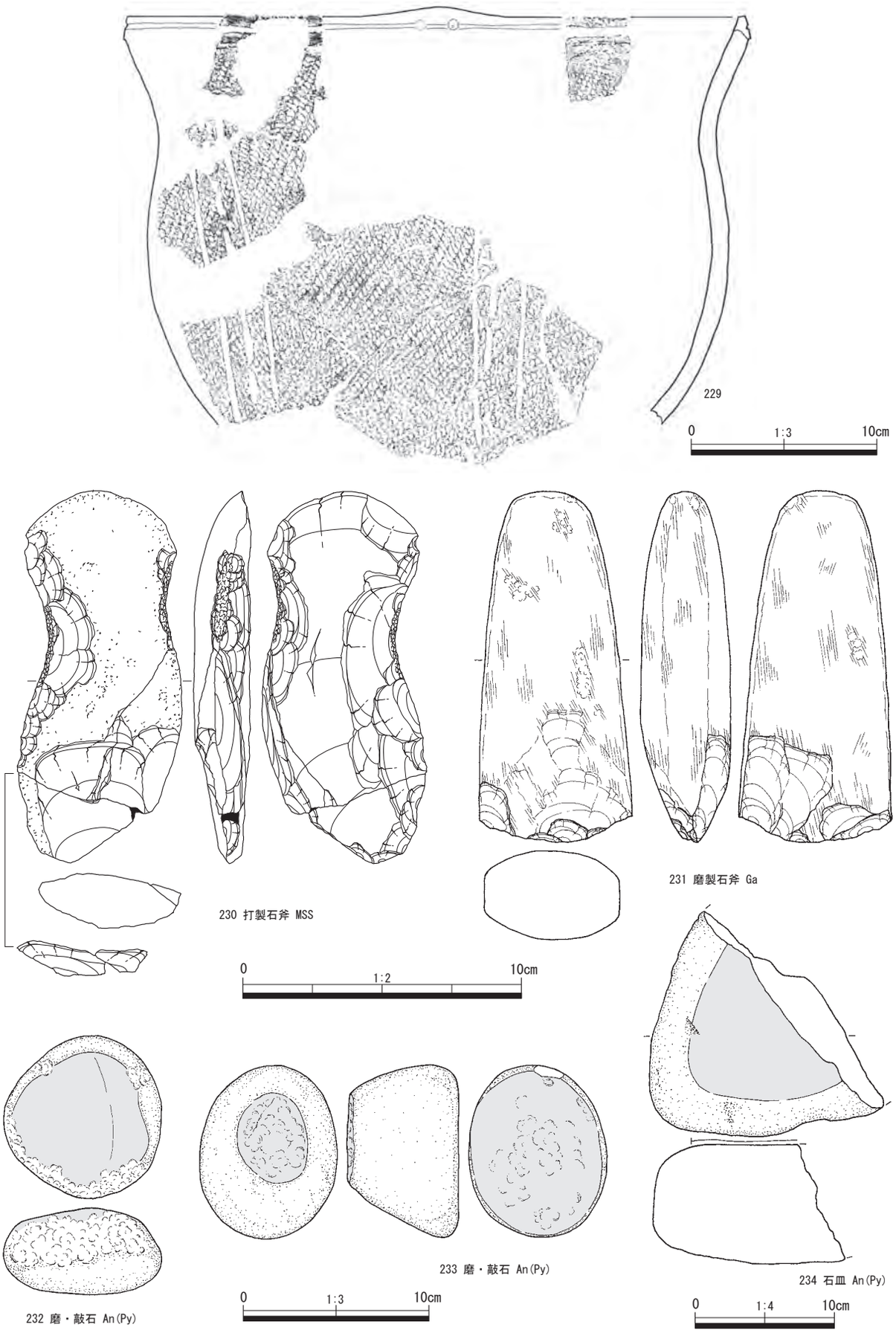
1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り強い
微量の径2～3mm程度の黒色スコリア、
径3～5mm程度の焼土粒、径1～2mm程度の炭化物粒が混じる。
被熱した土(住居覆土3層)が混じる。

2　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性無し・締り弱い
少量の径1～3mm程度の焼土粒、
微量の径1mm程度の炭化物粒が混じる。

3　暗赤褐色(5YR3/6)土層　粘性無し・締り弱い
焼成土層。

4　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性無し・締り無し
径1～3mm程度の焼土粒が混じる。

第53図　26号住居跡遺物出土状況



第54図　26号住居跡出土遺物

218～228は石器である。218～220は石鏃である。三者とも凹基であるが、前二者の石材については神津島恩馳島群の黒曜石で、220はチャートである。220は前二者と比較して側辺が直線的である。221は石核である。石材はホルンフェルスである。222・223は敲石である。扁平で楕円形の礫を利用し、222は長軸下端部に、223は周縁と平坦部の一部に敲打痕が観察される。石材は輝石安山岩・玄武岩である。224～227は磨・敲石である。224は扁平な楕円形の礫を利用している。磨痕が片側の平坦面に観察される他、敲打痕が随所に認められる。225～227については欠損資料も含めて柱状の礫を利用したものであろう。225は２つの磨面が発達する。石材については輝石安山岩である225を除き、多孔質玄武岩である。228は台石である。敲打痕が上面の中央付近に観察される。石材は多孔質安山岩である。

縄文時代後期の竪穴住居跡

26号住居跡（旧ＳＢ17　第52～54図　写真図版30・57）

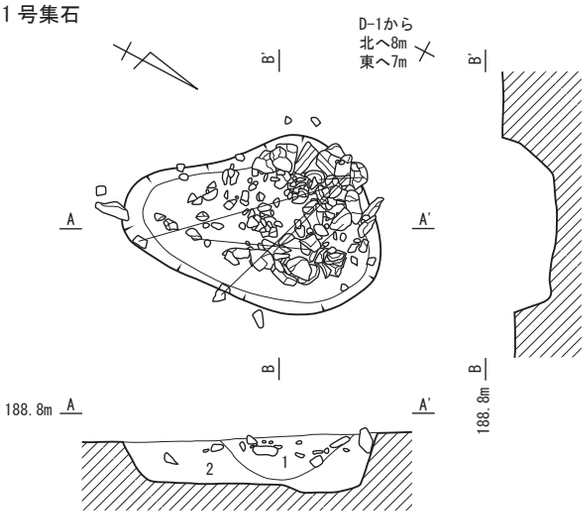
当該住居跡はＡＦ－23・24グリッド付近にて検出した。東支谷に位置する唯一の住居跡である。住居跡の平面形は円形で、遺構の計測値は最大径5.16m、残存する壁の高さは最高0.28mを測る。住居内には柱穴が11基確認されている。そのうち住居上屋の構成部材を支える所謂「主柱穴」と呼べるのはＰ１～４であろう。Ｐ５～Ｐ11は住居跡壁の北東から南にかけて一定の間隔を設けて配置されている。Ｐ10とＰ11との間隔は0.24mで狭めであるものの、Ｐ５～Ｐ11の各柱の間隔は約0.4m程度で一定している。その柱穴に沿うように焼土・炭化物の堆積が認められている。炉跡は住居跡中央部に１基確認されている。土層堆積状況からも理解できるように、覆土第２層堆積後に炉の輪郭と整合するように第１層の堆積が認められた。しかし焼土や炭化物の出土状況からも第２層を貼床としては判断できないため、第１層は自然堆積として考えたい。件の炉跡の平面形はほぼ円形を呈し、長径0.89m、短径0.84mを測る。炉跡には板状の炉石が確認されている。炉石はＬ字状に据えられた状態で検出されている。しかし炉跡内堆積土の第１層の状況から、炉石は炉内に長方形状に配置され、西辺・南辺にあたる炉石が抜き取られたものと考えられる。

当該住居跡から出土した遺物の点数は土器61点、石器10点、礫38点を数える。そのうち土器１点と石器５点を図化した。229は縄文土器である。堀之内１式土器か。口縁部から胴部下半にかけての資料である。丸みを帯びた胴部を持ち、「く」の字状に屈折して口縁部に至る。残存する口縁破片から波状口縁と考えられる。口唇部は角状に面取りされ、沈線文が１条、口唇部直下に巡らされる。口縁部から胴部にかけての地文はＬＲ縄文である。縄文施文後に実線２条と破線１条以上３条の沈線文で構成された懸垂文を施す。

230～234は石器である。230は打製石斧である。柄に装着するために基部両縁に抉りが入れられている。石材は中粒砂岩である。231は磨製石斧である。刃部は欠損している。基部に装着痕は観察できない。側面・基端部も丁寧に研磨されている。所謂「定角式磨製石斧」か。石材は斑レイ岩である。232・233は磨・敲石である。２点とも輝石安山岩である。234は輝石安山岩製の石皿である。

なお当該住居跡は覆土中より多くの木炭・炭化物が採取されている。覆土の第１層出土木炭を７点、そして土器229に付着した炭化物１点について放射性炭素年代測定を実施した。その結果、土器229（IAAA-92022）は3,630±30yrBP、縄文時代後期前葉頃の^{14}Ｃ年代が測定されている。また覆土第１層出土の木炭７点は併せて樹種同定を実施（IAAA-92005～92011）した。その結果、広葉樹種とイネ科の植物であることが判明した。

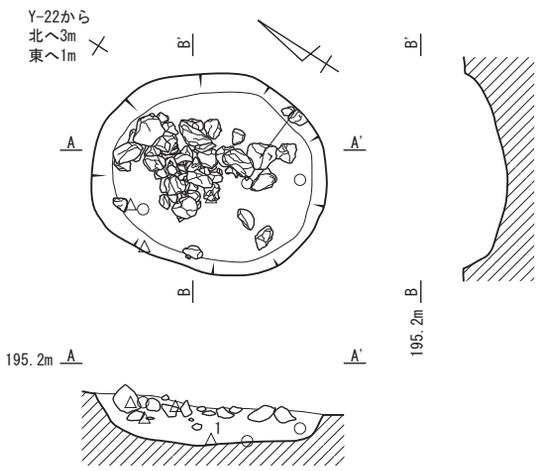
１号集石



1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り弱い
　微量の径1mm未満の赤褐色スコリアを含む。

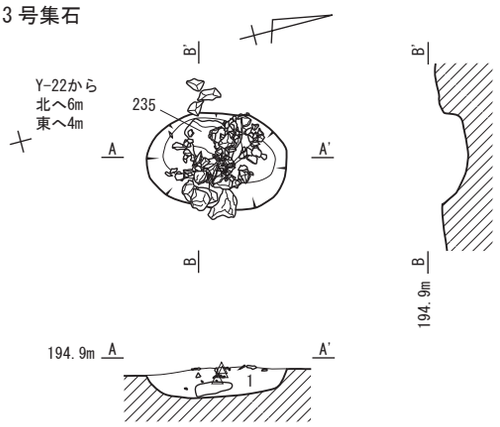
2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り弱い
　黄褐色土（KU相当土）粒・塊が混じる。

２号集石



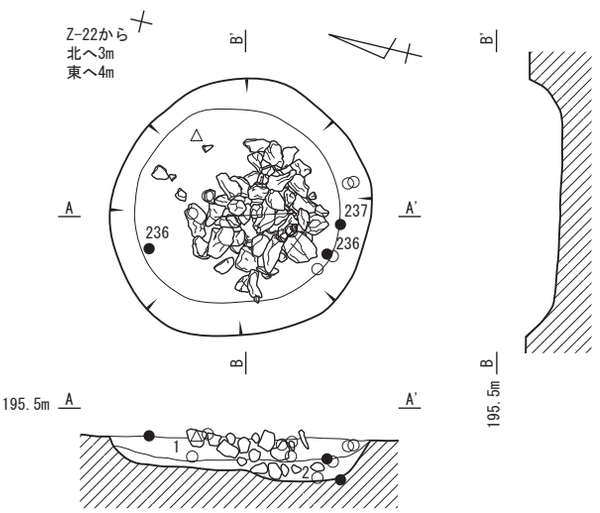
1　暗褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り有り
　少量の径0.5～1mm程度の焼土粒、微量の径1～2mm程度の炭化物粒、
　少量の径1～5mm程度のYL相当土粒が混じる。

３号集石



1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
　FB相当土主体。
　少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリアを含む

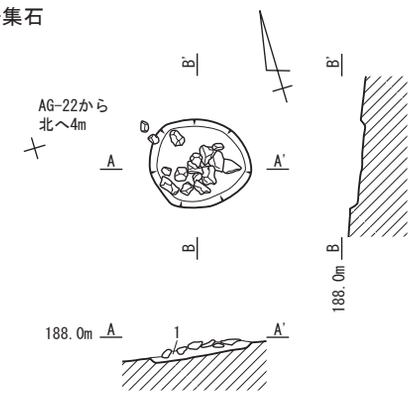
４号集石



1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
　微量の径1～2mm程度の焼土粒が混じる。

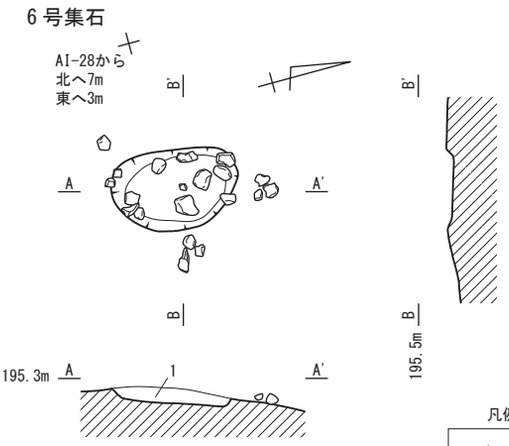
2　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り有り
　微量の径1～2mm程度の焼土粒が混じる。

５号集石



1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
　少量の径1～2mm程度の炭化物粒が混じる。

６号集石



1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
　少量の径1mm程度の橙色スコリア、
　少量の径1～2mm程度の炭化物粒が混じる。

凡例
△　石器
●　○　土器

0　1:40　1m

第 55 図　縄文時代の集石 1

２　集石（ＳＹ）

富士石遺跡において、縄文時代の遺構・遺物の存在を確認した砂沢スコリア層から休場層上面までの中で、人為的に持ち込まれたと考えられる礫は膨大な量にのぼる。特に栗色土層下位から富士黒土層上位までは縄文時代早期後半の遺物包含層であり、礫の主体はこの全調査区域に広がっていた当該土層に含まれていた。当該報告では調査時の所見により礫が集中的、人為的に集積したと推定されるものを所謂「集石」とした。層位や出土遺物から縄文時代の集石に該当すると考えられるのは23基である。

当該報告書で集成した集石には①土坑を伴う集石、②礫のみの集石に分類される。①については厳密には土坑の範疇に入るものと考えられるが、調査時の所見に従い土坑を伴う集石とした。

土坑を伴う集石（第55・56・61・64図・写真図版31～33・58）

土坑を伴う集石として分類されたのは13基を数える。土坑の平面形は４号集石のように円形を呈するものもあるが、大部分は楕円形若しくは不定形である。長さと幅の比率は1.5：1～1.2：1の間に分布する。下記には特筆すべき集石について抽出・報告する。

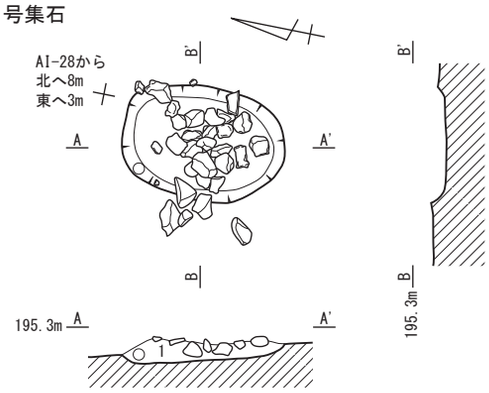
１号集石はＤ－１グリッド、西尾根に位置する。当該集石は長さ1.38m、幅0.95m、深さは0.26mを測る土坑を伴う。土坑の平面形は細長く歪な楕円形を呈し、その主軸方向は土坑内で検出された礫の一部に規則性を認められる。礫は調査時に172個確認された。そのうち比較的大きな礫が「コ」の字状に組まれており、その内側に小さな礫の存在を確認した。コの字状の礫の配列で開口部を正面と仮定した場合、その配列方向はＮ－15°－Ｗに主軸が設定される。土坑の形態は礫配列の方向と同じ主軸を指向するため、この遺構は当初からその方向へ指向する意図のもと構築されたものと理解され、当該集石の性格が他の集石遺構と比べて異なると考えられる。出土遺物は皆無であるため所属時期については判然としない。栗色土層中位で確認されたため、縄文時代の遺構と判断される。

23号集石はＡＪ－22グリッド、東支谷に位置する。当該集積は円形の土坑に大量の礫が充填された状態で確認されており、長さ1.82m、幅1.60m、深さ0.44mを測る土坑を伴う。礫は調査時に495個確認された。土坑の平面形は円形で、集石に伴う土坑では当該遺跡において最大の規模である。覆土は２層に分層され、暗褐色土堆積後に、黒褐色土と握り拳大～人間の頭部大程度の礫が土坑底面近くから投入されたものか。ただし礫のうち、土坑周縁部に沿って配置されたものも見受けられ、当該土坑が決して礫を投棄するためだけに掘削されたものではないことを物語っている。この23号集石は出土土器から縄文時代中期のものと判断される。

北尾根に位置する11号集石は底面から礫を投入し、他方12号集石や２号集石は底面と礫との間隔が認められるため、両者の礫に関する取り扱いの差が想起される。この11号集石と近接する12号集石は土坑の主軸方向がやや異なることも勘案すれば、時期差が存在するかもしれない。

土坑を伴う集石において出土遺物の数量は決して多くはない。３号集石から出土した235は石皿である。磨面が明瞭である。土坑底部にて出土している。石材は多孔質安山岩である。４号集石で出土したのは押型文土器236ａ・ｂと237である。236ａ・ｂは同一個体か。236ａは口縁部のみの破片資料で、口唇部が丸く仕上げられている。内面にも押型文が施されている。格子目文か。237は楕円文が施されている。11号集石から出土したのは238の敲石である。石材は輝石安山岩である。覆土第２層中から出土している。23号集石では土器・石器が出土している。264ａ・ｂも同一個体の可能性がある。平坦で肥厚した口縁部を持ち、大きく内湾する破片資料である。太い沈線文より下位に縄文が施されているが、施文順位は縄文が先行する。第Ⅶ群２類に分類した勝坂式土器か。265は敲石である。266は台石である。全体の半分以上が欠損している。いずれの遺物も礫と共に土坑内に投入されたものか。12号集石では敲石が１点出土している。

7 号集石

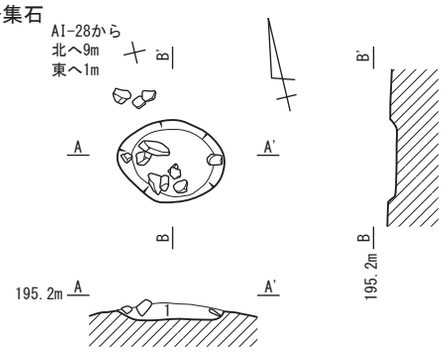


1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
FB相当土主体。
少量の径0.5～1mm程度の炭化物粒が混じる。

凡例

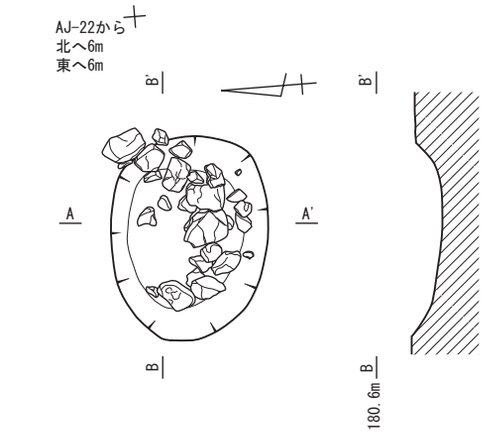
▲　石器
●　○　土器

8 号集石



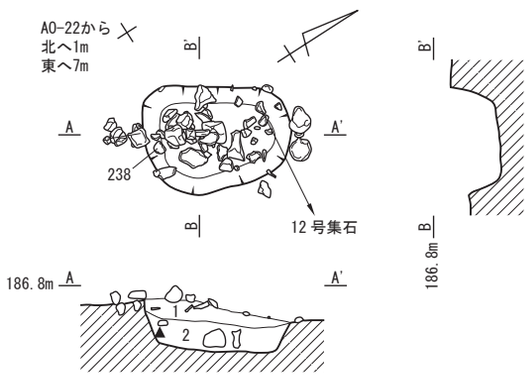
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
FB相当土主体。径1mm程度の橙色スコリア、
微量の径1mm程度の炭化物粒が混じる。

9 号集石



1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性強い・締り有り
少量の径1～2mm程度の黄褐色土粒・黒色土粒、
微量の径1～2mm程度の炭化物粒が混じる。

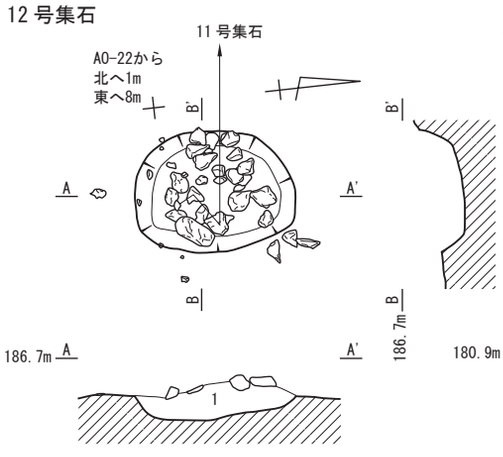
11 号集石



1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り弱い
少量の径1～2mm程度の褐色土粒、径5mm程度の炭化物粒が混じる。

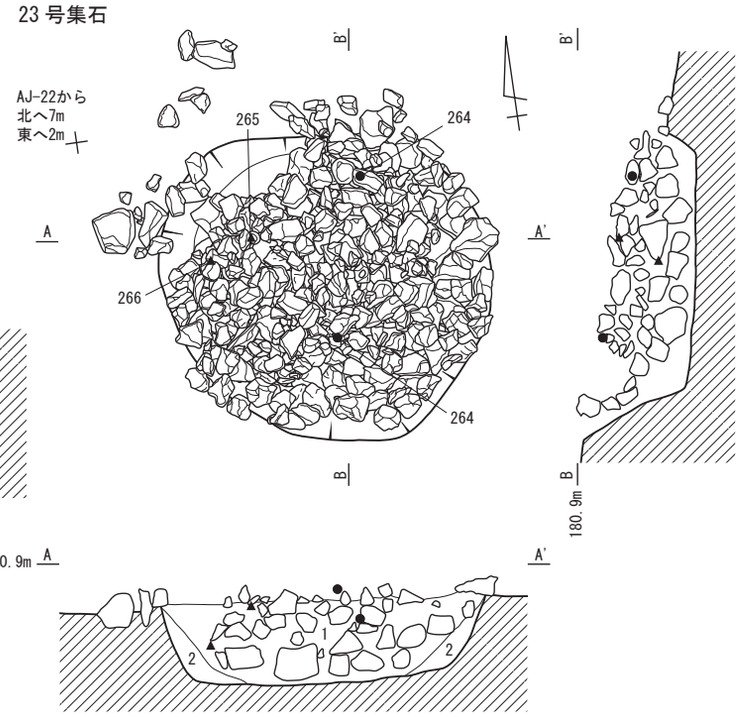
2　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性弱い・締り有り
径1～2mm程度の橙色スコリア、少量の径1～2mm程度の炭化物粒が混じる。
また下部に少量の径10mm程度の炭化物塊が混じる。

12 号集石



1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性無し・締り弱い
少量の径5mm程度の褐色土粒を含む。
また下部に径5mm程度の炭化物粒が混じる。

23 号集石

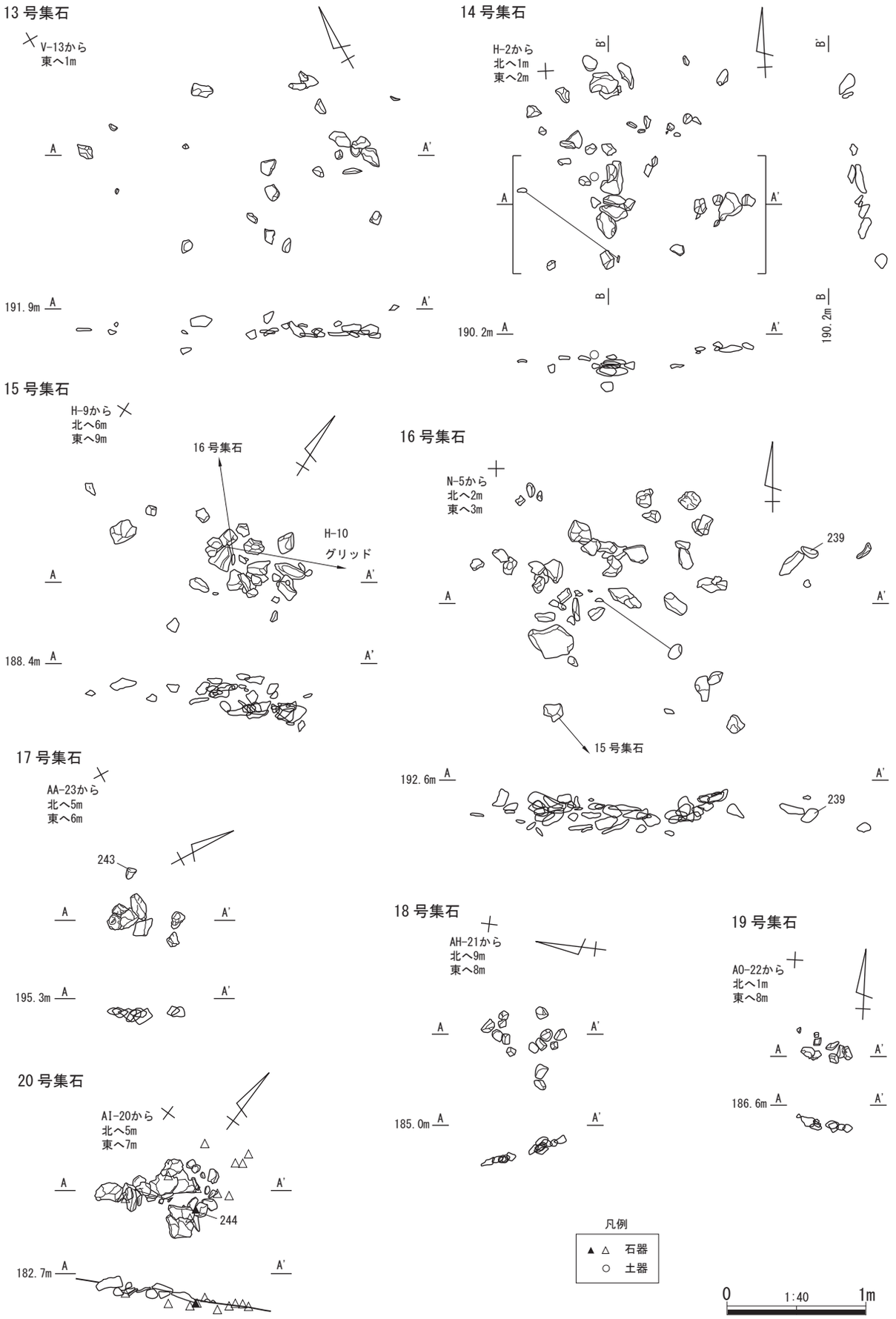


1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り無し
微量の径1～2mm程度の炭化物粒、
径0.5mm程度の焼土粒が混じる。

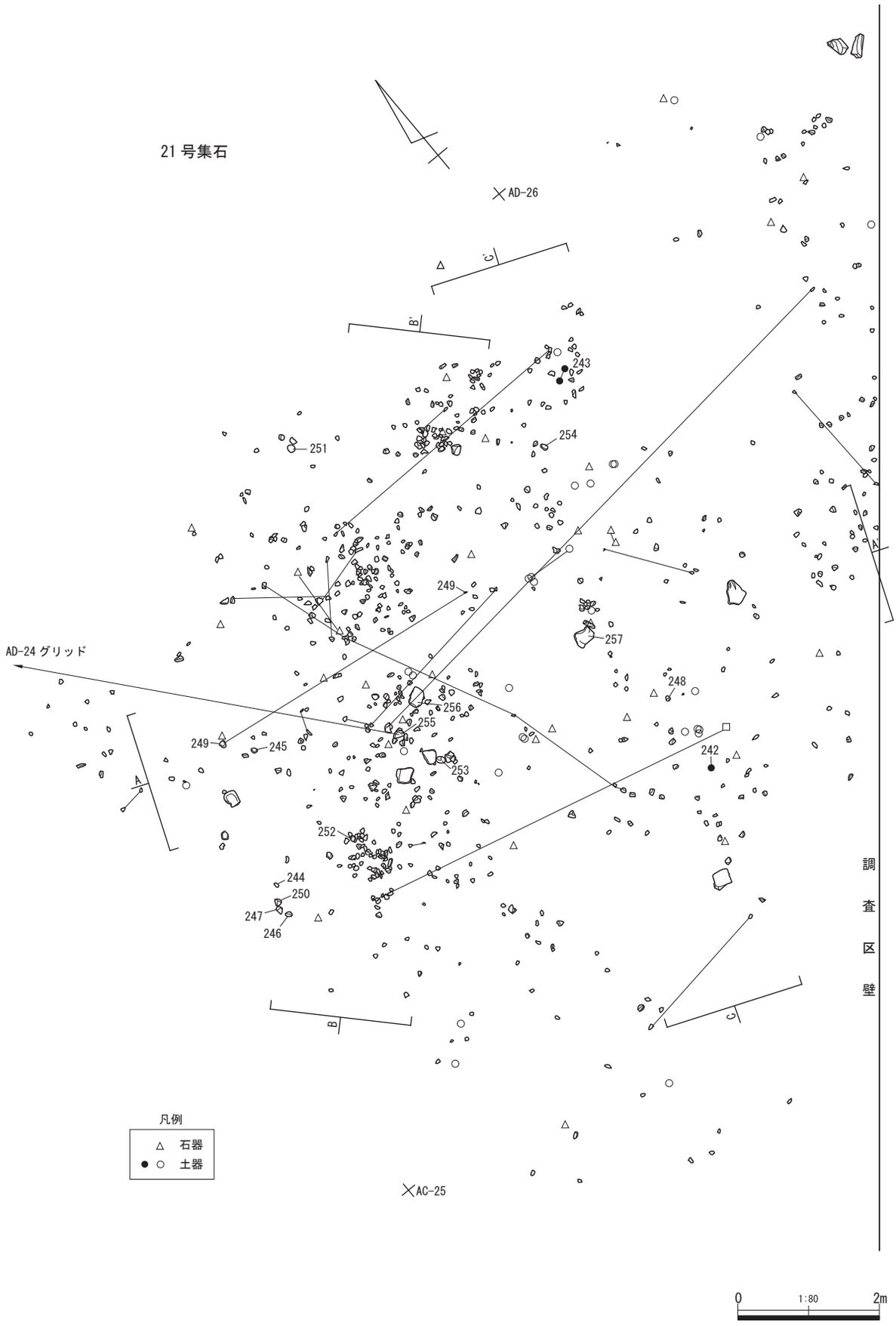
2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
径10mm程度のYL相当土塊、
少量の径0.5～2mm程度の黒色土粒、
微量の径0.5mm程度の焼土粒が混じる。

0　1:40　1m

第 56 図　縄文時代の集石２

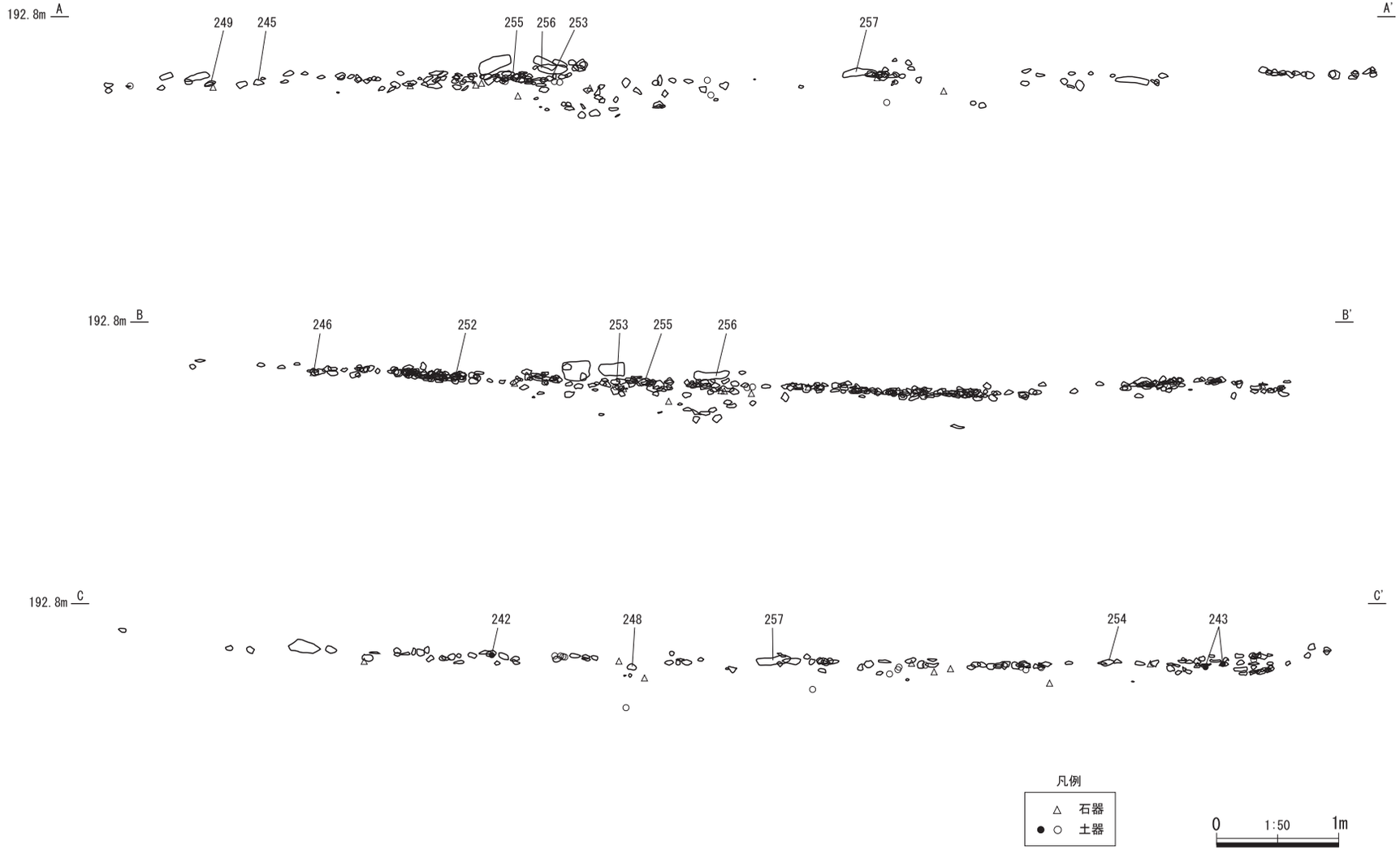


第 57 図　縄文時代の集石３

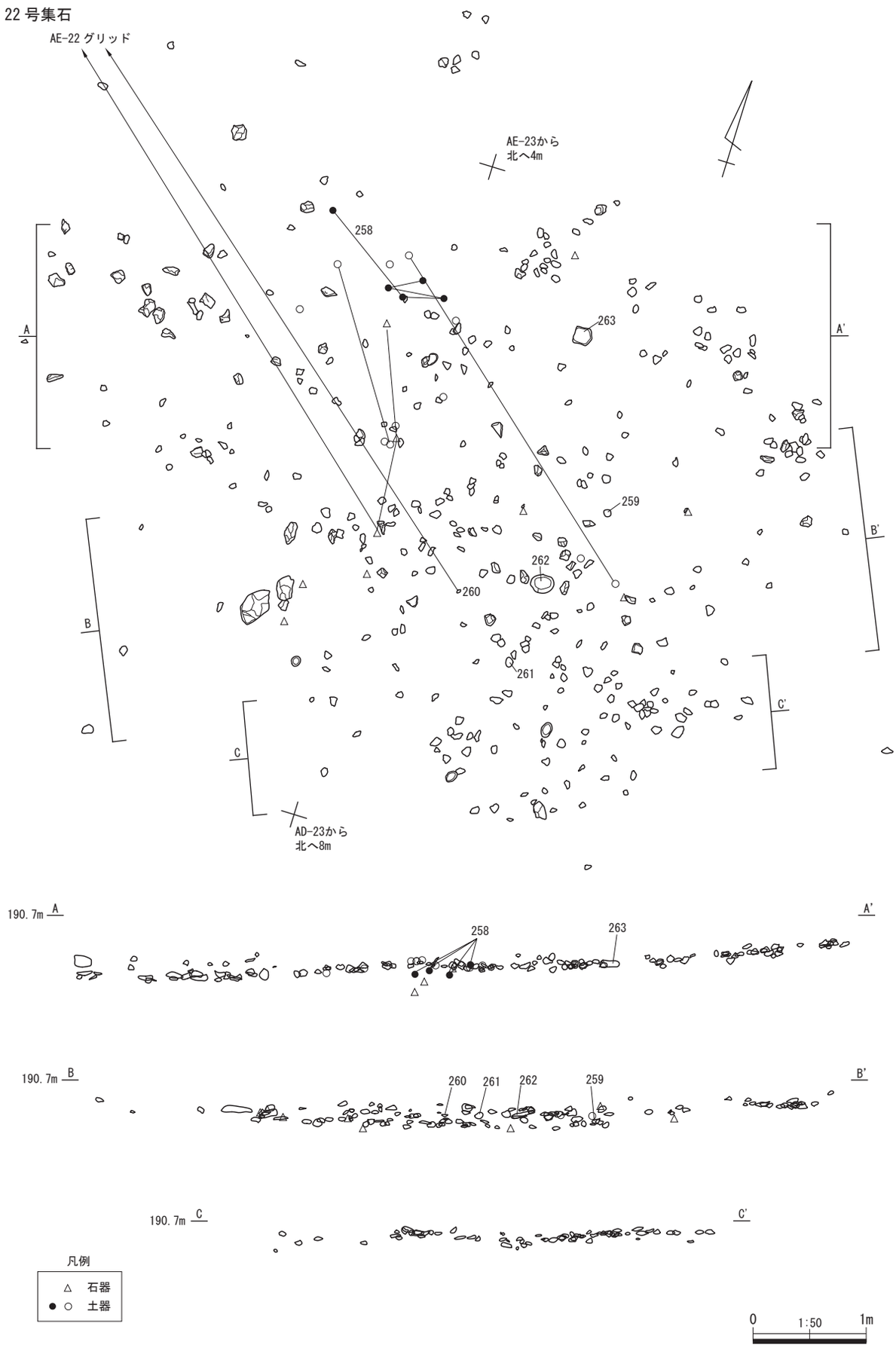


第 58 図　縄文時代の集石４

21 号集石断面図



第 59 図　縄文時代の集石５



第 60 図　縄文時代の集石６

礫のみの集石（第57・61～64図　写真図版33・34・58～60）

礫のみで構成される集石として分類されたのは10基を数える。遺構としては礫が集石された状態のみの確認であるが、本来は土坑状の窪みに礫が集められた可能性のある遺構も散見される。

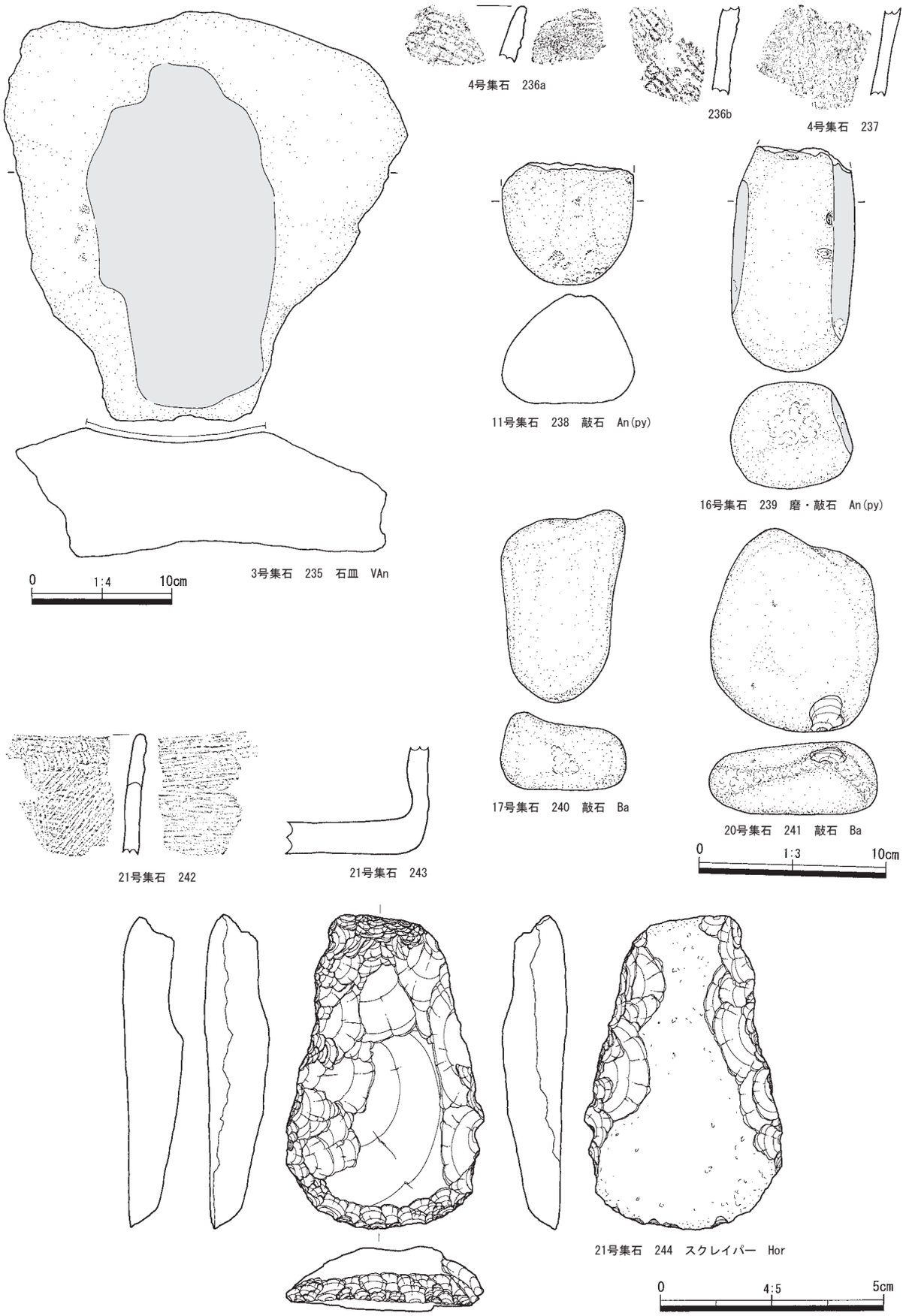
15号集石はＨ－９グリッド、西尾根（南）に位置する。栗色土層下面から富士黒土層にかけて確認されたもので、礫が重なりあって出土している点から本来は土坑を伴っていた可能性がある。

16号集石もその一例で、当該集石はＮ－５グリッド、西尾根（北）に位置する。富士黒土層内南西から北東にかけて緩やかに傾斜する地形のなかで、礫毎の高低差が認められる。これも土坑状の掘り込みは未検出である。

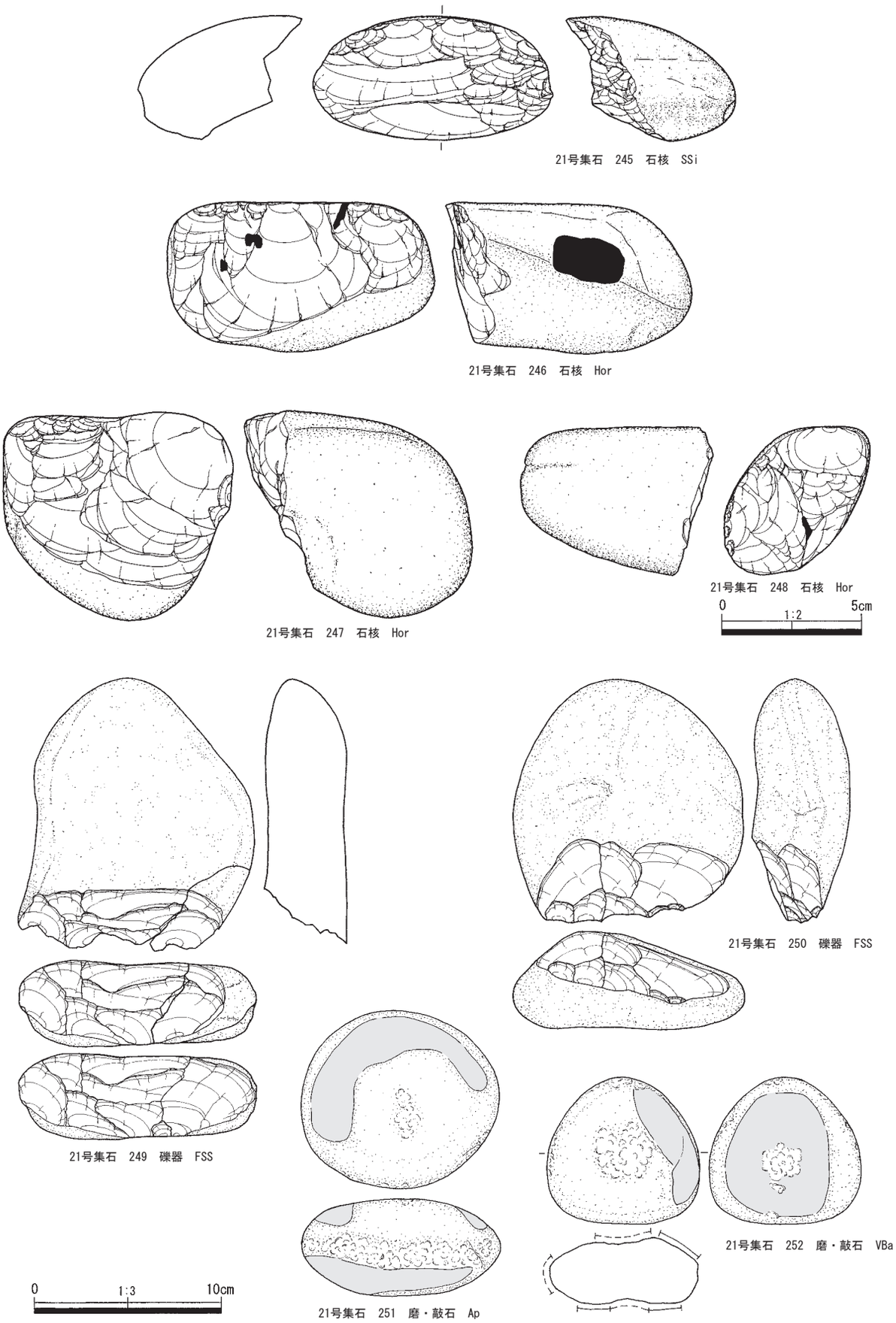
当初より土坑が伴わない集石としてその可能性が高いのは13・14・17～20号集石である。その規模は２ｍ四方の範囲内に収まるものである。特に19号集石は0.5ｍ四方程度の範囲内に収まる狭小な集石遺構と言える。その一方、21・22号集石のように広く、礫が集められた例ある。

21号集石はＡＣ－25グリッドにて検出された。中央尾根と東尾根に挟まれた東支谷に位置している。当該集石は調査時において広大な集石遺構として取り扱っているが、図からも看取できるように実際は幾つかの小規模な集石遺構単位が近接したことにより、礫が広範囲にわたって分布する状況ができたものと考えられる。礫は706個を数える。富士黒色土層中位から確認され始めたが、第59図Ａ－Ａ´で理解されるように調査区外の方向、即ち東支谷の谷頭部に向かって礫の散布が広がり、富士黒土層下位から下面付近で礫の確認がなされている。Ｂ－Ｂ´またＣ－Ｃ´ラインにおいては休場層中で礫が検出するに至っている。Ｂ－Ｂ´ライン上、256石皿が出土した付近では礫が高低差をもって出土しているため、土坑を伴う集石遺構単位が存在した可能性がある。無論それらには時期差が伴う可能性もあり、出土遺物の点から早期代のものと考えられるが、それ以上の推定は困難である。22号集石はＡＥ－22グリッドにて検出された。上記の21号集石と同様、東支谷に位置する。23号集石と同様に幾つかの集石遺構の集合体と考えられるが、分割は困難である。富士黒土層下面で検出できたもので、土坑を伴っていた可能性は低い。これら21・22号集石は東尾根と中央尾根に挟まれた谷地形内部にあり、大量の縄文土器がこの谷地形内から包含層出土として取り上げられている。無論これらの縄文土器については生活域からの流れ込みの可能性も想起されるが、集石遺構付近において台石や石皿等の大型石器が伴っており、この谷地形は生業域として機能した可能性をも示している。

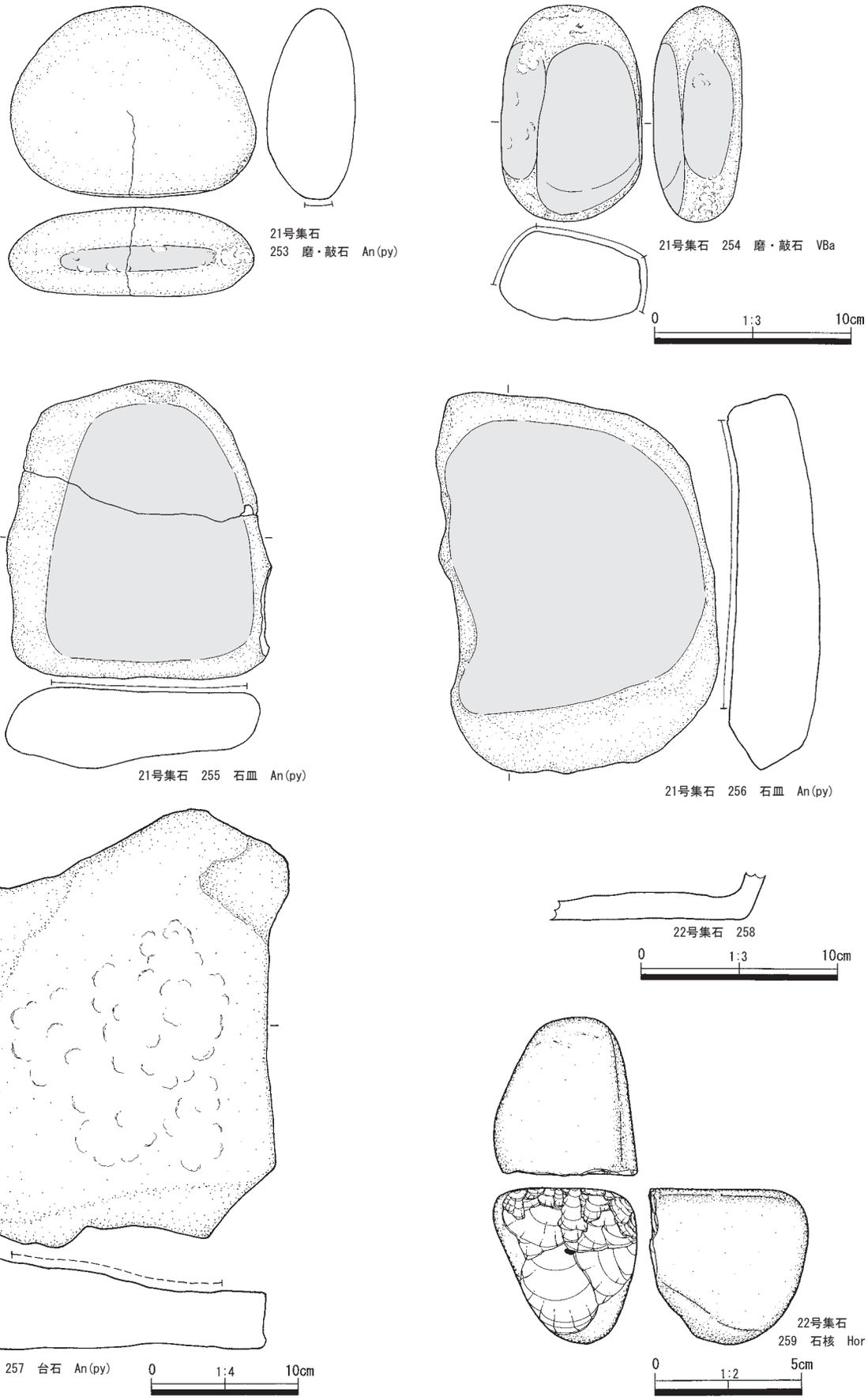
このタイプの集石遺構で土器・石器が出土しているのが14～17・21・22号集石である。239は16号集石から出土した磨・敲石である。240は17号集石から出土した敲石である。239・240ともに石材は輝石安山岩である。241は20号集石から出土した敲石で、石材は玄武岩である。242～257は21号集石から出土した土器・石器である。242・243は縄文土器である。242は口縁部のみの破片資料である。先割状の工具による沈線文が施されたものか。口唇部直下には刺突文。判ノ木山西式土器か。243は底部のみの破片資料である。無文土器か。244～257は石器である。244はスクレイパーである。連続剥離により片刃を作り出したもので、柄に付けて使用したものか。石材はホルンフェルスである。245～248は石核である。いずれも拳大の円礫を敲打している。245は珪質シルト岩、246～248はホルンフェルスである。249・250は礫器である。端部に片刃を作り出している。両者とも細粒砂岩である。251～254は磨・敲石である。252は両面中央部に敲打痕が見られる。255・256は石皿、257は台石である。３点とも石材は輝石安山岩である。258～263は22号集石から出土した土器・石器である。258は無文土器の底部である。259～263は石器である。259・260は石核である。260は剝片資料と接合し、両者ともホルンフェルスである。261は敲石で縁辺部に敲打痕が観察される。石材は輝石安山岩である。262・263は石皿である。両者とも輝石安山岩である。



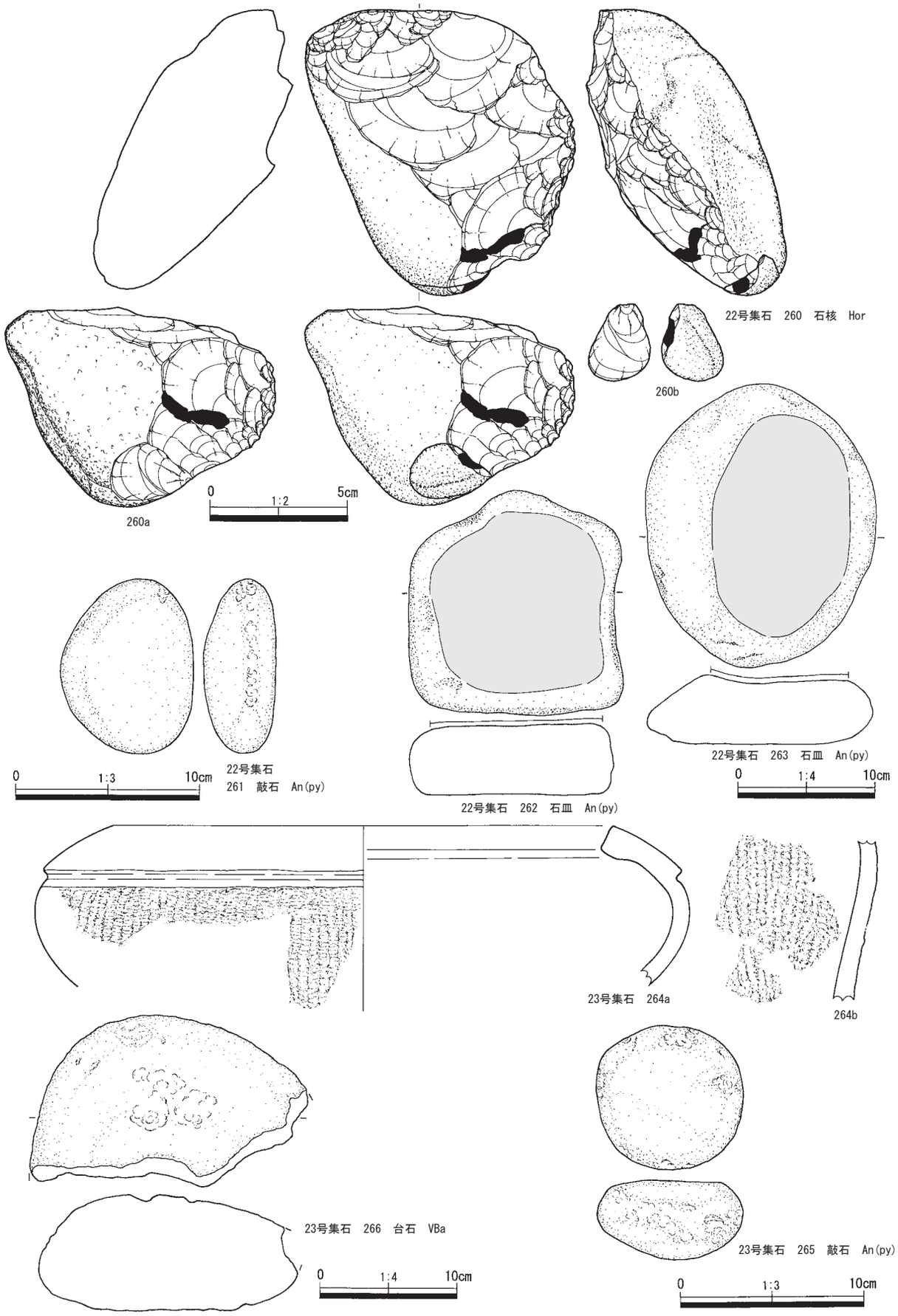
第 61 図　集石出土遺物１



第 62 図　集石出土遺物２

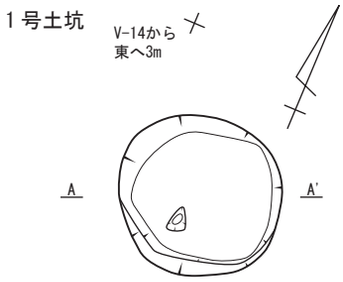


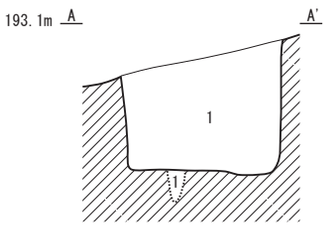
第 63 図　集石出土遺物３



第 64 図　集石出土遺物４

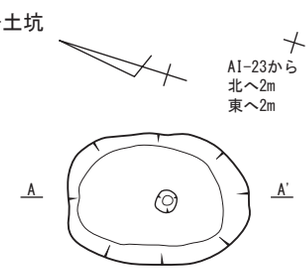
１号土坑

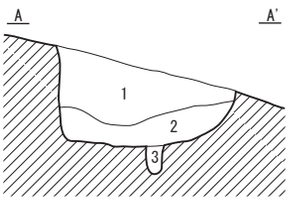




1　褐色(10YR4/6)土層　粘性有り・締り有り
YL相当土主体。
径1～3㎜程度の赤褐色スコリアを含み、
微量の径10～20㎜程度の黄褐色土塊が
混じる。

２号土坑



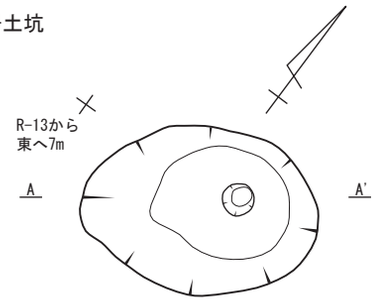


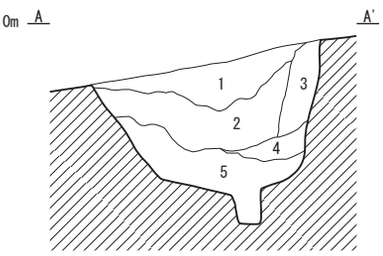
1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り有り
少量の径2～5㎜程度の赤褐色スコリア、
少量の径5～10㎜程度のYL相当土塊,
少量の径0.5～2㎜程度の炭化物が混じる。

2　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
少量の径5～20㎜程度のYL相当土粒・塊、
微量の径5㎜程度の炭化物粒が混じる。

3　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り無し
YL相当土主体。
少量の径3～5㎜程度の黒色スコリアを含む。

３号土坑





1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り弱い
FB相当土主体。
径2～3㎜程度の赤褐色スコリア、
径1～20㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。

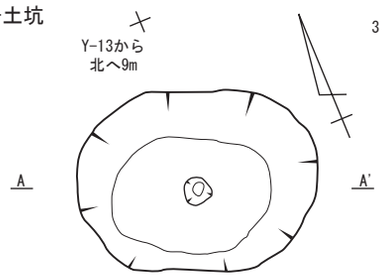
2　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性弱い・締り弱い
FB相当土主体。
径2～3㎜程度の赤褐色スコリアを含む。

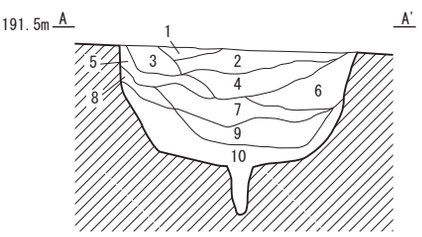
3　褐色(10YR4/4)土層　粘性弱い・締り弱い
多量の径10～20㎜程度のYL相当土塊が混じる。

4　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り弱い
FB相当土主体。
径1～5㎜程度のYL相当土粒が混じる。

5　褐色(10YR4/4)土層　粘性弱い・締り弱い
多量の径10～20㎜程度のYL相当土塊が混じる。

４号土坑





1　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性弱い・締り弱い
微量の径2～3㎜程度の赤褐色スコリアを含む。

2　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性弱い・締り弱い
微量の径2～3㎜程度の赤褐色スコリア、
微量の径1～2㎜程度のYL相当土粒が混じる。

3　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り弱い
径2～30㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。

4　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り弱い
微量の径2～3㎜程度の赤褐色スコリア、
少量の径2～3㎜程度のYL相当土粒が混じる。

5　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
多量の径5～20㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。

6　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
多量の径5～20㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。
5層に比して色調は若干暗い。

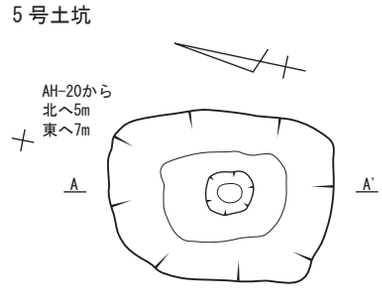
7　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り弱い
少量の径2～3㎜程度のYL相当土粒が混じる。

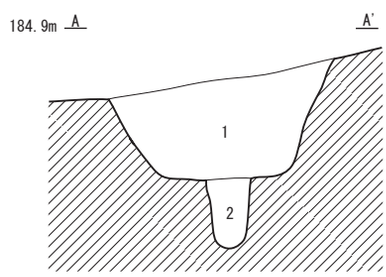
8　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り有り
多量の径5～20㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。

9　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り弱い
少量の径2～3㎜程度のYL相当土粒が混じる。

10　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
多量の径5～20㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。

５号土坑

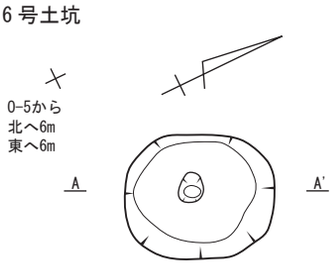


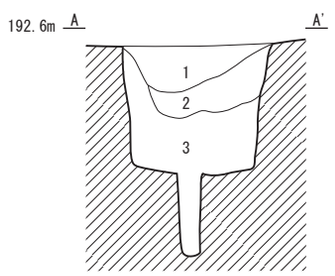


1　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性弱い・締り無し
径1～20㎜程度のYL相当土粒・塊、
微量の径1～2㎜程度の炭化物粒が混じる。

2　暗褐色(10YR3/2)土層　粘性強い・締り弱い
YL相当土主体。
微量の径3～5㎜程度の黒褐色スコリアを含む。

６号土坑





1　褐色(7.5YR4/4)土層　粘性有り・締り有り

2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
少量の径1～2㎜程度の赤褐色スコリアを含む。

3　暗褐色(7.5YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
少量の径1～2㎜程度の赤褐色スコリア、
径10㎜程度のYL相当土塊が混じる。

0　1:40　1m

第 65 図　縄文時代の土坑 1

３　土坑（ＳＦ）

富士石遺跡において縄文時代の土坑と推定されたのは56基を数える。そのうち縄文時代前期までの時期と思われるのが１～53号土坑である。土坑の大半は休場層上面やその下位で検出されたものが多く、草創期の可能性を伴う土坑が含まれよう。土坑の形態として土坑底面に逆茂木痕と思しき小穴の有無で分類され、底部平面の形態で細分類が可能である。土坑は西支谷の谷地形底部付近に多く散見される。

縄文時代前期以前の土坑

Ａ類（第65～68・75・76図　写真図版35・60・61）

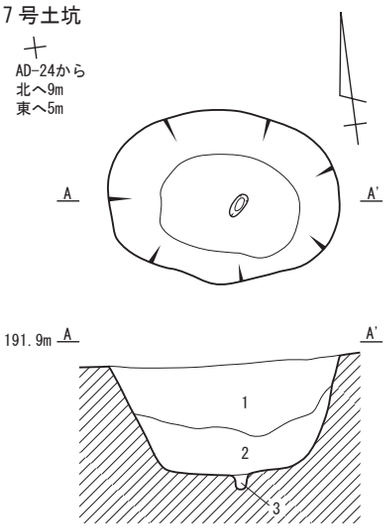
底面に小穴が認められる土坑をＡ類とし、小穴が１基あるもので平面形が円形～楕円形を呈するタイプをＡ－１類、小穴が複数基、平面形が長楕円形～方形を呈するタイプがＡ－２類と細分した。

１～７号土坑はＡ－１類に該当する。長径：短径の比率も１：１～１：0.5の範疇に入る。この土坑は谷部（西支谷・東支谷）に見られるが、６号土坑のみ西尾根（北）に位置している。このタイプは長径・短径の実測値も0.8～1.3m、0.6～１m程度であり、土坑の中では小型の部類か。休場層にて確認されるが、覆土は黒褐色～暗褐色の土坑が多く、１号土坑のみ休場層由来の覆土をもつ。当該土坑は休場層直下黒色帯上面での検出で、時期的には覆土から勘案して縄文時代草創期まで遡る可能性はある。なおＡ－１類土坑で遺物の出土は確認していない。

８～19号土坑はＡ－２類に該当する。長径：短径の比率は１：１～１：0.3の範疇に入り、平面形は円形から狭長な隅丸長方形を呈するタイプ等が認められる。東支谷・西支谷の谷部以外にも中央尾根や西尾根上にも分布する。９～11号土坑は形態的には互いに異なるものの、休場層相当土を基調とする点が共通する。９・10号土坑は西尾根に位置し、形態も酷似しているため、同時期のものとも推定される。Ａ－２類でも８～11・13・17号土坑は休場層直下黒色帯、第Ⅰスコリア層にかけて確認されたもので、覆土が休場層由来であった故に休場層中で確認が不能であったものか。これらは縄文時代草創期まで時期的に遡る可能性がある。９～12号土坑の底面にて確認された小穴は乱雑に配置されているが、逆茂木等の再設定の可能性が指摘される。16号土坑は東支谷に位置する。平面形は楕円形で、土坑底面に小穴４基が等間隔に配置され、規模も17～19号土坑に次ぐ。長径2.07m、短径1.42m、検出面から底面までの深さは1.45mを測る。休場層上層上面にて検出された。壁面が直立しており、陥穴として機能したのであろう。このＡ－２類で大型なのは17～19号土坑である。いずれも長軸が２m台であり、深さも１m以上を測る。小穴２基が土坑底面に認められ､形態も近似する。また分布の点では17号土坑が西尾根(北)に、18・19号土坑が中央尾根に位置し、立地も共通している。18号土坑は25号住居跡と重複し、時期的に住居跡よりも先行する。19号土坑は10号住居跡と重複し、住居跡が時期的に先行する。

Ａ－２類土坑のうち、遺物が出土したのは13・18・19号土坑で、18・19号土坑出土遺物を図化している。18号土坑から出土した遺物は267～282である。267～279は縄文土器である。267は押型文土器か。格子目文で軽しょうな胎土である。268は隆帯上に絡条体圧痕文が施されている。子母口式土器か。269～276は清水柳Ｅ類土器の範疇に入る資料か。このうち269～275は口縁部のみの破片資料である。269は口唇部直下に細い軸を有する絡条体圧痕文が横位に施されている。この269には炭化物が付着しており、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92028）した。その結果、7,960±40yrBP、すなわち縄文時代早期の^{14}Ｃ年代が測定されている。271は波状口縁である。274は横位の細隆起線文より上位に穿孔している。また口唇部から約６㎝の位置にも穿孔がなされている。緩く外反する資料である。275は口唇部に刺突文、口唇部直下には斜位の沈線文を施している。276は胴部のみの破片資料である。沈線文が格子状に施されている。277は縦位沈線文土器か。278は打越式土器か。胴部のみの破片資料である。279は無文土器である。口縁部のみの破片資料である。口唇部直下に穿孔を試みた痕跡が認められる。未貫通である。

7号土坑

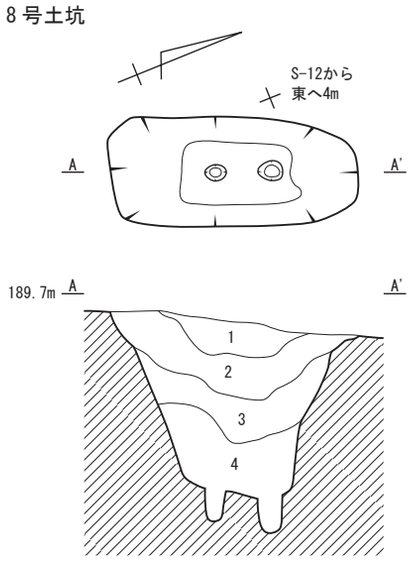


1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り弱い
径2～3㎜程度の赤褐色スコリア、少量の
径1～10㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
少量の径2～5㎜程度の赤褐色スコリア、
径2～50㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。

3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性強い・締り無し
FB相当土と黄褐色土の混合土。

8号土坑



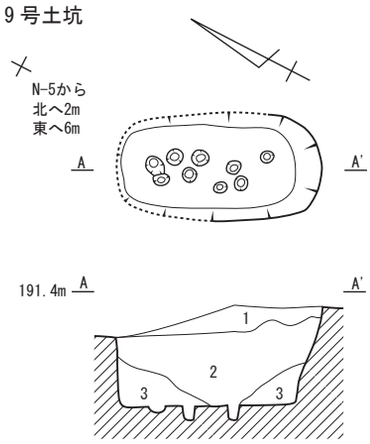
1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り弱い
少量の径2㎜程度の橙色スコリア、
少量の径10～20㎜程度の黄褐色土塊、
微量の径1～2㎜程度の黒色土粒が混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
少量の径1～2㎜程度の赤褐色スコリア、
微量の径2㎜程度のYL相当土粒
径20㎜～拳大の黒色土塊が混じる。

3　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
YL相当土主体。径20～30㎜程度の黒色土塊が
混じる。

4　暗褐色(7.5YR3/3)土層　粘性強い・締り弱い
微量の径3～5㎜程度の赤褐色スコリア、
少量の径1～2㎜程度の黒色土粒、
微量の径2～5㎜程度の黄褐色土粒が混じる。

9号土坑

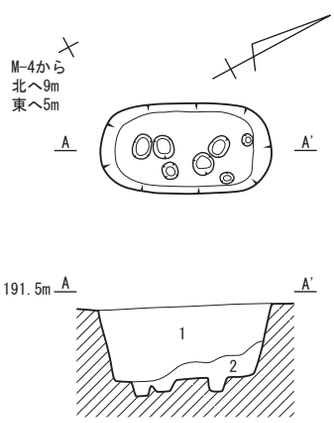


1　黄褐色(10YR5/8)土層　粘性有り・締り強い
YL相当土主体。
径2㎜程度の赤褐色スコリア、径3～5㎜程度の
黒褐色スコリアを含む。

2　黄褐色(10YR5/8)土層　粘性有り・締り強い
YL相当土主体。
径2～8㎜程度の赤褐色スコリア、径2～10㎜
程度の黒褐色スコリアを含む。

3　黄褐色(10YR5/8)土層　粘性有り・締り強い
YL相当土主体。
径2～10㎜程度の赤褐色スコリア、径5～10㎜
程度の黒褐色スコリアを含む。
1・2層に比してスコリアの量が若干多い。

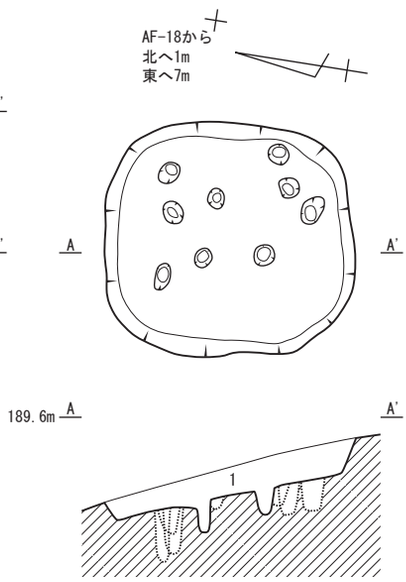
10号土坑



1　黄褐色(10YR5/8)土層
粘性有り・締り有り
YL相当土主体。
少量の径5㎜程度の
赤褐色スコリアを含む。

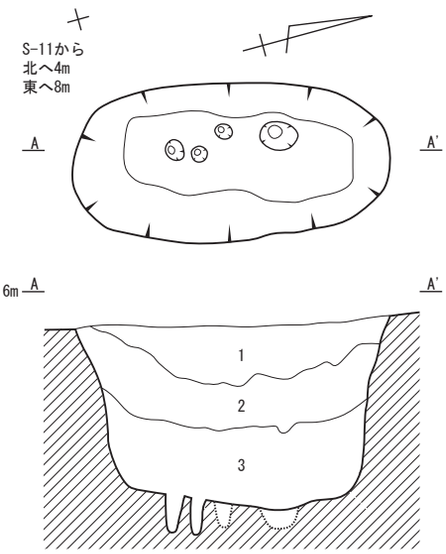
2　黄褐色(10YR5/8)土層
粘性有り・締り強い
YL相当土主体。
微量の径3～5㎜程度の
赤褐色スコリア、
微量の径2～3㎜程度の
黒褐色スコリアを含む。

11号土坑



1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
YL相当土主体。少量の径1～3㎜程度の
黒褐色土粒が混じる。

12号土坑



1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
径2～3㎜程度の赤褐色スコリア、
径2～10㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。

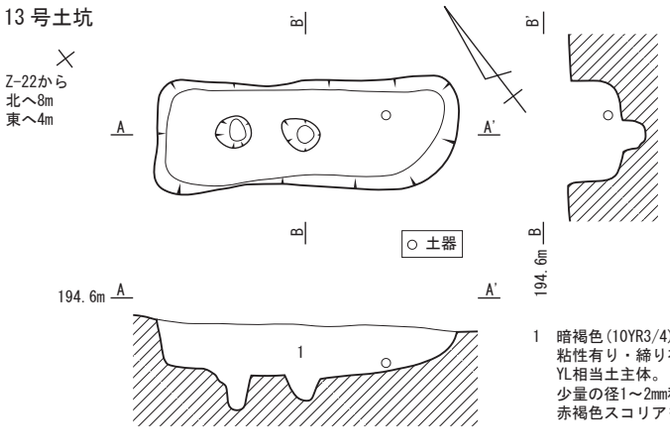
2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
径2～10㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。

3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
径2～10㎜程度のYL相当土塊が多量に混じる。

0　1:40　1m

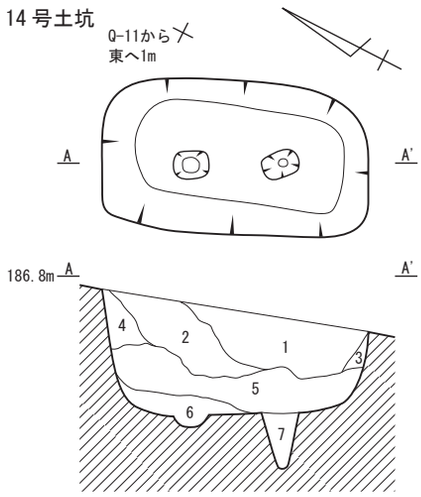
第 66 図　縄文時代の土坑２

13号土坑



1　暗褐色(10YR3/4)土層
粘性有り・締り有り
YL相当土主体。
少量の径1～2mm程度の
赤褐色スコリアを含む。

14号土坑



1　にぶい黄褐色(10YR5/3)土層　粘性有り・締り有り
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、少量の径10～50mm
程度のYL相当土塊が混じる。

2　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性有り・締り有り
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、微量の径1～20mm
程度のYL相当土粒・塊が混じる。

3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、径1～2mm程度の
YL相当土粒が混じる。

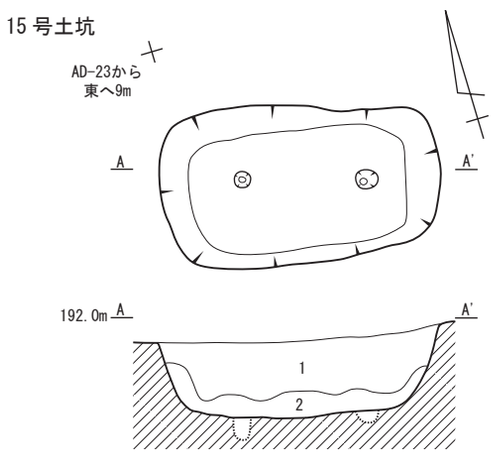
4　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、径1～30mm程度の
明黄褐色土粒・塊が混じる。

5　にぶい黄褐色(10YR5/3)土層　粘性有り・締り有り
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、多量の径10～50mm
程度のYL相当土塊が混じる。

6　黄褐色(10YR5/8)土層　粘性有り・締り弱い
YL相当土主体。少量の径1～3mm程の赤褐・
黒色スコリア、径1～2mm程度の黒褐色土粒が混じる。

7　黄褐色(10YR5/8)土層　粘性有り・締り弱い
径1～10mm程度の黒褐色土粒・塊が混じる。

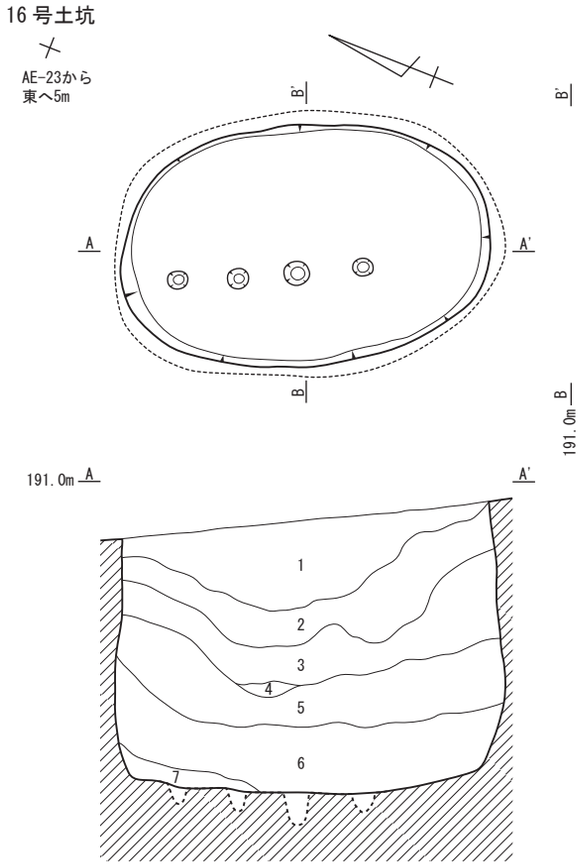
15号土坑



1　黒褐色(10YR2/3)土層
粘性有り・締り強い
径30mm程度の褐色土塊が
混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層
粘性有り・締り有り
多量の径2mm程度の
赤褐色スコリアを含む。

16号土坑



1　黒暗褐色(10YR3/2)土層　粘性有り・締り有り
少量の径3mm程度の赤褐色スコリアを含む。

2　黒褐色(10YR3/2)土層　粘性有り・締り有り
少量の径3mm程度の赤褐色スコリアを含み、
少量の径2mm程度のYL相当土粒が混じる。

3　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性有り・締り有り
多量の径2mm程度の黄褐色土粒が混じる。

4　褐色(10YR4/6)土層　粘性有り・締り有り

5　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
径3～5mm程度の黄褐色土粒が混じる。

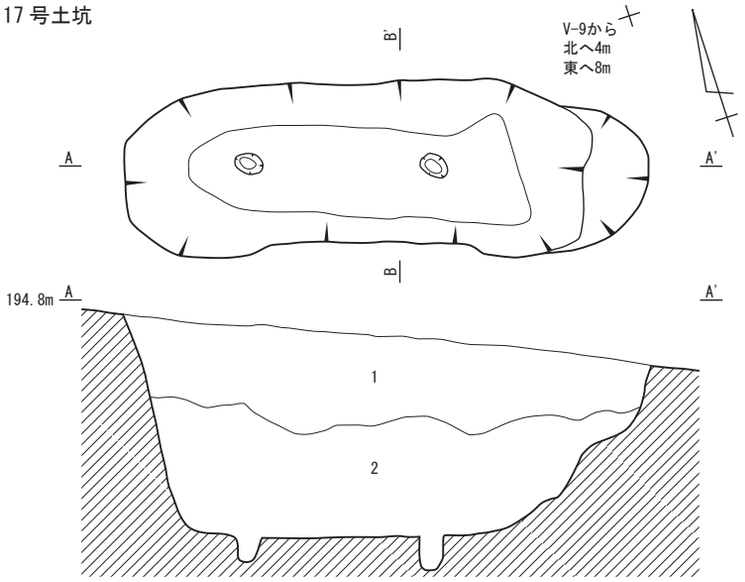
6　黒褐色(10YR3/2)土層　粘性有り・締り強い
少量の径2mm程度の赤褐色スコリアを含む。

7　暗褐色(10YR3/2)土層　粘性有り・締り強い
多量の径50mm程度の黄褐色土塊、黒褐色土粒が
混じる。

0　1:40　1m

第67図　縄文時代の土坑3

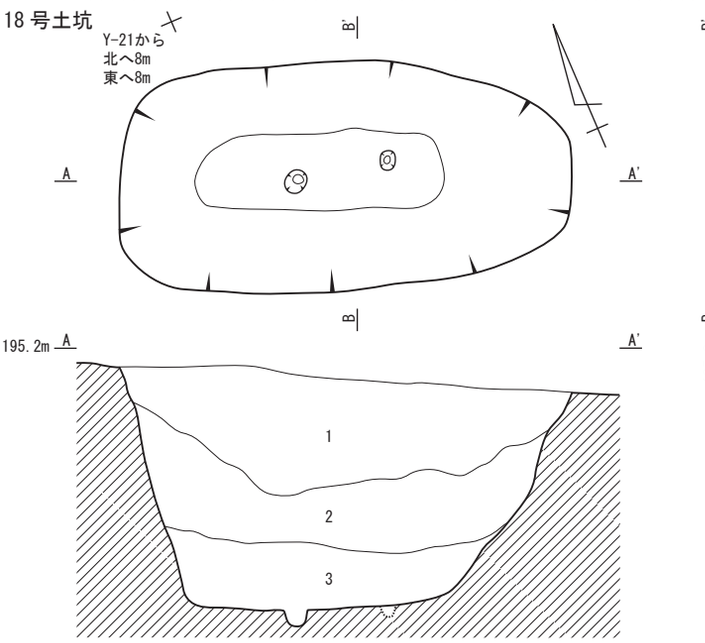
17 号土坑



1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
　少量の径2～3mm程度の黒褐色スコリア、
　少量の径3～5mm程度の炭化物粒が混じる。

2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り強い
　少量の径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
　微量の径1～5mm程度の炭化物粒が混じる。

18 号土坑

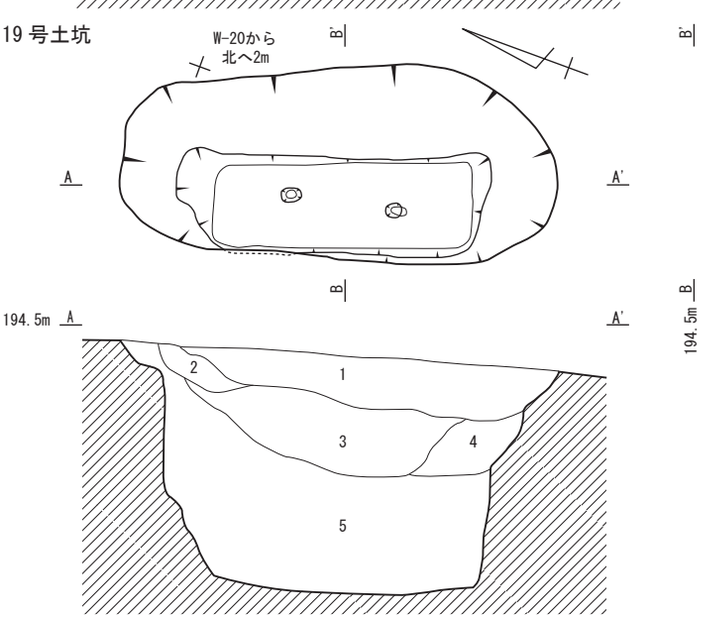


1　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性弱い・締り有り
　少量の径1～5mm程度の焼土粒、
　微量の径0.5～1mm程度の炭化物粒、
　微量の径1～2mmのYL層相当土粒が混じる。

2　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性有り・締り弱い
　径3～20mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

3　暗褐色(10YR2/2)土層　粘性強い・締り無し
　YL相当土とFB相当土の混合土。

19 号土坑



1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
　径2～3mm程度の赤褐色スコリアを含む。

2　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
　少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
　径1～2mm程度のYL相当土粒が混じる。

3　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
　少量の径2～3mm程度の赤褐色スコリアを含む。

4　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
　少量の径1～2mm程度の赤褐色スリア、径1～2mm程度の
　YL相当土粒が混じる。

5　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
　径2～3mm程度の赤褐色スコリア、少量の径1～2mm程度の
　YL相当土粒が混じる。

0　1:40　1m

第 68 図　縄文時代の土坑４

280～282は石器である。280・281は敲石、282は磨・敲石である。石材は281が輝石安山岩で、それ以外は多孔質玄武岩である。19号土坑から出土した遺物は283～294である。283～290は縄文土器である。283～289は第Ⅱ群２類に分類した清水柳Ｅ類土器で283～285は軸の太い絡条体圧痕文が施された破片資料である。286・287は軸の無い絡条体圧痕文が施されたもので、286は口縁部のみの破片資料である。288も口縁部のみの破片資料で、口唇部が平坦に仕上げられ、口唇部直下に細隆起線文が施されている。その細隆起線文上及び下位に細い軸を有する絡条体圧痕文が施されている。289は軸の細い絡条体圧痕文と格子目状の沈線文が施されている。この289には炭化物が付着しており、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92018）した。その結果、7,980±40yrBP、すなわち縄文時代早期の^{14}Ｃ年代が測定されている。290は口唇部を丸く仕上げ、縦位に沈線文を施した後に横位に磨消線文を施している。291～294は石器である。291は石鏃である。諏訪星ヶ台群の黒曜石を利用している。292は敲石、293は磨・敲石、294は石皿である。石材は292が輝石安山岩、それ以外は玄武岩である。これらの遺物が出土した18・19号土坑は中央尾根上に位置し、竪穴住居跡も周囲に多く展開する。出土した縄文土器の主体は清水柳Ｅ類土器という点が共通し、その多くが覆土上層の出土であるため、ほぼ同時期に土坑として機能し、流れ込んだ遺物として評価されよう。

Ｂ類（第69～73・75・76図　写真図版35・36・62）

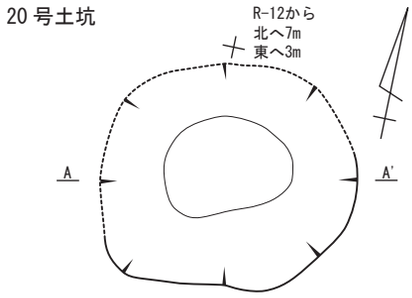
土坑底面に逆茂木痕と思しき小穴が認められないものをＢ類とし、平面形が円形～楕円形を呈するＢ－１類、平面形が長楕円形～長方形を呈するＢ－２類、平面形が不定形を呈するものをＢ－３類とした。

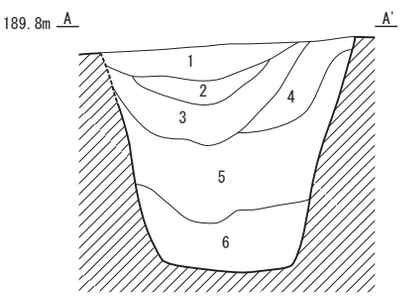
20～37号土坑はＢ－１類に該当する。長径：短径の比率は１：１～１：0.6の範疇に入るため、外観として円形に近い印象を与える遺構が多い。長径・短径の実測値は0.6～1.7m、0.4～1.4m程度であるが、休場層直下黒色帯、第Ⅰスコリア層にて検出された20～24・32～35号については土坑下半部のみである可能性もある。このＢ－１類は調査区全域で見られるが、特に西尾根～西支谷、３－１区周辺に集中する傾向がある。休場層上層上面で検出された37号土坑はＢ－１類で最大の平面計測値を測る。またＢ－１類に分類された土坑はＹＬ相当土を覆土とするものが６基あり、時期的には草創期に遡る可能性がある。Ｂ－１類土坑のうち、遺物が出土したのは37号土坑のみである。295～297は縄文土器である。295は口縁部の破片資料である。口唇部直下に隆帯を横位に貼付け、条痕文を施している。子母口式土器か。296は清水柳Ｅ類土器か。口縁部の破片資料で、口唇部は平坦に仕上げられている。絡条体圧痕文が横位に施されている。297は条痕文が観察される。37号土坑出土遺物については覆土第１層からの出土であり、土坑がＡＤ－20グリッド付近、中央尾根（北）の縁辺部に位置している点から、集落域から流れ込んだ遺物の可能性がある。

38～47号土坑はＢ－２類に該当する。長径：短径の比率は１：0.7～１：0.3の範疇に入る。平面形としては楕円形の他に長方形が見られる。長径・短径の実測値は0.7～2.1m、0.4～0.8m程度である。分布域は西尾根・西支谷・中央尾根付近に限られている。これらのうち38～40号土坑は第Ⅰスコリア層～第Ⅲ黒色帯面での検出であるため、土坑下位のみ検出した可能性がある。その39号土坑は長径2.06m、短径0.76m、深さ0.22mを測る狭長な外観を呈する。ニセローム層上面にて確認されたが、覆土は富士黒土層主体であるため、縄文時代の土坑である。42号土坑は他の土坑が多く見られる西支谷、Ｑ－10・11グリッド付近にて確認した。長径1.68m、短径0.70m、深さ1.30mを測る。休場層上層上面にて確認したもので、覆土も富士黒土層主体である。陥穴とし考えてよい遺構であろう。これらＢ－２類土坑のうち、47号土坑は遺物が出土しているが、細片資料のため掲載できなかった。

48～53号土坑はＢ－３類に該当する。48号土坑の平面形は長楕円形を呈し、底面の一部が深く掘り込まれ、段状を呈している。50号土坑は東尾根に位置する。陥穴であろう。51号土坑は長径2.58m、短径

20 号土坑





1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
　少量の径2～5mm程度の赤褐色スコリア、
　径5～10mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

2　赤暗褐色(5YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
　YL相当土主体。径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
　少量の径3mm程度の黒褐色スコリアを含む。

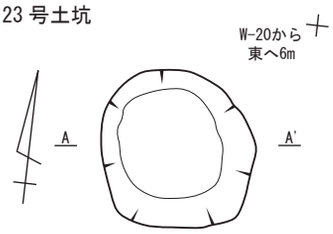
3　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
　YL相当土主体。
　少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
　微量の径3mm程度の黒褐色スコリアを含む。

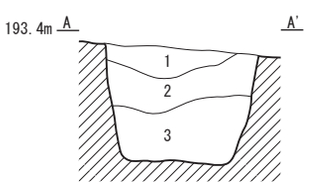
4　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
　YL相当土主体。
　少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
　微量の径3mm程度の黒褐色スコリアを含む。
　3層と比較してやや暗い。

5　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
　少量の径1～3mm程度の赤褐色スコリア、
　径3～5mm程度の黒褐色スコリア、
　微量の径2～3mm程度の黄褐色スコリアを含む。
　3層よりスコリアが多い。

6　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性強い・締り有り
　YL相当土主体。径3～5mm程度の黒褐色スコリア、
　微量の径2～3mm程度の黄褐色スコリアを含む。

23 号土坑



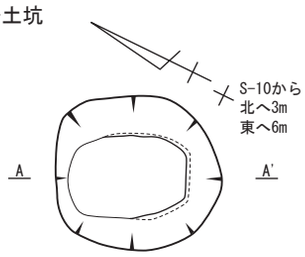


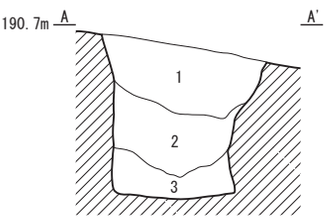
1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
　径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
　径2～5mm程度の青灰色スコリアを含む。

2　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り有り
　径2～5mm程度の赤褐色・青灰色スコリアを含む。

3　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り有り
　径2～3mm程度の赤褐色・青灰色スコリアを含む。

21 号土坑



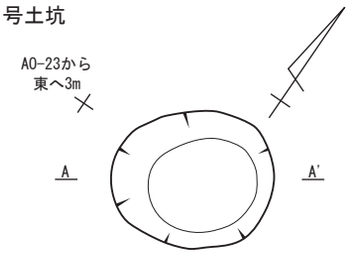


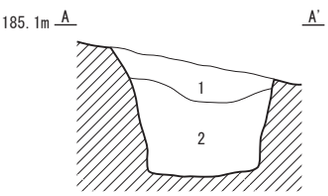
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り強い
　YL相当土主体。
　少量の径1～2mm程度の黒褐色土粒が混じる。

2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り強い
　YL相当土主体。
　少量の径5mm程度の赤褐色スコリアを含み、
　少量の径1～2mm程度の黒褐色土粒が混じる。

3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り有り
　径1～2mm程度の黒褐色土粒が混じる。

22 号土坑

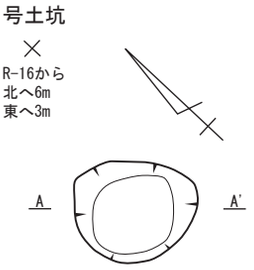


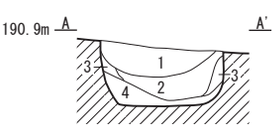


1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
　径3～5mm程度の赤褐色スコリアを含み、
　少量の径3mm程度の黒色土粒が混じる。

2　褐色(10YR4/4)土層　粘性強い・締り弱い
　多量の径3～5mm程度の褐色スコリア、
　径3～5mm程度の黒色スコリアを含む。

24 号土坑





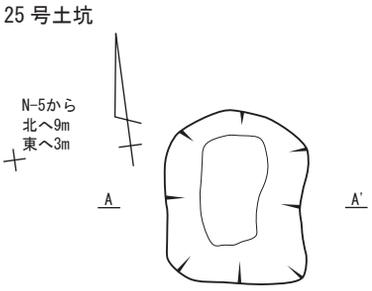
1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
　FB相当土主体。
　径1～3mm程度の赤褐色スコリア、少量の
　径1～10mm程度のYL相当土粒・塊、
　微量の径10～80mm程度のSCⅠ相当土塊、
　微量の径1～5mm程度の炭化物粒が混じる。

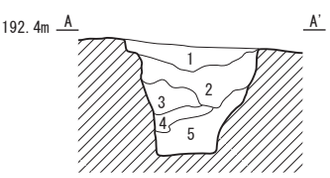
2　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
　YL相当土主体。
　径1～3mm程度の赤褐・黒褐色スコリア、
　径1～3mm程度のFB相当土粒が混じる。

3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
　SCⅠ相当土主体。
　径1～5mm程度の赤褐・黒褐色スコリアを含む。

4　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
　FB相当土主体。
　径1～3mm程度の赤褐色スコリア、少量の
　径1～5mm程度のYL相当土粒が混じる。

25 号土坑





1　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
　多量のYL相当土粒が混じる。

2　褐色(10YR4/6)土層　粘性有り・締り有り
　径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
　YL相当土粒が混じる。

3　褐色(7.5YR4/4)土層　粘性有り・締り有り
　径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
　少量のYL相当土粒が混じる。

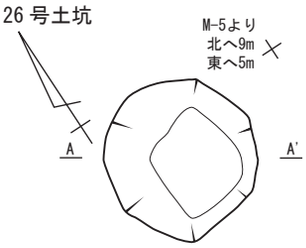
4　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
　多量のYL相当土粒が混じる。

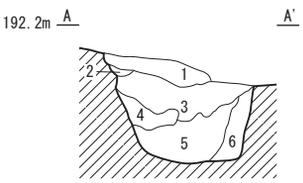
5　褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
　径2～3mm程度の赤褐色スコリアを含む。

0　1:40　1m

第 69 図　縄文時代の土坑５

26号土坑





1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
少量の径2～3mm程度の炭化物粒、
YL相当土粒が混じる。

2　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り有り
径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
多量のYL相当土粒が混じる。

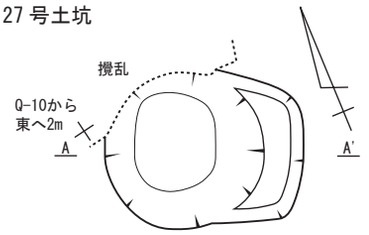
3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
径2～3mm程度の炭化物粒、YL相当土塊が混じる。

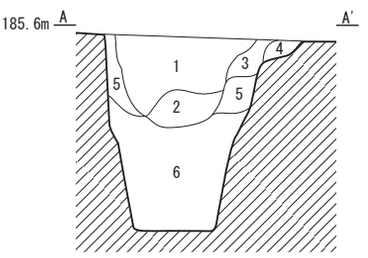
4　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り有り
径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
YL相当土粒が混じる。

5　黒褐色(10YR3/2)土層　粘性有り・締り有り
径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
少量のYL相当土粒が混じる。

6　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性有り・締り有り
径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
多量のYL相当土塊が混じる。

27号土坑





1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り有り
FB相当土主体。径3～5mm程度の赤褐色スコリア、
微量の径5～30mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
FB相当土主体。径3～5mm程度の赤褐色スコリア、
多量の径10～50mm程度のYL相当土塊が混じる。

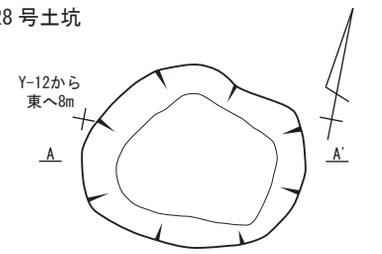
3　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り有り
FB相当土主体。径3～5mm程度の赤褐色スコリア、
径1～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

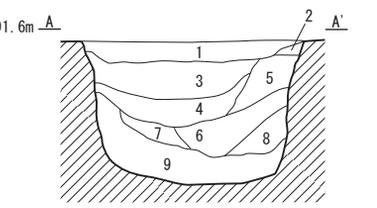
4　黄褐色(10YR5/6)土層　粘性弱い・締り有り
径1～5mm程度の赤褐色スコリア、径1～3mm程度の
黒褐色スコリアを含み、径1～50mm程度の
YL相当土粒・塊、径10～30mm程度のFB相当土塊が
混じる。

5　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
FB相当土主体。径3～5mm程度の赤褐色スコリア、
多量の径1～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

6　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
FB相当土主体。径1～3mm程度の赤褐色スコリア、
多量の径1～50mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

28号土坑





1　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
径1～2mm程度のYL相当土粒が混じる。

2　黄褐色(10YR5/6)土層　粘性有り・締り弱い
径20～30mm程度のYL相当土塊が混じる。

3　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、多量の
径2～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

4　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、多量の
径2～5mm程度のYL相当土粒が混じる。

5　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、散漫に
径20～30mm程度のYL相当土塊が混じる。

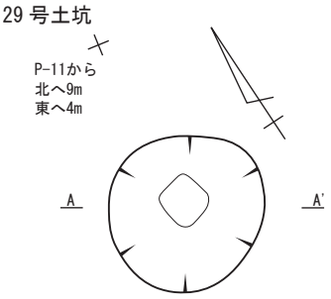
6　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
微量の径1～2mm程度の赤褐色スコリアを含み、
少量の径1～2mm程度のYL相当土粒が混じる。

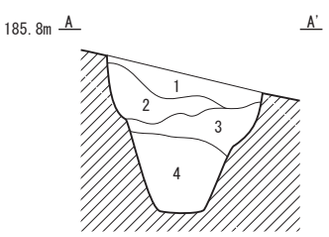
7　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
微量の径1～2mm程度のYL相当土粒が混じる。

8　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
少量の径1～2mm程度のYL相当土粒が混じる。

9　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
多量の径1～2mm程度のYL相当土粒が混じる。

29号土坑





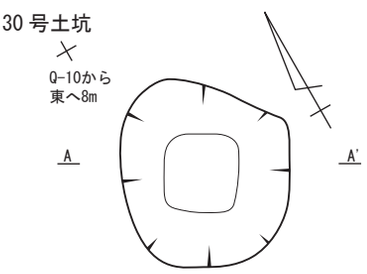
1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
FB相当土主体。径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
少量の径1～10mm程度のYL相当土粒・塊、
微量の径1～2mm程度の炭化物粒が混じる。

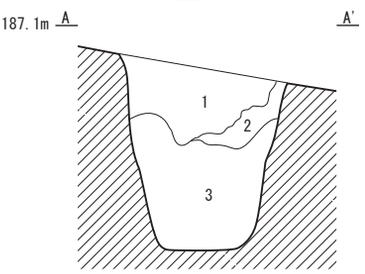
2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
FB相当土主体。色調は1層に比して暗く、
径5～10mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
FB相当土主体。締りは1層に比して若干強い。

4　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
炭化物の混入は認められない。

30号土坑



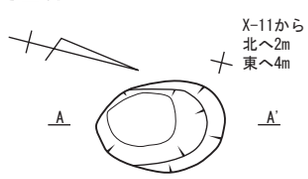


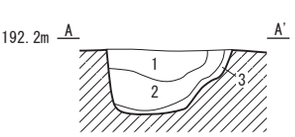
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性有り・締り有り
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、少量の
径10～50mm程度のYL相当土塊が混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、
径10～30mm程度の明黄褐色土塊が混じる。

3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り弱い
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、少量の
径１～50mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

31号土坑





1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
FB相当土主体。径1～3mm程度の赤褐色スコリア、
径1～50mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

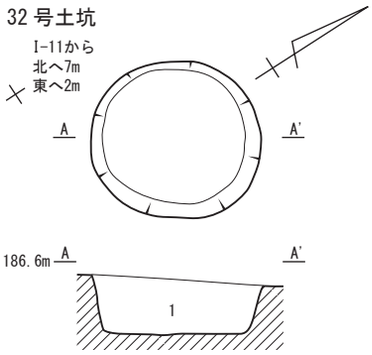
2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
FB相当土主体。径1～3mm程度の赤褐色スコリア、
少量の径1～5mm程度のYL相当土粒が混じる。

3　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
FB相当土主体。径1～3mm程度の赤褐色スコリア、
径1～50mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

0　1:40　1m

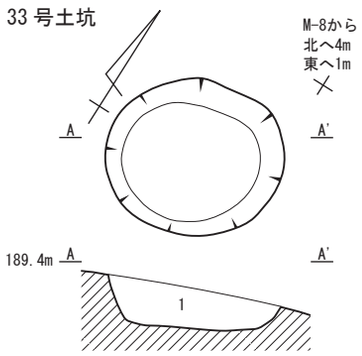
第70図　縄文時代の土坑6

32 号土坑



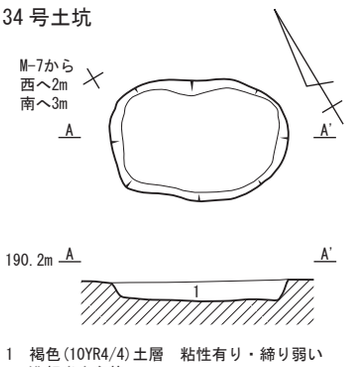
1　褐色(10YR4/6)土層　粘性有り・締り有り
YL相当土主体。
径1～2㎜程度の赤褐色スコリアを含む。

33 号土坑



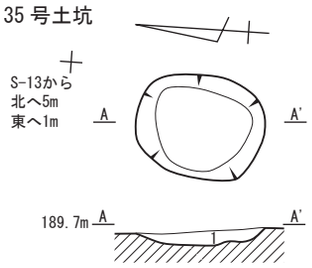
1　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
YL相当土主体。
径2～5㎜程度の赤褐・青灰色スコリアを含む。

34 号土坑



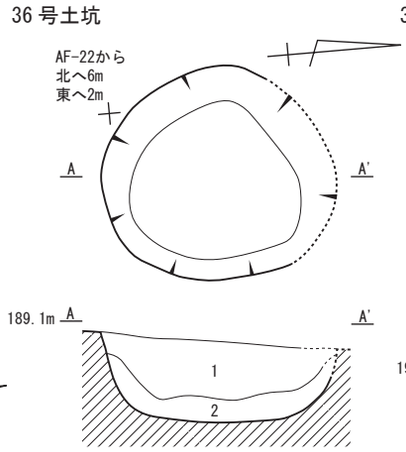
1　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
YL相当土主体。
径2～5㎜程度の赤褐・青灰色スコリアを含む。

35 号土坑



1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
微量の径1～2㎜程度の炭化物粒が混じる。

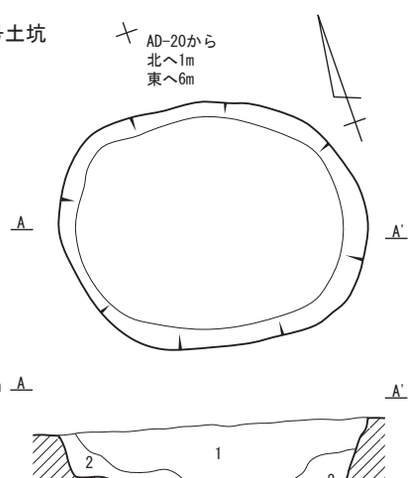
36 号土坑



1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り有り
微量の径1～2㎜程度の赤褐色スコリアを含む。

2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
微量の径1～3㎜程度の赤褐色スコリア、
少量の径1～2㎜程度のYL相当土粒が混じる。

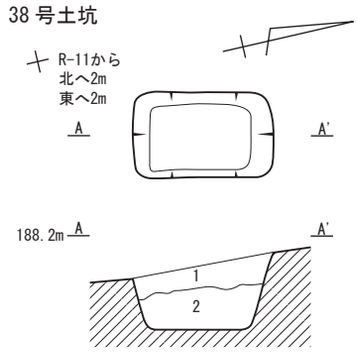
37 号土坑



1　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性有り・締り強い
径3～5㎜程度の橙色スコリア、径10～30㎜程度の
YL相当土塊が混じる。

2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
FB相当土とYL相当土の混合土。
少量の径3～5㎜程度の橙色スコリア、
径2～50㎜程度のYL相当土粒・塊が混じる。

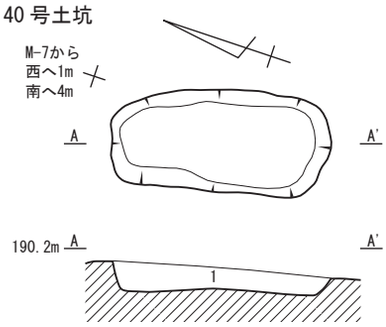
38 号土坑



1　黄褐色(10YR5/8)土層　粘性有り・締り有り
YL相当土主体。径3～5㎜程度の赤褐色スコリア、
径1～3㎜程度の黒褐色スコリアを含む。

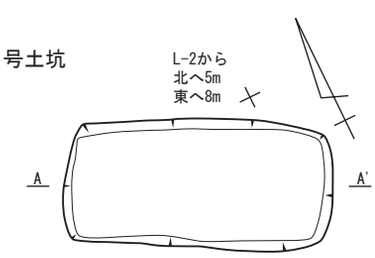
2　黄褐色(10YR5/8)土層　粘性有り・締り有り
色調は1層に比して若干暗い。
YL相当土主体。径3～5㎜程度の赤褐色スコリア、
径1～3㎜程度の黒褐色スコリアを含む。

40 号土坑



1　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
YL相当土主体。
径2～5㎜程度の赤褐・青灰色スコリアを含む。

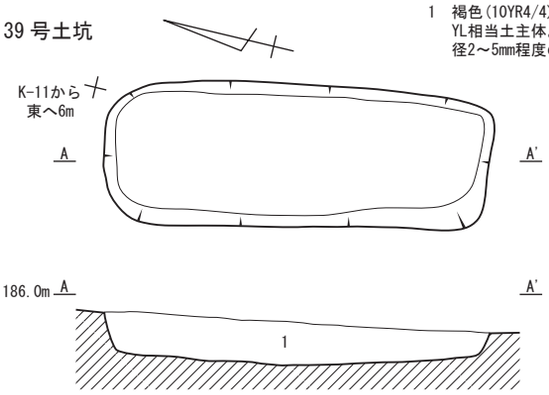
41 号土坑



1　黄褐色(10YR5/6)土層　締りやや弱い
YL相当土主体。
少量の径2～5㎜程度の炭化物粒が混じる。

2　黄褐色(10YR4/6)土層　締りやや弱い
YL相当土主体。径10～20㎜の炭化物塊が多い。

39 号土坑

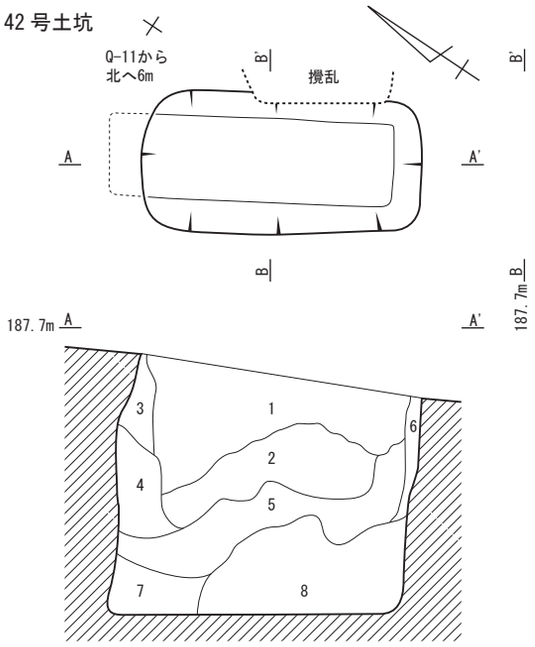


1　暗褐色(10YR3/4)土層
粘性有り・締り有り
FB相当土主体。
径2～3㎜程度の赤褐色スコリア、
径3～5㎜程度の暗褐色スコリア
を含む。

0　1:40　1m

第 71 図　縄文時代の土坑 7

42号土坑



1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り有り　FB相当土主体。
径1～5 mm程度の赤褐色スコリア、少量の径1～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

2　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り有り　FB相当土主体。
色調は1層に比して若干暗い。径1～5 mm程度の赤褐色スコリア、
少量の径1～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

3　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い　FB相当土主体。
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、多量の径1～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

4　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り　FB相当土主体。
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、多量の径1～50mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

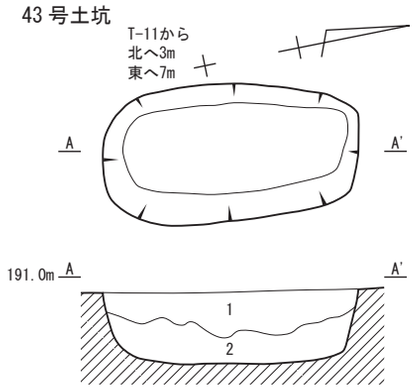
5　暗褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り有り　FB相当土主体。
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、径1～30mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

6　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い　FB相当土主体。
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、多量の径1～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

7　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り有り　FB相当土主体。
径1～5 mm程度の赤褐色スコリア、少量の径1～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

8　暗褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り有り　FB相当土主体。
径1～3mm程度の赤褐色スコリア、多量の径1～100mm程度のYL相当土粒・塊、
径1～30mm程度の黒褐色土粒・塊が混じる。

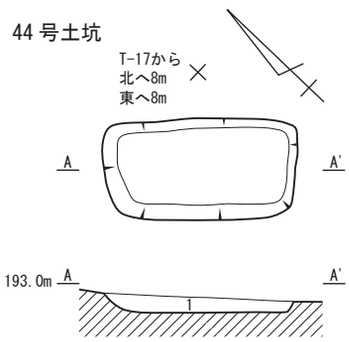
43号土坑



1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り有り
径20mm程度のYL相当土、少量の径1～3mm程度の炭化物粒が混じる。

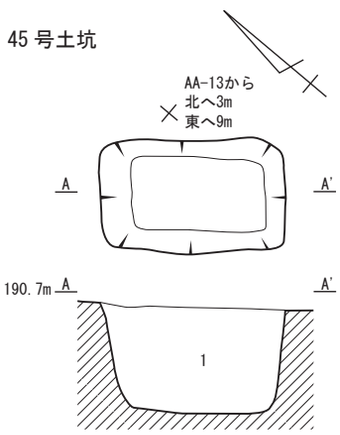
2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り強い
多量の径20mm程度のYL相当土、少量の径1～3mm程度の炭化物粒が
混じる。

44号土坑



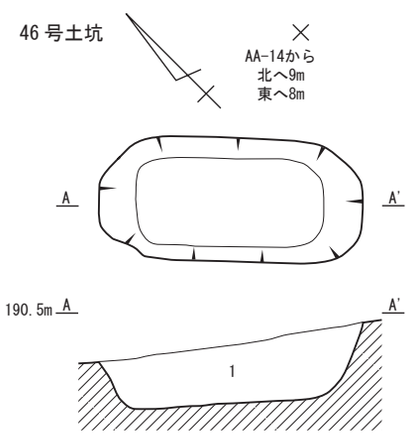
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り弱い
FB相当土主体。径1～3mm程度の赤褐色スコリアを含み、
径1～5mm程度のYL相当土粒、微量の径1～3mm程度の
炭化物粒が混じる。

45号土坑



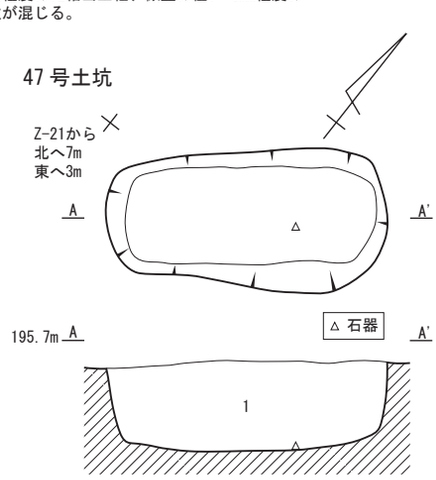
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り弱い
少量の径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
少量の径5～200mm程度のYL相当土粒・塊が
混じる。

46号土坑



1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り弱い
少量の径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
径5～200mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

47号土坑

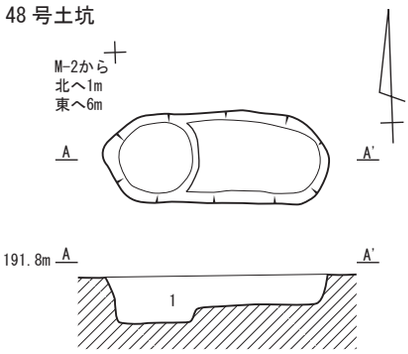


1　黒褐色(10YR3/2)土層　粘性有り・締り弱い
KGP相当土とSNZ相当土の混合土。少量の径10～50mm程度の
黒褐色土塊、径5～100mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

0　1:40　1m

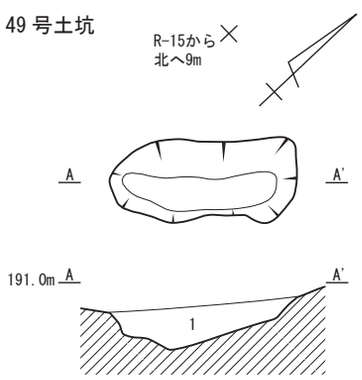
第72図　縄文時代の土坑8

48 号土坑



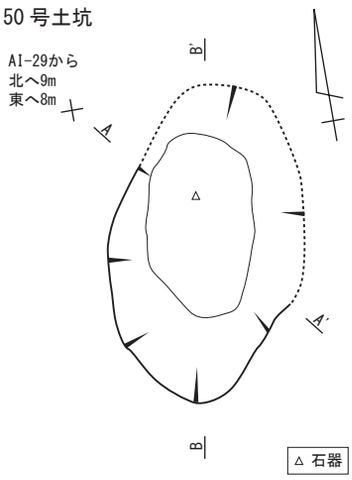
1　褐色(10YR4/6)土層　粘性強い・締り有り
落ち込んだYLM相当土。
径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
径3～5mm程度の青灰色スコリアを含む。

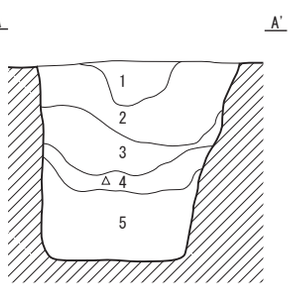
49 号土坑

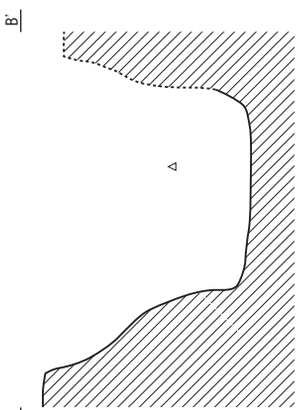


1　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
YL相当土主体。多量の径2～5mm程度の
赤褐・青灰色スコリアを含む。

50 号土坑







1　AN相当土

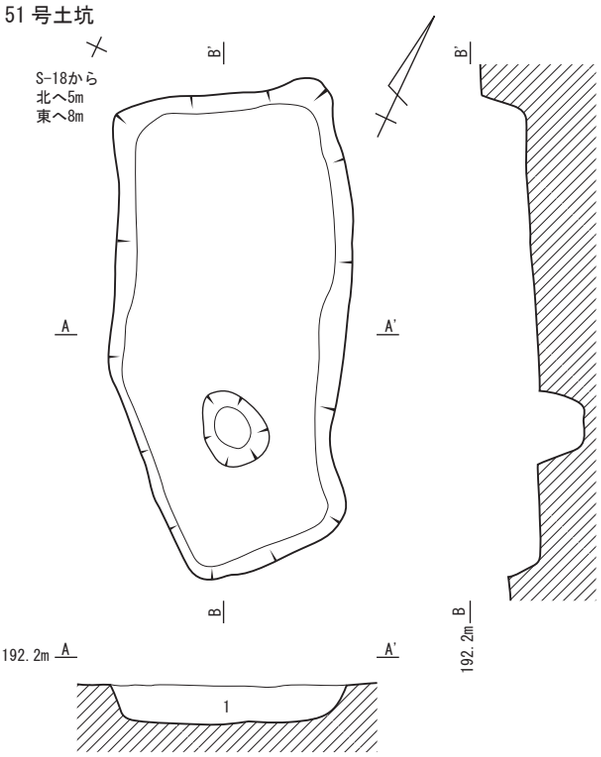
2　KU相当土

3　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性無し・締り強い
少量の径2～3mm程度の橙色スコリア、
多量の径2～3mm程度の炭化物粒が混じる。

4　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性無し・締り強い
微量の径2～3mm程度の橙色スコリア、
少量の径2～3mm程度の炭化物粒が混じる。

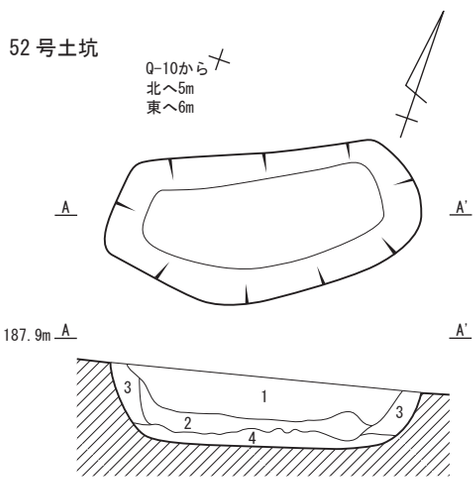
5　褐色(7.5YR4/4)土層　粘性弱い・締り弱い
微量の径5mm程度の橙色スコリア、
少量の径5mm程度の炭化物粒が混じる。

51 号土坑



1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り有り FB相当土主体。
少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリアを含み、少量の径2～5mm程度の
黄褐色土粒が混じる。

52 号土坑



1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性有り・締り有り
FB相当土主体。径1～3mm程度の赤褐色スコリア、
多量の径10～50mm程度のYL相当土塊、
微量の径1～2mm程度の炭化物粒が混じる。

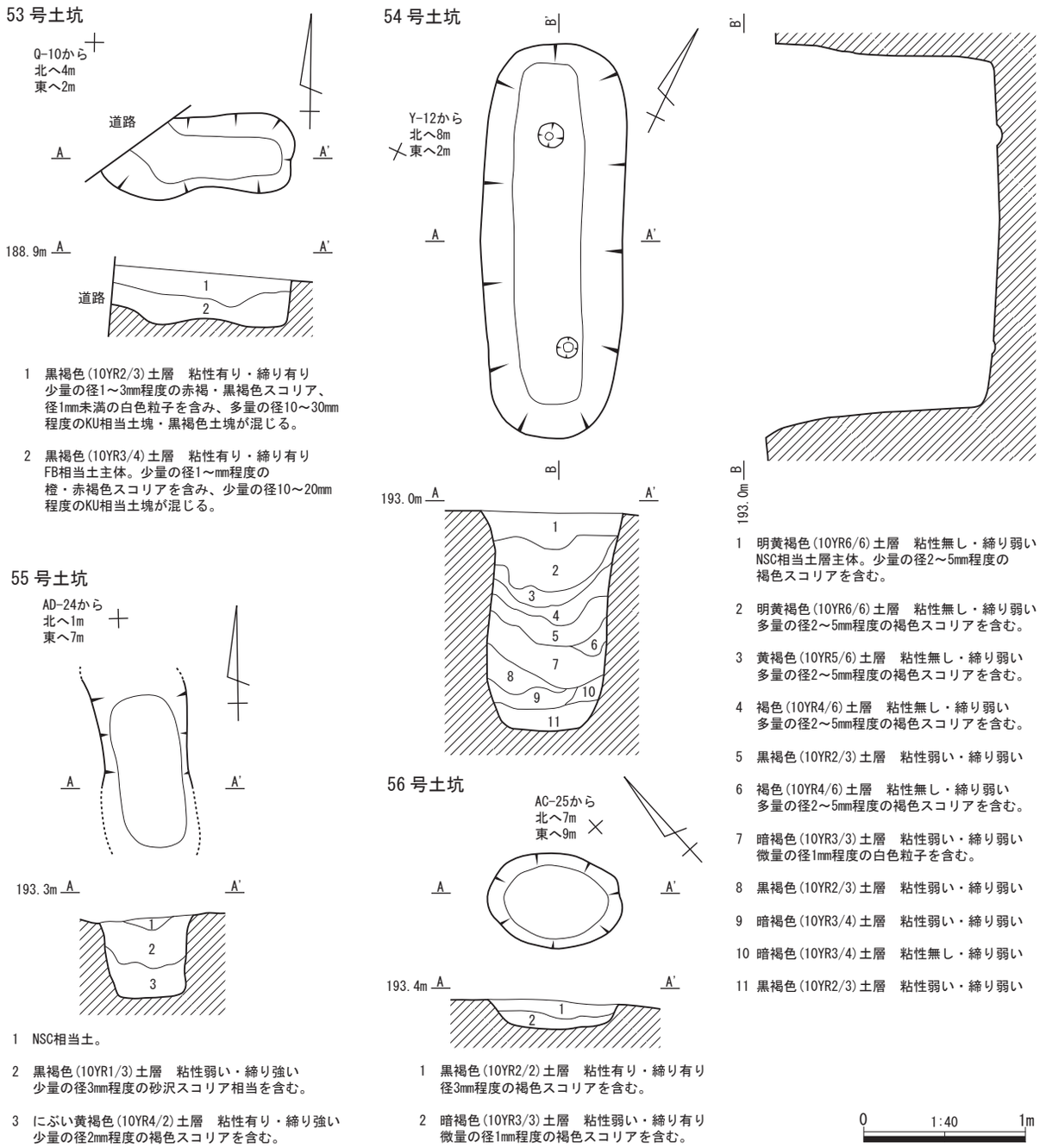
2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
FB相当土主体。径1～3mm程度の赤褐色スコリア、
少量の径1～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

3　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
FB相当土主体。径1～3mm程度の赤褐色スコリア、
多量の径1～3mm程度のYL相当土粒が混じる。

4　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性有り・締り有り
径1～5mm程度の赤褐色スコリア、径1～3mm程度の
黒褐色スコリアを含み、径1～20mm程度の
FB相当土粒・塊が混じる。

0　1:40　1m

第 73 図　縄文時代の土坑９

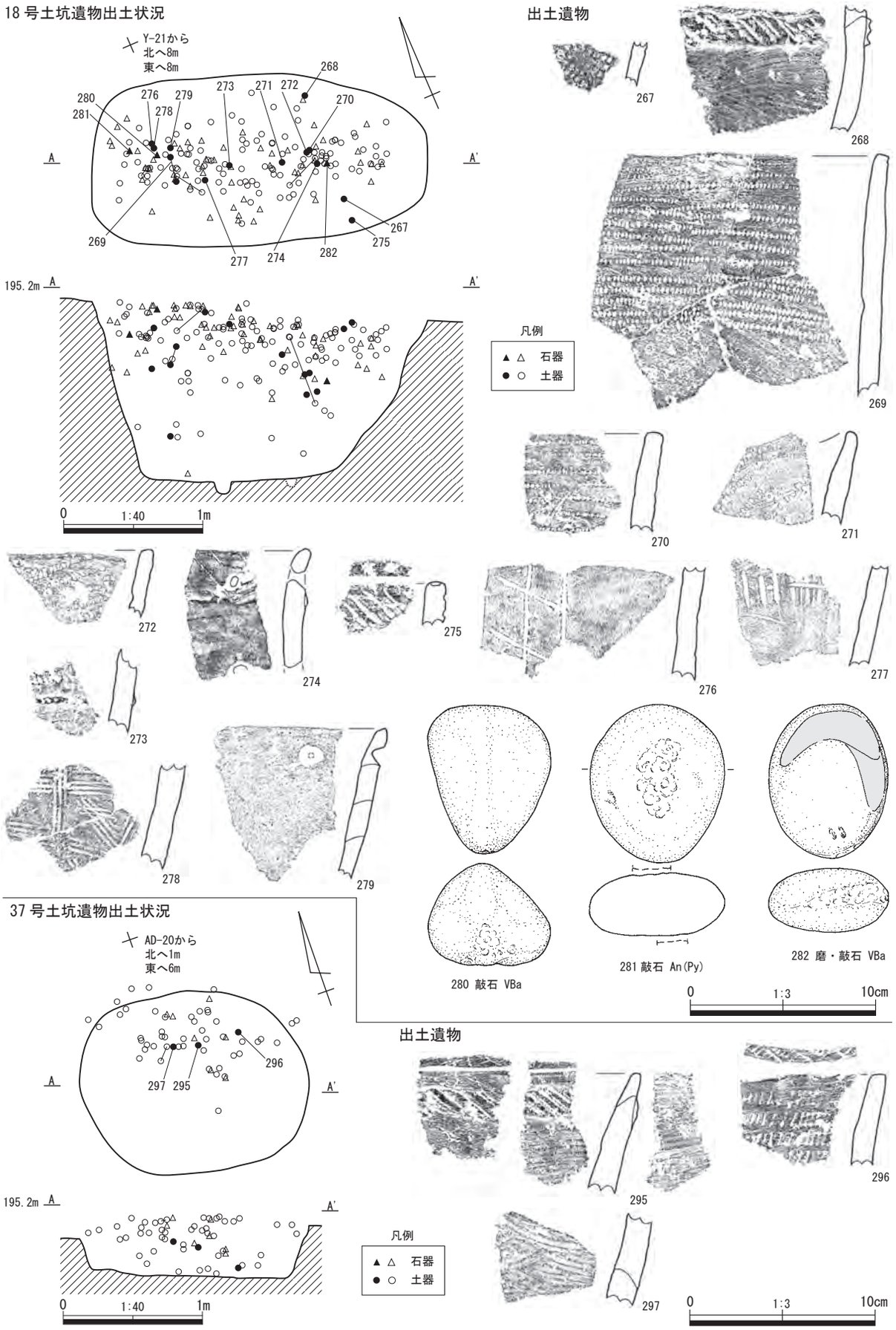


第 74 図　縄文時代の土坑 10

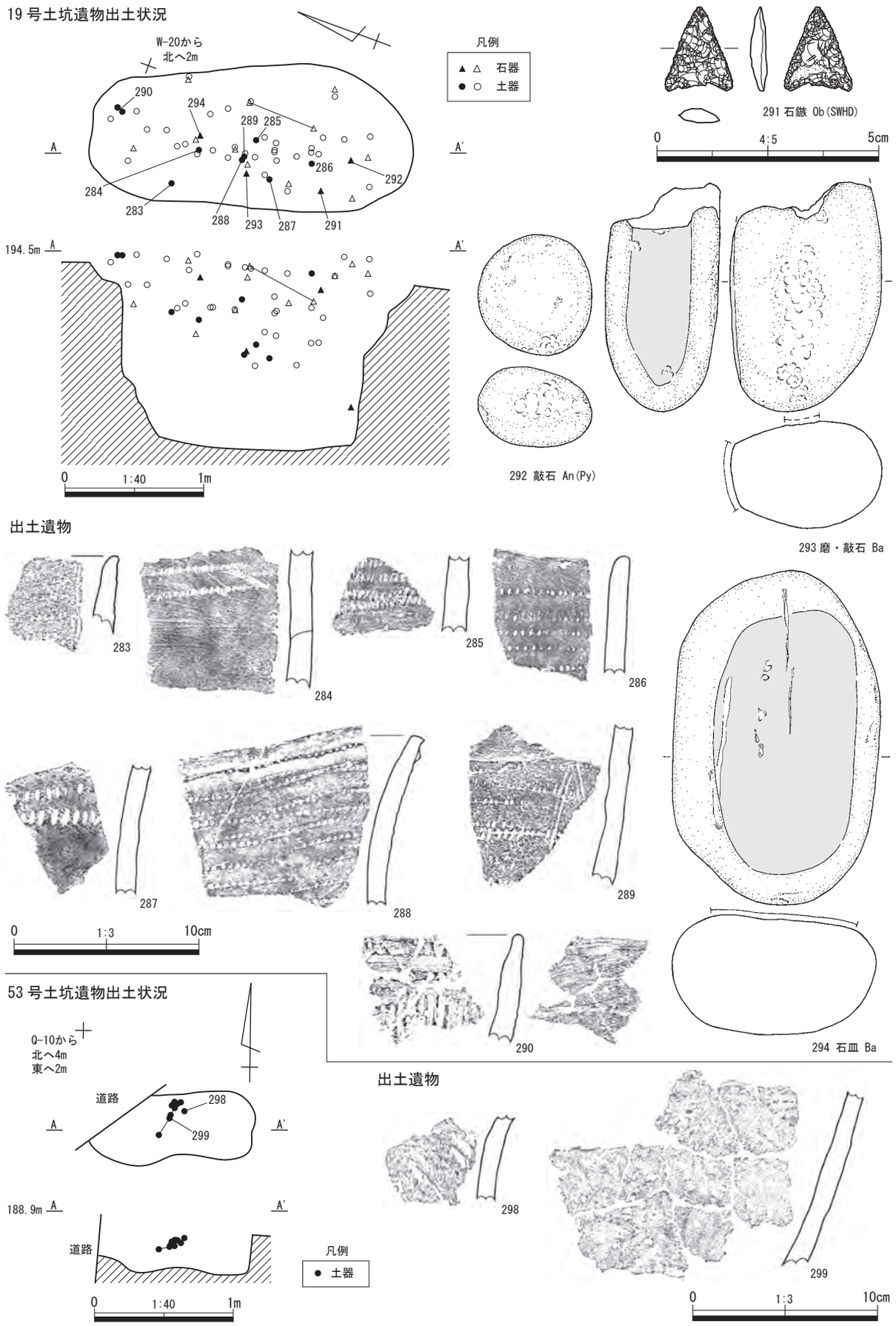
1.25m、深さ0.20mを測る。底面に小土坑を設けている。これらＢ－３類土坑のうち土器が出土したのは53号土坑である。298・299は縄文土器である。両者とも型式が不明であるが、縄文時代前期の所産と考えられる。298は縄文が施されているが、判然としない。

縄文時代後期以降の土坑（第74・76図　写真図版36）

54～56号土坑はカワゴ平パミス層上面で確認された土坑である。なかでもＡ－２類に分類した54号土坑は陥穴と考えられ、東支谷でも東尾根と中央尾根に挟まれた区域に位置している。長径2.42m、短径0.89m、深さ1.34mを測る。底面に浅い小穴が２基間隔を開けて設けられている。覆土は11層に分層され、第１層は新期スコリア層を主体であるため、スコリア降灰時には既に陥穴としての機能は完全に失われていたと理解する。55号土坑も同様で覆土第１層に新期スコリア層が認められる。

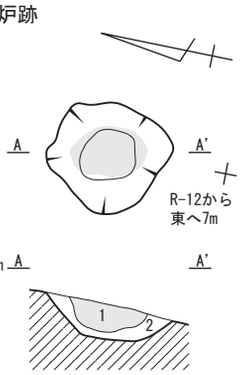


第 75 図　縄文時代の土坑遺物出土状況と出土遺物１



第 76 図　縄文時代の土坑遺物出土状況と出土遺物 2

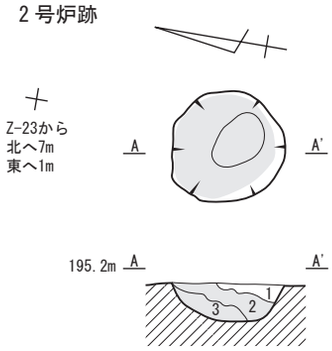
1 号炉跡



1　褐色(10YR4/4)土層　粘性弱い・締り弱い
YL相当土主体。
多量の径1～2mm程度の焼土粒が混じる。

2　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り弱い
YL相当土主体。
径1～2mm程度の焼土粒が混じる。

2 号炉跡

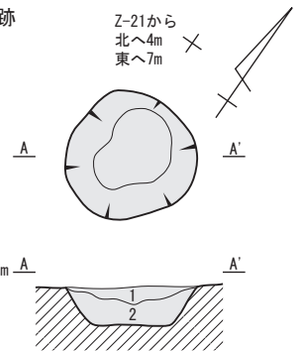


1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り強い
少量の径1～10mm程度の焼土粒・塊、
微量の径0.5～1mm程度の炭化物が混じる。

2　暗赤褐色(5YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
多量の径1～10mm程度の焼土粒・塊が混じる。
焼土とFB相当土の混合土。

3　暗赤褐色(5YR3/6)土層　粘性無し・締り弱い
多量の径1～5mm程度の焼土粒・塊、
微量の径0.5～2mm程度の炭化物が混じる。

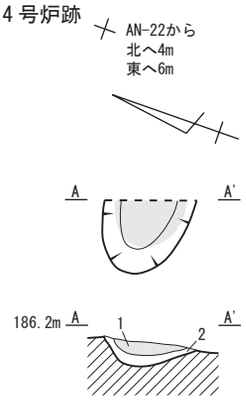
3 号炉跡



1　暗赤褐色(5YR3/4)土層　粘性有り・締り弱い
径3～10mm程度の焼土粒・塊、
少量の径0.5～1mm程度の炭化物粒が混じる。

2　暗赤褐色(5YR3/4)土層　粘性無し・締り有り
多量の径5～10mm程度の焼土塊、
微量の径0.5～1mm程度の炭化物粒が混じる。

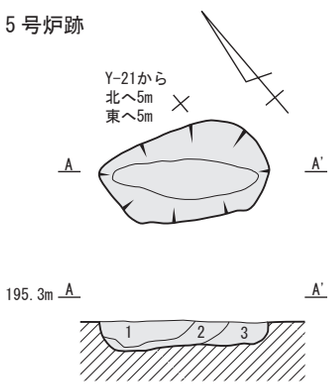
4 号炉跡



1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性無し・締り有り
径5～10mm程度の焼土粒・塊、
少量の径1～2mm程度の炭化物が混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り強い
少量の径1mm程度の焼土粒、
微量の径0.5～1mm程度の炭化物粒が混じる。

5 号炉跡

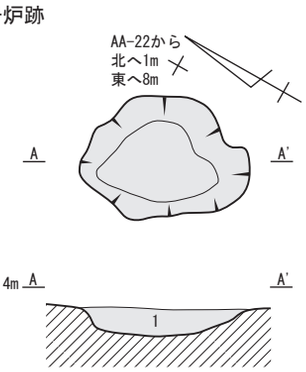


1　暗赤褐色(5YR3/6)土層　粘性有り・締り有り
少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
径1～2mm程度の焼土粒が混じる。

2　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り強い
径1～2mm程度の焼土粒が混じる。

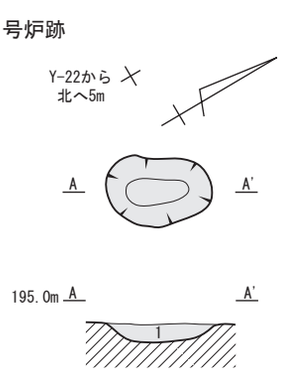
3　暗赤褐色(5YR3/6)土層　粘性有り・締り有り
少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
径1～2mm程度の焼土粒が混じる。

6 号炉跡



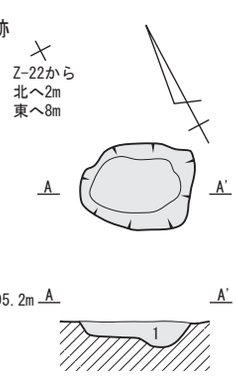
1　暗赤褐色(5YR3/6)土層　粘性有り・締り強い
径1～10mm程度の焼土粒・塊、
径1～5mm程度の炭化物粒が混じる。

7 号炉跡



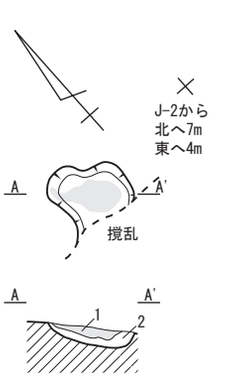
1　暗赤褐色(5YR3/6)土層　粘性弱い・締り有り
焼成層。
微量の径0.5～1mm程度の炭化物粒が混じる。

8 号炉跡



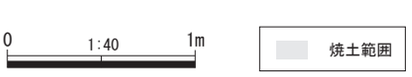
1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
径1～10mm程度の焼土粒・塊、
微量の径5mm程度の炭化物粒が混じる。

9 号炉跡



1　焼土集中(5YR5/8)土層
発達した焼土塊が厚く集中する。

2　褐色(10YR4/4)土層　粘性無し・締り弱い
少量の径1～2mm程度の焼土粒、
少量の径1～2mm程度の炭化物粒が混じる。



第 77 図　縄文時代の炉跡 1

４　炉跡（ＦＰ）

縄文時代の炉跡と考えられる遺構は20基を数え、そのうち15基について図化している。炉跡は主に中央尾根にて多く確認されているが、谷地形内部でも確認されている。炉跡の平面形態では主に楕円形・円形・不定形の３タイプに分類が可能である。削平・撹乱等により破壊されずに検出された炉跡の計測値では、大部分の炉跡は長径0.4～1.0m、短径0.3～0.7m程度の大きさである。また炉石等の存在は判然としなかった。そもそも狩猟用の陥穴とは異なり、炉自体が深度を必要としないため、炉跡を確認した層面がさほど該期の生活面との高低差が少ないものと想像される。なお炉跡は現地調査時には「焼土」と呼称していたが、報告書刊行にあたり「炉跡」として名称を変更している。

縄文時代前期までの炉跡（第77・78図　写真図版37）

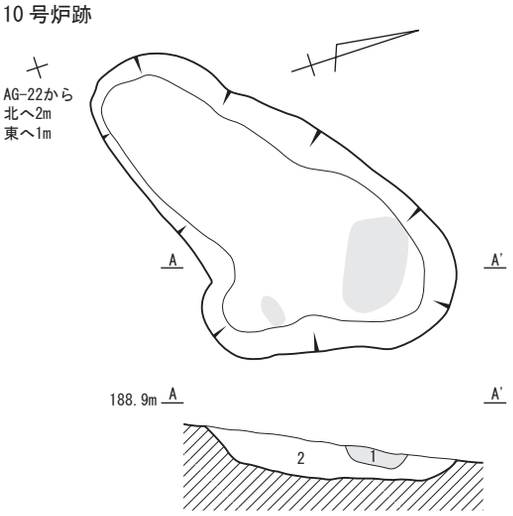
１～７号炉跡は休場層上部上面で検出した炉跡である。１号炉跡はＲ－12グリッド、西支谷内に、２・３・５～７号炉跡は中央尾根、４号炉跡はＡＮ－22、北尾根に位置している。１号炉跡周囲には３・８・20号土坑等陥穴と思しき遺構が散在している。また中央尾根では竪穴住居跡が散在しているが、６号炉跡は22号住居跡、７号炉跡は25号住居跡と近接しており時期差の存在が想起される。４号炉跡が位置する北尾根では集石遺構が散見されるが、この11・12号集石は栗色土層～富士黒土層付近で検出されており、炉跡との時期差について慎重に判断しなければならない。

８～10号炉跡は富士黒土層～栗色土層～黒色土層で検出した炉跡である。Ｚ－22グリッド、中央尾根（北）に位置する８号炉跡は富士黒土層上面で検出している。周囲に竪穴住居跡が散見され、同時期に営まれた可能性が検討される。Ｊ－２グリッド、西尾根（北）に位置する９号炉跡は栗色土層上面で検出している。付近に17～19号住居跡が位置しているが、これらは早期代の住居跡と推定されるため、同時期である可能性は低い。10号炉跡はＡＧ－22グリッド、東支谷に位置している。平面形は一部が膨張した長楕円形を呈し、長径2.22m、短径0.99m、深さ0.20mを測り、ひときわ規模の大きい炉跡と言えるが、この土坑状の掘り込みの大部分は黒褐色土が堆積し、炉として機能したのはごく一部である。この10号炉跡は５号集石に近接しているものの、10号炉跡は栗色土層、５号集石は休場層上部上面での検出であるため、時期差が存在する可能性がある。なおこの炉跡は東支谷内の斜面地に位置するため、降雨時における地表面流水の影響を食い止める施設の存在が想起される。

縄文時代中期以降の炉跡（第78図　写真図版37）

11～15号炉跡は黒色土層～カワゴ平パミス層上面で検出した炉跡である。11・12号土坑は西尾根（北）から西支谷付近にて検出された。共に黒色土層上面にて検出した。付近には中期以降の遺構の分布が見られない。13～15号炉跡は西支谷、東尾根と北尾根の狭隘な区域に位置する。これらはカワゴ平パミス層上面で検出されたもので、周囲には縄文時代中期以降の所産と考えられる55・56号土坑や埋甕が位置しており、当該時期におけるこの区域の土地利用が理解される。またこの遺構群の下位、富士黒土層から休場層上部上面にかけて21号集石が確認されており、当該区域の利用について一考を要する。

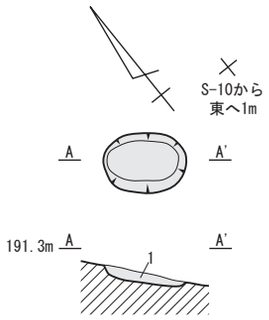
10 号炉跡



1　赤褐色(5YR4/8)土層　粘性有り・締り弱い

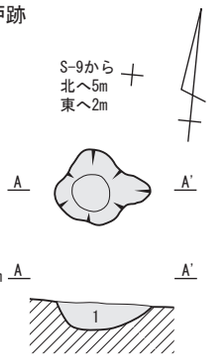
2　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性有り・締り有り
径1～10㎜程度の焼土粒・塊、
少量の径1～2㎜程度の炭化物粒が混じる。

11 号炉跡



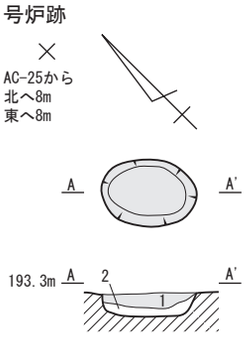
1　赤褐色(5YR4/8)土層
粘性弱い・締り弱い
径1～3㎜程度の焼土粒が主体。
微量の径1㎜程度の炭化物粒が混じる。

12 号炉跡



1　明赤褐色(5YR5/8)土層
粘性弱い・締り弱い
径3～20㎜程度の焼土粒・塊が主体。
径2～3㎜程度の炭化物粒が混じる。

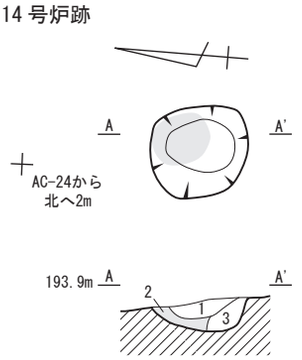
13 号炉跡



1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
少量の径1～2㎜程度の褐色スコリア、
径1～2㎜程度の焼土粒が混じる。

2　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り強い
少量の径1～2㎜程度の焼土粒が混じる。

14 号炉跡

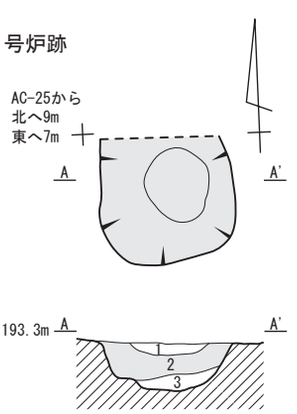


1　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性無し・締り有り
少量の径1㎜程度の焼土粒が混じる。

2　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性有り・締り有り
多量の径2～20㎜程度の焼土粒・塊、
少量の径5㎜程度の炭化物粒が混じる。

3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り有り
微量の径0.5～1㎜程度の焼土粒が混じる。

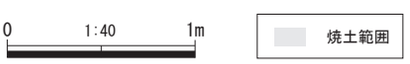
15 号炉跡



1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性無し・締り有り
少量の径3㎜程度の褐色スコリアを含む。

2　明赤褐色(2.5YR5/6)土層　粘性無し・締り有り
焼土集中層。
多量の径2㎜程度の炭化物粒が混じる。

3　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り強い
少量の径2㎜程度の焼土粒、
径50㎜程度の黒色土塊が混じる。



焼土範囲

第 78 図　縄文時代の炉跡２

5　竪穴状遺構

竪穴状遺構は現地調査の段階にて、竪穴住居跡と断定できなかったものである。性格としては住居跡として機能した可能性があるが、当該報告では調査時の所見を尊重し、竪穴状遺構として報告する。

１号竪穴状遺構（第79図　写真図版38）

当該遺構はＺＷ－０グリッドにて検出した。西尾根（南）に位置し、当該発掘調査で最も南で検出された遺構である。遺構の平面形は隅丸方形を呈する。遺構の計測値は長さ1.94m、幅1.84m、残存する壁の高さは最高0.11mを測る。遺構内には柱穴・壁溝・炉跡等は確認されていない。覆土第１層を除去したところ、硬化面（第２層）が広がることが判明した。この層と第３層を除去し、遺構の掘り方底面が検出された。従って硬化面を遺構が機能した際の面とするならば、第３層は貼床であった可能性が想起される。遺物は出土していないが、この遺構は休場層上部上面にて検出され、覆土第１層が富士黒土層に由来し、また第Ⅱ群９類に分類した縄文時代早期後半の粕畑式土器の分布域に該当するため、該期に位置付ける事も可能である。西尾根には17～19号住居跡が位置しているが、当該遺構と約130m隔てており、別個の遺構群と考えたい。

２号竪穴状遺構（第79図　写真図版38・62）

当該遺構はＷ－20グリッドにて検出した。中央尾根（南）に位置し、付近には早期後半代にあたる９～14号住居跡が確認されたことから、この竪穴状遺構が、集落の一部を構成していたことがわかる。遺構の平面形は楕円形を呈する。遺構の計測値は長さ2.60m、幅2.16m、残存する壁の高さは最高0.18mを測る。遺構内には柱穴・壁溝・炉跡及び貼床は確認されていない。この遺構は富士黒土層下面から休場層上部上面にかけて検出されている。

当該遺構から出土した遺物の点数は土器19点、石器23点、礫４点で、そのうち土器２点、石器３点を図化した。300・301は縄文土器である。300は波状口縁か。緩く外反している。口唇部は平坦に仕上げている。外面には軸の無い絡条体圧痕文が横位に施されている。301は胴部のみの破片資料である。細隆起線文上とその上位に軸の無い絡条体圧痕文が施されている。300・301ともに第Ⅱ群２類の清水柳Ｅ類土器か。302～304は石器である。302・303は石核である。石材は２点とも神津島恩馳島群の黒曜石である。304は敲石である。石材は多孔質安山岩か。

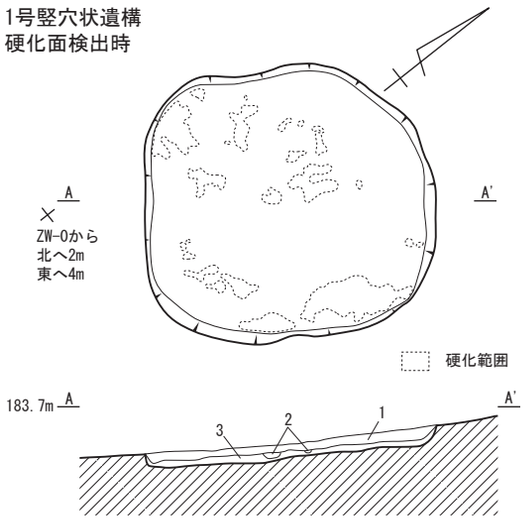
出土した土器から当該遺構は早期後半と考えられ、周囲の住居跡からも清水柳Ｅ類土器が多く出土している点から、同時期に機能したものであろう。

6　配石遺構（第80～82図　写真図版38・62・63）

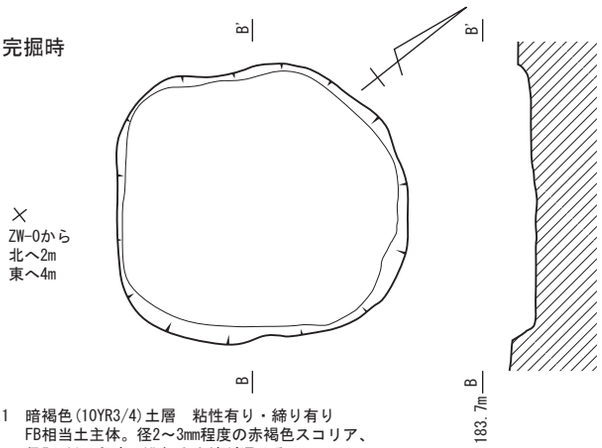
配石遺構は意図的に石（礫）が配列されたものを云い、集石とは区別される。しかし１号集石等のように意図的な石の配列が認められる遺構も存在するが、現地調査時の所見を尊重し、当該項においては触れない。

富士石遺跡において配石遺構とした遺構はＡＩ・ＡＪ－21グリッドにて検出した。位置的には東支谷に位置し、この付近の地形は北尾根に向かって北北東方向へ地形が立ち上がっている。配石遺構の東北には23号集石が位置する。この配石遺構は概ね４m四方の範囲内に礫及び遺物が検出されたもので、比較的大きな礫がＮ－24°－Ｅの方向に列状をなして検出された。配石は新期スコリア層～栗色土層付近にて検出され、ほぼ重複するように炉跡が１基確認されている。この配石遺構内炉跡の平面形は歪な楕円形を呈する。遺構の計測値は長さ0.49m、幅0.35m、深さは0.05mを測る。炉跡内部から遺物は出土していない。

1号竪穴状遺構
硬化面検出時



完掘時



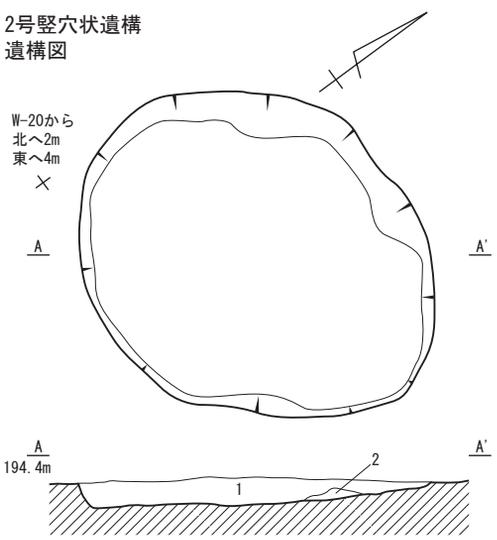
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
FB相当土主体。径2～3mm程度の赤褐色スコリア、
径5～30mm程度のYL相当土塊が混じる。

2　褐色(10YR4/4)土層　粘性弱い・締り強い
硬化面。YL相当土塊が混じる。

3　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り

0　1:50　1m

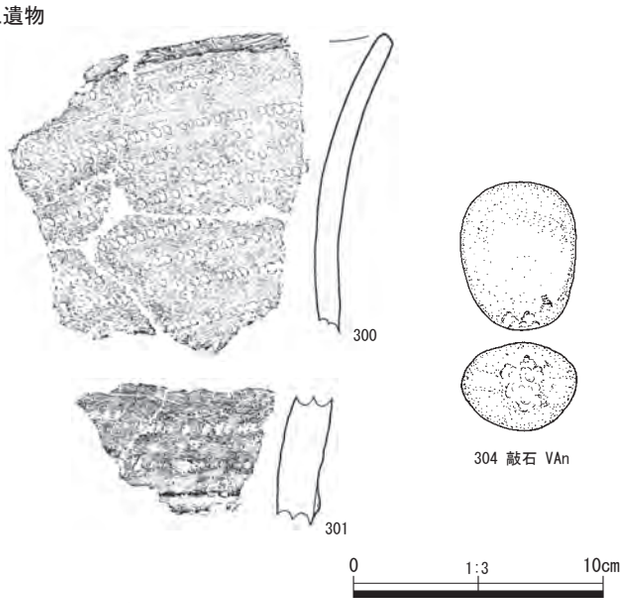
2号竪穴状遺構
遺構図



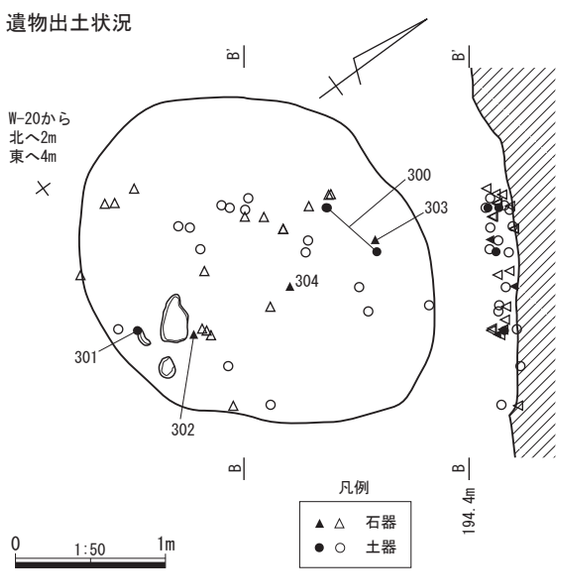
1　黒褐色(10YR2/3)土層　粘性弱い・締り有り
少量の径1～2mm程度の赤褐色スコリアを含む。

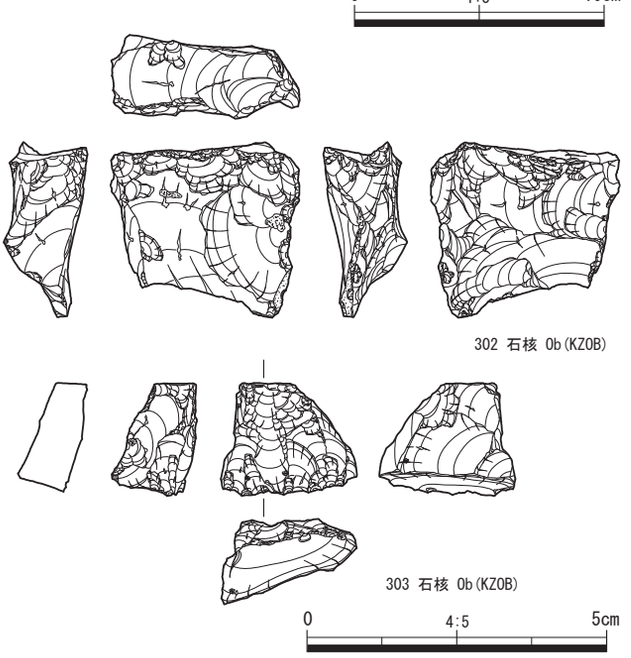
2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り有り
微量の径1～2mm程度の赤褐色スコリア、
径2～10mm程度のYL相当土粒・塊が混じる。

出土遺物

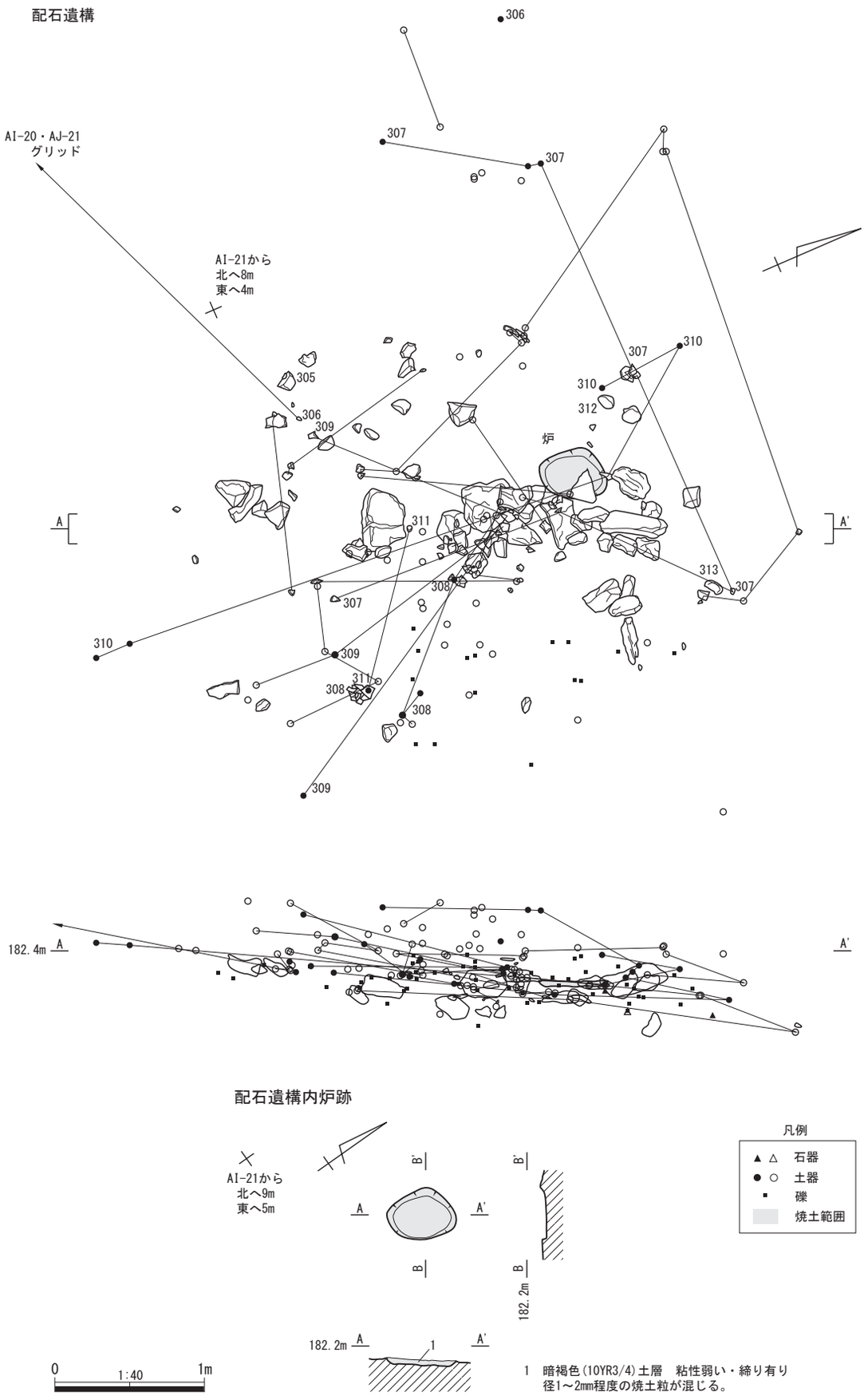


遺物出土状況

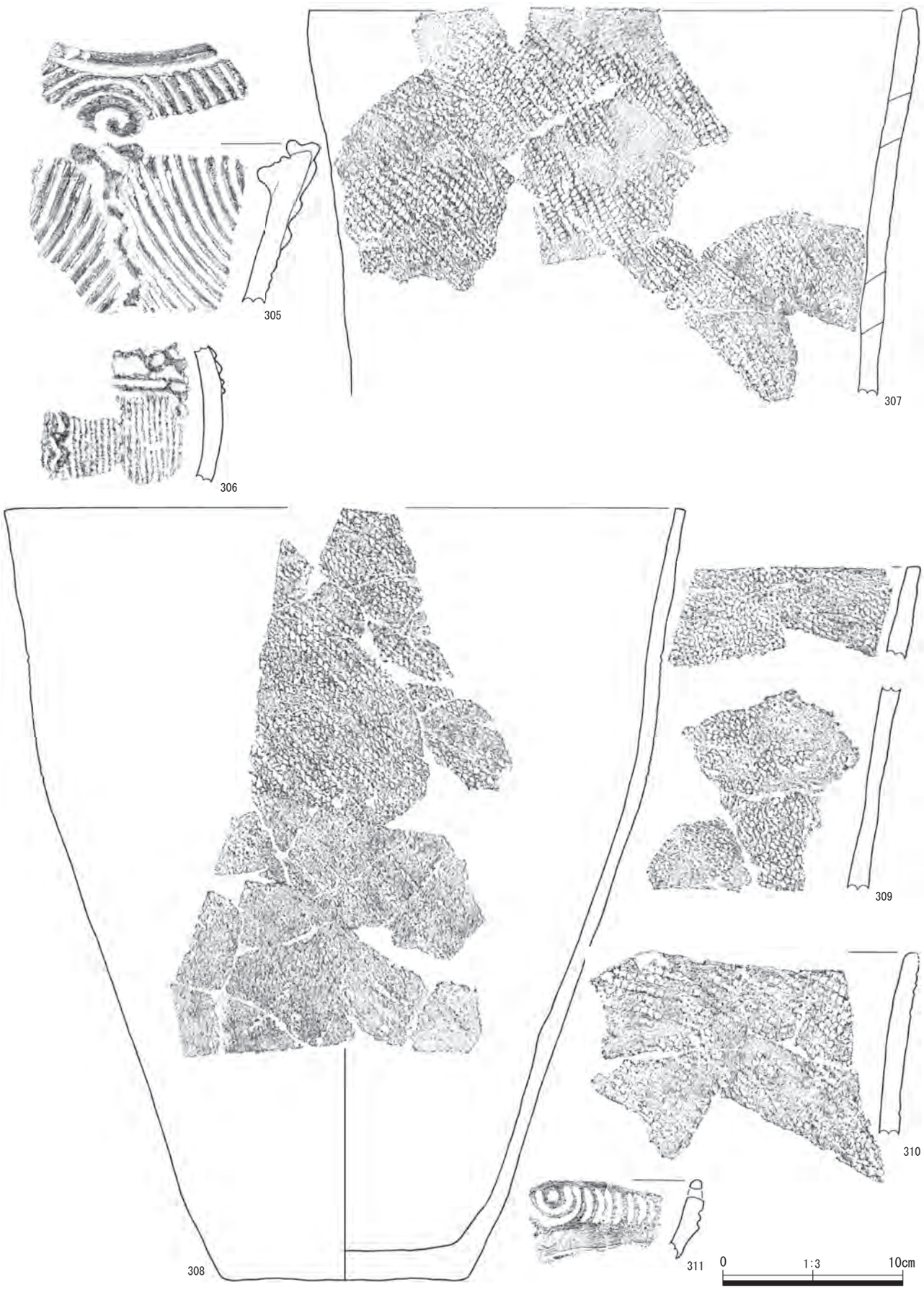




第79図　竪穴状遺構と出土遺物

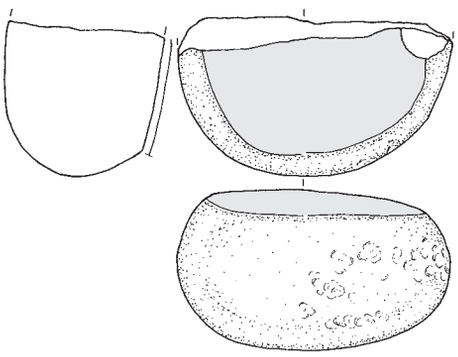

配石遺構
AI-20・AJ-21
グリッド
AI-21から
北へ8m
東へ4m
炉
A
A'
182.4m
配石遺構内炉跡
AI-21から
北へ9m
東へ5m
B
B'
182.2m
凡例
石器
土器
礫
焼土範囲
0
1:40
1m
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性弱い・締り有り
径1～2㎜程度の焼土粒が混じる。

第80図　配石遺構

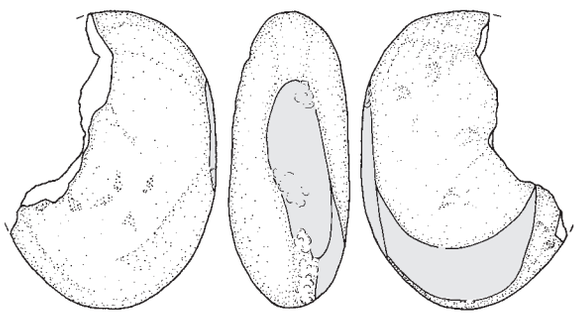


第81図　配石遺構出土遺物１

配石遺構 出土遺物



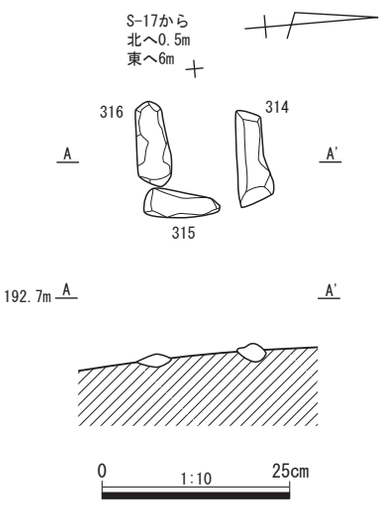
312 磨・敲石 An(Py)



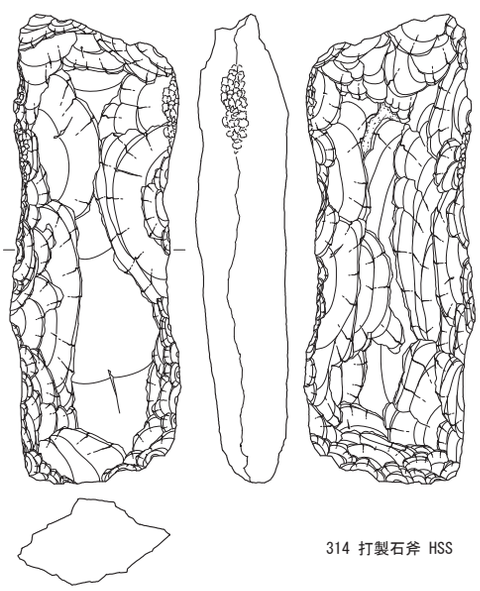
313 磨・敲石 VBa

0　1:3　10cm

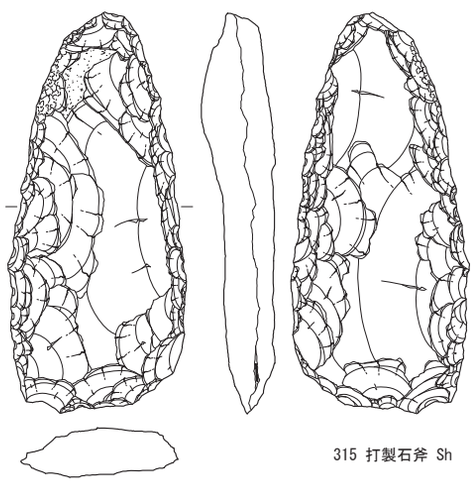
石斧埋納遺構



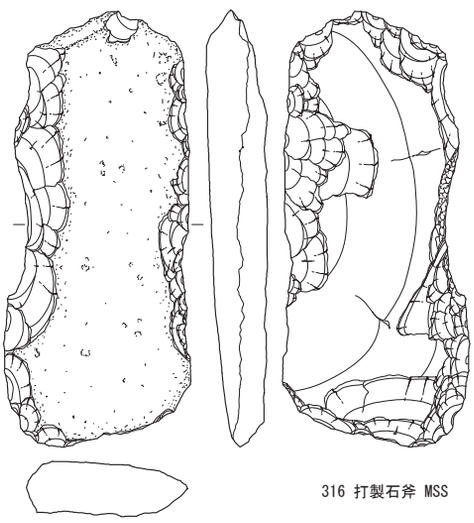
出土遺物



314 打製石斧 HSS



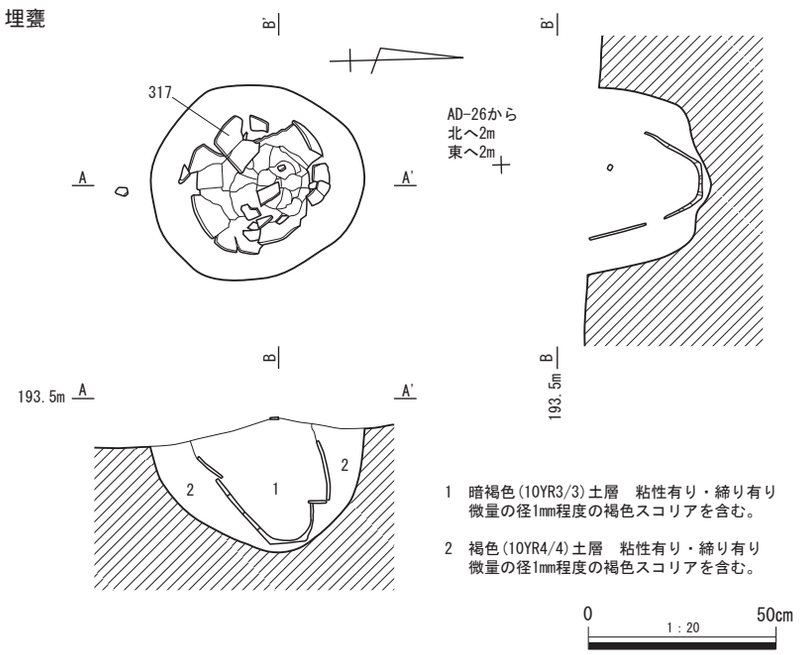
315 打製石斧 Sh

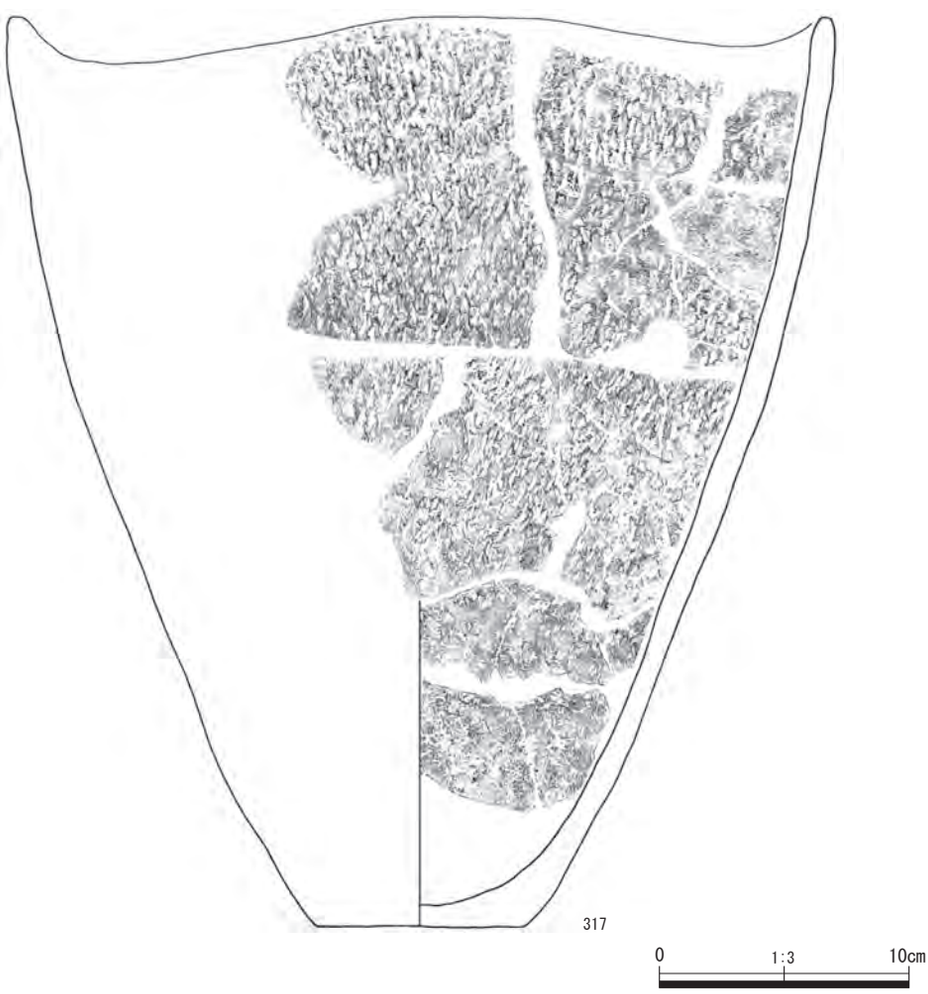


316 打製石斧 MSS

0　1:2　10cm

第82図　配石遺構出土遺物２・石斧埋納遺構


埋甕
B'
317
AD-26から
北へ2m
東へ2m
A
A'
B'
B
193.5m
A
A'
2
1
2
B
193.5m
1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り有り
微量の径1mm程度の褐色スコリアを含む。
2　褐色(10YR4/4)土層　粘性有り・締り有り
微量の径1mm程度の褐色スコリアを含む。
0
50cm
1：20


317
0
1:3
10cm

第 83 図　埋甕

配石遺構から出土した遺物の点数は土器139点、石器３点、礫75点で、そのうち土器７点、石器２点を図化した。305～311は縄文土器である。305は口縁部のみの破片資料である。口縁部は内折させ、半截竹管状の工具で重弧文を施す。口唇部には渦巻き状のモチーフが貼り付けられ、波状に隆帯を垂下させる。第Ⅶ群３類の曽利Ⅱ式土器か。306は胴部のみの破片資料である。細い粘土紐を波状に貼り付けられている。また細い半截竹管状の工具で、縦位に沈線を引いている。これも曽利Ⅱ式土器か。307～310は縄文のみ施した土器である。307は胴部中位から口縁部、308は底部から口縁部、309は胴部と口縁部、310は口縁部のみの破片資料である。307の胴部は直線的に立ち上げ、口唇部はやや丸く仕上げている。外面に縄文が施されている。308は平坦な底部から胴部を直線的に立ち上げ、胴部中位でやや傾きを変え、口唇部を平坦に仕上げている。外面口唇部直下から胴部下位に至るまで縄文が施されている。309は胴部から直線的に立ち上がり、口唇部が平坦に仕上げられている。外面にはＲＬ縄文か。310は波状口縁で、波頂部が残存する。口唇部は僅かに丸みを帯び、外面にはＲＬ縄文が施される。311は波状口縁で波頂部が残存する。段部を有し、波頂部直下に穿孔されている。穿孔部を中心に同心円及び連続して弧状に沈線が施されている。内面は丁寧に磨かれている。堀之内２式土器か。312・313は石器で、２点とも磨・敲石である。石材は輝石安山岩、多孔質玄武岩である。

遺物分布からは配石西側出土の破片資料レベルと配石付近出土の破片資料レベルに約0.4m程度の差が生じ、斜面地に起因するのか、本来的に窪み状の地形もしくは掘り込まれた地形が存在したのか判然としないものの、配石遺構中心に土器が散乱していた状況が看取される。また後期堀之内式土器の可能性がある311が出土している点も考慮する必要がある。

７　石斧埋納遺構（第82図　写真図版38・63）

当該遺構はＳ－17グリッドにて検出された。位置的には町道591号線東区と町道401号下部区が交差する場所である。調査時において、打製石斧が３点意図的に置かれた状態のままで検出されたと判断され、未検出なれど土坑状の掘り込みに埋納された可能性が想起された。位置的には中央尾根（南）の末端で、西支谷へ地形が傾いている。石斧が検出されたのはカワゴ平パミス層の下位で、石斧出土レベルは192.6～192.7m付近である。３本の打製石斧がコの字状に配置し、石斧其々は主面を上に向けた状態で出土している。

出土した打製石斧は314～316である。314は短冊型を呈しており、基端部付近の側縁は敲打が加えられている。石材は硬質砂岩である。315は基端部を尖らせた所謂尖頭型か。主面の一部に礫面が残置する。石材は頁岩である。316は片側側縁中位に敲打痕が認められる。また礫面が大きく残置する主面がある。短冊型に分類可能である。石材は中粒砂岩である。

８　埋甕（第83図　写真図版39・63）

当該遺構はＡＤ－26グリッドにて検出された。東支谷に位置するが、東尾根と中央尾根に挟まれた狭隘な区域である。黒色土層から暗褐色土層付近で検出された。土器は正位置に土坑内へ納められたもので、蓋若しくは蓋になり得る遺物は周辺から出土していない。土坑の平面形は円形である。最大径は0.59ｍで、深さは0.36ｍを測る。

埋納されていた土器317は底部から口縁部まで完存する。平坦な底部からほぼ直線的に立ち上がり、口唇部は丸く仕上げている。口縁部は緩やかな波状口縁である。外面口唇部直下から胴部中位まで縄文が施されている。型式名不明であるが中期代の土器と考え、第Ⅷ群に分類した。なお317には炭化物が付着しており、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92023）した。その結果、3,740±30yrBP、すなわち縄文時代後期前葉の^{14}Ｃ年代が測定されている。

第２表　縄文時代住居跡計測表

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
１号住居跡	早期前半	V-17・18	YLU上面	3.37	3.07	0.14	円形	23	4	12		39
２号住居跡	早期前半	Z-22	YLU上面	2.87	2.16	0.20	隅丸長方形	2	3	1		6
３号住居跡	早期前半	X・Y-20	YLU上面	5.22	2.52	0.18	長楕円形	98	78	74		250
４号住居跡	早期後半	X・Y-20・21	YLU上面	5.25	3.11	0.19	隅丸長方形	53	133	82	1	269
５号住居跡	早期後半	Z-22	YLU上面	3.35	2.46	0.16	長方形	18	49	18		85
６号住居跡	早期後半	W・X-19・20	YLU上面	3.70	2.99	0.33	隅丸方形	148	69	17		234
７号住居跡	早期後半	Y-21	YLU上面	4.32	2.70	0.18	隅丸長方形	145	42	68		255
８号住居跡	早期後半	X-20・21	YLU上面	2.31	2.20	0.13	方形	3	13	9		25
９号住居跡	早期後半	W-20・21	YLU上面	3.65	3.25	0.18	方形	15	87	22		124
10号住居跡	早期後半	W-19・20	YLU上面	(5.83)	3.51	0.17	隅丸長方形	123	96	63		282
11号住居跡	早期後半	V-20	YLU上面	2.52	2.62	0.18	隅丸方形	14	15	14		43
12号住居跡	早期後半	W-21	YLU上面	3.93	3.83	0.13	方形	35	27	29		91
13号住居跡	早期後半	W-21	YLU上面	5.85	3.23	0.37	隅丸長方形	30	34	22		86
14号住居跡	早期	W-21	YLU上面	(1.30)	(0.69)	0.06	長方形	2				2
15号住居跡	早期	Y-19・20	YLU上面	4.14	2.72	0.16	隅丸長方形	4	18	8		30
16号住居跡	早期	U-18	YLU上面	(4.52)	(1.86)	0.15	長方形	1		1		2
17号住居跡	早期	J-1	YLU	(3.50)	(2.05)	0.16	隅丸長方形		1	3	1	5
18号住居跡	早期	J-1	YLU	(1.83)	1.89	0.17	楕円形		1	2		3
19号住居跡	早期	J-1	YLU	3.55	(2.41)	0.13	隅丸長方形			3		3
20号住居跡	前期前半	AA-21	YLU上面	3.15	(2.09)	0.21	方形	65	32	31		128
21号住居跡	前期	Z-21・22	YLU上面	4.18	3.38	0.22	隅丸長方形	32	61	23		116
22号住居跡	前期前半	AA-22・23	YLU上面	2.92	1.97	0.08	隅丸長方形	18	33	39		90
23号住居跡	前期	AA-22・23	YLU上面	3.17	2.91	0.27	方形	96	65	71		232
24号住居跡	前期前半	AA-21・22	YLU上面	3.15	2.75	0.13	方形	18	35	16		69
25号住居跡	前期	Y-21・22	YLU上面	5.55	4.45	0.20	隅丸長方形	140	82	11		233
26号住居跡	後期	AF-23・24	YLU上面	5.16	4.74	0.28	円形	61	10	38	7	116

第３表　縄文時代集石計測表

遺構名	分類	時期	グリッド	検出層位	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
１号集石	土坑あり	～前期	D-1	KU	1.38	0.95	0.26	楕円形			172		172
２号集石		早期前半	Y-22	FB	1.25	1.07	0.21	楕円形	3	4	61		68
３号集石		早期前半	Y-22	FB下面	0.74	0.51	0.15	楕円形		4	194		198
４号集石		早期前半	Z-22	FB	1.40	1.37	0.17	円形	12	1	73		86
５号集石		～前期	AG-22	FB下面	0.54	0.46	0.08	楕円形			16		16
６号集石		～前期	AI-28	FB下面	0.62	0.44	0.08	楕円形	1		2		3
７号集石		～前期	AI-28	FB下面	0.87	0.60	0.10	楕円形	1		33	1	35
８号集石		～前期	AI-28	FB下面	0.56	0.44	0.08	楕円形			11		11
９号集石		～前期	AJ-22	FB下面	1.08	0.83	0.17	楕円形			29		29
10号集石		～前期	AJ-22	FB	1.60	1.33	0.45	楕円形			231		231
11号集石		～前期	AO-22	FB	0.79	0.58	0.27	楕円形	1	1	56		58
12号集石		～前期	AO-22	FB	0.85	0.64	0.18	楕円形			42		42
13号集石	土坑なし	前期以降	U-13	KU	2.32	1.31	－				23		23
14号集石		～前期	H-2	FB	1.70	1.54	－		1		44		45
15号集石		～前期	H-9	KU	1.70	1.06	－			2	73		75
16号集石		～前期	N-5	KU	2.88	1.80	－		1	2	48		51
17号集石		早期	AA-23	FB	0.64	0.45	－			1	7		8
18号集石		～前期	AH-21	FB	0.64	0.43	－				14		14
19号集石		～前期	AO-22	FB	0.43	0.24	－				1		1
20号集石		早期前半	AI-20	FB下面	1.05	0.71	－		1	13	49		63
21号集石		早期前半	AC-25	FB	16.22	12.02	－		32	56	706		794
22号集石		早期前半	AE-22	FB下面	7.71	7.60	－		16	26	355		397
23号集石	土坑あり	中期	AJ-22	KU	1.82	1.60	0.44	円形	2	3	495		500

第４表　縄文時代土坑計測表

遺構名	分類	時期	グリッド	検出層位	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	逆茂木	土器	石器	礫	炭化物	計
1号土坑	A-1 円形 逆茂木１本	～前期	U-14	BB0上面	0.86	0.85	0.58	1					
2号土坑		～前期	AI-23	YLU上面	0.97	0.69	0.40	1					
3号土坑		～前期	Q・R-13	YLU上面	1.28	0.84	0.72	1					
4号土坑		～前期	Y-12・13	YLU上面	1.29	0.95	0.62	1					
5号土坑		～前期	AH-20	YLU上面	1.20	0.90	0.53	1					
6号土坑		～前期	O-5	SC I 上面	0.80	0.66	0.67	1					
7号土坑		～前期	AD-24	YLU上面	1.24	0.92	0.60	1					
8号土坑	A-2 円形～長方形 逆茂木複数	～前期	R・S-12	SC I	1.31	0.58	0.90	2					
9号土坑		～前期	N-5	SC I 上面	1.09	0.55	0.53	9					
10号土坑		～前期	M-4	SC I 上面	0.92	0.48	0.39	7					
11号土坑		～前期	AF-18	SC I	1.42	1.40	0.14	9					
12号土坑		～前期	S-11	YLU上面	1.68	0.84	0.94	4					
13号土坑		早期	Z-22	SC I	1.60	0.53	0.28	2	9	1	11		21
14号土坑		～前期	P-11	YLU上面	1.43	0.81	0.56	2			2		2
15号土坑		～前期	AC-23	YLU上面	1.50	0.86	0.40	2					
16号土坑		～前期	AD-23	YLU上面	2.07	1.42	1.45	4			4		4
17号土坑		～前期	V-9	SC I	2.78	0.85	1.13	2					
18号土坑		早期	Y-21	YLU上面	2.39	1.22	1.20	2	128	55	71		254
19号土坑		早期	W-19・20	YLU上面	2.33	1.03	1.25	2	48	15	23		86
20号土坑	A-2 円形 逆茂木なし	～前期	R-12	SC I	1.36	1.18	1.21						
21号土坑		～前期	S-10	SC I	0.92	0.84	0.80						
22号土坑		～前期	AN・AO-22	SC I 上面	0.88	0.72	0.60						
23号土坑		～前期	V-20	SC I 上面	0.93	0.82	0.61						
24号土坑		～前期	R-16	SC I	0.66	0.54	0.31				1		1
25号土坑		～前期	N-5	YLU上面	0.92	0.72	0.58						
26号土坑		～前期	M-5	YLU上面	0.87	0.83	0.46						

27号土坑	B－1 円形 逆茂木なし	～前期	P-12	YLU上面	1.06	0.83	1.04						
28号土坑		～前期	X・Y-12	YLU上面	1.19	0.98	0.76						
29号土坑		～前期	P-11	YLU上面	0.87	0.81	0.75						
30号土坑		～前期	P-10	YLU上面	1.08	0.96	0.97						
31号土坑		～前期	X-11	YLM上面	0.68	0.45	0.34						
32号土坑		～前期	I-11	BB0	0.92	0.83	1.29						
33号土坑		～前期	M-8	SCⅠ上面	0.96	0.84	0.22						
34号土坑		～前期	L-6	SCⅠ上面	0.96	0.62	0.10						
35号土坑		～前期	S-13	SCⅠ	0.68	0.55	0.07						
36号土坑		～前期	AF-22	YLU上面	1.26	1.14	0.43						
37号土坑		早期	AC・AD-20	YLU上面	1.66	1.32	0.32		5	7	22		34
38号土坑	B－2 長方形 逆茂木なし	～前期	R-11	BBⅢ上面	0.75	0.45	0.34						
39号土坑		～前期	J-11	NL	2.06	0.76	0.22						
40号土坑		～前期	L-6	SCⅠ上面	1.18	0.48	0.12						
41号土坑		～前期	L-2	YLL上面	1.43	0.67	0.36						
42号土坑		～前期	Q-10・11	YLU上面	1.68	0.70	1.30						
43号土坑		～前期	T-11	YLM	1.36	0.72	0.38						
44号土坑		～前期	T-17	YLL上面	1.04	0.54	0.09						
45号土坑		～前期	AA-13	YLU上面	0.99	0.60	0.56						
46号土坑		～前期	AA-16	YLU上面	1.41	0.66	0.32						
47号土坑		～前期	Z-21	YLU上面	1.50	0.71	0.48			1	1		2
48号土坑	B－3 不定形 逆茂木なし	～前期	M-2	BB0	1.20	0.49	0.25						
49号土坑		～前期	R-15	SCⅠ上面	1.00	0.40	0.18						
50号土坑		～前期	AI-29	KU上面	1.68	1.00	1.06			1	2		3
51号土坑		～前期	S-18・19	YLU上面	2.58	1.25	0.20						
52号土坑		～前期	Q-10	YLU上面	1.68	0.77	0.37						
53号土坑		前期	Q-10	KU	2.35	0.88	0.58		11				11
54号土坑	縄文後期	後期	Y-12	KGP	2.42	0.89	1.34						
55号土坑		後期	AC・AD-24	KGP	1.39	0.56	0.49						
56号土坑		後期	AC-25	KGP	0.81	0.60	0.18						

第5表　縄文時代炉跡計測表

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	土器	石器	礫	炭化物	計
1号炉跡	～前期	R-12	YLU	0.68	0.60	0.19					
2号炉跡	～前期	Z-23	YLU	0.61	0.58	0.20					
3号炉跡	～前期	Z-21	YLU	0.70	0.68	0.20		1			1
4号炉跡	～前期	AN-22	FB～YLU	(0.44)	0.49	0.14	1				1
5号炉跡	～前期	Y-22	YLU	0.90	0.51	0.13					
6号炉跡	～前期	AA-22	YLU	0.90	0.66	0.14					
8号炉跡	～前期	Z-22	FB	0.60	0.46	0.09		1			1
9号炉跡	～前期	J-2	KU	0.46	(0.28)	0.09					
10号炉跡	～前期	AG-22	KU	2.22	0.99	0.20					
11号炉跡	中期	R-10	クロ	0.44	0.32	0.06					
12号炉跡	中期	S-9	クロ	0.51	0.40	0.14					
14号炉跡	後期	AC-24	KGP	0.56	0.48	0.17					
13号炉跡	後期	AC-25	KGP	0.50	0.36	0.12					
15号炉跡	後期	AC-25	KGP	(0.92)	0.81	0.24					

第6表　縄文時代竪穴状遺構計測表

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
1号竪穴状遺構	～前期	ZW-0	YLU	1.94	1.84	0.11	隅丸方形					
2号竪穴状遺構	早期	W-20	YLU	2.60	2.16	0.18	楕円形	19	23	4		46

第7表　縄文時代配石遺構計測表

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
配石遺構	中期	AI・AJ-21	NSC	3.29	2.73	－	－	139	3	75		217

第8表　縄文時代石斧埋納遺構計測表

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
石斧埋納遺構	後期	S-17	KGP	0.18	0.15	－	－		3			3

第9表　縄文時代埋甕計測表

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
埋甕	中～後期	AD-26	クロ	0.57	0.49	0.36	円形	1				1

第10表　縄文時代遺構出土土器観察表

遺構名	挿図番号	図版番号	分類 群	分類 類	色調 (Hue)	文様調整等	繊維	胎土
1号住居跡	1	44	I	1	7.5YR5/4	外面内面にLRの縄文。軽しょうな胎土。	少	白色岩片多
1号住居跡	2	44	I	1	7.5YR5/6	外面内面にLRの縄文。軽しょうな胎土。	有	白色岩片多
1号住居跡	3	44	I	3	5YR6/6	縦位密接に山形文。	多	白色粒子多、黒色粒子少、白色岩片多
2号住居跡	5	44	I	3	7.5YR6/6	縦位にポジティブな楕円文。	多	白色粒子少、白色岩片多
3号住居跡	7	45	I	6	7.5YR3/4	縦位に先割状工具による沈線文。	有	白色粒子、黒色粒子、赤色岩片多
3号住居跡	8	45	I	6	7.5YR5/6	縦位に先割状工具による沈線文。	有	白色粒子多、赤色岩片少
3号住居跡	9	45	I	6	5YR4/8	縦位に先割状工具による沈線文。	多	白色粒子多、黒色粒子少
3号住居跡	10	45	II	1	5YR5/6	隆帯上に絡条体圧痕文。	多	白色粒子少、黒色粒子少、白色岩片多
3号住居跡	11	45	II	1	5YR4/3	口唇部と隆帯上に絡条体圧痕文。	少	黒色粒子少、白色岩片多、
3号住居跡	12	45	III		7.5YR5/4	平縁。口唇部に刻み。条痕を地文。沈線文。刺突文。	多	白色粒子多、黒色粒子少、白色岩片多
3号住居跡	13	45	III		5YR5/6	無文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
3号住居跡	14	45	III		5YR5/6	無文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
3号住居跡	15	45	III		5YR4/4	無文(胴部～底部付近)。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
4号住居跡	23	45	I	6	5YR5/6	外面に異方向の半截竹管状の工具による沈線文。内面に条痕文。	多	白色粒子、白色岩片多
4号住居跡	24	45	I	6	7.5YR4/4	異方向の沈線文。	多	白色粒子、白色岩片多
4号住居跡	25	45	I	6	7.5YR4/4	異方向の半截竹管状の工具による沈線文。	多	白色粒子、白色岩片多
4号住居跡	26	45	II	2	7.5YR4/4	波状口縁か。Rの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、白色岩片
4号住居跡	27	45	II	2	5YR5/6	絡条体圧痕文。	有	白色粒子、白色岩片
4号住居跡	28	45	III		7.5YR4/6	無文。	有	白色粒子、白色岩片多
4号住居跡	29	45	III		7.5YR5/4	深鉢底部か。	多	白色粒子、白色岩片多
5号住居跡	34	45	II	1	7.5YR5/3	Lの絡条体圧痕文。	有	白色岩片
5号住居跡	35	45	II	2	5YR5/6	波頂部から隆起線文が垂下。絡条体圧痕文。	多	白色岩片少
5号住居跡	36	45	II	2	7.5YR5/4	横位・斜位の沈線文。	多	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
6号住居跡	41	46	II	1	5YR5/6	隆帯上に絡条体圧痕文。	多	白色粒子少、黒色粒子少、白色岩片少
6号住居跡	42	46	II	1	10YR5/8	口縁部にLの絡条体圧痕文。	有	白色岩片
6号住居跡	43	46	II	2	5YR4/4	Rの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、白色岩片
6号住居跡	44	46	II	2	5YR5/6	斜位にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、黒色粒子少、白色岩片多
6号住居跡	45	46	II	2	7.5YR6/6	横位にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
6号住居跡	46	46	II	2	5YR5/6	斜位にRの絡条体圧痕文。	多	白色粒子、白色岩片多
6号住居跡	47	46	II	2	10YR6/8	斜位にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
6号住居跡	48	46	II	2	7.5YR3/2	横位・斜位にlの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
6号住居跡	49	46	II	2	7.5YR4/2	斜位にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、白色岩片
6号住居跡	50	46	II	2	7.5YR6/6	細隆起線文上にRの絡条体圧痕文。斜位のRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、白色岩片多
6号住居跡	51	46	II	2	7.5YR3/2	細隆起線文。斜位にLの絡条体圧痕文。	多	白色粒子多、白色岩片多
6号住居跡	52	46	II	2	5YR5/6	横位・斜位の沈線文。横位にLの絡条体圧痕文。	多	白色粒子、白色岩片多
6号住居跡	53	46	II	2	7.5YR4/3	口縁部に細隆起線文・格子状の沈線文。横位にLの絡条体圧痕文。	多	白色粒子多、白色岩片多
6号住居跡	54	46	II	2	7.5YR3/2	口唇部・口縁部に沈線文・細隆起線文。横位にLの絡条体圧痕文。	多	白色粒子多、白色岩片多
6号住居跡	55	46	II	2	7.5YR5/6	口縁部に矢羽状の沈線文。３条の細隆起線文。横位にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子多、白色岩片多
6号住居跡	56	46	II	2	7.5YR5/6	横位の細隆起線文上位にRの絡条体圧痕文・沈線文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
6号住居跡	57	46	II	2	7.5YR6/6	口唇部から外面に細隆起文を垂下。口縁部に横位の細隆起線貼付け。細隆起線文上に絡条体圧痕文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
6号住居跡	58	47	II	2	7.5YR5/3	口唇部に刻み。口縁部に三条の横位の細隆起線文。	有	白色粒子、白色岩片
6号住居跡	59	47	II	2	7.5YR3/3	口唇部内面より外面に細隆起線文を垂下。口唇部に丸棒状工具による刻み。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
6号住居跡	60	47	II	2	7.5YR5/4	沈線文。	多	白色粒子、白色岩片多
6号住居跡	61	47	III		7.5YR4/6	波状口縁。無文。	有	白色粒子、白色岩片多
6号住居跡	62	47	III		10YR4/2	無文。	多	白色粒子、白色岩片多
6号住居跡	63	47	III		7.5YR4/4	尖底。無文。調整痕。	有	白色粒子、白色岩片
7号住居跡	68	48	II	2	7.5YR4/6	Rの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
7号住居跡	69	48	II	2	7.5YR4/4	波状口縁。Rの絡条体圧痕文。	多	白色粒子多、黒色粒子少、白色岩片多
7号住居跡	70	48	II	2	7 ..5YR4/3	口唇部と外面に太い軸を有するRの絡条体圧痕文。	少	白色粒子多、白色岩片少、赤色岩片少
7号住居跡	71	48	II	2	7 ..5YR4/2	横位にLの絡条体圧痕文。穿孔有。	多	白色粒子少、白色岩片少
7号住居跡	72	48	II	2	7 ..5YR5/6	波状口縁。Rの絡条体圧痕文。穿孔途中。	少	白色粒子多、輝石少、白色岩片多
7号住居跡	73	48	II	2	7.5YR4/4	横位にRの絡条体圧文。	少	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
7号住居跡	74	48	II	2	7.5YR4/4	横位にRの絡条体圧文。	多	白色岩片多、赤色岩片多
7号住居跡	75	48	II	2	7.5YR5/4	Lの絡条体圧文。	有	白色粒子多、白色岩片多、焼成不良
7号住居跡	76	48	II	2	7.5YR6/4	細隆起線文より下位に細い軸を有するRの絡条体圧痕。	少	白色粒子少、白色岩片多
7号住居跡	77	48	II	2	7.5YR4/4	斜め格子目状の沈線の下位に細隆起線文とRの絡条体圧痕文。	多	白色粒子少、輝石少、白色岩片少、赤色岩片少
7号住居跡	78	48	III		7.5YR4/6	先割状工具による刺突か。	多	白色粒子、白色岩片多
7号住居跡	79	48	III		7.5YR5/6	外面内面に条痕文。	少	白色粒子少、輝石少、白色岩片多
7号住居跡	80	48	III		7.5YR4/4	外面内面に条痕文。	多	白色粒子、白色岩片多
7号住居跡	81	48	III		7.5YR5/4	外面内面に条痕文。	多	白色粒子、白色岩片多
7号住居跡	82	48	III		10YR6/4	波状口縁。外面無文。内面に条痕文。	多	白色粒子、白色岩片
7号住居跡	83	48	III		7.5YR3/1	無文。	少	白色粒子、白色岩片多
7号住居跡	84	48	III		7.5YR4/3	無文。	有	白色粒子、白色岩片
7号住居跡	85	48	III		10YR6/6	無文。	多	白色岩片
8号住居跡	96	49	II	2	5YR3/1	横位にRの絡条体圧痕文。	少	白色粒子多、輝石少、白色岩片少
9号住居跡	97	49	II	2	10YR4/6	横位にLの絡条体圧痕文。穿孔有。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
10号住居跡	104	50	II	2	7.5YR6/6	口縁部。Rの絡条体圧痕文。	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
10号住居跡	105	50	II	2	7.5YR6/6	横位にRの絡条体圧痕文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
10号住居跡	106	50	II	2	7.5YR5/3	斜位にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、白色岩片
10号住居跡	107	50	II	2	5YR6/8	細隆起上にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
10号住居跡	108	50	II	2	7.5YR6/6	細隆起上にrの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
10号住居跡	109	50	II	2	7.5YR6/6	口縁部。外面に細隆起線文。Rの絡条体圧痕文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
10号住居跡	110	50	II	2	5YR6/8	口縁部。外面に細隆起線文。Rの絡条体圧痕文。	有	白色岩片多

遺構名	挿図番号	図版番号	分類 群	分類 類	色調（Hue）	文様調整等	繊維	胎土
10号住居跡	111	50	Ⅱ	2	7.5YR6/4	外面にRの絡条体圧痕文。沈線文。	有	白色岩片多
10号住居跡	112	50	Ⅱ	2	7.5YR5/4	細隆起線文より上位に沈線文。細隆起線文より下位に斜位にRの絡条体圧痕文。細隆起線文上にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、白色岩片多
10号住居跡	113	50	Ⅱ	2	5YR5/6	細隆起線文で区画。区画内をR絡条体圧痕文で充填。	有	白色粒子、白色岩片
10号住居跡	114	50	Ⅲ		10RY6/6	尖底。無文。	多	白色粒子多、白色岩片
11号住居跡	122	50	Ⅱ	2	7.5YR5/6	Rの絡条体圧痕文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
11号住居跡	123	50	Ⅲ		5YR5/8	先割状の沈線文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
12号住居跡	128	51	Ⅱ	2	7.5YR5/4	Lの絡条体圧痕文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
12号住居跡	129	51	Ⅱ	2	10YR6/6	Rの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
12号住居跡	130	51	Ⅱ	2	7.5R4/6	波状口縁。口唇部に刻み。細隆起線文。細隆起線文より下位に斜位にLの絡条体圧痕文。	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
12号住居跡	131	51	Ⅱ	2	5YR3/4	口縁部。細隆起線文上にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
12号住居跡	132	51	Ⅱ	2	10YR5/8	口縁部。微隆起。穿孔有。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
12号住居跡	133	51	Ⅱ	2	7.5YR4/3	斜位に交差する沈線文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
12号住居跡	134	51	Ⅲ		7.5YR5/8	条痕文。	多	白色粒子、黒色粒子
12号住居跡	135	51	Ⅲ		10YR4/3	口縁部。無文。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母
13号住居跡	138	51	Ⅱ	2	7.5YR4/6	口唇部に棒状工具による刻み。細隆起線文上と下位にRの絡条体圧痕文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
13号住居跡	139	51	Ⅱ	2	10YR6/8	口縁部。２条の細隆起線文。口唇部と細隆起線文より下位にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
13号住居跡	140	51	Ⅲ		7.5YR4/3	波状口縁。条痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
13号住居跡	141	51	Ⅲ		5YR5/8	底部。無文。	有	白色粒子多、黒色粒子
20号住居跡	149	52	Ⅳ	1	10YR6/3	口唇部に刺突文。外面内面に指頭圧痕。	無	白色粒子、雲母、白色岩片
20号住居跡	150	52	Ⅳ	1	10YR6/4	外面に刺突文。僅かに細線文。内面に指頭圧痕。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
20号住居跡	151	52	Ⅳ	1	10YR6/3	刺突文。	無	白色粒子多、白色岩片
20号住居跡	152	52	Ⅳ	1	10YR3/2	外面に連続した刺突文。内面に指頭圧痕。	無	白色粒子、雲母、白色岩片
20号住居跡	153	52	Ⅵ		7.5YR4/6	波状口縁。無文。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
21号住居跡	160	52	Ⅳ	1	10YR7/6	刺突文。細線文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
21号住居跡	161	52	Ⅳ	2	10YR4/4	波状口縁。口唇部に刺突文。３条の爪形の刺突文。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
21号住居跡	162	52	Ⅳ	4	10YR5/4	縦位にLRLの縄文。注口あり。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
21号住居跡	163	52	Ⅵ		7.5YR5/4	縄文。	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多、白色岩片
21号住居跡	164	52	Ⅵ		7.5YR5/4	Lの縄文。	有	白色粒子多、黒色粒子多
21号住居跡	165	52	Ⅵ		5YR4/6	波状口縁。絡条体圧痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片、赤色岩片
22号住居跡	169	53	Ⅳ	2	7.5YR5/8	口縁部。３条の刺突文。	無	白色粒子多
22号住居跡	170	53	Ⅵ		5YR6/8	底部。縄文。	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
23号住居跡	175	53	Ⅳ	2	5YR4/6	口縁部。爪形刺突文。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
23号住居跡	176	53	Ⅳ	2	2.5Y4/3	口縁部。外面に刺突文。内面に指頭圧痕。	有	白色粒子、白色岩片
23号住居跡	177	53	Ⅳ	2	7.5YR5/4	刺突文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
23号住居跡	178	53	Ⅳ	2	5YR4/8	先割状工具による刺突文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
23号住居跡	179	53	Ⅳ	2	10YR4/3	口縁部。外面に矢羽状の刺突文。内面に指頭圧痕。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
23号住居跡	180	53	Ⅳ	2	7.5YR5/6	口縁部。矢羽状の刺突文。	有	白色粒子多、黒色粒子多
23号住居跡	181	53	Ⅳ	2	7.5YR5/6	矢羽状の刺突文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
23号住居跡	182	53	Ⅳ	2	7.5YR4/4	矢羽状の刺突文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
23号住居跡	183	53	Ⅳ	2	7.5YR5/6	横位に細隆起線文、方形浮文か。刺突文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
23号住居跡	184	53	Ⅵ		5YR4/6	外面に斜位にLRの縄文。内面に擦痕。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
24号住居跡	192	54	Ⅳ	2	7.5YR3/2	口縁部。刺突文。	有	白色粒子多、黒色粒子
24号住居跡	193	54	Ⅳ	2	7.5YR6/6	口縁部。刺突文。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
24号住居跡	194	54	Ⅵ		5YR4/6	口唇部、縦位にRLの縄文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
25号住居跡	198	55	Ⅳ	2	7.5YR6/6	波状口縁。口唇部に刻み。３条の扁平な工具による刺突文。	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
25号住居跡	199	55	Ⅳ	2	7.5YR4/3	波状口縁。波長部に突起。口唇部に刻み。外面に３条の爪形刺突文。隆帯をつまむ。外面内面に指頭圧痕。	無	白色粒子少、黒色粒子少、雲母少
25号住居跡	200	55	Ⅳ	2	7.5YR4/6	口縁部。２条の扁平な工具による刺突文。	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
25号住居跡	201	55	Ⅳ	2	7.5YR5/6	横位に２条の爪形刺突文。	無	白色粒子多、黒色粒子少、輝石多、白色岩片少
25号住居跡	202	55	Ⅳ	2	7.5YR5/6	口縁部。２条半月状刺突文。	無	白色粒子多、輝石多、白色岩片少
25号住居跡	203	55	Ⅳ	2	7.5YR5/4	口縁部。横臥した半月状刺突文。	少	白色粒子少、輝石少、白色岩片少
25号住居跡	204	55	Ⅳ	2	7.5YR5/4	２種類(細やかな刺突文と細長いの刺突文)の刺突文。指頭痕。穿孔あり。	少	白色粒子少、黒色粒子少、白色岩片多
25号住居跡	205	55	Ⅳ	2	7.5YR3/1	口唇部に刻み。２条の大きめな刺突文。条痕文。	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
25号住居跡	206	55	Ⅳ	2	10YR5/6	口唇部に刻み。６条の矢羽状の刺突文列。口縁部と胴部の境に段あり。	無	白色粒子少、黒色粒子少、白色岩片少
25号住居跡	207	55	Ⅳ	2	7.5YR4/2	口唇部に刻み。条痕文を地文とし、刺突文を施文。	無	白色粒子、赤色粒子、輝石少
25号住居跡	208	55	Ⅳ	2	2.5Y3/2	口縁部。３条の刺突文。口縁部と胴部の境に段あり。	有	白色粒子多、黒色粒子
25号住居跡	209	55	Ⅳ	2	7.5YR5/4	口縁部。矢羽状の刺突文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
25号住居跡	210	55	Ⅳ	2	10YR5/6	矢羽状の刺突文。	無	白色粒子多、輝石少、白色岩片少
25号住居跡	211	55	Ⅳ	2	7.5YR5/6	２種類（細やかな刺突文・細長い刺突文）の刺突文。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
25号住居跡	212	55	Ⅴ	3	7.5YR4/4	RL・LR両方の縄文を地文とし浮線文を施文。	無	白色粒子多、黒色粒子少、雲母多、白色岩片多
25号住居跡	213	56	Ⅴ	3	5YR5/6	底部。浮線文を貼り付けた後に、RLの縄文を横位に施文。	少	白色粒子少、黒色粒子少、雲母少、白色岩片多
25号住居跡	214	56	Ⅴ	3	5YR5/6	底部。浮線文を貼り付けた後に、LRの縄文を横位に施文。	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母少、白色岩片多
25号住居跡	215	55	Ⅵ		5YR5/6	口唇部にLRの縄文。RLとLRの羽状縄文。	多	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
25号住居跡	216	55	Ⅵ		5YR3/3	口縁部。無節Lの縄文.。	多	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
25号住居跡	217	55	Ⅵ		10YR4/2	RLの縄文。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
26号住居跡	229	57	Ⅸ	2	7.5YR5/6	LRの縄文を地文。口唇部下に１条の沈線文を横位に、２条の実線と１条の波線での３条の懸垂文。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片、赤色岩片
４号集石	236	58	Ⅰ	2	7.5YR4/4	口縁部。外面内面に格子目文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
４号集石	237	58	Ⅰ	2	7.5YR4/3	ネガティブ楕円文。	多	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
21号集石	242	59	Ⅰ	6	10YR4/2	口縁部に刺突文。外面に縦位・斜位の細線文。内面に条痕文。	有	白色粒子、赤色岩片
21号集石	243	59	Ⅲ		5YR4/8	平底。	有	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
22号集石	258	60	Ⅷ		2.5YR4/8	平底。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
23号集石	264	58	Ⅶ	2	10YR5/3	口縁部。大きく内湾した胴部上半部。無節縄文を施文後、太い沈線を巡らす。口縁部までは微かに湾曲させる。口唇部はやや肥大。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片

遺構名	挿図番号	図版番号	分類 群	分類 類	色調（Hue）	文様調整等	繊維	胎土
18号土坑	267	61	Ⅰ	2	7.5YR5/3	格子目文。軽しょうな胎土。	有	白色岩片
18号土坑	268	61	Ⅱ	1	7.5YR5/4	外面の隆帯上に絡条体圧痕文。外面内面に条痕文。	有	白色粒子多、白色岩片多
18号土坑	269	61	Ⅱ	2	7.5YR5/4	ゆるい波状縁か。横位に口縁部より細い軸を有するRの絡条体圧痕文を施文。	有	白色粒子多、黒色粒子
18号土坑	270	61	Ⅱ	2	7.5YR3/3	横位に細軸を有するRの絡条体圧痕文を施文。	有	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
18号土坑	271	61	Ⅱ	2	5YR4/6	波状口縁。斜位にRの絡条体圧痕文。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
18号土坑	272	61	Ⅱ	2	7.5YR5/8	口縁部。斜位にRの絡条体圧痕文。	多	黒色粒子、白色岩片
18号土坑	273	61	Ⅱ	2	7.5YR5/6	細隆起線上及び上位に軸の無い絡条体圧痕文。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
18号土坑	274	61	Ⅱ	2	5YR6/6	口縁部。横位の細隆起線文・沈線文。隆起線文上位に穿孔有。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
18号土坑	275	61	Ⅱ	2	7.5YR4/6	口唇部に刺突。口唇部直下から斜位の沈線文。	少	白色粒子少、赤色岩片少
18号土坑	276	61	Ⅱ	2	7.5YR5/4	格子状の沈線文。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
18号土坑	277	61	Ⅱ	3	7.5YR4/4	縦沈線文を地文。	多	白色粒子
18号土坑	278	61	Ⅱ	11	5YR5/6	貝殻腹縁により格子状に施文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
18号土坑	279	61	Ⅲ		7.5YR4/6	無文。穿孔（未貫通）。	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
19号土坑	283	60	Ⅱ	2	7.5YR6/4	波状口縁。太軸のRの絡条体圧痕を施文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
19号土坑	284	60	Ⅱ	2	5YR4/4	太軸のRの絡条体圧痕を施文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
19号土坑	285	60	Ⅱ	2	5YR5/6	太軸の絡条体圧痕を施文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
19号土坑	286	60	Ⅱ	2	5YR5/6	波状口縁。軸の無い絡条体圧痕を施文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
19号土坑	287	60	Ⅱ	2	7.5YR4/4	軸の無い絡条体圧痕を施文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
19号土坑	288	60	Ⅱ	2	7.5YR4/4	波状口縁。細隆起線文より下位に細軸のLの絡条体圧痕を施文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
19号土坑	289	60	Ⅱ	2	7.5YR4/4	軸の細いRの絡条体圧痕文と格子目状の沈線文を施文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
19号土坑	290	60	Ⅱ	3	7.5YR4/3	口唇部の形状丸。縦沈線を地文とし、その上に横位に磨り消し文を施文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
37号土坑	295	62	Ⅱ	1	7.5YR5/4	口縁部に刻み。隆帯上に斜位の沈線文。外面に条痕文、内面に擦痕。	有	白色粒子多、白色岩片多
37号土坑	296	62	Ⅱ	2	7.5YR4/2	口唇部と外面に梯子状の絡条体圧痕文を横位に施文。	有	白色粒子、白色岩片多
37号土坑	297	62	Ⅲ		7.5YR5/6	条痕文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
53号土坑	298	62	Ⅵ		5YR4/4	縄文を施文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
53号土坑	299	62	Ⅵ		5YR4/8	無文。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
2号竪穴状遺構	300	62	Ⅱ	2	7.5YR5/6	波状口縁。軸の無いLの絡条体圧痕文を横位に施文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
2号竪穴状遺構	301	62	Ⅱ	2	7.5YR4/4	細隆起線上及び上位に軸の無いRの絡条体圧痕文を横位に施文。	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
配石遺構	305	62	Ⅶ	3	7.5YR6/6	口縁部を内折、口唇部に渦巻状から波状に隆帯を垂下させ、半截竹管の工具による重弧文を施文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片、赤色岩片
配石遺構	306	62	Ⅶ	3	2.5YR4/8	波状に隆帯を貼付け、縦位に半截竹管の工具で沈線文を施文。	無	白色粒子、黒色粒子多、雲母、白色岩片多
配石遺構	307	62	Ⅷ		7.5YR4/4	口縁部。RLの縄文を横位に施文。	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
配石遺構	308	62	Ⅷ		10YR5/6	口縁部。RLRの縄文を横位に施文。底部まで残存。	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
配石遺構	309	62	Ⅷ		5YR5/6	口縁部。RLの縄文を横位に施文。	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
配石遺構	310	62	Ⅷ		7.5YR5/8	波状口縁。RL縄文を横位に施文。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
配石遺構	311	62	Ⅸ	3	5YR4/4	波状口縁。外面に穿孔を中心に同心円及び連続した弧状の沈線文を施文。内面に磨き。	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
埋甕	317	63	Ⅷ		7.5YR7/6	波状口縁。口縁部から胴部中位に縄文を施文。	無	白色粒子少、黒色粒子多、輝石少、白色岩片少

第11表　縄文時代遺構出土石器計測表

遺構名	挿図番号	挿枝	図版番号	遺物番号	大グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合番号	形状分類
１号住居跡	4		44	22120	V-17	磨石・敲石類	Ba		85	58	29	290		棒扁　T＋S
２号住居跡	6		44	54638	Z-22	磨石・敲石類	Po		110	43	19	145		棒扁　T
３号住居跡	16		44	22204	X-20	楔形石器	Ob	KZOB	26.2	24.6	11.1	5.0		
３号住居跡	17		44	16816	Y-20	磨石・敲石類	Ba		97	71	30	320		不定形 T＋KT(2)
３号住居跡	18		44	21565	Y-20	磨石・敲石類	An(Py)		91	81	35	390		扁平　T＋S
３号住居跡	19		44	16815	Y-20	磨石・敲石類	An(Py)		93	64	55	360		棒他　TS(1)＋T
３号住居跡	20		44	16838	Y-20	磨石・敲石類	An(Py)		71	62	46	320		棒扁　TS(2)＋T＋S
３号住居跡	21		44	21609	Y-20	磨石・敲石類	Ba		102	97	47	670		厚み　TS(全)＋T＋S＋KT(2)
３号住居跡	22		44	21566	Y-20	石皿	An(Py)		330	206	85	836		
４号住居跡	30		45	18457	X-20	石鏃	Ob	HNHJ	25.2	13.6	4.1	1.0		B-1
４号住居跡	31		45	16860	Y-20	石錐	Ob	SWHD	22.5	20.6	6.9	2.8		
４号住居跡	32		45	16961	X-20	石核	Hor		42.0	82.2	42.8	185.5		A-2
４号住居跡	33		45	16960	X-20	磨石・敲石類	An(Py)		86	79	61	550		棒他　TS(1)＋T
５号住居跡	37		45	50475	Z-22	石鏃	Ob	KZOB	19.6	16.1	4.5	1.0		B-1
５号住居跡	38		45	53451	Z-22	石鏃	GAn		25.7	13.0	3.6	0.9		B-1
５号住居跡	39		45	50462	Z-22	磨石・敲石類	An(Py)		94	84	47	530		扁平　T＋S
５号住居跡	40		45	50461	Z-22	磨石・敲石類	Da		92	75	37	350		扁平　T＋S＋KT(1)
６号住居跡	64		47	22754	W-19	磨石・敲石類	VBa		80	123	49	600		扁平　TS(1)＋T＋S
６号住居跡	65		47	22753 80623	W-19 X-22	磨石・敲石類	An(Py)		116	91	41	730	299	扁平　TS(2)＋T＋S
６号住居跡	66		47	22751	W-19	石皿	An(Py)		298	247	111	11,730		
６号住居跡	67		47	22416 61045	W-19 T-12	石皿	VBa		296	196	77	5,190	267	
７号住居跡	86		49	54694	Y-21	石鏃	Ob	KZOB	20.6	14.3	4.2	1.0		B-1
７号住居跡	87		49	61506	Y-21	石鏃	GAn		22.2	16.1	4.4	1.2		B-1
７号住居跡	88		49	61513	Y-21	磨石・敲石類	Sh(Re)		76	28	18	65		棒他　T
７号住居跡	89		49	58758	Y-21	磨石・敲石類	An(Py)		120	73	42	570		扁平　T
７号住居跡	90		49	61504	Y-21	磨石・敲石類	An(Py)		105	76	50	600		厚み　T
７号住居跡	91		49	54702	Y-21	磨石・敲石類	VBa		102	101	42	460		扁平　T＋S
７号住居跡	92		49	58757	Y-21	磨石・敲石類	Ba		82	66	45	390		棒他　TS(1)＋T
７号住居跡	93		49	58759	Y-21	磨石・敲石類	VBa		91	71	44	420		棒他　TS(1)＋T＋KT(1)
７号住居跡	94		49	54700	Y-21	磨石・敲石類	FG		63	90	37	330		扁平　TS(2)＋T＋S
７号住居跡	95		49	54696	Y-21	磨石・敲石類	Ba		66	62	57	320		棒○　TS(多)＋T
９号住居跡	98		49	19347	W-20	石鏃	Ob	SWHD	18.4	16.8	3.3	0.6		B-2
９号住居跡	99		49	19342	W-20	石鏃	Ob	KZOB	14.1	13.9	3.1	0.4		B-5
９号住居跡	100		49	19333	W-20	石鏃	Ob	KZOB	22.0	19.0	7.7	2.9		E
９号住居跡	101		49	14034	W-20	石核	Ob	KZOB	21.9	26.1	11.7	6.9		A-2
９号住居跡	102		49	19361	W-20	磨石・敲石類	Ba		98	94	38	500		扁平　T
９号住居跡	103		49	19364	W-20	磨石・敲石類	VBa		74	54	33	150		扁平　T＋KT(1)
10号住居跡	115		49	22711	W-20	スクレイパー	An(Py)		68.8	93.8	12.0	79.7		B-2
10号住居跡	116		49	22626	W-20	礫器	An(Py)		97.0	111.0	32.0	510.0		
10号住居跡	117		49	22635	W-20	磨石・敲石類	An(Py)		80	67	47	350		厚み　T
10号住居跡	118		49	22636	W-20	磨石・敲石類	An(Py)		107	82	46	620		扁平　T＋S
10号住居跡	119		49	22634	W-20	磨石・敲石類	Ba		96	75	29	370		扁平　T＋S＋KS(1)
10号住居跡	120		49	22627	W-20	磨石・敲石類	An(Py)		110	84	34	520		扁平　TS(2)＋T＋S＋KT(1)
10号住居跡	121		49	22861	W-20	石皿	VBa		194	159	84	2,920		
11号住居跡	124		50	21700	V-20	スクレイパー	Ob	SWHD	43.6	17.6	5.9	3.3		B-1
11号住居跡	125		50	21703	V-20	石核	Ob	KZOB	19.5	30.4	15.4	6.6		A-2
11号住居跡	126		50	22905	V-20	磨石・敲石類	VBa		74	44	34	130		棒他　T＋KT(1)
11号住居跡	127		50	21706	V-20	磨石・敲石類	An(Py)		95	75	64	620		不定形 T＋KT(1)
12号住居跡	136		51	22823	W-21	磨石・敲石類	An(Py)		103	84	39	540		扁平　T
12号住居跡	137		51	22816	W-21	磨石・敲石類	VBa		78	102	42	480		扁平　T＋S＋KT(2)
13号住居跡	142		51	22886	W-21	楔形石器	Ob	KZOB	26.6	23.9	6.4	3.1		
13号住居跡	143		51	22936	W-21	楔形石器	Ob	KZOB	25.7	16.8	11.1	4.0		
13号住居跡	144		51	22893	W-21	磨石・敲石類	An(Py)		126	74	75	1,020		棒他　TS(1)＋T
13号住居跡	145		51	22876	W-21	磨石・敲石類	VBa		105	84	58	690		厚み　TS(2)＋T＋S＋KT(1)
15号住居跡	146		51	11214	Y-20	磨石・敲石類	An(Py)		62	84	43	340		扁平　T＋S
15号住居跡	147		51	11215	Y-19	磨石・敲石類	An(Py)		94	79	33	330		扁平　T＋S＋KT(1)
17号住居跡	148		51	4643	J-1	台石	Ba		344	301	160	19,760		
20号住居跡	154		52	1772	AA-21	石鏃	Ob	SWHD	16.6	13.9	2.9	0.4		B-1
20号住居跡	155		52	46338	AA-21	石鏃	Ob	SWHD	22.9	17.4	3.8	1.1		B-2
20号住居跡	156		52	46332	AA-21	石錐	Ob	KZOB	26.0	20.6	5.2	1.8		
20号住居跡	157		52	46337	AA-21	石核	Ob	KZOB	10.0	14.8	17.6	2.9		A-2
20号住居跡	158		52	46538	AA-21	磨石・敲石類	VAn		118	67	43	460		扁平　TS(1)＋T
20号住居跡	159		52	46540	AA-21	石皿	An(Py)		340	183	82	6,490		
21号住居跡	166		53	47516	Z-21	磨石・敲石類	An(Py)		80	83	75	630		球　T
21号住居跡	167		53	47485	Z-21	磨石・敲石類	An(Py)		80	67	65	470		棒△　TS(1)＋T
21号住居跡	168		53	47508	Z-21	磨石・敲石類	An(Py)		115	73	50	670		扁平　TS(2)＋T＋S
22号住居跡	171		53	58845	AA-22	石鏃	Ob	KZOB	11.5	10.2	2.6	0.2		B-2
22号住居跡	172		53	58855	AA-22	石鏃	Ob	KZOB	18.4	17.9	4.9	0.9		B-2
22号住居跡	173		53	60755 60787 60788	AB-25 AA-22 AA-22	磨石・敲石類	CSS		159	52	20	235	239	棒扁　T
22号住居跡	174		53	60789	AA-22	磨石・敲石類	An(Py)		102	90	63	860		厚み　T
23号住居跡	185		54	50032	AA-22	スクレイパー	Hor		53.4	86.7	14.0	52.3		A-2
23号住居跡	186		54	51270	AA-22	磨石・敲石類	Ba		83	48	37	190		棒△　T
23号住居跡	187		54	50028	AA-22	磨石・敲石類	Ba		124	66	30	330		扁平　T＋KT(2)
23号住居跡	188		54	56902	AA-22	磨石・敲石類	Ba		87	68	35	260		扁平　T＋KT(2)
23号住居跡	189		54	58557	AA-22	磨石・敲石類	Ba		143	70	51	610		棒扁　TS(2)＋T＋S
23号住居跡	190		54	58561	AA-22	石皿	An(Py)		475	306	147	37,500		
23号住居跡	191		54	58556	AA-22	石皿	An(Py)		376	315	101	21,120		

遺構名	挿図番号	挿枝	図版番号	遺物番号	大グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合番号	形状分類
24号住居跡	195		54	56802	AA–21	礫器	FSS		98.0	69.0	35.0	310.4		
24号住居跡	196		54	58715	AA–22	磨石・敲石類	Ba		69	60	66	280		棒△　TS(1)＋T
24号住居跡	197		54	58716	AA–22	磨石・敲石類	VBa		189	59	59	770		棒○　TS(多)＋T
25号住居跡	218		56	60856	Y–22	石鏃	Ob	KZOB	21.9	12.6	4.0	0.8		B–1
25号住居跡	219		56	57779	Y–21	石鏃	Ob	KZOB	19.7	11.8	3.7	0.6		B–1
25号住居跡	220		56	60874	Y–22	石鏃	Ch		19.4	15.6	3.5	0.8		B–1
25号住居跡	221		56	57814	Y–22	石核	Hor		27.8	48.3	29.5	40.9		A–2
25号住居跡	222		56	60858	Y–22	磨石・敲石類	An(Py)		130	79	48	630		扁平　T
25号住居跡	223		56	60857	Y–22	磨石・敲石類	Ba		137	100	64	1,240		厚み　T
25号住居跡	224		56	57791	Y–21	磨石・敲石類	VBa		90	72	35	270		扁平　T＋S＋KT(1)
25号住居跡	225		56	57813	Y–22	磨石・敲石類	An(Py)		84	60	59	340		棒△　TS(1)＋T
25号住居跡	226		56	60911	Y–21	磨石・敲石類	VBa		96	64	42	430		棒他　TS(2)＋T
25号住居跡	227		56	44230	AB–24	磨石・敲石類	VBa		177	66	47	760	325	棒他　TS(2)＋T＋S＋KT(1)
				60910	Y–22									
25号住居跡	228		56	60870	Y–22	台石	VAn		495	393	83	23,000		
26号住居跡	230		57	33095	AF–23	打製石斧	MSS		133.4	59.0	20.3	181.5	248	C–2
				35576	AF–23									
26号住居跡	231		57	8575	AF–23	磨製石斧	Ga		125.0	55.0	32.0	356.7		
26号住居跡	232		57	40704	AF–23	磨石・敲石類	An(Py)		86	82	46	470		扁平　T＋S
26号住居跡	233		57	40471	AF–23	磨石・敲石類	An(Py)		91	72	59	540		不定形 TS(2)
26号住居跡	234		57	40721	AF–23	石皿	An(Py)		161	166	86	2,890		
3号集石	235		58	61762	Y–22	石皿	VAn		290	287	91	7,490		
11号集石	238		58	31811	AO–22	磨石・敲石類	An(Py)		65	68	59	370		棒△　T
16号集石	239		58	9485	N–5	磨石・敲石類	An(Py)		117	63	57	700		棒他　TS(2)＋T
17号集石	240		58	52727	AA–23	磨石・敲石類	Ba		97	65	39	390		不定形 T
20号集石	241		58	40411	AI–20	磨石・敲石類	Ba		107	89	39	520		扁平　T
21号集石	244		59	62737	AC–25	スクレイパー	Hor		69.9	43.9	14.3	49.6		B–3
21号集石	245		59	62735	AC–25	石核	SSi		44.0	85.4	60.8	217.7		B–1
21号集石	246		59	62383	AC–25	石核	Hor		74.2	82.2	80.8	557.5		B–1
21号集石	247		59	62382	AC–25	石核	Hor		53.6	95.0	87.5	588.1		B–1
21号集石	248		59	63058	AC–25	石核	Hor		52.7	51.9	68.5	222.3		B–2
21号集石	249		59	62378	AC–25	礫器	FSS		96.5	84.0	30.0	352.1	243	
				63247	AC–25									
21号集石	250		59	62381	AC–25	礫器	FSS		86.0	82.0	34.5	294.6		
21号集石	251		59	62072	AC–25	磨石・敲石類	Ap		94	105	52	700		厚み　T＋S＋KT(1)
21号集石	252		59	62349	AC–25	磨石・敲石類	VBa		77	81	38	280		扁平　T＋S＋KT(2)
21号集石	253		59	62226	AC–25	磨石・敲石類	An(Py)		95	122	45	730		扁平　TS(1)＋T
21号集石	254		59	62220	AC–25	磨石・敲石類	VBa		108	71	45	440		扁平　TS(2)＋T＋S
21号集石	255		59	56356	AD–24	石皿	An(Py)		215	109	55	2,290	273	
				62376	AC–25									
21号集石	256		59	62225	AC–25	石皿	An(Py)		259	191	58	5,650		
21号集石	257		59	62224	AC–25	台石	An(Py)		297	343	63	5,830		
22号集石	259		60	63642	AE–23	石核	Hor		52.7	48.8	53.8	189.1		A–1
22号集石	260	a	60	62017	AE–22	石核	Hor		100.9	98.0	71.9	628.7	97	B–2
		b		63643	AE–23	剥片			28.1	22.2	8.4	5.1		
22号集石	261		60	63777	AD–23	磨石・敲石類	An(Py)		94	71	39	350		扁平　T
22号集石	262		60	63640	AE–23	石皿	An(Py)		163	156	52	2,570		
22号集石	263		60	63644	AE–23	石皿	An(Py)		206	167	49	2,560	274	
				63923	AE–23									
23号集石	265		58	34587	AJ–22	磨石・敲石類	An(Py)		77	80	43	380		扁平　T
23号集石	266		－	37982	AJ–22	台石	VBa		201	126	89	2,560		
18号土坑	280		61	61885	Y–21	磨石・敲石類	VBa		78	63	53	330		不定形 T
18号土坑	281		61	61936	Y–21	磨石・敲石類	An(Py)		84	71	34	270		扁平　T＋KT(2)
18号土坑	282		61	61939	Y–21	磨石・敲石類	VBa		82	63	33	230		扁平　T＋S
19号土坑	291		61	21494	W–19	石鏃	Ob	SWHD	18.8	15.2	3.7	0.7		B–1
19号土坑	292		61	22099	W–19	磨石・敲石類	An(Py)		63	60	43	210		球　T
19号土坑	293		61	21527	W–19	磨石・敲石類	Ba		118	79	58	780		棒他　TS(1)＋T
19号土坑	294		61	19063	W–19	石皿(小型)	Ba		18	110	83	2,030		
2号竪穴状遺構	302		62	21657	W–20	石核	Ob	KZOB	29.0	31.4	13.9	11.1		A–2
2号竪穴状遺構	303		62	21665	W–20	石核	Ob	KZOB	18.7	22.6	14.1	4.0		A–2
2号竪穴状遺構	304		62	21671	W–20	敲石	VAn		58	44	35	110		球
配石遺構	312		63	38920	AJ–21	磨石・敲石類	An(Py)		107	61	63	620		厚み　T＋S
配石遺構	313		63	40307	AJ–21	磨石・敲石類	VBa		118	79	45	490		扁平　TS(1)＋T＋S
石斧埋納遺構	314		63	67186	S–17	打製石斧	HSS		125.2	45.4	24.6	171.5		A–3
石斧埋納遺構	315		63	67185	S–17	打製石斧	Sh		106.6	47.5	19.5	98.9		B–2
石斧埋納遺構	316		63	67184	S–17	打製石斧	MSS		116.2	49.9	16.3	119.5		C–2

《形式分類の略号について》

〈石鏃〉

基部の形状	脚部の形状
B：無茎凹基	1：尖脚　2：円脚　5：脚部不明
E：不定形なもの	

〈石核〉

打面の形状	剥離方法
A：剥離面を打面とするもの	1：固定して一方向に剥離　2：転移させながら剥離
B：礫面を打面とするもの	1：固定して一方向に剥離　2：転移させながら剥離

〈スクレイパー〉

刃部の加工	加工部位
A：片刃	1：側縁部　2：両端部　3：全周
B：両刃	1：側縁部　2：両端部　3：全周

〈打製石斧〉

石斧の形状	礫面の残存
A：短冊型	1：両面　2：片面　3：なし
B：撥型	1：両面　2：片面　3：なし
C：分銅型	1：両面　2：片面　3：なし

〈磨石・敲石類〉

礫石器の形状	使用痕
扁平	S　：磨り痕のあるもの
厚み(扁平と球の中間)	T　：敲き痕のあるもの
球	K　：敲き痕のうち特に凹状のもの。(　)内は面数。
不定形	KS　：礫の平坦面に凹状の磨り痕のあるもの。(　)内は面数。
棒○：棒状で断面丸	KT　：礫の平坦面に凹状の敲き痕のあるもの。(　)内は面数。
棒偏：棒状で扁平	TS　：礫の稜部に敲き磨り状の平坦面のあるもの。(　)内は稜部の面数。
棒△：棒状で断面三角形	TS(多)：棒状の礫の稜部を多面にわたり敲き磨ったもの
棒他：棒状で不定形	TS(全)：楕円状の礫を全周にわたり敲き磨ったもの

第２節　包含層出土遺物

ここでは、縄文時代の包含層および撹乱中出土、表面採集の遺物を一括して報告する。これらから出土した遺物の総数は土器17,047点、石器8,058点、計25,105点である。中央尾根や東尾根、及び両尾根に挟まれた東支谷等の包含層から大量に遺物が出土している。住居跡が検出された中央尾根は大きく撹乱を受けていたこともあり、撹乱土内からも多くの遺物が出土している。

１　土器（第84～130図　写真図版64～119　第12表）

土器は縄文時代早期～後期代の資料と考えられる16,633点を群・類の分類を試み、分布図（第88・89・108・109・118・119・127・128図）を作成した。群は時期を、類は形式を基調としているが、類は文様・胎土・器形により種として細分が可能である。文様は縄文や沈線文、貝殻文等多彩で、施文具は本報告においては「工具」と呼称している。各土器のデータについては第12表に集成している。この分類にあたっては池谷・小崎・澁谷・戸田・谷藤諸氏の指導を参考に、壬生・勝又が分類した。

第Ⅰ群　早期前半

１類（第84図　写真図版64・65）

押型文（縦位密接施文）を施す土器群を中心に１類に分類した。318～356が該当する。この段階にあたる土器の型式は判然としないが、沼津市西洞遺跡・イラウネ遺跡と同時期か。文様としては格子目文や縦位に施された山形文、小粒な楕円文等の押型文や撚糸文である。また土器の表裏に縄文が施された土器片もこの段階に分類した。土器胎土中には繊維が認められる。全体的に他時期の土器と比較して軽い印象を受け、中には沼津市域で確認されている「軽しょうな胎土」を持つ土器資料や、土器の色調にやや紫がかった土器片が散見される。なお休場層相当の覆土をもつ土坑や『富士石遺跡Ⅱ』において触れているように、縄文時代草創期に位置付けられる尖頭器の存在から、本報告の土器群の中に草創期の資料が入り込む可能性もあったが、第Ⅰ群に分類した土器群は早期前半代の範疇に入るものと考えている。この土器群は中央尾根を中心に分布し、西支谷・西尾根では殆ど見られない（第88図）。

318～323は縄文が施された土器群で、322・323を除き表裏縄文が施され、軽しょうな胎土をもつ一群である。318～320は口縁部のみの破片資料である。318ａ・ｂは同一個体と考えられる。318・319は口縁部を丸く仕上げている。ＲＬ縄文か。320は口唇部を平らに仕上げている。この資料は318・319と異なり軽しょうな胎土でかつ、堅緻な印象を受ける。320は内面には炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92051）した。その結果、9,370±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。321は胴部のみの破片資料である。外面には縦位のＬＲ縄文か。内面にもわずかに縄文が認められる。軽しょうな胎土である。322は無節縄文が施されたものか。軽しょうな胎土をもつ。323はＬＲ縄文が縦位に施されたものか。軽しょうな胎土で､318～323の中でも淡い紫色を帯びた色調がわかる資料である。

324～354は押型文が施された土器群である。324～337は山形文が密接して施されている。324・326・333・335は口縁部のみの破片資料である。口縁部から縦位に押型文が施されたものか。口縁部はやや平坦に仕上げられている。333は同一個体資料である。１ヶ所両面から穿孔されている。口縁部から縦位に密接した山形文が施されている。内面にわずかに押型文らしき痕跡が観察される。なお333は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（NUTA2-15556）した。その結果、9,360±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。325・328は胴部のみの破片資料である。内面に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92038・92047）した。その結果325は9,370±40yrBP、328は

第 84 図　縄文土器第Ⅰ群 1

9,260±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。334は深鉢の胴部下半部の破片資料である。表面に山形文が縦位に施されている。336・337は横位に山形文を施した資料であろう。336の胎土も淡い紫色を帯びた色調で、軽しょうである。338～344・353・354は格子目文が施されている。338～340は口縁部のみの破片資料である。いずれも口縁部は丸く仕上げられ、外面には格子目文が施されている。353・354はネガティブな格子目文が施されている。338等と比較して格子目文の形は崩れている。341～344は胴部のみの破片資料である。342の同一個体と考えられる破片資料には炭化物が付着していたため、水野氏により放射性炭素年代測定が実施（NUTA2-15560）され、その結果、9,280±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。345～352は楕円文が施された資料である。345・346の色調はにぶい黄橙色を呈し、胎土中に１㎜～４㎜程度の小礫を含み、器厚も厚めであるため、他の土器資料と比較して異なる印象を受ける。楕円文の大きさでは348～350の楕円文は長径・短径の比率が近く、他の楕円文と比較して小型の印象を受ける。355・356は外面に撚糸文が施されている。２点とも厳密には軽しょうな胎土ではないが比較的軽い感があり、器面に細かな気泡状の凹凸が観察される。355の色調はにぶい黄橙色を呈している。

２類（第85図　写真図版65・66）

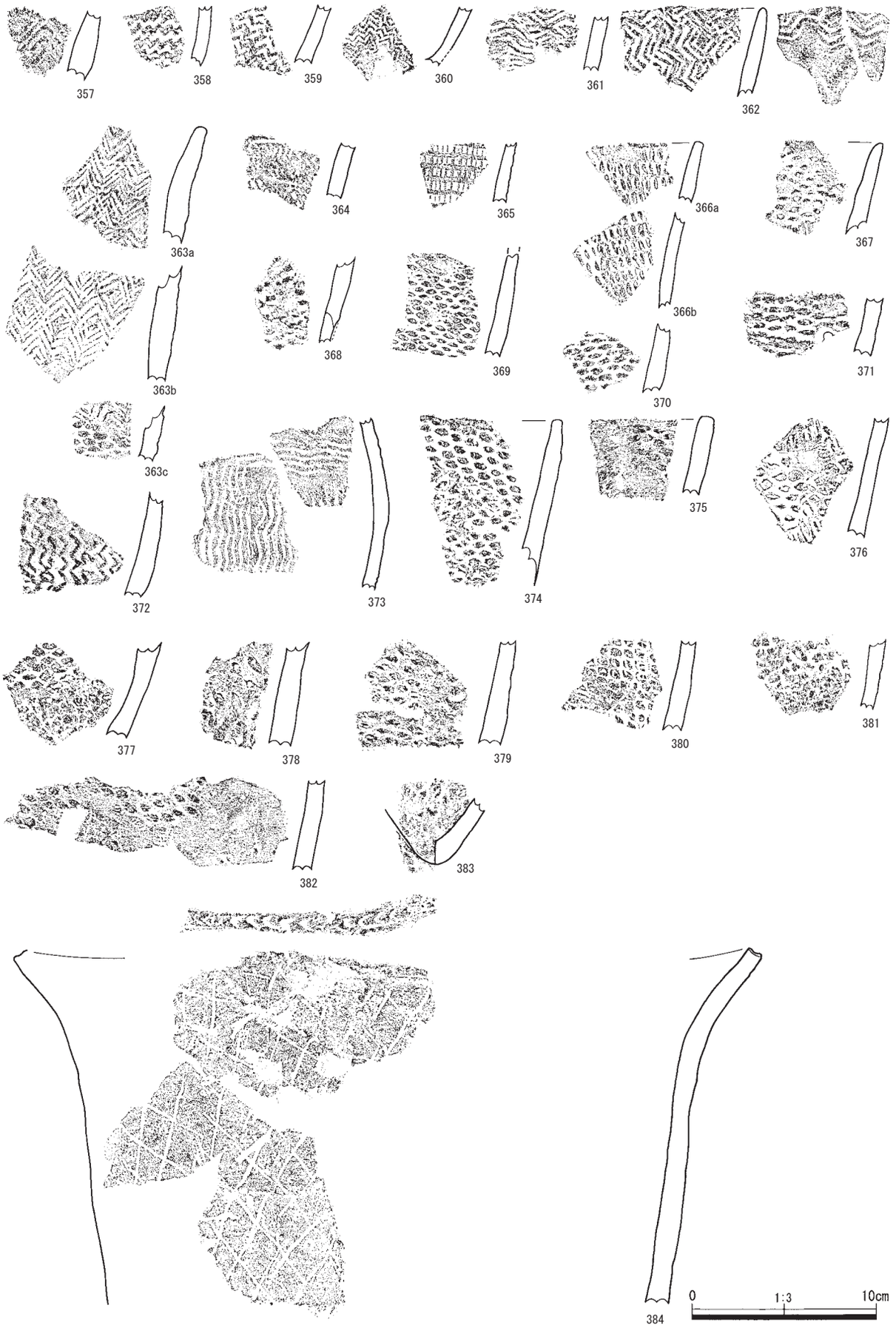
押型文（異方向密接）を施した土器を中心に２類に分類した。この段階にあたる土器の型式は定まっていないが、伊豆の国市（旧大仁町）大平Ａ遺跡と同時期か。縦位・横位に施された山形文や１類より整った楕円文が施されている。この２類の土器胎土中にも繊維が認められるものの、１類と比較して少ない感がある。また胎土中に雲母を含むものもある。格子目文が施された土器も雲母を含む胎土であったため、２類とした資料がある。この２類土器は全域にわたり散発的に出土している（第88図）。

357～371は２類に分類した土器群である。357～362は山形文が施されている。362は口縁部のみの破片資料である。外面には口唇部直下に山形文を横位に施した後に、縦位に山形文を施している。内面には山形文が横位に施されている。359・360はともに胴部下半の破片資料である。359には雲母が見られる。363・364は異なる押型文が施された資料である。363ａ・ｂ・ｃの３点は同一個体の可能性がある資料である。器厚は厚めで、胴部はわずかに外反気味に立ち上がり、口唇部は丸く仕上げている。口唇部直下より山形文を横位に密接して施している。363ｃは胴部中位付近の資料と考えられるが、山形文の下位に楕円文が見られる。楕円文の後に山形文を施したものか。細かい雲母が胎土中に認められる。364は山形文と格子目文が施されている。施文の順番は判然としない。365は格子目文のみ施された資料である。胎土中に雲母が多く見られる。366～371は楕円文が施された資料である。366・367は口縁部の破片資料である。366ａ・ｂは同一個体と考えられる資料である。縦位の楕円文が施されている。口唇部が平坦に仕上げられた資料である。一方367の口唇部は尖り気味で、外面には口唇部直下より楕円文が横位に施されている。外面には細かいクラックが認められる資料である。368～371は楕円文を横位に施した資料である。368・369には胎土中に雲母が見られる。371には両面穿孔が１ヶ所認められる。

３類（第85・86図　写真図版66～68）

押型文・撚糸文土器でも終末期の土器群と考えられるものを３類とした。高山式並行土器、相木式並行土器等の可能性がある土器も含んでいる。文様としては押型文・撚糸文が認められる。押型文では楕円文や山形文がある。楕円文は１・２類と比較して大きい。山形文の中には緩やかな波状に近いものもある。胎土に関しては多様である。東尾根と北尾根～東支谷、西尾根に集中域が見られる。

372～383は押型文が施された資料である。そのうち372・373は山形文が施されている。372は縦位に施されている。373は縦位に山形文を施した後に、山形文を横位に施したものか。374～383は楕円文が



第 85 図　縄文土器第Ⅰ群２

施されている。そのうち374・375は口縁部のみの破片資料である。374は波状口縁で、口唇部を丸く仕上げている。楕円文が横位と斜位に施されている。375は平縁で、横位の楕円文が施されている。376～382は胴部のみの破片資料である。376は横位の楕円文が施された後に、別の原体で施文されたものであろう。内面に擦痕か。377～382は胴部下位の資料であろうか。横位・斜位に施された楕円文が見える。383は底部のみの破片資料である。尖底である。底部近くまで楕円文が施されている。

384～394は撚糸文が施された資料である。384は高山寺式並行土器の可能性を指摘する。口縁部から胴部中位付近までの破片資料である。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。この口縁部は波状縁を呈し、口唇部は指で強く押さえて平坦に仕上げられたため、部分的に口縁部が肥厚する。その口唇部には連続して刺突文が施されている。半截竹管状の工具を用い、腹側を土器面に向けて鋭角に刺突している。口唇部直下より撚糸文が施されている。胎土中に白色粒子がやや多く見られる。この384は高山寺式土器に通有に見られる内面沈線が認められないものの、格子目状に撚糸文を施し、口縁部がやや強めに反る様は高山寺式土器と親縁性が認められると考えられ、高山寺式並行土器のものと判断される。385～394は撚糸文が施された破片資料である。比較的胎土中の繊維が多い。385は口縁部のみの破片資料で、口唇部はやや平坦に仕上げられている。外面は撚糸文、内面には擦痕が認められる。386は胴部のみの破片資料で、外面には撚糸文が施されている。386ａの上部の器面は剥脱しており、器面下に撚糸文が施されているのが観察される。よって386は粘土紐を積み上げながら施文したことが理解されよう。

395・396は穂谷式並行土器もしくは相木式並行土器か。395ａ・ｂは同一個体と考えられる資料で、口縁部付近の破片資料である。口縁部は強めに指でナデ押さえたために尖り気味で、やや外反する。口唇部には刻目文を施し、外面直下に押型文（緩い山形文）を横位に施している。山形文直下に角状の棒状工具で沈線を横位に引き、その下位に連続して刺突文が施されている。幅広で先端がやや先割状の工具か。内面にも山形文が施されている。横位に施された沈線文が異種の文様を区画するように配置されているのが理解できる。396は先端が角状を呈する棒状工具で矢羽状に連続して刺突している。395については内面に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施(IAAA-92029)した。その結果8,000±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。また当該資料は水野蛍氏も分析(NUTA2-15561)を行い、8,025±35yrBPという^{14}Ｃ年代が測定された。

４類（第86図　写真図版68）

田戸下層式並行土器と考えられる土器を４類とした。田戸下層式土器は丸底・尖底の深鉢を基調とし、太沈線文や貝殻腹縁文、刺突文の施文が知られている。頚部の外反気味な資料がある。胎土中に繊維が認められる資料があるが、それは並行期の土器か。この４類土器は中央尾根・東支谷・東尾根に少量認められる（第88図）。

397～405は４類に分類した土器である。そのうち397～399・404は口縁部資料である。397ａ・ｂは同一個体と考えられる資料である。残存状態から波状口縁と考えられる。ａの口縁部は尖るように仕上げられ、口唇部に刻目文が不明瞭であるが施されている。口唇部直下には刺突文が連続して施されている。刺突文列の間に太く浅い沈線が施されている。ｂも２列の刺突文列の間に太く浅い沈線が施されている。太く浅い沈線直下に半截竹管状の工具で平行沈線文が施されている。398は397と比較して器厚は厚めである。口縁部は平坦に仕上げられ、浅い刻目文が施されている。口唇部直下には貝殻腹縁文が施されている。399は397と同様、口縁部は尖るように仕上げられている。波状口縁と考えられ、口唇部直下に２条の沈線文と刺突文が施されている。刺突文は先端が角状を呈した工具で、器面に対して垂直に刺突されている。404は波状口縁と考えられる。波頂部は欠損している。口唇部は平坦に仕上げられている。

第 86 図　縄文土器第Ⅰ群３

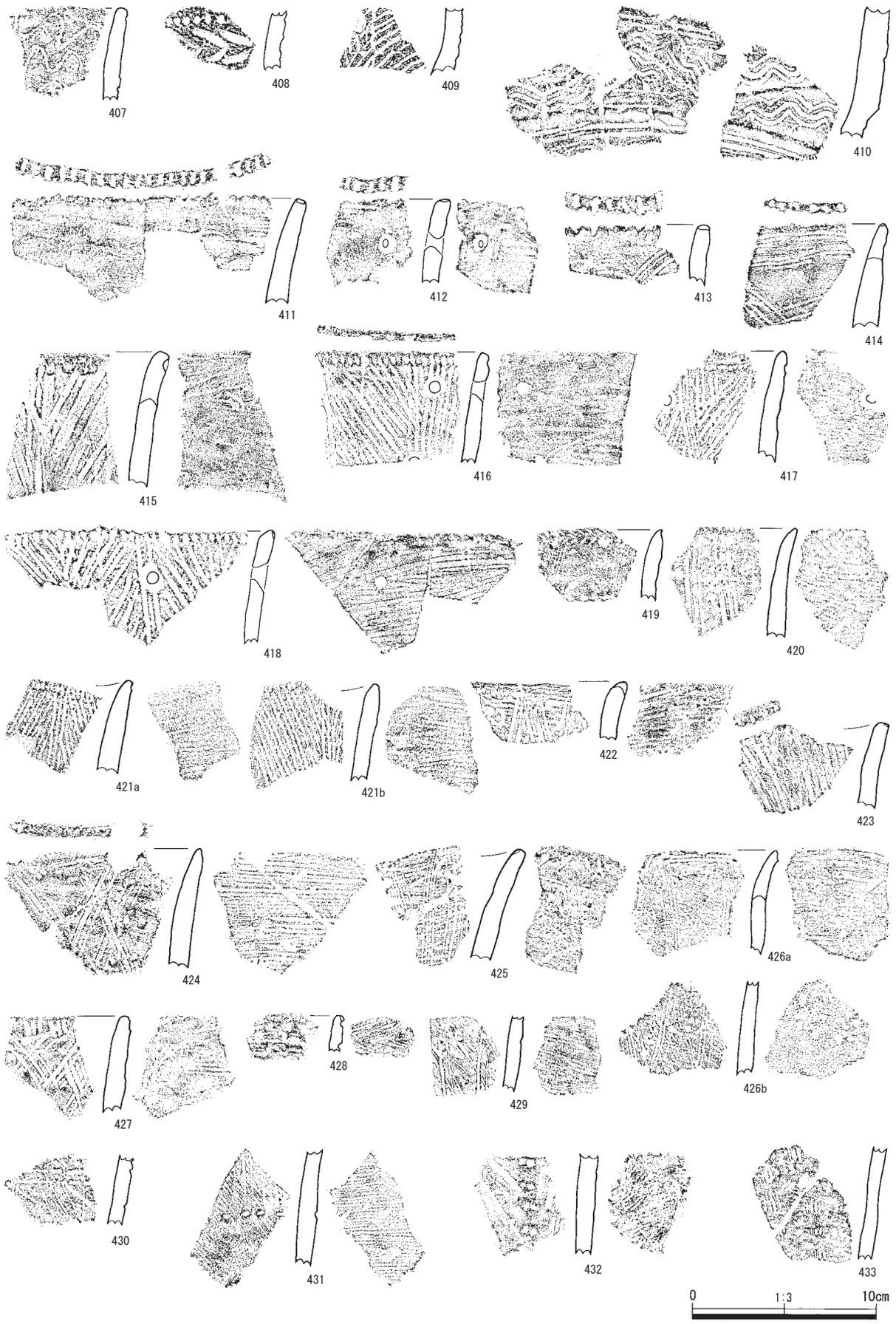
外面には棒状工具で沈線文が施されている。この沈線は波状に施されているが、極めて緩い。400～403・405は胴部または底部のみの破片資料である。400・401は沈線文と貝殻腹縁文が施されている。402は低い隆帯上に矢羽状に短い沈線文を配し、その下位に横位の沈線文で区画、刺突文が施されている。刺突文は半截竹管状の工具の背面を土器面に向けて刺突している。田戸上層式段階で器形が括れるものが出現することを勘案すれば、当該資料は田戸上層式土器に近い可能性を持つ。403は尖底である。外面には横位の沈線文が観察される。底部先端は損耗している。

５類（第86・87図　写真図版69）

田戸上層式土器及び田戸上層式並行土器と考えられるものを５類とした。主要器種としては深鉢が挙げられ、屈曲・段を有し、波状文や直線的な隆線文が第１次区画文に多く認められるという。また前段階では認められた太沈線文は消滅、口縁部外面の無文化するタイプが知られている。この５類土器は西支谷～東尾根にかけて少量が、散発的に見られる。当該報告では図化に耐えられる資料が少ないものの、浅鉢とした資料がある。

406～414は５類に分類した土器である。406は浅鉢である。当該資料は破片資料で、図上で器形の復原を試みている。丸を帯びた底部から胴部を緩やかに立ち上げ、口縁部を直線的に屈曲させ、口唇部は丸く仕上げている。口唇部には貝殻の腹縁で刺突か。外面口縁部には３条の浅い細沈線文を３条横位に施している。２条目と３条目との間に中を窪ませた円形浮文を貼り付けている。屈曲部は細い半截竹管文が引かれたため、細隆起線文状となる。屈曲部より下位には鋸歯状に沈線文を施す。胴部下位にも鋸歯状の沈線文が施されているが、この２段の鋸歯状沈線文の間には浅い細沈線文が少なくとも６条認められる。２段目の鋸歯文より下位には２条の沈線文が施される。底部から観察するとこの沈線文は同心円状に見る事ができる。内面の文様は主に３段の文様帯で構成される。最下段の文様帯は横位の沈線文を基調とし、その内部にϒ状のモチーフを入れ込んでいる。ϒ状のモチーフの先端には先端が丸い断面を持つ工具で円形の刺突文を添えている。ϒ状のモチーフは蕨手文との親縁性が想起される。中段の文様帯は曲線を描くモチーフを沈線文で表現しているが、欠損しているため判然としない。最上段の文様帯は横位の沈線文を描いているが、２条目の沈線文は途切れ、その先端に件の円形の刺突文が施されている。これらの文様の基調となるのは、細い棒状工具を用いた沈線文である。しかし土器製作者が慎重に文様を描いたためか、沈線内に小刻みに工具を動かした痕跡が窺える。押引きか。当該資料は４－２区西端、ＡＩ－20・21グリッド、ＡＪ－21グリッドで出土しており、東支谷に該当する。他の５類土器の出土分布よりやや離れている。407は口縁部のみの破片資料である。口唇部は丸く仕上げている。外面には波状の沈線文が施されている。内面は擦痕が観察される。408は刺突文の下位に矢羽状に沈線文が施されている。刺突文・沈線文とも同一の工具で施文したものと考えられる。409は沈線文が施されているが、一部、押引き沈線文が認められる。408・409は田戸上層式並行の土器か。410は頸部付近の破片資料か。屈曲部下位には半截竹管状の工具で施された平行沈線文が観察される。屈曲部上位には微隆起線文が横位に貼り付けられ、その上位には波状文と微隆起線文が山形に配されている。

411～414は口唇部に刺突文が施された破片資料である。411・412は外面に文様が施されていない。前者は口唇部が平坦に仕上げられ、外面にはナデ痕が観察される。後者の口唇部は丸く仕上げられ、両面穿孔されている。413・414は外面に沈線文が施されている。その沈線文は半截竹管状の工具を揃えたものか、先端が割れた工具で施されたためか、多条である。414は口縁部に沿って横位に施している。なお411～414の刺突文や多条沈線文は後述する６類土器の文様に親縁性が窺えるため、田戸上層式土器から６類土器に分類した判ノ木山西式土器にかかる資料と考えられよう。

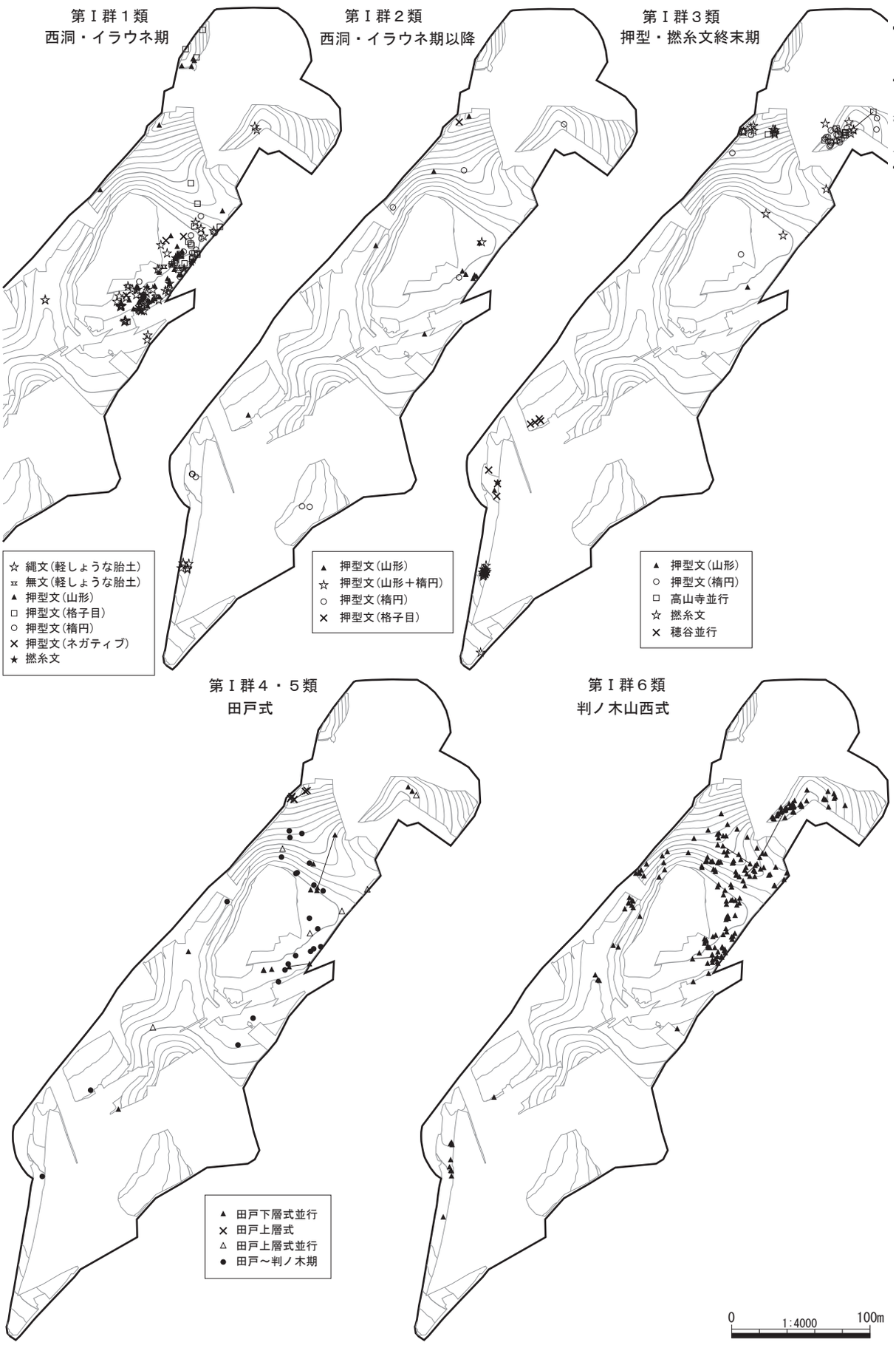


第 87 図　縄文土器第Ⅰ群４

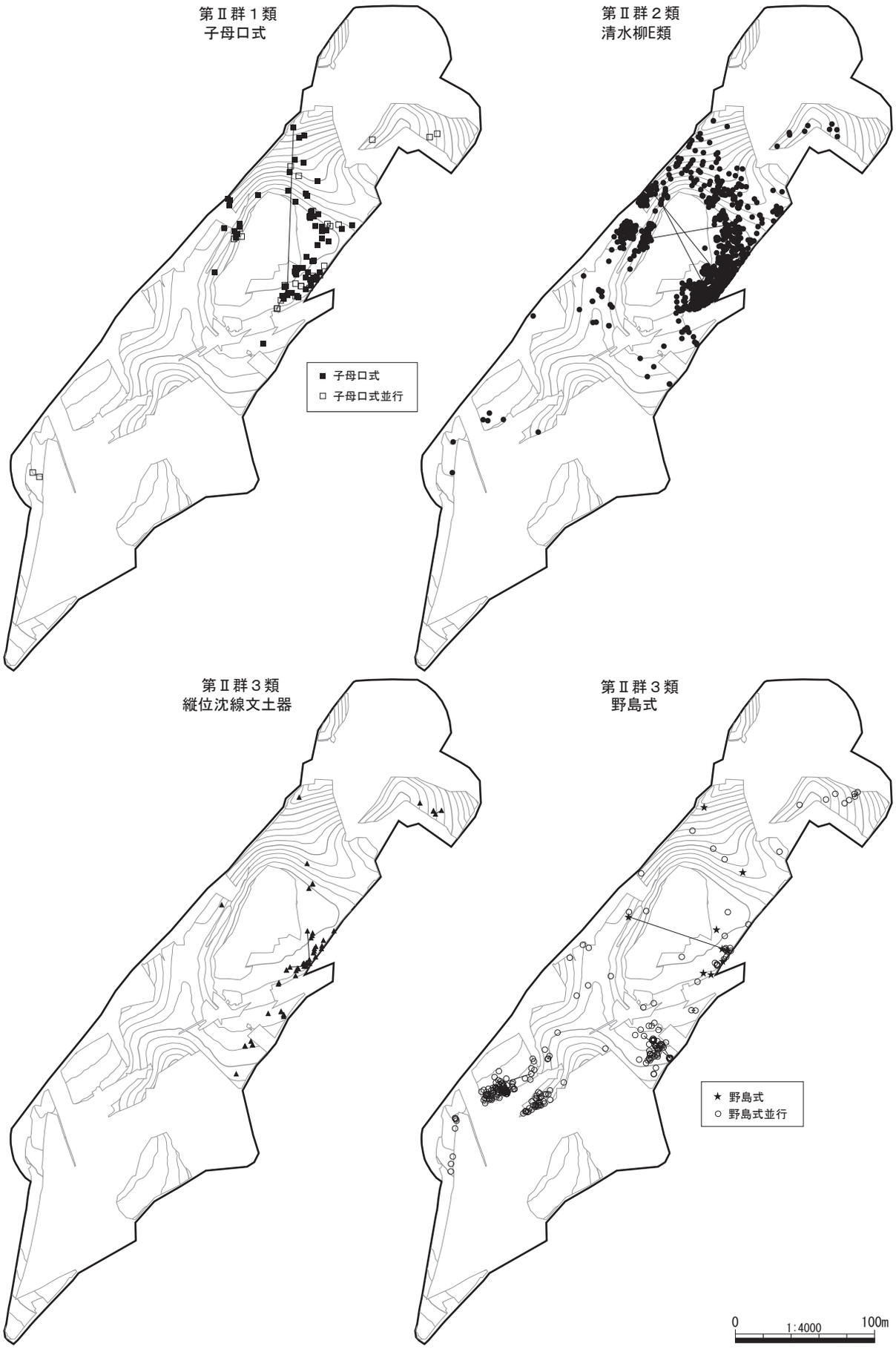
６類（第87・90図　写真図版70～72）

判ノ木山西式土器と考えられるものを６類とした。器面に半截竹管状もしくは先割状の工具により綾杉状・格子目状の沈線文が施された資料をこの６類土器に分類した。また口唇部、口縁部の刺突文も特徴的である。沈線文では曲線を描く資料も知られている。また土器内面には条痕文もしくは繊維の束のような調整具を使用した痕跡が観察される。なお口縁から隆線を縦位に垂下させる資料は当該遺跡では未確認である。土器の胎土中には繊維を含み、また白色粒子が多く含む資料が多い。極少数であるが雲母が胎土中に含む資料がある。この６類土器は特に中央尾根から東尾根にかけて多く分布し、５類土器との分布域と重複する（第88図）。この判ノ木山西式には古段階・新段階の２段階あるものと推定され、古段階は田戸上層式土器終末期・相木式土器と並行するという意見があるため、５類土器の一部と当該土器群とは時期的に並行しよう。

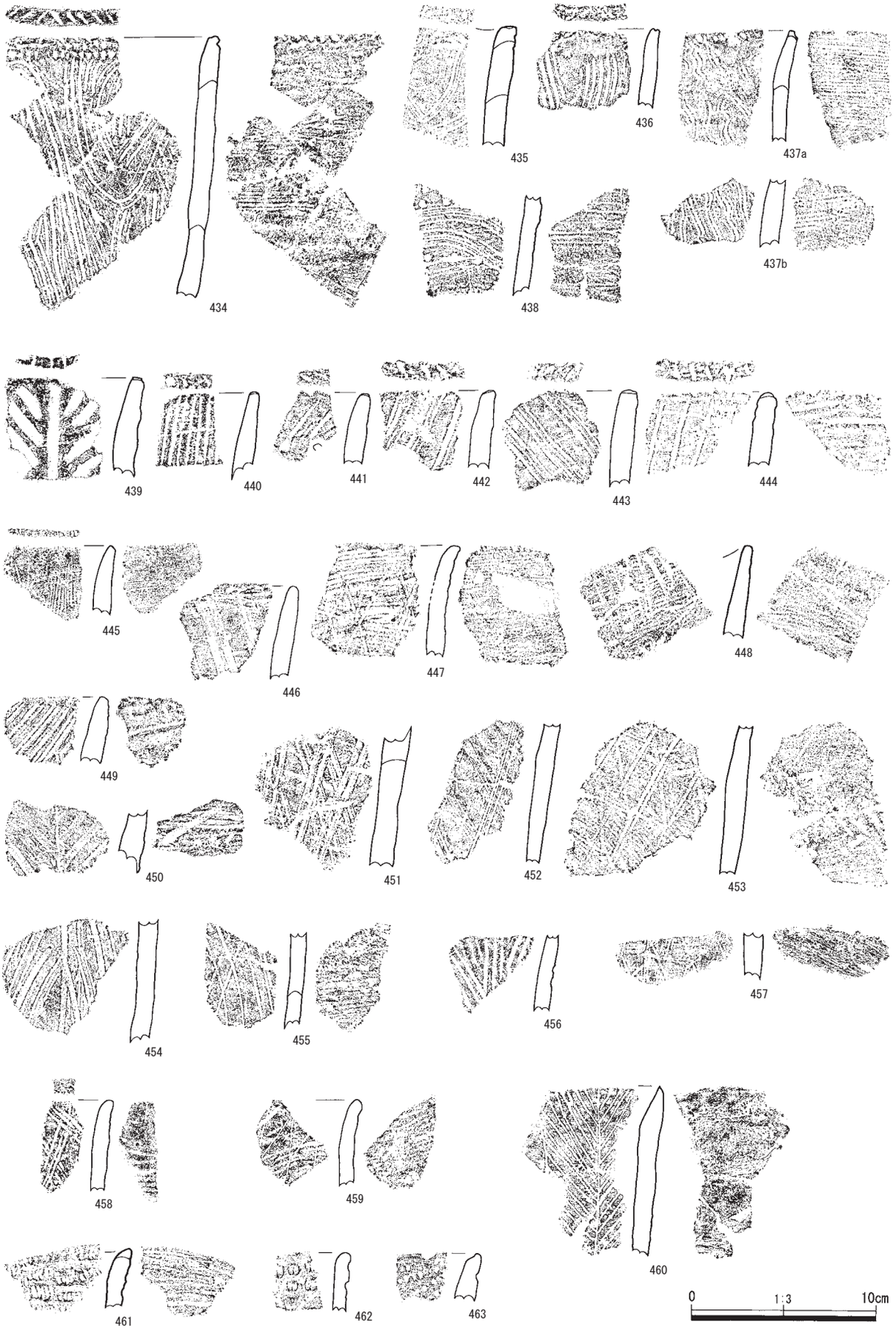
415～463は６類に分類した土器である。そのうち415～432・434～445・461～463は沈線文と刺突文が施された破片資料である。415～431は格子目状もしくは綾杉状の沈線文が施されている。そのうち415～428は口縁部のみの破片資料である。415・416は口唇部を平坦に仕上げ、その直下に刺突文を施している。外面には綾杉文が施されている。内面は擦痕か。416には両面穿孔が２ヶ所確認される。417は口唇部を丸く仕上げており、両面穿孔が１ヶ所確認される。418の口唇部はやや強めにナデ押さえたためか、やや尖り気味である。両面穿孔が２ヶ所確認される。内面には条痕文が観察される。419は口唇部直下に刺突文を矢羽状に施し、その下位に格子目文か。胎土中に雲母が多く認められ、他の土器と印象が異なる。沼津市西洞遺跡第Ⅳ群ｂ類に酷似か。420は口唇部を尖らせた資料である。前述してきた土器資料には口唇部直下に刺突文が施されてきたが、当該資料にはそれが見られず、口唇部から約２㎝の箇所に刺突文が見られる。後述する424と類似するか。421ａ・ｂは同一個体と考えられる資料である。内面は条痕文が見られる。波状口縁か。この421は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92027）した。その結果421は8,060±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。423は口唇部を平坦に仕上げられ、口唇部端に刻目文を施す。424は刺突文を縦位に間隔をあけて施す。先割状の工具で格子目状の沈線文を施す。内面は横位の条痕文が観察される。425は口唇部を丸く仕上げ、内面口唇部直下に刺突文か。内外面ともに条痕文。426は他の口縁部資料と比較してやや強めに外反させる。口唇部には間隔をあけて刺突文が施され、口唇部沿いに半截竹管状の工具を用いた沈線文を施している。外面には格子目文が施される。427は器厚が厚めで、口唇部を丸く仕上げる。口唇部直下には刺突文か。格子目文も施される。428は波状口縁の波頂部か。口唇部に間隔をおいて刺突文を施し、外面にも刺突文が施されている。429～433は胴部の破片資料である。429は半截竹管状の工具で格子目文を施している。施文の際、工具腹側を土器面に強めに当てた後、力を抜いて平行沈線文を施す。そのため格子目文の直上に刺突文が配列されているような印象を与える。430は刺突文を横位に２段施した後に、沈線文を施している。431は半截竹管状の工具による沈線文の下位に、横位に連続して刺突文を施して文様帯を区画なさしめている。432は先割状の工具で縦位に刺突文が間隔をあけて施した後に、沈線文を施したものか。433は先割状の工具で縦位に刺突文を２列施している。沈線文は見られない。434～438は刺突文や波状もしくは褶曲した沈線文が施されている。434は胴部から口縁部にかけての破片資料である。胴部は直線的に立ち上がり、口唇部を丸く仕上げている。口唇部には刻目文を施している。半截竹管状の工具で沈線文を施した後に、口唇部直下に刺突文を２列施している。内面には条痕文が見られる。435～437は口縁部のみの破片資料である。いずれも器厚は厚めで、口唇部と口唇部直下に刺突文、外面に沈線文が施されている。436は口唇部を平坦に仕上げている。口唇部に刺突文、外面に沈線文が施されている。口縁部はやや強めに指でナデ押さえ気味に整形されたため、口唇部直下にはナデ痕が見られる。堅緻な仕上がりで他の土器片と区別される。437は口縁部をわずかに外反させ、口唇部を丸く仕上げて


第Ⅰ群１類
西洞・イラウネ期
☆ 縄文（軽しょうな胎土）
⌘ 無文（軽しょうな胎土）
▲ 押型文（山形）
□ 押型文（格子目）
○ 押型文（楕円）
× 押型文（ネガティブ）
★ 撚糸文
第Ⅰ群２類
西洞・イラウネ期以降
▲ 押型文（山形）
☆ 押型文（山形＋楕円）
○ 押型文（楕円）
× 押型文（格子目）
第Ⅰ群３類
押型・撚糸文終末期
▲ 押型文（山形）
○ 押型文（楕円）
□ 高山寺並行
☆ 撚糸文
× 穂谷並行
第Ⅰ群４・５類
田戸式
▲ 田戸下層式並行
× 田戸上層式
△ 田戸上層式並行
● 田戸～判ノ木期
第Ⅰ群６類
判ノ木山西式
0
1:4000
100m

第88図　土器分布図１


第Ⅱ群１類
子母口式
■ 子母口式
□ 子母口式並行
第Ⅱ群２類
清水柳E類
第Ⅱ群３類
縦位沈線文土器
第Ⅱ群３類
野島式
★ 野島式
○ 野島式並行
0
1:4000
100m

第89図　土器分布図２



第 90 図　縄文土器第Ⅰ群５

いる。口唇部に刺突文、外面には波状の沈線文が施される。438は胴部のみの破片資料である。横位に褶曲した沈線文が施されている。439の器厚は厚めで、口唇部は丸く仕上げている。口唇部に刻目文を施し、外面には綾杉状に沈線文を施している。この６類土器において沈線文は先割状もしくは半截竹管状の工具を専ら使用しているのとは異なり、当該439は幅広で浅い沈線文で構成されているため、他の資料とは区別される。田戸上層式土器との親縁性を想起させる。440～444は口縁部のみの破片資料である。口唇部に刻目文、外面に沈線文が施されている。441には両側から穿孔がなされている。

445～460は沈線文のみ施された破片資料である。445～449は口縁部のみの資料である。447はわずかに口縁部を外反させ、口唇部は丸く仕上げている。外面は条痕文と格子目文か。448は波状口縁と考えられる。直線的に立ち上がり、口唇部は丸く仕上げている。口唇部直下から沈線文を施している。胎土中に雲母が多く見られ、他の６類土器と区別される。450～457は胴部のみの破片資料で、格子目状に沈線文が施されている。460は胴部中位から口縁部までの破片資料である。口唇部を尖らせている。口唇部から綾杉状の沈線文を施している。461～463は刺突文が多く施された破片資料である。

第Ⅱ群　早期後半

１類（第91・92図　写真図版73～75）

子母口式土器及び子母口式並行土器と考えられる土器を１類とした。ただし関東地方での子母口式土器新段階は静岡県東部においては「ミヲ坂式」が並行する意見もある。よって１類に分類した土器群には、ミヲ坂式が含まれるものと捉える事も可能か。子母口式土器の器種として深鉢が主流となすが、口縁部は折返しもしくは口縁部付近に低平な隆帯を設ける事により、外見上口縁部がやや肥厚気味に仕上り、そこに絡条体圧痕文もしくは沈線文を施すのが知られる。貝殻腹縁文を施している資料があるが、田戸上層式土器の名残か。また口縁部付近に刺突文列のみを施す資料群も１類に分類してみた。この１類土器には胎土には繊維が多く認められている。１類土器は中央尾根を中心に分布する（第89図）。

464～514は１類に分類した土器である。そのうち464～494は折返し口縁または隆帯・隆線上に絡条体圧痕文又は沈線文等を施した資料である。464～482・491・492・494は口縁部のみの破片資料である。464～468は口唇部にも施文されたもので、いずれも絡条体圧痕文か。口縁部の外観は肥厚しており、折返し口縁か。467のように隆帯を口唇部直下に貼り付け、更にその下位にもう１条隆帯が見られる。470～472は467同様、口唇部直下に隆帯を設け、470・471は斜位の沈線文、472は貝殻復縁文が施されている。469・473～482は口唇部からやや間隔をあけて隆帯を貼り付けている。469は隆帯上には施文せず、隆帯上位・下位に絡条体圧痕文が施されている。473～476は口唇部にも絡条体圧痕文が、477～482は口唇部に一切施文がなされていない資料である。477の外面には条痕文が見られるが、内面は擦痕か。483～490は胴部のみの破片資料である。490は絡条体圧痕文が施された隆帯の上位に沈線文か。491は波状口縁の波頂部か。口唇部には施文が観察されない。波頂部から細い隆線が垂下する。隆線上に絡条体圧痕文らしき痕跡が見られるが判然としない。492も口縁部のみの破片資料で、口唇部には刻目文が施される。幅広の微隆起の隆帯には斜位の沈線文か。494は絡条体圧痕文を施した後に、口唇部をナデ押さえて、平坦に仕上げている。内外面に条痕文が見られる。なお464・465は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92046・92052）した。その結果464は8,020±40yrBP、465は7,930±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

496～499は単位の大きい絡条体圧痕文が施された資料である。496は波状口縁か。口唇部は強めに押さえているのか器厚がやや薄めである。口唇部と低平な隆帯、隆帯直下に絡条体圧痕文が施されている。497は隆帯が判然としない。口縁部には鋸歯状に絡条体圧痕文が配置され、その下位に横位に絡条体圧痕文が施されている。498・499も口唇部に絡条体圧痕文が施されている。口唇部直下に絡条体圧痕文が

第 91 図　縄文土器第Ⅱ群１

第 92 図　縄文土器第Ⅱ群２

間隔を開けて斜位に施し、その下位に隆帯が見られる。500は口唇部直下に絡条体圧痕文と刺突文が観察される。摩耗気味で判然としないが、刺突文は半截竹管状の工具によるものか。501は491と同様、隆帯を口縁部から垂下させた資料であるが、501は隆帯左右にも絡条体圧痕文が施されている。502は胴部のみの破片資料である。絡条体圧痕文が施された隆帯の上位も絡条体圧痕文が施されている。502は胎土中に白い粒子が多いため他の資料と区別される。503は絡条体圧痕文が施された細い隆帯の下位に細かい刺突文と沈線文が施された資料である。文様や胎土や堅緻な仕上がりの点から他の資料と区別される。田戸上層式並行土器としてもよいかもしれない。

504～514は文様が刺突文のみで構成される資料で、514を除き全て口縁部のみの破片資料で、子母口式並行土器か。504は波状口縁である。口縁部には刺突文列が２列施されている。この刺突文と同一工具により、口唇部にも刺突文が施されているが、文様の仕上がりとしては刻目文に近い。505・506は口縁部に刺突文列が２列施されている。506の内面、口唇部直下には浅い沈線文か。507は刺突文列の下位に貝殻腹縁文が施される。508～513は口唇部への施文が見られない資料である。508は波状口縁の波頂部か。509は同一個体か。刺突文列がランダムであるが３列施され、両面から穿孔がなされている。波状口縁と考えられる510は口縁部が内湾気味に立ち上がるため、他の資料と区別される。口唇部は丸く仕上げられ、口縁部には刺突文列が２列施されている。511は波状口縁の波底部から波頂部にかけての破片資料である。口縁部には刺突文列が３列施されている。512はやや外反する資料で、刺突文列が口唇部から間隔をあけて施されている。内面には条痕文が見られる。513は波状口縁か。口縁部に２列の刺突文列が施される。半截竹管状工具の腹側を土器面に向けて刺突している。514は胴部のみの破片資料である。514は細い竹管状の工具を土器面に対して垂直に刺突する。なお512・513は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92044・92030）した。その結果、512は7,950±40yrBP、513は7,850±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

２類（第92～98図　写真図版76～88）

清水柳Ｅ類土器及びそれに並行する土器を２類土器に分類した。型式名が定まっていないため、検討が続いている。２類土器は他の土器群と比較しても出土数量的に最も多い土器群で、ある程度整頓せねばなるまい。この土器群は尖底の深鉢が主体と考えられ、器面に絡条体圧痕文を施すのを基調とする。さらに絡条体圧痕文と微隆起線文や沈線文も組み合わせて施文するものもある。胎土中には繊維が認められる。しかし胎土は同じでも微隆起線文や沈線文等のみ施文された土器群の存在があり、後続する野島式と分離について検討が加えられている。今回分類した２類土器中には絡条体圧痕文が施されていない資料も含む。当該土器群は中央尾根を中心に大量に出土している（第89図）。

515～700は２類に分類した土器である。そのうち515～582は絡条体圧痕文のみ施された破片資料である。515・516は梯子状に絡条体圧痕文が施されている。胴部のみの破片資料である。

517～532は細い軸を有する絡条体圧痕文のみが施された資料である。517～528は口縁部のみの破片資料である。そのうち517～521は絡条体圧痕文を横位に、522～524は斜位に、525～528は格子目状もしくは異なる方向の絡条体圧痕文が交差している。口唇部は517のように丸く仕上げるものは少なく、平坦に仕上げるものが多い。また口唇部には519・521・524・525のように絡条体圧痕文が施される資料がある。ただし520の平坦な口唇部には浅い凹線状のものが見られるものがある。文様というよりは平坦に仕上げる際に工具を用いたことに由来するものか。518・520・521・523については波状口縁と考えられる。529～532は胴部のみの破片資料である。いずれも横位に施された絡条体圧痕文が見られる。ただし532については破片下端が屈曲部にあたるものか。

533～550はやや太めの軸を有すると思われる絡条体圧痕文のみが施された資料である。533～547は口

縁部のみの破片資料である。このうち533～542については絡条体圧痕文を横位に、543～545は斜位に、546・547は方向の異なる絡条体圧痕文を交差させている。546は口唇部直下に横位の絡条体圧痕文を施した後に、その下位に斜位の絡条体圧痕文を施している。547は口縁部に絡条体圧痕文を数列施した後に、その上から斜位の絡条体圧痕文を施している。口唇部は丸く仕上げたものや、平坦面を作り出すものなど多様であるが、絡条体圧痕文が斜位・交差させるタイプのものは口唇部に平坦面をなす。533・543・546は口唇部にも絡条体圧痕文を施している。534は刻目文か。548～550は胴部のみの破片資料である。550はわずかに条痕文が見られる資料である。破片下位に横位の絡条体圧痕文が施され、その上位に斜位の絡条体圧痕文が間隔をあけて配置されている。

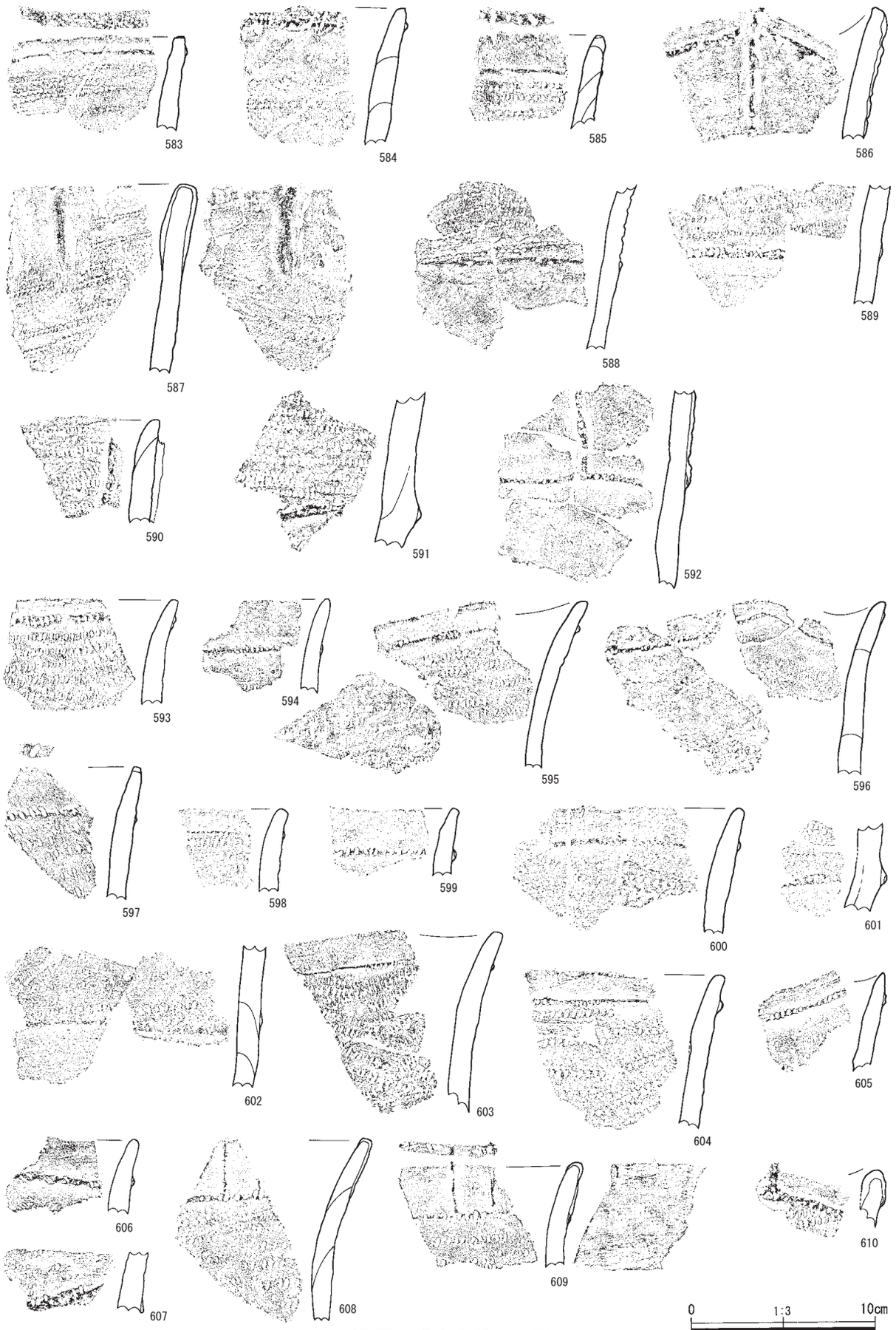
551～576は軸が認められない絡条体圧痕文のみ施された資料で、551～562・570～576は口縁部のみの破片資料で、551～562は絡条体圧痕文を横位に、570～576は斜位もしくは交差させている。絡条体圧痕文が横位に施された口縁部資料の大半は、口唇部直下から絡条体圧痕文を密に施しているが、561は尖らせた口唇部から約２㎝の位置に絡条体圧痕文を横位に施し、その下位約１㎝間隔をあけて絡条体圧痕文をもう１条施している。この軸の認められない絡状体圧痕文を施したタイプは口唇部を丸く仕上げたものや、平坦、尖らせるように仕上げたもの等多様で、口唇部に絡条体圧痕文を施しているのが551・552・554・571である。570・573の口唇部には刻目文が施されている。572の口唇部は指頭もしくは工具で押さえたものか。これらの口縁部資料は殆ど直線的に立ち上がる資料であるが、576のみ外反させた資料である。553や556・561・562・574～576等は波状口縁である。563～569は胴部のみの破片資料である。565は胴部下半部付近の資料である。破片上端に２条程絡条体圧痕文が見られ、それより下位約２㎝の位置に絡条体圧痕文を横位に施し、文様帯の下端となす。567は破片中位付近よりわずかに外反する。穿孔されている。569は斜位・横位の擦痕上に絡条体圧痕文が施されている。

577～582は絡条体圧痕文のみ施されているが、原体が２種以上使用したもの等、特殊な資料群である。577は波状口縁と考えられ、丸く仕上げられた口唇部に絡条体圧痕文が見られる。外面には口唇部の圧痕文と同一の施文した工具と、別の工具を使用して絡条体圧痕文が施されている。581・582も異なる２種の原体で絡条体圧痕文が施されている。578は原体を半置反転させたものか。器面の摩耗が激しくて判然としない。580は口縁部を大きく外折させ、内面に絡条体圧痕文を縦位に間隔をおいて施している。

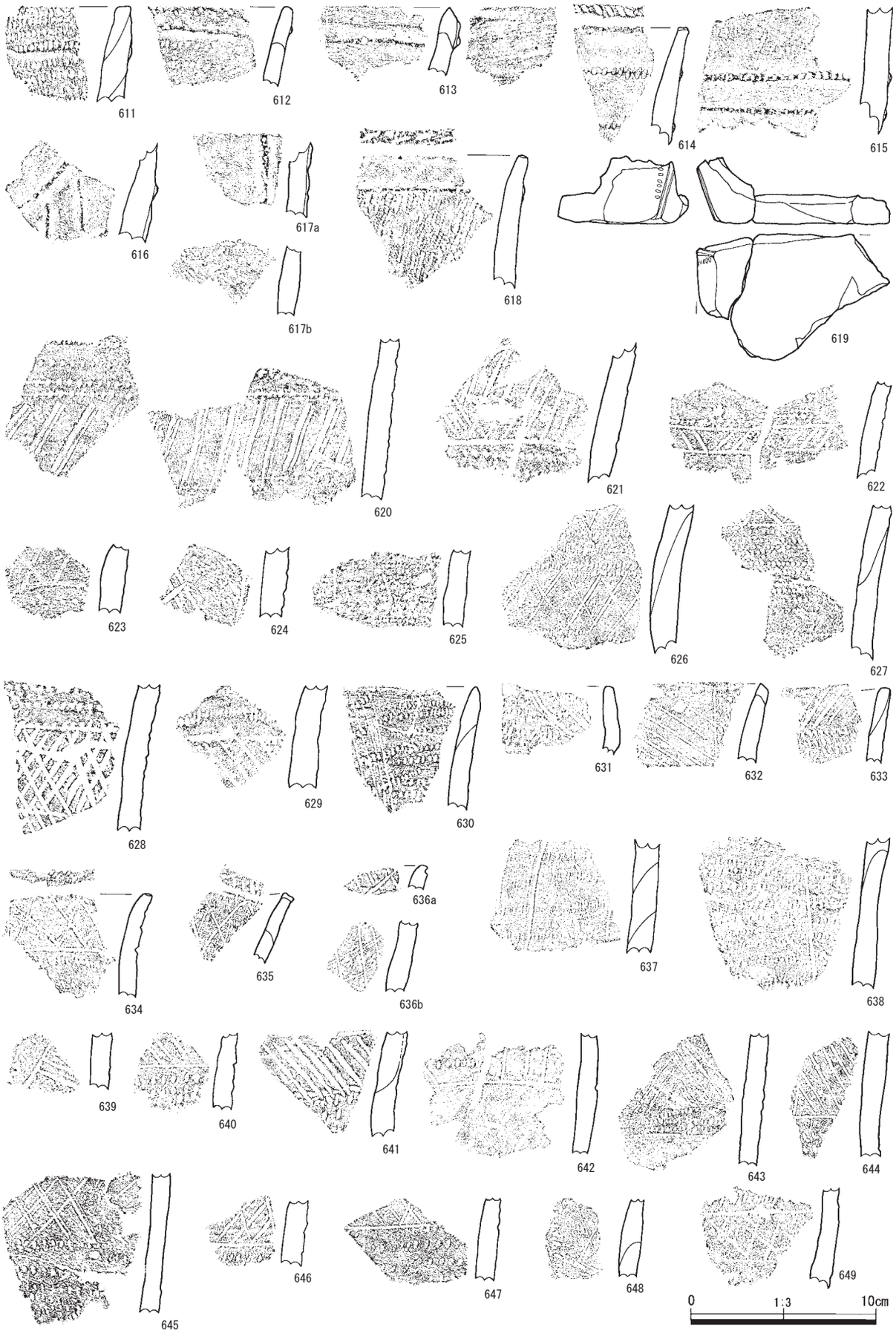
583～619は絡条体圧痕文と微隆起線文等が施された資料群である。583～589は軸の細い絡条体圧痕文と微隆起線文が施されたもので、583～587は口縁部のみの破片資料である。583は口唇部直下に横位の微隆起線文を施し、その下位に絡条体圧痕文を横位に施している。口唇部にも絡条体圧痕文が見られる。584は口唇部直下に横位の絡条体圧痕文、微隆起線文を施す。微隆起線文から下位約３㎝あけて、絡条体圧痕文を横位に施す。586は波状口縁で、波頂部である。波頂部から１条微隆起線文を垂下させ、また口唇部に沿って１条貼り付けている。その後に絡条体圧痕文を施したものと考えられる。587は外面に絡条体圧痕文を横位に施した後に、内面から口唇部を縦断し、外面にかけて隆帯を張り付けている。内面には擦痕が見られる。588・589は胴部のみの破片資料である。両者とも横位に微隆起線文を貼り付けた後に、外面に絡条体圧痕文を施す。微隆起線文上の絡条体圧痕文は588のみ施されている。590～592は軸は判然としないが太めの絡条体圧痕文と微隆起線文が施されたもので、590は口縁部のみの破片資料である。この尖らせた口唇部を持つ590は外面に絡条体圧痕文を施した後に、微隆起線文を縦位に口縁部から垂下させるように貼り付けている。その後に微隆起線文上にも絡条体圧痕文が施され、内面は擦痕が見られる。591・592は胴部のみの破片資料である。591は屈曲部か。微隆起線文より上位に絡条体圧痕文が横位に施されている。592は横位の微隆起線文に縦位の微隆起線文が接続している。縦位の微隆起線文で区画された部分には絡条体圧痕文が横位・斜位に施されている。微隆起線文上にも絡条体圧痕文が施されている。593～619は軸が認められない絡条体圧痕文と微隆起線文が施された資料で、

第 93 図　縄文土器第Ⅱ群３

第 94 図　縄文土器第Ⅱ群４



第 95 図　縄文土器第Ⅱ群５



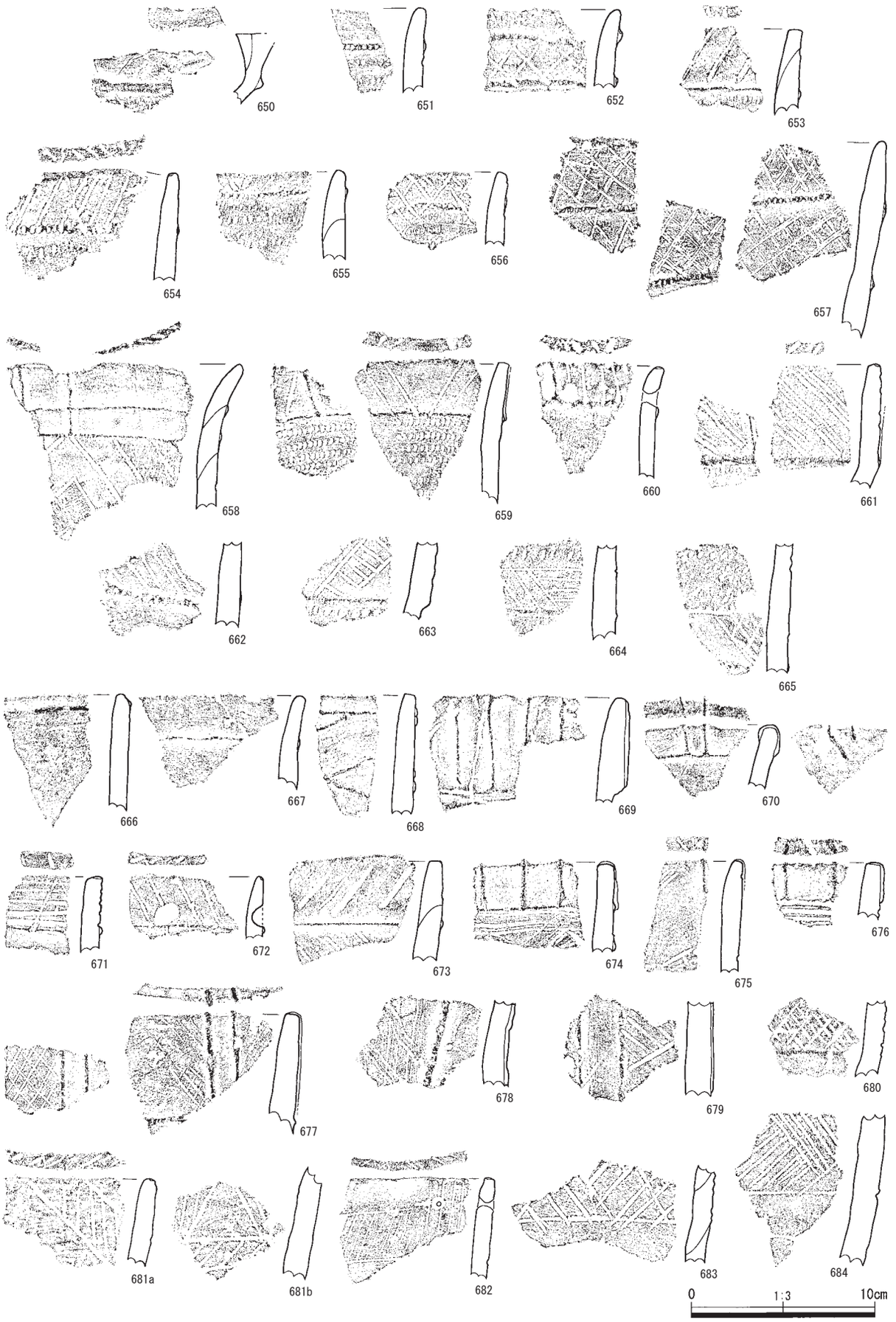
第 96 図　縄文土器第Ⅱ群６

そのうち593～600は横位の絡条体圧痕文を基調とした口縁部資料である。いずれの資料も口唇部から１～２㎝程度間隔をあけて、横位の微隆起線文を貼り付けている。その後に絡条体圧痕文を外面、微隆起線文上に施している。口唇部は丸く仕上げるもの、平坦に仕上げるもの等多様である。また595・596のように波状口縁資料も存在する。601・602は絡条体圧痕文を横位に施した胴部破片資料である。603～606は絡条体圧痕文が横位・斜位に施された口縁部のみの破片資料である。603・604の口唇部は平坦に仕上げ、605は尖らせている。また603・605は波状口縁である。603～606は口唇部から間隔をあけて、微隆起線文を貼り付け、その下位に方向の異なる絡条体圧痕文を施している。いずれの資料も擦痕が見られるが、604の外面には絡条体圧痕文が施される前の擦痕調整が見られる。608～610は横位以外の微隆起線文が認められる資料である。608は口唇部がわずかに残存した破片資料である。口唇部から垂下した１条の縦位の微隆起線文と横位の微隆起線文が接続する。微隆起線文には絡条体圧痕文が施され、その下位に絡条体圧痕文が施されている。609は口唇部から垂下した２条の縦位微隆起線文と横位の微隆起線文が接続する。絡条体圧痕文の下位には絡条体圧痕文が施されている。また口唇部にわずかに絡条体圧痕文が観察される。610は波状口縁の波頂部付近か。口唇部に平行し、１㎝程度間隔をあけて微隆起線文が貼り付けられ、波頂部から短い微隆起線文が垂下・接続する。なお610は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92040）した。その結果610は7,880±30yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。611～619は絡条体圧痕文及び微隆起線文が施されているものでも、特殊なタイプか。611は口唇部直下に極めて低平な隆帯を設け絡条体圧痕文を隆帯とその上・下位に施している。612は口唇部から１㎝程度あけて微隆起線文を設けているが、口唇部と微隆起線文の間にも斜位の絡条体圧痕文を充填している。613～615は横位の微隆起線文を２条貼り付けている資料である。613の口唇部は尖らせるために指頭で強く整形している。口唇部の下位に横位の微隆起線文が２条設けられ、絡条体圧痕文はさらにその下位に施されている。614も２条の微隆起線文が横位に施されている。口唇部から1.5㎝程度下位に１条目の微隆起線文、さらに２㎝程度下位に２条目の微隆起線文が貼り付けられている。絡条体圧痕文は２条目の微隆起線文より下位に施されている。口唇部は絡条体圧痕文か。615は胴部のみの破片資料である。絡条体圧痕文が施された２条の微隆起線文より上位に絡条体圧痕文が横位に施されている。616は３条の微隆起線文が貼り付けられている。破片上位から「ノ」字状に１条の微隆起線文が下方に延び、それから２条の微隆起線文が下方に垂下している。この下方に垂下する微隆起線文の間隙に絡条体圧痕文が充填されている。618は口縁部のみの破片資料である。口唇部は平坦に仕上げられ、絡条体圧痕文が施されている。口唇部から２㎝程度の間隔をあけて、横位に微隆起線文を貼り付ける。微隆起線文直下には半置反転されたものと考えられる絡条体圧痕文が施されている。619は底部のみの破片資料である。平底である。上から見ると方形を呈するものと考えられる。

620～649は絡条体圧痕文と沈線文が施された資料である。そのうち620～627は軸の細い絡条体圧痕文を施した胴部のみの破片資料である。620は破片上位に４条の絡条体圧痕文を横位に施し、その下位に斜位の沈線文を施す。先割状の工具を用いたものか。沈線文を施した後にその下位に絡条体圧痕文を横位に１条施している。621は２条横位に施された絡条体圧痕文の上位に横位の沈線文が１条施され、さらに上位には方向の異なる斜位の沈線文で文様帯が構成されている。622は絡条体圧痕文の下位に横位の沈線文で区画された、斜位の沈線文帯が確認される。623は絡条体圧痕文の上位に格子目状に沈線文が施されている。625は細かい絡条体圧痕文上に縦位・斜位の沈線文が施される。626は横位の絡条体圧痕文を複数条単位で間隔をあけて配置した後に、その間隙に格子目状の沈線文を施している。627は横位の絡条体圧痕文で構成された文様帯上位に沈線文が施されている。628・629は太めの絡条体圧痕文が施されている。628は横位の絡条体圧痕文の下位に格子目状の沈線文が施されている。比較的目の細かい格子目文である。630～649は軸が無い絡条体圧痕文が施されており、このうち630～636は口縁部のみ

の破片資料である。630は沈線文を施した後に絡条体圧痕文を施している。最後に口唇部が尖るように仕上げられている。なお630は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92050）した。その結果630は8,010±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。631には屈曲部が認められる。口唇部はやや平坦に仕上げられ、横位の絡条体圧痕文を施した後に、半截竹管状の工具で斜位に沈線文を施している。632は口唇部を丸く仕上げられている。口唇部からやや浅い沈線文を縦位に施した後に斜位の沈線文を施し、最後に横位の絡条体圧痕文を施している。633は口唇部を平坦に仕上げている。口唇部直下に斜位の沈線文を施し、さらに下位には横位の絡条体圧痕文が施されている。634はわずかに外反する口縁部で、口唇部は平坦に仕上げられ、絡条体圧痕文が施されている。口唇部から約３㎝下位に沈線文を横位に施した後に、格子目状の沈線文を施している。また横位の沈線文より下位には絡条体圧痕文が施されている。635は波状口縁か。口唇部を平坦に仕上げられている。外面に横位の絡条体圧痕文を施した後に、口唇部直下に横位の細く浅い沈線文と格子目状の沈線文を施し、口唇部に刻目文を施している。636も絡条体圧痕文を施した後に、格子目状の沈線文を施している。637～649は胴部のみの破片資料である。637・638は横位の絡条体圧痕文を施した後に、縦位に沈線文を施している。639～641は絡条体圧痕文と沈線文が別区画に施された資料である。641は横位の沈線文を２条施し、その間隙に斜位の沈線文を充填している。沈線文の下位に絡条体圧痕文が施されている。642は横位の沈線文より上位に、斜位の沈線文と絡条体圧痕文が施されている。643は横位の絡条体圧痕文の上に、沈線文を山形に施す。絡条体圧痕文の下に横位の沈線文が施される。644は沈線文の下位に絡条体圧痕文。645～649は格子目状の沈線文が施された資料である。645は絡条体圧痕文が先に、647は沈線文を先に施している。

650～665は絡条体圧痕文、微隆起線文及び沈線文が施された資料群である。650は軸の細い絡条体圧痕文が施された口縁部のみの破片資料である。650は他の２類土器の口縁部資料とは異なり、口唇部を平坦にし、口唇部内側端部を引き出すように仕上げている。また口唇部外側端部付近には隆線文でも貼り付けていたのか、器面が剝脱している。絡条体圧痕文が施された微隆起線文の下位には絡条体圧痕文と沈線文が見える。651～665は軸の無い絡条体圧痕文が施された資料で、そのうち651～661は口縁部のみの破片資料である。651・652には絡条体圧痕文が施された微隆起線文が見られる。651は微隆起線文下位に絡条体圧痕文が施された後に、沈線文が施されている。652には微隆起線文が２条貼り付けられ、上段の微隆起線文のみ絡条体圧痕文が施されている。この微隆起線文間に格子目状に沈線文が施されている。653は口唇部を平坦に仕上げられ、刻目文が施されている。口唇部直下には斜位の沈線文、その下位に微隆起線文と絡条体圧痕文が施されている。波状口縁である654は口唇部直下より斜位の沈線文、絡条体圧痕文が施された微隆起線文、絡条体圧痕文が見られる。口唇部を平坦に仕上げ、刻目文を施す。656は654と同様の文様で構成されており、それらは微隆起線文・絡条体圧痕文・格子目状の沈線文の順で施文されたものと考えられる。657はその残存状況から絡条体圧痕文が施された微隆起線文が２条貼り付けられていたと考えられる。丸く仕上げられた口唇部から下位3.5㎝程度に１条目、そこから4.5㎝程度下位に２条目の微隆起線文が巡り、口唇部直下から１条目、そして１条目・２条目の微隆起線文間に細い半截竹管状の工具で施された格子目状の沈線文が充填されている。なお657は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92025）した。その結果657は7,710±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。658は外反する口縁部のみの破片資料である。丸く仕上げられた口唇部には刻目文が施されている。口唇部から2.2㎝、4.1㎝程度の位置に横位の微隆起線文を巡らせた後に、２条の微隆起線文の下位に斜位の沈線文を引き、その間隙に絡条体圧痕文を施している。最後に２条の微隆起線文を縦位に垂下させ、２条の横位の微隆起線文と接続させている。659は平坦に仕上げられた口唇部をもち、口唇部に刻目文をもつ。口唇部から３㎝程度間隔をあけて横位の微隆起線文を貼り付けている。



第 97 図　縄文土器第Ⅱ群７

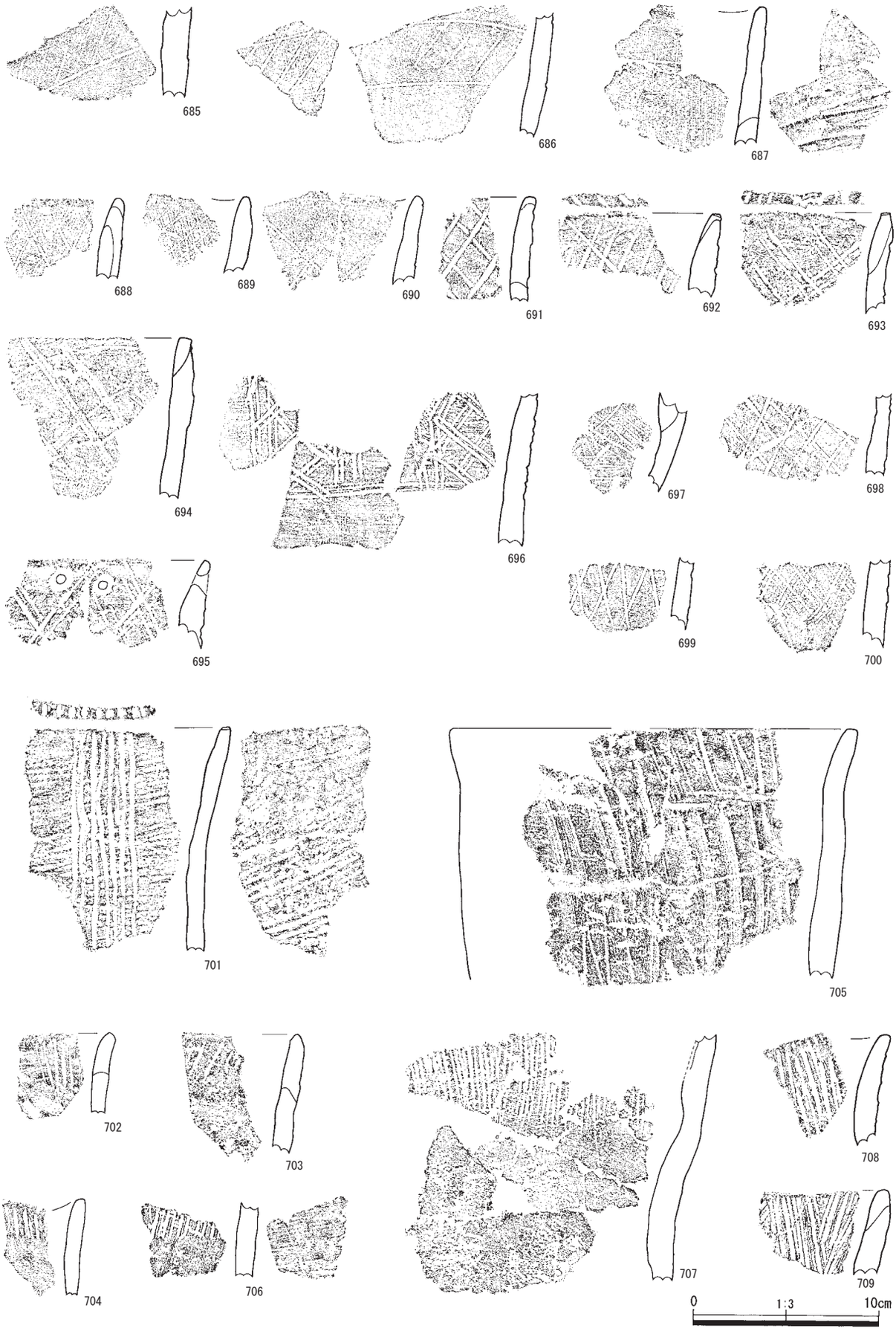
口唇部から縦位の微隆起線文を垂下させ、前述の微隆起線文と接続させている。また口唇部直下から斜位の沈線文を施し、微隆起線文まで引いている。660は穿孔がなされた資料で、口唇部に刻目文を施す。口唇部から２㎝程度の間隔をあけて横位の微隆起線文を貼り付け、口唇部から縦位の微隆起線文を垂下、接続させている。また口唇部と横位の微隆起線文との間隙に縦位の沈線文を充填させている。661も口唇部に刻目文が施されている。口唇部から５㎝程度下位に絡条体圧痕文が施された微隆起線文が横位に貼り付けられている。口唇部と横位の微隆起線文との間隙に、先割状の工具で斜位の沈線文が施されている。662～665は胴部のみの資料である。663は微隆起線文より上位に梯子状の沈線文が施されている。664は上位より絡条体圧痕文、横位・斜位の沈線文、微隆起線文が施されている。665は破片端部に辛うじて微隆起線文の存在が確認される。

666～700は絡条体圧痕文が施されていない土器群で、666～670は微隆起線文のみ施されたもので、全て口縁部のみの破片資料である。666・667は口唇部から若干の間隔をあけて微隆起線文を貼り付けている。なお666は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92036）した。その結果666は7,940±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。668は口唇部を平坦に仕上げている。口唇部直下に横位の微隆起線文を貼り、その下位には斜位の微隆起線文が見られる。669は肥厚した口縁部資料である。口唇部から下位約５㎝程度の位置に段を設けている。また口唇部から縦位の微隆起線文を２㎝程度の間隔をあけて貼り付けている。670は２条の微隆起線文が内面側口唇部直下付近から外面にかけて貼り付けられた資料である。

671～680は微隆起線文と沈線文が施された資料で、671～677は口縁部のみの破片資料である。671は口唇部の下位に横位の沈線文、672は口唇部から斜位の沈線文を施している。両者とも口唇部に刻目文を施している。673の口唇部は平坦に仕上げられ、口唇部の直下に斜位の沈線文が施される。この沈線文は細い沈線文と幅があり浅めの沈線文とセットで、異なる２つの工具で同時に施したものである。674は口唇部を平坦に仕上げ、口唇部から縦位の微隆起線文を垂下させ、横位の微隆起線文と接続させている。横位の微隆起線文より下位には沈線文。675は縦位の微隆起線文が辛うじて残存する。676は平坦に仕上げられた口唇部に刺突文が見える。口唇部から短い微隆起線文が垂下し、下位の沈線文に接続する。677は平坦に仕上げられた口唇部から２条の平行する微隆起線文を垂下させ、残存状況から横位に貼り付けられた微隆起線文と接続させていたと考えられる。２条の縦位微隆起線文の脇には格子目状の沈線文が施されている。678～680は胴部のみの破片資料である。なお677は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92053）した。その結果677は7,620±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。678・679は縦位の微隆起線文と沈線文、680は横位の微隆起線文の上位に格子目状の沈線文が施されている。

681～700は沈線文のみ施された資料である。そのうち681～686は縦位・横位・斜位等の沈線文を用いたもので、681・682は口縁部のみの破片資料である。681ａは口唇部を丸く仕上げ、刻目文を施している。外面は擦痕調整の後に口唇部から２条の斜位の沈線文が平行し、その間隙に縦位の沈線文を充填している。同一個体と考えられる681ｂには、沈線文が充填された文様帯により三角形の無文域が形成されている。682は平坦に仕上げられた口唇部をもち、刻目文を施す。口唇部から４条の沈線文が縦位に施されている。また２条の平行する沈線文が横位に施され、内部には斜位の沈線文が充填されている。683～686は胴部のみの破片資料である。683は横位の沈線文を施した後に、方向の異なる斜位の沈線文を上位で交差させている。また684も横位の沈線文の上位に方向の異なる斜位の沈線文を施しており、複合した鋸歯状のモチーフに仕上げられている。685・686は682と同様、２条の横位の沈線文の間隙に斜位の沈線文を充填したものである。

687～700は格子目状に沈線文が施されたもので、687～695は口縁部のみの破片資料で口唇部直下より



第 98 図　縄文土器第Ⅱ群８

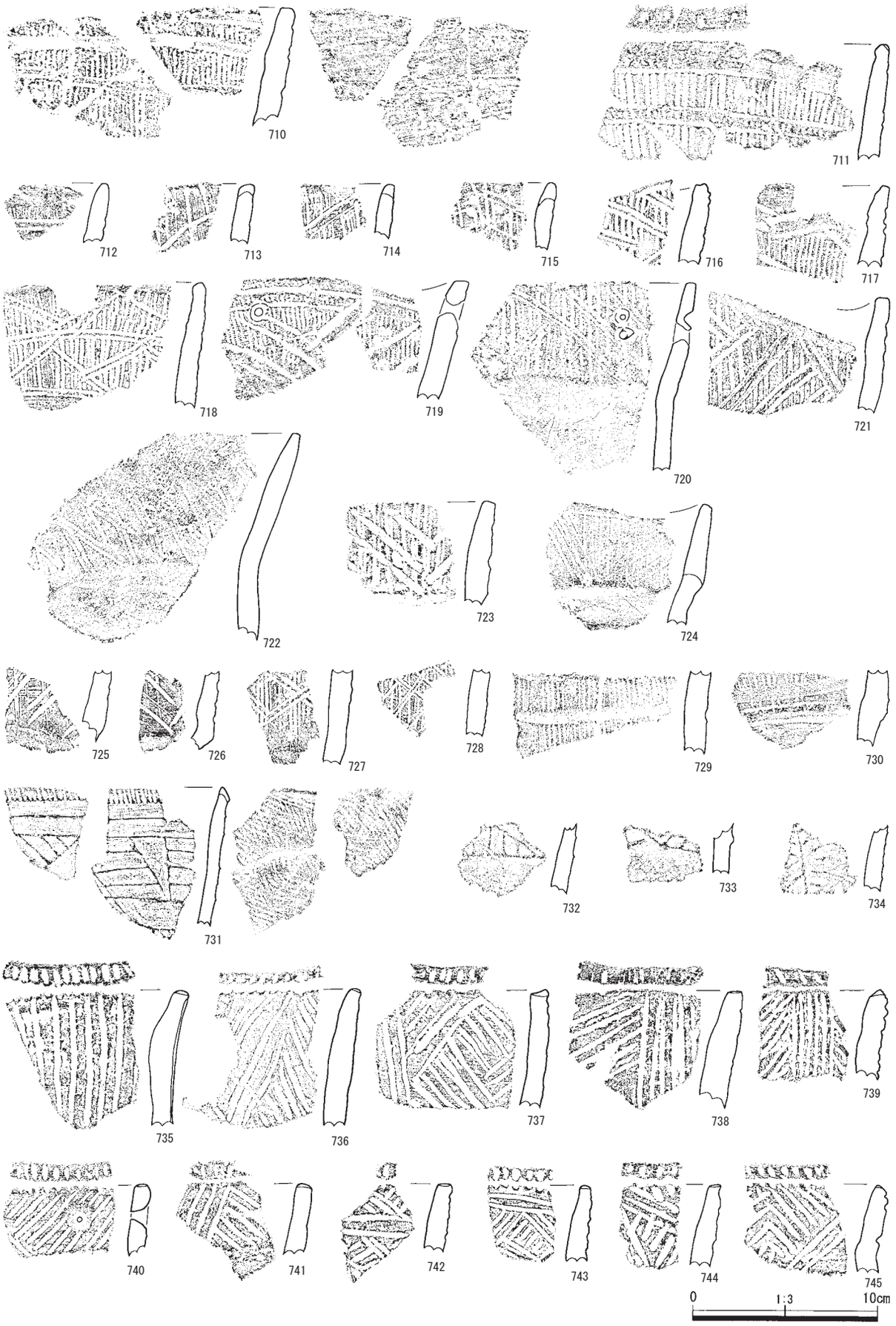
格子目状の沈線文を施している。687は外面に縦位の擦痕が残る。器面の擦痕調整後に２条の平行する沈線文を口唇部から垂下させた後に、横位の沈線文を施す。沈線文は細く浅い。内面にはナデ痕が明瞭に残る。690は波状口縁の波頂部と考えられ、格子目状の沈線文を施した後に、口唇部直下に横位の沈線文を施している。692・693は口唇部に刻目文を施し、693～695については半截竹管状の工具を用いた格子目状の沈線文を施した口縁部資料である。696～700は胴部のみの破片資料である。696・697・700は半截竹管状の工具を用いた沈線文を施している。696の沈線文は横位、縦位、斜位の順に施文され、格子目状をなす。698・699は棒状の工具を用いた沈線文を施している。

３類（第98～102図　写真図版88～96）

野島式土器・木戸上式土器とも呼称される土器群を一括して３類とした。これらの土器は胎土中に繊維が認められ、また放射肋をもつ二枚貝の貝殻腹縁を土器製作時に用いることで、器面に条痕文と呼ばれる痕跡を多く残す。文様は微隆起線文や沈線文を胴部上位から口縁部にかけて展開する。絡条体圧痕文を施すのを基調とした２類土器とは時期的に重複し、また前述のとおり２類土器には絡条体圧痕文を施さない沈線文・微隆起線文で文様が構成されたタイプも存在するため、当該３類土器との分離、もしくは統合が課題である。また縦位沈線を施した土器群も当該分類で３類に含めている。３類土器のうち野島式並行土器と考えられた資料は、西尾根Ｍ～Ｏ－４～９グリッド付近及び中央尾根南端部Ｐ～Ｑ－16～17グリッド付近に集中し、２類土器とは対照的な分布をなす。逆に野島式土器と考えられた資料は中央尾根付近に散見されるのみである。また縦位沈線文土器は中央尾根に散見され、西尾根ではその分布を見ない（第89図）。

701～816は３類に分類した土器群である。そのうち701～730は縦位沈線文土器の範疇か。口縁部付近に縦位の沈線文帯を設けたもの、器面に縦位の沈線文を施し、その上に異方向の沈線文を施し、文様化したものなどがある。701は平坦な口唇部を持つ資料で、口縁部は微かに外反する。条痕調整の後に７本の縦位の沈線文を施す。702は５本の縦位沈線文か。703・704は口唇部直下に沈線文を施す。沈線文の下端は両者とも指頭による強いナデ痕か、浅くわずかな窪みまで延びる。705は胴部中位から口縁部まで残存した破片資料である。胴部はやや直線的であるが、口縁部へわずかに外反させている。口唇部は平坦に仕上げられ、残存状況から波状口縁の可能性がある。文様は口唇部直下から胴部中位付近まで沈線文を施している。その工具は先端が平らかな棒状を呈していたものか。この705は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92033）した。その結果7,490±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。707は胴部下半から胴部上位にかけての破片資料である。胴部下半部でわずかに外傾気味であったのが､胴部中位付近で屈曲している。縦位の沈線文はこの屈曲部付近まで施されており、文様帯の下端となる。この沈線文は貝殻の腹縁を用いたものか。

708～721・723・724は口縁部のみの破片資料である。708～709は口唇部直下から沈線文を施す。施文具は貝殻を用いたものであろう。710・711は口唇部直下に縦位の沈線文を施した後、半截竹管状の工具で横位の沈線文を施し、711は口唇部を丸く仕上げ、貝殻の腹縁で刺突している。この711は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92031）した。その結果7,990±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。712の文様構成は710・711と同様であるが、口唇部直下には横位の沈線文の代わりに、ナデ消している。713は口唇部直下にはナデや横位の沈線文が施されていない。714～717は口唇部直下から施された縦位の沈線文の上に半截竹管状の工具により、斜位の沈線文を施している。717は714～716で半截竹管状の工具で施された斜位の沈線文と比較して約２倍の幅がある。施文時に使用した工具の大きさに起因しよう。718は口唇部をわずかに丸く仕上げ、口唇部直下より縦位の沈線文を施している。その後に口唇部から2.5㎝、5.5㎝程度の位置に半截竹管状の工具を用いて横位の沈線文を施

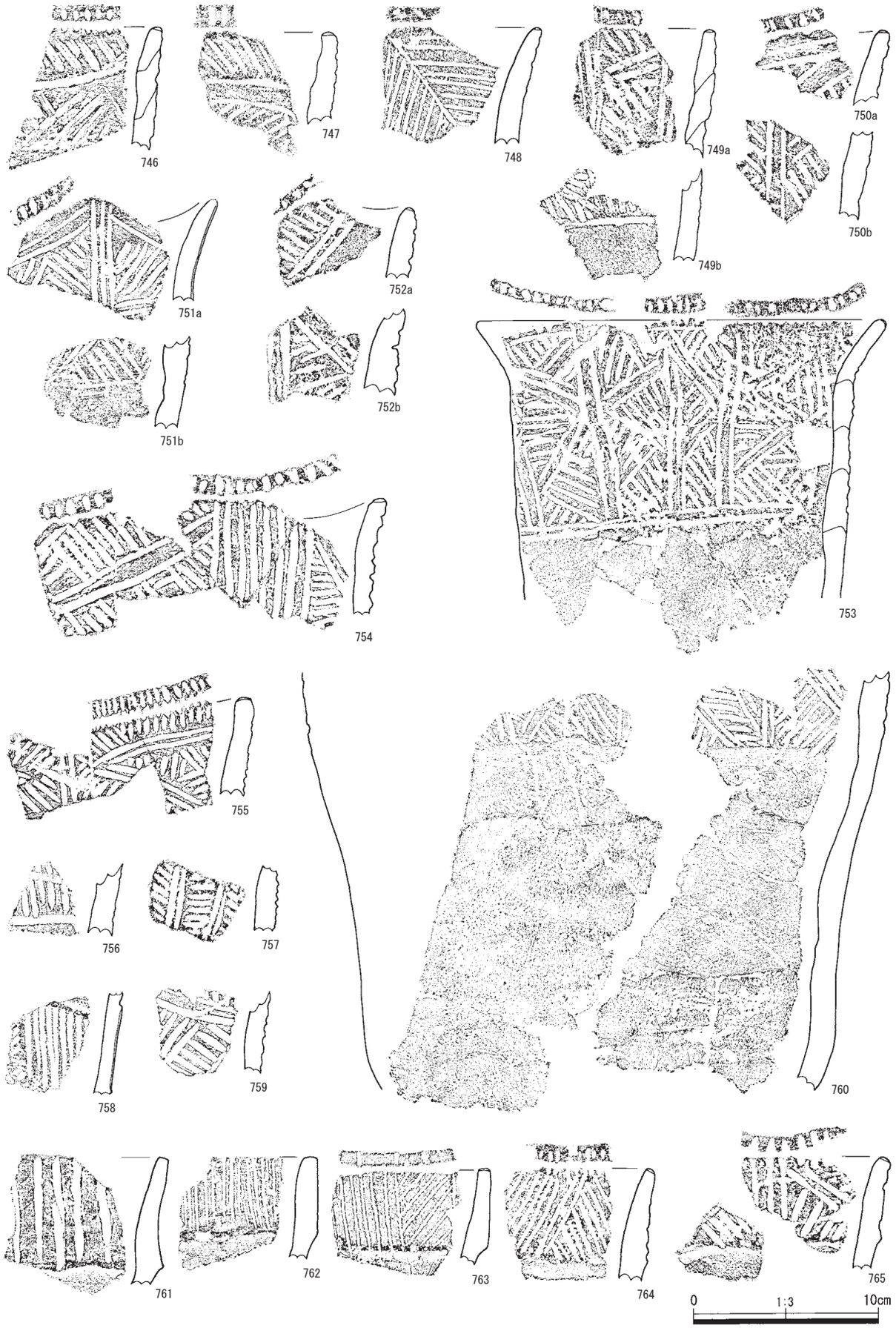


第 99 図　縄文土器第Ⅱ群９

して、縦位の沈線文を上下の区画に分割している。最後に上下の区画内に同一の半截竹管状の工具で鋸歯状に沈線文を施している。719も720とほぼ同様の文様の構成であるが、719は口唇部直下に半截竹管状の工具で横位に沈線文を施し、また両面から穿孔している。720は胴部上半部から口縁部にかけて残存した資料である。直線的であった胴部が口縁部で屈曲している。口唇部直下から縦位の沈線文を施しているが、その下端は屈曲部付近でナデ消されている。縦位の沈線文の施文の後に半截竹管状の工具で斜位の沈線文を施している。この720には穿孔が２ヶ所認められるが、１ヶ所は未貫通である。なお719・720は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92020・92037）した。その結果719は8,170±40yrBP、720は7,680±30yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。また719については現地調査時に10号住居跡出土遺物として扱われ、放射性炭素年代測定を実施したが、出土レベル等の検討から、包含層出土遺物と判断した資料である。721は波状口縁で、口唇部は平坦に仕上げられている。縦位の沈線文の上に半截竹管状の工具で斜位に沈線文を施している。最後に口唇部に沿って沈線文等の上端をナデ消している。723は口唇部直下から一面に縦位の沈線文を施した後に、浅く幅のある沈線文を斜位に施している。724は718～721と同様縦位の沈線文を地文として、半截竹管状の工具で斜位の沈線文を施す。ただし施文部は段状に仕上げられた部位に限定されている。波状口縁と考えられ、口唇部は平坦に仕上げている。縦位に沈線文が施されていないのが722である。722は口縁部から胴部上位にかけて残存した資料である。直線的に立ち上がった胴部が、屈曲し口縁部へ至る。口唇部は平坦に仕上げられている。口縁部から屈曲部までの間に半截竹管状の工具で鋸歯状の沈線文を施している。文様帯下端部は指頭により横位のナデか。半截竹管状の工具を用いた文様帯が口縁部付近に展開している点から、当該部類に入れている。725～728も縦位の沈線文を地文とし、半截竹管状の工具で斜位の沈線文を施す。725・726は段状をなしている。729は縦位の沈線文を地文とし、浅く幅のある沈線文を横位に施している。工具ではなく指頭による横位の沈線文か。730は段状を呈しており、縦位の沈線文を施したのち、角頭状の平坦な棒状の工具で極めて浅い沈線文を横位に施している。

731～734は微隆起線文を中心に文様が構成されている。731は口縁部のみの破片資料で、口唇部は尖らせている。内面は条痕文か。外面口唇部直下には貝殻の腹縁で刺突か。横位と斜位の微隆起線文が施されている。なお731は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92039）した。その結果731は7,700±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。732～734は微隆起線文が見られる細片資料である。これらは典型的な野島式土器か。

735～816は沈線文が文様帯の主体となるもので、沈線文の他に刺突文や沈線文でも使用工具を変えて施すもの、段（胴部を屈曲、もしくは粘土紐により設えられた）の有無等で細分されよう。これらは野島式並行土器とする。735～760は段が認められず、沈線文も１種類のみである。これらのうち735～755は口縁部が残存する資料である。口唇部に刻目文を施し、内面は擦痕が多い点が共通している。735は単純に縦位の沈線文を施す。736・737は異方向の斜位の沈線文が施される。738・739は縦位と斜位の沈線文の組み合わせである。740は穿孔が認められる。741は沈線文より下位に無文域が認められる。742～745・747は横位もしくは斜位の２条の沈線文に区画性を窺うことができる。746は斜位の１条の沈線文に区画性を窺うことができる。748は斜位の沈線文に縦位・横位の沈線文を組み合わせている。749は縦位の沈線文の間隙に異方向の斜位の沈線文を充填している。文様帯の下端は横位の沈線文が区画する。750は縦位と斜位の沈線文で区画し、区画内は斜位の沈線文で充填する。751・752・754・755は波状口縁である。751は外反する口縁部で、波頂部から３条の沈線文を縦位に、また口唇部に沿って横位に２条施す。区画内には斜位の沈線文が充填される。文様帯の下端は横位の沈線文と施されたと考えられるが、判然としない。752は縦位と斜位の沈線文で区画している。754は波頂部から８本の沈線文を縦位に施した後に斜位の２本の沈線文を施す。その間隙に斜位の沈線文で充填している。755は波底部付近か。



第 100 図　縄文土器第Ⅱ群 10

縦位と斜位の２本の沈線文で区画し、その間隙に沈線文を充填する。口唇部直下に縦位・斜位の短い沈線文を配置し、最後に口唇部に刻目文を施している。753は胴部中位から口縁部まで復原できた資料である。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は丸く仕上げ、刻目文を施している。胴部中位に横位の２条の沈線文を施した後、２条の縦位の沈線文が間隔をあけて配置される。縦位の沈線文により仕切られた区画内部に斜位の２条の沈線文を施し、区画を細分する。その間隙に沈線文を充填している。

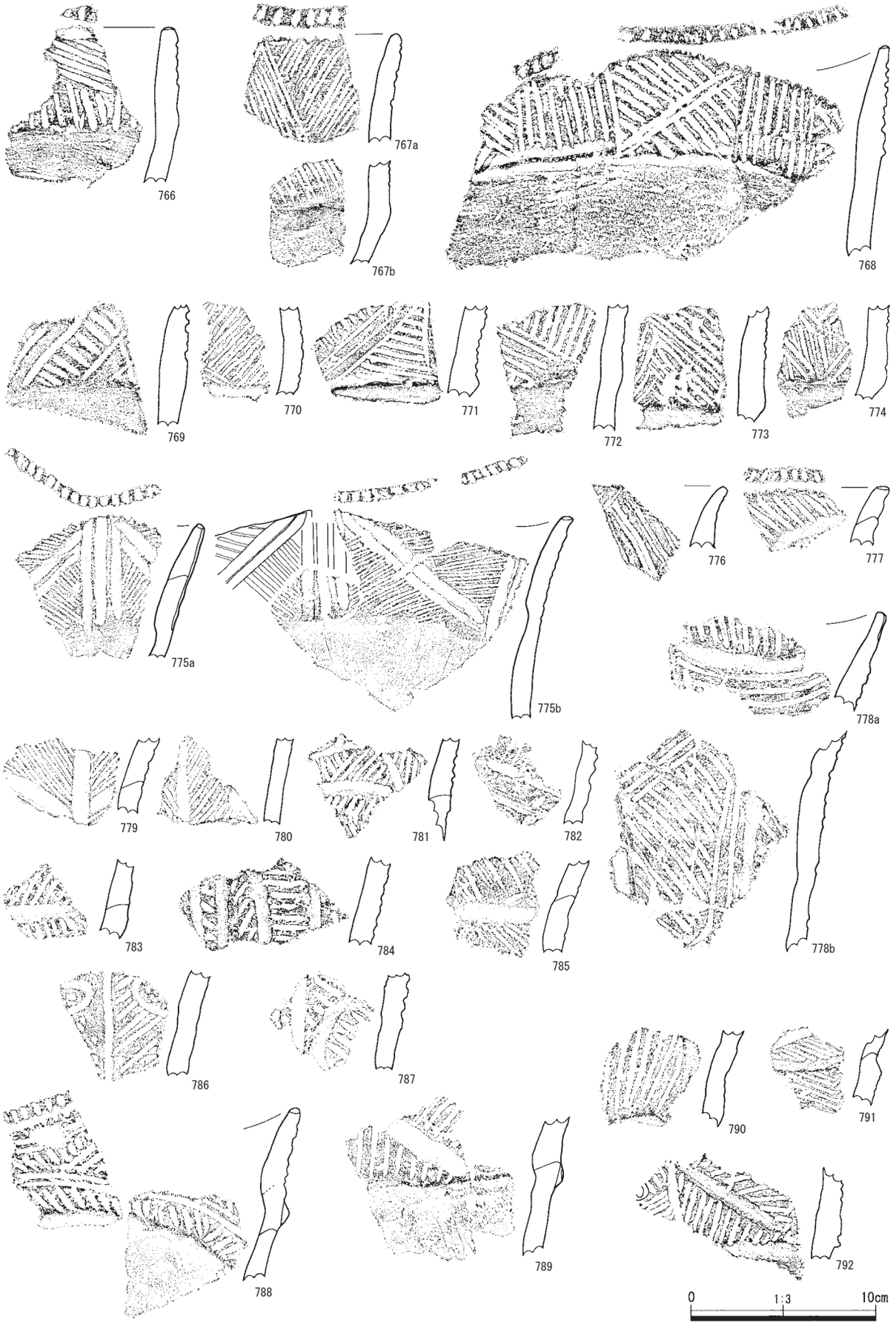
756～760は胴部のみの資料で、様々な方向の沈線文が認められる。758の沈線文は細い半截竹管状の工具により施文されたものか。760は胴部下位から口縁部付近まで残存する資料である。胴部は下位付近でやや内湾するも､全体的に微かに外反しながら立ち上る。沈線文を主体とする文様帯が見られるが、施文後に沈線文下端にはナデ消された痕跡がある。なお760は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92032）した。その結果760は7,870±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

761～774は沈線文を主体とする文様帯の下端部に段等が設けられている資料で、761～768は口縁部のみの破片資料である。多くが口唇部に刻目文が施されているが、刻目文がないものも一定量認められ、口唇部は平坦に仕上げられたものが多い。内面はナデ、もしくは擦痕が見られ、条痕文は認められていない。761・762は縦位に沈線文を施した資料で、ナデにより段部端が細隆起線文状となる。口唇部に刻目文は無い。763～768は異方向の沈線文で文様帯が構成されている。いずれも口唇部に刻目文を施している。765は口唇部に刻目文を施した後に、外面に沈線文を施したものか。766は半截竹管状の工具を用いて沈線文を施したものか。沈線文を施した後に口唇部に刻目文を入れている。768は波状口縁で、段ではなく隆起線文を設けている。隆起線文は文様帯の下端を示し、指頭でつまみ出したものか。外面に見える沈線文は半截竹管状の工具で施されたものと考えられ、波頂部下位の文様区画は斜位の沈線文で構成され、異方向斜位の沈線文が交差する。この文様区画の両脇は縦位の沈線文が施されている。769～774は口縁部付近の破片資料で、口唇部が失われている。769は斜位の２本セットの沈線文との間に斜位の沈線文を充填している。771は３本セットの沈線文で区画している。

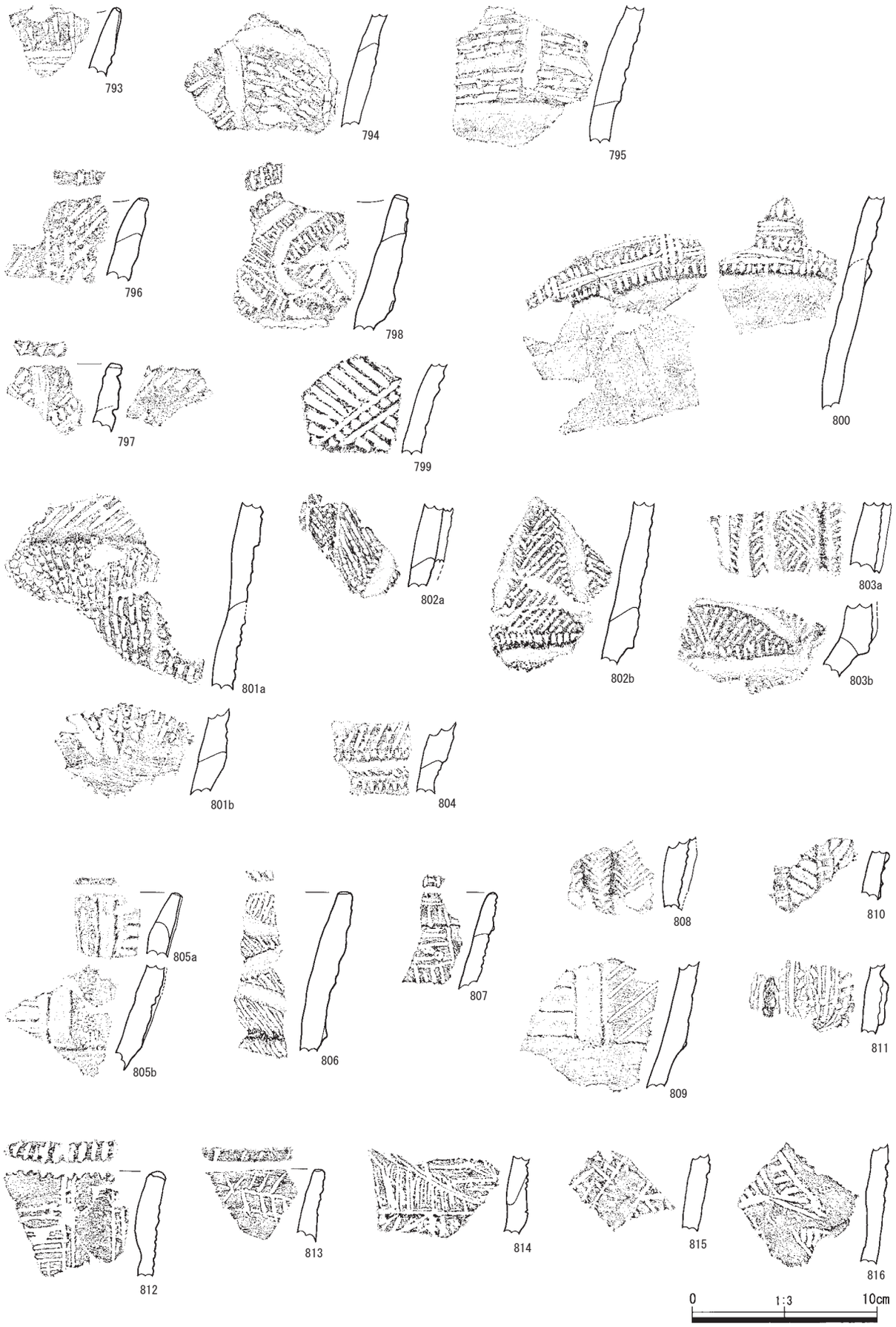
775～778は段を設けず太さの異なる２種類の沈線文で文様帯が構成されたもので、775～778は口縁部を有する資料である。775ａ・ｂは同一個体と考えられる資料である。波状口縁で口縁部はわずかに外反させる。口唇部には刻目文を施している。波頂部では口唇部より３本の太く浅い沈線文を縦位に、また波底部付近にも縦位の太く浅い沈線文を施しており、両者を接続するように斜位の太く浅い沈線文を２本施している。これらの間隙には半截竹管状の工具による細い沈線文が見られる。これらの文様は斜位沈線文、細い沈線文、縦位沈線文の順で施文か。太く浅い沈線文は指頭によるものと考えられ、斜位に施された沈線は同時に引かれたものではない。文様帯の下位は微かであるが縦位にナデを施した痕跡が見られる。776は半截竹管状の工具と先端の細かい棒状の工具を用いて２種の沈線文を施している。777には細い沈線文、太く浅い沈線文の２種が観察される。778ａ・ｂは同一個体と考えられ、辛うじて残存する口唇部の状況から、波状口縁と考えられる。口唇部直下に縦位の短い沈線を施し、その下位には浅く太い沈線が１本カーブを描くように施されている。また縦位に３本の沈線文が施されているが、そのうち１本は太く浅い沈線文、棒状の工具を用いたような沈線文である。

779～787は口唇部が残存しない口縁部付近の破片資料で、多くが太い沈線文と細い沈線文の２種認められる。段は見られない。782の太い沈線文は角頭状の工具を使用したものか。786での縦位と曲線を描く沈線文は、斜位に施された沈線文と比較して幅がわずかに異なり、断面の形状もわずかに角状を呈していたことが考えられる。

788～792は段を設け、太さの異なる２種の沈線文で文様帯が構成されたものである。上述したタイプと比較して数量的に少ない感がある。788は波状口縁である。粘土紐を貼り付けて段状となし、段と平



第 101 図　縄文土器第Ⅱ群 11



第 102 図　縄文土器第Ⅱ群 12

行する横位の沈線文は半截竹管状の工具を使用したものか。他の沈線文は棒状工具を使用。口唇部には刻目文を施している。789の太く浅い沈線文は指頭、他の沈線文は棒状工具によるものか。792も太く浅い沈線文と細い沈線文の組み合わせであるが、縦位に区画する沈線文と区画内充填の沈線文に用いられた工具が異なる可能性がある。

793～795は押引文を施した資料である。口縁部のみの資料である793は口唇部直下に縦位に押引文を施す。口唇部に刻目文か。794は縦位と斜位に施された太く浅い沈線文による区画域に押引文が施されている。795は段を設けた資料で、縦位に施された太く浅い沈線文の両脇に押引文が見られる。

796～804は刺突文が施された資料で、796～798は口縁部のみの破片資料である。いずれも口唇部に刻目文を施し、その多くは２種の異なる沈線文で文様帯が構成されている。796は口唇部から縦位に施した沈線文の間隙に刺突文が施されている。797は口唇部に刻目文が施されている。沈線文の脇には器面に対して斜方向から施された刺突文が見られる。内面口唇部直下にも刺突文が施されている。798は波状口縁であるが、口唇部付近はわずかに残存しているに過ぎない。口唇部直下、刻目文に沿うように刺突文が施されている。太く浅い沈線文が曲線を描くように配置され、その間隙に技法的には押引文に近い細沈線文が充填される。この細い沈線文と刺突文は同一の工具を用いているものと考えられる。799～804は口唇部が残存していない資料である。799は斜位の平行沈線文の間隙に刺突文が施されている。半截竹管状の工具を用いたものか。800は隆帯が設けられている。隆帯より上位に横位の沈線文を施した後、３本の縦位沈線文が各々間隔をおいて施されている。刺突文は隆帯の上位面、及び横位の沈線文より上位に施されている。801ａ・ｂは同一個体と考えられる。801ｂは胴部中位付近か。わずかに段状をなし、段より上位に押引文と刺突文が施される。801ａも段が設けられ、段より上位に斜位の沈線文、段より下位には押引文と刺突文が施されている。これらの刺突文は細い竹管状の工具により施されたもので、押引文と同一工具か。802ａ・ｂも同一個体と考えられる資料である。802ａには隆帯が縦位に貼り付けられている。隆帯及び隆帯脇には半截竹管状の工具で押引文か。刺突文は押引文と太く浅い沈線文との境に施されている。802ｂには段上位に刺突文、押引文と浅い沈線文で文様帯を構成している。802の刺突文の位置は区画性のある段及び太く浅い沈線文に沿うように配置されている。同一個体と考えられる資料の803ａ・ｂは802と同様縦位の隆帯と段を設ける資料である。803ａは縦位の隆帯と太く浅い沈線文との間隙に押引沈線文や刺突文を施している。803ｂは段の上位に刺突文と押引沈線文、太く浅い沈線文が施されている。804は段を設けており、段の下位に刺突文、上位に刺突文と押引沈線文が施されている。刺突文は半截竹管状の工具を用いており、押引文と同一工具の可能性がある。

805～811は微隆起線文や隆帯が見られる資料である。805ａ・ｂは同一個体で、段を設けた資料である。口唇部には微かに刻目文が施されている。口唇部直下から３本の微隆起線文を垂下させ、それにより区画された微隆起線文間の狭い区域に刺突文を充填している。また微隆起線文の脇には横位の微隆起線文を施している。806は直線的に立ち上がり、口唇部を平坦に仕上げ、刻目文を施した資料である。外面には半截竹管状の工具を用いた沈線文と太く浅い沈線文が設けられ、破片下端に横位の隆起線が見られる。807は刻目文が施された口唇部から２㎝程度の間隔をあけて微隆起線文を横位に施す。微隆起線文の上位に縦位の沈線文、下位には縦位・横位の沈線文が見られる。808は２本の隆起線文が施されている。809は段が設けられた資料である。縦位に２本の微隆起線文を段まで垂下させ、またその縦位の微隆起線文に接続する横位の微隆起線文が段上に見られる。810は刺突文が施された太く浅い沈線文の両脇に、傾いだ梯子状に微隆起線文が見られる。811は刻目文のある隆起線文、沈線文・押引文・刺突文が施されている。

812～816は文様のモチーフが他と異なるものを一括した。812は口縁部のみの破片資料である。丸く仕上げられた口唇部には刻目文が施されている。口唇部から半截竹管状の工具で縦位の沈線文を２本施

している。その脇に横位の沈線文を同一工具で施している。813も口縁部のみの破片資料である。丸く仕上げられた口唇部に刻目文が施されている。口唇部直下に沈線文が施されているが、梯子状のモチーフなのか判然としない。814はわずかに段を設けた資料である。段には横位の沈線文をもって明確化し、段より上位は斜位の細い半截竹管状の工具で区画し、その区画域に縦位もしくは横位の沈線文を充填している。段より下位には斜位の沈線文か。815は斜位の２本の沈線文を施し、その脇に「「」状の沈線文が施される。なお815は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92035）した。その結果、815は8,090±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。816は屈曲した沈線文で設けられた区画内に沈線文が充填されている。

４類（第103図　写真図版97）

３類土器とした野島式土器の文様構成等を継承し、成立したとされる鵜ヶ島台式土器を４類に分類した。器形としては平底・尖底の深鉢が一般で、括れ・段が２ヶ所とされ、段を境に文様帯が２つに分化する構成が主流となり、口唇部直下の文様帯は消失することが知られる。また胎土中に繊維が見られ、内面に条痕文が見られるものが多い。出土位置は中央尾根から東尾根に限られる（第108図）。

817～821は４類に分類した土器で、全て口縁部が残存している。817は胴部中位付近から口縁部までの残存した破片資料である。括れになる段は２ヶ所認められ、破片の状況から上位の段から口縁部にかけては内傾気味である。焼成時からかなりの歪みが生じていた可能性を指摘しておく。波状口縁で、口唇部は平坦に仕上げている。波頂部は明瞭ではないが双頭状を呈している点で、野島式土器までの波状口縁資料と異にする。波底部付近の口唇部には刻目文が散見される。外面波頂部直下に細隆起線文で半円状のモチーフを作り、それを起点として縦位２本組の細隆起線文を施し、上位の段に接続する。また口唇部沿いに細隆起線文を施し、縦位細隆起線文と段による区画内にも細隆起線文や押引文を充填している。細隆起線文毎の交点には円形竹管状の工具による刺突文が施されるが、器面に対して斜方向から刺突しているため、殆どの刺突文は半截竹管状の仕上がりである。下位の段と上位の段との間に展開する文様帯は上位の文様帯と同様である。下位の段より下位には施文された様子は窺えない。内面は条痕文が見られる。818ａ・ｂは同一個体と考えられる。ａは口縁部のみの破片資料である。波状口縁の波頂部か。わずかに双頭状を呈している。口唇部は指頭による整形に起因するのか、わずかに凹む。円形竹管状の工具による刺突文が配置された縦位の細隆起線文等が見られる。ｂは上位・下位の段が辛うじて残存した胴部のみの破片資料である。細隆起線文で区画された内部に押引文で充填している。819ａ・ｂも同一個体と考えられる。819ａは細隆起線文の代わりに押引文を以て区画を行っている。円形刺突文と押引文の施文具は異なる工具を使用か。819ｂは下位の段付近のみ残存した資料である。押引文・刺突文が施されている。段より下位には調整痕のみである。820は口唇部に刻目文を施し、口唇部直下に細隆起線文を設ける。外面の一部に条痕文がナデ消されずに残存している。821は沈線文と押引文が施されている。胎土中に雲母が多く見られるため、他の鵜ヶ島台式土器と印象が異なる。

５類（第104図　写真図版97・98）

茅山下層式土器と考えられる土器群を一括し、５類とした。茅山下層式土器は鵜ヶ島台式土器からの器形を継承し、広く浅い沈線文即ち凹線等で文様を描くものが多くなることが知られる。またこの凹線に刺突文を随伴するように配置するタイプでは、やがて凹線が失われ刺突文のみで文様帯を構成する八ッ崎Ⅰ式土器へ繋がるとされる。この八ッ崎Ⅰ式土器の祖系的なものとして元野式土器の存在が推定されている。これらは東海地方西部から近畿地方まで広範囲にその分布が確認されたため、東海条痕文系土器として扱う意見がある。この５類の胎土中には繊維が見られ、条痕文が多く見られる点について

第 103 図　縄文土器第Ⅱ群 13

は東海条痕文系土器と共通するも、器形の点において茅山下層式土器に類似するため、茅山下層式土器の地方色としても十分考えられる。なお茅山下層式土器・八ッ崎Ⅰ式土器、元野式土器に該当する可能性がある資料の分布は東尾根に集中し、これらの同時期性を想起させた（第108図）。

822～827は５類に分類した土器である。822は胴部中位から口縁部まで残存した破片資料である。段が２つ見られ、下位の段は隆起線文状で、やや不明瞭であるが、上位の段は器形を屈曲させたもので、明瞭である。当該資料は緩やかな波状口縁だが、波頂部は欠損している。また波頂部付近が外側に張り出していた点や、他の口縁部湾曲の状態から勘案して、上から見た形は本来、円ではなく、楕円形であった可能性がある。口唇部は平坦に仕上げ、口唇部内面側端部や外面側端部に刻目文を入れた箇所が部分的に見られる。上位の段で仕切られた上下の文様帯は、両者とも指頭を用いた可能性がある広く浅い凹線及びその凹線沿いに施された刺突文で構成されている。上位の文様帯は波頂部直下辺りから凹線及び刺突文が左右に派生し、梯子状のモチーフに接続する。上位の段の縁には刺突文列を設けている。下位の文様帯は凹線・刺突文列が横位に施されているのみで、下段より下位には文様が認められない。823は胴部中位から口縁部まで残存した破片資料であるが、全体的に磨滅気味である。胴部は全体的に直線的に立ち上がり、口縁部付近も内湾させていない。口唇部は平坦に仕上げている。口唇部直下には２本の幅の広い押引文が施され、浅く幅の広い凹線文が「Ｓ」字状に施されている。その下位には隆起線文により段が設けられている。別の破片資料には隆起線文に刻目文が施されている。段の下位には２本の幅の広い押引文と褶曲した凹線文が見られる。内面には条痕文が横位に施されている。824も823と同様、胴部中位から口縁部にかけて残存した破片資料である。胴部は括れて立ち上がる。口唇部は平坦に仕上げ、口唇部外面側端部に刻目文を施す。口唇部直下から上位の段までは凹線文と押引文を横位に施している。下位の段上には凹線文と押引文を組み合わせて施文している。外面には条痕文がナデ消されずに残存する。825ａ・ｂ・ｃは同一個体と考えられるもので、口唇部付近、上位の段、下位の段付近の破片資料である。段は胴部を屈曲させ、隆線文を貼り付けることで仕上げている。ａの口唇部は尖らせるために強めのナデを行ったため、口唇部内面側端部が隆起線文状に仕上げられ、そこに刻目文が施されている。外面口唇部直下には縄文が見られる。ｂは上位の段付近の破片資料で、段の上下に縄文が施されている。ｃは下位の段の破片資料で刻目文が施されている。段より上には縄文、段より下には条痕文が見られる。826ａ・ｂは同一個体と考えられるもので、口縁部から上位の段、下位の段付近の破片資料である。口縁部はわずかに内湾し、口唇部は尖らせているが、内面側には平坦な面が形成されている。外面の地文はＲＬ縄文か。口唇部直下より沈線文を施しているが、直線と弧線の組み合わせで文様が成立している。上位の段付近にも沈線文を施す。826ｂは下位の段が残存し、段より下位には文様が施されていない。上位と下位の段の間隙にも文様が充填されていた可能性がある。827は段が残存する胴部のみの破片資料である。段より上に刺突文、縄文、凹線文が施されている。段にも刻目文が施されていると考えられるが、全体的に磨滅気味で判然としない。なお827は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92045）した。その結果、7,230±40yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

６類（第105図　写真図版98）

元野式と考えられる資料を一括した。828～830は刺突文のみで文様が構成される資料である。828ａ・ｂは同一個体と考えられる資料で、胴部中位から口縁部にかけて残存している。この資料は波状口縁で、波頂部を注口状に仕上げている。この資料は胴部を直線的に立ち上げ、口縁部付近から大きく内湾させ段となし、口唇部は平坦に仕上げている。口唇部平坦面内面側及び外面の側端部に刻目文を施している。内外面ともに条痕文が施されている。口唇部直下に沿うように刺突文を横位に連続して施し、同様に段付近にも刺突文を施している。その区画内に連続した刺突文により鋸歯状のモチーフを描く。段より下

第 104 図　縄文土器第Ⅱ群 14

第 105 図　縄文土器第Ⅱ群 15

第 106 図　縄文土器第Ⅱ群 16

位には間隔を開けて刺突文を連続して横位に施す。829も波状口縁の破片資料で、波頂部を注口状に仕上げた資料である。刺突文が施されている。830は波状口縁の波頂部が残存した資料である。口唇部には刻目文がわずかに見える。胴部中位より口縁部まで残存している。段は２ヶ所設けられているが、隆帯状に仕上げている。器面は丁寧にナデ整形された後に、刺突文を施している。

７類（第106図　写真図版99）

八ッ崎式土器の可能性がある資料を７類とした。831は胴部下位から口縁部まで残存した資料である。口唇部には刻目文を施し、注口状の設えを２ヶ所に設けている。段は口唇部から６㎝程度の箇所に設けられ、刺突文が段に沿って連続して横位に施されている。また口唇部直下にも沿うように刺突文が施されている。この横位の刺突文で区画された内部に異なる斜位の刺突文列を施し､鋸歯状に仕上げている。段より下位４㎝程度の箇所には刺突文を連続して横位に施している。これ以外に段より下位の部分には施文が認められない。胴部下位には条痕文が見られるが、刺突文を施す前に外面の胴部中位から口縁部にかけては丁寧に条痕文をナデ消している。

８類（第106図　写真図版99）

茅山上層式土器の可能性があるものを８類とした。茅山上層式土器は段・括れの無いものが主要となり、底部も平底が主流とされる。今回の調査では東支谷でも中央尾根と東尾根に挟まれた狭隘な区域で極少数出土したにすぎない。832は波状口縁の波頂部の破片資料である。鍔状の大きな隆帯が貼り付けられている。胎土中には繊維が見られる。

９類（第106図　写真図版99）

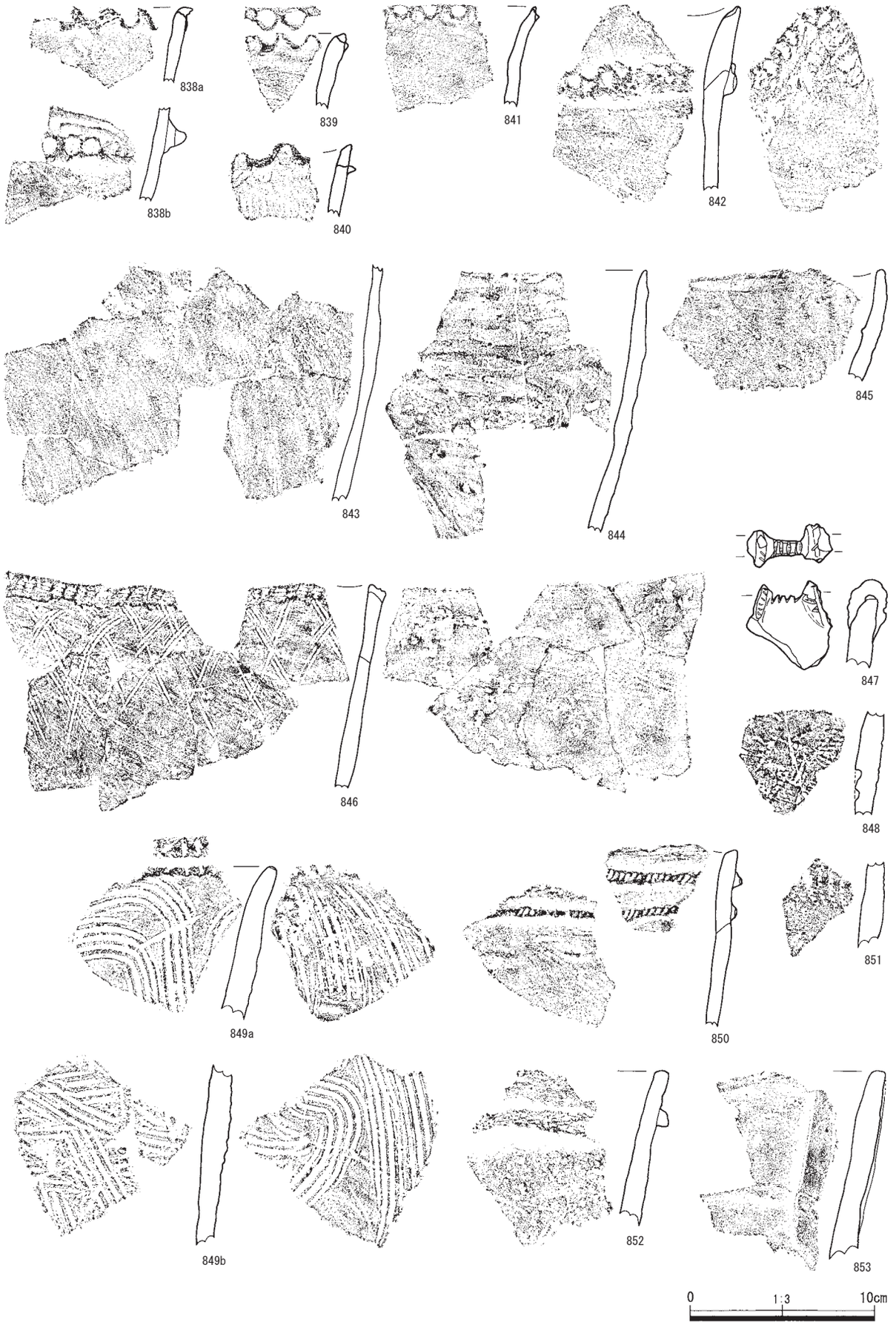
粕畑式土器の可能性があるものを９類土器とした。東海系条痕文土器のひとつで、器面に調整の痕跡である条痕文が多く見られ、外面に貝殻腹縁を用いた刺突文が施されている。胎土中には繊維が見られる。元野式土器、八ッ崎Ⅰ式土器に時期的に後続し、また茅山上層式土器と並行するものと考えられている。当該粕畑式土器では段部が消滅し、主要器種である深鉢の器形は砲弾状を呈し、平底をなすとされる。１－１区の南西端、西尾根ＺＶ～ＺＷ－０～１グリッド付近に集中分布する（第108図)。

833は口縁部のみの破片資料である。本来は波状口縁か。外面は条痕文が見られ、貝殻腹縁による刺突文が口唇部に沿って連続して施されている。834は胴部上位から口縁部まで残存した破片資料である。胴部は直線的に延び口縁部に至る。口唇部は尖らせており、刻目文が施されている。磨滅のため判然としないが、条痕文が内外面ともに見られ、外面には刺突文列が３条横位に配置されている。なお834は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92034）した。その結果、7,020±30yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

10類（第106・107図　写真図版99・100）

上ノ山式土器や時期的に並行するものと考えられる土器を10類とした。上ノ山式土器は東海地方を中心に分布する条痕文土器のひとつで、粕畑式土器に後続するとされる。特徴的な文様として指頭押圧等を加えた隆帯が知られ、胎土中に繊維も見られるという。また上ノ山式土器に時期的に並行する可能性の高い無文土器も10類に加えた。10類は東支谷でも中央尾根と東尾根に挟まれた狭隘な区域のみ出土している（第108図)。

835～845は10類に分類した土器群である。そのうち835～842は口縁部のみの破片資料である。貝殻腹縁を用いた可能性のある837・842を除けば、口唇部には指頭による押圧文が施される。837・842は波状



第 107 図　縄文土器第Ⅱ群 17

口縁の波頂部と考えられる。これらの資料は軽く外反させた資料が多い。835～837は口唇部直下に隆帯を貼り付け、押圧文を施している。838・842は口唇部から間隔をあけて隆帯を貼り付け、839～841は隆帯が見られない口縁部資料である。

843～845は文様が施されていない資料である。843は胴部のみの破片資料である。下位に縦位のナデ痕が観察される。844は胴部中位から口縁部にかけて残存した破片資料である。わずかに内湾している。口唇部は尖らせている。内外面ともに横位のナデ痕が見られる。845は口縁部のみの破片資料で、波状口縁の波頂部付近と考えられる。内外面ともに横位のナデ痕が見られる。

11類（第107図　写真図版100）

打越式土器や時期的に並行する可能性があるものを11類土器とした。主体は丸底に近い尖底土器で、貝殻腹縁を利用した文様を多用する。胎土中に繊維が見られるが、中には繊維が見られない資料も散見される。11類は西支谷から東尾根にかけて極少数確認されたにすぎない。東尾根に幾らかの纏まりが見られる（第108図）。

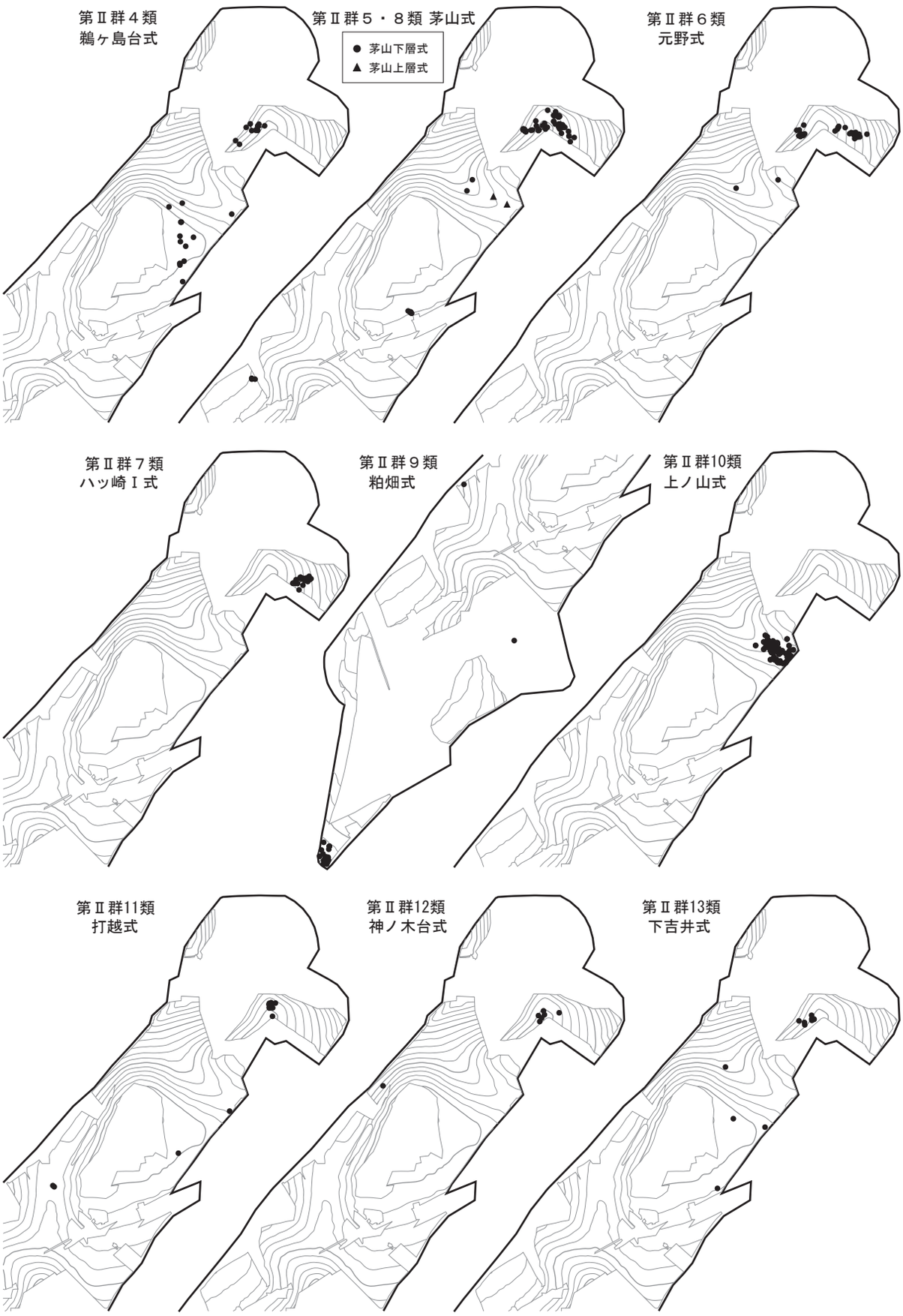
846～849は11類に分類した土器群である。846は胴部から口縁部まで残存した破片資料である。直線的に立ち上げる口縁部で、口唇部はやや肥厚し、平坦に仕上げられている。口唇部には貝殻を用いて刻目文が施されている。外面は擦痕が見られる。口唇部直下から貝殻を用いて格子目文を施している。胎土中の繊維があまり見られない資料のうちのひとつである。847は波状口縁の波頂部か。短い隆帯を２つ貼り付け、その間隙の口唇部には貝殻腹縁の刺突による刻目文が施されている。848は胴部のみの破片資料である。外面に異なる傾きの貝殻腹縁の刺突により山形文が施されている。849ａ・ｂは同一個体と考えられるもので、口縁部と胴部中位の破片資料である。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部付近のみ軽く外反させている。口唇部は丸く仕上げられ、貝殻腹縁による刻目文が見られる。外面には貝殻腹縁を用いて褶曲線文を施している。内面には条痕文が見られる。この849は他の11類土器と比べて繊維が多く見られるのも特徴的である。また貝殻を用いた褶曲する文様が伊勢湾沿岸を中心に分布する楠廻間式土器にも見られることから関連性が想起される。

12類（第108図　写真図版100）

神ノ木台土器や時期的に並行するものと考えられるものを12類土器に分類した。この土器は東尾根に幾らかのまとまりが見られるが、出土点数は極少量である。850は口縁部付近の破片資料である。口唇部がやや丸く仕上げている。刻目文を施した隆帯を２本口縁部付近に貼り付けている。隆帯より下位には条痕文か。851は胴部のみの破片資料である。貝殻腹縁の刺突文が施されている。

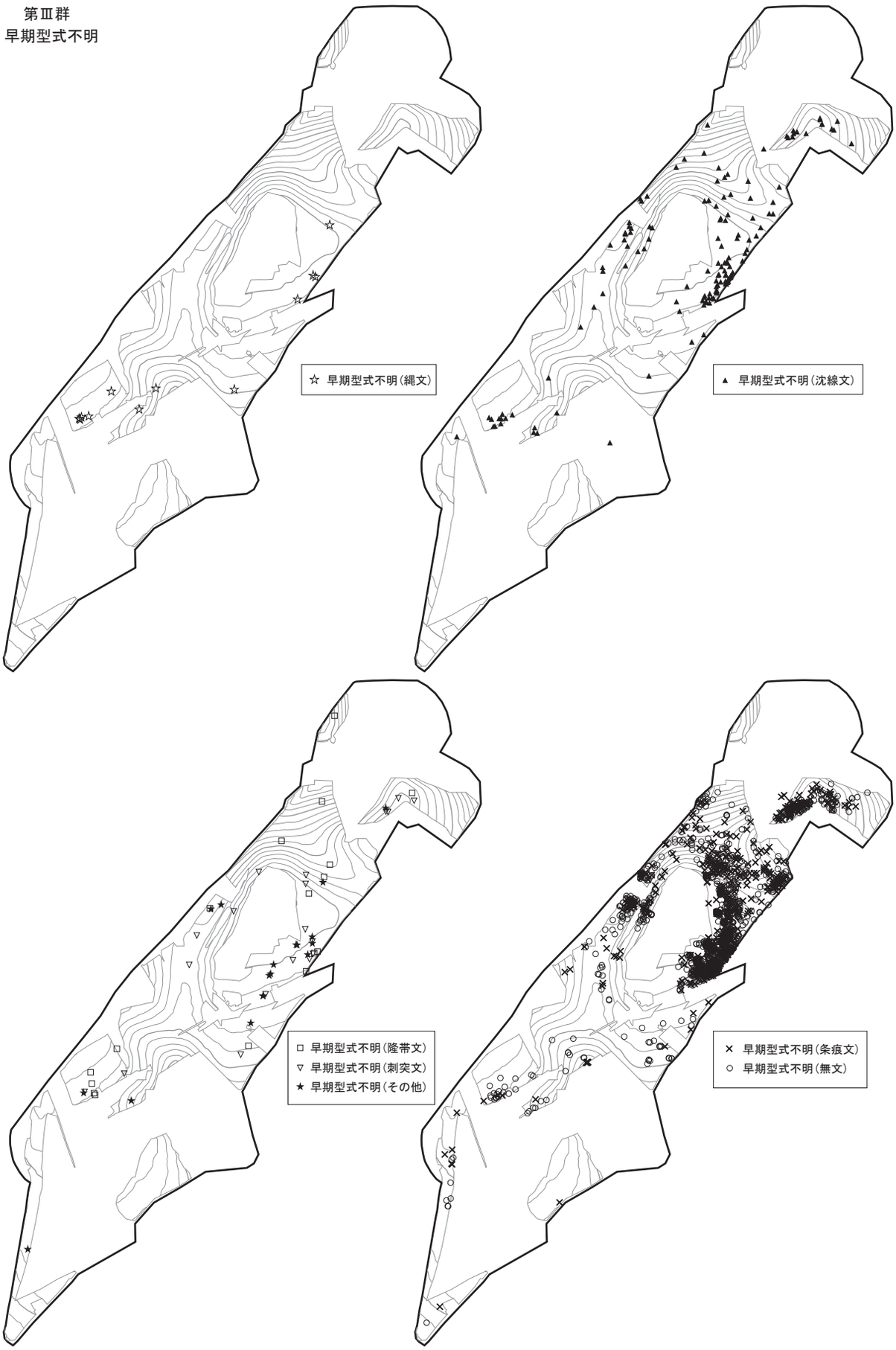
13類（第108・110図　写真図版100）

下吉井式土器や時期的に並行するものと考えられるものを13類土器に分類した。13類土器の点数も極少量で、東尾根に幾らかの纏まりが認められるのみである。852は口縁部のみの破片資料である。口唇部は丸く仕上げている。口唇部から1.5㎝程度の間隔をあけて隆帯を貼り付けている。隆帯には刺突文が施されている。853は波状口縁と考えられる破片資料である。波頂部は欠損しているが、波頂部より垂下せられる隆帯が残存する。低平な隆帯で無文土器である。854も口縁部のみの破片資料である。口唇部は丸く仕上げている。外面には半截竹管状の工具により沈線文が施されている。855ａ・ｂは同一個体と考えられる胴部のみの破片資料である。先端が角頭状の工具で押引文や刺突文を施している。856も胴部のみの破片資料である。隆帯が２本横位に貼り付けられ、その間隙に沈線文で蕨手状の渦巻き文様を施している。上位の隆帯から上位には直線的な沈線文が見える。



第108図　土器分布図３

第Ⅲ群
早期型式不明



第109図　土器分布図４

第 110 図　縄文土器第Ⅱ群 18・第Ⅲ群 1

第Ⅲ群　早期代　型式不明（第110・111図　写真図版100・101）

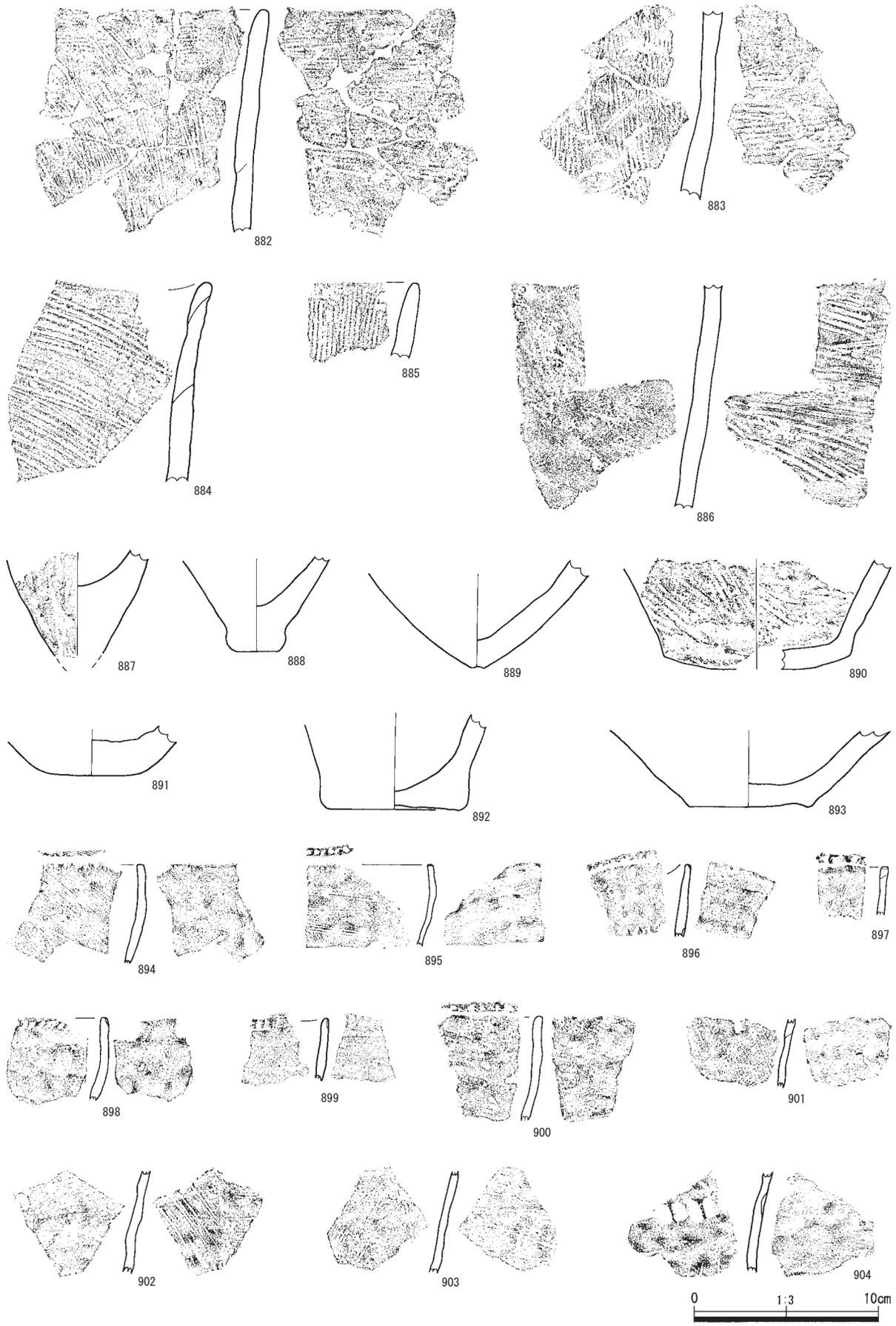
857～893は早期代の土器と考えられるものの、今回分類し得なかった資料を第Ⅲ群とした。文様としては縄文、沈線文や隆帯文、条痕文等が見られる。

これらの分布は調査区全域に認められるが、中央尾根の南東側、早期代の住居が多く位置するＶ～Ｙ－18～21グリッド付近に特に集中する。また東尾根や東支谷でも中央尾根と東尾根に挟まれた狭隘な区域とＡＡ－14・15グリッド付近、西尾根Ｍ～Ｏ－４～９グリッド付近の分布も目立つ（第109図）。

857～862は縄文が施されたもので、３類土器とした野島式土器の古段階と並行すると考えられる古屋敷式土器に類似する。２類土器とした件の清水柳Ｅ類土器とも時期的に並行するものか。施文の主体は縄文で、胎土中に繊維がわずかに他に、白色粒子・雲母が大量に見られる。857～859は口縁部のみの破片資料である。857は段が設けられた資料である。段からは外反し、口唇部は平坦で縄文を施されている。外面はＲＬ縄文が施されている。858は口唇部付近を強めに外反させており、口唇部には縄文が施されている。両面からの穿孔がなされている。859は内湾気味な口縁部資料である。口唇部は丸く仕上げ、刻目文を施している。外面にはＲＬ縄文か。内面は条痕調整の後にナデか。860は口唇部付近が失われている。段のように一部肥厚した箇所が見られる。ＲＬ縄文を施している。861・862は胴部のみの破片資料である。

863～875は沈線文が施された資料で、縄文を施した857～862と比較して、数量は多く、分布域も広い。863～870は口縁部の破片資料である。863～865は口唇部に刻目文を施している。863は丸く仕上げた口唇部を持ち、外面に押引文が施される。胎土中には雲母が多く見られる。864は平坦に仕上げた口唇部を持ち、外面に半截竹管状の工具で横位の沈線文が施されている。865は斜位の沈線文が施される。866～870は口唇部に刻目文等を施していない資料である。866は半截竹管状の工具で互いに交差する２本の曲線文を施している。867は口唇部直下から縦位に沈線文を施す。波状口縁か。868は口唇部直下から半截竹管状の工具で縦位に沈線文を施している。第Ⅱ群３類に近い資料か。869ａ・ｂは軽く外反させた口縁部で、口唇部を丸く仕上げている。外面には半截竹管状・先割状の工具の２種類を用いて、文様を描いている。内面には半截竹管状の工具で沈線文を短く施している。両面からの穿孔がなされている。870は内面に凹線を施している。871～875は胴部のみの破片資料である。871は沈線文と刺突文が施されている。872は貝殻腹縁を用いた波状文か。873は半截竹管状の工具で横位に沈線文を施している。874は段部を有し、段より上位に半截竹管状の工具で沈線文を施す。875は半截竹管状の工具で横位に沈線文を施す。両面から穿孔がなされている。876・877は隆帯文が施される資料である。876は波頂部付近の破片資料で、幅の広い隆帯が貼り付けられ、刻目文が施されている。877は判然としない低平な隆帯を設け、その上位に波状の沈線文を施す。隆帯から斜位の沈線文を施す。878は刺突文が施されている。口唇部直下に爪形の刺突文を施す。

880～886は条痕文が施された資料で、中央尾根を中心に多く分布する。880は胴部中位から口縁部にかけて残存した破片資料である。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口唇部は平坦に仕上げられている。内外面ともに横位の条痕文が見られるが、外面では胴部中位より下には見られない。881は口唇部付近をわずかに外反させ、丸く仕上げている。外面は斜位の条痕文が見られるが、口唇部直下のみ横位の条痕文である。882は胴部上位から口縁部まで残存する。胴部から口縁部までは直線的で、口唇部は丸く仕上げている。外面は横位に条痕文を施した後に、縦位の条痕文が施されている。883は胴部のみの破片資料である。外面は縦位、内面は横位の条痕文が見られる。884は波状口縁で、ほぼ直線的に立ち上がり口唇部を丸く仕上げている。外面には横位の条痕文が見られる。内面にも条痕文が見られるが、判然としない。885は口唇部を丸く仕上げている。外面に縦位の条痕文が見られる。886は胴部下位から中位にかけての破片資料である。内面のみ条痕文が見られる。外面の条痕文はナデ



第 111 図　縄文土器第Ⅲ群２・第Ⅳ群１

第 112 図　縄文土器第Ⅳ群２

消されたものか。

887～893は底部のみの破片資料である。887～889は尖底である。887は外面に縦位のナデ痕が見られる。888は瘤状をなす。889は内面に指頭によるナデ痕が見られる。890は平底である。胴部内外面に条痕文が見られる。891は丸底か。892は平底である。胴部外面に条痕文か。893は底部外面の周縁に粘土紐を貼り付け、高台状に仕上げている。底部内面には指頭痕が見られる。

第Ⅳ群　早期末～前期前半

１類（第111・112図　写真図版102）

木島式土器と考えられる土器群を一括した。「細線文薄手指痕土器」とも呼ばれる木島式土器の主要な器種は丸底をもつ深鉢で、櫛歯状やヘラ状、半截竹管状の工具による刺突文・沈線文やアナダラ属の貝の貝殻を用いた背圧痕が見られ、隆帯も設けられるという。内面には指頭痕が見られ、器厚は３～５㎜程度と薄く仕上げる。今回出土した１類土器の大半は前期代のものか。分布は中央尾根（北）から東支谷を経て東尾根にかけて分布し、中央尾根（南）以南には見られない（第118図）。

894～907は１類に分類した土器で、894～900は口縁部のみの破片資料である。894～897は口唇部を平坦に仕上げ、刻目文を施す。口唇部直下から斜位に半截竹管状の工具を用いて、細かい沈線文を施している。895は格子目状に文様を施す。896は口唇部から３㎝程度の間隔をあけて２段目の刺突文列が配置されている。897は口唇部に指頭による押圧文が施される。898～900は口唇部付近の刻目文・刺突文以外には文様が見られない資料である。898は内外面ともに指頭痕が見られる。899は口唇部を丸く仕上げ、口唇部直下に刺突文を施している。

901～907は胴部のみの破片資料である。901～903は半截竹管状の工具を用いて細い沈線文を施している。３つの資料のうち901のみ格子目状に沈線文を施している。904は指頭による摘み文を施している。905は胴部中位から下位にかけての破片資料か。指頭痕が内外面に顕著で、刺突文が破片上端部付近に見える。906には細く低平な隆帯を貼り付けた後に、刺突文か。907は刺突文が一面に施されている。

２類（第112図　写真図版102）

清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊式土器とも呼称される土器群を一括した。２者とも胎土中に繊維が見られず、器厚も薄く仕上げているのが特徴であり、清水ノ上Ⅱ式土器は口縁部付近を肥厚させて縁帯部をつくり、刻目文やＥ字状の刺突文を施すのを基調とし、尖底・丸底の深鉢が主要器種として知られる。上の坊式土器も刺突文を主要な文様とし、長めの刺突文の傾斜を変えて矢羽状の組み合わせが見られ、主に尖底の丸底が多いとされる。これら清水ノ上Ⅱ式土器と上の坊式土器はほぼ同質で時期的にも並行すると見られ、研究が進められている。分布の上では中央尾根（北）に集中している（第118図）。

908～923は２類に分類した土器で、そのうち908～917は口縁部を有する破片資料である。いずれも口唇部は丸く仕上げられたもので、直線的に立ち上げ、口唇部付近をわずかに曲げた資料が多い。これらは刺突文が観察される資料である。908は口唇部直下に爪形の刺突文が３段連続して施されている。909も同様であるが、刺突に用いた工具を大きく傾けて施文している。910も爪形の刺突文が見られるが、工具はアナダラ属の貝殻とは異なる貝殻腹縁か。911は胴部中位から口縁部まで残存した破片資料である。胴部は口縁部まで直線的に立ち上がる。口唇部から２㎝程度の位置に刺突文を横位に連続して施している。また2.5㎝程度間隔をあけて、２段目の刺突文を連続して施している。さらに口唇部から14.5㎝程度の位置、胴部中位付近にもう１段刺突文を横位に連続して施している。上２段分と最下段の刺突文列は工具が異なる。内面においては工具が判然としないものの横位のナデ痕が顕著である。912・913ともに半截竹管状の工具を用いた刺突文を施した口縁部のみの破片資料である。912は半截竹管状の工

具の背を、913は腹を土器面に当てて、連続して刺突している。912は口唇部から3.5㎝程度の位置に、もう１段刺突文を連続して施している。914は口唇部に細かい刻目文を施している。口唇部直下に３種の工具の異なる刺突文が横位に施されている。915・916は刺突文を段毎に傾斜を変えて矢羽状に仕上げている。915は口唇部直下に矢羽状の刺突文を配置する。916は矢羽状の刺突文を複数段設けている。917は半截竹管状の工具を用いた文様か。918～923は胴部のみの破片資料で、刺突文が施されている。918は貝殻腹縁による刺突文が施されている。919はヘラ状の工具による刺突文か。内面は横位のナデ痕が顕著である。920は斜位の短い沈線文と刺突文を組み合わせて矢羽状に仕上げている。なお920は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92041）した。その結果920は5,580±30yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

３類（第112図　写真図版103）

花積下層式土器や時期的に並行すると考えられる土器群を一括して３類土器とした。前期初頭に位置づけられる花積下層式土器は平底の深鉢が多く、文様は縄文・撚糸が主で、羽状・菱型状に縄文を施すものが知られる。またこの型式では撚糸側面圧痕文の多用が特徴的とされる。分布は中央尾根（北）及び東尾根に見られ、中央尾根（南）以南では確認できない（第118図）。

924は胴部中位から口縁部にかけての破片資料である。胴部は口縁部まで直線的であり、口縁部は緩やかな波状口縁か。肥厚した口縁部を持つ。口縁部から胴部まで縄文を施している。内面に擦痕か。この924は花積下層式土器に並行する信州地方の塚田式土器にも類似する。925も口縁部から胴部中位にかけての破片資料である。胴部はわずかに内湾気味に立ち上げているが、途中で立ち上がりを直線的に仕上げており、変換点が括れ状をなす。括れを挟み１㎝程度上・下位の位置に細い隆帯が貼り付けられている。口唇部は肥厚させ、平坦に仕上げ、かつ縄文を施している。口縁部には縄文が施され、肥厚部より下位、２本の細い隆帯との間隙には横位のナデ痕が見える。２本の細い隆帯上には花積下層式土器に特徴的な撚糸側面圧痕文が施されている。下位の細い隆帯より下位には縄文が施されている。

４類（第113図　写真図版103・104）

関山式土器や時期的に並行すると考えられる土器群を一括して４類土器とした。関山式土器はⅠ式・Ⅱ式の段階に分かれ、羽状縄文が文様の基調となし、口縁部の文様帯には半截竹管状の工具を用いた刺突文や「コンパス文」、貼付文等が知られる。３類土器と同様胎土中に繊維が多く含まれる。分布は中央尾根（北）から東尾根にかけて見られる（第118図）。

926ａ・ｂは口縁部と胴部の一部の破片資料である。波状口縁で波頂部付近の口唇部には半截竹管状の工具による刺突文が施されている。他の口唇部は尖らせている。波頂部直下にはコンパス文が見られる。その下位は地文を縄文とし、半截竹管状の工具による格子目状の沈線文、沈線文の交差部に貼付文が見られる。波頂部から9.5㎝程度の位置、口縁部がわずかに外反する箇所に半截竹管状の工具で２本の平行沈線文を施し、その上から刺突文を施している。926ｂは胴部中位付近か。コンパス文が見られる資料である。927も波状口縁だが、波頂部が欠損している。口唇部は平坦に仕上げられているが、刻目文は見られない。口唇部直下には半截竹管状の工具で菱型に沈線文を施す。沈線文には連続して刺突文を施す。随所に貼付文が見られる。928も927と同様菱型に沈線文を施す。929ａ・ｂは口縁部と胴部の破片資料で同一個体と考えられる資料である。口唇部は平坦に仕上げられている。胴部には鍔状とでも言うべきか、高く仕上げられた隆帯が２本見られる。930ａは口縁部のみの破片資料である。波状口縁で波頂部に突起が付けられている。口唇部は平坦に仕上げられている。破片中位付近は粘土紐の接合部か。

第 113 図　縄文土器第Ⅳ群３・第Ⅴ群１

第 114 図　縄文土器第Ｖ群２

第Ⅴ群　前期後半

１類（第113図　写真図版104）

有尾式土器の可能性がある土器を１類土器とした。中央尾根端に極少量見られる。931は口縁部のみの破片資料である。口唇部は丸く仕上げられている。櫛歯状の工具で刺突文を施している。その下位には縄文が施されている。胎土中に繊維が見られる。

２類（第113図　写真図版104）

諸磯ａ式土器を２類土器とした。主要な器種として深鉢や浅鉢前段階の黒浜式土器の系統にのり、半截竹管状の工具を用いて、米字状のモチーフや爪形文、円形刺突文も多いという。胎土中に繊維が見られるものもある。富士石遺跡では東尾根付近に極少量見られた。932は口縁部のみの破片資料で波状口縁か。口唇部は丸く仕上げ、突起を設けている。外面には撚糸文を施した後に、口唇部直下に半截竹管状の工具で２本の平行沈線文を施している。最後に口唇部突起の下位に、竹管状の工具で円形刺突文を施している。933は幅の狭い半截竹管状の工具で施している。木の葉文か。胎土中に繊維は見られない。934は浅鉢か。半截竹管文が施されている。

３類（第113・114図　写真図版104・105）

諸磯ｂ式土器を３類土器とした。２類土器の後継で文様帯が胴部下半まで進出する。幅が広い半截竹管状の工具による爪形文や沈線文等で木の葉状、波状のモチーフを描いたり、細い粘土紐で浮線文を作り、渦巻きや弧状のモチーフが知られる。主要な器種は深鉢や浅鉢で、胎土中に繊維は見られない。この３類土器は中央尾根、東尾根及び東支谷でも尾根に挟まれた狭隘な区域に分布域が見られる（第119図）。

935～957は３類に分類した土器群である。935～944は半截竹管状の工具による沈線文を多用した資料である。935～939は口縁部が残存した資料である。935ａ・ｂは同一個体と考えられるもので、胴部中位から口縁部まで残存した資料である。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口唇部は平坦に仕上げられ、４つの貼付文が施される。外面には最初に縄文を施し、その後、口唇部直下に爪形文を伴う平行沈線文を複数本施している。936～938はほぼ同様の文様構成である。936は波状口縁の波底部付近の資料と考えられる。口縁部は微かに内湾して立ち上がり、口唇部は丸く仕上げている。口唇部には４つの貼付文が施されている。外面は縄文を一面に施した後に、口唇部直下に４～５本の半截竹管状の工具による平行沈線文を施している。その下位に同じ工具で弧状のモチーフを描く。937は口唇部をわずかに内側へ傾けている。936と同様外面に縄文を施した後に、口唇部直下に横位には平行沈線文を配置する。938は口唇部を平坦に仕上げ、口唇部外面側端部に刻目文を施している。939は胴部中位から大きく外反させ、口縁部は内湾させて口唇部を丸く仕上げている。外面には渦巻き状のモチーフが沈線文により構成されている。この施文を行った工具は936～938の工具と比較して幅が狭い。一方、940の平行沈線文・爪形文の施文に用いられた工具は前述のものより幅が広いのが特徴的で、平行沈線文間に別の棒状工具による斜位の沈線文が充填されている。942も940と同様の文様であるが、最下段の爪形文は下半部が消えている。943は格子目状の平行沈線文が施されている。これら935～944のうち浅鉢は941のみで、残りは深鉢と考えられる。この941の外面にはヘラ状の工具で三角形状の文様が施されている。

945～956は浮線文が施された資料で、そのうち945～949は口縁部が残存した破片資料である。945は波状口縁である。外反する口縁部で、口唇部は平坦に仕上げられている。口唇部直下には半截竹管状の工具による平行沈線文、刻目文を施した浮線文と縄文が施されている。946は浅鉢の口縁部のみの破片資料か。947ａ・ｂは同一個体と考えられる資料である。胴部上位で外反し、口縁部付近で内湾する。

波状口縁で波頂部には環状の把手がある。その両脇には突起を設え、口唇部には刻目文を施す。把手直下に浮線文で渦巻き状のモチーフが施されている。胴部上位は浮線文､胴部中位以下は縄文を主とする。948も波状口縁で、波頂部に突起状の把手を設けている。渦巻き状、梯子状のモチーフが浮線文により形作られている。949は口縁部に突起が設けられている。950～956は胴部～底部の破片資料である。950は浮線文と縄文が施されている｡縄文は無節か｡951は浮線文による渦巻き状のモチーフの下半部付近か。952～954は横位に浮線文が複数配置されたものである。952は胴部上位から中位付近の破片資料である。口縁部は失われているが、少なくとも浮線文が６本確認される。955は半截竹管状の工具による平行沈線文と浮線文が見られる｡956は底部のみの破片資料である｡浮線文で梯子状のモチーフが施されている。957は浅鉢の胴部資料である。胎土中に雲母が多く見られる。

４類（第114・115図　写真図版105・106）

諸磯ｃ式土器を４類土器とした。円形や貝殻状を呈する貼付文、半截竹管状の工具を用いた平行沈線文を密集させる集合沈線文や結節浮線文が盛行するという。この４類土器は東尾根にまとまった分布域が見られる（第119図)。

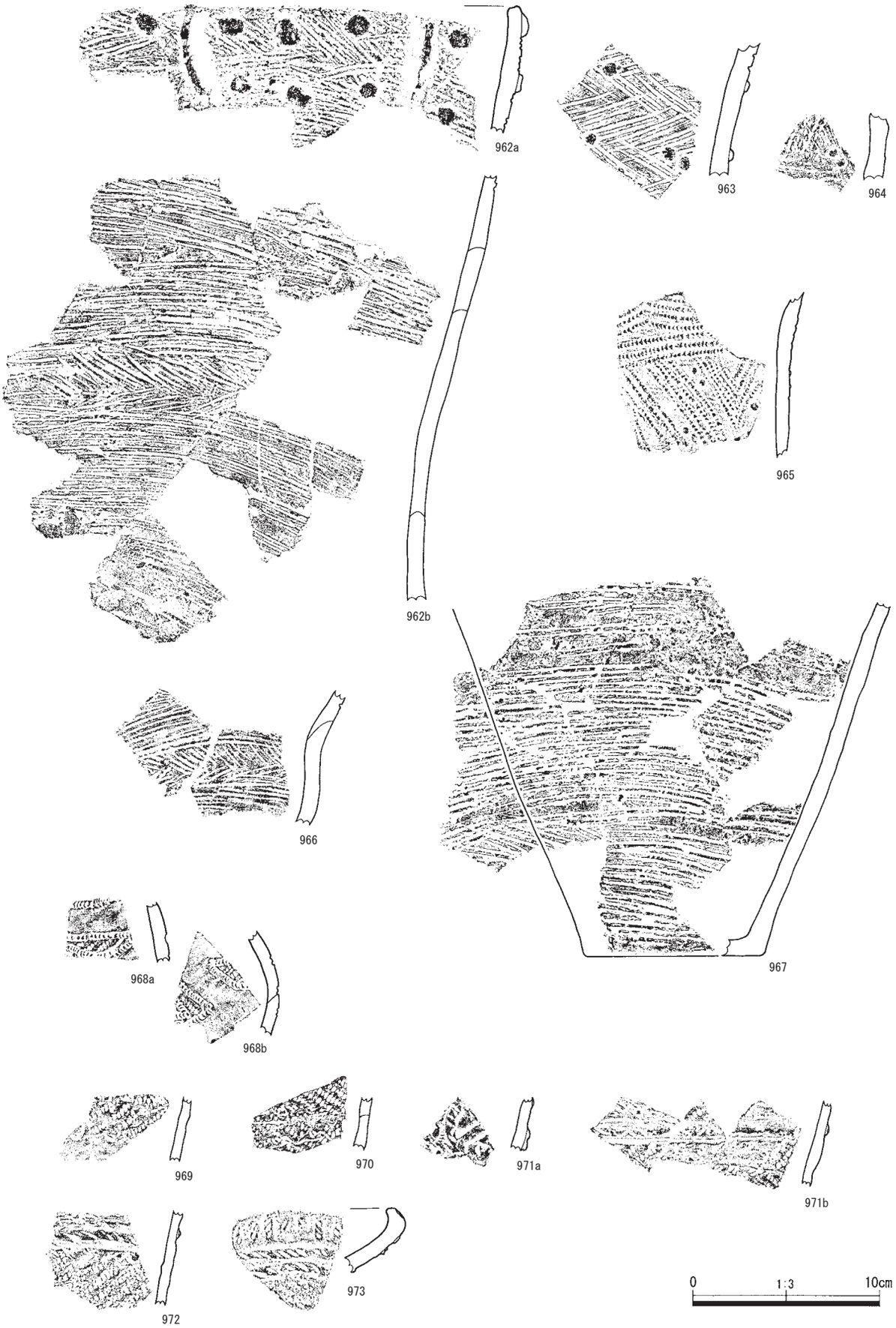
958～967は４類に分類した土器群で、そのうち958～962は口縁部が残存した資料である。958ａ・ｂは口縁部付近がわずかに内湾する。口唇部は平坦に仕上げられ、口唇部直下には半截竹管状の工具により、押引を伴った平行沈線文が横位に施されている。胴部中位より下位には斜位の平行沈線文が矢羽状に施されている。959の外面には平行沈線文が施されているが、細い半截竹管状の工具を数本束ねて施文か。960～962は貼付文が見られる資料である。960は口唇部を尖らせている。半截竹管状の工具で矢羽状に沈線文を施した後に、縦長の貼付文が間隔をおいて配置されている。961ａ・ｂは同一個体と考えられる資料である。胴部は上位付近で外反、口縁部は内湾させる。口唇部は半截竹管状の工具による押引文が施されている。口唇部直下には矢羽状に平行沈線文が施され、平行沈線文を施された円形の貼付文が２段に、棒状の貼付文が縦位に配置されている。胴部中位付近は方向の異なる平行沈線文が施されている。工具の幅は細い。962ａ・ｂも同一個体と考えられる資料である。胴部下位から中位まで直立気味に立ち上げ、中位付近より外反する。口縁部はあまり内湾しない。口縁部付近は矢羽状に平行沈線文を施すが、胴部下位までは横位の平行沈線文を主体とした集合沈線文が見られる。

963～967は胴部、底部資料である。963は962と同様、沈線文上に円形貼付文を配置する。その位置は傾きの異なる沈線文が接する箇所で、２個組か。964・965は結節浮線文と円形の貼付文が見られる資料である。966・967は集合沈線文のみ施された土器である。967は胴部下端まで半截竹管状の工具による沈線文が施されている。平坦な底部から胴部が直線的に立ち上げられている。

５類（第116図　写真図版107）

十三菩提式土器と考えられる土器群を一括した。時期的に前期末とされ、諸磯ｃ式土器に見られた貼付文や結節浮線文、結節沈線文を継承・発展させたとされる。この５類土器も東尾根にまとまった分布域が確認されている（第119図)。

974～978が５類に分類した土器群である。974は口縁部のみの破片資料である。直線的に延びた口縁部で、口唇部付近は折り返すことで肥厚させ、平坦に仕上げている。肥厚部は半截竹管状の工具で押引きしている。肥厚部より下位は平行沈線文により渦巻き状のモチーフが形成されている。975・976は集合沈線文が施された資料である。975ａ・ｂは同一個体と考えられる資料である。底部破片と胴部の一部である。胴部下端まで沈線文が施されている。976ａ・ｂも同一個体と考えられる資料である。胴部は平坦な底部より内側へ傾きつつ立ち上がり、胴部中位で外反し始める。胴部下端まで沈線文が施され



第 115 図　縄文土器第Ⅴ群３

ている。977・978は三角状に刻まれた文様が施されている。977ａ～ｃは同一個体と考えられる資料で、胴部中位から口縁部にかけての破片資料である。977ａの口縁部は外反し、折り返すことにより肥厚させたものか。口唇部には刻目文が施されている。肥厚した口縁部には三角状､丸状に削りこまれている。印刻文か。口縁部直下には横位の結節沈線文が施されている。977ｂ・ｃには三角形状の印刻文とともに結節沈線文が施されている。978は胴部上位から内湾し、口唇部は丸く仕上げている。口唇部直下には三角状の印刻文と幅広の浮線文か。また突帯が巡りその上位に結節文や印刻文が施されている。

６類（第115図　写真図版106）

北白川下層式土器と考えられる土器群等を一括した。概して器厚は薄く、堅緻な仕上がりである。文様はＣ字形の爪形文や突帯、縄文等により構成される。

969～972が６類に分類された土器群である。全て胴部のみの破片資料である。969・970は縄文が施されている。971ａ・ｂは同一個体と考えられる資料である。971ａには刻目文のある浮線文が見られる。971ｂは縄文と刻目文が施された突帯が見られる。972も971ｂと同様の文様である。なお970は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92049）した。その結果970は5,050±30yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

第Ⅵ群　前期代　型式不明（第116～121図　写真図版107～110）

979～1049は前期代のものと考えられる。型式名が判然としなかった資料や、第Ⅳ・Ⅴ群の各類に分類できる可能性を持ちつつも、施文が縄文のみであるため分類に躊躇した資料を第Ⅵ群として一括して集成した。

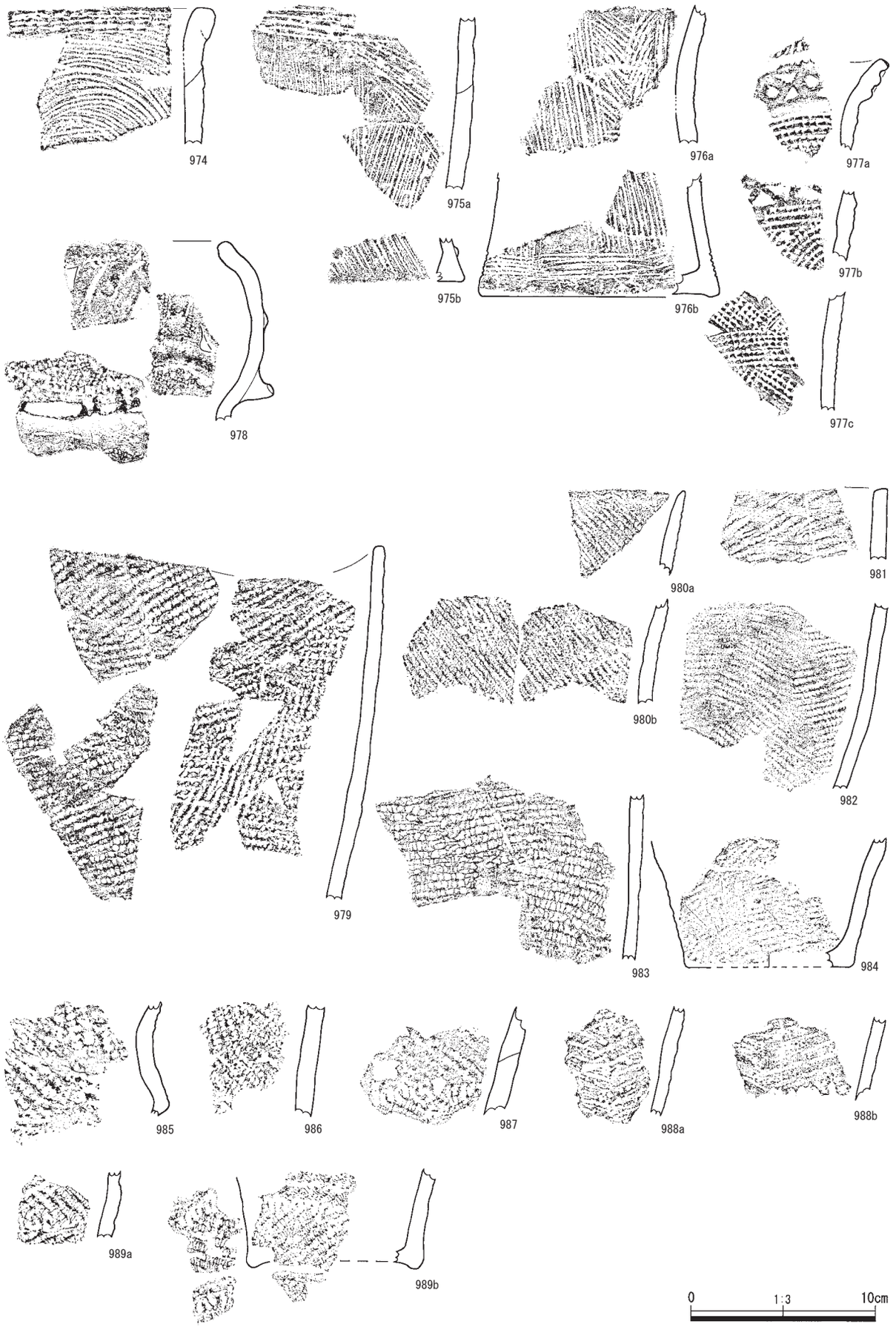
979～984は第Ⅳ群３類に分類した花積下層式土器及び時期的にそれと並行するものに該当か。分布は３類土器とほぼ重複する（第118図）。このうち979～981は口縁部が残存した破片資料である。979は波状口縁で口唇部を丸く仕上げているが、波底部近くに指頭圧痕が１ヶ所見られる。982・983は胴部のみの破片資料である。984は底部が残存した資料である。胴部下端まで縄文が施文されている。

985～989は第Ⅳ群４類に分類した関山式土器及び時期的にそれと並行するものに該当か。分布は第４類土器と重複する（第118図）。985は屈曲部を持つ胴部のみの破片資料である。989は底部が残存した資料である。胴部下端まで縄文が施されている。上げ底状であるため高台のような外観を呈し、底部外面にも縄文が見られる。胴部・底部に見られる縄文にはループ状の圧痕も見られる。

990～1006は第Ⅳ群４類に後続すると考えられる黒浜式土器及び時期的にそれと並行するものに該当か。この黒浜式土器は関山式土器の特徴でもある羽状縄文を継承し、さらに有尾式土器との関係から菱形状を呈する羽状縄文が出現する段階である。中央尾根（北）から東支谷、北尾根際に分布する（第118図）。このうち990～999は口縁部が残存した破片資料で、994・999は底部が残存する資料である。990～994は羽状縄文が施されている。1000～1006は胴部のみの破片資料である。このタイプの胴部は直線的に立ち上げるものが多いが、993のようにわずかに内湾気味に立ち上げたり、また999は胴部中位を大きく内湾させるものもある。口縁部は993のように平縁であるものや、995は緩やかな波状口縁をなすものもあるが､いずれも破片資料であり判然としない資料が多い。なお993は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92043）した。その結果993は5,640±30yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

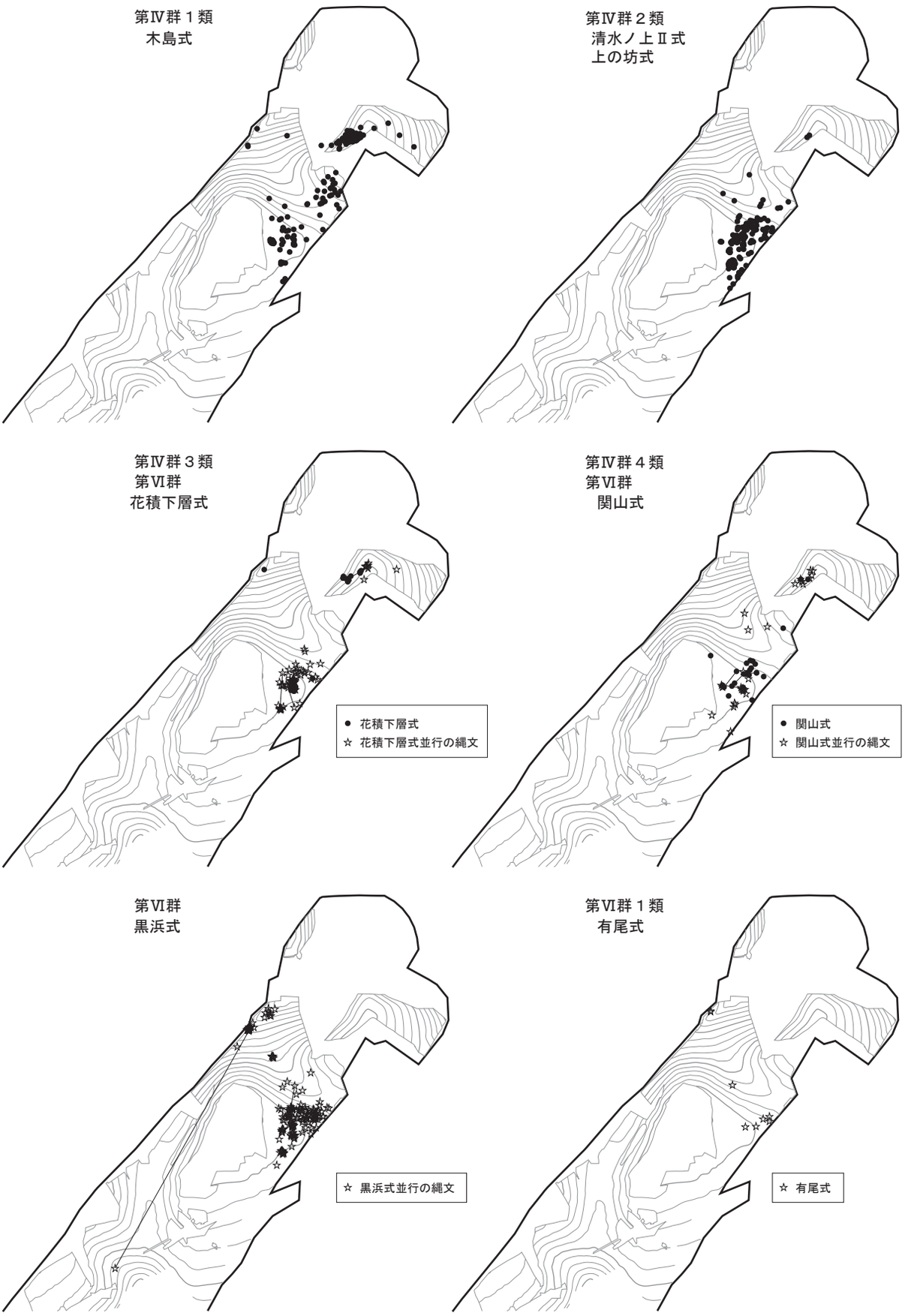
1007・1008は第Ⅴ群１類土器に分類した有尾式土器及び時期的にそれと並行するものに該当か。1007は波状口縁か。外面にある粘土紐接合痕がナデ消しされていない。器厚が比較的薄く仕上げられている。

1009～1020は縄文前期前葉から中葉にかけてのものと考えられるが、型式名が判然としない土器群を

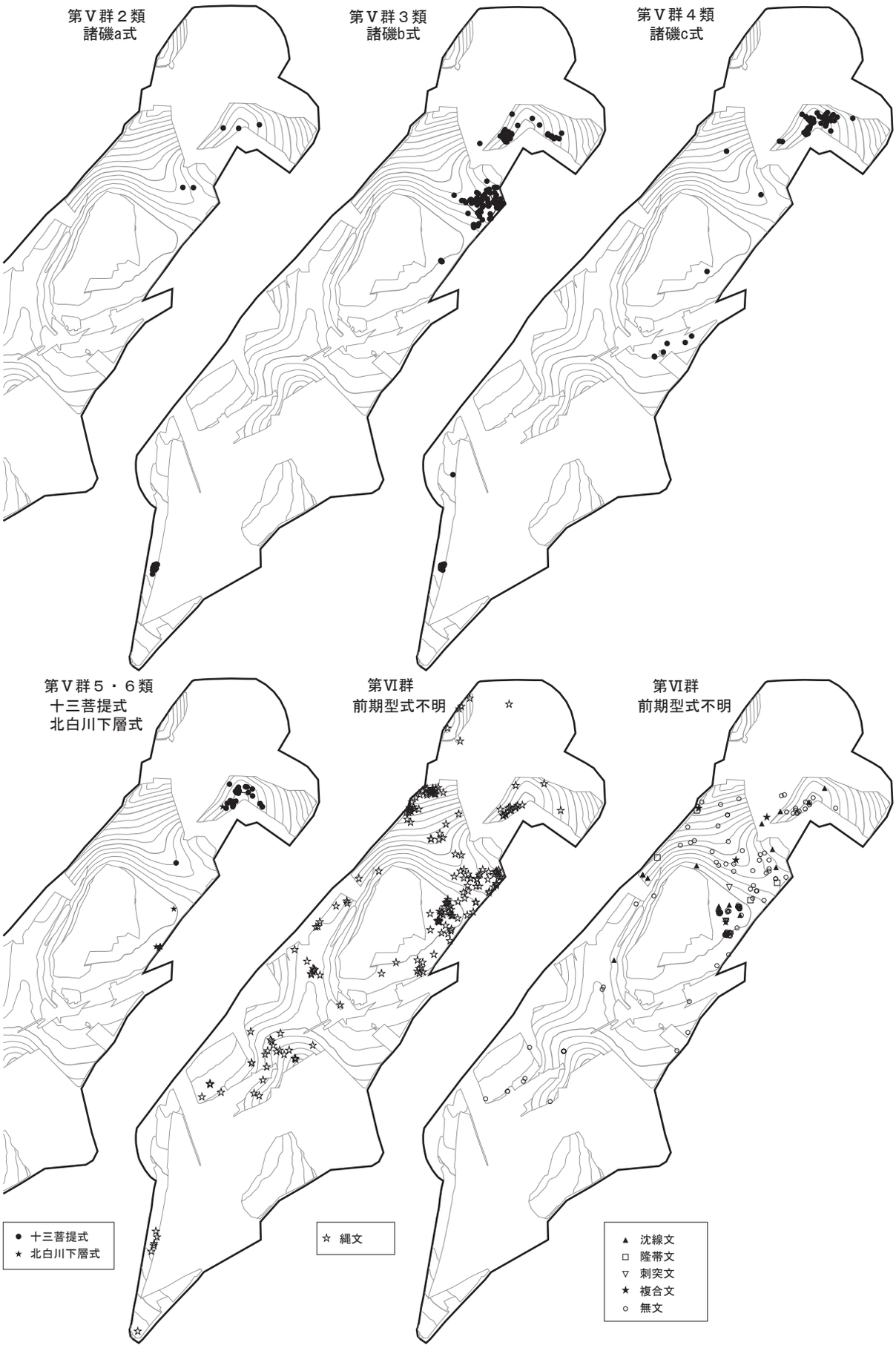


第 116 図　縄文土器第Ⅴ群４・第Ⅵ群１

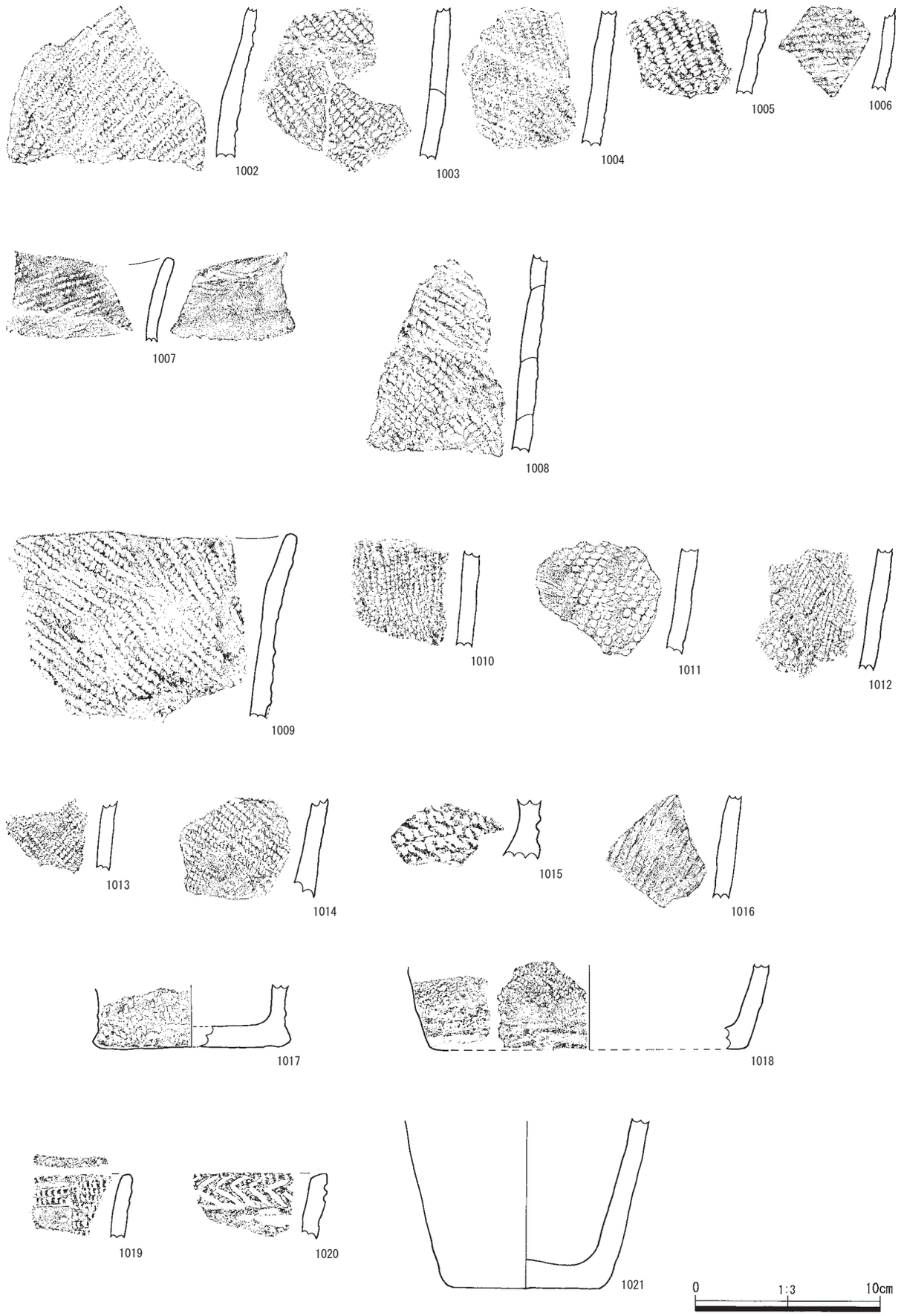
第 117 図　縄文土器第Ⅵ群２



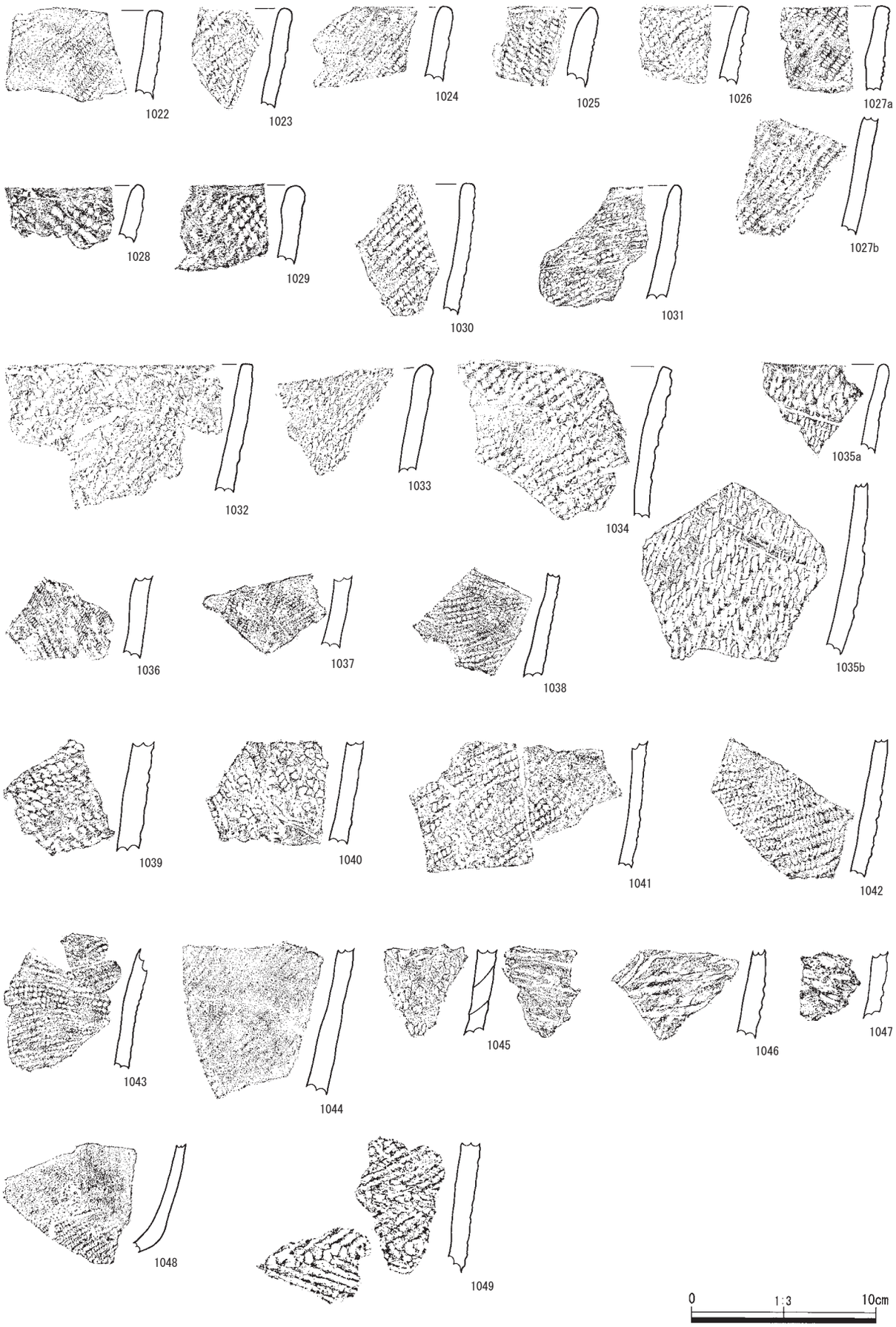
第118図　土器分布図５



第119図　土器分布図６



第 120 図　縄文土器第Ⅵ群３



第 121 図　縄文土器第Ⅵ群４

第 122 図　縄文土器第Ⅷ群１

一括した。1022～1049は第Ⅴ群２～４類土器に分類した諸磯式土器及び時期的に並行するものに該当か。1022～1035は口縁部が残存した破片資料、1036～1047・1049は胴部のみの破片資料である。口縁部は丸く仕上げたものが大半であるが、緩やかな波状口縁である1032は平坦に仕上げている。1048は浅鉢の可能性がある。屈曲部の下位には縄文、上位はヘラミガキが施されている。1049は羽状縄文である。

第Ⅶ群　中期

１類（第122図　写真図版111）

五領ヶ台式土器と考えられる土器群を１類とした。この五領ヶ台式土器は前期末葉の十三菩提式土器等の集合沈線文等の文様、器形を引き継ぐもので中期初頭に位置付けられている。1050は口縁部のみの破片資料である。口唇部は平坦に仕上げられ、口唇部直下に３本の横位の沈線文、その下位に曲線文が施されている。地文は縄文か。1051は胴部中位付近か。U字を逆さにしたように沈線文が連続して施されたものか。逆U字モチーフ下位の細かな縄文は羽状を呈する。1052は胴部下位から底部にかけて残存した資料である。平坦な底部から胴部は内傾して立ち上がる。胴部外面には細かな縄文を施した後に、半截竹管状の工具で円形のモチーフ等を沈線文で描く。

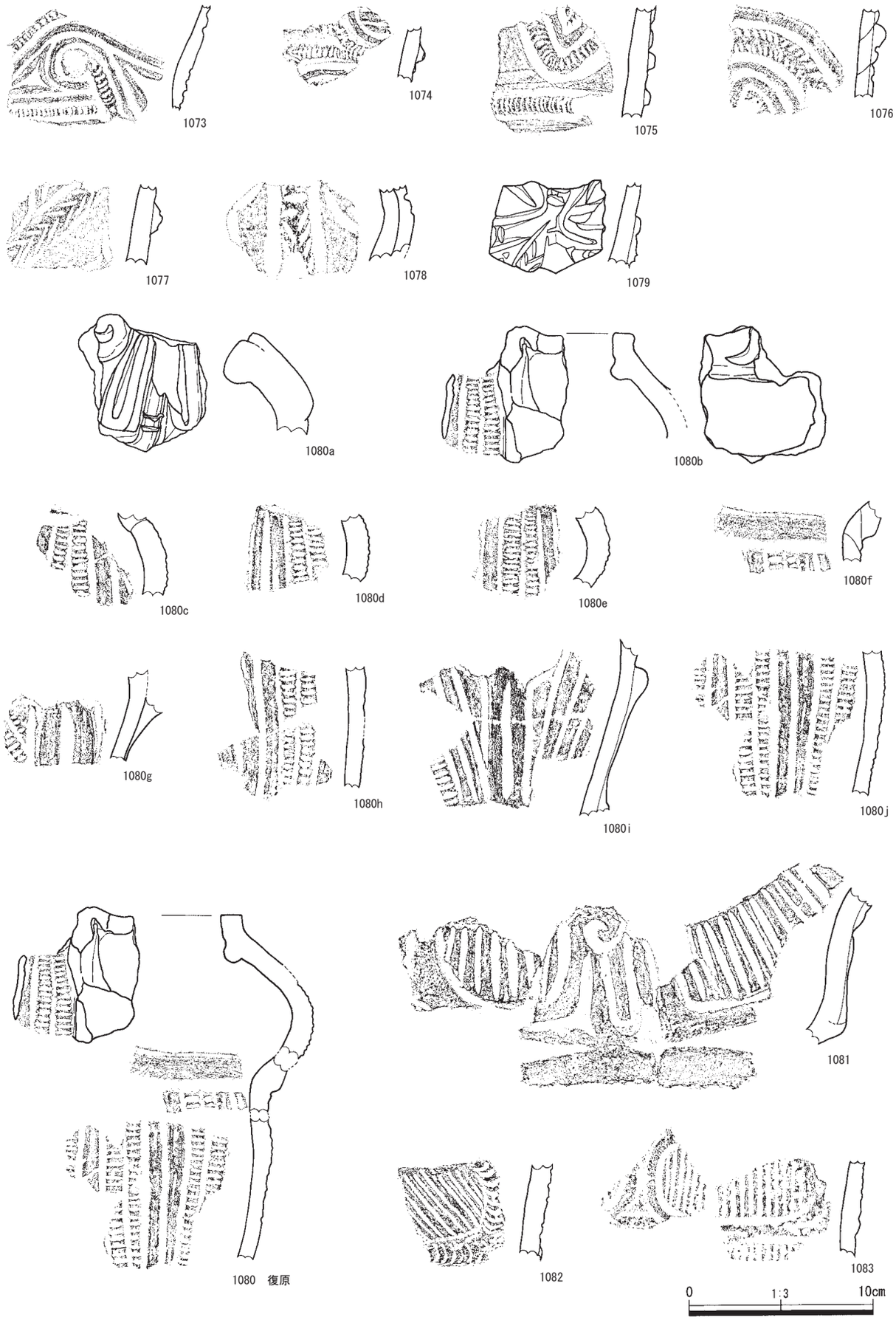
２類（第122～124図　写真図版111～115）

勝坂式土器もしくは時期的に並行する土器群を２類とした。狢沢式土器・新道式土器・藤内式土器・井戸尻式土器等に分類できるが、当該報告では勝坂式土器として集成した。概して器厚は厚手であり、口縁部が膨らむ深鉢が多い。口縁部は波状口縁や突起をつけるものがある。文様は棒状や多截竹管状の工具を用いて押引文、刺突文や沈線文、また粘土紐貼付による隆帯、懸垂文や楕円区画文・抽象文等様々なモチーフの貼付文が見られるという。２類土器は西尾根東端から北尾根にかけて広く分布する。

1053～1098は２類に分類した土器群である。そのうち1053～1055は角押文が施された土器である。1053は微かに内湾し立ち上がる口縁部で、口唇部は平坦に仕上げている。口唇部直下に棒状の工具により横位の押引を行った角押文が２段施され、その直下に縦位の角押文が施されている。内面には口唇部直下に段を設えている。1054ａ・ｂは同一個体と考えられる口縁部付近の破片資料である。1054ａは口縁部に設けられた突起か。「Y」字状を呈し、外面に縄文を施している。1054ｂは隆帯直上に角押文か。1055は横位と曲線を描く隆帯が見られる。楕円区画文か。隆帯に沿って角押文が施されている。

1056～1065は三角押文が施された土器である。1056は口縁部のみの破片資料である。口唇部は大きく平坦面を設け、三角押文を施している。1057は波状口縁である。口唇部は丸く仕上げ、刻目文を施す。口唇部直下に三角押文を口縁に沿って施し、その直下に棒状工具で渦巻き状のモチーフを沈線文で描く。1058は波状口縁部の波頂部付近か。蛇のようなモチーフが隆帯で形作られ、脇に三角押文が施されている。内面には段が設けられている。1059は三角押文と角押文が施されている。口唇部は丸く仕上げられている。1060ａ・ｂは同一個体と考えられる。直線的な胴部と口縁部で、口唇部は平坦に仕上げられている。外面には細かい三角押文を緩やかに蛇行させて施している。1061～1065は胴部のみの破片資料で、1061～1063・1065は三角押文と隆帯が施されている。1061は低平な隆帯の上位に三角押文、下位に横位と縦位の沈線文が施される。1062は縦位と横位の細い隆帯による区画内に三角押文が楕円状に施されている。1063は細い隆帯の上位・下位に沿って三角押文が施されている。1065も細い隆帯と三角押文等が施されている。1064は三角押文等が横位に施されている。

1066～1069・1073・1074は半截竹管状の工具の刺突によるキャタピラー文や爪形文・刺突文等が施された土器である。1066は口縁部のみの破片資料である。口縁部は直線的に広がり、口唇部は平坦に仕上げられている。口唇部付近に隆帯を貼り付け、刻目文を施している。その隆帯直下には半截竹管状の工

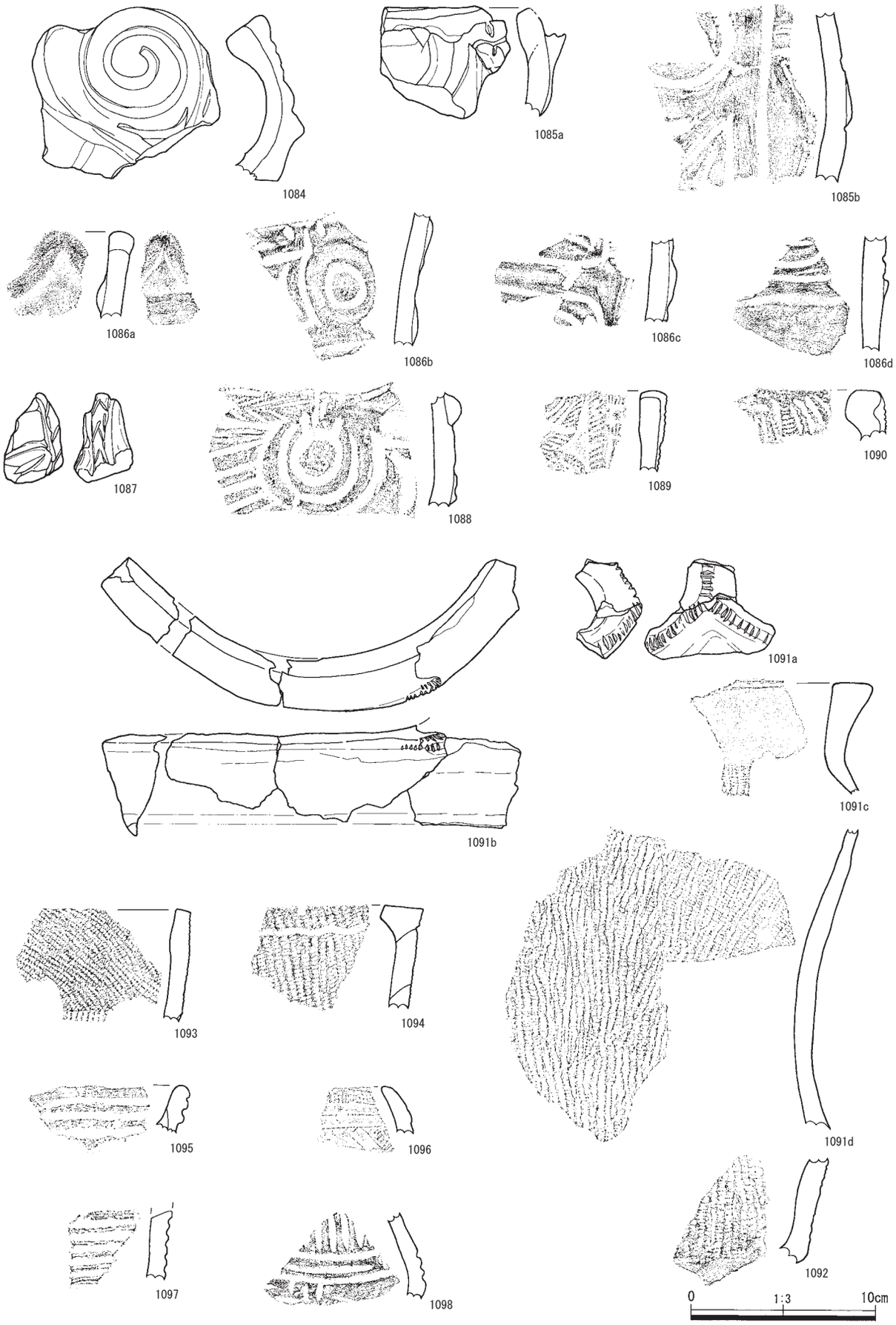


第 123 図　縄文土器第Ⅷ群２

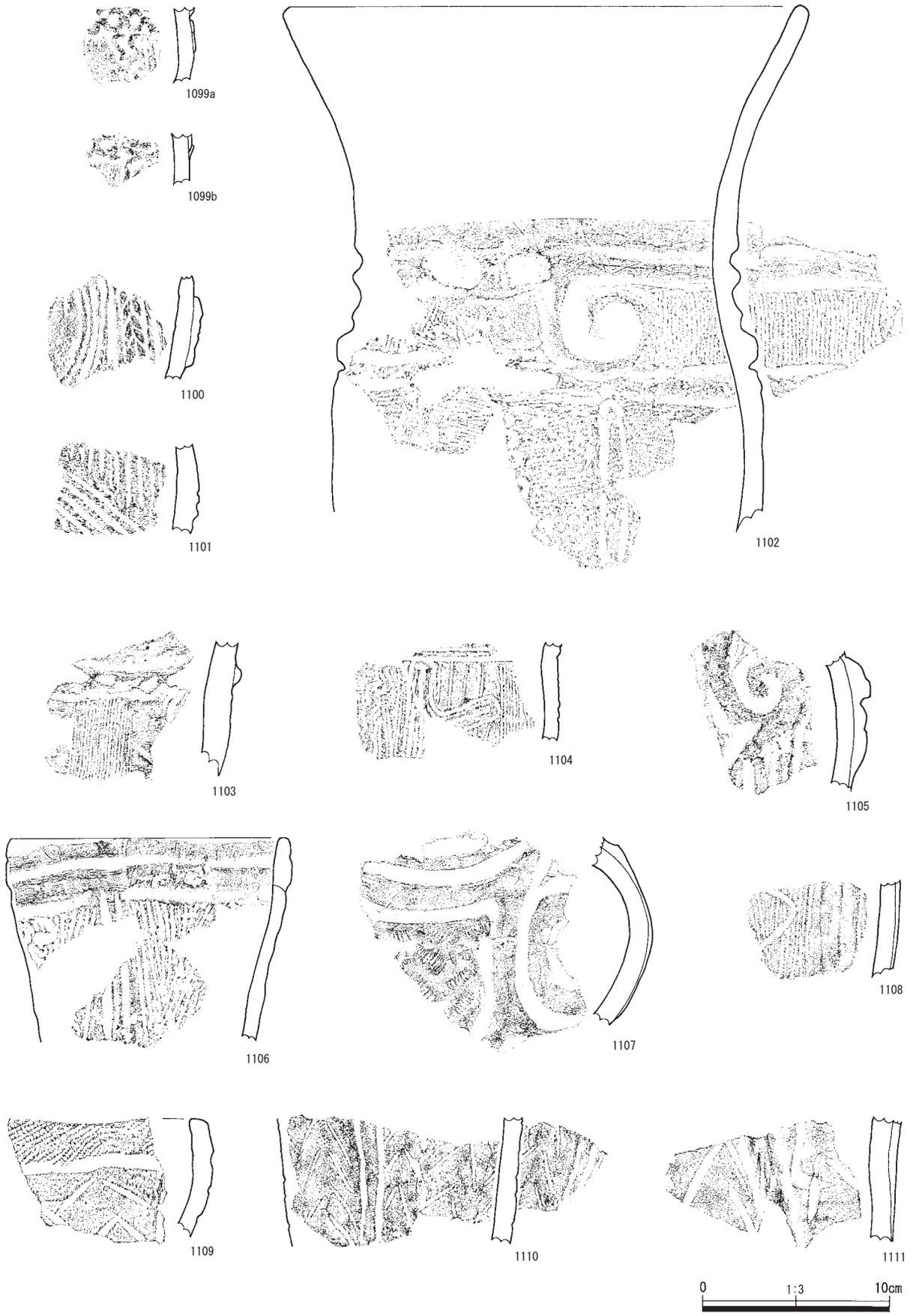
具の内側を器面に当てて、隆線のような平行沈線文を施している。その間隙にはキャタピラー文を充填している。内面には段を設けている。1067ａ・ｂは同一個体と考えられる資料で、胴部、口縁部のみの破片資料である。1067ａは波状口縁の波頂部か。波頂部は渦巻き状のモチーフをあしらう。そこから文様が施された隆線を懸垂状に配置し、キャタピラー文を添えている。1068ａ・ｂも同一個体と考えられる胴部のみの破片資料である。縦位に貼り付けられた短隆線の周囲をキャタピラー文で囲む。1069にはキャタピラー文で形作られた抽象文が見られる。円形刺突文も見られる。1073は半截竹管状の工具で施された渦巻き状のモチーフに隆線を組み合わせている。キャタピラー文も見える。1074も半截竹管状の工具による沈線文に隆線を組み合わせており、隆線上にキャタピラー文が施されている。1070～1072は縄文が施された資料である。1070は口縁部のみの破片資料である。内湾気味の口縁部で口唇部直下に隆帯を貼り付け、縄文を施している。隆帯から隆線を懸垂させている。隆帯・隆線による区画域の一つに縄文が充填されている。1071の爪形文が施された細い隆帯の下位には、半截竹管状の工具の内側を器面に当てて施した長方形状の平行沈線文が連続して配置され、その内部には細かい縄文が充填されている。1072も1071とほぼ同様であるが、刺突文を添えている。

1075～1079は隆線が見られる胴部のみの破片資料である。1075・1076は隆線・半截竹管状工具による沈線文で渦巻きのようなモチーフを描いたものか。両者とも刺突文が隆線上に施されている。1079は複数の隆線が交差している。

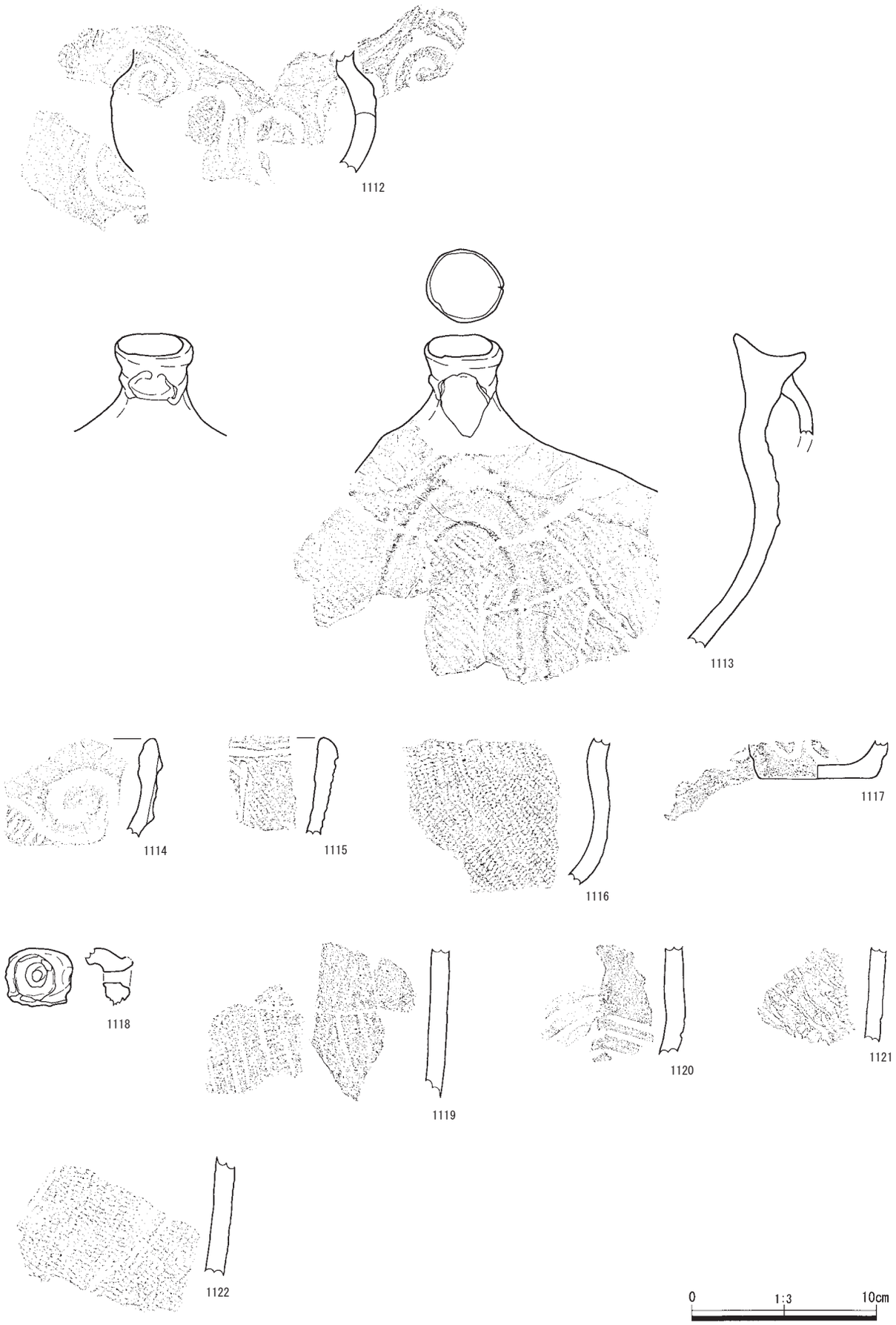
1080ａ～ｊは同一個体と思しき破片資料を集成した。本来は胴部を直立気味に立ち上げ、胴部上位で膨らませ、口縁部は窄まるように仕上げたものか（1080復原）。1080ａ・ｂは口縁部付近の破片資料である。前者には蛇の頭部とも思えるモチーフが見られ、後者にはキャタピラー文が見られる。ｃ～ｊはキャタピラー文や平行沈線文が見られるが、ｆ・ｇ・ｉには太い隆線が見られる。ｆは横位の隆線である。ｇ・ｉは縦位で、幅広で低めに仕上げられた隆線で、中央部に溝を設けている。上端部には把手等のモチーフと接続していたのか、剥脱した痕跡が見られる。1081は胴部の破片資料である。残存状況から当該資料は底部から胴部を立ち上げ、最初の屈曲部が設けられた部位付近か。縦位の沈線文と厚みのある隆線文が施されている。また隆線文を渦巻き状に施した箇所もある。1082・1083は楕円状に隆線を施し、内部に沈線文を充填している。1084は口縁部付近のみの破片資料である。渦巻き状のモチーフが見られ、欠損しているがさらに下位へ垂下する隆線文等があったものと考えられる。1085ａ・ｂは同一個体と考えられる資料で、口縁部と胴部の破片資料である。口縁部から幅の広い隆線文が垂下し、脇に渦巻き状のモチーフか。隆線文両脇は凹線状になっている。1086ａ～ｄは同一個体と考えられるもので、口縁部と胴部の破片資料である。1086ａは波状口縁の波頂部と考えられる。突起状に延びる。内面にも逆「Ｖ」字状の沈線文が見られる。1086ｂ～ｄは隆帯文や隆線文が施され、環状のモチーフが描かれている。1087は蛇のモチーフ、もしくは把手の残欠か。1088は胴部のみの破片資料である。横位の太い隆線文の下位に、環状のモチーフが２重設けられ、左側には沈線文が直線的に延びる。右側には半肉彫り状のモチーフが見られる。1089は口縁部のみの破片資料である。口唇部付近は肥厚し、平坦に仕上げられている。口唇部には突起を貼り付け、そこから縦位にキャタピラー文が施された隆線文が垂下している。内面に段が見える。1090も肥厚する口縁部で、平行沈線文等が施されている。1091ａ～dは同一個体と考えられる資料で、口縁部、把手と胴部、胴部下端の破片資料である。胴部中位は外湾しながら立ち上り、口縁部は「く」字状に屈曲する。口唇部は大きく肥厚し、平坦面が設えてある。胴部は縄文が全面に施され、胴部下半まで縄文を施文する。1093～1096は口縁部のみの破片資料で、1093・1094は縄文が施された資料である。1093は直線的に立ち上がり、口唇部は平坦に仕上げている。口唇部直下から縄文を施している。破片下端にキャタピラー文か。内面には段を設けている。1094は口唇部を内側へ引き出しており、平坦面を広く設けている。外面に縄文を施した後、口唇部から１㎝程度の位置に沈線文



第 124 図　縄文土器第Ⅶ群３



第 125 図　縄文土器第Ⅶ群４



第 126 図　縄文土器第Ⅶ群５・第Ⅷ群

を緩やかな波状に施している。1095は口唇部を丸く仕上げ、口縁部に沿って３本の太い沈線文を施している。1096は内湾する口縁で、口唇部を丸く仕上げる。口唇部直下に刺突文を横位に施し、その下位に平行沈線文やキャタピラー文を施している。1097・1098は沈線文を施した資料である。1097は胴部のみの破片資料である。横位の沈線文を５本以上施している。竹管状の工具を用いたものか。1098は縦位・横位の沈線文が施されている。竹管状の工具を用いたものか。

３類（第125図　写真図版116・117）

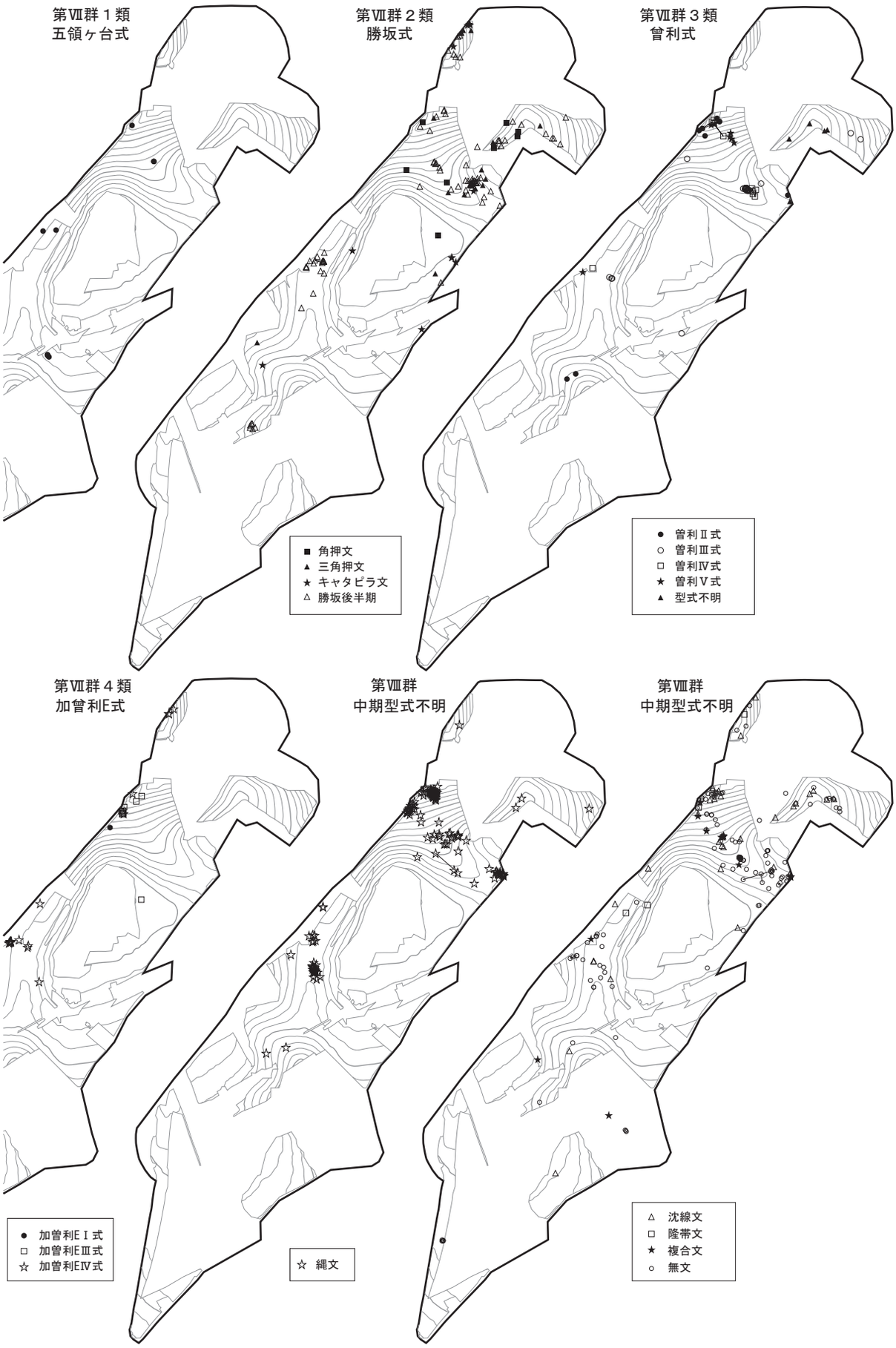
曽利式土器及び曽利式土器と時期的に並行すると考えられる土器を３類とした。当該土器は長胴甕等が主要な器種で文様は地文に縦位の沈線文を施し、隆線文により「U」「J」字状のモチーフを作り出しているもの、その他に「X」字状の把手や渦巻文が見られるという。西支谷から東支谷、東尾根にその分布が見られる（第127図）。

1099～1111は３類に分類した土器で、そのうち1099～1100は細い粘土紐を貼り付け、浮線文状に呈した資料である。1099は波状の浮線文か。横位に重複して施されている。1100には編紐状の縦位浮線文と沈線文が施される。1101は縦位と斜位の沈線文が施されている。以上1099～1101は曽利Ⅱ式土器か。1102は胴部中位から口縁部まで残存した資料である。わずかに膨らむ胴部から窄まる頸部に至り、口縁部は外反気味に立ち上がる。口唇部は丸く仕上げている。口縁部が膨らむ所謂キャリパー形で、２本の隆帯の間に渦巻文と縦位の条線文が施されている。下位には円形刺突文と沈線文が施されている。1103は横位に隆帯を施し、その直下は櫛歯状の工具による条線文か。1104は縦位に細かな沈線文を施し、半截竹管状の工具で「L」字状のモチーフを描いた後、半截竹管状の工具で平行沈線文を施す。1105は太い粘土紐を貼り付け、渦巻文とした資料である。以上1102～1105は曽利Ⅲ式土器か。1106～1108は隆帯文脇に指頭による凹線文が施された資料で、曽利Ⅳ式土器か。1106は胴部から口縁部にかけて残存した資料である。胴部は直線的に立ち上がり、口唇部は丸く仕上げる。口縁部付近に低平な隆帯文を横位に施した後に、その脇を指頭による凹線文を施す。その下位に縦位の沈線文等が施されている。1107は隆帯文と隆帯による渦巻き文が施されている。隆帯文脇は強い指頭によるナデで凹線文が施され、隆帯文による区画内に短沈線文の列が見られる。1109～1111はヘラ状の工具等で「ハ」字状に沈線文を連続して施した土器で、曽利Ⅴ式土器か。1109は口縁部のみの破片資料である。内湾する口縁部で、口唇部は平坦に仕上げている。口唇部から２㎝程度の位置に横位の沈線文を施した後に縄文を施している。その沈線文の下位にはハの字状に沈線文が施されている。1110は胴部のみの破片資料である。縦位の平行沈線文による区画内にハの字状に沈線文が施されている。1111は縦位の隆帯文の両脇にハの字状の沈線文が施されている。

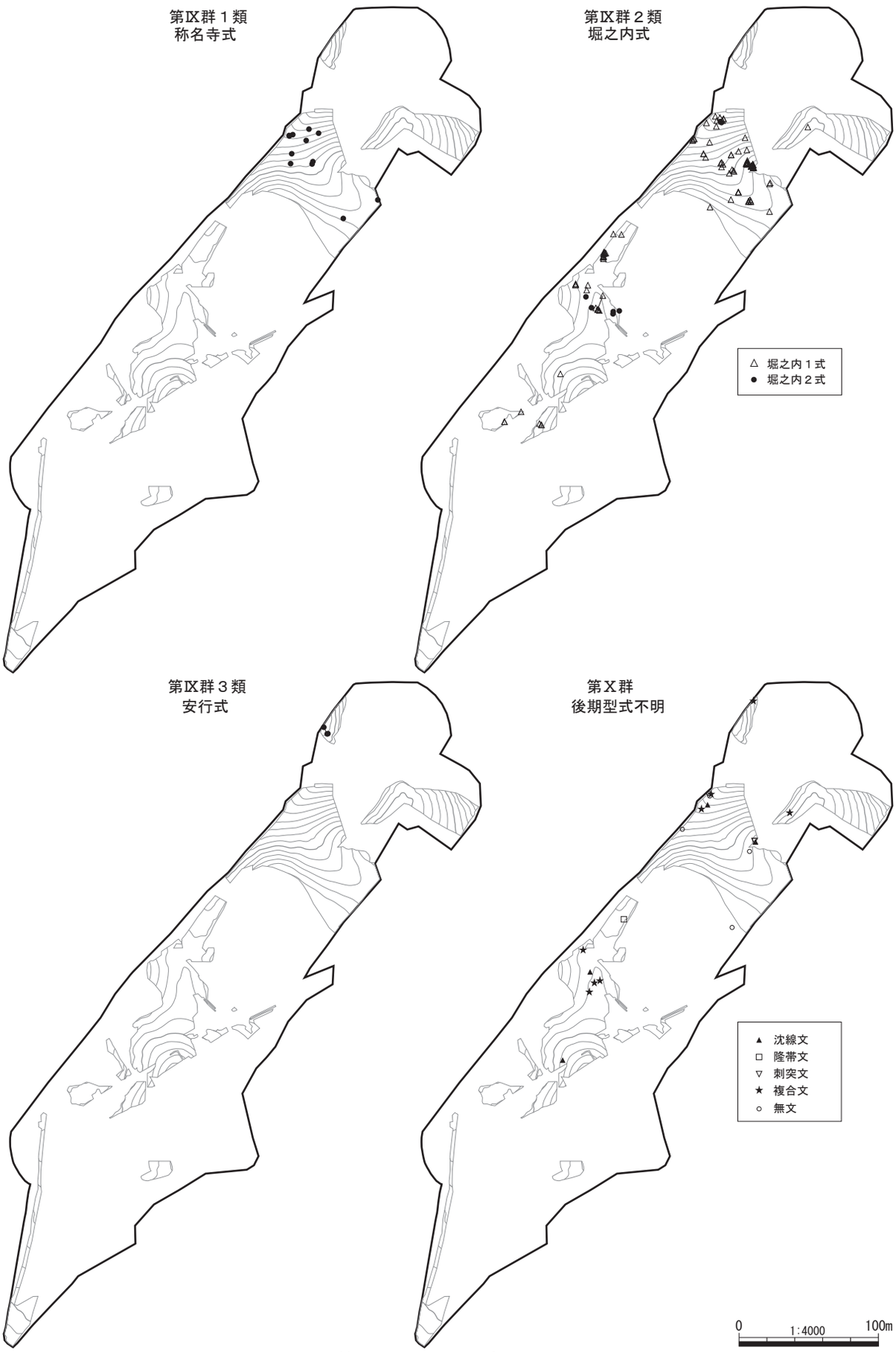
４類（第126図　写真図版117）

加曽利Ｅ式土器及び時期的に並行していたと考えられる土器群を４類とした。曽利式土器に後続するものと考えられている。西支谷、東支谷、北尾根等に分布域が見られる（第127図）。

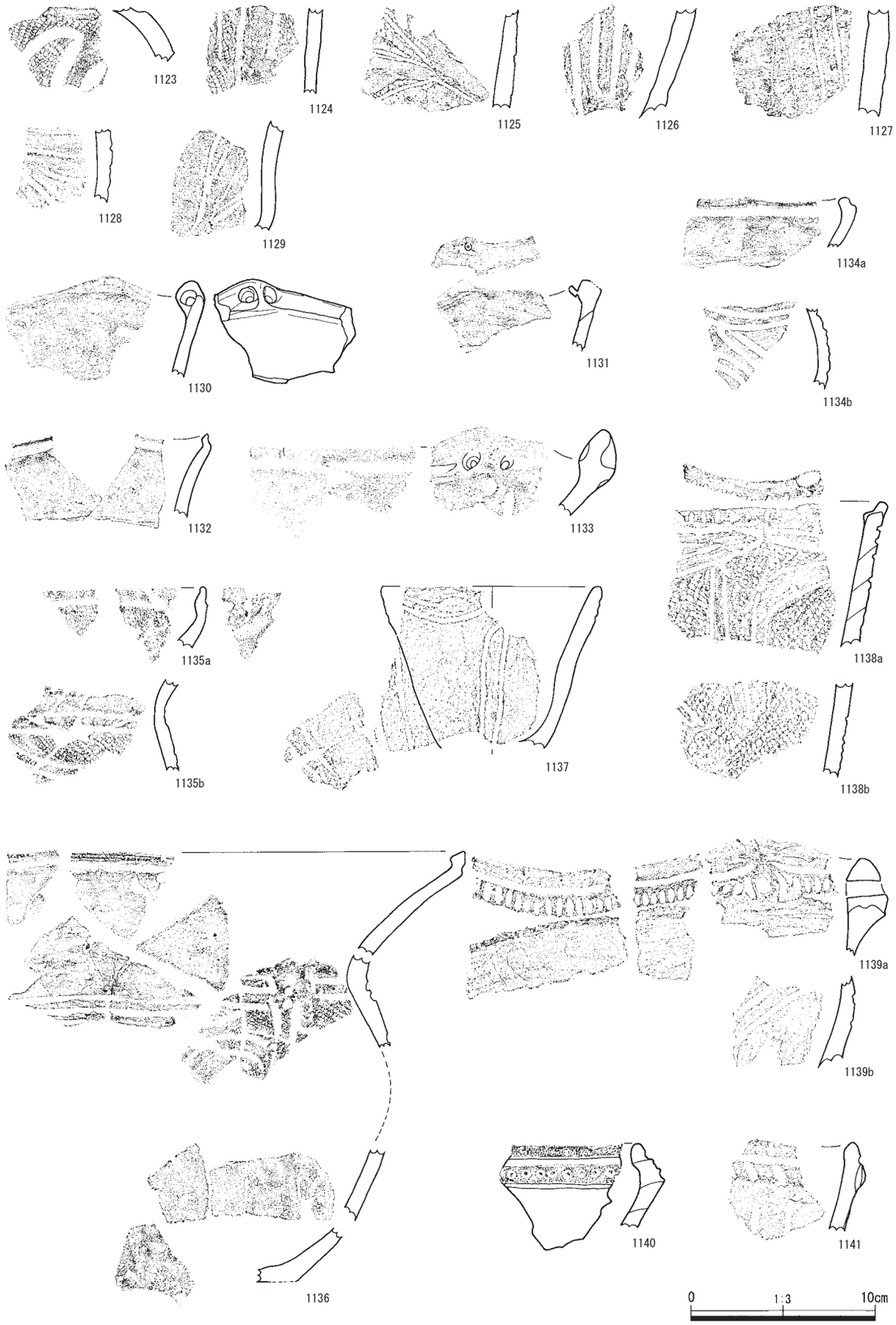
1112～1117は４類に分類した土器である。1112は胴部付近の破片資料か。渦巻文や磨消縄文等が見られる。加曽利ＥⅢ式土器か。1113は胴部中位から口縁部にかけて残存した資料である。波状口縁で波頂部に盃状の突起を設けている。また突起の外面側に把手がつく。この突起の下位には磨消縄文や隆線で構成される逆Ｕ字状のモチーフが見られる。1114は波状口縁の波頂部付近の破片資料である。口唇部はやや尖り気味である。波頂部直下には隆線で渦巻き状のモチーフが見られる。1115も口縁部の破片資料である。尖らせた口唇部の直下には横位の沈線文が施される。その下位には縄文を縦位に施す。1116は胴部中位付近の破片資料か。内湾する胴部である。1117は胴部下端から底部まで残存した資料である。



第127図　土器分布図７



第128図　土器分布図８



第 129 図　縄文土器第Ⅸ群 1

胴部には棒状の工具により沈線文が施されている。内面見込は丁寧にヘラミガキか。以上1113～1117は加曽利ＥⅣ式土器か。

第Ⅷ群　中期代　型式不明（第126図　写真図版117）

1118～1122は中期代のものと考えられ、第Ⅶ群に分類できる可能性を持ちつつも、判然としないため、第Ⅷ群として一括して集成したものである。分布域は西支谷、東支谷、北尾根、東尾根に認められ、中央尾根には殆ど見当たらない。1118は壷のような形状を呈している。甕等の口縁部に付けられたものか。1119～1122は胴部のみの破片資料である。1119は棒状の工具で横位の沈線文を施し、その下位に斜位に沈線文が施されている。1120は半截竹管状の工具で沈線文を施す。1121は沈線文と撚糸文か。1122は一面に縄文が施されている。破片左端に沈線文が見える。

第Ⅸ群　後期

１類（第129図　写真図版118）

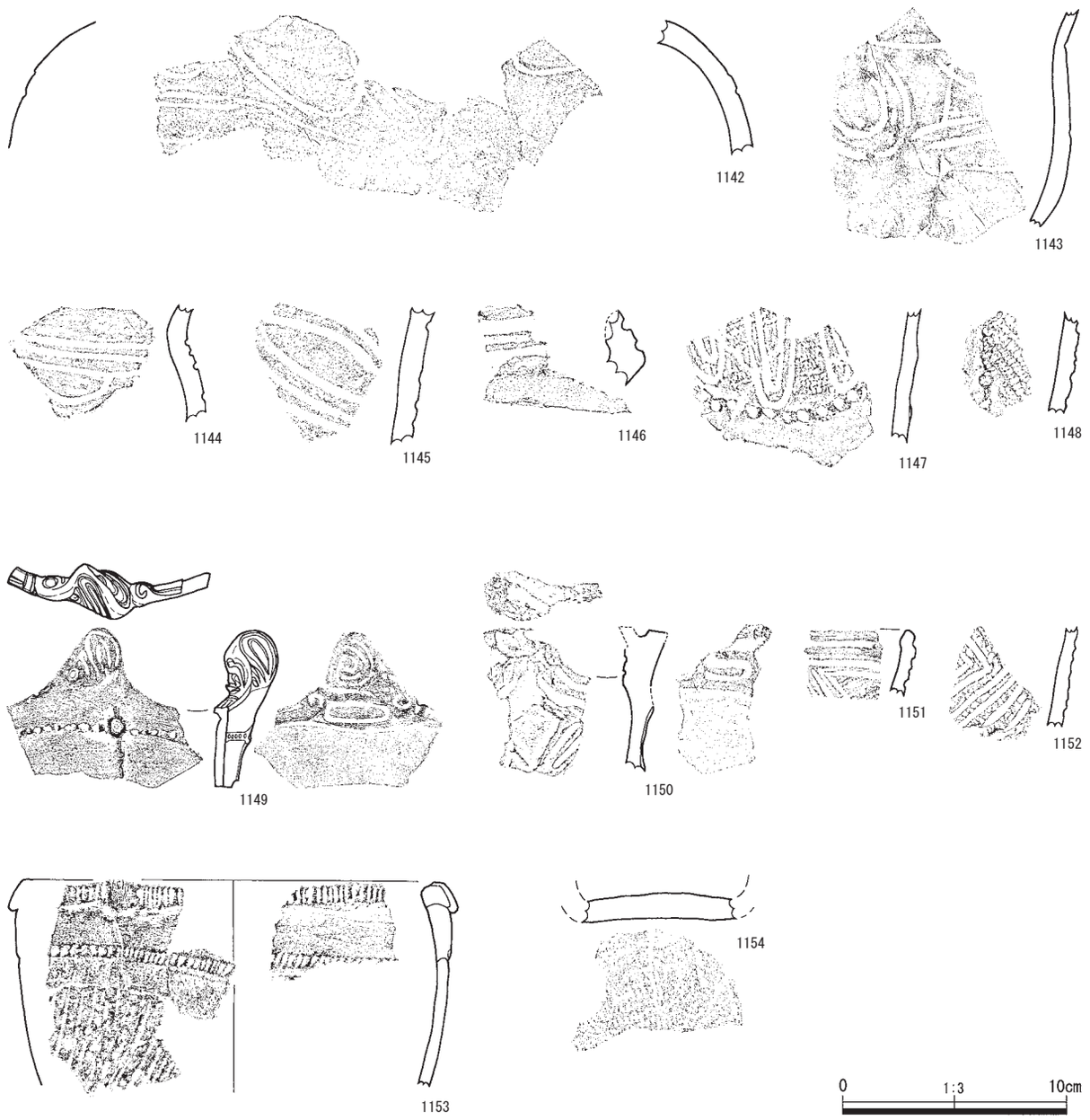
称名寺式土器もしくは時期的に並行すると考えられる土器群を一括した。縄文時代後期初頭に位置付けられる土器群で、加曽利Ｅ式土器に後続する。器種は深鉢が主体をなし、文様は沈線文と縄文等により構成されたＪ字状、M字状のモチーフが代表的とする。東支谷内にのみ分布する（第128図）。

1123～1129は１類土器に分類した土器群である。全て深鉢で、胴部のみの破片資料か。1123～1125には沈線文と縄文が見られる。1123は口縁部直下の破片資料か。1126～1129は沈線文のみ確認される資料である。胴部中位から下位にかけての破片資料か。

２類（第129・130図　写真図版118・119）

堀之内式土器もしくは時期的に並行すると考えられる土器群を一括して２類土器とした。当該土器群は堀之内１式、２式土器に細分される。後期前半に位置付けられる土器群で、称名寺式土器に後続する。口唇部に沈線文を持ち、胴部は直線的に立ち上がるタイプや、強い括れを持つタイプの深鉢等が見られる。この２類土器は西尾根、西支谷から東支谷に分布域が認められる（第128図）。

1130～1152は２類に分類した土器で、そのうち1130～1141は口縁部が残存した資料である。1130～1133は口縁部のみの破片資料である。1130・1131は波状口縁の波頂部付近であろう。両者とも外面に縄文等の施文は施されず、磨かれている。内面も横位に磨いた痕跡が見られる。1130は口縁部を折り返して肥厚させている。1131は内側へ折り返している。また波頂部について1130は、内面側に突起を設け、竹管状の工具も用いて凹みを２ヶ所設えている。また1131は細い棒状の工具で刺突している。1132は内外面ともに丁寧に磨かれている。口唇部付近をＬ字状に折り曲げている。1133は前者に比べて器厚がやや厚手である。口唇部付近をＬ字状に折り曲げている。この資料は波状口縁で、波頂部は1130のように２つの円形の凹みが内外面ともに見られる。また口唇部に沿って浅い沈線文が施されている。外面の波頂部直下には浅い円形刺突文と縦位の沈線文が施されている。1134ａ・ｂは同一個体と考えられる資料で、前者が口縁部、後者は胴部上半部の破片資料と考えられる。口唇部付近はＬ字状に屈曲し、外面口唇部直下に横位の沈線文を施している。胴部には横位・斜位の沈線文が施されている。1135ａ・ｂも同一個体と考えられる資料で、口縁部と胴部上半部の破片資料である。口唇部は丸く仕上げ、かつ屈曲させる。頚部より下位には沈線文と縄文が施されている。1136は底部から口縁部までの破片資料である。平坦な底部から内湾気味に立ち上がり、頚部から外反し口縁部が開いていたものと考えられる。口唇部付近は屈曲させている。口縁部付近には施文が認められない。頚部には２本の平行する沈線文を施し、その下位に縄文や懸垂文が見られる。1137は小型の土器である。口径11.4㎝程度で口縁部から底部まで



第 130 図　縄文土器第Ⅸ群２・第Ⅹ群

残存した資料である。口縁部は丸く仕上げている。口唇部直下に弧状に沈線文が施され、その下位にも沈線文が施されている。当該土器の外面には被熱した痕跡が認められるが、調理具としては小さすぎる印象を受ける。1138ａ・ｂは同一個体と考えられ、胴部中位から口縁部にかけての資料であろう。直線的に胴部が立ち上がり、口唇部付近は内外面ともに丁寧に磨かれ、口唇部外縁には刻目文が施されている。また突起が設えられ、その内面側に指頭による浅い凹みが施されている。口縁部から胴部にかけて縄文がまず施された後に、沈線文が施されている。1139ａ・ｂも同一個体と考えられる資料である。波状を呈する口縁部は外反させているが、その口縁部は器厚を肥厚させ、外方へやや引き延ばしている。引き延ばすことで形成された平坦面に刻目文が施されている。また平坦面内側端部には沈線文を巡らしている。波頂部は山形に作り、件の沈線文と刻目文を添えている。中央部に孔が認められるが、焼成前の穿孔で注口状である。胴部には沈線文と縦位のナデが観察される。1140・1141は口縁部のみの破片資料である。1140は口唇部を丸く仕上げられ、屈曲部には２本の沈線文の間隙に竹管状の工具による円形刺突文が施されている。1141も口唇部を丸く仕上げている。口唇部直下に沈線文を施し、その下位に刻目文が施されている。その下位に縦位の沈線文が見られる。1142～1145は胴部のみの破片資料である。いずれも胴部上半部付近に施された沈線文の資料である。1143は渦巻状のモチーフか。1146は口唇部が欠損した口縁部の破片資料か。沈線文が施される。1147・1148は刻目文が施された細隆起線が見られる資料である。前者は縄文と平行沈線文による何らかのモチーフが施されている。以上1130～1148は堀之内１式か。

1149～1151は口縁部のみの破片資料である。1149は波状口縁の波頂部と突起部であろう。口唇部は内面へ引き伸ばして平坦に仕上げ､沈線文を施している。波頂部には渦巻状のモチーフが付けられている。さらに内面側には細かい渦巻文と方形の区画文が見られる。外面の波頂部下位には環状の浮文と接続する縦位・横位の微隆起線文が施される。横位の微隆起線文には刺突文が施される。この1149は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92054）した。その結果1149は3,530±30yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。1150は口縁部に貼り付けられた突起部である。突起部の直下には微隆起線文で菱形状のモチーフが施されている。内面にはＳ字状の沈線文。1151は丸く仕上げた口唇部を持つ。折り返しを行い、口唇部付近を肥厚させている。外面には沈線文で三角文を描いており、区画内に縄文が施されている。1152は胴部のみの破片資料で、沈線文で菱形を重ねている。以上1149～1152は堀之内２式土器か。

３類（第130図　写真図版119）

1153は縄文時代後期代の安行式土器の可能性がある｡胴部上位から口縁部にかけての破片資料である。内湾気味の胴部で、最大径は胴部上位に位置する。口縁部は折り返して肥厚させている。１ヶ所瘤状の突起を付けている。肥厚した口唇部外側にはヘラ状の工具で密に切目を入れている。口唇部から３㎝程度の間隔を開けて、刺突文を横位に連続して施している。刺突文の下位には条線文か。この1153は炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施（IAAA-92048）した。その結果1153は3,120±30yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

第Ｘ群　後期代　型式不明（第130図　写真図版119）

1154は後期代のものと考えられるが、型式等が判然としないものとして第Ｘ群とした。底部のみの破片資料で、外面には木の葉痕と縄文もしくはモジリ網状の圧痕が見られる。

第12表　縄文時代包含層出土土器観察表

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
318	ab	64	I	1	AA–24	口唇部に縄文。外面内面にRLの縄文。	7.5YR5/4	有	白色粒子
319		64	I	1	AB–23	外面内面に横位のRLの縄文。穿孔有。	7.5YR5/6	多	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片多
320		64	I	1	–	外面内面にLRの縄文。軽しょうな胎土。	7.5YR4/2	有	白色岩片
321		64	I	1	U–18	外面に縦位のLRの縄文。内面に横位にLRの縄文。軽しょうな胎土。	5YR5/1	有	白色粒子、白色岩片多
322		64	I	1	W–21	Lの無節縄文。軽しょうな胎土。	7.5YR5/4	有	白色粒子、赤色粒子、白色岩片
323		64	I	1	V–19	縦位のLRの縄文。軽しょうな胎土。	7.5YR7/3	有	白色粒子
324		64	I	1	X–21	縦位に密接の山形文。軽しょうな胎土。	5YR5/2	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
325		64	I	1	V–19	縦位に密接の山形文。軽しょうな胎土。	5YR5/2	有	白色岩片
326		64	I	1	Z–22	縦位に密接の山形文。	7.5YR5/4	有	黒色粒子多、白色岩片
327		64	I	1	–	縦位に密接の山形文。	7.5YR5/4	有	黒色粒子、白色岩片多
328	ab	64	I	1	W–19	縦位に密接の山形文。	10YR7/6	有	白色粒子、白色岩片
329		64	I	1	V–19	縦位に密接の山形文。	10YR6/4	有	白色岩片
330		64	I	1	Z–21	縦位に密接の山形文。	10YR6/4	有	白色粒子、白色岩片
331		64	I	1	Y–21	縦位に密接の山形文。	7.5YR6/6	有	黒色粒子、白色岩片
332		64	I	1	AD–16	縦位に密接の山形文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
333	ab	64	I	1	W–19	外面内面に縦位に密接の山形文。穿孔有。	7.5YR6/6	有	白色粒子、白色岩片
334		64	I	1	V–19	縦位に密接の山形文。	10YR7/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
335		65	I	1	Z–22	縦位に密接の山形文。	10YR5/4	有	白色岩片
336		65	I	1	–	横位に密接の山形文。軽しょうな胎土。	5YR6/2	有	白色粒子、白色岩片多
337			I	1	W–20	横位に密接の山形文。軽しょうな胎土。	7.5YR6/4	有	白色岩片
338		65	I	1	–	格子目文。軽しょうな胎土。	7.5YR4/2	有	白色岩片多
339		65	I	1	Y–22	格子目文。軽しょうな胎土。	7.5YR5/3	有	白色岩片
340		65	I	1	AE–23	格子目文。	7.5YR5/6	有	黒色粒子、白色岩片
341		65	I	1	Y–21	格子目文。軽しょうな胎土。	7.5YR4/2	有	白色岩片多
342		65	I	1	Z–23	格子目文。	7.5YR5/6	有	黒色粒子、白色岩片
343			I	1	Y–21	格子目文。軽しょうな胎土。	7.5YR5/3	有	白色岩片多
344		65	I	1	Z–22	格子目文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
345		65	I	1	–	縦位・斜位にポジティブな楕円文。	10YR6/4	有	白色岩片
346			I	1	X–19	斜位にポジティブな楕円文。軽しょうな胎土。	10YR7/4	有	岩片多
347		65	I	1	AA–24	縦位にポジティブな楕円文。	10YR6/4	多	黒色粒子、白色岩片多
348		65	I	1	Z–23	外面に縦位のポジティブな楕円文。ナデ。内面に指頭圧痕。	2.5YR5/6	有	黒色粒子、白色岩片
349		65	I	1	Y–22	外面に縦位のポジティブな楕円文。内面に指頭圧痕。	5YR5/6	有	黒色粒子、白色岩片
350		65	I	1	–	縦位にポジティブな楕円文。穿孔有り。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
351		65	I	1	AC–23	縦位にポジティブな楕円文と押型文原体を押引く。	7.5YR5/6	有	黒色粒子、白色岩片多
352		65	I	1	AA–23	縦位のポジティブな楕円文。	10YR7/6	有	白色岩片多
353		65	I	1	–	外面にネガティブな格子目文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片多
354		65	I	1	–	外面にネガティブな格子目文。内面にナデ。	5YR4/6	有	黒色粒子、白色岩片
355		65	I	1	Y–21	横位にRの撚糸文。軽しょうな胎土に似る。	10YR7/6	有	岩片多
356		65	I	1	Y–22	斜位にRの撚糸文。軽しょうな胎土に似る。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
357		65	I	2	AF–19	横位の山形文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
358		65	I	2	Z–15	横位の山形文。	10YR5/3	有	白色粒子、白色岩片
359		65	I	2	–	外面に横位の山形文。内面に擦痕。	7.5YR5/6	有	黒色粒子、雲母、白色岩片
360		65	I	2	N–5	尖底。横位の山形文。	7.5YR5/2	有	白色粒子、白色岩片
361		65	I	2	AJ–21	外面に横位の山形文。菱形の文様。内面に擦痕。	7.5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片
362		65	I	2	X–21	外面に横位・縦位の山形文。内面の口縁に横位に山形文。	10YR6/6	有	白色粒子、白色岩片
363	abc	65	I	2	C–1	横位の山形文とポジティブな楕円文。	5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片多
364		65	I	2	AA–22	斜位にネガティブな格子目文。縦位に山形文。	5YR5/6	有	黒色粒子、白色岩片
365		65	I	2	AI–21	外面にネガティブな格子目文。内面に擦痕。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、雲母多
366	ab	66	I	2	J–1	外面に縦位のポジティブな楕円文。内面に擦痕。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
367		66	I	2	AI–28	横位のポジティブな楕円文。	10YR6/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
368		66	I	2	H–10	横位のポジティブな楕円文。	10YR5/3	有	白色粒子、雲母多
369		66	I	2	–	横位のポジティブな楕円文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、雲母、白色岩片多
370		66	I	2	X–21	横位のポジティブな楕円文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
371		66	I	2	J–2	横位のポジティブな楕円文。穿孔あり。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
372		66	I	3	W–20	縦位の山形文。	7.5YR6/6	有	白色粒子多、白色岩片多
373	ab	66	I	3	I–2	外面に縦位・横位の山形文。内面に擦痕。	10YR5/3	有	白色粒子多、白色岩片
374		66	I	3	C–1	外面に斜位のポジティブな楕円文。内面に擦痕。	5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
375		66	I	3	AH–26	横位にポジティブな楕円文。	10YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
376		66	I	3	AJ–29	外面に横位のポジティブな楕円文。内面に擦痕。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
377		66	I	3	AI–26	横位のポジティブな楕円文。	7.5YR6/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
378		66	I	3	AH–20	斜位のポジティブな楕円文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
379		66	I	3	–	横位のポジティブな楕円文。	7.5YR6/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
380		66	I	3	AH–27	斜位のポジティブな楕円文。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
381		66	I	3	AH–26	斜位のポジティブな楕円文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
382		66	I	3	AH–26	斜位のポジティブな楕円文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
383		66	I	3	AI–26	尖底。斜位のポジティブな楕円文。	5YR6/8	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
384		67	I	3	AH–27他	波状口縁。口唇部に竹管状の工具による刻み。格子目状にRの撚糸文。内面にナデ。	5YR5/6	多	白色粒子多、白色岩片多
385		67	I	3	C–1	外面に縦位・横位のLの撚糸文。内面に擦痕。	7.5YR6/8	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
386		67	I	3	–	外面に縦位・横位のRの撚糸文。内面擦痕。	10YR6/3	多	白色粒子多、白色岩片
387		67	I	3	AI–22	外面に横位のLの撚糸文。内面にナデ。	5YR5/6	多	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
388		67	I	3	AI–20	外面に横位のRの撚糸文。外面内面に擦痕。	10YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
389			I	3	D–1	斜位にRの撚糸文。	5YR4/3		黒色粒子、白色岩片多
390		67	I	3	AI–28	外面に横位のRの撚糸文。内面に擦痕。	10YR6/4	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
391		67	I	3	AI–26	横位にRの撚糸文。	7.5YR7/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
392		67	I	3	AI–20	横位にRの撚糸文。	5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
393		67	I	3	AI–27	外面に縦位のlの撚糸文。内面にナデ。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
394		67	I	3	AI–28	外面に縦位のlの撚糸文。内面にナデ。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
395	ab	68	I	3	J-1	口唇部に貝殻腹縁による刻み。外に横位の山形文。沈線文。内面に横位の山形文。	10YR5/3	有	白色粒子多、白色岩片
396	ab	68	I	3	N-6	口縁部から胴部。先端角状を呈する棒状工具による矢羽状の刺突文。	2.5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母、輝石
397	ab	68	I	4	W-18	波状口縁。口唇部に刻み。口縁部は横位にナデ、刺突列。胴部は横位の刺突列と半截竹管状の工具による沈線文。	5YR4/4	有	白色粒子、白色岩片
398		68	I	4	AD-21	口唇部に刻み。外面内面に擦痕。貝殻腹縁文。	7.5YR5/4	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
399		68	I	4	X-12	外面に刺突文。沈線文。外面内面に擦痕。	7.5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
400		68	I	4	AI-29	貝殻腹縁文。沈線文。	7.5YR5/8	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
401		68	I	4	－	貝殻復縁文。沈線文。	5YR3/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
402		68	I	4	M-7	低い隆帯上に矢羽状の沈線文。横位の沈線文。刺突文。	7.5YR5/6	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
403		68	I	4	AB-21	尖底。横位の沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、輝石
404		68	I	4	AB-22他	棒状工具による横位の沈線文。	2.5YR5/8	有	白色粒子、黒色粒子、赤色粒子、石英
405		68	I	4	W-21他	条痕文。	7,5YR6/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
406		69	I	5	AI-20他	浅鉢。口唇部に貝殻腹縁による刺突文。外面に刺突文。押引き沈線文。内面に沈線文。刺突文を施文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
407		69	I	5	－	外面に波状の沈線文。内面に擦痕。	5YR4/8	有	白色粒子、輝石、石英
408		69	I	5	AA-23	刺突文。矢羽状の沈線文。	7.5YR6/4	有	白色粒子、白色岩片
409		69	I	5	AI-29	沈線文。押引き沈線文。	5YR4/4	多	黒色粒子、白色岩片
410		69	I	5	－	微隆起線文を横位に貼付け。半截竹管状の工具により波状の沈線文。平行沈線文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
411		69	I	5	X-22	口唇部に刺突文。	5YR6/8	有	白色粒子、黒色粒子、赤色粒子、白色岩片
412		69	I	5	－	口唇部に刺突文。穿孔有。	2.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、赤色粒子
413		69	I	5	－	口唇部に刺突文。先割状工具による多条沈線文。	2.5YR3/6	有	白色粒子、赤色粒子
414		69	I	5	AF-21	口唇部に刺突文。先割状工具による多条沈線文。	5YR4/8	有	白色粒子、黒色粒子、赤色粒子、白色岩片
415		70	I	6	AC-17	先割状工具による刺突文列。綾杉状の沈線文。内面に擦痕。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、赤色粒子、石英
416		70	I	6	AH-27	刺突文列。半截竹管状の工具による縦位・斜位の沈線文。穿孔有。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、雲母、
417		70	I	6	AD-21	刺突文列。半截竹管状の工具による縦位・斜位の沈線文。穿孔有。内面に条痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子
418		70	I	6	W-19	刺突文列。先割状工具による縦位・斜位の沈線文。穿孔有。内面に条痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子
419		70	I	6	Y-22	矢羽状の刺突文列。格子状の沈線文。	10YR5/3	有	白色粒子、黒色粒子、雲母多、
420		70	I	6	AD-20	先割状工具による沈線文。刺突文。内面に条痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多
421	ab	70	I	6	H-2	刺突文列。半截竹管状の工具による縦位・斜位の沈線文。内面に条痕文。	10YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子
422		70	I	6	AH-26	刺突文列。先割状工具で斜位の沈線文。内面に条痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子
423		70	I	6	AI-27	波状口縁。口唇部に刻み。先割状工具による縦位の沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
424		70	I	6	AD-21	口唇部に刻み。先割状工具による縦位・斜位の沈線文。縦位に対の刺突文。内面に条痕文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多
425		70	I	6	AA-22	外面に先割状工具による横位・斜位の沈線文。内面に刺突文列。	7.5YR5/4	有	白色粒子多
426	ab	70	I	6	AH-25	外反する外面に刺突文。半截竹管状の工具による横位・斜位の沈線文。内面に条痕文。	7.5YR6/4	有	白色粒子多
427		70	I	6	AF-21	外面に刺突文列。先割状工具による縦位・斜位の沈線文。内面に条痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子
428		70	I	6	H-2	外面に刺突文。半截竹管状の工具による沈線文。内面に条痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子
429		70	I	6	J-2	半截竹管状の工具により格子状に平行沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多
430		70	I	6	X-22	半截竹管状の工具により斜位の沈線文。横位に刺突文。	7.5YR5/4	有	白色粒子
431		70	I	6	AD-21	半截竹管状の工具による縦位の沈線文。横位に刺突文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多
432		70	I	6	Z-22	縦位に対になる刺突文。斜位の先割状工具による沈線文。	7.5YR4/2	有	白色粒子、黒色粒子
433		70	I	6	AF-21	縦位に先割状工具による2列の刺突文。	7.5YR3/4	有	白色粒子
434		71	I	6	AH-26	口唇部に刻み。外面に半截竹管状の工具による沈線文。２列の刺突文。内面に条痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多
435		71	I	6	AH-25	口唇部に刺突文。外面に半截竹管状の工具による沈線文。内面に条痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多
436		71	I	6	Y-22	口唇部に刺突文。半截竹管状の工具による沈線文。	7.5YR4/4	無	白色粒子
437	ab	71	I	6	AH-26	外面に刺突文列。半截竹管状の工具により縦位に波状文。内面に条痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多
438		71	I	6	AG-22	外面に先割状工具による横位の沈線文。刺突文。内面に条痕文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
439		71	I	6	M-5	口唇部に刻み。棒状工具による沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
440		71	I	6	X-21	口唇部に刻み。半截竹管状の工具により縦位の沈線文。	7.5YR4/6	有	黒色粒子、雲母、白色岩片
441		71	I	6	W-21	口唇部に刻み。先割状工具による斜位の沈線文。穿孔有。	7.5YR3/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
442		71	I	6	X-22	口唇部に刻み。先割状工具による斜位の沈線文。	10YR6/4	有	白色粒子、白色岩片
443		71	I	6	－	口唇部に刻み。先割状工具による斜位の沈線文。	7.5YR6/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
444		71	I	6	－	口唇部に刻み。外面に斜位・横位の沈線文。内面に条痕文。	7.5YR3/1	有	白色粒子、白色岩片
445		71	I	6	AE-17	先割状工具による縦位の沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、白色岩片多
446		71	I	6	AD-15	先割状工具による斜位の沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、白色岩片多
447		71	I	6	AG-20	外面に格子状の沈線文が認められる。内面に条痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、雲母、白色岩片
448		71	I	6	AA-23	波状口縁。外面に先割状工具による斜位の沈線文。内面に条痕文。	10YR3/2	有	白色粒子、雲母多
449		71	I	6	R-18	斜位の沈線文。	7.5YR5/4	多	白色粒子、白色岩片
450		72	I	6	Y-22	外面に先割状工具による斜位の沈線文。内面に条痕文。	7.5YR5/4	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
451		72	I	6	AG-22	半截竹管状の工具による格子状の沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片
452		72	I	6	Z-22	半截竹管状の工具による格子状の沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、白色岩片多
453		72	I	6	V-12	外面に半截竹管状の工具による格子状の沈線文。内面に擦痕。	7.5YR4/4	有	白色粒子多
454		72	I	6	W-21	半截竹管状の工具による沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子
455		72	I	6	AC-22	外面に格子状の沈線文。内面に条痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
456		72	I	6	AD-15	半截竹管状の工具による沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子
457		72	I	6	AC-21	半截竹管状の工具による格子状の沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子
458		72	I	6	Y-21	口唇部に刻み。外面に格子状の沈線文。内面に擦痕。	7.5YR4/3	有	白色粒子多、白色岩片
459		72	I	6	AD-22	外面に条痕文。格子状の沈線文。内面に条痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、白色岩片
460		72	I	6	AI-29	外面に口唇部から綾杉状の沈線文。内面に擦痕。	7.5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
461		72	I	6	AD-24	外面に刺突文。内面に条痕文。	10YR4/4	有	白色粒子多、白色岩片多
462		72	I	6	AH-25	２列の刺突文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、雲母、白色岩片
463		72	I	6	AD-24	刺突文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、白色岩片
464		73	II	1	AB-16	口唇部、折返し口縁に梯子状の絡条体圧痕文。	7.5YR4/1	有	白色粒子多、白色岩片多
465		73	II	1	－	口唇部、折返し口縁に軸を有する絡条体圧痕文。	7.5YR4/2	有	白色岩片
466		73	II	1	W-20他	波状口縁。口唇部に絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子・黒色粒子
467		73	II	1	－	口唇部、２本の隆帯上に絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片
468		73	II	1	AB-22	波状口縁。口唇部、折返し口縁に貝殻腹縁文。	7.5YR5/6	有	白色岩片
469		73	II	1	AD-15	絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片多
470		73	II	1	AD-17	折返し口縁に斜位の平行沈線文。	7.5YR4/2	有	白色粒子、白色岩片
471		73	II	1	－	波状口縁。折返し口縁に斜位の沈線文。内面は横位の擦痕。	7.5YR3/1	有	白色岩片
472		73	II	1	－	折返し口縁に貝殻腹縁文。内面は斜位の条痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片
473		73	II	1	AF-20	口唇部、隆帯上に軸無の絡条体圧痕文。。	7.5YR5/2	無	白色岩片
474		73	II	1	－	口唇部、隆帯上に軸有の絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片
475		73	II	1	AB-21	口唇部、外面の隆帯上に軸無の絡条体圧痕文。内面に条痕文。	7.5YR5/3	有	白色粒子、白色岩片多
476		73	II	1	AA-16	波状口縁。口唇部、隆帯上に絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片多
477		73	II	1	AH-20	外面に条痕文。微隆帯上に軸無の絡条体圧痕文。内面に擦痕。	7.5YR4/1	有	白色粒子多、白色岩片多
478		73	II	1	－	隆帯上に絡条体圧痕文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、白色岩片多
479		73	II	1	AB-16	縦位・横位の隆帯上に絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片多
480		73	II	1	W-20	隆帯上に軸無の絡条体圧痕文。	5YR5/6	多	白色粒子、白色岩片多
481		73	II	1	AA-23	波状口縁。隆帯上に絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片
482		73	II	1	AC-22	外面の隆帯上に絡条体圧痕文。内面に条痕文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、白色岩片多
483		74	II	1	AE-22	外面に擦痕。隆帯上に軸無の絡条体圧痕文。内面に擦痕。	7.5YR4/2	有	白色粒子多、白色岩片多
484		74	II	1	X-22	波状口縁か。隆帯上に軸無の絡条体圧痕文。外面・内面に条痕文。	7.5YR4/2	有	白色粒子多、白色岩片多
485		74	II	1	AB-21	隆帯上に軸無の絡条体圧痕文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、白色岩片多
486		74	II	1	AC-15	細い隆帯上に軸無の絡条体圧痕文。	7.5YR4/2	有	白色粒子多、白色岩片多
487		74	II	1	X-21	外面の細い隆帯上に絡条体圧痕文。内面は擦痕。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
488		74	II	1	AB-21	外面の隆帯上に軸無の絡条体圧痕文。内面に擦痕。	7.5YR3/1	有	白色粒子、白色岩片
489		74	II	1	AC-21	隆帯上に絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	有	白色岩片多
490		74	II	1	X-22	隆帯上に絡条体圧痕文。沈線文。	7.5YR5/4	有	白色岩片
491		74	II	1	－	波状口縁。口唇部から垂下する隆帯上に絡条体圧痕文。	5YR3/1	有	白色岩片
492		74	II	1	－	口唇部に刻み。隆帯上に斜位の沈線文。	7.5YR4/3	多	白色粒子、白色岩片多
493		74	II	1	X-21	外面の隆帯上に斜位の沈線文。外面内面に条痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、白色岩片多
494		74	II	1	－	外面に軸無の絡条体圧痕文。外面内面に条痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
495		74	II	1	－	軸無の絡条体圧痕文。	10YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
496		74	II	1	W-19	波状口縁。口唇部、低隆帯に絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片多
497		74	II	1	AB-16	波状口縁。口唇部、外面に鋸歯状・横位の絡条体圧痕文。外面内面に擦痕。	5YR4/6	有	白色粒子、白色岩片
498		74	II	1	AA-16	口唇部、隆帯上に絡条体圧痕文。	7.5YR5/6	有	白色岩片多
499		74	II	1	AA-16	口唇部、隆帯上に絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片
500		74	II	1	－	口唇部、隆帯上に絡条体圧痕文。半截竹管状の工具で刺突文。	10YR5/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
501		74	II	1	－	口唇部から垂下する隆帯上と外面に絡条体圧痕文。	7.5YR4/2	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
502		74	II	1	－	横位の隆帯上と外面に絡条体圧痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
503		74	II	1	X-014	隆帯上に絡条体圧痕文。外面に刺突文。沈線文。内面に擦痕。	7.5YR6/8	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
504		75	II	1	V-19	波状口縁。口唇部に刺突文。外面に横位に刺突文列。	5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
505		75	II	1	AA-16	口唇部に刺突文。外面に横位に２列の刺突文列。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
506		75	II	1	－	口唇部に刺突文。外面に横位に２列の刺突文列。内面に沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、白色岩片多
507		75	II	1	J-2	口唇部に刻み。外面に刺突文列。貝殻腹縁文。	7.5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片多
508		75	II	1	AE-20	波状口縁。半截竹管状工具による刺突文列。	7.5YR5/3	有	白色粒子、白色岩片多
509		75	II	1	AB-21他	半截竹管状工具による刺突文列。穿孔有。	7.5YR3/1	有	白色粒子多、輝石、白色岩片多
510		75	II	1	AB-23	２列の刺突文。	10YR6/3	有	白色粒子、白色岩片
511		75	II	1	W-21	波状口縁。３列の刺突文列。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、白色岩片多
512		75	II	1	AF-20	外反する外面に刺突文列。内面は条痕文。	7.5YR4/2	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
513		75	II	1	AC-21	波状口縁。２列の刺突文列。	5YR4/3	有	白色粒子、白色岩片
514		75	II	1	X-20	細い竹管状工具による刺突文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、白色岩片多
515		76	II	2	－	梯子状の絡条体圧痕文。	5YR4/6	多	白色粒子、白色岩片多
516		76	II	2	Z-22	梯子状の絡条体圧痕文。	5YR4/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
517		76	II	2	Y-22	細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
518		76	II	2	W-19	波状口縁。細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR4/4	多	白色粒子、白色岩片多
519		76	II	2	V-19	口唇部、外面に細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子
520		76	II	2	Y-21	波状口縁。口唇部に条痕文。細軸の絡条体圧痕文。穿孔有。	7.5YR4/4	多	白色粒子、黒色粒子
521		76	II	2	X-20他	波状口縁。口唇部、外面に横位に細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
522		76	II	2	X-19他	波状口縁。斜位に細軸の絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子多、白色岩片
523		76	II	2	AA-22	波状縁。斜位に細軸の絡条体圧痕文。	4YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
524			II	2	X-22	口唇部、外面に斜位に細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/3	多	白色粒子多、白色岩片
525		76	II	2	W-20	口唇部、外面に異方向に交差する細軸の絡条体圧痕文。	5YR4/6	有	白色粒子、白色岩片
526		76	II	2	－	外面に異方向に交差する細軸の絡条体圧痕文。内面に条痕文。	7.5YR4/6	有	白色粒子、白色岩片
527		76	II	2	X-22	異方向に交差する細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR6/4	有	白色岩片
528			II	2	T-18	異方向に交差する細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片
529		76	II	2	X-22	横位に細軸の絡条体圧痕文。	5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片
530			II	2	AC-16	横位に細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
531		76	II	2	AB-15	横位に細軸の絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
532		76	II	2	－	横位に細軸の絡条体圧痕文。	5YR4/6	多	白色粒子多、白色岩片多
533		77	II	2	－	口唇部、外面に横位に太軸の絡条体圧痕文。穿孔有。	7.5YR4/4	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
534			II	2	AD-21	口唇部、外面に横位に太軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/6	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
535		77	II	2	AA-24	横位に太軸の絡条体圧痕文。	10YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
536		77	II	2	AB-21	横位に太軸の絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
537		77	II	2	W-20	横位に太軸の絡条体圧痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
538		77	II	2	AE-19	横位に太軸の絡条体圧痕文。	5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
539		77	II	2	－	横位に太軸の絡条体圧痕文。	10YR4/4	多	白色粒子、黒色粒子
540		77	II	2	Z-15	横位に太軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
541		77	Ⅱ	2	Y-21	横位に太軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
542		77	Ⅱ	2	－	横位に太軸の絡条体圧痕文。	7.5YR3/3	多	白色粒子、白色岩片
543			Ⅱ	2	W-22	口唇部、外面に斜位に太軸の絡条体圧痕文。	5YR4/8	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
544			Ⅱ	2	－	斜位に太軸の絡条体圧痕文。	5YR4/4	多	白色粒子
545		77	Ⅱ	2	X-21	斜位に太軸の絡条体圧痕文。	5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
546		77	Ⅱ	2	－	口唇部。異方向に太軸の絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	多	白色粒子多、黒色粒子
547		77	Ⅱ	2	W-21	異方向に太軸の絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
548		77	Ⅱ	2	Z-21	横位に太軸の絡条体圧痕文。	5YR4/6	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
549		77	Ⅱ	2	X-22	斜位に太軸の絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
550		77	Ⅱ	2	AD-16	条痕文。横位・斜位に太軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
551		78	Ⅱ	2	AD-16	口唇部、横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
552		78	Ⅱ	2	V-20	口唇部、外面に横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
553		78	Ⅱ	2	AE-21	波状口縁。外面に横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
554		78	Ⅱ	2	AF-20	口唇部、外面に横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR6/6	有	白色岩片多
555		78	Ⅱ	2	W-12	横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
556		78	Ⅱ	2	AA-22	波状口縁。横位に軸の無い絡条体圧痕文。穿孔あり。	7.5YR4/4	多	白色粒子、黒色粒子
557		78	Ⅱ	2	AA-15	横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
558	ab	78	Ⅱ	2	X-21他	口縁部から胴部に横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
559	ab	78	Ⅱ	2	AD-22	口縁部から胴部に横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
560			Ⅱ	2	X-21	横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR6/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
561			Ⅱ	2	X-22	波状口縁。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR3/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
562		78	Ⅱ	2	AD-21	波状口縁。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR4/4	多	白色粒子、白色岩片多
563		79	Ⅱ	2	Y-21他	横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR6/4	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
564		79	Ⅱ	2	AB-16	横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR4/1	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
565		79	Ⅱ	2	X-19	横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR6/8	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
566		79	Ⅱ	2	W-20	横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
567		79	Ⅱ	2	W-20	横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/4	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
568			Ⅱ	2	Y-21	横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR5/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
569		79	Ⅱ	2	Y-22	横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
570		79	Ⅱ	2	W-20	口唇部に刻み。斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
571		79	Ⅱ	2	X-22	口唇部、外面に斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
572			Ⅱ	2	W-21	口唇部に工具による刻み。斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR6/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
573		79	Ⅱ	2	W-20	口唇部に刻み。斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
574		79	Ⅱ	2	AB-21	波状口縁。斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
575		79	Ⅱ	2	X-22	波状口縁。斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
576			Ⅱ	2	AF-19	外反する波状口縁。斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	10YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
577		80	Ⅱ	2	－	波状口縁。口唇部、外面に異なる２種類の絡条体圧痕文。	5YR4/6	有	白色粒子、、白色岩片
578		80	Ⅱ	2	AB-21	原体を半置半転させた絡条体圧痕文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
579		80	Ⅱ	2	AG-21	軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
580		80	Ⅱ	2	－	口縁部の内面に縦位の絡条体圧痕文。	7.5YR4/2	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
581		80	Ⅱ	2	W-20	異なる2種類の絡条体圧痕文。	7.5YR3/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
582		80	Ⅱ	2	－	異なる2種類の絡条体圧痕文。	7.5YR4/1	有	白色粒子多
583		80	Ⅱ	2	W-20	口唇部、外面に横位に細軸の絡条体圧痕文。微隆起線文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、白色岩片多
584		80	Ⅱ	2	W-19	微隆起線文。横位に細軸の絡条体圧痕文。	10YR/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
585		80	Ⅱ	2	－	口唇部に刻み。微隆起線文。横位に細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
586		80	Ⅱ	2	－	波状口縁。縦位・横位の微隆起線文。微隆起線文の区画内に横位の細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
587		80	Ⅱ	2	X-21	口縁部の内面より外面に縦位の隆帯。外面に細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片多
588		80	Ⅱ	2	V-19他	横位の微隆起線文。斜位に細軸の絡条体圧痕文。	2.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、輝石
589		80	Ⅱ	2	－	横位の微隆起線文。斜位に細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片多
590		81	Ⅱ	2	W-20	縦位の微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、白色岩片多
591		81	Ⅱ	2	－	横位に微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。屈曲部。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
592		81	Ⅱ	2	W-19	縦位・横位の微隆起線文。微隆起線文の区画内に斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
593		81	Ⅱ	2	－	横位の微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
594		81	Ⅱ	2	AB-22	横位の微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR4/4	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
595		81	Ⅱ	2	W-19他	波状口縁。口唇部に沿った微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片多
596		81	Ⅱ	2	X-22他	波状口縁。口唇部に沿った微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
597			Ⅱ	2	AD-16	口唇部に刻み。横位に微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	10YR4/3	有	白色粒子、白色岩片多
598		81	Ⅱ	2	W-21	横位に微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、白色岩片
599		81	Ⅱ	2	X-22	横位に微隆起線文。微隆起線文上に軸の無い絡条体圧痕文。	10YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
600		81	Ⅱ	2	－	横位に微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
601		81	Ⅱ	2	AB-21	横位に微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/6	有	黒色粒子、白色岩片多
602		81	Ⅱ	2	AD-16	横位に微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
603		82	Ⅱ	2	W-21	波状口縁。口唇部に沿った微隆起線文。横位・斜位に軸の無い絡条体圧痕文が交差する。	7.5YR7/6	有	白色粒子、白色岩片多
604		82	Ⅱ	2	V-19	横位に微隆起線文。斜位・横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
605		82	Ⅱ	2	－	波状口縁。口唇部に沿った微隆起線文。斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/2	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
606		82	Ⅱ	2	W-21	横位に微隆起線文。斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
607		82	Ⅱ	2	AB-15	微隆起線文上に斜位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
608		82	Ⅱ	2	V-20	口唇部より垂下する微隆起線文と横位の微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
609		82	Ⅱ	2	AD-15	口唇部に絡条体圧痕文。口唇部より垂下する微隆起線文と横位の微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
610		82	Ⅱ	2	AA-15	波状口縁か。波頂部から垂下する微隆起線文と横位の微隆起線文。斜位に絡条体圧痕文。	10YR3/2	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
611		82	Ⅱ	2	X-22	口唇部に沿った低隆帯。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
612		82	Ⅱ	2	AD-21	口唇部に沿った２本の微隆起線文。その上に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
613		82	Ⅱ	2	V-19	外面に横位に隆帯を貼付け隆帯上に指で沈線文を施した2条の微隆起線文。軸の無い絡条体圧痕文。内面に擦痕。	5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
614		82	Ⅱ	2	X-21	口唇部に刻み。横位の２条の微隆起線文。軸の無い絡条体圧痕文。	5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
615		82	Ⅱ	2	W-21	横位の微隆起線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	10YR4/6	有	黒色粒子多、白色岩片
616		82	Ⅱ	2	W-20	横位・斜位の３条の微隆起線文。軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
617	ab	82	Ⅱ	2	AA-16	縦位の微隆起線文と軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
618		82	Ⅱ	2	Y-22	口唇部に軸の無い絡条体圧痕文。横位の微隆起線文。半置半転された絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
619		82	Ⅱ	2	AC-21	方形の平底。角部に微隆起。その脇に絡条体圧痕文が観察される。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
620		83	Ⅱ	2	－	半截竹管状の工具による斜位の沈線文。細軸の絡条体圧痕文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
621		83	Ⅱ	2	W-20	横位に細軸の絡条体圧痕文。異方向の沈線文。	7.5YR4/3	多	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
622		83	Ⅱ	2	AD-16	横位に細軸の絡条体圧痕文。沈線文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
623		83	Ⅱ	2	AD-17	横位に細軸の絡条体圧痕文。格子目状の沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
624		83	Ⅱ	2	W-21	斜位に細軸の絡条体圧痕文。格子目状の沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
625		83	Ⅱ	2	AA-15	横位に細軸の絡条体圧痕文。格子目状の沈線文。	7.5YR6/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
626		83	Ⅱ	2	W-20	横位に細軸の絡条体圧痕文。格子目状の沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片多
627		83	Ⅱ	2	－	横位に細軸の絡条体圧痕文。沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
628		83	Ⅱ	2	W-19他	横位に絡条体圧痕文。格子目状の沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
629		83	Ⅱ	2	W-20	横位に絡条体圧痕文。格子目状の沈線文。	10YR5/4	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
630		83	Ⅱ	2	X-22	斜位に軸の無い絡条体圧痕文。縦位の沈線文。	10YR3/3	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
631		83	Ⅱ	2	X-20	横位に軸の無い絡条体圧痕文。斜位の沈線文。	7.5YR3/1	有	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片多
632		83	Ⅱ	2	AA-14	横位に軸の無い絡条体圧痕文。沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
633		83	Ⅱ	2	AB-16	波状口縁。斜位の沈線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR3/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
634		83	Ⅱ	2	X-21	口唇部に絡条体圧痕文。外面に格子目状の沈線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
635		83	Ⅱ	2	W-21	口唇部に刻み。軸の無い絡条体圧痕。格子目状の沈線文。	5YR4/6	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
636	ab	83	Ⅱ	2	W-19他	軸の無い絡条体圧痕文。格子目状の沈線文。	5YR3/1	無	白色粒子、黒色粒子
637		84	Ⅱ	2	X-22	軸の無い絡条体圧痕文。縦位の沈線文。	10YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
638		84	Ⅱ	2	W-21	軸の無い絡条体圧痕文。縦位の沈線文。	10YR4/3	有	白色粒子、白色岩片多
639		84	Ⅱ	2	X-21	軸の無い絡条体圧痕文。沈線文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
640		84	Ⅱ	2	W-21	斜位・横位の沈線文。軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
641		84	Ⅱ	2	Y-20	横位・斜位の沈線文。軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR3/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
642		84	Ⅱ	2	AD-21	縦位・横位の沈線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
643		84	Ⅱ	2	Y-21	山形に沈線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
644		84	Ⅱ	2	AB-21	斜位の沈線文。軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
645		84	Ⅱ	2	W-21	格子目状の沈線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
646		84	Ⅱ	2	W-20	格子目状の沈線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
647		84	Ⅱ	2	－	格子目状の沈線文。横位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
648		84	Ⅱ	2	－	格子目状の沈線文。縦位に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
649		84	Ⅱ	2	AB-15	格子目状の沈線文。縦位に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
650		85	Ⅱ	2	W-21他	横位の微隆起線文上、外面に絡条体圧痕文。沈線文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
651		85	Ⅱ	2	X-22	横位の微隆起線文上、外面に絡条体圧痕文。沈線文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
652		85	Ⅱ	2	AC-16	横位の２条の隆起線上に軸の無い絡条体圧痕文。格子目状の沈線文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
653		85	Ⅱ	2	X-22	口唇部に刻み。斜位の沈線文。横位の微隆起線文。軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR6/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
654		85	Ⅱ	2	V-20	波状口縁。口唇部に刻み。斜位の沈線文。横位の微隆起線文上と外面に軸の無い絡条体圧痕文。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
655		85	Ⅱ	2	AF-23	斜位の沈線文。横位の微隆起線文上と外面に軸の無い絡条体圧痕文。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
656		85	Ⅱ	2	－	横位の微隆起線文上と外面に軸の無い絡条体圧痕文。格子目状の沈線文。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
657		85	Ⅱ	2	X-21他	２条の横位の微隆起線文上に絡条体圧痕文。格子目状の沈線文。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
658		85	Ⅱ	2	－	外反する口唇部に刻み。横位・縦位に２条の微隆起線文。斜位の沈線文。軸の無い絡条体圧痕文。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
659		85	Ⅱ	2	－	口唇部に刻み。横位・縦位の微隆起線文。軸の無い絡条体圧痕文。斜位の沈線文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
660		85	Ⅱ	2	－	口唇部に刻み。横位・縦位の微隆起線文。縦位の沈線文。軸の無い絡条体圧痕文。穿孔有。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
661		85	Ⅱ	2	W-21	口唇部に刻み。横位の微隆起線文上に軸の無い絡条体圧痕文。斜位の沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
662		85	Ⅱ	2	－	横位の微隆起線文上及び軸の無い絡条体圧痕文。斜位に沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
663		85	Ⅱ	2	W-21	横位の微隆起線文に軸の無い絡条体圧痕文。梯子状の沈線文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
664		85	Ⅱ	2	W-20	軸の無い絡条体圧痕文。斜位・横位の沈線文。横位の微隆起線文。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
665		85	Ⅱ	2	X-22	横位に軸の無い絡条体圧痕文。斜位の沈線文。横位の微隆起線文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
666		86	Ⅱ	2	X-21	横位の微隆起線文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
667		86	Ⅱ	2	Y-21	横位の微隆起線文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
668		86	Ⅱ	2	－	縦位・斜位の微隆起線文。	5YR6/8	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
669		86	Ⅱ	2	W-21	縦位・横位の微隆起線文。	7.5YR6/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
670		86	Ⅱ	2	Y-22	口唇部内面から外面に縦位の微隆起線文。横位の微隆起線文。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
671		86	Ⅱ	2	AF-18	口唇部に刻み。横位に５本の沈線文と斜位の沈線文。横位の微隆起線文。	5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片
672		86	Ⅱ	2	W-20	口唇部に刻み。斜位に沈線文。横位の微隆起線文。未貫通の穿孔有。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
673		86	Ⅱ	2	－	斜位に異なる工具による２種類の沈線文。横位の微隆起線文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
674		86	Ⅱ	2	－	口唇部から外面に縦位の微隆起線文。横位の微隆起線文。横位の沈線文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
675		86	Ⅱ	2	X-21	口唇部に刻み。縦位の微隆起線文。斜位の沈線文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
676		86	Ⅱ	2	V-19	口唇部に刻み。口唇部から外面に縦位の微隆起線文。横位の沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
677		86	Ⅱ	2	W-19	口唇部から外面に２本の縦位の微隆起線文。格子目状の沈線文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
678		86	Ⅱ	2	－	縦位の微隆起線文。先割状工具による格子目状の沈線文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
679		86	Ⅱ	2	－	縦位の微隆起線文。斜位の沈線文。	5YR6/8	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
680		86	Ⅱ	2	AD-15	格子目状の沈線文。横位の微隆起線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
681	ab	87	Ⅱ	2	AB-16他	口唇部に刻み。外面を擦痕調整。斜位・縦位の沈線文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
682		87	Ⅱ	2	X-22	口唇部に刻み。口唇部から縦位の沈線文。区画性のある横位の沈線文の間に斜位に沈線文を充填。穿孔有。	5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
683		87	Ⅱ	2	X-21	横位・斜位の沈線文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
684		87	Ⅱ	2	X-21	横位・斜位の沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
685		87	Ⅱ	2	Y-22	横位の沈線文の間に斜位の沈線文を充填。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
686		87	Ⅱ	2	AE-23	横位の沈線文の間に斜位の沈線文を充填。	7.5YR5/6	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
687		87	Ⅱ	2	X-20	波状口縁。外面に格子目状の沈線文。内面にナデ。	7.5YR3/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
688		87	Ⅱ	2	AG-19	格子目状の沈線文。	10YR6/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
689		87	Ⅱ	2	X-22	波状口縁。格子目状の沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
690		87	Ⅱ	2	AA-21	波状口縁。格子目状・横位の沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、、白色岩片多
691		87	Ⅱ	2	－	口唇部に刻み。格子目状の沈線文。	5YR4/6	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
692		87	Ⅱ	2	W-21	口唇部に刻み。格子目状の沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
693		87	Ⅱ	2	X-22	口唇部に刻み。半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。	5YR3/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
694		88	Ⅱ	2	－	半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。	5YR4/4	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
695		88	Ⅱ	2	AA-16	半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。穿孔有。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
695		88	Ⅱ	2	AB-22	口唇部直下に格子目状の沈線文を施す。穿孔有。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
696		88	Ⅱ	2	X-22	半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
697		88	Ⅱ	2	N-4	半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。	5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
698		88	Ⅱ	2	X-21	棒状工具による格子目状の沈線文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
699		88	Ⅱ	2	AI-29	棒状工具による格子目状の沈線文。	10YR4/2	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
700		88	Ⅱ	2	－	半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
701		88	Ⅱ	3	AI-20	口唇部に刻み。外面に横位に条痕文。縦位沈線文。内面に条痕文。	10YR3/2	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
702		88	Ⅱ	3	W-21	縦位沈線文。	5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
703		88	Ⅱ	3	X-22	縦位沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子
704		88	Ⅱ	3	－	波状口縁。縦位沈線文。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子
705		88	Ⅱ	3	AC-21	棒状工具による縦位沈線文。	10YR4/3	多	白色粒子多、黒色粒子
706		88	Ⅱ	3	W-21	外面に縦位沈線文。内面に擦痕。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子
707		88	Ⅱ	3	R-17	段部より上位に縦位沈線文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
708		88	Ⅱ	3	－	波状口縁。沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
709		88	Ⅱ	3	T-18	沈線文。	7.5YR5/8	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
710		89	Ⅱ	3	S-19他	外面に縦位沈線文を地文。横位に半截竹管状の工具による沈線文。内面に擦痕。	10YR4/3	有	白色粒子、白色岩片
711		89	Ⅱ	3	X-20	口唇部に貝殻腹縁文。縦位沈線文を地文。横位に半截竹管状の工具よる沈線文。	7.5YR3/1	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
712			Ⅱ	3	W-20	縦位沈線文を地文。半截竹管状の工具による沈線文。横位にナデ消し。	7.5YR4/6	有	白色粒子
713			Ⅱ	3	W-21	縦位沈線文を地文。斜位の沈線文。	5YR4/3	多	白色粒子、白色岩片
714			Ⅱ	3	W-21	縦位沈線文を地文。斜位に半截竹管状の工具による沈線文。	7.5YR4/4	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
715			Ⅱ	3	Y-21	縦位沈線文を地文。斜位に半截竹管状の工具による沈線文。	7.5YR3/3	有	白色粒子多、黒色粒子
716			Ⅱ	3	Q-17	波状口縁。縦位沈線文を地文。半截竹管状の工具による沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
717		89	Ⅱ	3	W-21	縦位沈線文を地文。斜位に半截竹管状の工具による沈線文。	10YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
718		89	Ⅱ	3	T-19	縦位沈線文。半截竹管状の工具による横位・斜位に沈線文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
719		89	Ⅱ	3	W-20他	波状口縁。縦位沈線文を地文。横位・斜位に半截竹管状の工具による沈線文。穿孔有。	10YR3/1	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
720		89	Ⅱ	3	W-21	縦位沈線文を地文。斜位に半截竹管状の工具による沈線文。ナデ。穿孔有。	5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子
721		89	Ⅱ	3	W-21	波状口縁。縦位沈線文を地文。斜位に半截竹管状の工具による沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
722		89	Ⅱ	3	AI-29	半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。			
723		89	Ⅱ	3	K-15	縦位沈線文を地文。斜位に沈線文。下端に微隆起線文。	7.5YR3/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
724		89	Ⅱ	3	S-19	波状口縁。縦位沈線文を地文。斜位に半截竹管状の工具による沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
725		89	Ⅱ	3	W-21	縦位沈線文を地文。斜位に半截竹管状の工具による沈線文。段を持つ。	7.5YR4/3	無	白色粒子、黒色粒子
726			Ⅱ	3	W-21	縦位沈線文を地文。斜位に半截竹管状工具による沈線文。段を持つ。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
727		89	Ⅱ	3	－	縦位沈線文を地文。斜位に半截竹管状の工具による沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
728			Ⅱ	3	V-9	縦位沈線文を地文。半截竹管状の工具による斜位に交差する沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子多
729		89	Ⅱ	3	W-21他	縦位沈線文を地文。指頭による横位の沈線か。	7.5YR4/3	有	白色粒子多、白色岩片
730		89	Ⅱ	3	Y-22	縦位沈線文を地文。角頭状の平坦な棒状工具による横位の沈線文。段状を呈する。	10YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
731		90	Ⅱ	3	V-20	外面の口縁部に貝殻腹縁による刺突文。横位・斜位の細隆起線内面に条痕文。	7.5YR3/1	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
732		90	Ⅱ	3	W-20	微隆起線文。	5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
733		90	Ⅱ	3	X-22	微隆起線文。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
734		90	Ⅱ	3	AD-23	わずかに微隆起線文。	5YR6/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
735		90	Ⅱ	3	－	口唇部に刻み。縦位に沈線文。	5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子多
736		90	Ⅱ	3	M-5	口唇部に刻み。斜位の沈線文。	7.5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
737		90	Ⅱ	3	V-12	口唇部に刻み。縦位・斜位の沈線文。	5YR3/4	多	白色粒子、黒色粒子
738		90	Ⅱ	3	S-16	口唇部に刻み。縦位・斜位の沈線文。	7.5YR4/8	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
739		90	Ⅱ	3	P-16	口唇部に刻み。縦位・斜位の沈線文。	2.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
740		90	Ⅱ	3	－	口唇部に刻み。斜位の沈線文。穿孔有。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
741		90	Ⅱ	3	R-16	口唇部に刻み。斜位の沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
742		90	Ⅱ	3	P-17	口唇部に刻み。横位・斜位の沈線文。	10YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
743		90	Ⅱ	3	L-15	口唇部に刻み。横位・斜位の沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
744		90	Ⅱ	3	V-9	口唇部に刻み。斜位の沈線文。	7.5YR5/8	有	白色粒子、白色岩片多
745		90	Ⅱ	3	R-15	口唇部に刻み。斜位の沈線文。	7.5YR5/8	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
746		90	Ⅱ	3	V-013	口唇部に刻み。斜位の沈線文。	10YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
747		90	Ⅱ	3	－	口唇部に刻み。横位・斜位の沈線文。	10YR5/8	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
748		90	Ⅱ	3	AA-16	口唇部に刻み。斜位・縦位・横位の沈線文。	7.5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
749	ab	91	Ⅱ	3	Q-16	口唇部に刻み。縦位・斜位・横位の区画性のある沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
750	ab	91	Ⅱ	3	Q-17	口唇部に刻み。横位・斜位の区画性のある沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
751	ab	91	Ⅱ	3	N-9他	外反する波状口縁。口唇部に棒状工具による刻み。縦位・斜位・横位の区画性のある沈線文。	7.5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
752	ab	91	Ⅱ	3	R-16他	波状口縁。口唇部に刻み。縦位・斜位の沈線文。	7.5YR6/8	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
753		92	Ⅱ	3	AI-30	口縁部は外反する。口唇部に刻み。胴部中位に横位・縦位の２本の沈線文で区画。区画内を斜位の沈線文で充填。	5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片
754		91	Ⅱ	3	AI-31	波状口縁。口唇部に棒状工具による刻み。縦位・斜位の沈線文。	5YR4/6	多	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
755		91	Ⅱ	3	Q-17他	波状口縁。口唇部に刻み。斜位の沈線文で襷文をなす。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
756		91	Ⅱ	3	N-6	横位・縦位の沈線文。	7.5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
757		91	Ⅱ	3	L-2	縦位・斜位の沈線文。	7.5YR6/8	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
758		91	Ⅱ	3	AE-25	縦位・斜位の沈線文。斜位に半截竹管による押引文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片
759		91	Ⅱ	3	N-4	斜位の沈線文。	5YR5/8	有	白色粒子、黒色粒子
760		92	Ⅱ	3	O-16	斜位に沈線文を施文後ナデの痕跡有。	5YR6/8	有	白色粒子多、輝石多、白色岩片、赤色岩片
761		93	Ⅱ	3	R-17	口縁より縦位に沈線文。段部端はナデにより微隆起線文状となる。	5YR5/8	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
762		93	Ⅱ	3	－	口縁より縦位に沈線文。段部端はナデにより微隆起線文状となる。	5YR4/6	多	黒色粒子、白色岩片多
763		93	Ⅱ	3	T-19	口唇部に刻み。口縁より縦位・斜位の沈線文。	7.5YR5/6	有	黒色粒子、白色岩片
764		93	Ⅱ	3	－	口唇部に刻み。口縁より斜位の沈線文。	5YR4/6	有	黒色粒子多、白色岩片多
765		93	Ⅱ	3	Q-16	口唇部に刻み。口縁より異方向の沈線文。	7.5YR5/6	有	黒色粒子、白色岩片
766		93	Ⅱ	3	Q-17	口唇部に半截竹管状の工具による刻み。口縁より縦位・斜位の沈線文。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
767	ab	93	Ⅱ	3	O-5他	口唇部に棒状工具による刻み。口縁より斜位の沈線文。段有り。	7.5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
768		93	Ⅱ	3	P-9他	波状口縁。半截竹管状の工具による縦位・斜位の沈線文。文様体の下端を指頭でつまみ出して隆起線文を設けたものか。	10YR6/6	多	黒色粒子、白色岩片多
769		93	Ⅱ	3	U-11	斜位の２本の沈線文の間に斜位の沈線文を充填。	7.5YR5/8	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
770		93	Ⅱ	3	AI-29	段部より上位に斜位の沈線文。	5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子
771		93	Ⅱ	3	N-4	段部より上位に斜位・縦位の沈線文の区画を設け、横位の沈線文で充填。	5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
772			Ⅱ	3	P-16	段部より上位に斜位の沈線文。	7.5YR6/8	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
773			Ⅱ	3	Q-16	段部より上位に斜位の沈線文。	7.5YR5/8	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
774		93	Ⅱ	3	V-19	段部より上位に斜位・縦位の沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
775	ab	94	Ⅱ	3	M-8	波状口縁。口唇部に刻み。太い沈線文の区画内を斜位に半截竹管状の工具による細かい沈線文を充填。	7.5YR3/1	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
776		94	Ⅱ	3	－	半截竹管状の工具と先端の細かい工具による斜位の沈線文。	10YR4/2	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
777		94	Ⅱ	3	N-8	口唇部に刻み。棒状の工具による斜位の沈線文と太く浅い沈線文。	7.5YR3/1	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
778	ab	94	Ⅱ	3	N-6	波状口縁。棒状工具により横位の太い沈線文で区画し、斜位・横位の沈線文を充填。	7.5YR5/4	多	白色粒子、白色岩片多
779		94	Ⅱ	3	N-5	斜位の沈線文を施し、太い沈線文で区画。	7.5YR4/2	有	白色粒子、白色岩片
780		94	Ⅱ	3	N-6	太い沈線文で区画し、細い沈線文を充填。	7.5YR3/4	多	白色粒子、白色岩片多
781		94	Ⅱ	3	N-4	太い沈線文で区画し、細い沈線文を充填。	7.5YR5/4	多	白色粒子、白色岩片
782		94	Ⅱ	3	AE-21	太い沈線文で区画し、細い沈線文を充填。	7.5YR4/4	多	白色粒子、白色岩片多
783			Ⅱ	3	K-2	太い沈線文で区画し、細い沈線文を充填。	5YR4/8	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
784		94	Ⅱ	3	N-6	縦位の太い沈線文で区画し、斜位・横位の沈線文を充填。	7.5YR5/4	多	白色粒子、白色岩片多
785		94	Ⅱ	3	N-6	斜位に沈線文を施し、強く指で太い沈線文。	7.5YR6/6	多	白色粒子、白色岩片多
786		94	Ⅱ	3	M-8	縦位と曲線で区画し、斜位の沈線文と刺突文を施す。	7.5YR5/4	多	白色粒子、白色岩片多
787		95	Ⅱ	3	O-10	斜位の沈線文を施し、縦位と曲線の沈線文で区画。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
788		95	Ⅱ	3	Q-9他	波状口縁。口唇部に棒状工具による刻み。口縁部に横位の太い沈線文で区画し、斜位の細かい沈線文を充填。	7.5YR6/3	有	白色粒子、白色岩片
789		95	Ⅱ	3	N-5	段部より上位に縦位・斜位の沈線文を施し、斜位の太い沈線文を施す。	7.5YR3/1	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
790		95	Ⅱ	3	N-5	段部より上位に縦位の沈線文。	7.5YR6/4	有	白色粒子、白色岩片
791		95	Ⅱ	3	M-7	横位・斜位に２種類の沈線文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、白色岩片
792		95	Ⅱ	3	N-5	棒状工具による太い沈線文で区画し、斜位に細い沈線文を充填。	5YR3/2	有	白色粒子、白色岩片
793		95	Ⅱ	3	P-8	波状口縁。口唇部に刻み。横位の沈線文で区画し、縦位の押引文を施す。	10YR4/1	有	白色粒子、白色岩片多
794		95	Ⅱ	3	N-6	縦位・斜位の太い沈線文で区画し、横位の押引文を施す。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
795		95	Ⅱ	3	N-8	段部より上位に縦位・横位の太い沈線文で区画し、横位の押引文を施す。	7.5YR5/4	多	白色粒子、白色岩片多
796		95	Ⅱ	3	L-2	波状口縁。口唇部に刻み。縦位と斜位の沈線文。刺突文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
797		95	Ⅱ	3	－	波状口縁。口唇部に刻み。外面に縦位の沈線文と刺突文。内面の口縁部に斜位に刺突文。	7.5YR6/3	有	白色粒子、白色岩片
798		95	Ⅱ	3	N-5他	波状口縁。口唇部に刻み。口唇部直下に刺突文。太めの沈線文で曲線を描き曲線の間を細い沈線文で充填。	10YR6/4	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
799		95	Ⅱ	3	O-5他	斜位の平行沈線文。刺突文。	7.5YR5/3	有	白色粒子、白色岩片
800		95	Ⅱ	3	O-5	隆帯より上位に横位・縦位の沈線文。隆帯上位面と沈線上位に刺突文。	7.5YR6/6	多	白色粒子、白色岩片
801	ab	96	Ⅱ	3	N-5	段部の上位に斜位の沈線文。下位には竹管状の工具による押引文と刺突文。	7.5YR5/6	多	白色粒子、白色岩片

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
802	ab	96	Ⅱ	3	N–5	縦位に隆帯。段部上位には半截竹管状の工具により縦位・斜位に押引文。太い沈線文で区画し、刺突文。	7.5YR5/4	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
803	ab	96	Ⅱ	3	N–5他	段部より上位に縦位に隆帯。太い沈線文で区画し、半截竹管状の工具により沈線文、押引文、刺突文を充填。	7.5YR5/6	多	白色粒子、白色岩片多
804		96	Ⅱ	3	O–6	段部の上位に半截竹管状の工具による刺突文、押引文を施し、下位に刺突文。	7.5YR3/1	多	白色粒子、黒色粒子
805	ab	96	Ⅱ	3	W–21	口唇部に刻み。口唇部直下より縦位に微隆起線文で区画し、刺突文を充填。横位の微隆起線文。	7.5YR4/4	多	白色粒子多、白色岩片
806		96	Ⅱ	3	N–5	口唇部に刻み。半截竹管状の工具による沈線文と太く浅い沈線文。破片端部に微隆起線文を施す。	7.5YR4/4	多	白色粒子、白色岩片
807		96	Ⅱ	3	AG–19	口唇部に刻み。横位の微隆起線文。縦位・横位の沈線文。	5YR4/6	多	白色粒子、白色岩片
808		96	Ⅱ	3	N–6	縦位の微隆起線文。斜位の太い沈線文。矢羽状の沈線文。	7.5YR3/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
809		96	Ⅱ	3	Z–23	段部に横位の微隆起線文。縦位・横位の微隆起線文。斜位の沈線文。	7.5YR4/2	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
810		96	Ⅱ	3	AI–30	刺突文が施された沈線文。傾いた梯子状の微隆起線文。	5YR4/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
811		96	Ⅱ	3	O–7	縦位に刻みのある微隆起線文。沈線文・押引文・刺突文を施す。	5YR4/6	多	白色粒子、白色岩片
812		96	Ⅱ	3	N–5	口唇部に半截竹管状の工具による刻み。横位・縦位に沈線文。	2.5YR4/8	有	白色粒子多、黒色粒子
813		96	Ⅱ	3	–	口唇部に刻み。梯子状か横位・斜位に沈線文を施す。	5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
814		96	Ⅱ	3	V–8	半截竹管状の工具による沈線文で区画。縦位・横位の沈線文を充填。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
815		96	Ⅱ	3	X–21	斜位の沈線文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子、輝石
816		96	Ⅱ	3	Q–17	屈曲した沈線文で区画。斜位の沈線文を充填。	5YR5/8	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
817		97	Ⅱ	4	AI–26他	波状口縁。口唇部が刻み。段が２段見られる。外面に細隆起線文による区画。半截竹管状の工具による押引沈線文で充填。区画の交点を円形竹管の工具による刺突文を施す。内面に条痕文。	5YR5/6	多	黒色粒子、白色岩片多
818	ab	97	Ⅱ	4	AD–22	波状口縁。口唇部に指頭により凹む。段が２段見られる。外面に細隆起線文による区画。円形竹管状の工具による刺突文・押引文で充填。内面に条痕文。	7.5YR6/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
819	ab	97	Ⅱ	4	AB–21	波状口縁。段が１段見られる。半截竹管状の工具による押引文。円筒竹管状の工具による刺突文。	5YR6/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
820		97	Ⅱ	4	–	口唇部に刻み。外面に細隆起線文。半截竹管状の工具による押引文。円形竹管状の工具による刺突文。内面に条痕文。	7.5YR5/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
821		97	Ⅱ	4	AC–25	外面に沈線文と押引文。内面に条痕文。	5YR3/4	有	白色粒子、黒色粒子、雲母多、白色岩片
822		97	Ⅱ	5	AI–26他	波状口縁。口唇部内面側端部・外面側端部に刻み。段が２段見られる。外面の口縁部から胴部に刺突列による文様を施す。外面内面に擦痕。	7.5YR4/4	多	白色粒子、白色岩片
823		98	Ⅱ	5	AI–29	段が１段見られる。外面に横位の押引文・沈線文で文様を施す。内面に条痕文。	10YR6/4	多	白色粒子、白色岩片多
824		98	Ⅱ	5	AI–28	波状口縁。口唇部外面側に刻み。外面に横位に沈線文・押引文。内面に条痕文。	5YR5/4	多	白色粒子、白色岩片多
825	abc	98	Ⅱ	5	V–18	口唇部内面側にナデによる隆起線文上に刻み。段が２段見られる。段部には貝殻腹縁による刻み。条痕文・無節L縄文横回転の縄文。	10YR3/2	多	白色粒子、白色岩片多
826	ab	98	Ⅱ	5	AI–29	外面はRL横回転縄文を地文。横位の沈線文。段が１段見られる。内面にナデ・条痕文・指頭圧痕が残る。	10YR6/4	多	白色粒子、白色岩片
827		98	Ⅱ	5	Q–7	段が1段見られる。沈線文・RL横回転縄文。段部に刻み。	10YR6/4	有	白色粒子、白色岩片
828		98	Ⅱ	6	AH–30他	波状口縁。注口状突起。段が１段見られる。外面と注口状突起外面内面に刺突文列。注口状突起口唇部に刺突列。外面内面に条痕文。	5YR5/6	多	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
829		98	Ⅱ	6	AI–29	波状口縁。注口状突起。刺突文列。注口状突起内面側に刻み。外面内面に擦痕。	5YR5/6	多	白色粒子、白色岩片
830		98	Ⅱ	6	AI–26他	波状口縁。口唇部に刻み。段が２段見られる。刺突列。	5YR4/6	多	白色粒子多、白色岩片
831		99	Ⅱ	7	AH–30他	波状口縁。注口状突起。口唇部と注口状突起内面側に刺突列。段が1段見られる。外面に条痕文・刺突列。内面に条痕文。	10YR5/4	多	白色粒子、雲母多、白色岩片
832		99	Ⅱ	8	AD–24	波状口縁。口唇部に突起あり。横位に隆帯貼り付け。	7.5YR6/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
833		99	Ⅱ	9	L–13	波状口縁。外面に条痕文。貝殻腹縁による刺突列。	5YR4/2	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
834		99	Ⅱ	9	ZW–1他	口唇部に刻み。横位に３条の刺突文列。外面内面に条痕文。	2.5Y6/4	多	白色粒子、黒色粒子
835		99	Ⅱ	10	AD–24	口唇部。口唇部に指頭による交互押圧文。口縁部直下の横位の隆帯上に指頭による単方向の押圧文。	7.5YR4/4	多	白色粒子
836		99	Ⅱ	10	AC–26	波状口縁。外面に擦痕。横位に隆帯貼り付け。隆帯上に指頭による交互押圧文。内面に条痕文。	5YR5/6	多	白色粒子、白色岩片
837	ab	99	Ⅱ	10	AD–24他	波状口縁。口唇部に棒状工具による単一方向の押圧文。外面に隆帯貼付け。隆帯上に棒状工具による単一方向の押圧文・交互押圧文。外面内面に擦痕。	10YR5/4	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
838	ab	99	Ⅱ	10	AD–24他	口唇部に指頭による単一方向の押圧文。外面に横位に隆帯貼付け。隆帯上に指頭による単一方向の押圧文。外面内面に擦痕。	7.5YR6/4	多	白色粒子多、白色岩片
839		99	Ⅱ	10	AC–25	口唇部に指頭による単一方向の押圧文。外面内面に擦痕。	10YR7/4	多	白色粒子、白色岩片
840		99	Ⅱ	10	AC–25	波状口縁。口唇部に指頭による交互押圧文。外面に条痕文。	10YR5/3	多	白色粒子、白色岩片多
841		99	Ⅱ	10	AD–24	口唇部に指頭による交互押圧文。外面内面に擦痕。	5YR4/3	多	白色粒子多、白色岩片多
842		99	Ⅱ	10	AD–24	波状口縁。口唇部内面に貝殻腹縁による刻み。横位に隆帯貼り付け。隆帯上に指頭による交互押圧文。外面内面に条痕文。	10YR6/4	多	白色粒子多、白色岩片
843			Ⅱ	10	AD–24他	無文。縦位のナデ。	10YR6/4	多	白色粒子多、白色岩片多
844		100	Ⅱ	10	Y–22他	外面内面に横位のナデ。	10YR6/4	有	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片多
845			Ⅱ	10	–	波状口縁。外面内面ナデ。	7.5YR4/1	有	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
846		100	Ⅱ	11	AJ–28	波状口縁。口唇部に貝殻腹縁による刻み。格子目状に条痕文を施文。外面内面に擦痕。	5YR4/6	有	白色粒子、白色岩片
847		100	Ⅱ	11	AB–25	波状口縁の波頂部か。隆帯を貼付け。貝殻腹縁による刻み。	5YR4/6	有	白色粒子、石英
848		100	Ⅱ	11	AI–28	貝殻腹縁の刺突文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、白色岩片
849	ab	100	Ⅱ	11	W–12	口唇部に刻み。外面内面に貝殻腹縁を用いて褶曲線文。	5YR4/8	多	白色粒子、赤色粒子、石英、白色岩片
850		100	Ⅱ	12	AI–28	外面に横位に２本の隆帯を貼付け。隆帯上に貝殻による刻み。条痕文。	7.5YR6/4	有	白色粒子、白色岩片多

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
851		100	Ⅱ	12	AD-16	外面に貝殻腹縁の連続した刺突文。内面に擦痕。	5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
852		100	Ⅱ	13	AI-27	隆帯を貼付け。隆帯上に刺突文。	2.5YR4/6	多	白色粒子、赤色粒子
853		100	Ⅱ	13	AB-22	波状口縁の波頂部か。縦位に隆帯を貼付け。	2.5YR4/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
854			Ⅱ	13	W-20	半截竹管状の工具による横位の沈線文。	5YR3/6	有	白色粒子、赤色粒子、白色岩片
855	ab	100	Ⅱ	13	AE-21	先端が角頭状の工具による押引文。刺突文。	2.5YR5/8	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
856		100	Ⅱ	13	AI-27	刻みのある２本の隆帯を貼付け。沈線で蕨手状の渦巻き文様を施す。	2.5YR4/8	有	白色粒子、黒色粒子、赤色粒子、白色岩片
857		100	Ⅲ		P-9他	口唇部に縄文。段部を挟んでRLの縄文。	7.5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多
858		100	Ⅲ		P-17	口唇部に縄文。段を設けLRの縄文。穿孔有。	7.5YR4/3	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多
859			Ⅲ		AD-23	口唇部に刻み。RLの縄文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多、白色岩片
860		100	Ⅲ		X-22	口縁部付近を肥圧させる。RLの縄文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多
861			Ⅲ		P-16他	Rの縄文。	7.5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多
862		100	Ⅲ		P-17	RLの縄文。	7.5YR4/3	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多
863		101	Ⅲ		Z-21	口唇部に刻み。外面に押引文。内面に条痕文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、雲母多、白色岩片
864		101	Ⅲ		AI-20	口唇部に刻み。半截竹管状の工具による横位の沈線文。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
865			Ⅲ		AD-20	口唇部に刻み。斜位の沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
866		101	Ⅲ		AD-20	半截竹管状の工具による蛇行・交差する沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
867			Ⅲ		X-21	波状口縁。半截竹管状の工具による縦位の沈線文。	5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
868			Ⅲ		AA-16	半截竹管状の工具による縦位の沈線文。	7.5YR6/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
869	ab	101	Ⅲ		AH-16他	外反する口縁。外面は半截竹管状・先割れ状の工具による沈線文。内面に半截状竹管状の工具により縦位の沈線文。穿孔有。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
870			Ⅲ		AE-25	外面内面に沈線文か。	7.5YR3/1	有	白色粒子多、白色岩片
871			Ⅲ		Y-22	横位の刺突文。斜位の沈線文。	5YR5/6	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
872			Ⅲ		AH-26	貝殻腹縁による沈線文か。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
873			Ⅲ		V-18	横位に半截竹管状の工具による沈線文。	5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
874		101	Ⅲ		AD-15	横位に半截竹管状の工具による沈線文。	5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
875		101	Ⅲ		－	横位に半截竹管状の工具による沈線文。穿孔有。	7.5YR4/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
876		101	Ⅲ		－	波状口縁。口唇部に刻み。外面に横位の隆帯に刻み。内面に擦痕。	5YR4/4	有	白色粒子、白色岩片
877		101	Ⅲ		AA-14	横位の隆帯貼付。横位に波状の沈線文。斜位の沈線文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、白色岩片
878		101	Ⅲ		AD-21	口唇部に沿った横位の爪形の刺突文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、白色岩片
879			Ⅲ		AC-22	外面に斜位の沈線文。内面の口唇部直下に爪形の刺突文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
880		101	Ⅲ		X-22	外面内面に横位の条痕文。	5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
881		101	Ⅲ		X-11	外面に横位・斜位の条痕文。内面に横位の条痕文。	5Y R4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
882			Ⅲ		J-2	外面に横位・斜位の条痕文。内面に横位の条痕文。	7.5YR4/6	多	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
883			Ⅲ		AI-26	外面に縦位の条痕文。内面に横位の条痕文。	7.5YR4/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
884		101	Ⅲ		AD-22	外面に斜位の条痕文。内面に条痕文。	7.5YR5/6	多	白色粒子、白色岩片
885			Ⅲ		X-21	縦位の条痕文。	7.5YR5/8	多	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
886			Ⅲ		P-12	外面は斜位の条痕文を施し、ナデ消し。内面は横位の条痕文。	5YR5/8	有	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
887		101	Ⅲ		Q-10	尖底。縦位のナデ。	5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
888		101	Ⅲ		AG-19	尖底。尖底部は瘤状に仕上げる。	7.5YR7/6	有	白色粒子、白色岩片
889		101	Ⅲ		Y-21	尖底。内面に指頭によるナデ。	5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片
890		101	Ⅲ		AJ-28	外面内面共に斜位の条痕文。底部見込みは指頭によるナデ。	5YR5/8	多	黒色粒子、白色岩片多
891		101	Ⅲ		P-17	丸底。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
892		101	Ⅲ		V-18	平底。外面に条痕文。	7.5YR7/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
893		101	Ⅲ		X-22	上げ底。底部周縁に粘土紐で高台状に仕上げる。底部内面に指頭痕。	5YR5/6	有	白色粒子、白色岩片
894		102	Ⅳ	1	AE-25	口唇部に刻み。外面内面ナデ調整をし半截竹管状工具で斜位に細線文。内面に指頭痕。	10YR5/3	無	白色粒子多、雲母、白色岩片
895		102	Ⅳ	1	AC-26	口唇部に刻み。外面に半截竹管状工具による格子目状の細線文。内面に指頭痕。	10YR6/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
896		102	Ⅳ	1	AB-22	口唇部に刻み。外面に半截竹管状工具による細線文。横位の刺突文列。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、雲母、白色岩片
897			Ⅳ	1	AH-27	口唇部に指頭による押圧文。外面に半截竹管による細線文。外面内面にナデ調整。	10YR4/2	無	白色粒子多、雲母、白色岩片
898		102	Ⅳ	1	AH-26	口唇部に刻み。外面内面に指頭痕。	10YR5/2	無	白色粒子多、雲母、白色岩片
899		102	Ⅳ	1	AI-29	口縁部に横位の刺突文。	10YR5/8	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
900			Ⅳ	1	－	口唇部に刺突文。外面内面にナデ。	10YR6/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
901		102	Ⅳ	1	AI-27	外面内面にナデ調整。外面は半截竹管状の工具による格子目状の細線文。	10YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
902		102	Ⅳ	1	AH-27	外面に半截竹管状工具による斜位の細線文。内面ナデ。	10YR5/2	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
903		102	Ⅳ	1	AH-27	外面にナデ。半截竹管状の工具による斜位の細線文。内面ナデ・擦痕。	10YR4/2	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
904		102	Ⅳ	1	AE-25	外面に指頭による摘み文。半截竹管状の工具による細線文。内面ナデ。	10YR5/2	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
905		102	Ⅳ	1	AD-24	外面に半截竹管状の工具による刺突文。外面内面にナデ・指頭痕。	10YR5/2	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
906		102	Ⅳ	1	AH-27	外面に横位の隆帯を貼付け。刺突文。外面内面にナデ。	10YR5/2	無	白色粒子、雲母、白色岩片
907		102	Ⅳ	1	－	外面に斜位の刺突文。内面にナデ。	10YR3/3	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
908		102	Ⅳ	2	AA-22	外面に横位の３段の爪形の刺突文。内面にナデ。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
909		102	Ⅳ	2	AB-23	外面に横位の３段の爪形の刺突文。内面にナデ。	7.5YR6/4	有	白色粒子多、黒色粒子
910			Ⅳ	2	Y-21	外面に横位の爪形の刺突文。内面にナデ。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
911			Ⅳ	2	Z-21	外面に横位の異なる工具による３段の刺突文。内面にナデ。	5YR5/8	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
912		102	Ⅳ	2	AA-22	横位の半截竹管状の工具による刺突文。	7.5YR5/8	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
913		102	Ⅳ	2	AD-24	口唇部に横位の半截竹管状の工具による刺突文。内面に指頭痕か。	7.5YR7/6	有	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
914			Ⅳ	2	AA-22	口唇部に刻み。外面に横位の異なる刺突文。内面ナデ。	7.5YR4/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
915		102	Ⅳ	2	－	外面に矢羽状の刺突文。内面ナデ。	7.5YR4/3	有	白色粒子多
916		102	Ⅳ	2	AA-22	外面に矢羽状の刺突文。内面ナデ。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子
917			Ⅳ	2	AA-22	外面に半截竹管状の工具による刺突文。内面ナデ。	7.5YR6/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
918		102	Ⅳ	2	－	外面に貝殻腹縁による刺突文。内面にナデ。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
919		102	Ⅳ	2	Y-21	外面に刺突文を施す。内面にナデ。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
920		102	Ⅳ	2	X-22	矢羽状の刺突文。	2.5Y5/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
921			Ⅳ	2	－	斜位に刺突文を施す。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
922			Ⅳ	2	－	横位に矢羽状の刺突文を施す。	7.5YR5/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
923			Ⅳ	2	－	横位に矢羽状の刺突文を施す。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子多
924		103	Ⅳ	3	AA-22	折り返し口縁。口縁からlの縄文を横位に施す。	7.5YR7/4	多	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片多
925		103	Ⅳ	3	AI-27	口唇部にLRの縄文。肥厚させた口縁部に横位にLRの縄文。２本の細い隆帯を貼付け縄文の圧痕を施す。斜位にLRの縄文を帯状に施文。横位のナデ。	7.5YR5/3	多	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片多
926	ab	103	Ⅳ	4	AA-21他	波状口縁。口唇部に半截竹管状の工具による刺突文・突起を施す。口縁部と胴部にコンパス文を施す。地文を縄文(RL撚りの組紐？横回転)とし、格子目状の沈線文・貼付け文を施す。横位の平行沈線に刺突文。	7.5YR5/4	多	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片多
927		104	Ⅳ	4	AC-20	波状口縁。半截竹管状の工具により菱形に沈線文を施す。沈線文に連続した刺突文。貼付文あり。	10YR2/1	多	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
928		104	Ⅳ	4	－	RL縄文？横回転を地文。半截竹管状の工具により菱形に沈線文を施す。	7.5YR3/1	多	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
929	ab	104	Ⅳ	4	AC-23	RL縄文を横回転。２本の隆帯貼付け。	10YR6/4	多	白色粒子、雲母、白色岩片
930	ab	104	Ⅳ	4	AH-27	波頂部に突起有。縄文。底部は平底。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、赤色粒子、赤色岩片
931		104	Ⅴ	1	－	櫛歯状の工具による刺突文。縦位にRLの縄文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多
932		104	Ⅴ	2	AI-28	波状口縁。口唇部に突起。lの撚糸文を地文。半截竹管状の工具による平行沈線文。竹管による円形刺突文。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子多、、白色岩片
933	ab	104	Ⅴ	2	AI-29	半截竹管状の工具により木の葉文を施す。底部は平底。	7.5YR5/4	無	白色粒子多、黒色粒子、雲母多、白色岩片
934		104	Ⅴ	2	－	浅鉢か。半截竹管状の工具により横位に沈線文に刺突文。	10YR6/4	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
935	ab	104	Ⅴ	3	AH-30	口唇部に４つの貼付文が残存。縄文を地文。半截竹管状の工具により横位に爪型文を伴う平行沈線文。	5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子、雲母多、白色岩片
936		104	Ⅴ	3	AC-26他	波状口縁。口唇部に４つの貼付文が残存。外面は縦位にRLの縄文を地文。横位・斜位に半截竹管状の工具により平行沈線文。内面にナデ。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
937		104	Ⅴ	3	AC-25	外面は横位にRLの縄文を地文。半截竹管状の工具により平行沈線文。内面ナデ。	7.5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
938		104	Ⅴ	3	AC-24	口唇部を凹状に仕上げた後、刻み。地文は縦位のRL縄文。半截竹管状の工具による平行沈線文。	5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
939	ab	104	Ⅴ	3	AD-25	横位のRL縄文を地文。半截竹管状の工具による平行沈線文。	5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片多
940		104	Ⅴ	3	AI-26	半截竹管状の工具による横位の平行沈線文に爪型文を施す。ヘラ状工具による横位の沈線文。	7.5YR5/4	無	白色粒子多、黒色粒子、雲母多、白色岩片
941		104	Ⅴ	3	AH-26	浅鉢。外面は横位のRL縄文を地文。ヘラ状の工具による沈線文。内面ナデ。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母多、白色岩片多
942		104	Ⅴ	3	AH-30	外面は横位のRL縄文を地文。半截竹管状の工具により平行沈線文と爪型文を施す。内面ナデ。	5YR5/4	無	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
943		104	Ⅴ	3	AH-30	半截竹管状の工具による格子目状の平行沈線文。	7.5YR6/4	有	白色粒子多、白色岩片多
944		104	Ⅴ	3	AH-27	外面に横位のRL縄文を地文。半截竹管状の工具による平行沈線文に爪型文を施す。	5YR6/6	無	白色粒子、白色岩片多
945		105	Ⅴ	3	－	波状口縁。横位のRL縄文を地文。半截竹管状の工具により平行沈線文。浮線文に刻み。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
946		105	Ⅴ	3	AH-26	浅鉢。横位のRL縄文。浮線文。	5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
947	ab	105	Ⅴ	3	AD-24	波状口縁。口唇部に刻み。波頂部に環状の把手。RL縄文を地文。浮線文に刻み。	7.5YR4/6	無	白色粒子多、雲母多、白色岩片
948		105	Ⅴ	3	AB-25他	波状口縁。波頂部に突起状の把手。口唇部に刻み。縄文を地文。浮線文に刻み。	7.5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
949		105	Ⅴ	3	AD-25	波状口縁。瘤状突起を貼付け。ＲＬの縄文を地文。浮線文に刻み。	7.5YR4/6	無	白色粒子多、雲母多、白色岩片
950		105	Ⅴ	3	AD-24	横位の浮線文に刻み。無節L横位の縄文。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
951		105	Ⅴ	3	AC-24	浮線文と縄文。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
952		105	Ⅴ	3	AI-26	浮線文と縄文。	7.5YR6/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多、白色岩片
953		105	Ⅴ	3	AC-26	横位にLRの縄文。横位の浮線文に刻み。	7.5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
954		105	Ⅴ	3	AB-25他	横位にRLの縄文。浮線文に刻み。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子、雲母多、白色岩片
955		105	Ⅴ	3	AD-24	縄文を施した浮線文。半截竹管状の工具による平行沈線文。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母、白色岩片
956		105	Ⅴ	3	AC-26	底部。梯子状に浮線文。	7.5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
957	ab	105	Ⅴ	3	－	突帯と沈線文。浅鉢か。	2.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多、白色岩片
958	ab	105	Ⅴ	4	AI-29	半截竹管状の工具による押引きを伴う平行線文。	5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母、白色岩片
959			Ⅴ	4	AJ-29	外面は半截竹管状の工具による平行線文。内面ナデ。	5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
960		105	Ⅴ	4	AI-29	半截竹管状の工具により矢羽状の平行線文。縦長の貼付文。	5YR4/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
961	ab	105	Ⅴ	4	AI-27他	口唇部に半截竹管状の工具による押引文。矢羽状に平行沈線文。円形貼付文。縦位に棒状の貼付文。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片多
962	ab	106	Ⅴ	4	C-1	外面に半截竹管状の工具による矢羽状の平行沈線文。円形貼付文。棒状の貼付文。横位の集合沈線文。内面に擦痕。	5YR4/3	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
963		105	Ⅴ	4	AD-24	外面に半截竹管状の工具による矢羽根状の沈線文。2個一対の円形貼付文。	7.5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
964		105	Ⅴ	4	AH-27	結節浮線文。２個一対の円形貼付文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、雲母多、白色岩片多
965		105	Ⅴ	4	－	結節浮線文。２個一対の円形貼付文。	7.5YR4/3	有	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片多
966		106	Ⅴ	4	－	半截竹管状の工具による横位・矢羽状の集合沈線文。	10YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
967		106	Ⅴ	4	C-1	半截竹管状の工具による横位の集合沈線文。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
968		106	Ⅴ	4	－	半截竹管状の工具による押引文で木の葉状入組文。赤彩。	10YR5/3	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
969		106	Ⅴ	6	X-22	RLの縄の周囲に別の縄(ｒ)巻き絡めて施文。	10YR7/4	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
970		106	Ⅴ	6	X-22	RLの縄の周囲に別の縄(ｒ)巻き絡めて施文。	10YR7/4	無	白色粒子多、雲母、白色岩片
971	ab	106	Ⅴ	6	－	縦位にRLの縄文を施文。刻みのある浮線文。半截竹管状の工具による沈線文。	10YR7/4	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
972		106	Ⅴ	6	－	横位にLRLの縄文を施文。横位の平形工具による刻みのある浮線文。	10YR7/4	無	白色粒子、赤色粒子少

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
973		106	V	6	AH-26	内湾する口縁部に縦位の刻みのある浮線文。縄文を地文とし横位に刻みのある浮線文を施す。	5YR5/8	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、輝石
974		107	V	5	－	外面の口縁部に半截竹管状の工具による押引きによる結節沈線文。平行沈線文で渦巻状の文様を施す。内面にナデ。	5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多、白色岩片多
975	ab	107	V	5	AI-27他	外面は横位・縦位・斜位の集合沈線文。瘤状の貼付文。内面にナデ。	7.5YR4/1	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
976	ab	107	V	5	AI-27他	外面に半截竹管状の工具により縦位に集合沈線文で区画し、斜位の集合沈線文で充填。底部外面に平行沈線文。内面にナデ。	7.5YR6/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母、白色岩片多
977	abc	107	V	5	－	口唇部に刻み。口縁部に三角形状の印刻文。胴部には三角形状の印刻文と多方向に半截竹管状の工具による結節沈線文を施す。内面にナデ。	7.5YR6/2	有	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
978		107	V	5	AI-27他	口唇部直下に三角形状の印刻文と浮線文。突帯を巡らせ、半截竹管状の工具による結節沈線文を施す。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
979		107	VI		AA-22	波状口縁。波頂部近くに指頭圧痕。LR等の縄文。	7.5YR6/3	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
980	ab	107	VI		AI-28	Rの縄文。	5YR4/6	有	
981			VI		－	L？の縄文。	10YR4/1	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
982		107	VI		AA-22	RLとLRの縄文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
983		107	VI		AA-22	LR？の縄文。	7.5YR5/4	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
984		107	VI		AI-30	底部。平底。L?の縄文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、雲母、白色岩片
985		107	VI		AA-23	RLの縄文を横回転。	7.5YR5/3	多	白色粒子、白色岩片
986		107	VI		AA-21	RL縄文。	7.5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
987			VI		AE-23	RLの結束縄文を横回転。	5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
988	ab	107	VI		AI-27	l?の撚糸文を横回転・斜め回転。	5YR5/6	多	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片多
989	ab	107	VI		AH-26他	RL・LRの結束縄文を横回転。底部は平底。	7.5YR6/6	多	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
990		108	VI		－	口唇部に縄文。羽状縄文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
991		108	VI		AB-23	波状縁。羽状縄文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
992	ab	108	VI		AA-22他	波状口縁。口唇部に縄文。LRの羽状縄文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
993		108	VI		AA-22	LRの羽状縄文。	7.5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
994	abc	108	VI		AB-24	RL・LRの羽状縄文。	7.5YR5/6	多	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
995	ab	108	VI		AF-21	波状口縁。RLの縄文。	7.5YR5/8	多	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
996	ab	108	VI		AH-19	LRの縄文。	7.5YR6/6	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
997		108	VI		AI-21他	RLの縄文。	5YR5/8	無	黒色粒子、白色岩片
998	ab	108	VI		－	RLの縄文。	7.5YR5/3	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
999	abc	108	VI		AB-23	胴部中位を内湾。RLの縄文。	5YR4/3	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1000		108	VI		AA-22他	LRの縄文。	10YR6/2	有	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1001	ab	108	VI		Z-22他	RL・LRの縄文。	7.5YR5/4	有	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
1002		109	VI		AH-19	LRの縄文。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1003		109	VI		AB-23	RLの縄文。	7.5YR4/3	有	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1004		109	VI		AB-22	RLの縄文。	5YR4/6	多	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
1005		109	VI		Z-22	RLの縄文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、白色岩片多
1006		109	VI		AI-21	LRの縄文。	2.5Y4/2	有	白色粒子、黒色粒子
1007		109	VI		AD-22	波状口縁。外面にLRの縄文横回転。擦痕。内面に条痕文。	10YR5/2	多	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1008		109	VI		AI-20	RLの縄文。	7.5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1009		109	VI		N-4	波状口縁。RLの縄文。	5YR4/6	多	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1010		109	VI		AA-22	RL？の縄文。	5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1011		109	VI		AJ-21	RLR？の縄文。	5YR5/8	有	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片多
1012		109	VI		－	外面にLRの縄文(大粒と小粒)。内面ナデ。	7.5YR5/4	多	白色粒子多、黒色粒子、雲母、白色岩片
1013		109	VI		V-17	羽状縄文。	5YR4/4	多	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1014		109	VI		AF-21	RL縄文。	10YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1015		109	VI		AD-25	LR？の縄文。底部付近。	7.5YR6/6	有	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1016		109	VI		AH-26	Lの縄文。	7.5YR5/8	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1017		109	VI		AA-22	底部。LRの縄文。	5YR4/4	有	白色粒子多、黒色粒子
1018		109	VI		AB-25	底部。RLの縄文。	5YR4/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1019		109	VI		－	口唇部に、縄文を施す。半截竹管状の工具により横位に沈線文・刺突文。	7.5YR5/6	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1020		109	VI		AA-21	口縁部に矢羽状文。	7.5YR4/4	有	白色粒子、白色岩片多
1021		109	VI		Z-22	平底。	7.5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1022		110	VI		W-12	LRの縄文。	7.5YR4/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
1023		110	VI		AH-19	LR縄文。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1024		110	VI		AI-21	LR縄文。	10YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1025		110	VI		AF-21	LRの縄文。	7.5YR5/8	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1026		110	VI		AI-19	RLの縄文。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
1027	ab	110	VI		AH-19	LRの縄文。	10YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1028		110	VI		AF-23	RLの縄文。	5YR5/6	無	黒色粒子、白色岩片
1029		110	VI		AE-20	LRの縄文。	10YR6/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1030		110	VI		AN-23	LRの縄文。	7.5YR5/8	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片多
1031		110	VI		AF-23	LR？の縄文。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1032		110	VI		W-12他	LRの縄文。	5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片多
1033		110	VI		AI-20	波状口縁。LRの縄文。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
1034		110	VI		AJ-20他	LRの縄文。	10YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1035	ab	110	VI		AC-26他	LRの縄文。	10YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1036		110	VI		AI-21	RLの縄文。前々段多条。	5YR5/8	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1037		110	VI		AA-13	LR？の縄文。	2.5Y5/4	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
1038		110	VI		Y-13	LRの縄文。	5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1039		110	VI		AF-21	RLR？の縄文。	10YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1040		110	VI		AF-23	RL？の縄文。	5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片多
1041		110	VI		AI-20	LR縄文。	10YR6/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1042		110	VI		AH-19	LR？の縄文。	7.5YR5/8	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1043		110	VI		Y-12	LRの縄文。	5YR5/8	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
1044		110	VI		V-13	L？縄文。	10YR6/6	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
1045		110	VI		AI-20	LR？の縄文。	5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
1046		110	Ⅵ		Q-9	Ｌ縄文。	5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1047		110	Ⅵ		AF-22	RLの縄文。	10YR6/6	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
1048		110	Ⅵ		AE-22	ヘラミガキ。LRの縄文。	10YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1049		110	Ⅵ		AI-27	羽状縄文(LとRの縄文を結束)。	7.5YR6/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母
1050		111	Ⅶ	1	AA-14	縄文を地文。横位に沈線文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1051		111	Ⅶ	1	AF-22	縄文を地文。棒状工具による沈線文。	7.5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1052		111	Ⅶ	1	R-14	縄文を地文。半裁竹管状の工具による沈線文。	7.5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1053		111	Ⅶ	2	AF-19	横位に2本の角押文を施し、その直下に縦位の角押文。	5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1054	ab	111	Ⅶ	2	AH-27他	口縁部のＹ字状の突起。縄文。２本の隆帯の間に太い沈線文。角押文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1055		111	Ⅶ	2	－	横位の隆帯と曲線の隆帯による楕円区画文か。隆帯に沿って角押文を施す。	7.5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1056		111	Ⅶ	2	AD-23	口唇部は平坦面を作り出し、三角押文を施す。	5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
1057		111	Ⅶ	2	AP-23	波状口縁。口唇部に刻み。三角押文。渦巻文。	7.5YR7/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1058		111	Ⅶ	2	S-8	波状口縁。波頂部より隆帯を垂下。三角押文を施す。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片多
1059		111	Ⅶ	2	－	波状口縁。三角押文と角押文が施される。	5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1060	ab	111	Ⅶ	2	－	横位に三角押文。	5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子
1061		111	Ⅶ	2	AP-23	横位の隆帯。三角押文。横位・縦位の沈線文。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1062		111	Ⅶ	2	AJ-21	縦位・横位の沈線文により区画。区画内に三角押文。	5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
1063		111	Ⅶ	2	AF-25	横位の隆帯に沿って三角押文。	5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1064		111	Ⅶ	2	AD-22	横位に三角押文。	5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1065	ab	111	Ⅶ	2	AH-25	隆帯により区画。区画内に三角押文。	5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1066		112	Ⅶ	2	AP-24	隆帯を貼付け。平行沈線文・キャタピラー文。	7.5YR5/8	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1067	ab	112	Ⅶ	2	Z-15	波状口縁。波頂部に渦巻き状のモチーフか。隆帯による区画内をキャタピラー文、三角押文により充填。	5YR4/8	無	白色粒子多、黒色粒子、雲母
1068	ab	112	Ⅶ	2	Y-23	縦位の短隆線の周囲にキャタピラー文、三角押文を施す。	5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
1069		112	Ⅶ	2	－	キャタピラー文により抽象文を作る。円形刺突文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1070		112	Ⅶ	2	－	隆帯を貼付け。縄文。	7.5YR4/3	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1071		112	Ⅶ	2	Z-22	横位に爪型文を施した隆帯。半截竹管状の工具による長方形の区画内に縄文を充填。	5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多
1072		112	Ⅶ	2	R-9	方形の区画内に刺突文と縄文を充填。	7.5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1073		112	Ⅶ	2	－	半截竹管状の工具により渦巻文を施す。隆線上にキャタピラー文。	7.5YR4/4	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多、白色岩片
1074		112	Ⅶ	2	AD-24	半截竹管状の工具による沈線文。隆線上にキャタピラー文。	5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、、白色岩片
1075		112	Ⅶ	2	AJ-22	半截竹管状の工具により渦巻状を施す。隆線上に刺突文。	7.5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母多、白色岩片
1076		112	Ⅶ	2	Y-12	半截竹管状の工具により渦巻状を施す。隆線上にキャタピラー文。	7.5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1077		113	Ⅶ	2	AJ-21	斜位に隆帯を貼付け。隆帯上に爪形文。沈線文。	7.5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、、白色岩片
1078		113	Ⅶ	2	－	縦位に隆帯を貼付け。隆帯上に刺突文。太い沈線文。	7.5YR4/4	無	白色粒子多、黒色粒子多、、白色岩片
1079		113	Ⅶ	2	AN-23	隆帯を貼付け。刺突文。	5YR4/4	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母、白色岩片
1080	a	113	Ⅶ	2	AE-24	蛇？のモチーフを施す。口唇部の内面に隆帯を貼付け。	5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1080	b	113	Ⅶ	2	AE-24	波状縁。波頂部から縦位の隆帯文。キャタピラー文。口唇部の内面側に隆帯文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1080	c	113	Ⅶ	2	AE-24	縦位に沈線文とキャタピラー文。	7.5YR4/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1080	d	113	Ⅶ	2	AE-23	縦位に沈線文とキャタピラー文。	5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1080	e	113	Ⅶ	2	AF-22	縦位に沈線文とキャタピラー文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1080	f	113	Ⅶ	2	AE-24	横位の隆帯文と縦位の沈線文とキャタピラー文。	5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1080	g	113	Ⅶ	2	AD-22	縦位のモチーフの脇に沈線文とキャタピラー文。	5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1080	h	113	Ⅶ	2	AE-24	縦位に沈線文とキャタピラー文。	5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1080	i	113	Ⅶ	2	AE-24	縦位のモチーフの脇に沈線文とキャタピラー文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1080	j	113	Ⅶ	2	AE-24	縦位に沈線文とキャタピラー文。	5YR5/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1081		113	Ⅶ	2	AF-22	隆帯を貼付け。縦位の沈線文。渦巻状の隆線文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1082		113	Ⅶ	2	－	楕円状の隆線の区画内を斜位の沈線文により充填。	7.5YR5/4	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1083		113	Ⅶ	2	AH-30	楕円状の隆線の区画内を斜位の沈線文により充填。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子多、、白色岩片
1084		114	Ⅶ	2	AF-23	波頂部に渦巻き状の隆帯文。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1085	ab	114	Ⅶ	2	－	縦位・渦巻状の隆帯文。沈線文。	10YR6/4	無	白色粒子、黒色粒子多、雲母多、白色岩片
1086	abcd	114	Ⅶ	2	－	波状口縁。突起部。波頂部の外面内面に逆「Ｖ」字状の沈線文。環状に隆帯文・隆線文を施す。	7.5YR4/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1087		114	Ⅶ	2	AN-23	把手の欠損部。蛇のモチーフか。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1088		114	Ⅶ	2	AH-26	横位に刻みが施された隆帯文。横位の沈線文。環状モチーフ。	7.5YR6/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母、白色岩片
1089		114	Ⅶ	2	AP-23	口唇部に突起を貼付け。縦位にキャタピラー文を施した隆線文。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、、白色岩片
1090		114	Ⅶ	2	AP-23	縦位のキャタピラー文・沈線文。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母、白色岩片
1091	abcd	115	Ⅶ	2	Y-12	口縁部は屈曲する。口唇部は肥厚し口唇部の側面側から把手部に続く刻み。頚部から胴部にかけてLRの縄文。	7.5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、輝石、白色岩片
1092		115	Ⅶ	2	AH-26	屈曲部の上位にRLの縄文。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、輝石、白色岩片
1093		114	Ⅶ	2	－	口唇部直下より縄文を施文。下端にキャタピラー文。	7.5YR5/8	無	白色粒子、黒色粒子、輝石、白色岩片
1094		114	Ⅶ	2	－	口唇部を内側へ肥厚。縄文。口唇部に沿って波状の沈線文。	7.5YR4/6	無	黒色粒子多、白色岩片
1095		114	Ⅶ	2	AI-20	口唇部に沿って横位の沈線文。	7.5YR3/2	無	黒色粒子多、白色岩片
1096		114	Ⅶ	2	AH-26	内湾する口縁部。横位に刺突文。横位・斜位に平行沈線文・キャタピラー文か。	7.5YR4/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1097		114	Ⅶ	2	AN-22	横位に沈線文。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1098		114	Ⅶ	2	AH-29	縦位・横位に沈線文。	7.5YR5/2	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1099	ab	116	Ⅶ	3	Q-10他	横位・縦位に波状の浮線文。縦位の沈線文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
1100		116	Ⅶ	3	AD-26	縦位に編紐状の浮線文と沈線文。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母、白色岩片
1101		116	Ⅶ	3	AI-20	縦位と斜位の沈線文。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1102		117	Ⅶ	3	AD-23他	口縁部は無文。胴部に2本の横位隆帯文の間に渦巻き文と縦位の沈線文。縦位に円形刺突文・沈線文。	7.5YR5/4	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1103		116	Ⅶ	3	AG-19	横位に隆帯文。櫛歯状の工具による沈線文。	10YR6/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1104		116	Ⅶ	3	X-013	横位に半截竹管状の工具による平行沈線文。縦位・波状の沈線文。Ｌ字状のモチーフ。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片

挿図番号	挿枝	図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	文様調整等	色調(Hue)	繊維	胎土
1105		116	Ⅶ	3	AE-24	渦巻文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1106		116	Ⅶ	3	AD-23他	横位に低隆帯を施し、横位に指頭による凹線文。縦位の沈線文・懸垂文。	5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1107		116	Ⅶ	3	AI-21他	渦巻文。低隆帯による区画内に短い沈線文列。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1108		116	Ⅶ	3	Y-12	縦位に隆帯。縦位の沈線文。	7.5YR4/3	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片多
1109		116	Ⅶ	3	Y-11	口唇部直下に縄文。横位・「ハ」字状の沈線文。	5YR4/8	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1110		116	Ⅶ	3	AH-22	縦位の平行沈線文による区画内に「ハ」字状の沈線文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
1111		116	Ⅶ	3	AI-21他	縦位の隆帯文。「ハ」字状の沈線文。	5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1112		117	Ⅶ	4	AH-19	渦巻文・磨消縄文。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
1113		117	Ⅶ	4	Y-11	波状口縁。波頂部に盃状突起と把手を設ける。波頂部直下には磨消縄文や隆線により逆Ｕ字形のモチーフを施す。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片多
1114		117	Ⅶ	4	X-12	波状口縁。渦巻状の隆線と沈線文。	10YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
1115		117	Ⅶ	4	AI-20	横位の沈線文。縄文。	10YR6/6	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
1116		117	Ⅶ	4	AO-23	縄文。	10YR6/8	無	黒色粒子多、白色岩片
1117		117	Ⅶ	4	X-12	底部。棒状の工具による沈線文。	10YR6/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、雲母、白色岩片
1118		117	Ⅷ		AI-20	壺状の装飾突起物か。	7.5YR4/4	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1119		117	Ⅷ		W-12	斜位に棒状の工具による沈線文。	10YR6/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1120		117	Ⅷ		Z-22	横位に半截竹管状の工具による沈線文。	7.5YR4/6	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
1121		117	Ⅷ		AC-26	沈線文と撚糸文。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1122		117	Ⅷ		AF-21	縄文と沈線文。	5YR4/3	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1123		118	Ⅸ	1	AB-24	磨消縄文と沈線文。	7.5YR4/2	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1124		118	Ⅸ	1	AH-20	縄文を施し、縦位の沈線文。	10YR5/2	無	白色粒子、黒色粒子、雲母、白色岩片
1125		118	Ⅸ	1	AD-26	縄文を施し、沈線文。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1126		118	Ⅸ	1	AH-21	縦位の沈線文。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1127		118	Ⅸ	1	AG-20	縦位の沈線文。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子
1128		118	Ⅸ	1	AF-21	横位の沈線文。	7.5YR7/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1129		118	Ⅸ	1	AF-20	沈線文。	7.5YR6/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1130		118	Ⅸ	2	AH-19	波状口縁。口唇部を肥厚させる。波頂部は内側へ突起させ、両脇を穿孔する。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1131		118	Ⅸ	2	K-14	波状口縁。口唇部を内側に折り返す。波頂部に穿孔有り。	5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
1132		118	Ⅸ	2	Z-011	波状口縁。口唇部を内側に折り返す。外面内面にミガキ。	5YR4/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
1133		118	Ⅸ	2	AF-22	波状口縁。口唇部は内側へ折り返す。波頂部の外面に３カ所、内面に２カ所の円形刺突文。沈線文。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1134	ab	118	Ⅸ	2	AD-23他	波状口縁。口唇部を内側へ折り返す。横位・斜位の沈線文。	7.5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1135	a	118	Ⅸ	2	N-8	口唇部は内側に折り、突起状にする。口唇部内側に円形刺突文。横位に２本の沈線文。磨消縄文。沈線文。	7.5YR5/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1136		118	Ⅸ	2	Z-13	横位の沈線文。懸垂文・磨消文。	10YR7/4	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1137		118	Ⅸ	2	AJ-21	横位・縦位の沈線文。	5YR4/4	無	白色粒子多、黒色粒子、輝石
1138	ab	119	Ⅸ	2	N-6	口唇部の突起の内面側に指頭で凹みをつくる。口唇部に刻みとミガキ。縄文を施し、沈線文を施文。	5YR4/8	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
1139	ab	119	Ⅸ	2	AE-25	波状口縁。口縁部は沈線文と刻み。波頂部に焼成前の穿孔と弧状の沈線文。胴部に沈線文。	10YR5/4	無	白色粒子多、黒色粒子、雲母多
1140		119	Ⅸ	2	AC-25	屈曲部に横位の沈線文と円形刺突文。	5YR5/8	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片多
1141		119	Ⅸ	2	AI-20	波状口縁。口縁部に横位の沈線文と刻み。縦位の沈線文。	5YR4/4	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1142		119	Ⅸ	2	V-12	沈線文。	5YR4/8	無	白色粒子、黒色粒子多、白色岩片
1143		119	Ⅸ	2	X-12	横位の沈線文。渦巻文か。	5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
1144			Ⅸ	2	AJ-21	横位の沈線文。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1145			Ⅸ	2	AG-20	斜位の沈線文。	7.5YR5/8	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片多
1146			Ⅸ	2	AA-13	口唇部は欠損して形状不明。横位の沈線文。	10YR7/4	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1147		119	Ⅸ	2	X-11	横位の細隆起線上に刻み。縄文。平行沈線文。	5YR4/6	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片多
1148			Ⅸ	2	AC-20	縦位の細隆起線上に刻み。縄文。	5YR4/6	無	白色粒子多、雲母、白色岩片
1149		119	Ⅸ	3	−	波状口縁。波頂部の外面内面に渦巻状の沈線文。外面には横位の微隆線で波頂部直下に懸垂文。微隆線には連続刺突文。	5YR4/4	無	白色粒子多、黒色粒子多
1150		119	Ⅸ	3	V-13	波頂部の突起部。突起の外面には菱形状に沈線文を施す。内側にはＳ字状の沈線文。	10YR5/4	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1151		119	Ⅸ	3	V-14	横位の沈線文。沈線文による逆三角形状の区画内に磨消縄文。	10YR5/4	無	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
1152		119	Ⅸ	3	W-11	菱形状に沈線文を施す。	10YR4/4	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1153		119	Ⅸ	4	AN-22	口唇部に瘤状の突起を貼付け。口縁部にヘラ状工具で刻み。横位に連続した刺突文。	10YR5/3	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
1154		119	X		AE-23	底部外面に木葉痕とモジリ編状の圧痕。	7.5YR5/6	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片

２　石器・石製品（第144～184図　写真図版120～133）

包含層等から出土した縄文時代以降の石器・石製品は総点数7,872点である。このうち縄文時代のものと考えられる石器・石製品は第13表にあるように7,851点を数え、全体の99％を占める。これは先に刊行した『富士石遺跡Ⅱ』で掲載した縄文時代草創期に位置づけられる尖頭器を除いた数字である。またこの表で示されているように剥片石器類4,573点、磨石・敲石類は1,947点である。石鏃が387点、打製石斧42点、石核344点、スクレイパー66点、楔形石器86点を数え、富士石遺跡で包含層と遺構から出土した縄文時代石器の主体を占めるのは剥片・砕片で全体の約58％を占める。その次に敲石で全体の16％､磨敲石は９％である。当該遺跡付近に展開する梅ノ木沢遺跡の縄文時代の石器（包含層）は磨石・敲石が16％、桜畑上遺跡（東駿河湾環状道路に伴う調査）では磨・敲石３％、磨石１％、敲石３％等である。いずれの遺跡も営まれた時期に差があるため、一概に比較するのは不適であるが、撹乱から出土したものも勘案すれば、富士石遺跡では磨石・敲石の類が多い傾向がまず読み取れよう。

石鏃（第144～148図　写真図版120・121）

1155～1297は石鏃及び石鏃未製品である。これらは調査区全域で出土しているが、出土分布の中心は中央尾根付近である（第131図)。

出土した縄文時代の石鏃は打製で、大半は無茎鏃である。その中で1155・1156は茎部を有する石鏃である。両者とも茎部が欠損し、一部が残存するのみである。前者は縁辺中央部が括れる。この２点は脚（逆刺）がわずかに発達している点から有茎凹基鏃に分類されよう。

1157～1258は無茎凹基鏃に分類されよう。そのうち1157～1159は長く脚部が発達した凹基無茎鏃である。1157は完形であり、残り２点は脚部が欠損している。無茎凹基鏃でも尖脚鏃である。1160～1233も無茎凹基鏃である。いずれの資料も1157～1159程の長脚ではないが、尖脚である。平面形は正三角形・二等辺三角形・縦長二等辺三角形等のバリエーションに分類できる。石材は1160～1224が黒曜石、1230～1232はガラス質黒色安山岩である。1234～1251は脚部先端が丸みを帯びる無茎凹基鏃である。これらの中で1234は長脚である。1244は厚みがあるため未製品の可能性もある。石材は1250がチャート、1251がホルンフェルスで、1234～1249は黒曜石である。なお後述する1285は厚みもあるため、未製品の可能性が高いが、脚部の先端が丸みを帯びているため、このタイプに分類できる可能性がある。1252～1255は脚部先端が平坦となる無茎凹基鏃である。前者２点の平面形は正三角形に近く､石材は黒曜石である。後者２点は縦長二等辺三角形で、1254の石材は珪質シルト岩、1255は下呂石である。1256は大型で縁辺を鋸刃状に加工した凹基無茎鏃である。脚部は角状か。平面形は縦長二等辺三角形で、石材はガラス質黒色安山岩である。1257・1258は脚部が欠損しているため判然としない資料である。

1259～1275は無茎平基鏃である。ただし1265のように厚みのある資料もあり、未製品が含まれているものと考えられる。平面形が正三角形に近い1259や、膨らみのある二等辺三角形の1262、縦長二等辺三角形を呈する1275等、いくつかのバリエーションに分類できる。1259～1272の石材は黒曜石、1273・1274はガラス質黒色安山岩、1275は珪質頁岩である。

1276は無茎円基鏃に分類される。小さい資料であり､基部を凹基に作り出そうとした痕跡が無いため、円基鏃と考えられた。石材は黒曜石である。

1277～1297は不定形の石鏃である。石鏃未製品と考えられる。石材は全て黒曜石である。

スクレイパー（第149～152図　写真図版122）

1298～1320はスクレイパーに分類したものである。剥片を利用した石器で、縁辺に剥離加工を施して刃部を作り出したものである。調査区全域で出土しているが、出土分布の中心は中央尾根である（第

第13表　縄文時代石器組成表

			石鏃	スクレイパー	石匙	石錐	楔形石器	石核	打製石斧	磨製石斧	石錘	礫器	磨石	敲石	磨敲石	石皿	台石	二次加工剥片	使用痕剥片	剥片・砕片	原石	計
黒曜石	天城柏峠群	AGKT	44	6		1	16	28										7				102
	箱根畑宿群	HNHJ	14	5			1	9										5	1			35
	箱根黒岩橋群	HNKI		1																		1
	箱根鍛冶屋群	HNKJ	1																			1
	神津島恩馳島群	KZOB	194	20	1	8	49	204										51	1			528
	諏訪星ヶ台群	SWHD	78	2		4	16	54										16				170
	蓼科冷山群	TSTY		2				1														3
	和田土屋橋北群	WDTK	1																			1
	和田土屋橋西群	WDTN						1										1				2
	和田鷹山群	WDTY	18	2				5										1				26
	その他産地	NK	1																			1
	推定不可		11		1	1	3	1														17
	未分析																			4188		4188
玄武岩		Ba								1		3		289	171	15	52			3		534
多孔質玄武岩		VBa									1	1		126	100	30	40					298
粗粒玄武岩		Do												10	4							14
ガラス質黒色安山岩		GAn	12	5	1			5										3		64		90
細粒安山岩		FAn						4						2						11		17
輝石安山岩		An(Py)		3				1	10		1	8		659	368	31	60	2		17		1160
角閃石安山岩		An(Ho)												1								1
多孔質安山岩		VAn										1		30	28	5	6					70
デイサイト		Da												50	22	1				1		74
細粒デイサイト		FDa																		1		1
下呂石		GRS	1																	2		3
流紋岩		Rhy	1									1		2	1					9		14
アプライト		Ap											1	1	2							4
ひん岩		Po												2						1		3
石英斑岩		QP												5								5
閃緑岩		Di												4	3							7
石英閃緑岩		QD												1								1
花崗岩		Gr												1	1							2
蛇紋岩		Sp								1												1
カンラン岩		Pe								1												1
斑レイ岩		Ga								1												1
細粒斑レイ岩		FG												1	1							2
珪質岩		SR						1												2		3
玉髄		Cha																		1		1
水晶		RC																		3		3
石英		Qt																		1	1	2
石英岩		Si												1								1
黄玉石（碧玉）		YJa																		1		1
赤玉石（碧玉）		RJa				1		1														2
圧砕岩		My								1												1
結晶片岩		CSc							3		1									1		5
緑色片岩		GS									1									1		2
ホルンフェルス		Hor	2	14	3	1		25	2			2						4		186		239
細粒凝灰岩		FT								1												1
硬質細粒凝灰岩		HFT		2	1	1			2									1		5		12
軟質細粒凝灰岩		SFT	1																			1
緑色凝灰岩		GT							1	3										1		5
珪質シルト岩		SSi	2	1	1			3		1				1						6		15
頁岩		Sh							10		2			1						17		30
赤色頁岩		Sh(Re)												1								1
珪質頁岩		SSh	2					1										1		17		21
硬質頁岩		HS																1		1		2
粘板岩		Sl		1																2		3
珪質粘板岩		SSl	1																	4		5
細粒砂岩		FSS							4		1	5		7	2			1		14		34
中粒砂岩		MSS							6		3		1	16	16					5		47
粗粒砂岩		CSS							1					6	7					1		15
硬質砂岩		HSS							2													2
細礫岩		GC							1													1
礫岩		Con												2								2
チャート		Ch	3	2	2		1												1	7		16
計			387	66	10	17	86	344	42	10	10	21	2	1219	726	82	158	94	3	4573	1	7851

表土・撹乱出土77点含む

132図)。

1298～1309は片刃を作り出しているタイプで、そのうち1298～1304は側縁部に刃部を設けたもので、1305～1309はそれ以外の部分に刃部を作り出している。石材として1298～1300は黒曜石を使用し、それ以外はホルンフェルス、ガラス質黒色安山岩、硬質細粒凝灰岩、チャート等が散見される。

1310～1320は両刃を作り出しているタイプである。そのうち1310～1312は側縁部に刃部を設けたもので、1313～1320はそれ以外の部分に刃部を作りだしている。石材は黒曜石、ホルンフェルス、ガラス質黒色安山岩が見られる。

石匙（第153・154図　写真図版123）

1321～1329は石匙である。出土位置は調査区北半部が殆どで､中央尾根と東尾根にかかる（第133図)。石匕とも表記されるこの石器は全体的な形状等から、縦型石匙と横型石匙に分類できる。このうち1321・1322が縦型で、残りは横型石匙である。1321はつまみを瘤状に作り出しているが、1322は単に側縁に抉りを入れているに過ぎない。1321の石材は黒曜石、1322は硬質細粒凝灰岩である。

1323～1329は横型石匙である。そのうちつまみを中軸とし、刃部が左右対称に展開するタイプが1323・1324であるが、1325～1329はつまみが刃部に対して斜位で、つまみを中軸にした場合、左右非対称となるタイプである。石材は黒曜石、ホルンフェルス、チャート等が散見される。

石錐（第155図　写真図版123）

1330～1338は石錐である。出土位置は調査区北半部に限定され、中央尾根で出土したものが殆どである（第134図)。剥片の一部に敲打を加え、錐部を作り出したものが殆どであるが、1330・1331のように錐部があまり明瞭でないタイプもある。錐部が作り出されているタイプは、錐部自体が欠損しているものが多い。石錐の石材としては黒曜石がほとんどで、1337がホルンフェルス、1338が硬質細粒凝灰岩である。

楔形石器（第155図　写真図版123）

1339～1343は楔形石器である。剥片の上端下端に打撃が加えられたものを分類している。出土位置は調査区北半部に多く、中央尾根付近を中心に出土している（第135図)。全て黒曜石で、1343のみわずかに礫面を残す。

石核（第156～163図　写真図版124・125）

1344～1384は石核である。石核は石器の材料とする剥片を剥離した後の残存物とされる。石核は調査区内より合計344点出土しているが、今回は41点のみ掲載した。石核は調査区全域で出土しているが、特に中央尾根から東支谷にかけて多く出土する（第136・137図)。石材は黒曜石が全体の約88％を占め、その中でも神津島恩馳島群に属する黒曜石が204点を数え、石核全体の約59％を占めている。次に諏訪星ヶ台群が54点と多い。黒曜石以外はホルンフェルス、ガラス質安山岩等が挙げられる。石材別の分布では神津島恩馳島群の黒曜石石核は調査区全域から出土している一方、箱根畑宿群黒曜石の石核は中央尾根周辺に限定される状況も見受けられる。

石核は剥離面を打面とするもの､礫面を打面とするものに大別される。1344～1373は前者に分類され、このタイプは32点を数える。このタイプは固定して一方向に剥離させるものと、剥離を転移させるものに細分が可能である。1344～1353は前者、1354～1373は後者か。また接合資料である1384は一方向から剥離させた資料であろう。

1374～1383は礫面を打面とするもので、これも固定して一方向に剥離させるものと、剥離を転移させるものに細分が可能である。1374～1379は前者にあたり、後者は1380～1383である。なお礫面を打面とするものは東尾根付近では出土していないのが特徴的である。

打製石斧（第164～170図　写真図版126・127）

1385～1412は打製石斧である。発掘調査の結果、42点出土したが、そのうち29点を掲載した。調査区のほぼ全域から出土し、集落域である中央尾根付近に特に集中する状況ではない（第138・139図）。石材では輝石安山岩と頁岩がともに10点確認され、両者で48％を占める。また細粒・中粒・粗粒・硬質砂岩等の砂岩類は合計13点を数える。石材毎の分布の違いは特に見い出せない。形状の点では短冊型・撥型・分銅型・尖頭型等に分類が可能である。

1385～1390は短冊型である。両側縁はほぼ平行である。礫面を残す資料が多い。1388～1390は柄との装着のためか、両側縁の一部のエッジを敲打で潰した痕跡が明瞭に残る。1386は刃部、1390は刃部・基端部の一部が欠損している。

1391～1396は撥型である。側縁は直線的であるが刃部がハの字状に広がり、石斧最大幅が刃部付近に位置する。礫面を残す資料も散見される。1391は両主面に礫面が残し、原石の形態を留める。基端部の形状はほぼ丸く仕上げる資料が多いが、1395のように平坦に仕上げた例もある。1396は頁岩の剥片を利用した打製石斧である。形状を整える為の剥離は行われておらず、刃部付近に剥離が見られる程度である。粗製といえる。

1397～1405は分銅型である。両側縁に敲打を行い、括れさせている。括れが浅いため短冊型・撥型に近い形状を呈するものや、側縁中位を大きく括れさせ分銅状を呈するもの、基端部・側縁部が丁寧に剥離調整されているもの等、形状で細分が可能である。1397は接合資料である。刃部が大きく折損している。残存状況から基端部に比べて、刃部が大きく広がるものと考えられる。1398・1399は側縁中位に浅い抉りを入れた資料である。1398は両主面に礫面が残り、抉りには細かな敲打痕が散見される。1399は両頭石斧として機能した可能性があるか。1400は全体的に撥型であるが、抉りを強めに入れている。1401は輝石安山岩の剥片を材料とし、整形のための剥離調整は刃部や抉り付近に行われているのみである。1402～1405は殆ど礫面が残置していない資料である。1402は縁部にわずかであるが礫面が残る。抉りは大きく入れられ、最後に細かな敲打がなされている。1403～1405は基端部が直線的に仕上げられたもので、いずれも輝石安山岩製である。1405は板状の剥片を利用している。

1406～1409は尖頭型で、基端部が尖るものである。1406は全体の形状は撥型に近いが、基端部幅と刃部幅の比が著しいため、尖頭型に分類される。刃部は使用のため、磨滅気味である。基部中位で折損している。1407はホルンフェルスを石材とする。剥片をそのまま転用したものか。側縁にも剥離調整の痕跡は認められない。1408・1409は刃部が失われた資料である。1408は概ね短冊型であるが、基端部が尖っている。1409の基端部はあまり尖らせていない。片側側縁に細かな敲打を加えて、抉りを設けている。

1410～1412は細分し得なかった資料である。1410・1411は刃部・基端部が折損している。1410は両主面に礫面が残る。1411は接合資料である。1412は硬質細粒凝灰岩製の打製石斧である。礫面がよく残り、円礫だった原石の形態が理解される。平面形は楕円形を呈し、柄部への装着に難があるため、使用法等が考慮される。

磨製石斧（第170・171図　写真図版127）

1413～1420は磨製石斧である。調査の結果、10点出土しており、そのうち８点を図化・掲載した。磨製石斧の出土位置の点では、特に集中した状況は観察されない。石材の点では緑色凝灰岩、細粒凝灰岩

の堆積岩の他に、蛇紋岩・カンラン岩・斑レイ岩等の深成岩が散見される。比重があり、粘りのある石材が選択されている。1413は円礫の表面を磨きあげている。側縁に一部、面を作り出している。1414は刃部の幅が狭小であるため、鑿等の加工斧として機能したものか。細長い礫の一側縁に剥離調整を施して、形を整えている。1415は定角式石斧か。基端部と刃部が欠損している。器面は丁寧に磨きあげられている。1416～1420は乳棒状石斧に分類される。1416・1417は基端部のみの破片資料である。1418～1420は刃部が欠損した資料である。３点とも緑色凝灰岩である。1419は整形時の敲打痕が顕著に残り、他の２点は丁寧に磨きあげられている。1420は両主面に残る大きな剥離の範囲がほぼ同一であるため、装着された柄部の範囲を想起させる。また刃部折損部には敲打痕が見られるため、敲石に転用された可能性がある。

石錘（第172図　写真図版128）

1421～1426は石錘である。富士石遺跡では10点出土しているが、そのうち６点を図化・掲載した。石材では砂岩類が多い傾向にある。出土位置は中央尾根を中心に出土している（第140図）。石錘は全て扁平な円礫を用い、両端を打ち欠いた打欠石錘が殆どである。ただし1421は切目を入れた切目石錘に分類されるものである。

礫器（第172図　写真図版128）

1427～1429は礫器である。調査区から21点出土しているが、そのうち３点を図化・掲載した。石材は輝石安山岩が多い。出土位置は調査区のほぼ全域に位置するが、中央尾根付近に集中する（第140図）。石材も安山岩・玄武岩等入手しやすい火成岩が６割を占めている。1427・1428はホルンフェルスで、礫面が多く残る。石核の可能性を残す資料である。1429は細粒砂岩の礫器である。河川礫か。刃部は両面から剥離を加えて作られている。

磨石・敲石類（第173～181図　写真図版129～132）

1430～1511は磨石・敲石類である。表面に磨り・敲きの痕跡が窺われ、物を磨り潰す、もしくは粉砕、敲打する用途に用いられた石器群であるが、磨り・敲打の痕跡両方が認められるものや、凹みも認められるものもあり、多くの細分が可能である。これらは使用用途の差であり、加えて磨り・敲きの動作の過程中で合理的な動作中で発生したものと捉えられよう。

第13表に示したように磨石・敲石類は合計1947点を数え、出土石器中約25％も占めている。第14表は磨石・敲石の組成を示したものである。磨った痕跡のみを残す資料はわずか２点のみであり、敲いた痕跡のみを残すものが1219点と大多数を占めている。また磨り痕または敲打痕が認められる資料はバリエーションが33種認められる。出土位置は調査区全域で出土し、中央尾根周辺に濃密な分布を示す（第141図）。中央尾根・東尾根・東支谷で出土した資料が接合した例や、他に中央尾根出土資料と100ｍ以上離れた東支谷最深部付近出土資料が接合した例もあるため、慎重に検討したい。第14表に示した細分類のうち、稜部に敲き・磨りによる平坦面が４～６面にわたるもの、棒状礫の稜部が敲き・磨りによる平坦面として多面にわたるもの、楕円状礫の全面にわたり敲き・磨った資料等は中央尾根付近に多く分布する。石材の点では輝石安山岩が1,027点、全体の約53％を占め、次いで玄武岩、多孔質玄武岩と続き、在地の石材を多用した傾向が窺われる。

1430・1431は磨石である。前者は扁平な楕円状の礫を利用し、後者は棒状の礫を利用している。特に後者1431は両端部が尖るように磨られている。

1432～1441は敲石である。礫の形状としては扁平な楕円形、球状、厚みのある楕円形、棒状等のバリ

エーションが認められる。これら図示した資料の石材は玄武岩と輝石安山岩である。敲打は礫主面・側面・端面で行われ、棒状礫の敲打の痕はほぼ端面に限定される。1442・1443は敲打痕の中に凹み状の敲打痕が見られる敲石である。1443は両主面に凹み状の敲打痕が見られる。1444も敲石であるが、敲打による凹みが４面確認できるタイプで、後述する凹石とは異なる。不定形の礫を用い、集中敲打により凹みが形成されている。

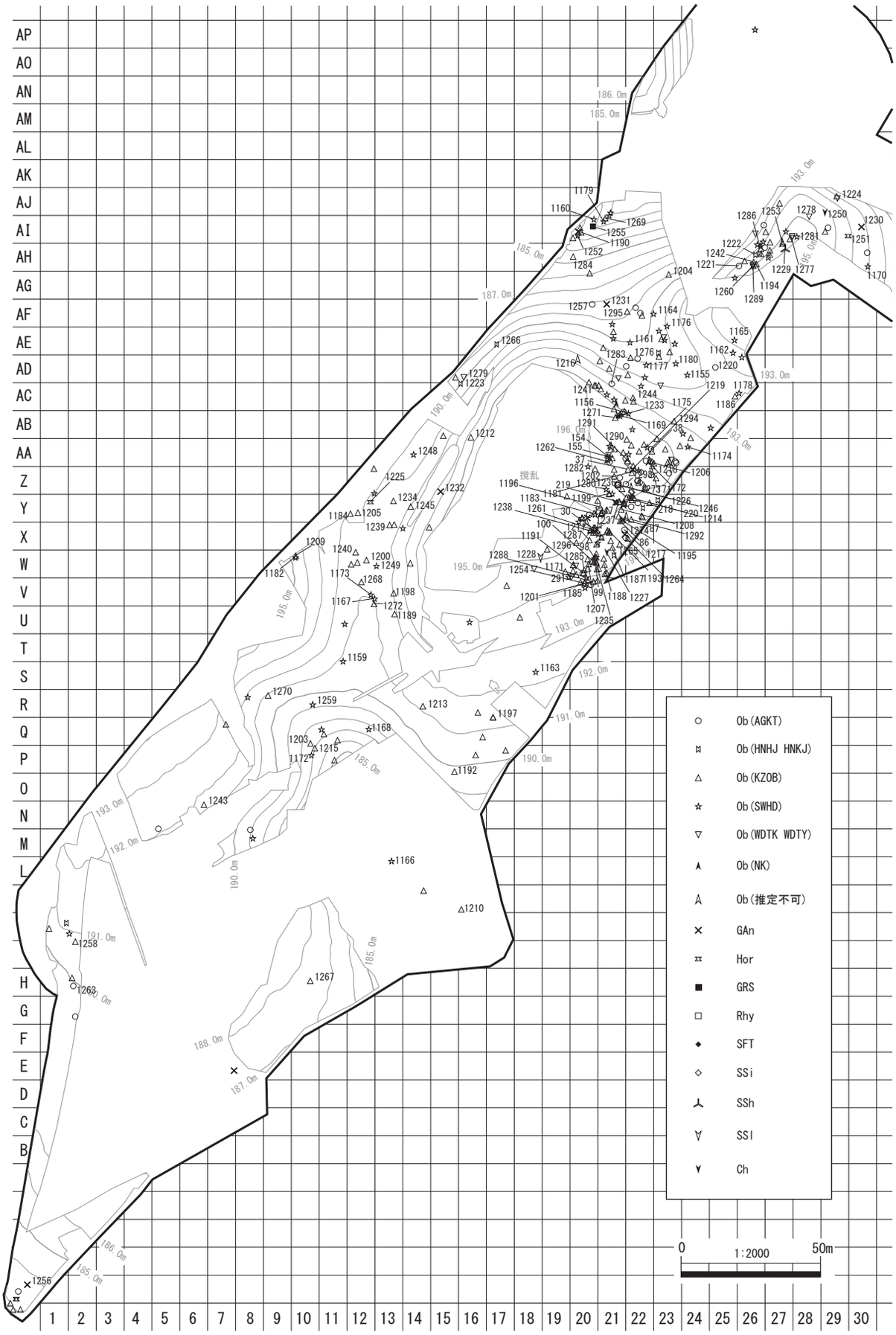
1445～1511は磨・敲石である。1445～1450は磨り・敲きの痕跡が見られる資料で、多くが扁平もしくは厚みのある楕円形の礫を利用している。磨り面は主面に見られるが、1448のように側面も磨り面となる例もある。敲打痕の多くは側面に見られる。1450は棒状の礫を利用したもので、両端部を敲打し、端部の一部に磨り痕が認められる。形状と磨り・敲きの痕跡から1450は他の資料とは用途を異にする。1451～1453は敲打痕に加え、磨り面が凹み状になった資料である。礫主面を磨り面となし、側縁に敲打痕が多く認められる。1454～1458は敲打痕、磨り痕に加え、敲打による凹みが認められる資料である。多くが扁平な楕円形の礫を利用している。主面の多くは磨り面とするが、磨り面中央に敲打による凹みが見えるものと、主面片側が敲打による凹みのみ見られる資料もある。

1459～1490は礫の稜部、側縁部に敲打・磨りによる平坦面が１～２面と敲打痕があるものである。そのうち平坦面が１面のものは1459～1473で1459～1464は扁平な楕円形の礫、1466～1473は棒状の礫を利用している。1471～1473は断面形が三角形状に近い。1471は磨り痕による平坦面が明瞭な１面は確認できるが、残りの面は判然としない。平坦面が２面のものは1475～1490で、1475・1476が扁平な楕円形の礫を利用し、他の資料は棒状の礫を使用している。

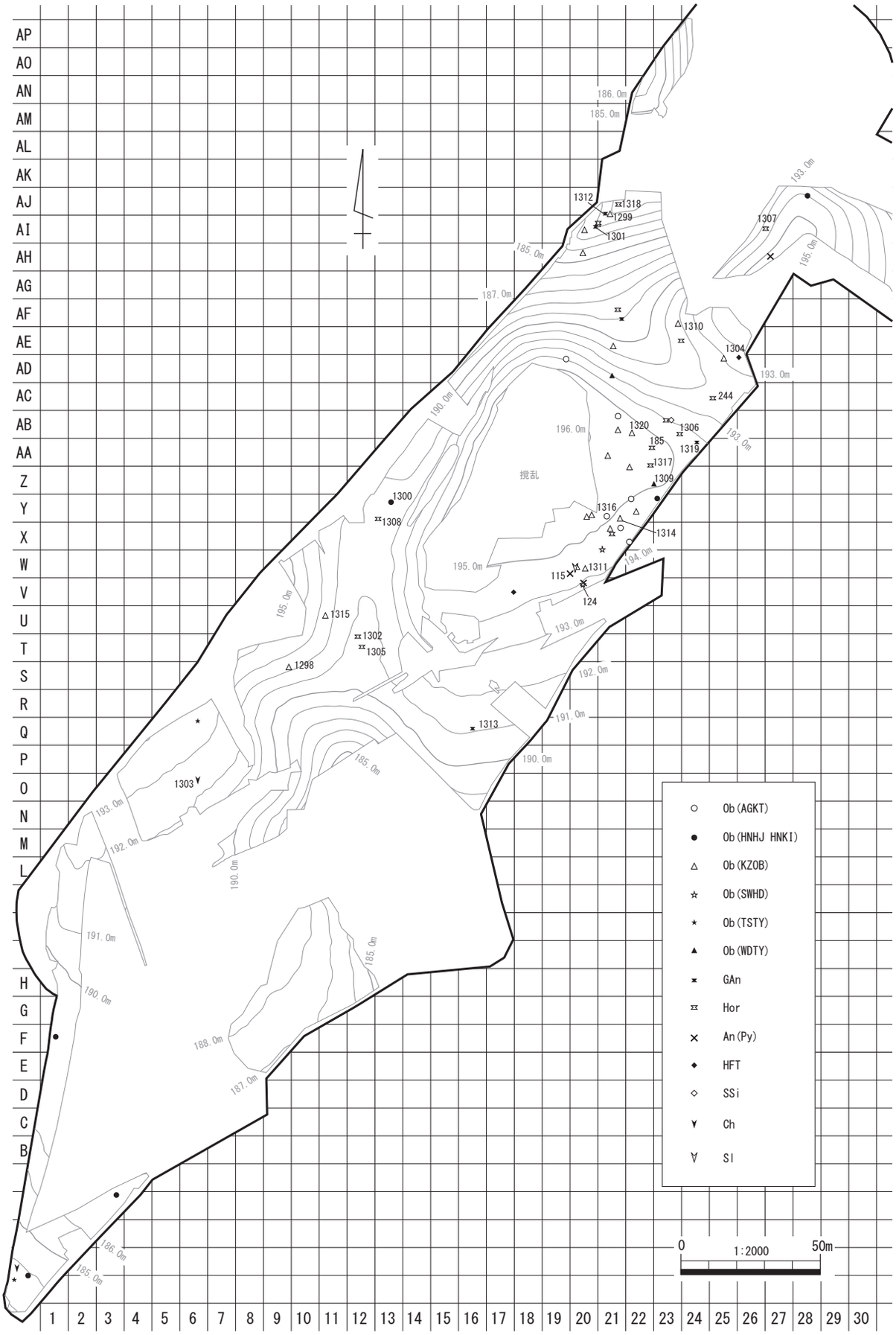
1491・1492は棒状の礫を利用している。両者とも主面に敲打により凹みが見られ、側面は磨りにより平坦面が認められる。また端部に敲打痕が見られる。1493は厚みのある楕円礫で、両主面は磨りによりわずかだが凹みのある平坦面がある。1494～1502は礫稜部、側縁部に敲き・磨りによる平坦面が２面認められ、他に敲打痕と磨り痕が認められる資料である。扁平な楕円状礫、厚みのある楕円状礫、棒状の礫等の利用がされている。1503～1511は礫稜部・側縁部に敲き・磨りによる平坦面が３面以上認められる資料である。

石皿・台石（第181～184図　写真図版133）

1512～1523は石皿・台石である。石皿は扁平な礫を利用し、浅い凹みで植物等の磨り潰しが行われていたとされ、また台石もほぼ同様の礫を用い、平坦な面上で敲き磨り等の作業がなされたものと推定される。両者とも地面に据え置かれることが前提である。まれに手で持つ凹み石等との区別が判然としない例があるものの、当該報告では重量約２㎏以上を石皿・台石として区別している。この石皿・台石ともに調査区の全域で出土している。住居跡が多く検出された中央尾根付近から東尾根・西尾根にかけて濃密に分布する（第142図）。石皿は82点、台石は158点、合計240点出土している。そのうち石材の内訳では輝石安山岩が91点、多孔質玄武岩70点、玄武岩67点、多孔質安山岩11点、デイサイト１点となり、遺跡周辺で採取が容易な大礫を選択して使用している。1512～1520は石皿、1521～1523が台石である。1522は厚みのある卵形に近い大礫を使用している。

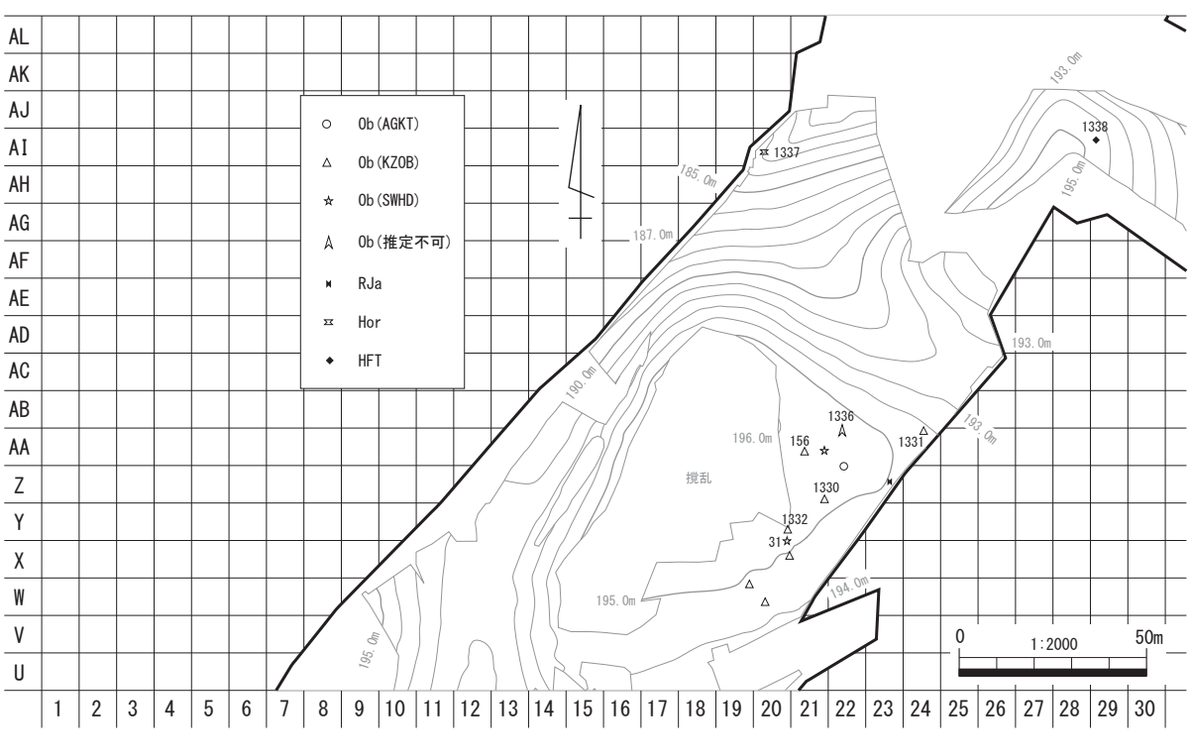


第131図　石鏃（石材別）分布

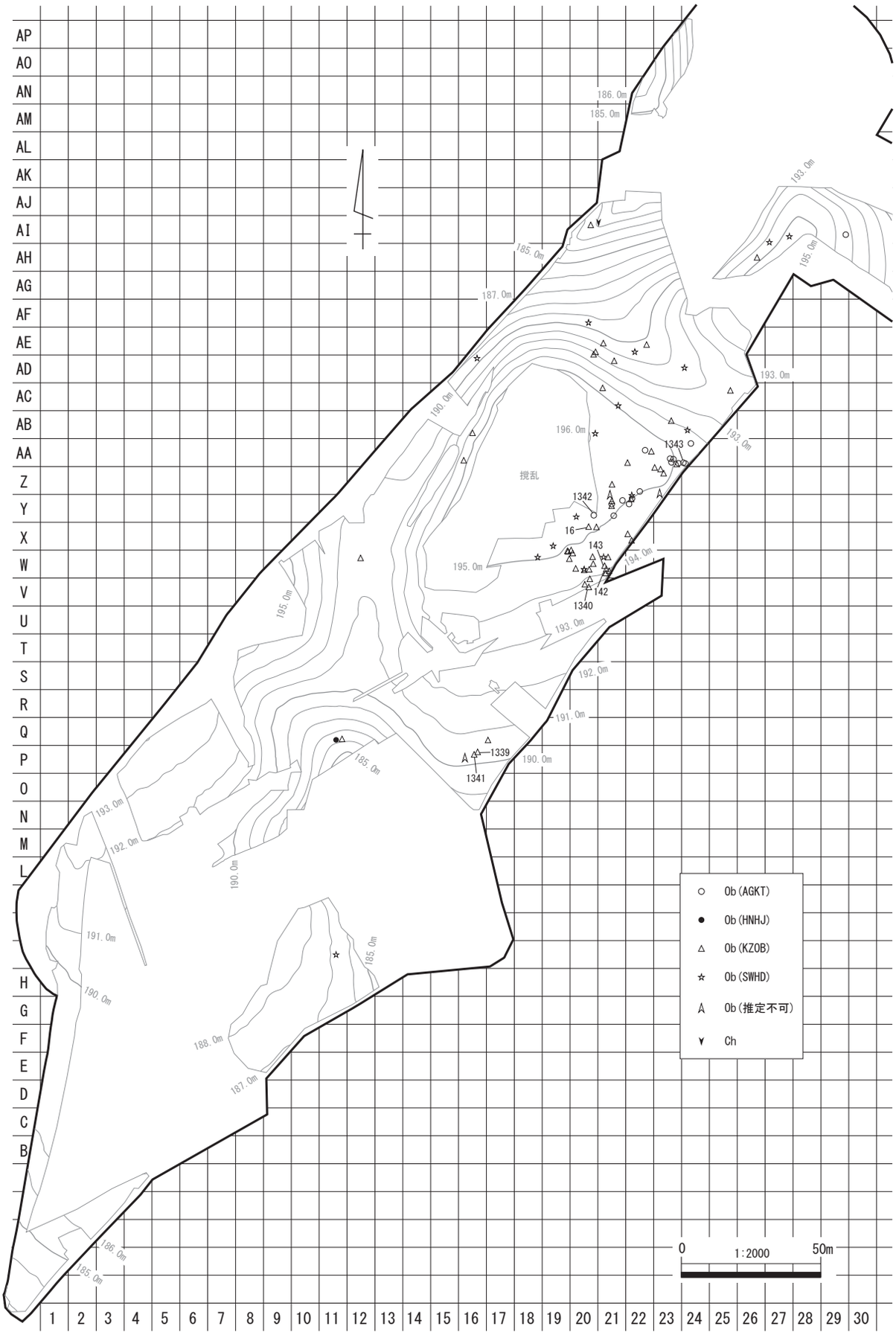


第132図　スクレイパー（石材別）分布

第133図　石匙（石材別）分布

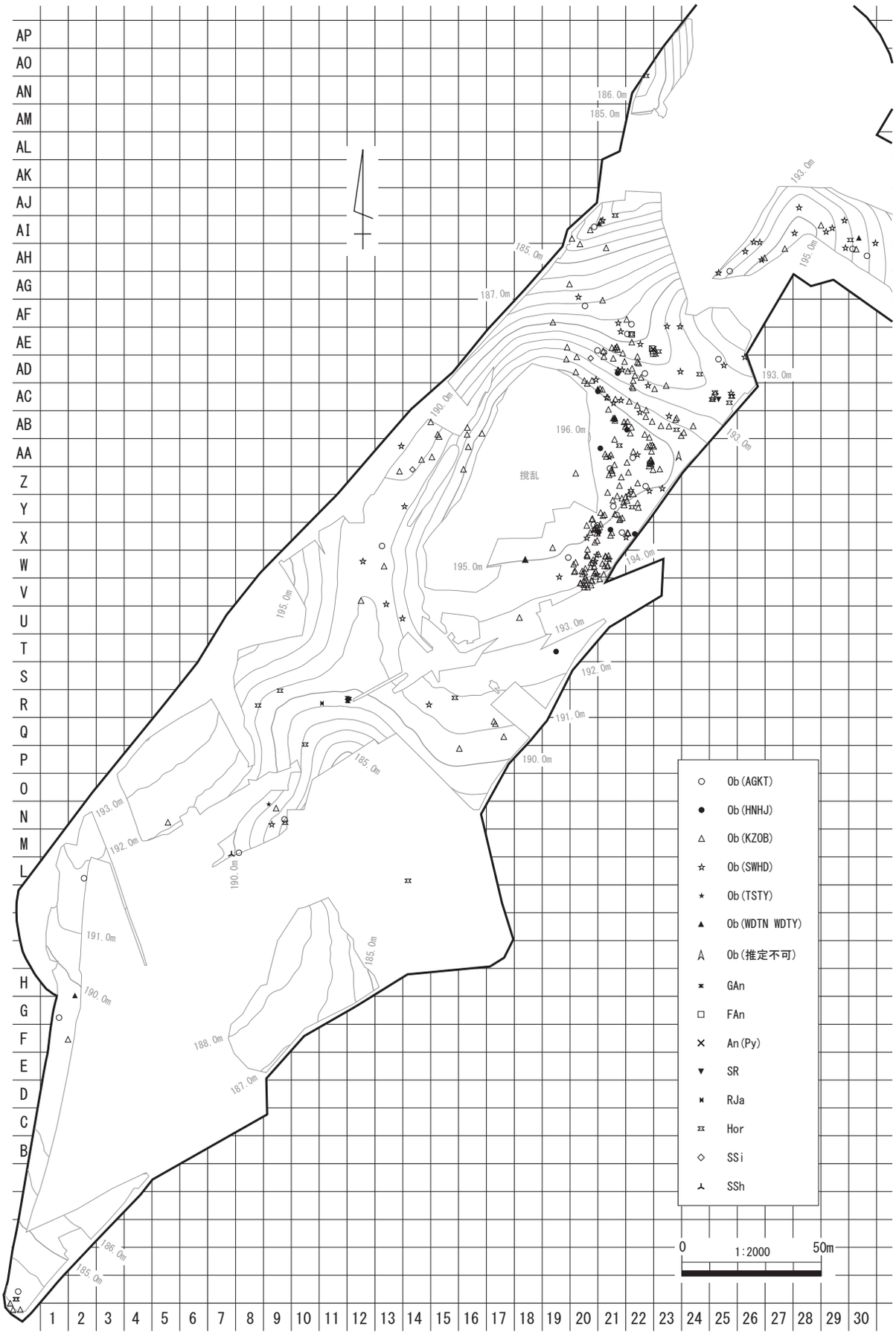


第134図　石錐（石材別）分布

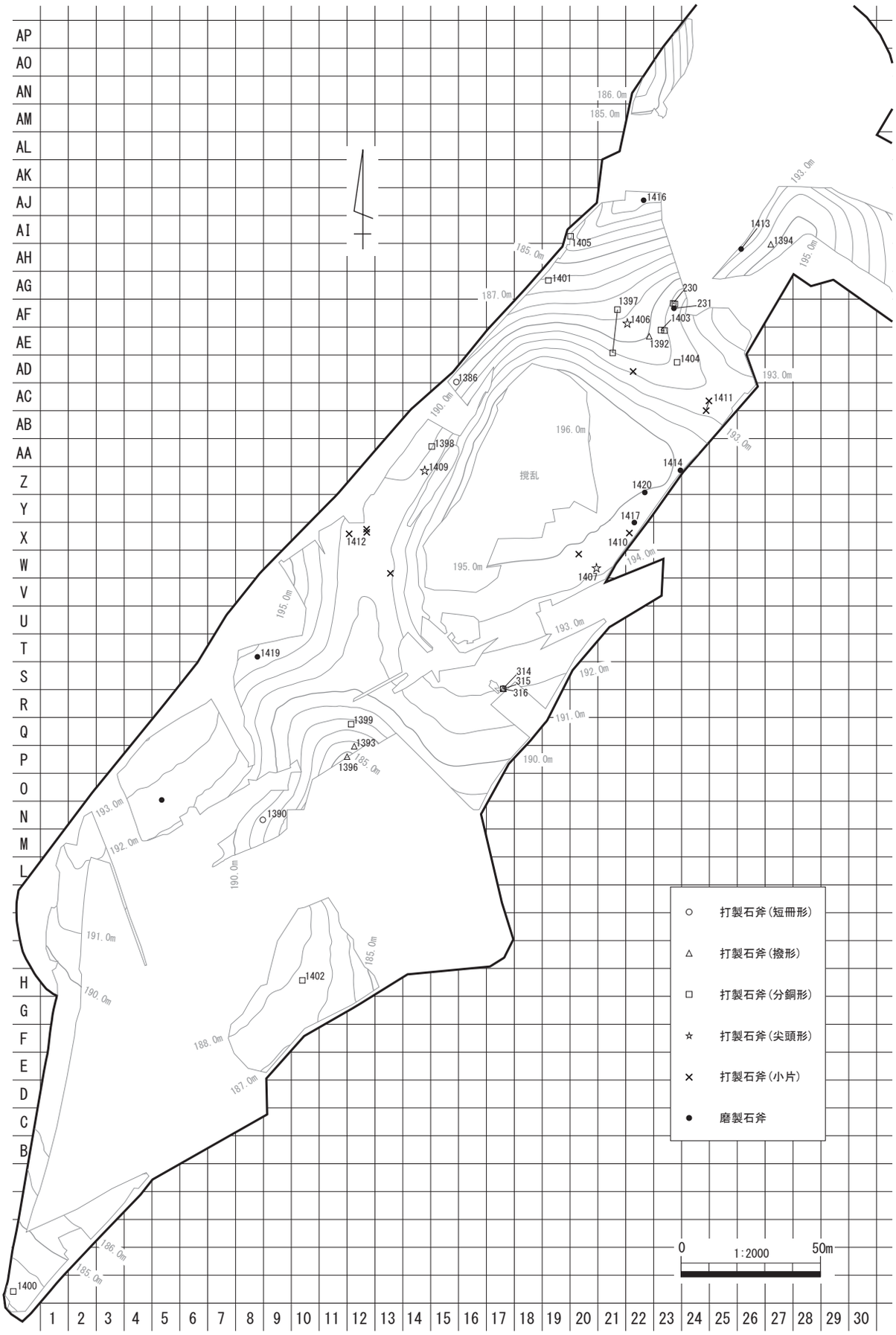


第135図　楔形石器（石材別）分布

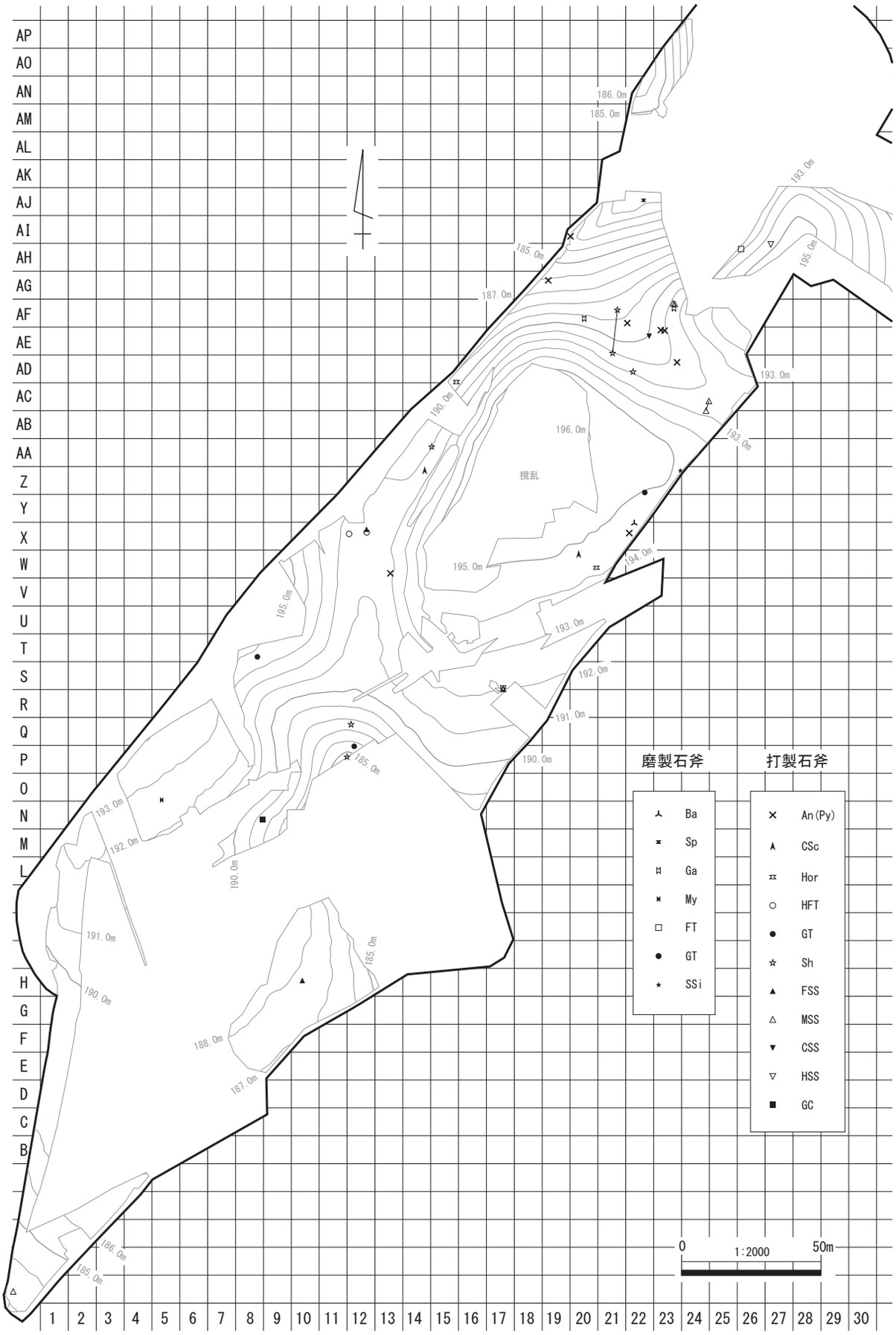
第136図　石核（タイプ別）分布



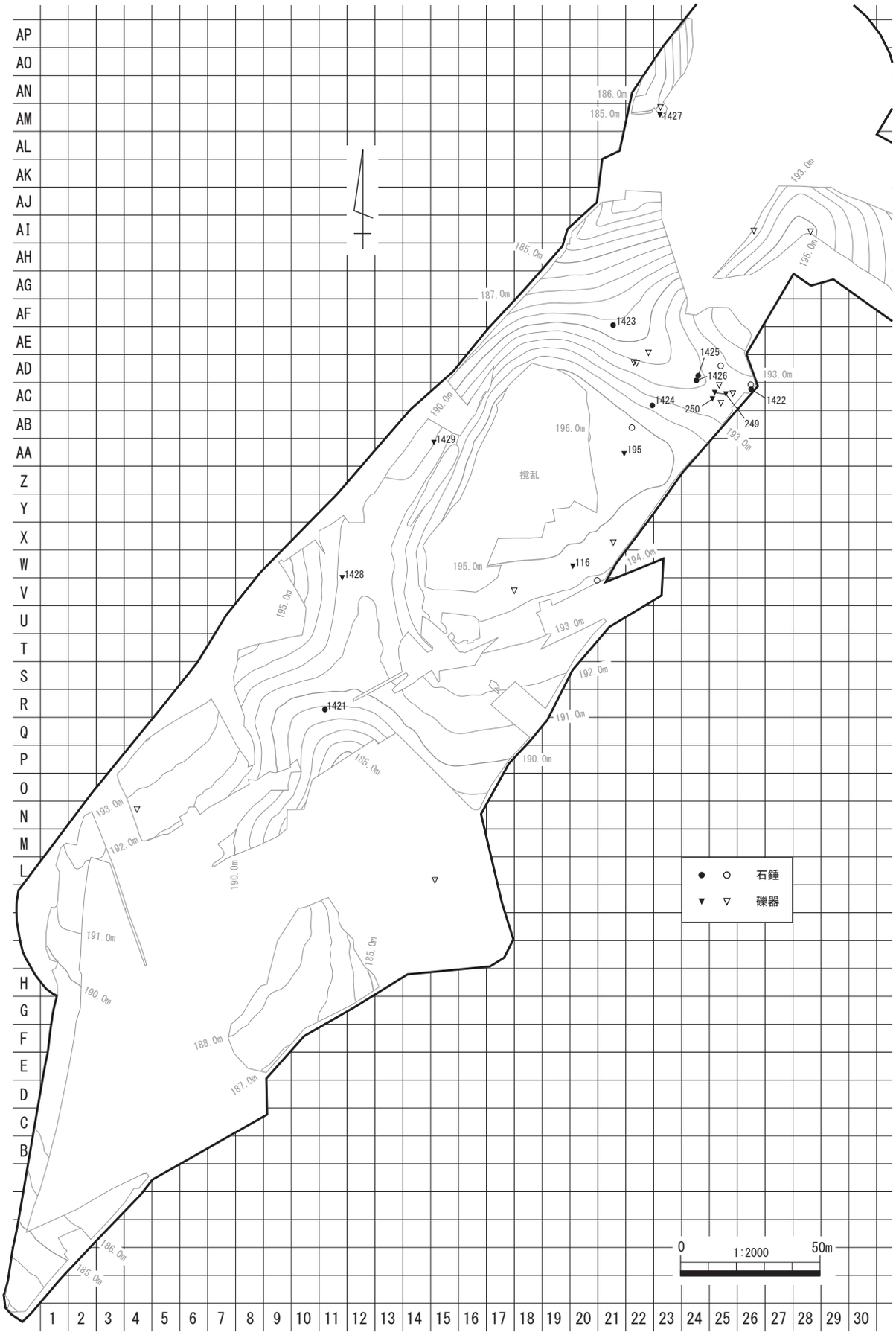
第137図　石核（石材別）分布



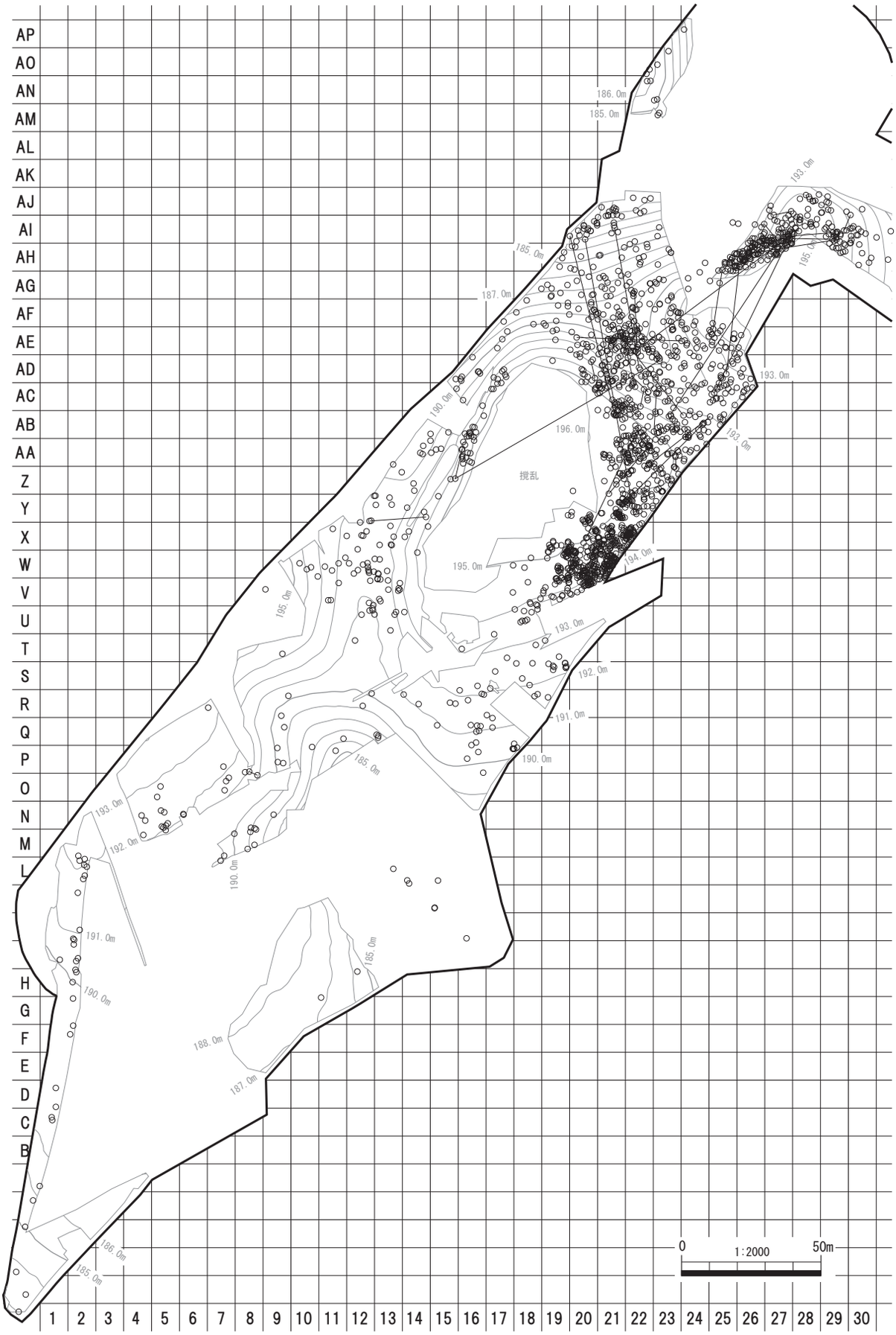
第138図　石斧（タイプ別）分布



第139図　石斧（石材別）分布



第140図　石錘・礫器分布



第141図　磨石・敲石類分布

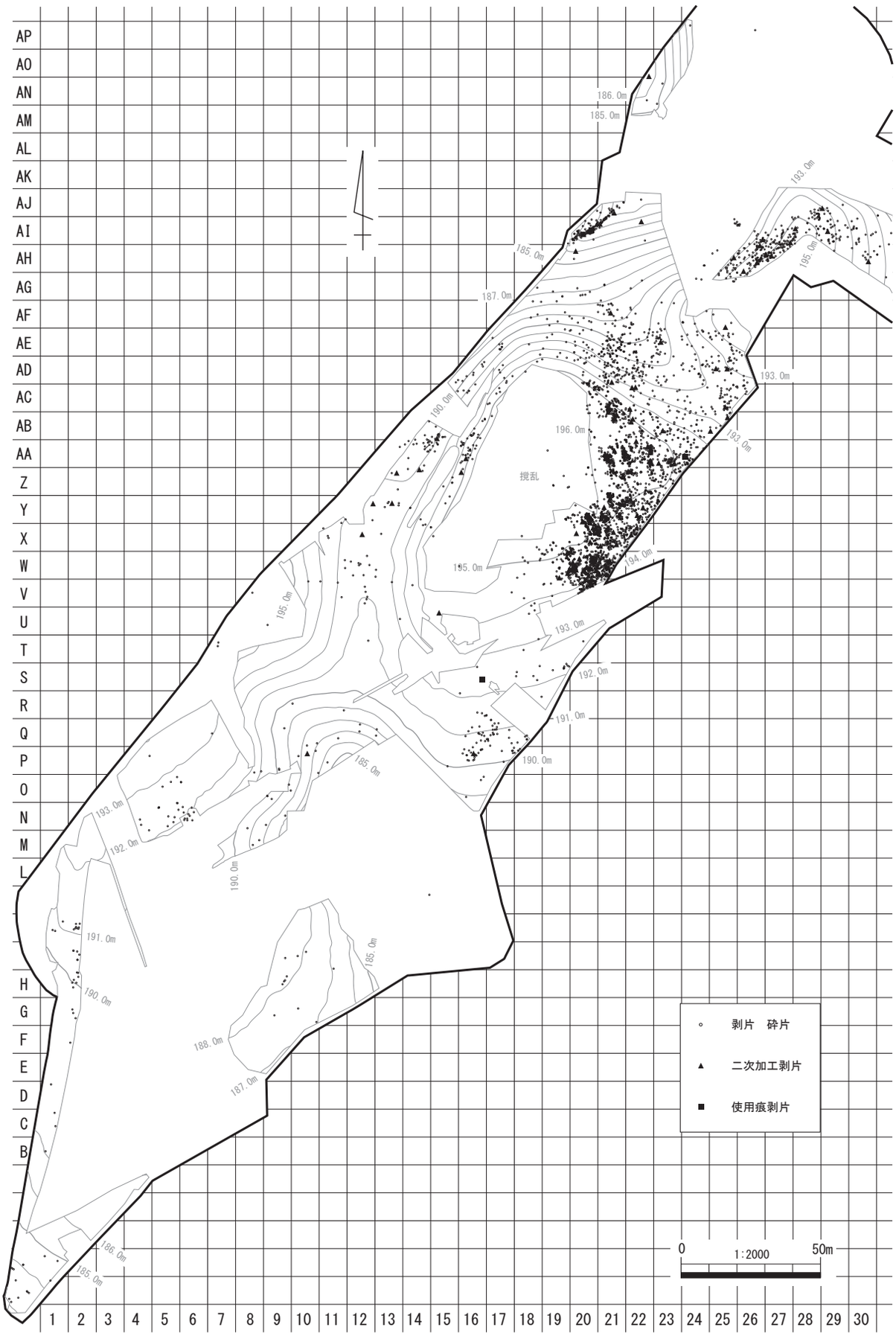
第14表　縄文時代磨石・敲石類組成表

器種	円～楕円		球	棒状				不定形	不明（小片）	計	内接合
	扁平	厚み		扁平	○	△	他				
S	1				1					2	
T	610	223	54	22	27	14	154	59	56	1219	42
K(4)								1		1	
T＋KS(2)	2	1								3	
T＋KT(1)	12	4					1	3		20	
T＋KT(2)	50	6					3	4		63	2
T＋S	129	17		2			1			149	15
T＋S＋KS(1)	4	1								5	
T＋S＋KS(2)	1	3								4	
T＋S＋KT(1)	21	3								24	1
T＋S＋KT(2)	29									29	2
TS(1)								1		1	
TS(1)＋KS(1)							1			1	
TS(1)＋T	24	29		1	3	48	58	15		178	7
TS(1)＋T＋KT(1)	1						1			2	
TS(1)＋T＋S	27	2								29	1
TS(1)＋T＋S＋KT(1)		1								1	
TS(2)								1		1	
TS(2)＋T	14	16		2	2	24	55	2		115	13
TS(2)＋T＋KS(2)		1								1	
TS(2)＋T＋KT(1)							4			4	
TS(2)＋T＋KT(2)	5			2						7	2
TS(2)＋T＋S	39	8		4			1			52	2
TS(2)＋T＋S＋KT(1)	1	1					2			4	1
TS(2)＋T＋S＋KT(2)	2									2	
TS(3)＋T					3		4			7	2
TS(4)＋T							1			1	
TS(6)＋T							1			1	
TS(多)＋T					13					13	
TS(全)＋S	4	1								5	
TS(全)＋S＋KS(2)	1									1	
TS(全)＋T＋KT(2)	1									1	
TS(全)＋T＋S＋KT(2)		1								1	
計	978	318	54	33	49	86	287	86	56	1947	90

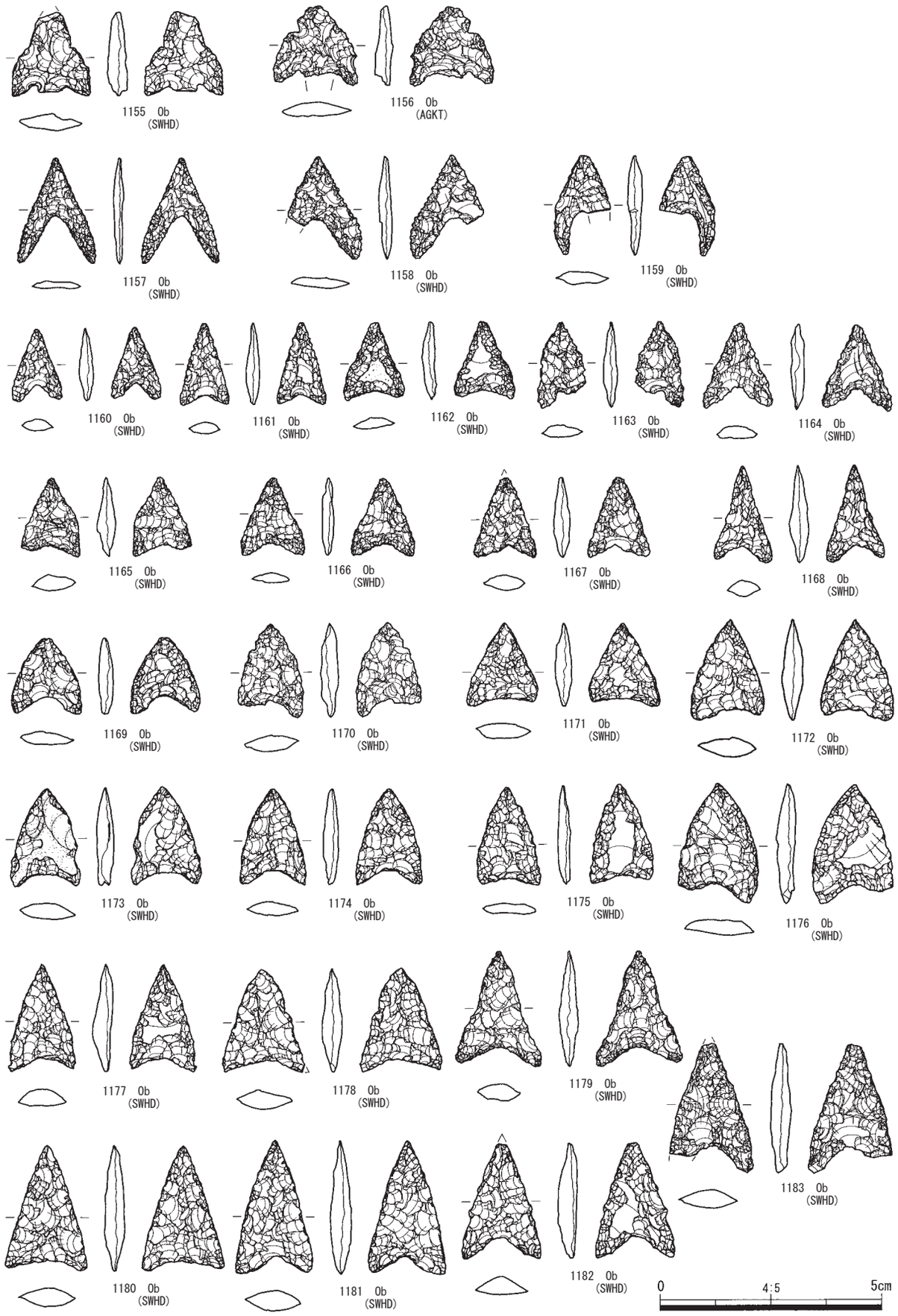
＜略号について＞

S　　：磨り痕のあるもの
T　　：敲き痕のあるもの
K　　：敲き痕のうち特に凹状のもの。（　）内は面数。
KS　　：礫の平坦面に凹状の磨り痕のあるもの。（　）内は面数。
KT　　：礫の平坦面に凹状の敲き痕のあるもの。（　）内は面数。
TS　　：礫の稜部に敲き磨り状の平坦面のあるもの。（　）内は稜部の面数。
TS(多)：棒状の礫の稜部を多面にわたり敲き磨ったもの
TS(全)：楕円状の礫を全周にわたり敲き磨ったもの

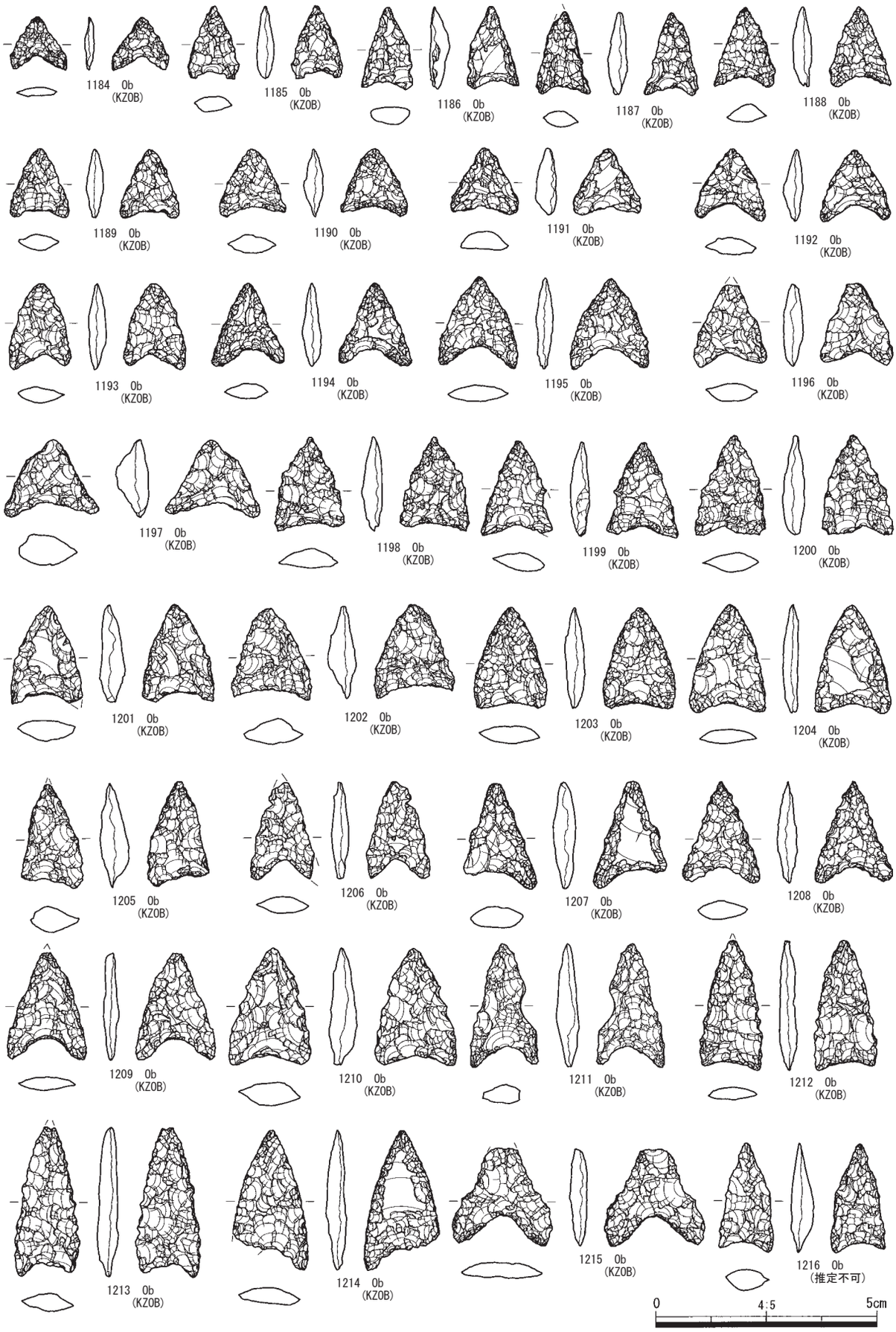
第142図　石皿・台石分布



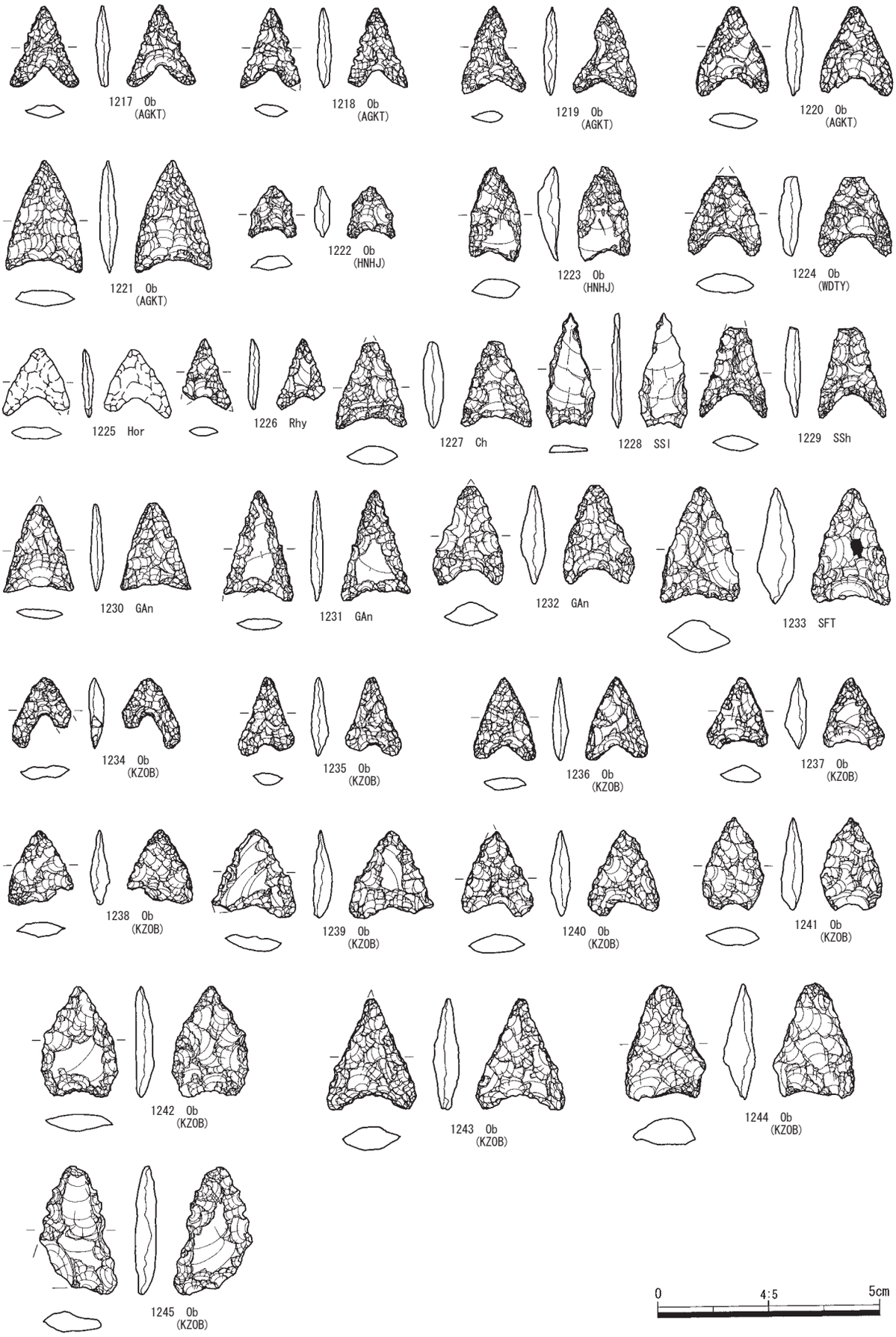
第143図　剥片・砕片・二次加工剥片・使用痕剥片分布


1155 Ob (SWHD)
1156 Ob (AGKT)
1157 Ob (SWHD)
1158 Ob (SWHD)
1159 Ob (SWHD)
1160 Ob (SWHD)
1161 Ob (SWHD)
1162 Ob (SWHD)
1163 Ob (SWHD)
1164 Ob (SWHD)
1165 Ob (SWHD)
1166 Ob (SWHD)
1167 Ob (SWHD)
1168 Ob (SWHD)
1169 Ob (SWHD)
1170 Ob (SWHD)
1171 Ob (SWHD)
1172 Ob (SWHD)
1173 Ob (SWHD)
1174 Ob (SWHD)
1175 Ob (SWHD)
1176 Ob (SWHD)
1177 Ob (SWHD)
1178 Ob (SWHD)
1179 Ob (SWHD)
1180 Ob (SWHD)
1181 Ob (SWHD)
1182 Ob (SWHD)
1183 Ob (SWHD)
0
4:5
5cm

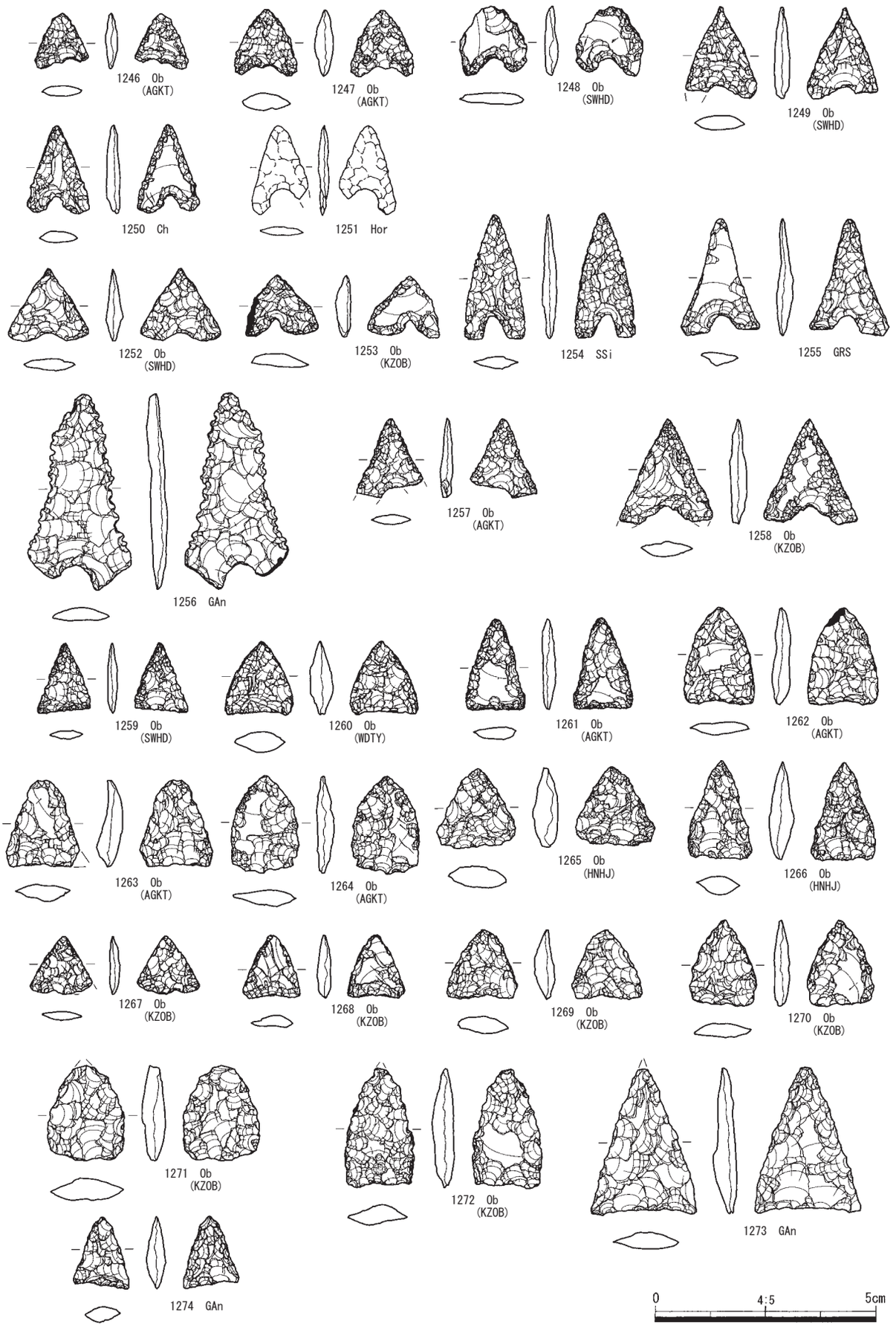
第 144 図　石鏃 1


1184　0b
(KZ0B)
1185　0b
(KZ0B)
1186　0b
(KZ0B)
1187　0b
(KZ0B)
1188　0b
(KZ0B)
1189　0b
(KZ0B)
1190　0b
(KZ0B)
1191　0b
(KZ0B)
1192　0b
(KZ0B)
1193　0b
(KZ0B)
1194　0b
(KZ0B)
1195　0b
(KZ0B)
1196　0b
(KZ0B)
1197　0b
(KZ0B)
1198　0b
(KZ0B)
1199　0b
(KZ0B)
1200　0b
(KZ0B)
1201　0b
(KZ0B)
1202　0b
(KZ0B)
1203　0b
(KZ0B)
1204　0b
(KZ0B)
1205　0b
(KZ0B)
1206　0b
(KZ0B)
1207　0b
(KZ0B)
1208　0b
(KZ0B)
1209　0b
(KZ0B)
1210　0b
(KZ0B)
1211　0b
(KZ0B)
1212　0b
(KZ0B)
1213　0b
(KZ0B)
1214　0b
(KZ0B)
1215　0b
(KZ0B)
1216　0b
(推定不可)
0
4:5
5cm

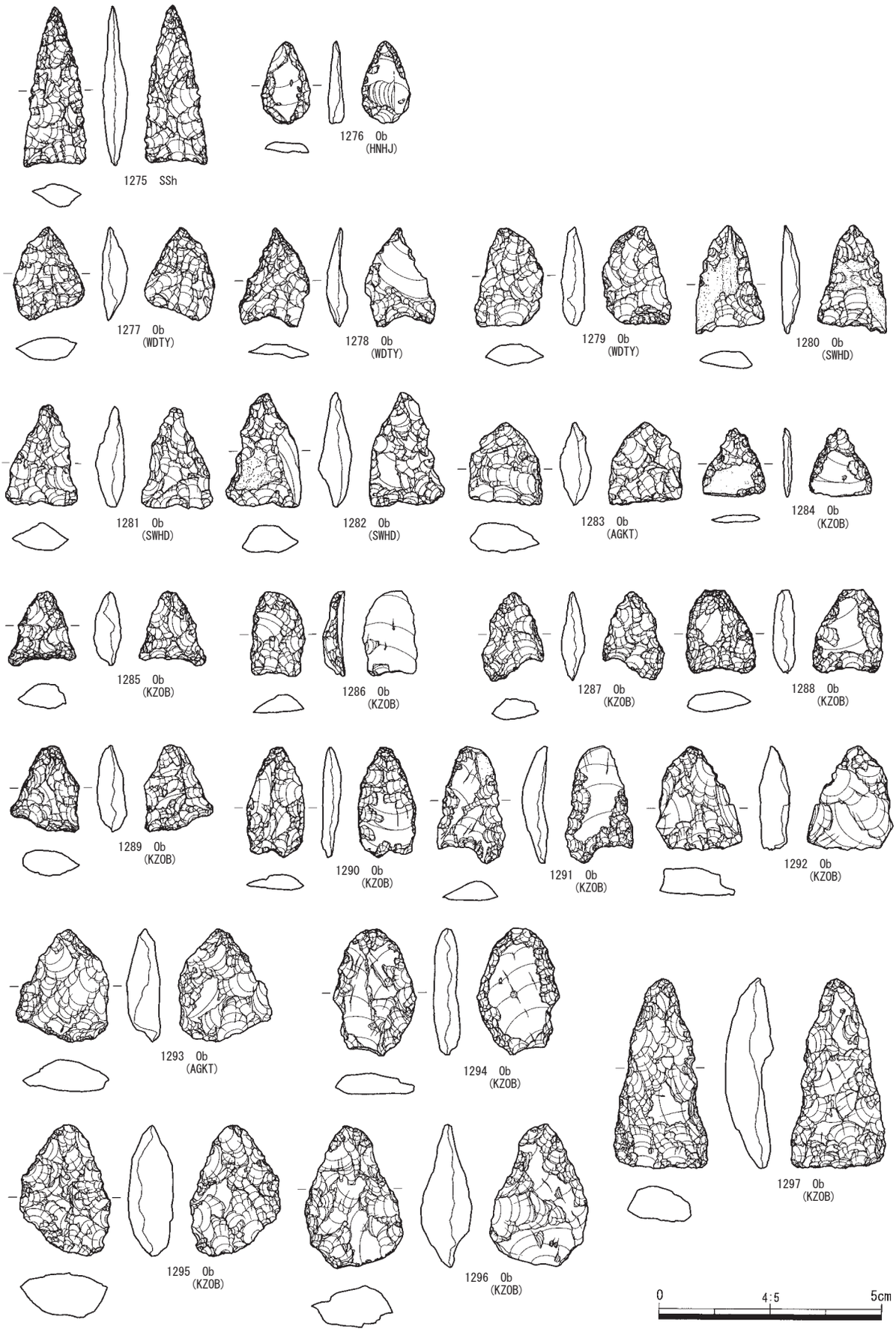
第 145 図　石鏃２


1217 Ob (AGKT)
1218 Ob (AGKT)
1219 Ob (AGKT)
1220 Ob (AGKT)
1221 Ob (AGKT)
1222 Ob (HNHJ)
1223 Ob (HNHJ)
1224 Ob (WDTY)
1225 Hor
1226 Rhy
1227 Ch
1228 SSl
1229 SSh
1230 GAn
1231 GAn
1232 GAn
1233 SFT
1234 Ob (KZOB)
1235 Ob (KZOB)
1236 Ob (KZOB)
1237 Ob (KZOB)
1238 Ob (KZOB)
1239 Ob (KZOB)
1240 Ob (KZOB)
1241 Ob (KZOB)
1242 Ob (KZOB)
1243 Ob (KZOB)
1244 Ob (KZOB)
1245 Ob (KZOB)
0
4:5
5cm

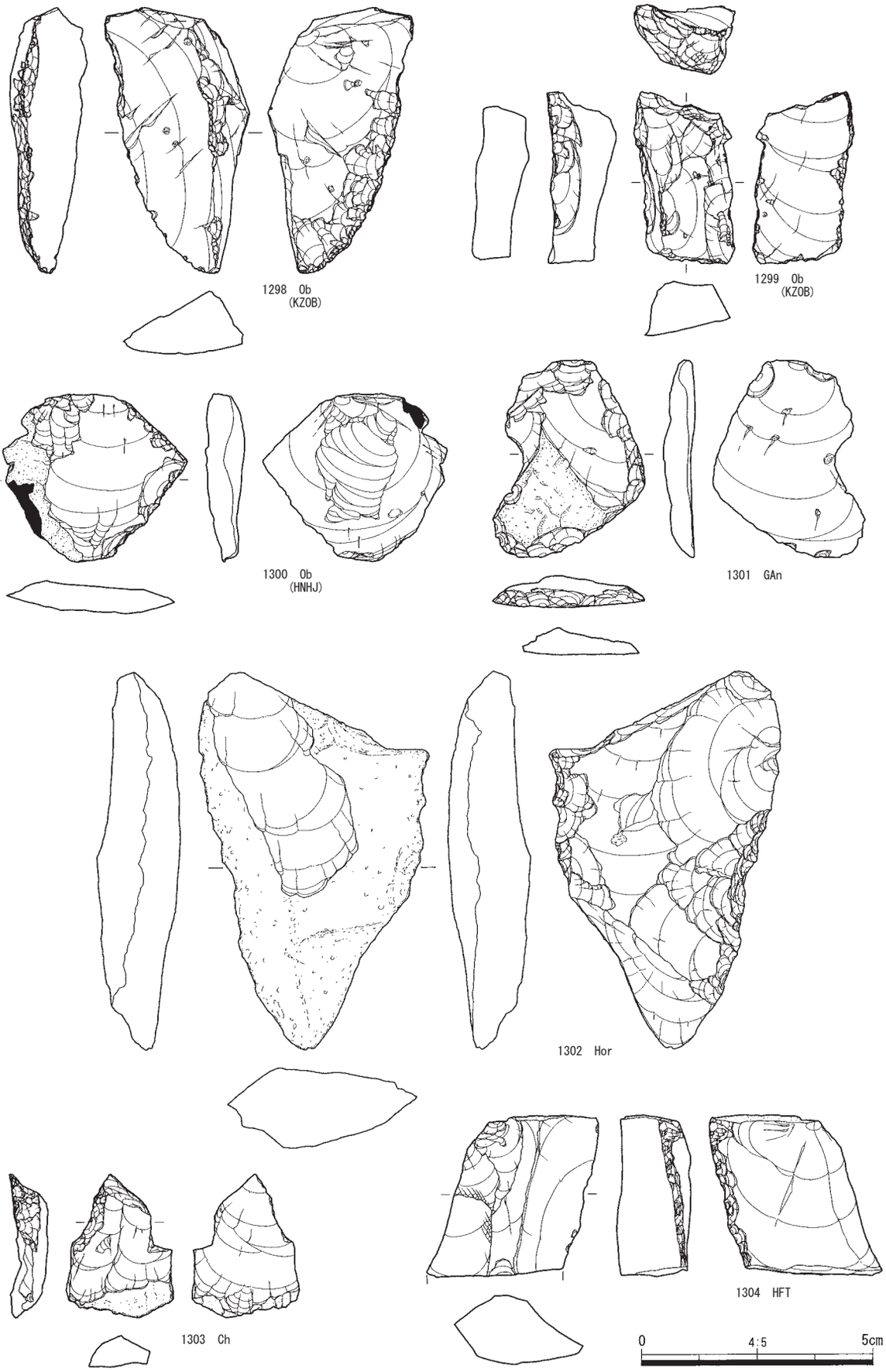
第 146 図　石鏃３


1246 Ob (AGKT)
1247 Ob (AGKT)
1248 Ob (SWHD)
1249 Ob (SWHD)
1250 Ch
1251 Hor
1252 Ob (SWHD)
1253 Ob (KZOB)
1254 SSi
1255 GRS
1256 GAn
1257 Ob (AGKT)
1258 Ob (KZOB)
1259 Ob (SWHD)
1260 Ob (WDTY)
1261 Ob (AGKT)
1262 Ob (AGKT)
1263 Ob (AGKT)
1264 Ob (AGKT)
1265 Ob (HNHJ)
1266 Ob (HNHJ)
1267 Ob (KZOB)
1268 Ob (KZOB)
1269 Ob (KZOB)
1270 Ob (KZOB)
1271 Ob (KZOB)
1272 Ob (KZOB)
1273 GAn
1274 GAn
0
4:5
5cm

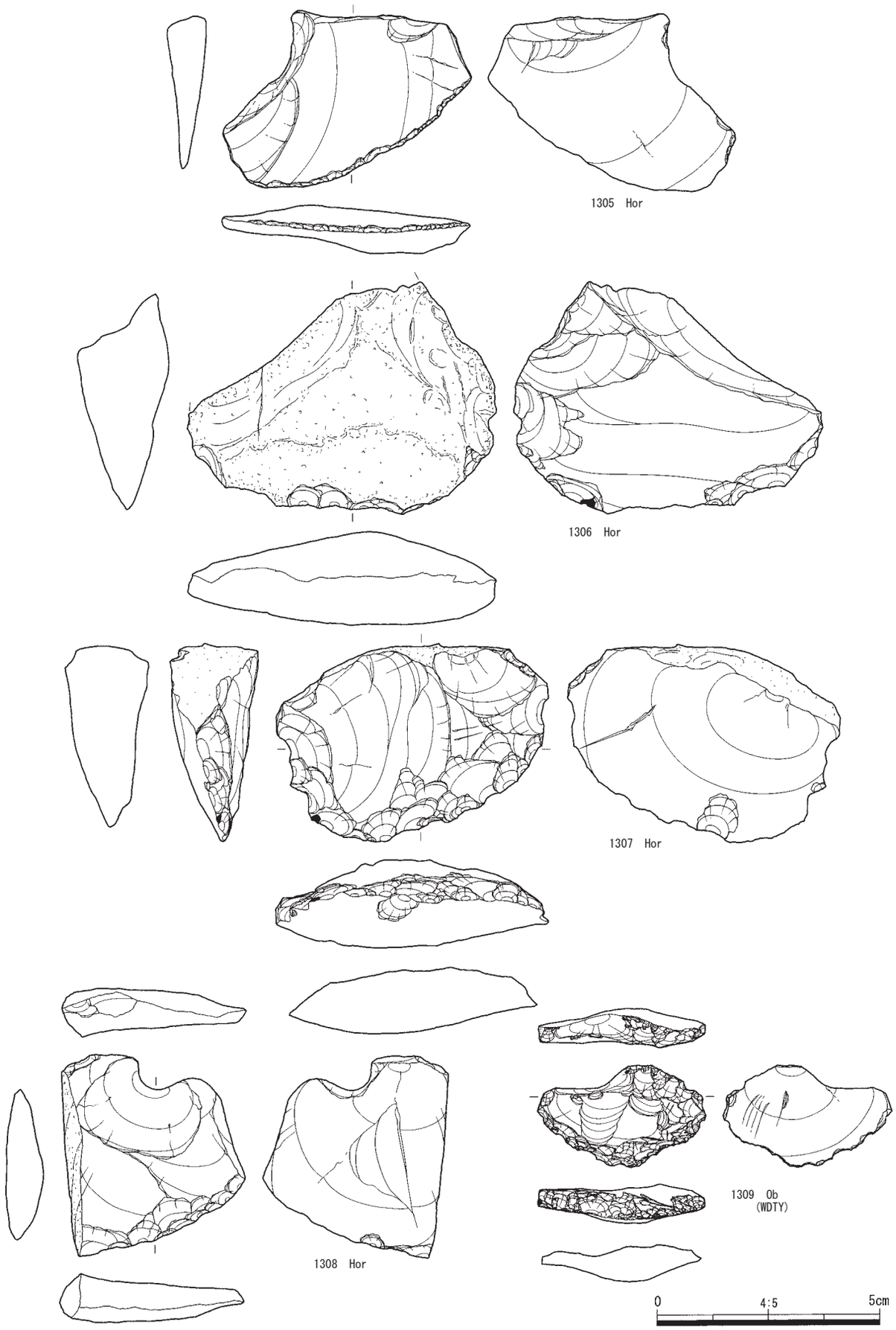
第 147 図　石鏃４


1275　SSh
1276　Ob
(HNHJ)
1277　Ob
(WDTY)
1278　Ob
(WDTY)
1279　Ob
(WDTY)
1280　Ob
(SWHD)
1281　Ob
(SWHD)
1282　Ob
(SWHD)
1283　Ob
(AGKT)
1284　Ob
(KZOB)
1285　Ob
(KZOB)
1286　Ob
(KZOB)
1287　Ob
(KZOB)
1288　Ob
(KZOB)
1289　Ob
(KZOB)
1290　Ob
(KZOB)
1291　Ob
(KZOB)
1292　Ob
(KZOB)
1293　Ob
(AGKT)
1294　Ob
(KZOB)
1295　Ob
(KZOB)
1296　Ob
(KZOB)
1297　Ob
(KZOB)
0
4:5
5cm

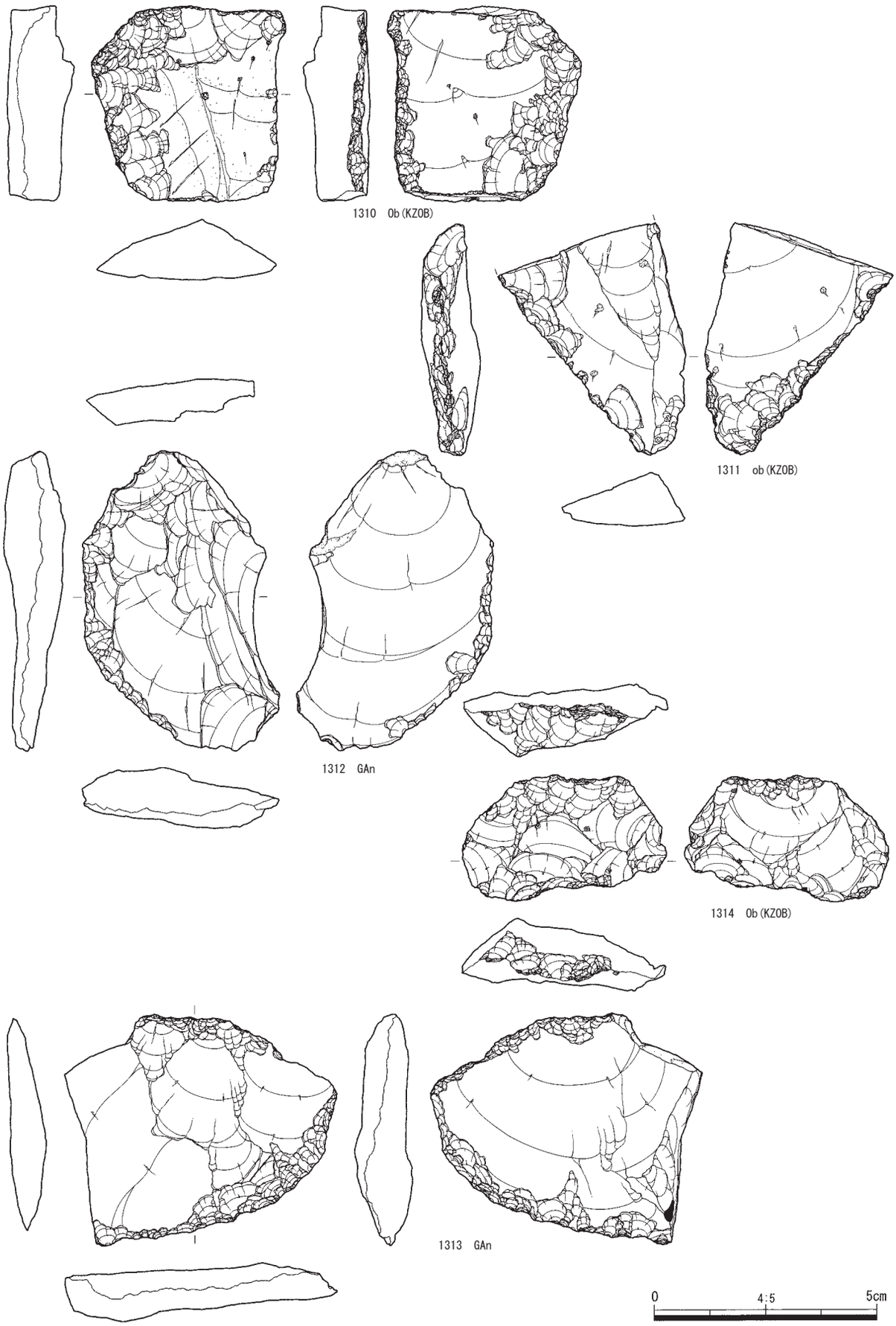
第 148 図　石鏃５



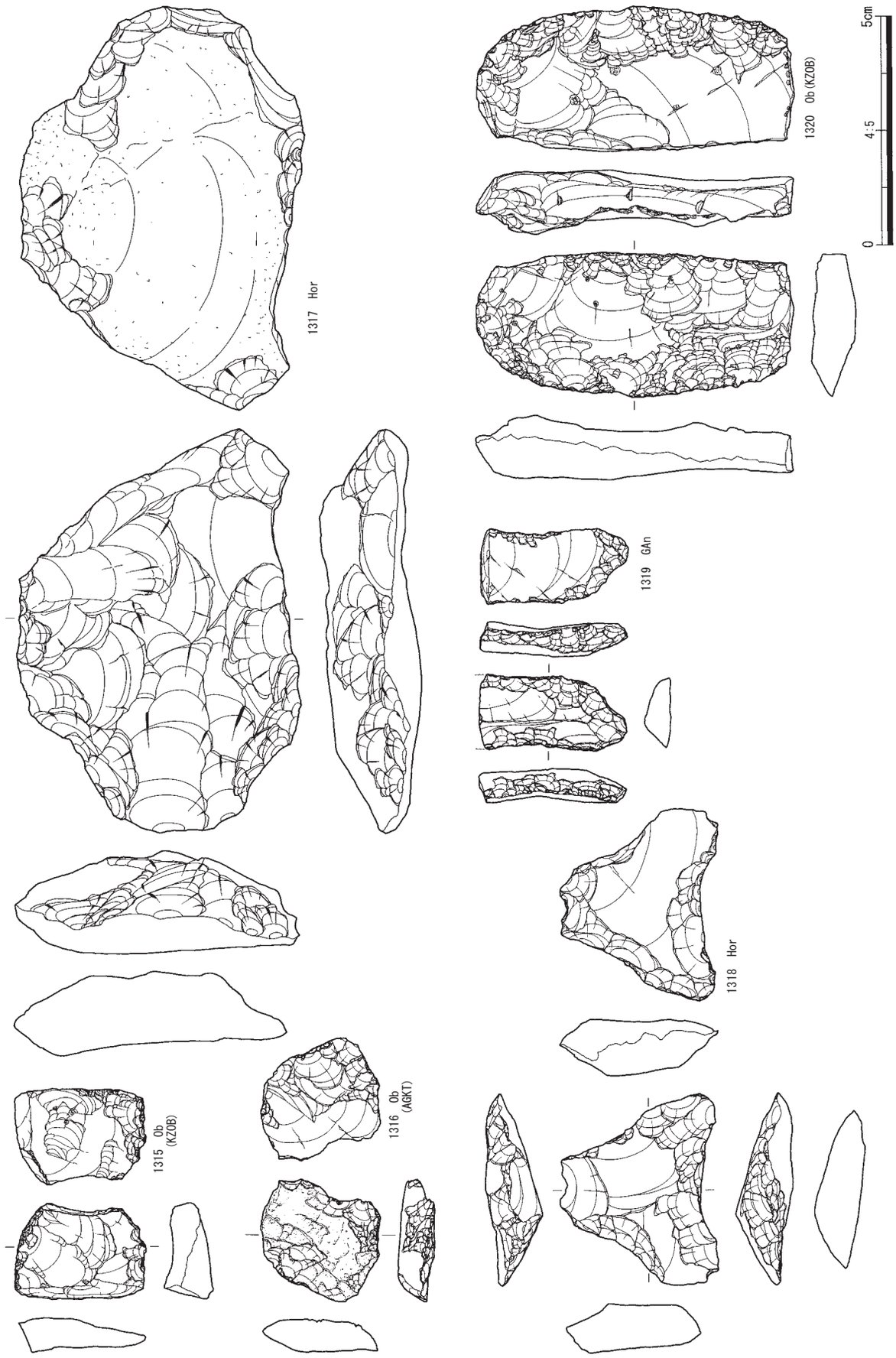
第 149 図　スクレイパー１



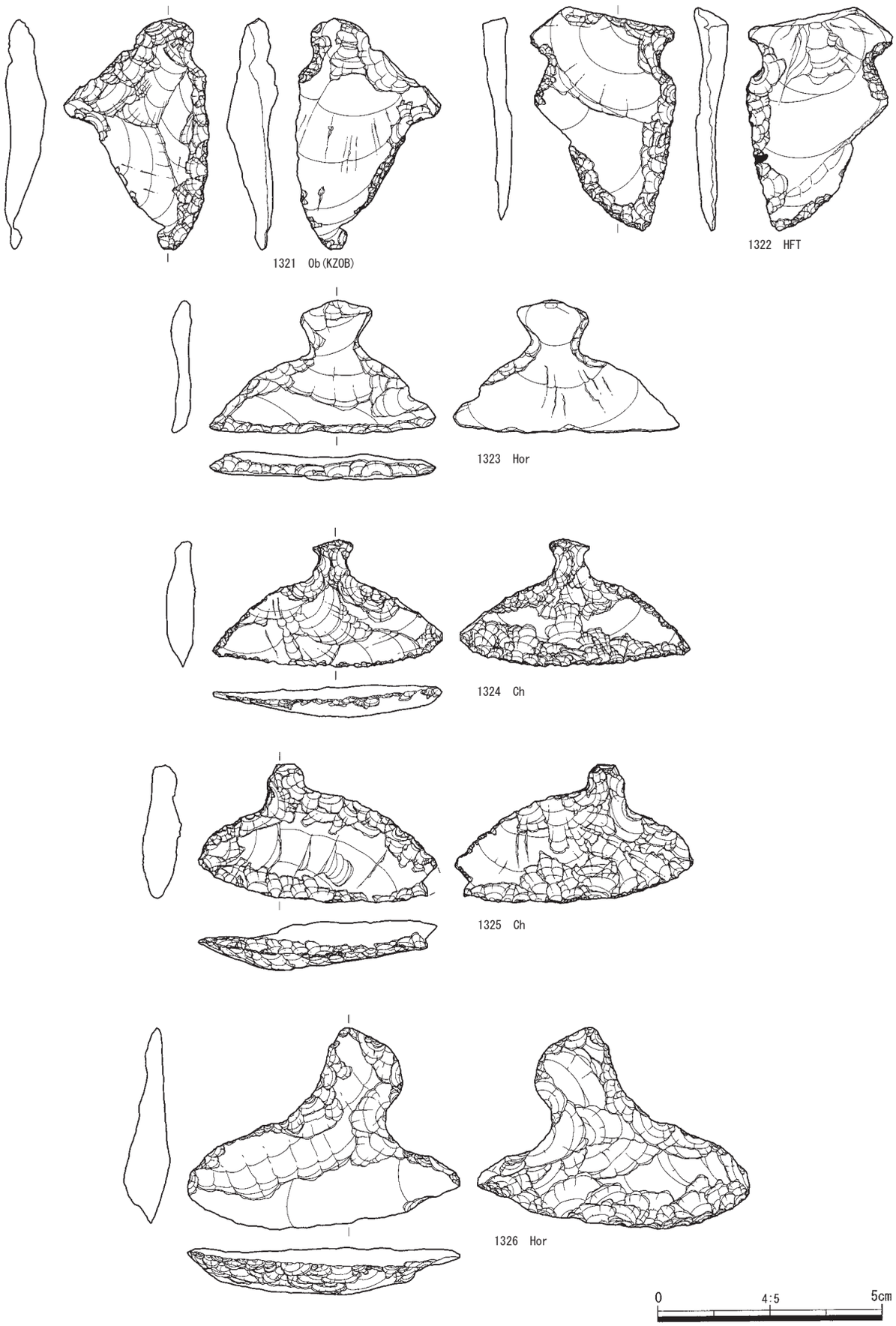
第 150 図　スクレイパー２



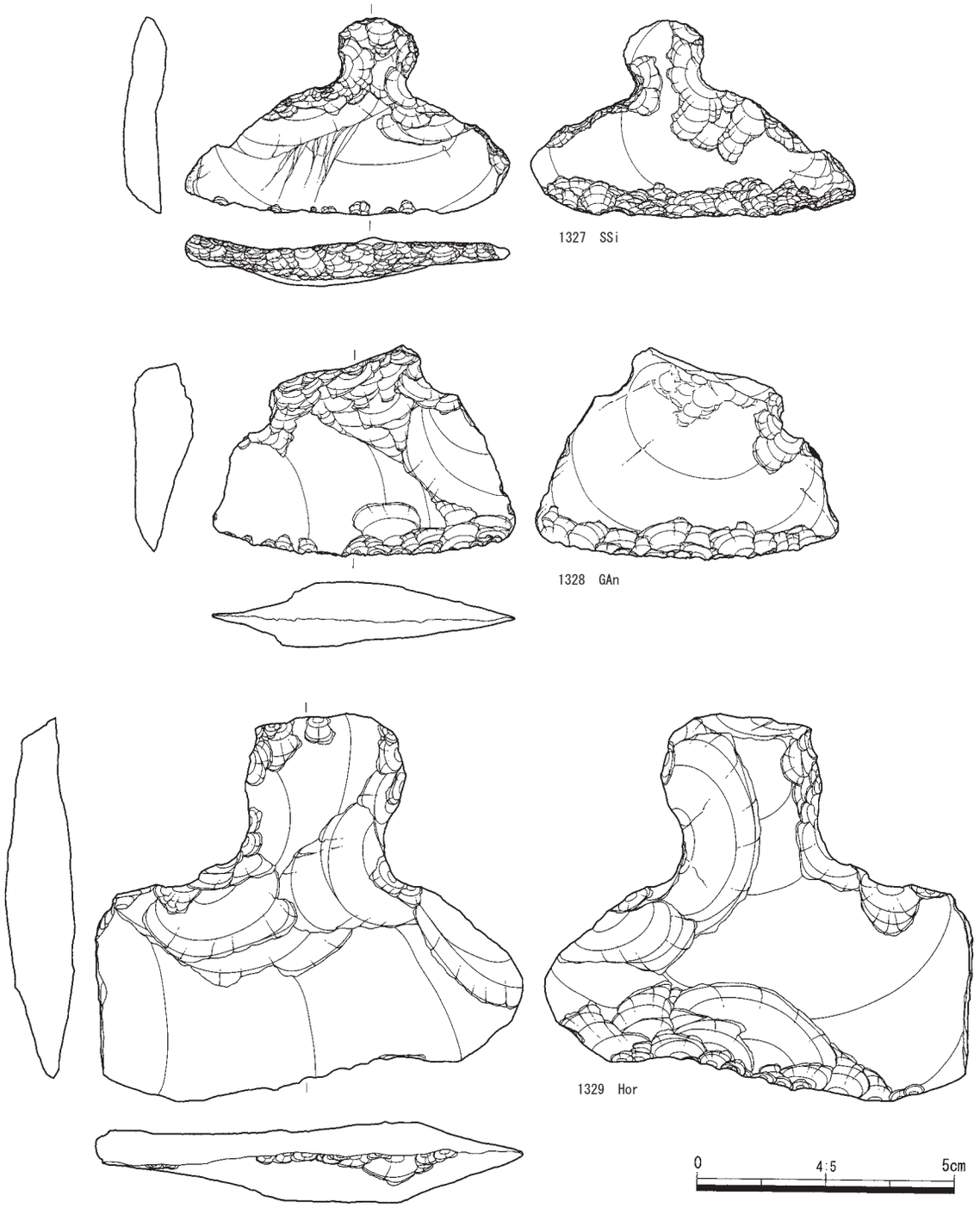
第 151 図　スクレイパー３



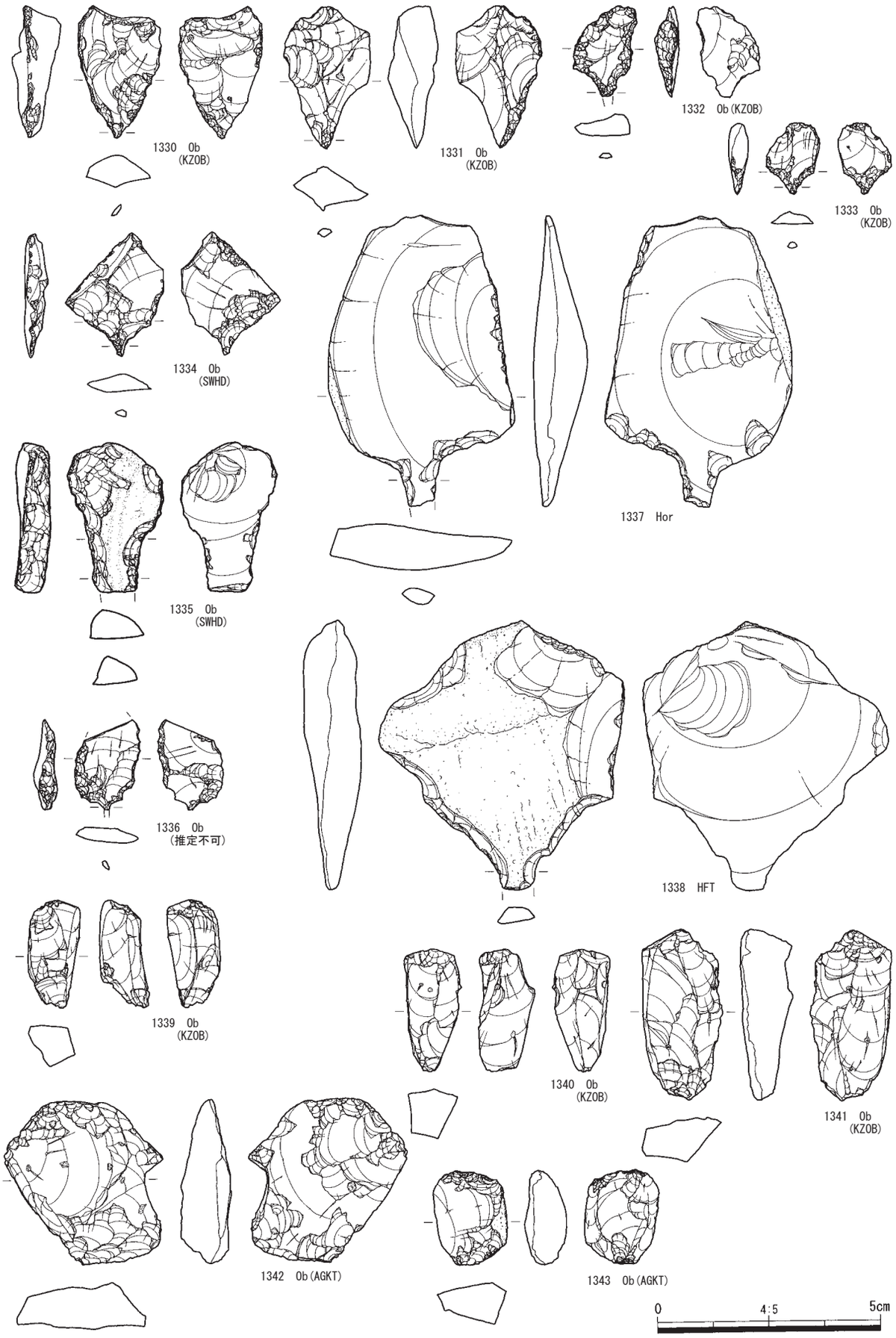
第 152 図　スクレイパー４



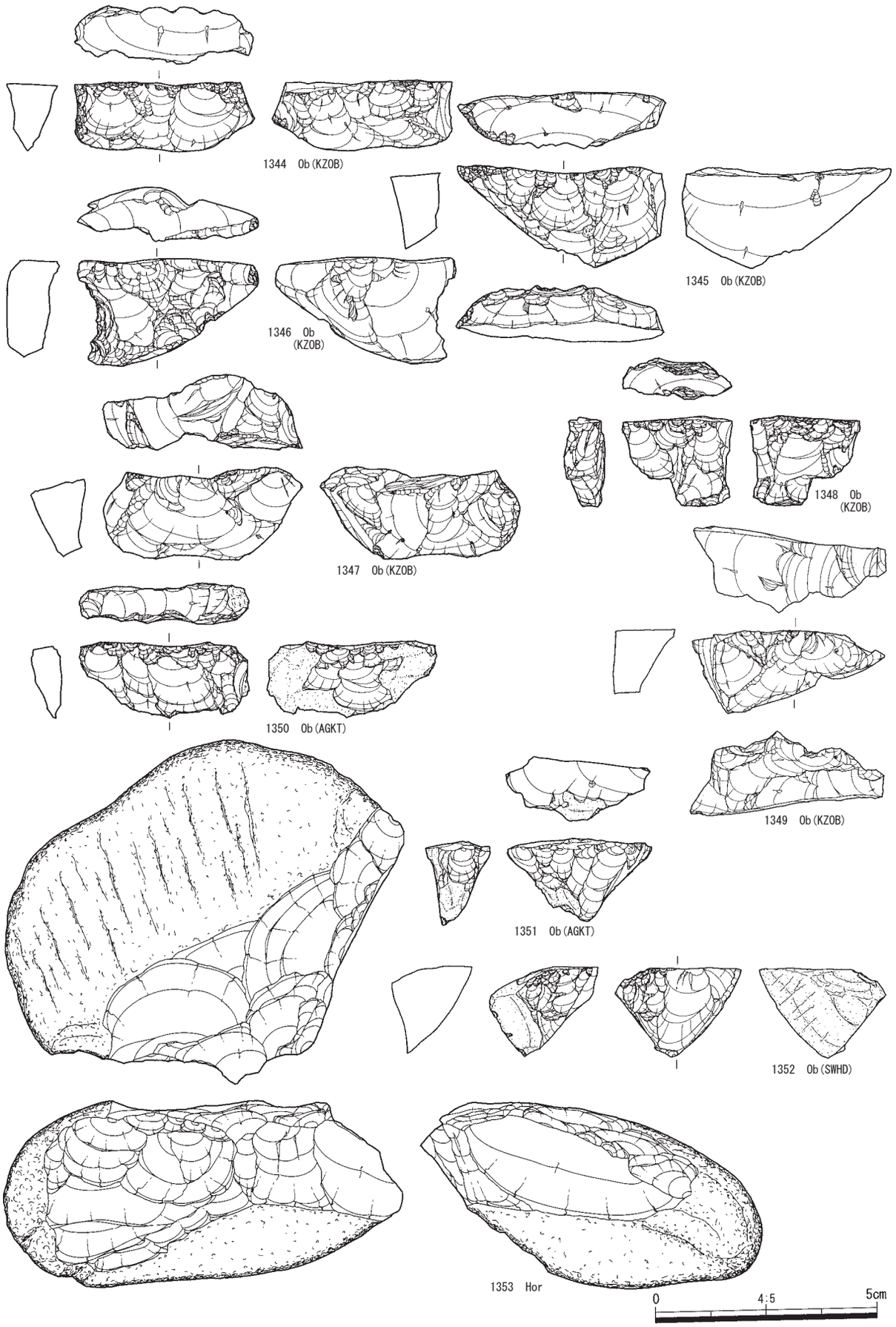
第 153 図　石匙 1



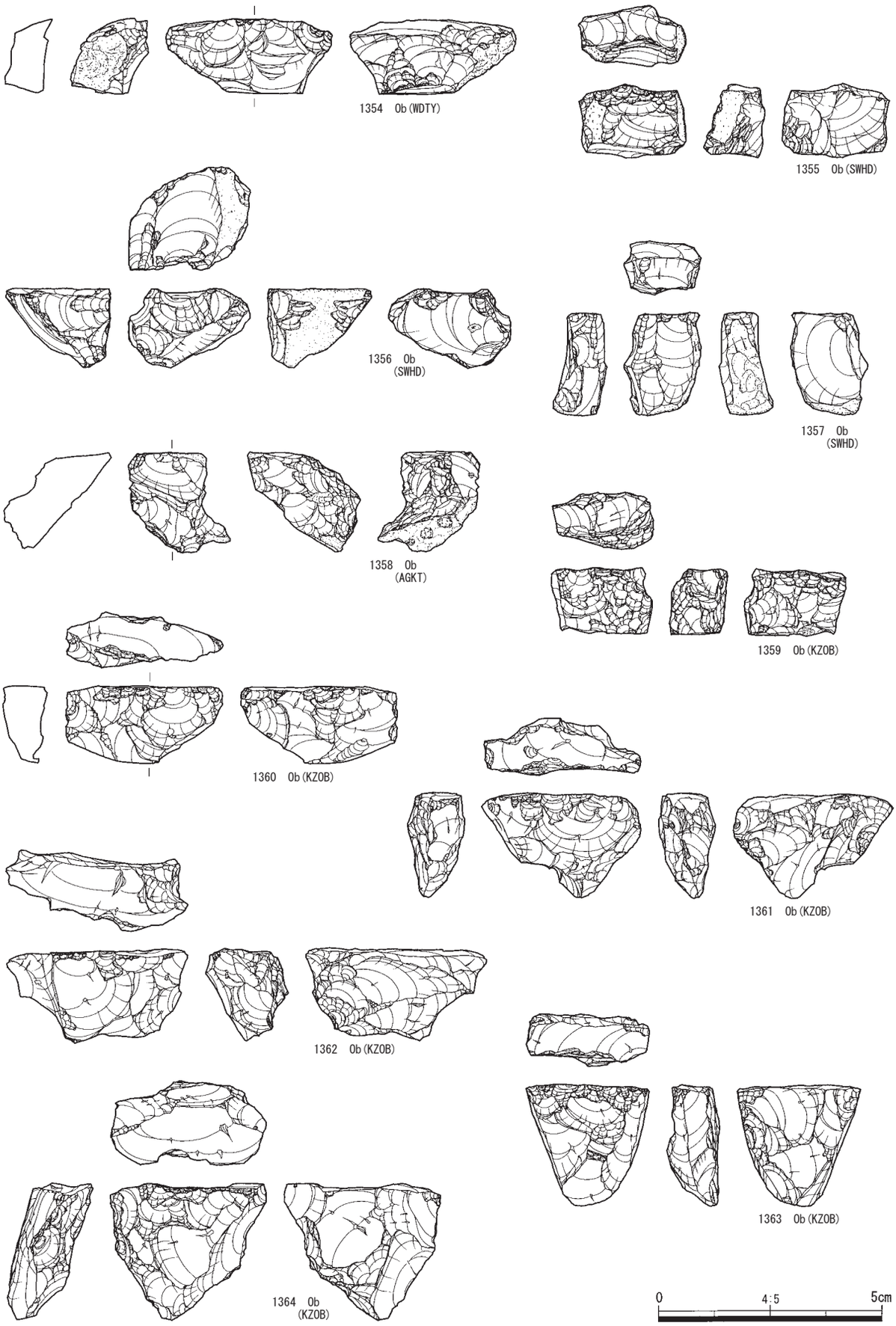
第 154 図　石匙２



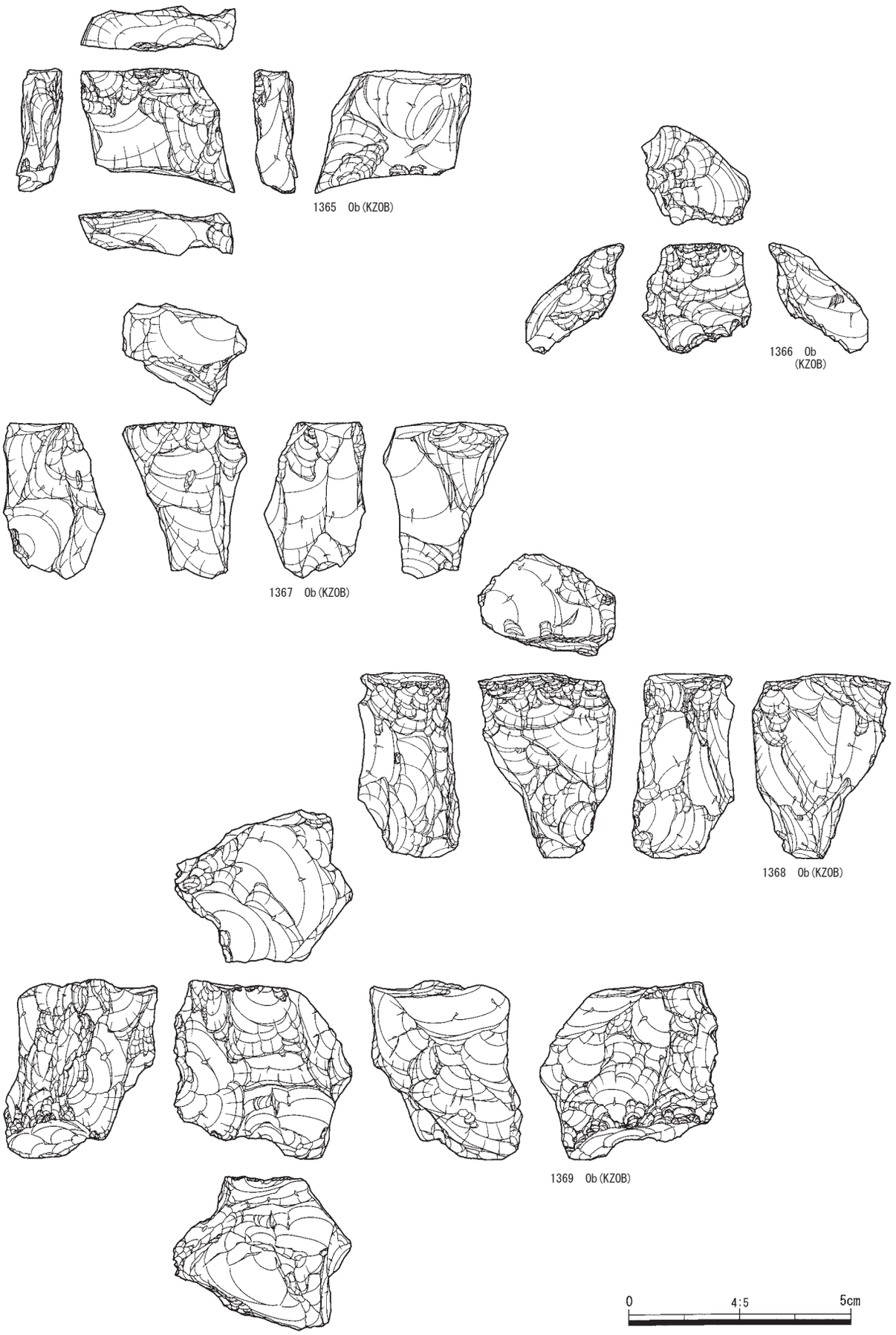
第 155 図　石錐・楔形石器


1344　Ob(KZOB)
1345　Ob(KZOB)
1346　Ob
(KZOB)
1347　Ob(KZOB)
1348　Ob
(KZOB)
1349　Ob(KZOB)
1350　Ob(AGKT)
1351　Ob(AGKT)
1352　Ob(SWHD)
1353　Hor
0
4:5
5cm

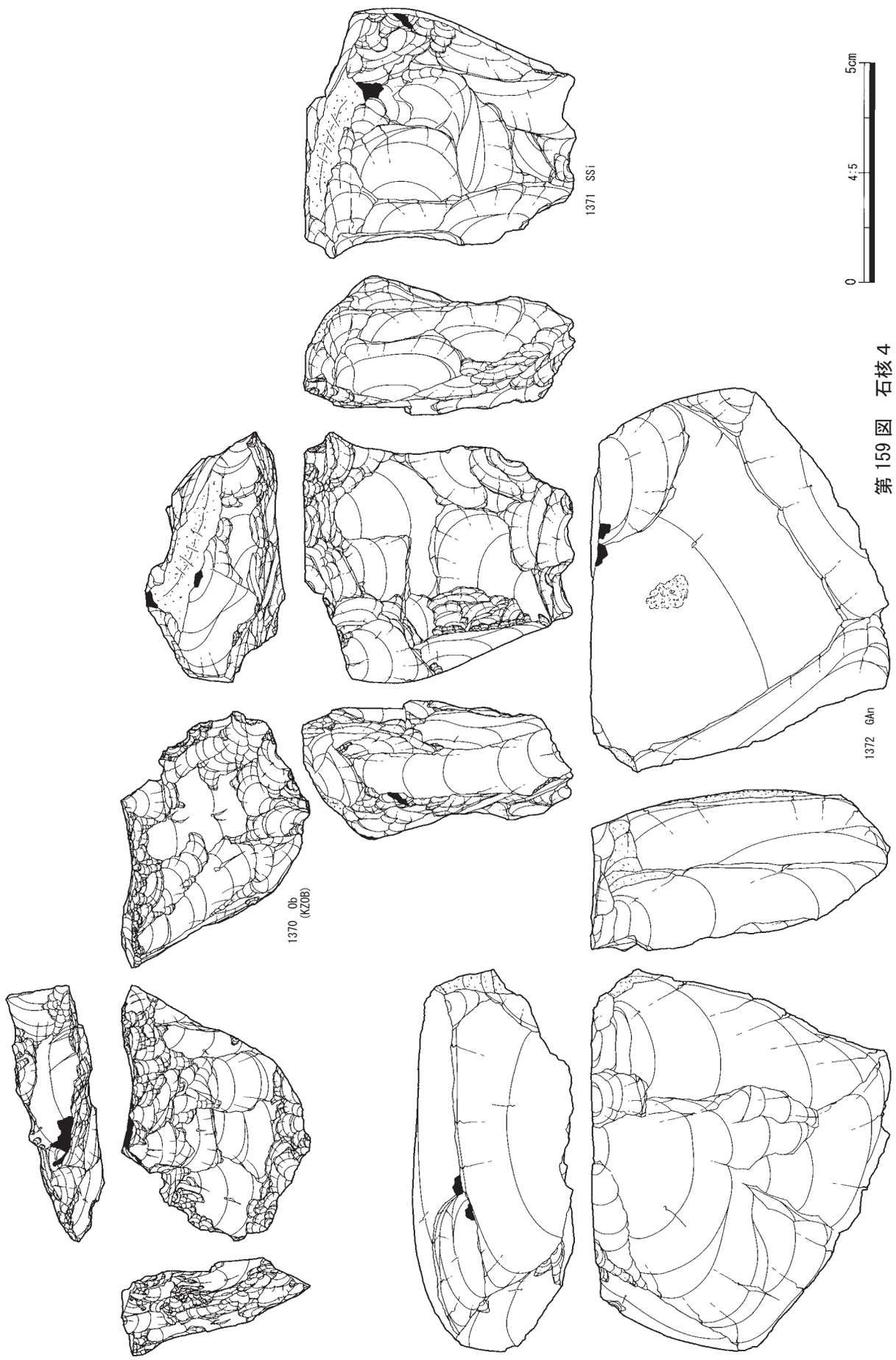
第 156 図　石核 1


1354　Ob(WDTY)
1355　Ob(SWHD)
1356　Ob
(SWHD)
1357　Ob
(SWHD)
1358　Ob
(AGKT)
1359　Ob(KZOB)
1360　Ob(KZOB)
1361　Ob(KZOB)
1362　Ob(KZOB)
1363　Ob(KZOB)
1364　Ob
(KZOB)
0
4:5
5cm

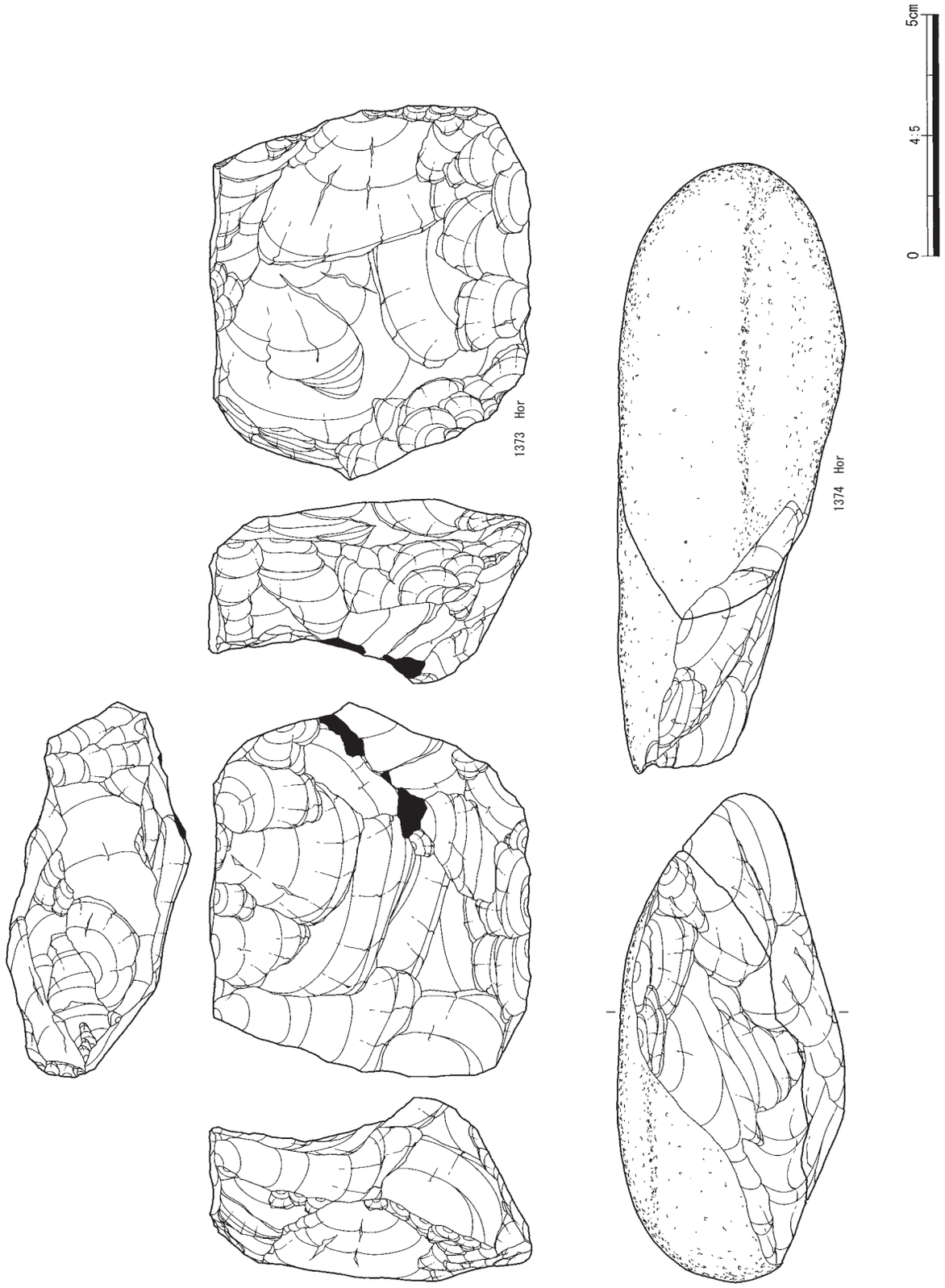
第 157 図　石核２


1365　Ob(KZOB)
1366　Ob
(KZOB)
1367　Ob(KZOB)
1368　Ob(KZOB)
1369　Ob(KZOB)
0
4:5
5cm

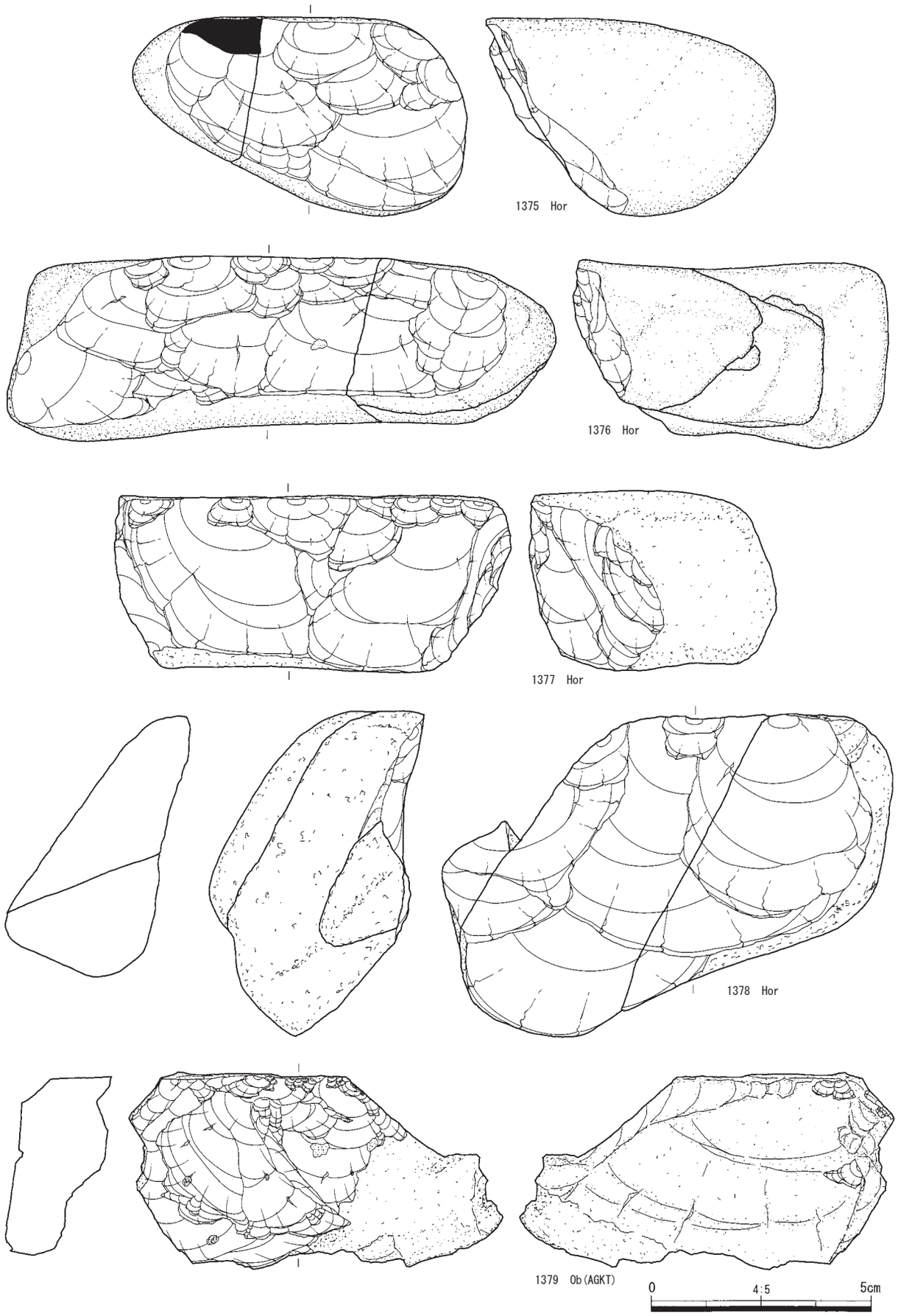
第 158 図　石核３



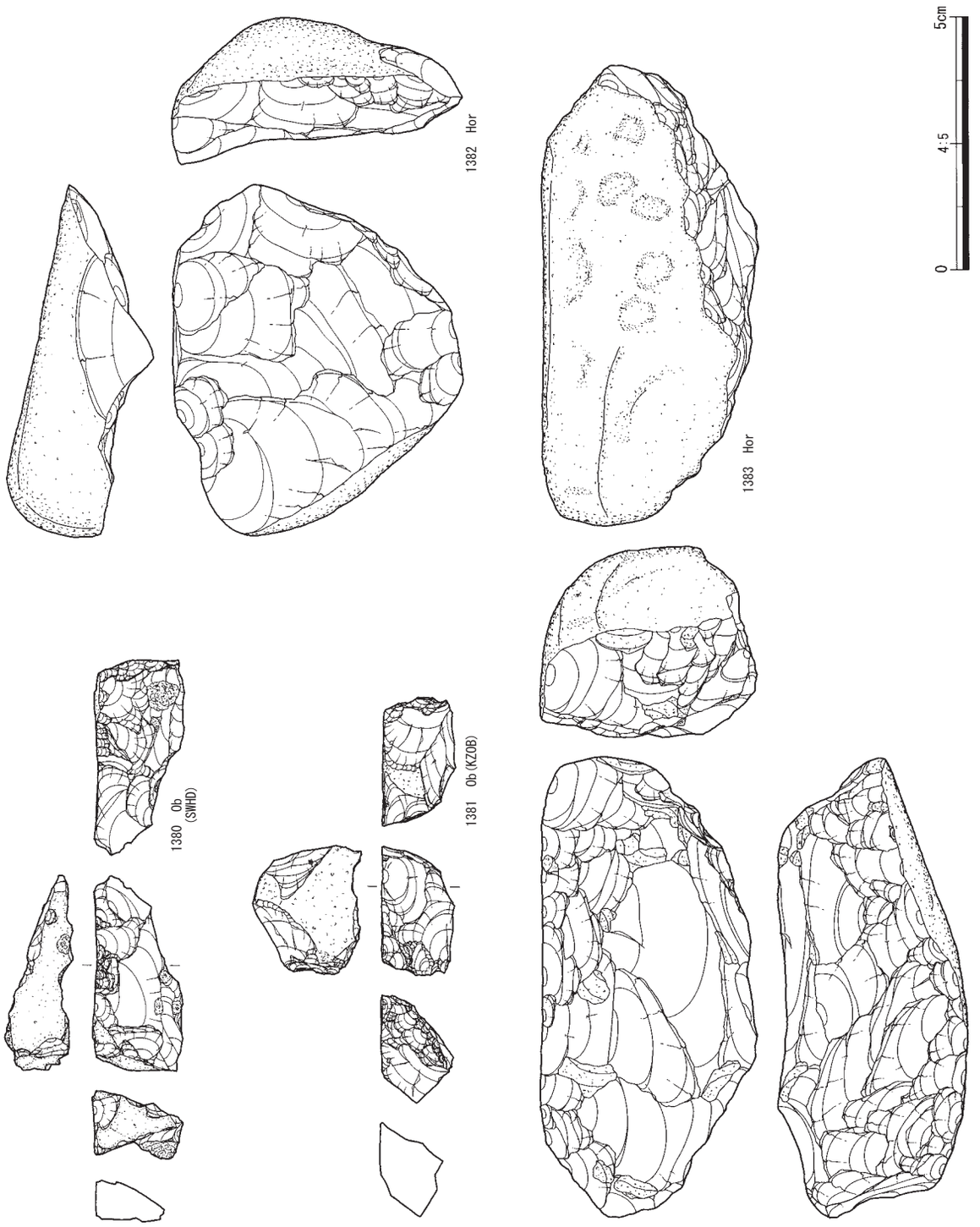
第 159 図　石核 4



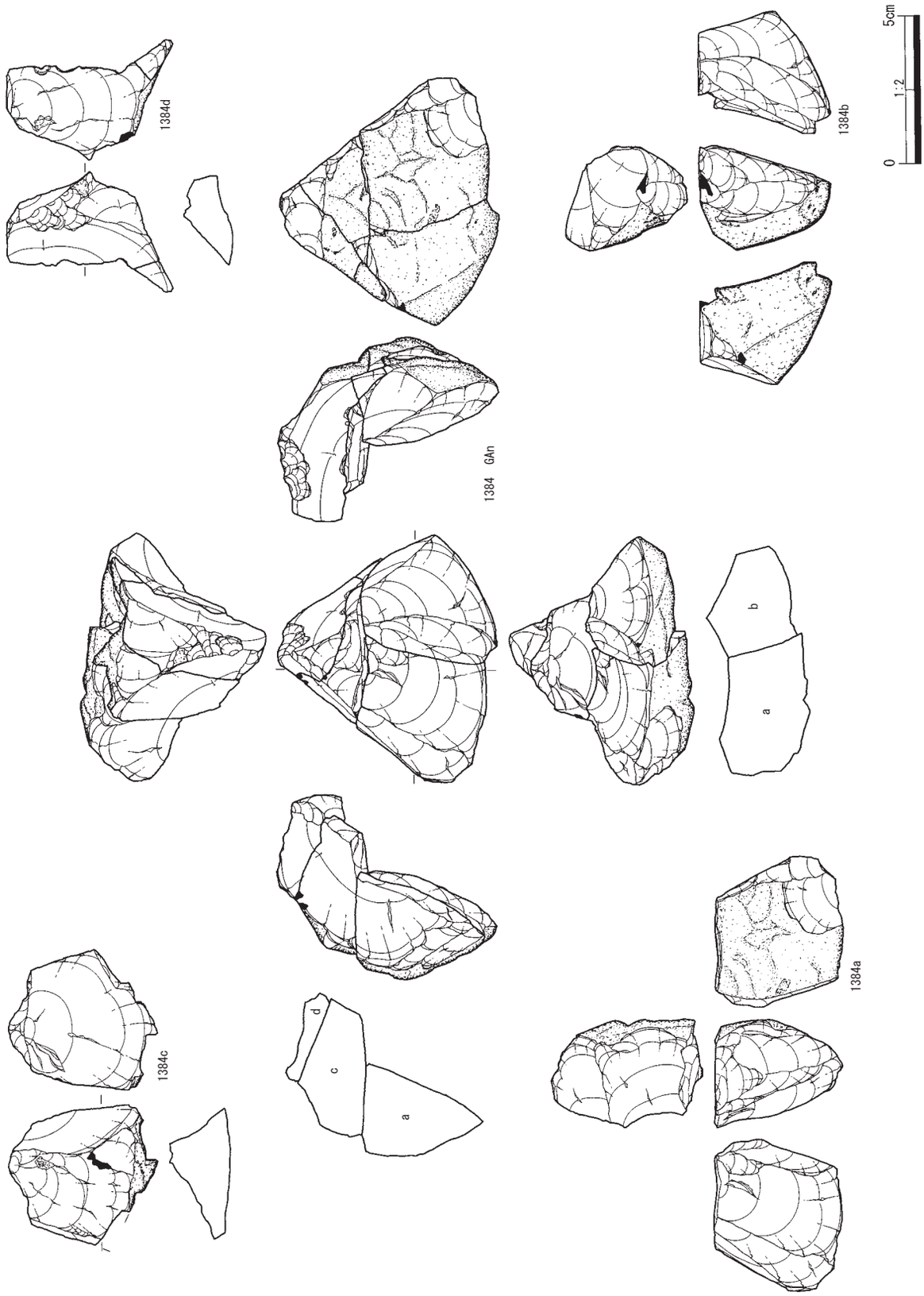
第 160 図　石核５



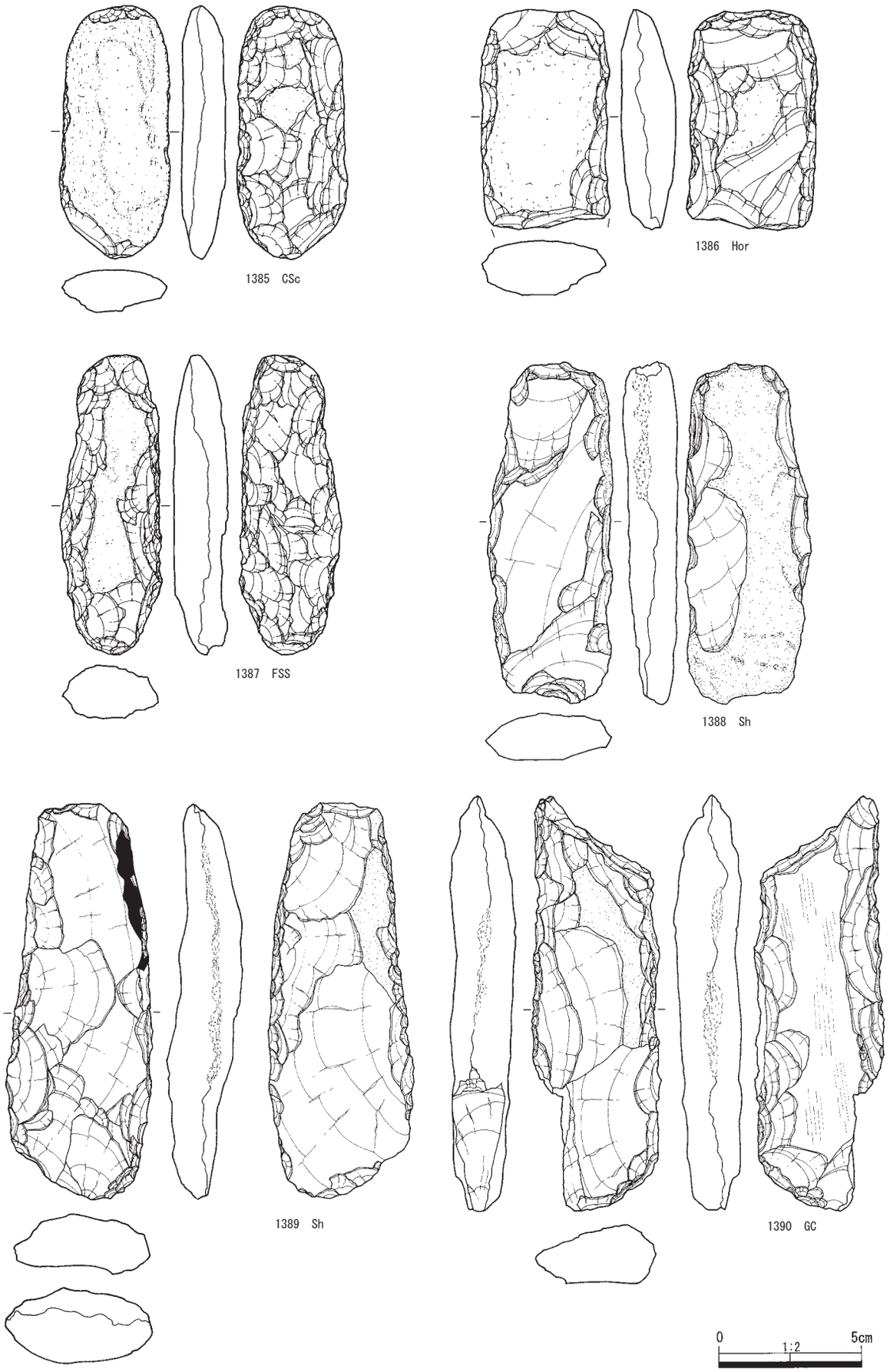
第 161 図　石核６



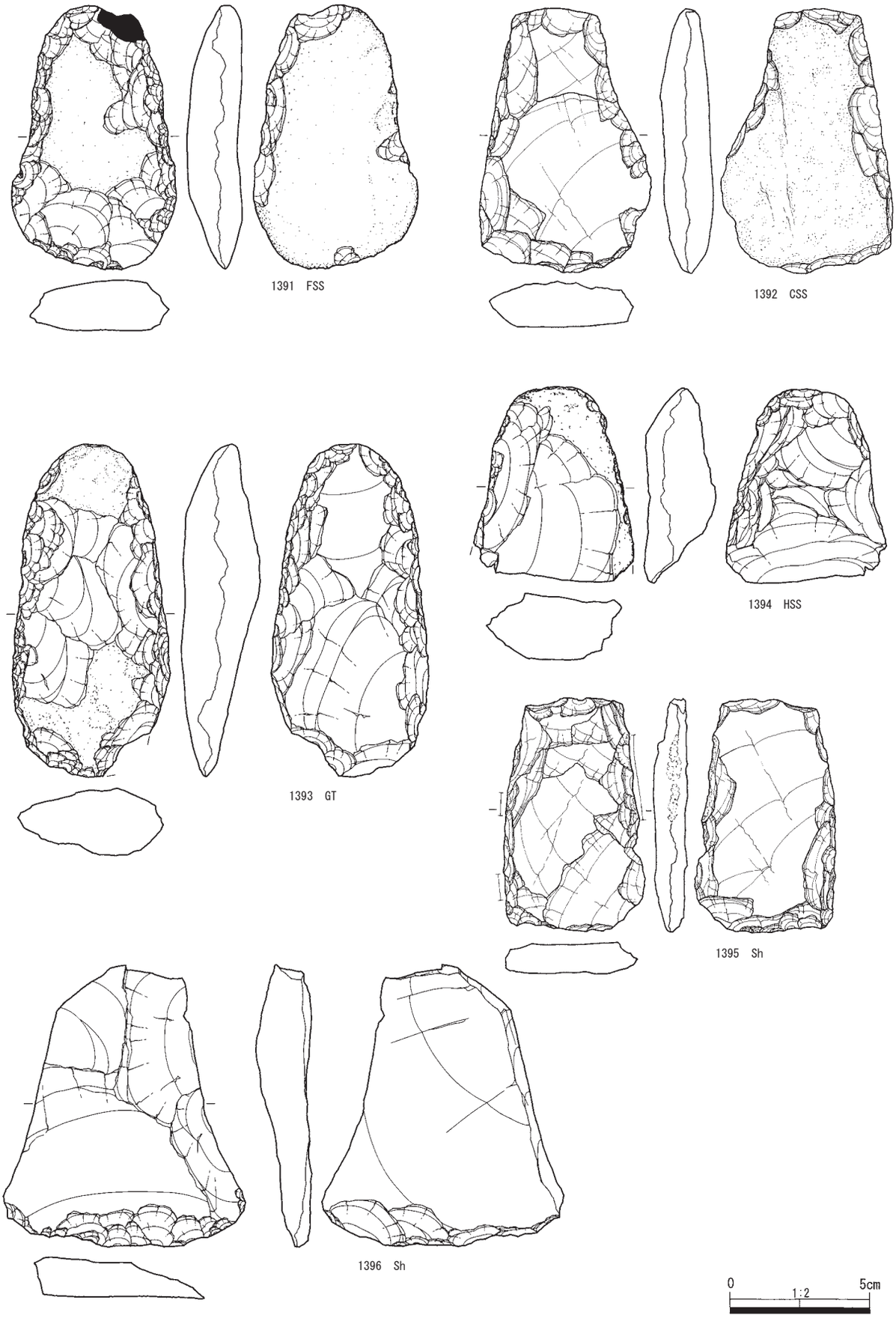
第 162 図　石核 7



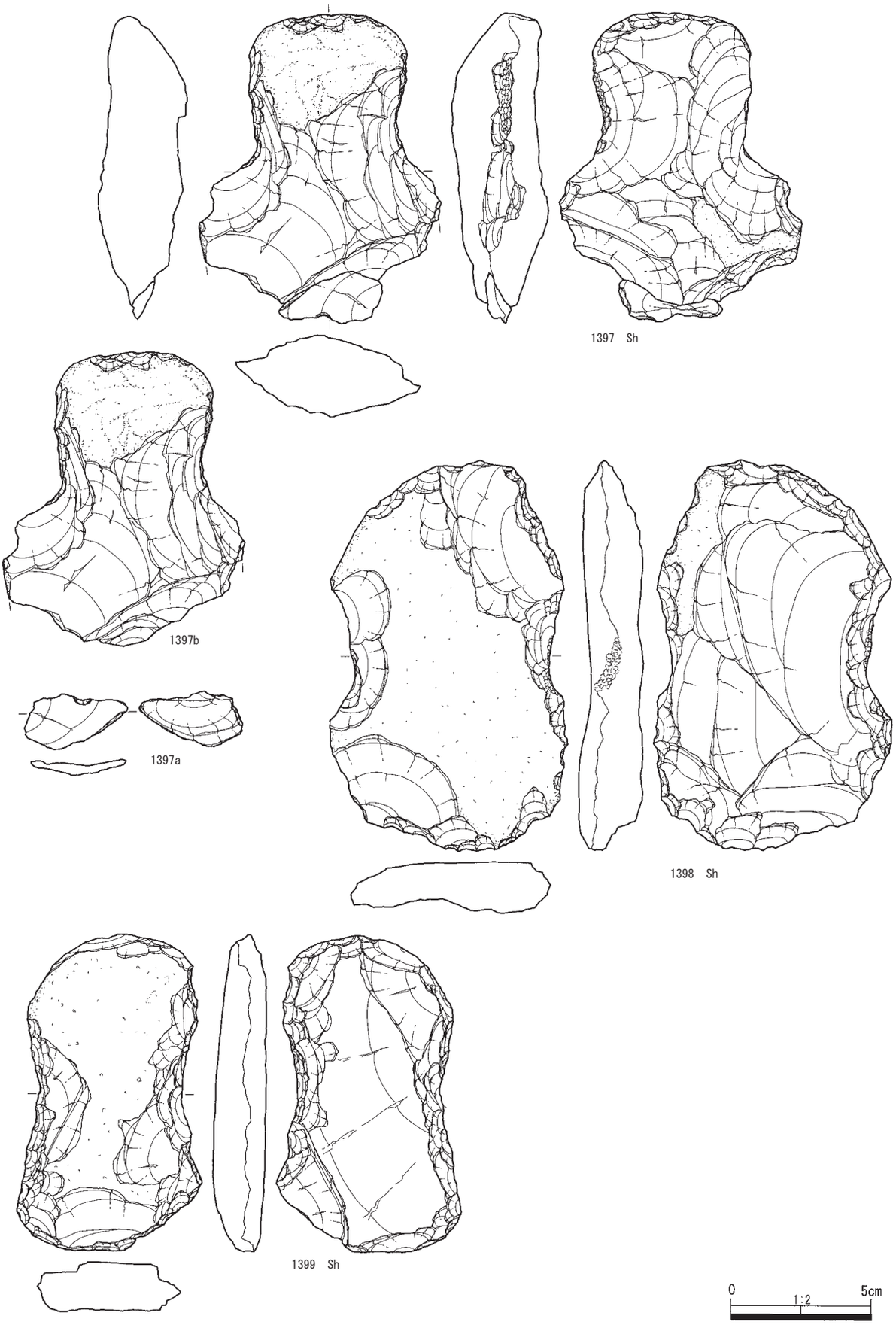
第 163 図　石核 8



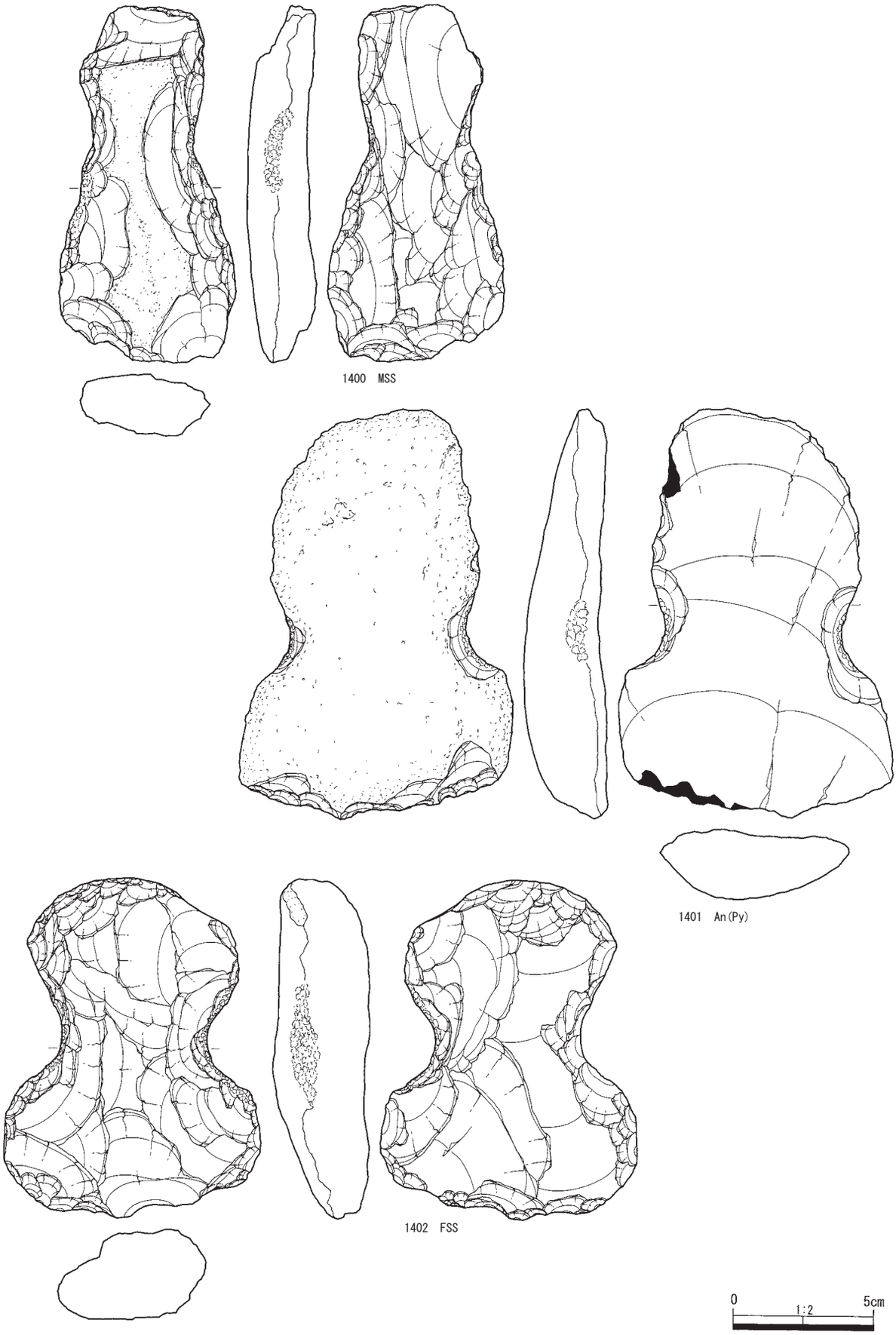
第 164 図　打製石斧 1



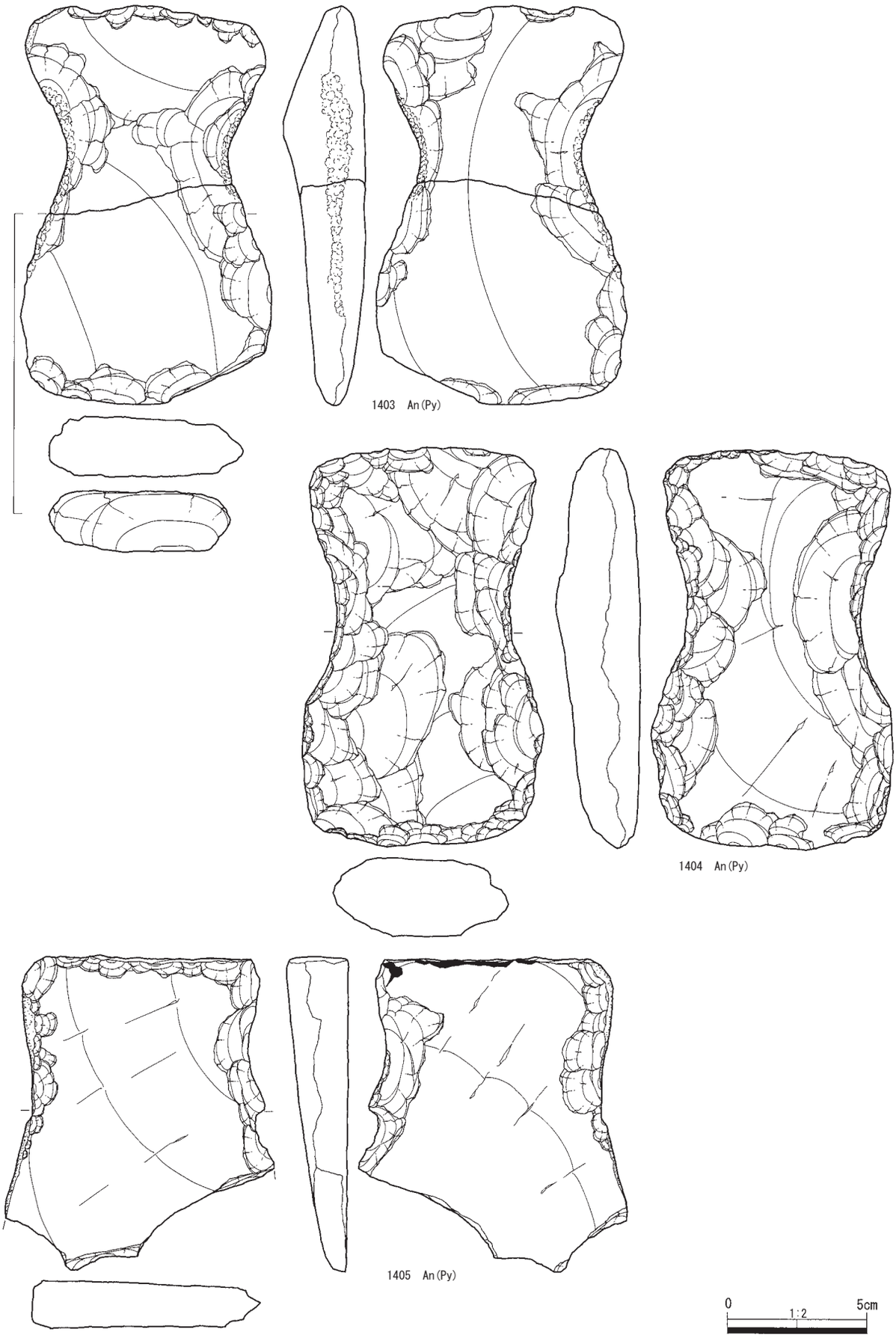
第 165 図　打製石斧２



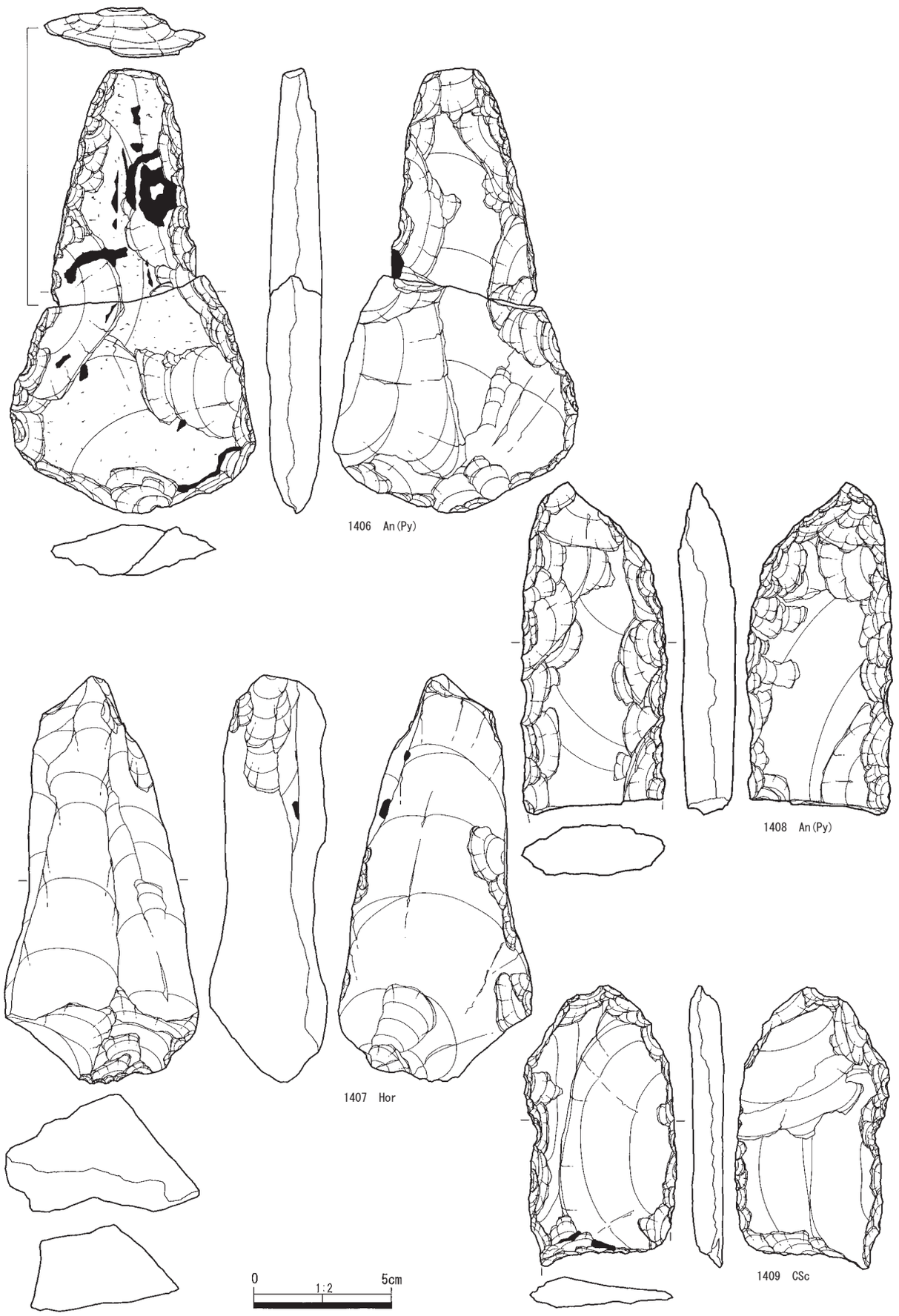
第 166 図　打製石斧３



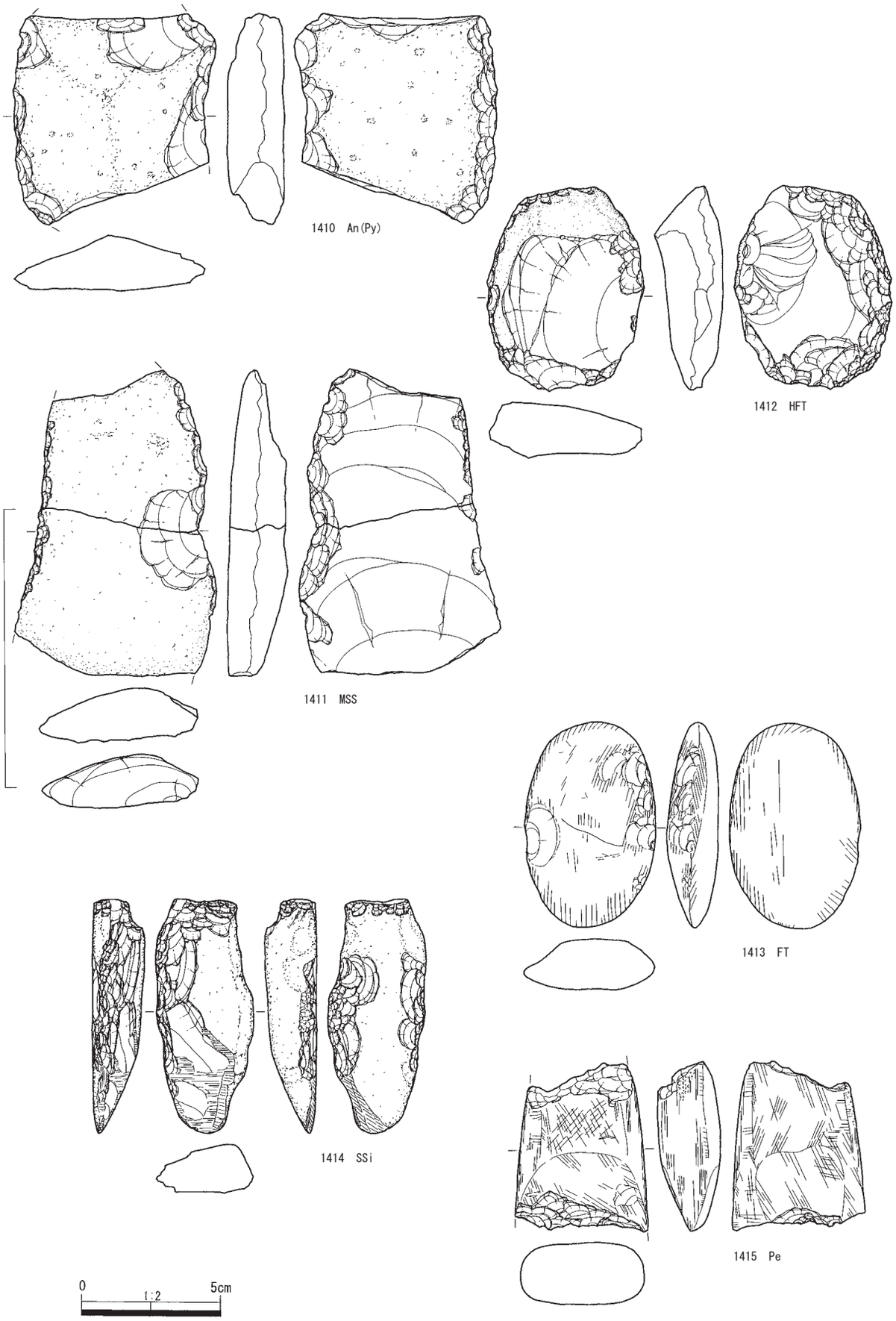
第 167 図　打製石斧４



第 168 図　打製石斧５

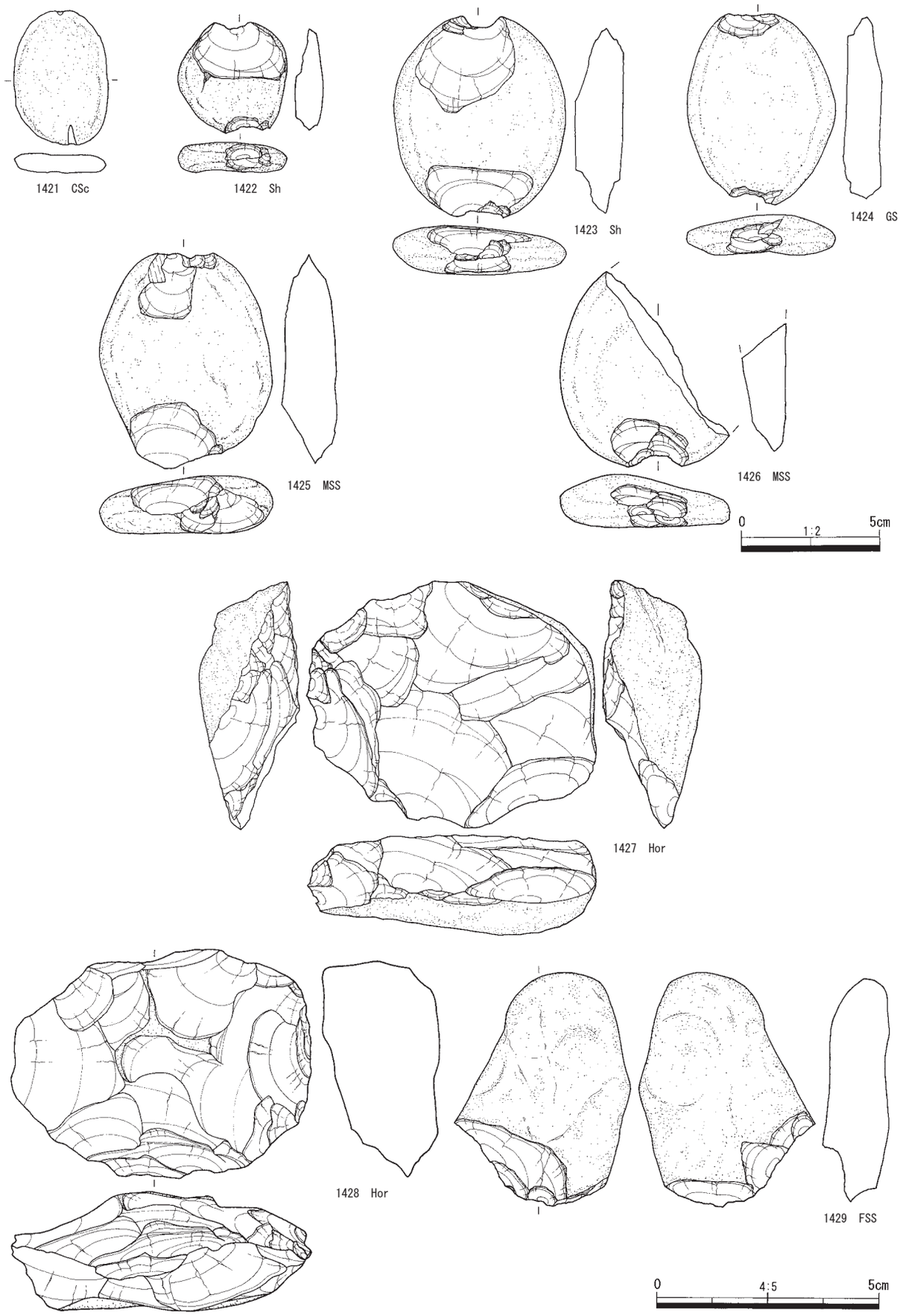


第 169 図　打製石斧６

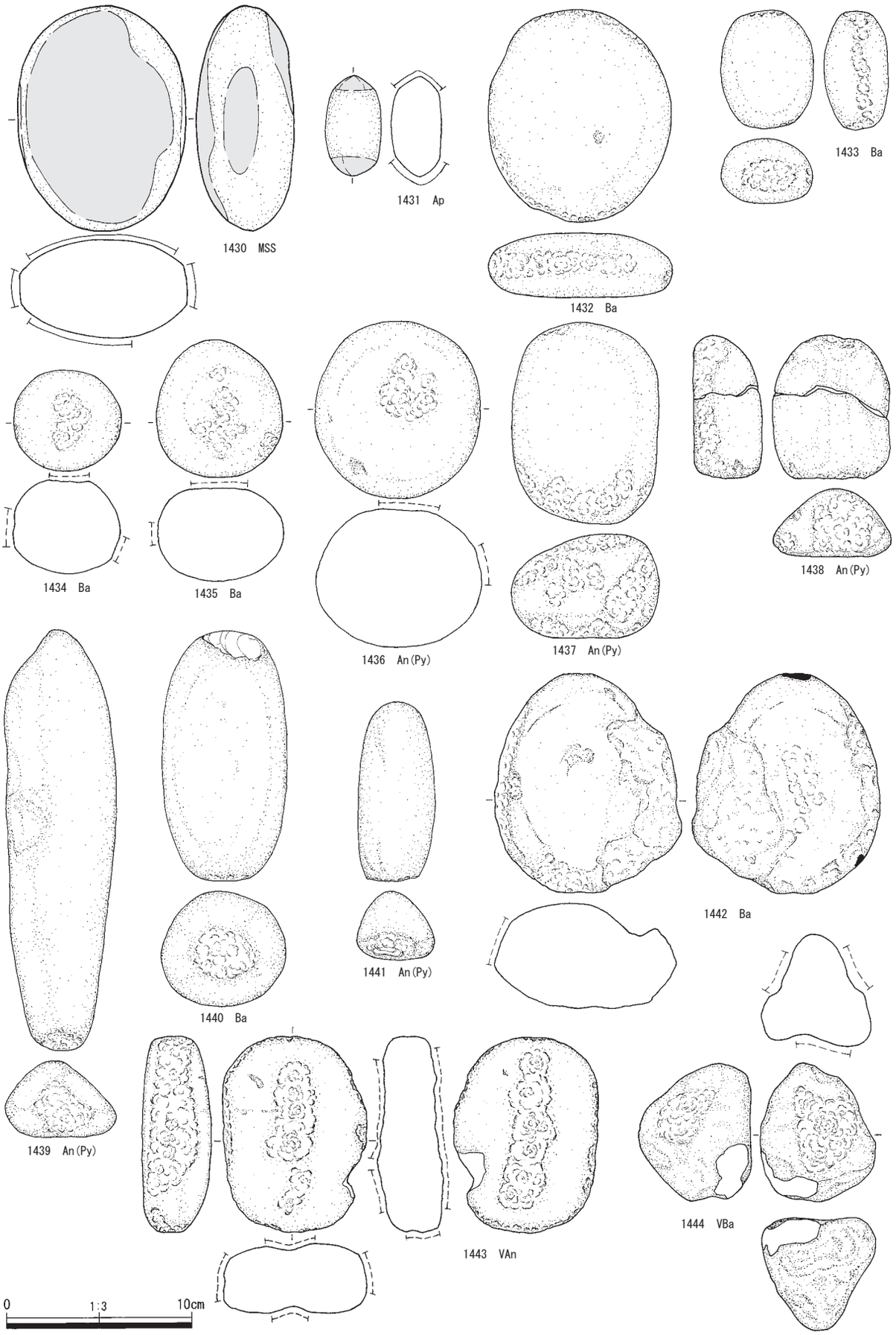


第 170 図　打製石斧７・磨製石斧１

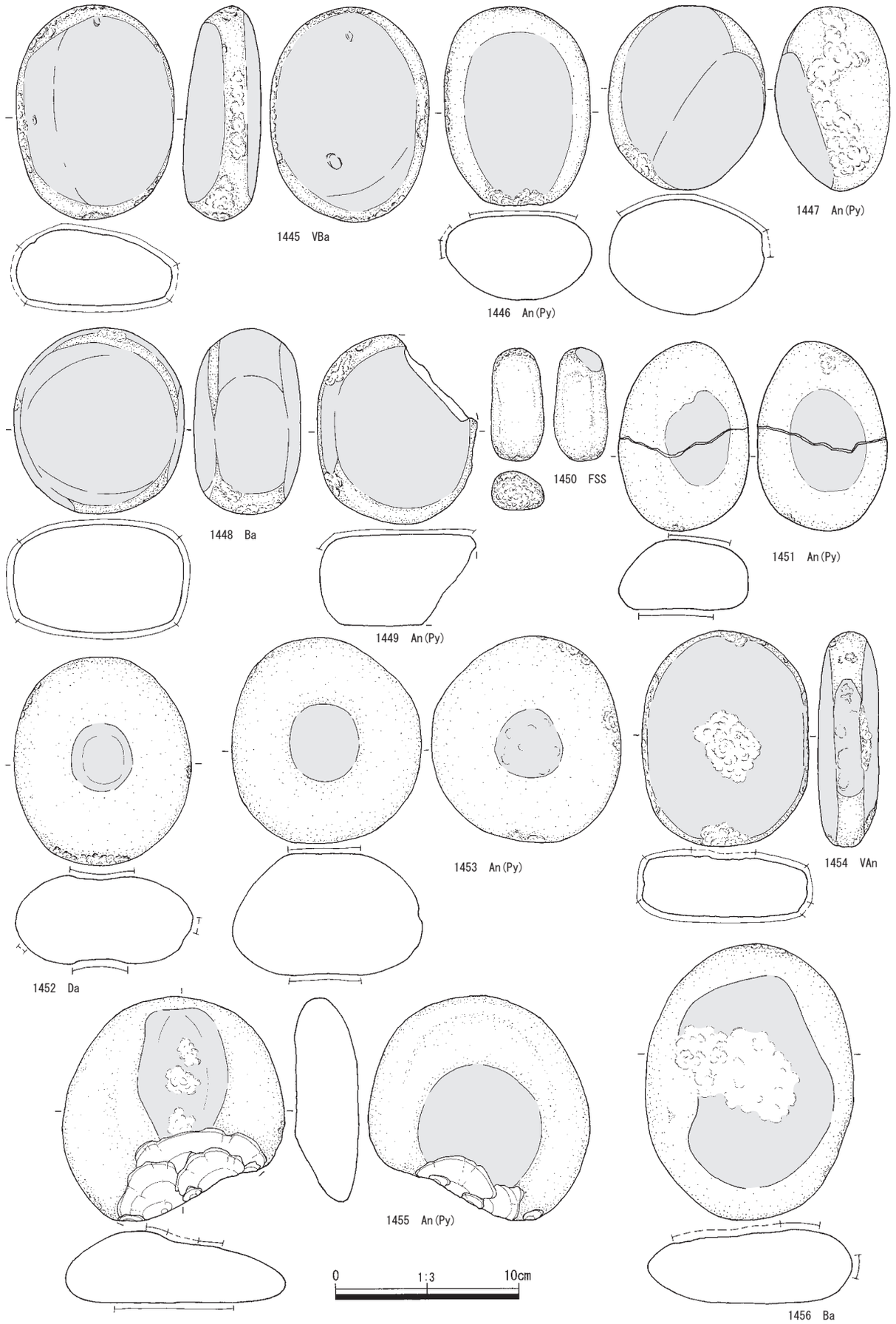
第 171 図　磨製石斧２


1421 CSc
1422 Sh
1423 Sh
1424 GS
1425 MSS
1426 MSS
0 1:2 5cm
1427 Hor
1428 Hor
1429 FSS
0 4:5 5cm

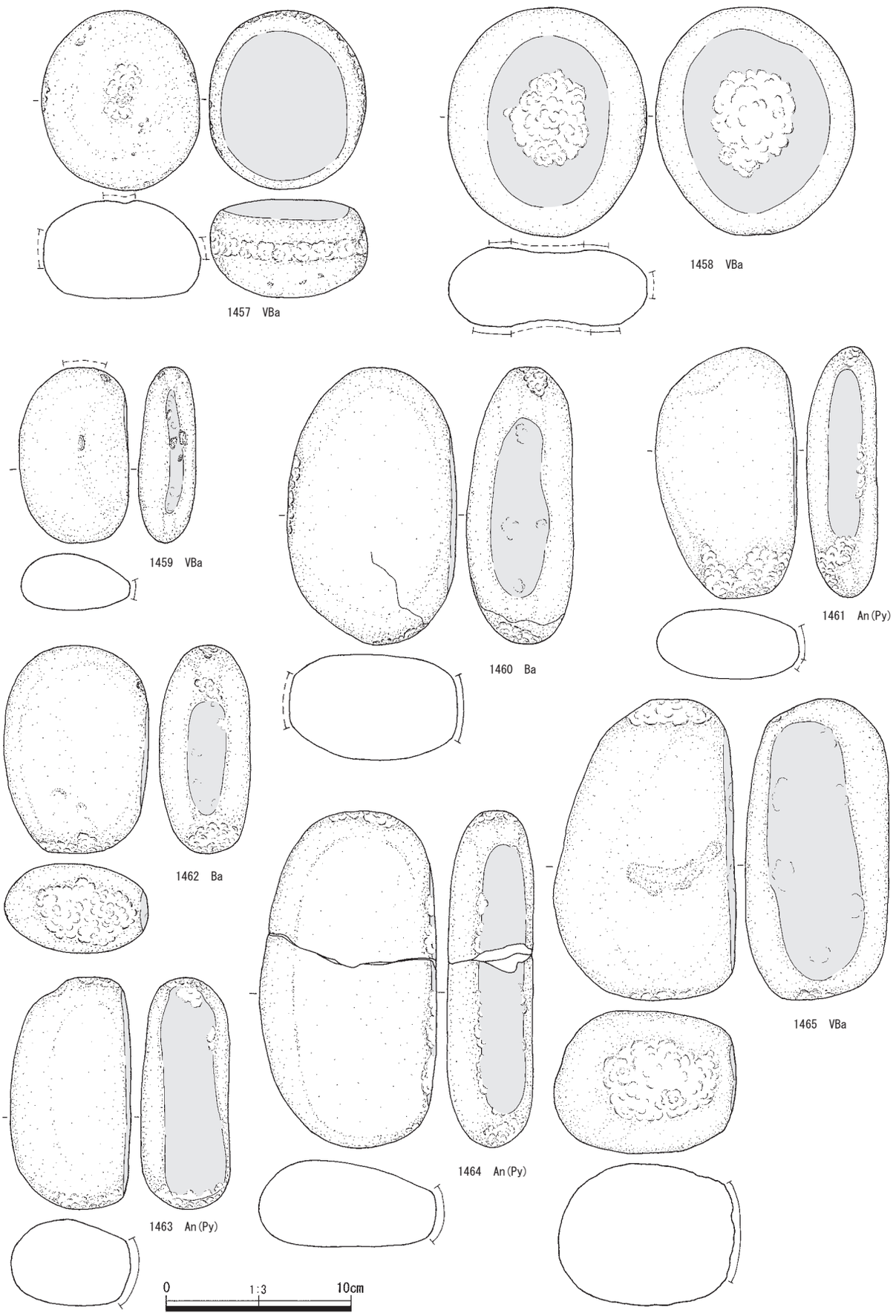
第 172 図　石錘・礫器



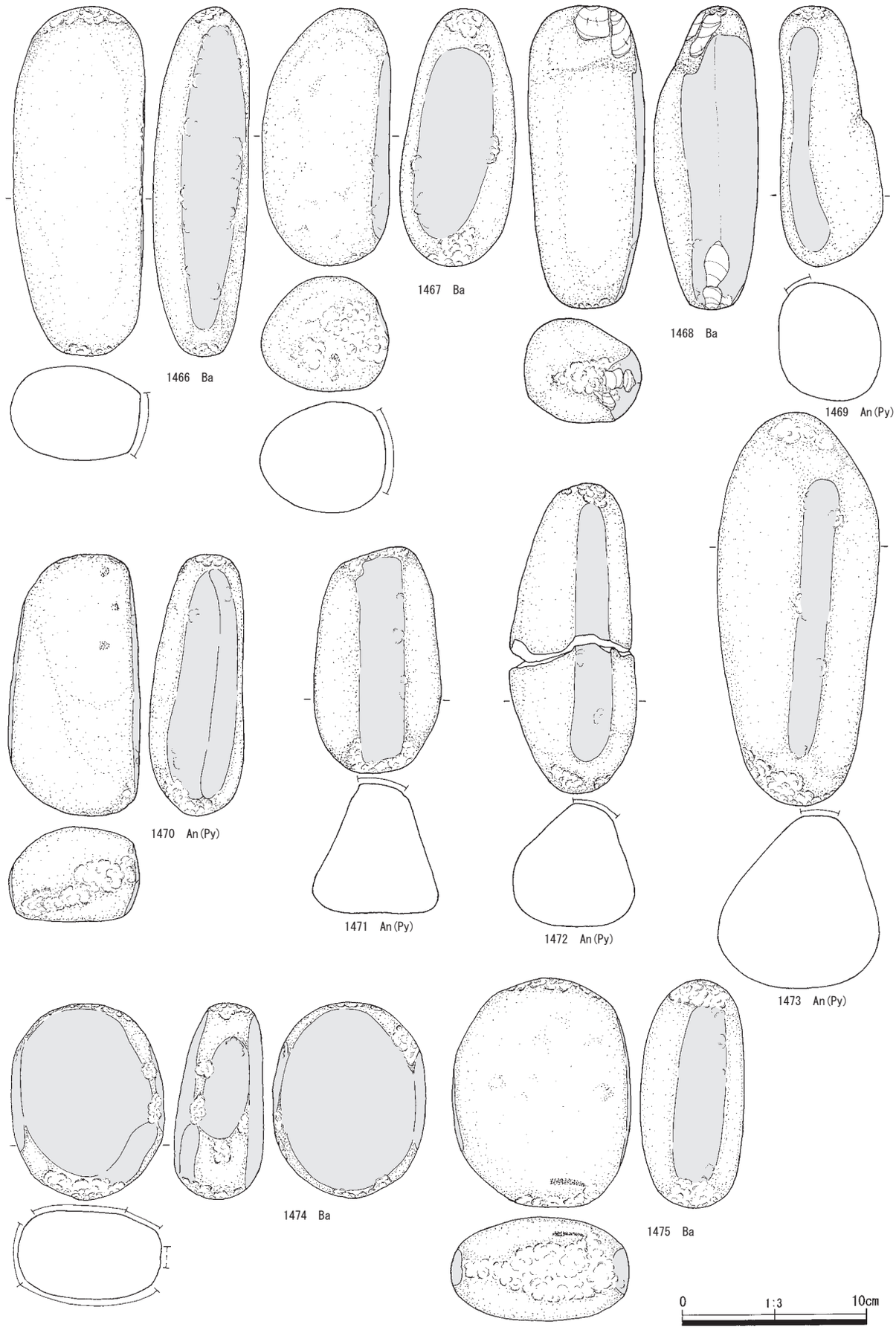
第 173 図　磨石・敲石類１



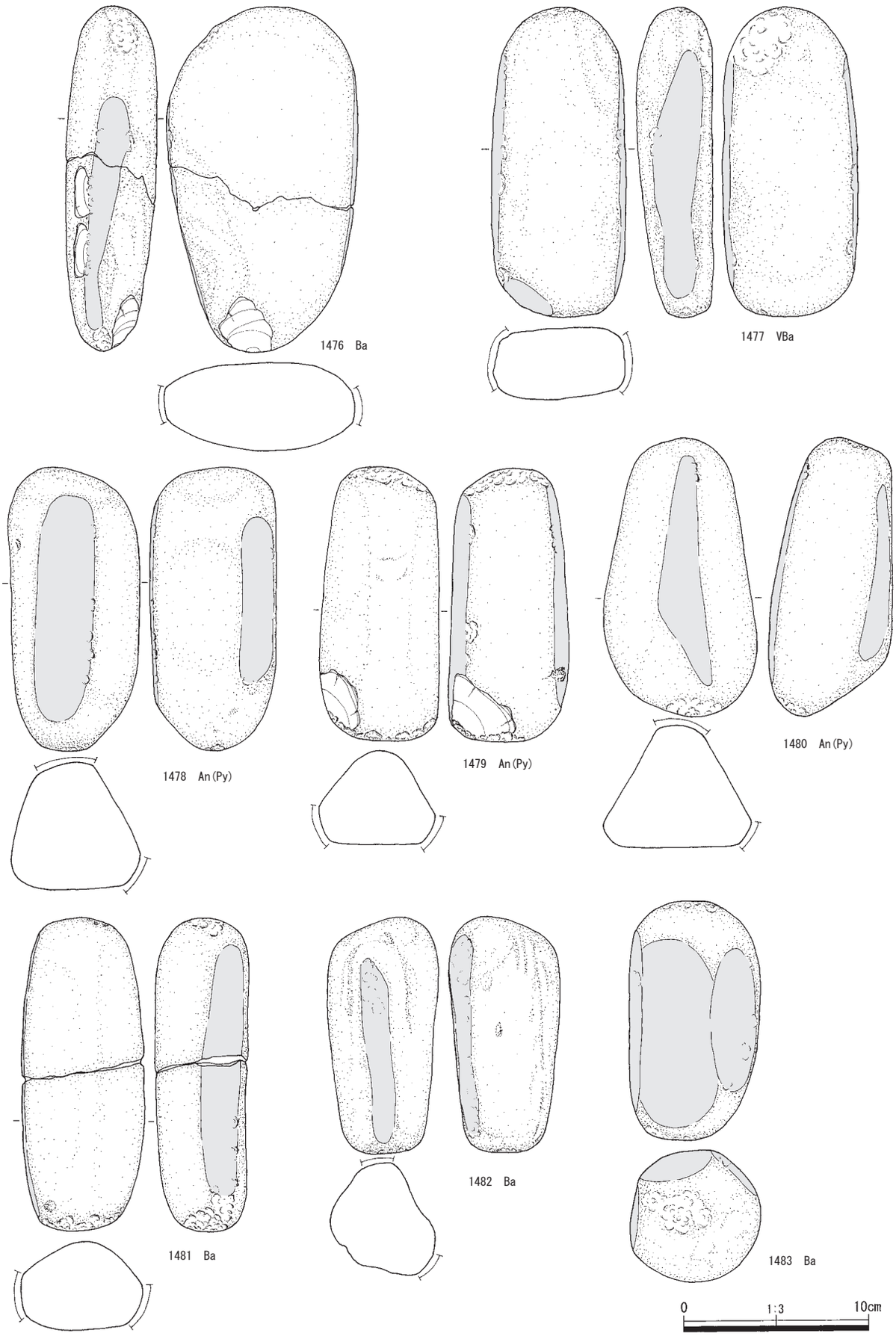
第 174 図　磨石・敲石類２



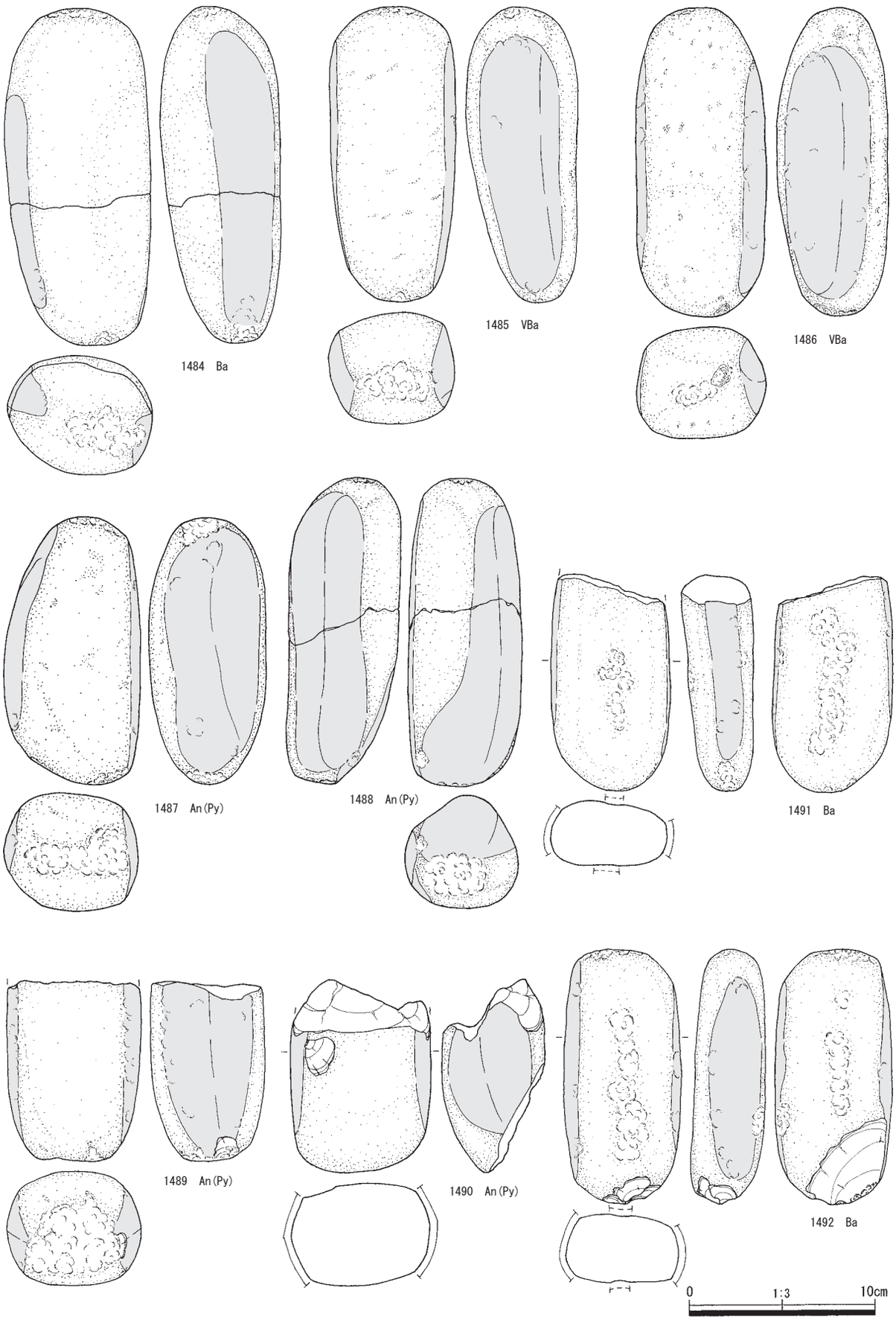
第 175 図　磨石・敲石類３



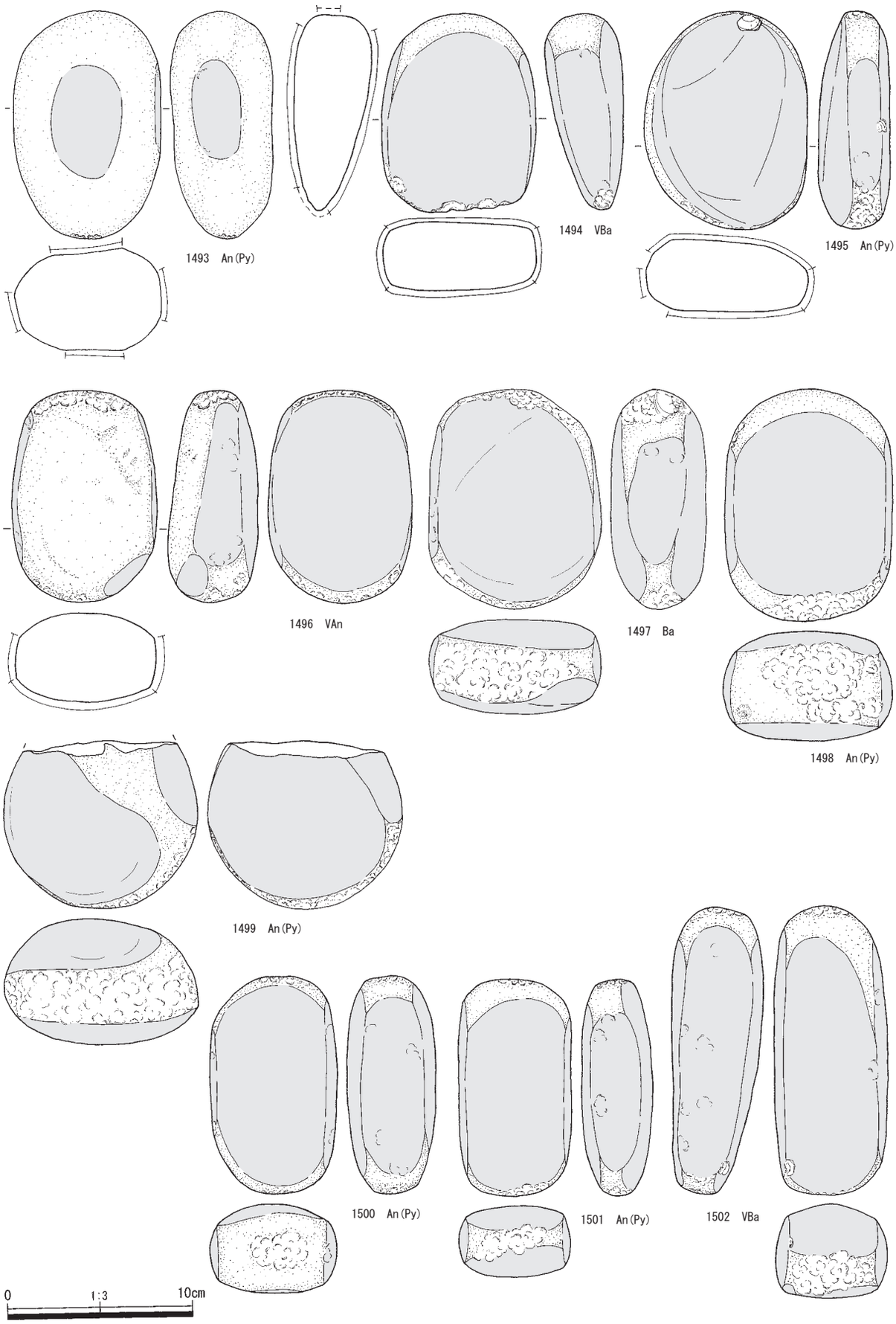
第 176 図　磨石・敲石類４



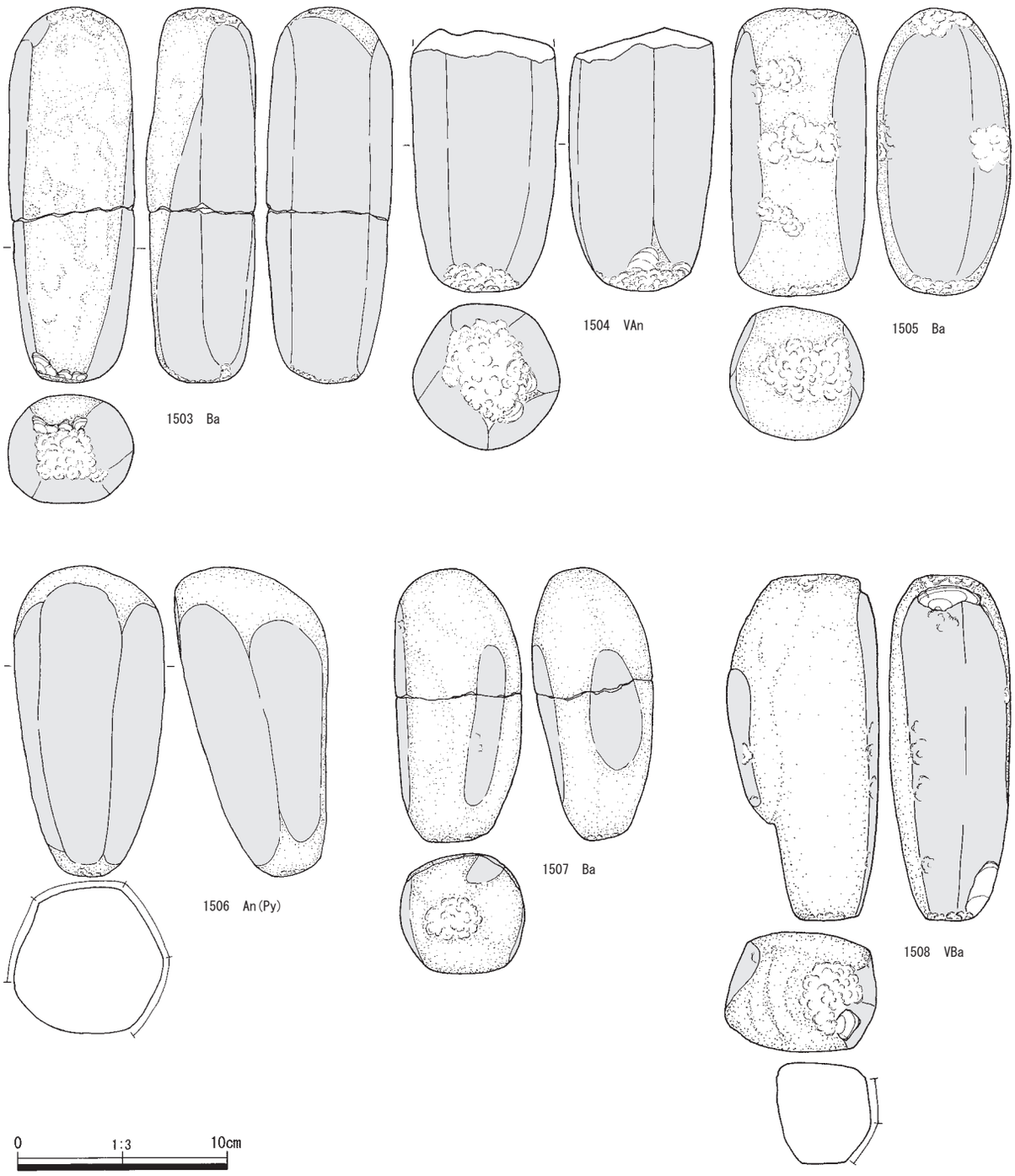
第 177 図　磨石・敲石類５



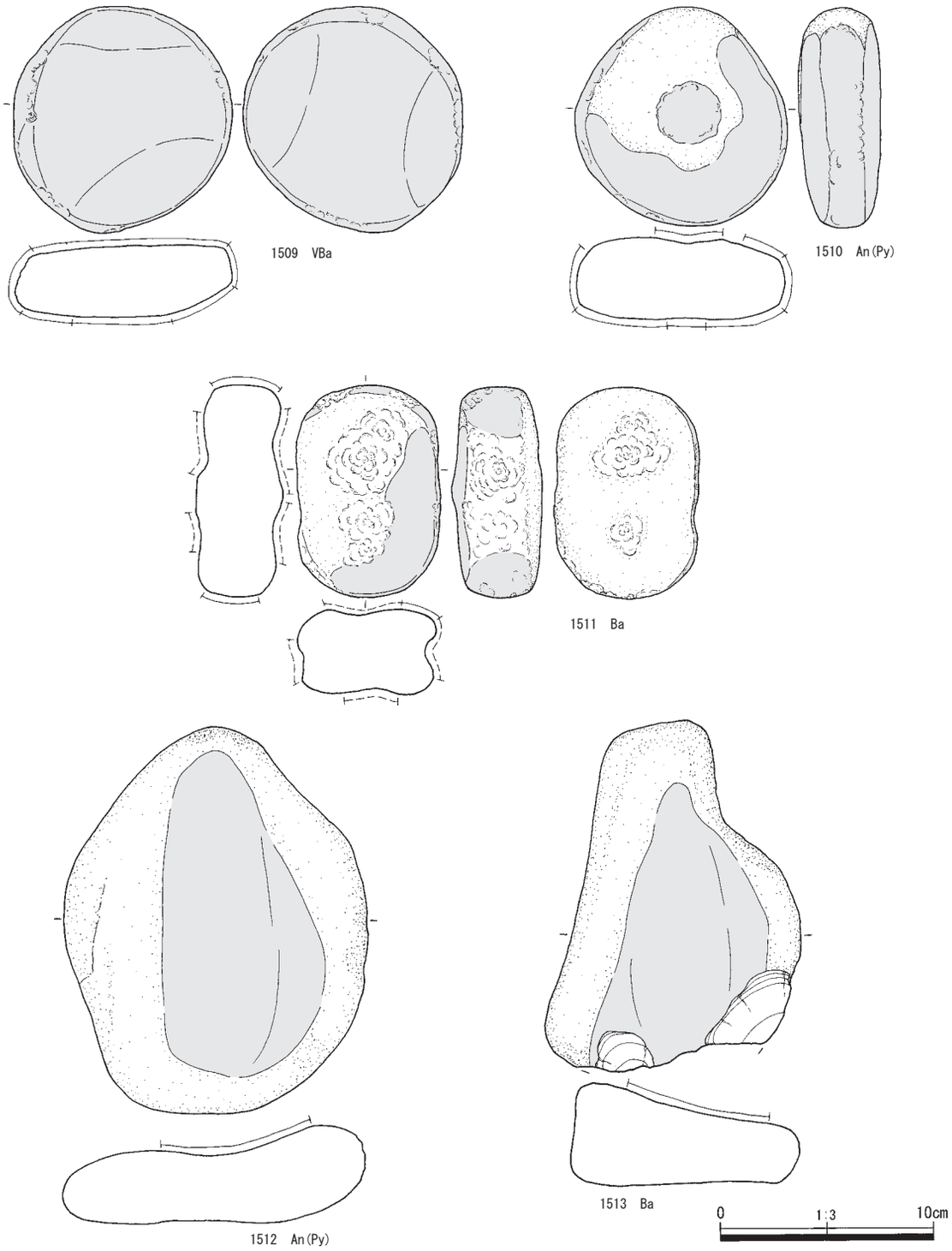
第 178 図　磨石・敲石類６



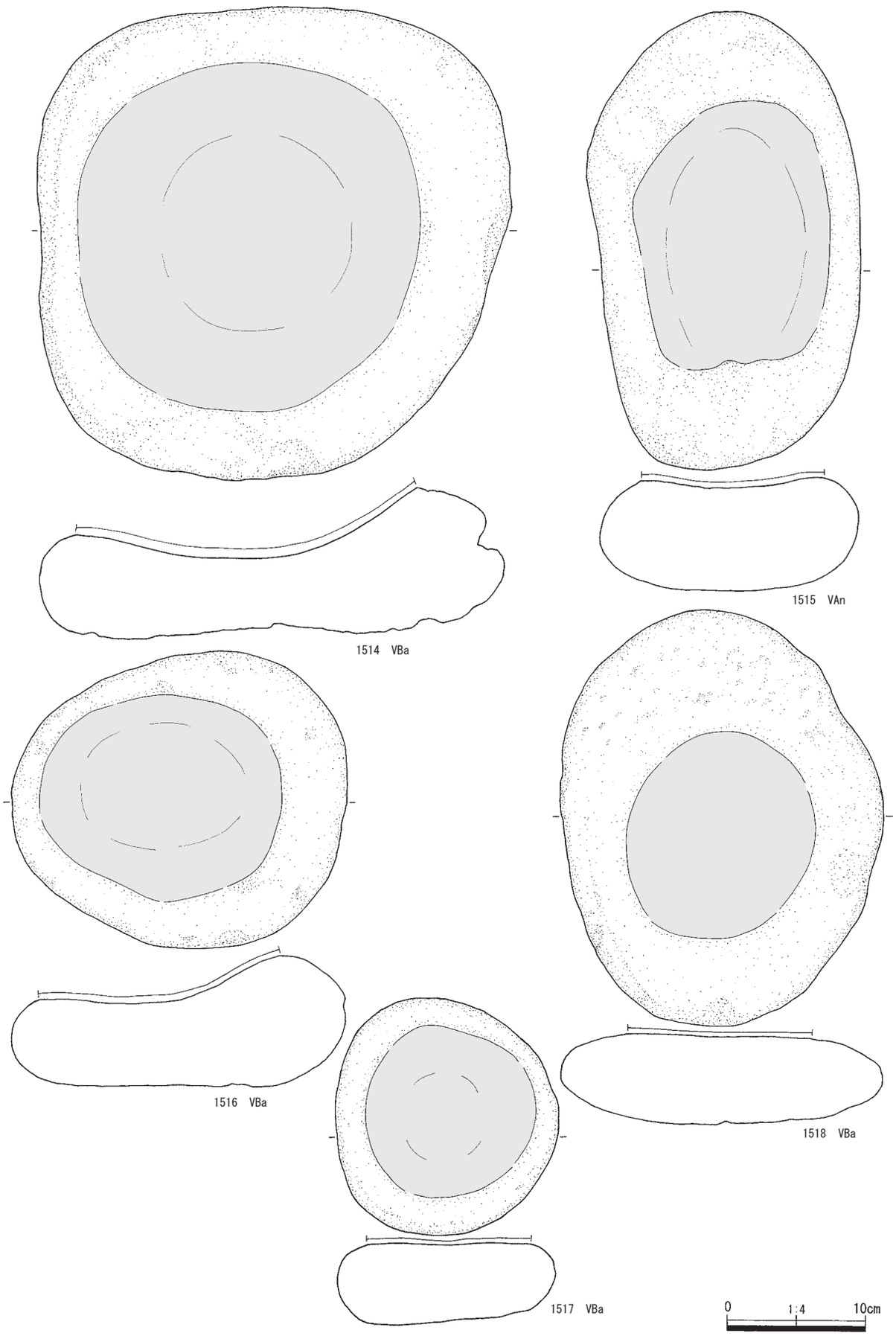
第 179 図　磨石・敲石類 7



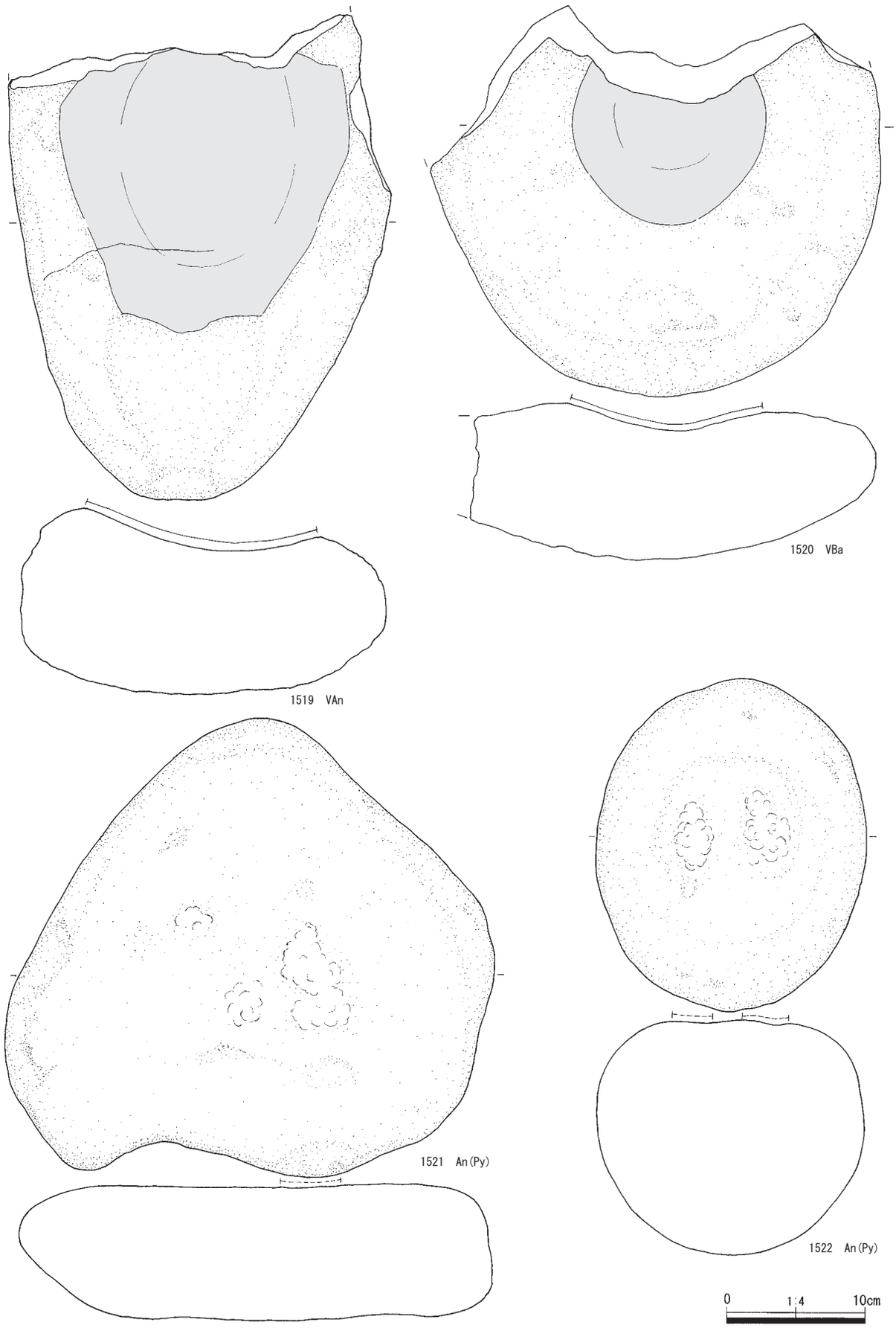
第 180 図　磨石・敲石類８



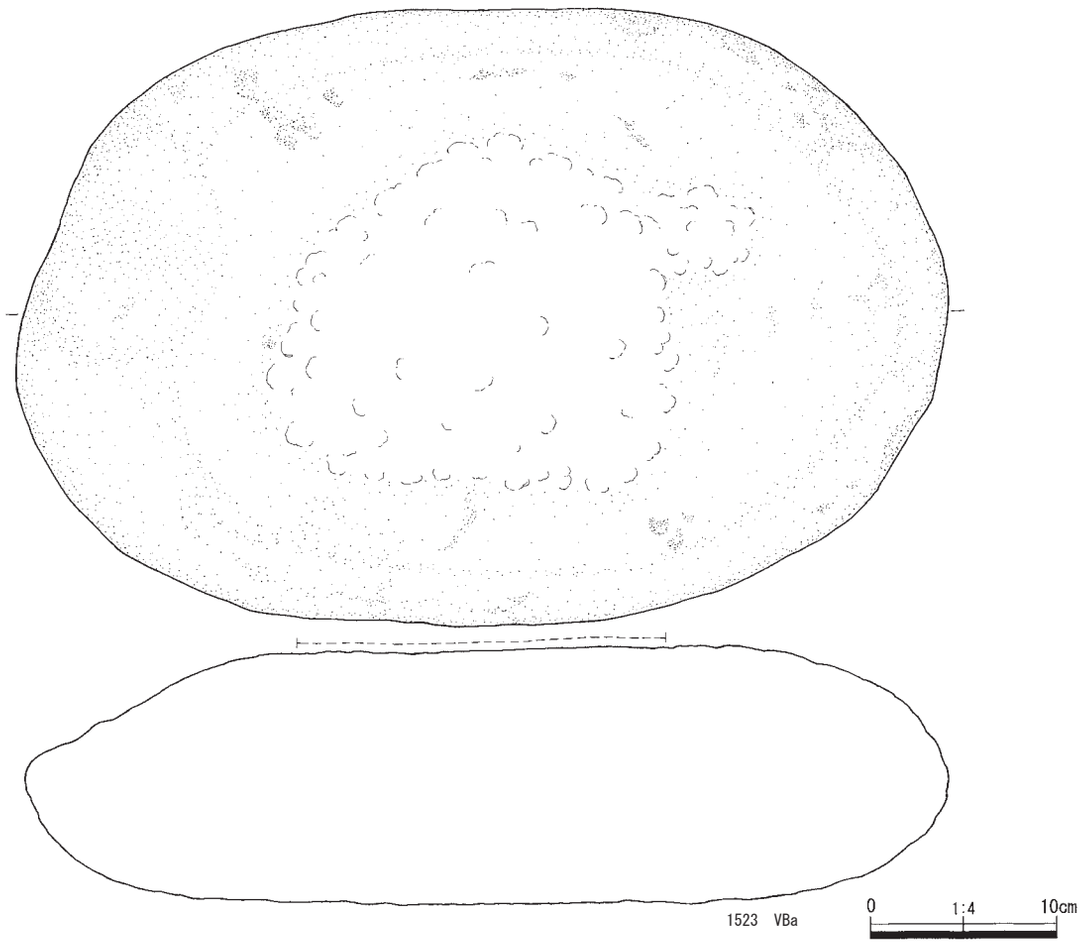
第 181 図　磨石・敲石類９・石皿１



第 182 図　石皿２



第 183 図　石皿３・台石１



第 184 図　台石２

第15表　縄文時代包含層出土石器計測表

挿図番号	挿枝	図版番号	遺物番号	枝番	層位	グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合番号	形状分類
1155		120	41856		NSC	AD-24	石鏃	Ob	SWHD	18.6	17.4	4.2	1.0		A-1
1156		120	42657		NSC	AB-21	石鏃	Ob	AGKT	17.8	18.7	3.9	0.9		A-1
1157		120	81501		表土	－	石鏃	Ob	SWHD	23.4	17.3	2.3	0.4		B-1a
1158		120	80117		表土	－	石鏃	Ob	SWHD	22.9	16.4	2.8	0.5		B-1a
1159		120	63191		FB	T-11	石鏃	Ob	SWHD	22.1	12.3	3.2	0.5		B-1a
1160		120	37883		FB	AI-20	石鏃	Ob	SWHD	16.1	11.0	3.1	0.3		B-1
1161		120	38343		UK	AE-22	石鏃	Ob	SWHD	18.2	10.8	2.8	0.4		B-1
1162		120	46091		FB	AE-25	石鏃	Ob	SWHD	17.2	13.6	3.1	0.5		B-1
1163		120	7791		FB	S-18	石鏃	Ob	SWHD	18.9	10.8	3.1	0.4		B-1
1164		120	42919		AN	AF-23	石鏃	Ob	SWHD	18.9	15.6	3.1	0.6		B-1
1165		120	23752		FB	AE-25	石鏃	Ob	SWHD	17.6	13.0	3.9	0.6		B-1
1166		120	6667		－	L-13	石鏃	Ob	SWHD	17.1	14.2	2.6	0.4		B-1
1167		120	67375		クロ	V-12	石鏃	Ob	SWHD	17.8	13.8	3.6	0.6		B-1
1168		120	66484		KU	Q-12	石鏃	Ob	SWHD	21.4	12.8	4.2	0.6		B-1
1169		120	48286		FB	AB-21	石鏃	Ob	SWHD	16.8	15.4	3.1	0.6		B-1
1170		120	27624		FB	AH-30	石鏃	Ob	SWHD	20.9	14.6	3.8	0.9		B-1
1171		120	19118		FB	W-20	石鏃	Ob	SWHD	18.4	15.8	3.5	0.7		B-1
1172		120	66582		クロ	P-10	石鏃	Ob	SWHD	22.1	16.1	4.6	1.2		B-1
1173		120	67842		FB	V-12	石鏃	Ob	SWHD	21.6	15.4	3.6	1.0		B-1
1174		120	47955		FB	AA-24	石鏃	Ob	SWHD	21.2	14.6	3.2	0.8		B-1
1175		120	50000		FB	AA-22	石鏃	Ob	SWHD	21.9	14.2	2.8	0.7		B-1
1176		120	8577		クロ	AF-23	石鏃	Ob	SWHD	26.6	17.9	4.2	1.4		B-1
1177		120	46797		FB	AD-22	石鏃	Ob	SWHD	23.6	14.8	4.4	1.0		B-1
1178		120	57425		KU	AC-26	石鏃	Ob	SWHD	23.0	18.3	4.5	1.2		B-1
1179		120	37880		FB	AI-21	石鏃	Ob	SWHD	25.8	19.2	4.2	1.1		B-1
1180		120	56313		KU	AD-23	石鏃	Ob	SWHD	27.9	18.2	4.6	1.5		B-1
1181		120	53452		FB	Z-22	石鏃	Ob	SWHD	29.6	17.1	4.6	1.7		B-1
1182		120	2128		FB	W-10	石鏃	Ob	SWHD	25.6	17.6	4.3	1.1		B-1
1183		120	11013		FB	Y-20	石鏃	Ob	SWHD	28.8	18.6	4.5	1.6		B-1
1184		120	68425		AN	Y-12	石鏃	Ob	KZOB	11.8	12.6	2.1	0.2		B-1
1185		120	18978		FB	V-20	石鏃	Ob	KZOB	16.1	11.3	3.7	0.5		B-1
1186		120	57319		FB	AC-25	石鏃	Ob	KZOB	18.4	11.3	4.4	0.7		B-1
1187		120	13184		FB	X-21	石鏃	Ob	KZOB	18.4	11.9	4.1	0.5		B-1
1188		120	16144		FB	W-21	石鏃	Ob	KZOB	17.9	13.8	4.1	0.6		B-1
1189		120	67607		FB	U-13	石鏃	Ob	KZOB	15.2	13.1	3.5	0.5		B-1
1190		120	36838		KU	AI-20	石鏃	Ob	KZOB	15.2	14.9	4.2	0.6		B-1
1191		120	17211		FB	W-20	石鏃	Ob	KZOB	14.8	15.1	4.5	0.7		B-1
1192		120	14183		FB	P-15	石鏃	Ob	KZOB	15.9	15.6	4.3	0.6		B-1
1193		120	17956		FB	X-21	石鏃	Ob	KZOB	19.1	13.8	3.8	0.7		B-1
1194		120	8417		FB	AH-26	石鏃	Ob	KZOB	18.5	16.2	4.3	0.7		B-1
1195		120	51168		FB	Y-21	石鏃	Ob	KZOB	20.4	17.6	3.8	1.0		B-1
1196		120	285		FB	Y-21	石鏃	Ob	KZOB	18.1	16.1	4.2	0.9		B-1
1197		120	13640		FB	R-17	石鏃	Ob	KZOB	17.2	20.9	7.2	1.4		B-1
1198		120	67131		クロ	V-13	石鏃	Ob	KZOB	21.0	15.4	4.6	1.0		B-1
1199		120	55824		FB	Z-21	石鏃	Ob	KZOB	21.1	15.9	4.2	1.0		B-1
1200		120	67339		クロ	W-12	石鏃	Ob	KZOB	22.2	15.6	4.9	1.3		B-1
1201		120	18968		FB	V-20	石鏃	Ob	KZOB	21.7	15.9	5.4	1.4		B-1
1202		120	62862		FB	Z-21	石鏃	Ob	KZOB	20.5	17.8	6.2	1.4		B-1
1203		120	66850		KU	Q-10	石鏃	Ob	KZOB	22.7	16.3	4.5	1.4		B-1
1204		120	35599		KU	AG-23	石鏃	Ob	KZOB	24.1	16.9	3.2	1.2		B-1
1205		120	68424		AN	Y-12	石鏃	Ob	KZOB	23.3	13.8	6.4	1.3		B-1
1206		120	50048		FB	AA-23	石鏃	Ob	KZOB	21.6	14.1	3.8	0.8		B-1
1207		120	11963		FB	W-20	石鏃	Ob	KZOB	23.6	16.3	4.8	1.1		B-1
1208		120	51180		FB	Y-21	石鏃	Ob	KZOB	22.6	17.2	4.4	1.1		B-1
1209		120	53402		AN	W-10	石鏃	Ob	KZOB	23.8	17.6	3.2	0.9		B-1
1210		120	10504		FB	K-16	石鏃	Ob	KZOB	26.2	18.4	6.2	2.1		B-1
1211		120	19466		FB	X-20	石鏃	Ob	KZOB	27.6	15.3	5.0	1.3		B-1
1212		120	64299		FB	AB-16	石鏃	Ob	KZOB	28.9	13.8	3.8	1.2		B-1
1213		120	65979		AN	R-14	石鏃	Ob	KZOB	33.4	14.4	4.6	1.8		B-1
1214		120	52522		FB	Y-22	石鏃	Ob	KZOB	31.3	16.8	4.6	1.7		B-1
1215		120	66869		KU	P-10	石鏃	Ob	KZOB	21.8	22.4	3.8	1.3		B-1
1216		121	49056		FB	AD-20	石鏃	Ob	推定不可	24.4	12.2	4.9	1.1		B-1
1217		121	18179		FB	X-21	石鏃	Ob	AGKT	18.1	15.1	2.9	0.4		B-1
1218		121	926		FB	Z-22	石鏃	Ob	AGKT	17.6	13.1	2.9	0.3		B-1
1219		121	50339		FB	AA-22	石鏃	Ob	AGKT	19.5	14.1	2.7	0.5		B-1
1220		121	856		FB	AD-25	石鏃	Ob	AGKT	19.8	16.0	3.6	0.7		B-1
1221		121	30395		FB	AH-26	石鏃	Ob	AGKT	25.0	16.9	3.8	1.2		B-1
1222		121	35075		FB	AH-26	石鏃	Ob	HNHJ	11.4	10.7	3.4	0.3		B-1
1223		121	59133		FB	AC-16	石鏃	Ob	HNHJ	21.0	11.5	4.8	1.0		B-1
1224		121	7858		FB	AJ-29	石鏃	Ob	WDTY	17.7	16.2	4.9	1.0		B-1
1225		121	21441		FB	Y-12	石鏃	Hor		17.9	17.9	3.0	0.74		B-1
1226		121	61536		FB	Z-21	石鏃	Rhy		15.6	10.6	2.4	0.2		B-1
1227		121	11518		KU	W-21	石鏃	Ch		19.1	15.6	4.4	1.1		B-1
1228		121	15773		FB	W-18	石鏃	SS l		25.6	10.8	2.1	0.5		B-1
1229		121	34167		FB	AH-27	石鏃	SSh		20.2	14.9	3.6	0.8		B-1
1230		121	28225		FB	AI-30	石鏃	GAn		19.2	15.4	2.6	0.7		B-1
1231		121	55317		KU	AF-21	石鏃	GAn		24.5	15.4	2.7	0.9		B-1
1232		121	18664		クロ	Z-15	石鏃	GAn		21.9	15.8	5.4	1.4		B-1
1233		121	62610		FB	AB-21	石鏃	SFT		25.8	17.5	8.2	2.7		B-1
1234		121	18541		FB	Y-13	石鏃	Ob	KZOB	15.6	12.9	3.3	0.4		B-2a

挿図番号	挿枝	図版番号	遺物番号	枝番	層位	グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合番号	形状分類
1235		121	1024		FB	W-20	石鏃	Ob	KZOB	17.4	12.3	3.6	0.4		B-2
1236		121	48557		KU	Y-22	石鏃	Ob	KZOB	18.3	13.7	3.3	0.6		B-2
1237		121	257		FB	Y-21	石鏃	Ob	KZOB	15.6	13.4	4.6	0.6		B-2
1238		121	1300		FB	X-20	石鏃	Ob	KZOB	16.6	14.4	4.1	0.6		B-2
1239		121	10751		AN	X-13	石鏃	Ob	KZOB	19.4	18.6	4.1	0.9		B-2
1240		121	67930		クロ	W-12	石鏃	Ob	KZOB	18.9	15.8	4.3	0.9		B-2
1241		121	47398		FB	AC-20	石鏃	Ob	KZOB	20.5	13.5	4.8	1.0		B-2
1242		121	34288		FB	AH-26	石鏃	Ob	KZOB	24.6	17.1	4.0	1.6		B-2
1243		121	9308		FB	N-6	石鏃	Ob	KZOB	24.6	19.8	5.5	1.6		B-2
1244		121	44144		AN	AC-22	石鏃	Ob	KZOB	25.8	17.9	7.1	2.3		B-2
1245		121	21296		FB	Y-14	石鏃	Ob	KZOB	28.6	17.3	4.8	1.9		B-2
1246		121	62001		FB	Z-21	石鏃	Ob	AGKT	12.3	11.8	2.6	0.3		B-2
1247		121	11110		FB	Y-20	石鏃	Ob	AGKT	14.8	14.1	4.1	0.6		B-2
1248		121	16379		AN	AA-14	石鏃	Ob	SWHD	15.5	15.0	2.9	0.5		B-2
1249		121	68093		FB	W-13	石鏃	Ob	SWHD	20.5	15.8	3.4	0.9		B-2
1250		121	28756		FB	AJ-29	石鏃	Ch		19.8	13.8	3.0	0.7		B-2
1251		121	26769		FB	AI-29	石鏃	Hor		23.8	15.0	2.5	0.74		B-2
1252		121	37905		FB	AI-20	石鏃	Ob	SWHD	16.2	17.9	3.6	0.6		B-3
1253		121	35079		FB	AI-27	石鏃	Ob	KZOB	13.7	16.1	3.2	0.5		B-3
1254		121	18926		FB	V-20	石鏃	SSi		27.8	13.5	3.2	0.9		B-3
1255		121	40061		FB	AI-20	石鏃	GRS		26.1	17.5	3.4	0.8		B-3
1256		121	2825		クロ	ZW-0	石鏃	GAn		44.0	23.1	4.3	2.7		B-4
1257		121	55181		FB	AF-20	石鏃	Ob	AGKT	17.6	14.9	2.8	0.5		B-5
1258		121	4038		FB	I-2	石鏃	Ob	KZOB	23.4	20.9	3.7	1.1		B-5
1259		121	66832		FB	R-10	石鏃	Ob	SWHD	15.6	11.8	2.0	0.3		C
1260		121	8573		FB	AH-26	石鏃	Ob	WDTY	16.2	15.1	5.0	0.8		C
1261		121	1299	1	FB	X-20	石鏃	Ob	AGKT	20.2	13.3	2.9	0.6		C
1262		121	121		FB	AA-21	石鏃	Ob	AGKT	21.7	15.8	4.0	1.2		C
1263		121	3969		FB	H-2	石鏃	Ob	AGKT	19.3	16.4	5.7	1.1		C
1264		121	15197		FB	X-22	石鏃	Ob	AGKT	21.8	15.2	3.9	1.0		C
1265		121	14456		FB	W-21	石鏃	Ob	HNHJ	17.8	17.6	5.6	1.4		C
1266		121	7082		FB	AE-17	石鏃	Ob	HNHJ	21.8	14.4	5.4	1.1		C
1267		121	9887		クロ	H-10	石鏃	Ob	KZOB	12.9	13.8	2.2	0.3		C
1268		121	67833		FB	V-12	石鏃	Ob	KZOB	14.0	12.6	2.9	0.4		C
1269		121	41025		FB	AI-21	石鏃	Ob	KZOB	15.4	15.6	4.4	0.8		C
1270		121	2262		FB	R-9	石鏃	Ob	KZOB	19.2	15.1	3.3	0.8		C
1271		121	47586		FB	AB-21	石鏃	Ob	KZOB	21.3	17.2	5.2	1.8		C
1272		121	68115		FB	V-12	石鏃	Ob	KZOB	26.8	15.6	5.1	1.8		C
1273		121	50091		FB	Y-22	石鏃	GAn		32.8	23.8	5.1	3.0		C
1274		121	17881		FB	X-21	石鏃	GAn		16.1	12.4	4.3	0.6		C
1275		121	80002		撹乱	－	石鏃	SSh		35.4	13.7	5.3	1.9		C
1276		121	56158		KU	AE-23	石鏃	Ob	HNHJ	18.2	10.8	3.5	0.6		D
1277			28447		FB	AI-27	石鏃	Ob	WDTY	20.6	15.6	5.5	1.3		E
1278		121	35283		FB	AI-28	石鏃	Ob	WDTY	21.8	15.5	4.5	0.9		E
1279			58255		KU	AD-16	石鏃	Ob	WDTY	22.0	15.4	5.2	1.6		E
1280		121	61545		FB	Z-21	石鏃	Ob	SWHD	23.9	15.1	3.9	1.1		C
1281		121	29194		FB	AI-28	石鏃	Ob	SWHD	22.4	15.8	6.4	1.4		C
1282		121	61548		FB	AA-20	石鏃	Ob	SWHD	25.4	16.8	7.3	2.3		C
1283		121	56408		FB	AC-21	石鏃	Ob	AGKT	18.4	16.3	6.8	1.7		C
1284			37026		FB	AH-20	石鏃	Ob	KZOB	15.2	13.8	1.9	0.4		C
1285			17212		FB	W-20	石鏃	Ob	KZOB	16.6	14.9	6.0	1.0		B-2
1286			32526		FB	AH-26	石鏃	Ob	KZOB	18.8	12.2	4.8	1.0		E
1287			15879		FB	X-20	石鏃	Ob	KZOB	19.7	13.7	5.2	0.9		E
1288		121	17538		FB	V-20	石鏃	Ob	KZOB	18.6	15.4	4.8	1.4		B-2
1289			8413		FB	AH-26	石鏃	Ob	KZOB	19.2	15.3	6.5	1.5		E
1290			60050		FB	AA-22	石鏃	Ob	KZOB	24.4	12.7	4.1	1.0		B-2
1291		121	53460		FB	AA-22	石鏃	Ob	KZOB	25.9	15.1	5.5	1.5		E
1292			60412		FB	Y-22	石鏃	Ob	KZOB	23.1	18.9	6.7	2.5		E
1293			53489		FB	Z-22	石鏃	Ob	AGKT	25.1	20.7	7.4	3.4		E
1294			59883		KU	AB-23	石鏃	Ob	KZOB	28.1	18.3	5.8	3.0		E
1295			42921		AN	AF-22	石鏃	Ob	KZOB	29.1	20.1	9.9	5.5		E
1296			19424		FB	X-19	石鏃	Ob	KZOB	31.8	22.0	11.3	5.3		E
1297		121	81511		撹乱	－	石鏃	Ob	KZOB	42.5	20.9	10.7	7.1		C
1298		122	60985		FB	S-9	スクレイパー	Ob	KZOB	57.2	31.1	16.4	20.2		A-1
1299		122	38142		FB	AI-21	スクレイパー	Ob	KZOB	37.0	21.6	14.8	9.9		A-1
1300		122	21303		FB	Y-13	スクレイパー	Ob	HNHJ	36.1	39.7	8.4	9.0		A-1
1301		122	40065		FB	AI-20	スクレイパー	GAn		42.5	32.7	6.8	8.5		A-1
1302		122	53543		AN	T-12	スクレイパー	Hor		81.7	49.8	17.8	65.6		A-1
1303		122	2317		FB	O-6	スクレイパー	Ch		30.8	23.1	8.1	5.1		A-1
1304		122	57481		FB	AD-26	スクレイパー	HFT		34.7	37.1	15.9	20.4		A-1
1305		122	61044		KU	T-12	スクレイパー	Hor		39.7	55.5	10.6	17.7		A-2
1306		122	44390		AN	AB-23	スクレイパー	Hor		52.1	69.2	20.9	67.4		A-2
1307		122	25119		FB	AI-27	スクレイパー	Hor		44.4	61.4	19.7	52.2		A-2
1308		122	21306		FB	Y-13	スクレイパー	Hor		45.4	41.5	10.8	19.8		A-2
1309		122	59275		FB	Z-23	スクレイパー	Ob	WDTY	22.8	37.7	8.6	6.0		A-2
1310		122	35162		FB	AF-23	スクレイパー	Ob	KZOB	43.9	43.5	14.8	27.2		B-1
1311		122	14024		FB	W-20	スクレイパー	Ob	KZOB	52.0	42.1	13.4	18.6		B-1
1312		122	36779		FB	AJ-21	スクレイパー	GAn		67.1	44.1	13.5	32.1		B-1
1313		122	14218		FB	Q-16	スクレイパー	GAn		52.0	61.1	13.1	33.0		B-2
1314		122	51171		FB	Y-21	スクレイパー	Ob	KZOB	28.4	45.9	16.1	14.5		B-2
1315		122	61117		FB	U-11	スクレイパー	Ob	KZOB	28.6	20.9	10.5	5.7		B-2
1316		122	1443		FB	Y-21	スクレイパー	Ob	AGKT	26.1	26.6	7.8	4.8		B-2

挿図番号	挿枝	図版番号	遺物番号	枝番	層位	グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合番号	形状分類
1317		122	57924		FB	AA-22	スクレイパー	Hor		62.1	88.1	22.5	116.7		B-3
1318		122	36784		FB	AJ-21	スクレイパー	Hor		34.4	41.8	12.2	14.4		B-3
1319		122	60730		KU	AA-24	スクレイパー	GAn		32.1	16.5	7.3	4.4		B-3
1320		122	58627		FB	AB-22	スクレイパー	Ob	KZOB	69.3	31.6	14.0	31.2		B-3
1321		123	26498		FB	AJ-28	石匙	Ob	KZOB	51.5	32.3	11.2	10.2		A-2
1322		123	80453		撹乱	−	石匙	HFT		49.8	32.5	7.5	8.0		A-2
1323		123	44401		AN	AB-22	石匙	Hor		29.6	50.2	6.2	6.5		B-1
1324		123	46848		FB	AE-22	石匙	Ch		28.2	51.0	7.1	7.3		B-1
1325		123	66458		クロ	Q-12	石匙	Ch		30.8	52.9	11.0	11.1		B-2
1326		123	81010		表土	−	石匙	Hor		45.0	60.6	10.5	19.6		B-2
1327		123	1798		FB	AA-22	石匙	SSi		38.2	63.0	9.6	14.1		B-2
1328		123	34788		FB	AI-27	石匙	GAn		41.0	58.6	12.6	23.8		B-2
1329		123	59255		FB	AA-23	石匙	Hor		75.4	82.9	15.5	70.8		B-2
1330		123	55856		FB	Z-21	石錐	Ob	KZOB	29.4	18.6	10.6	3.7		
1331		123	42742		AN	AA-24	石錐	Ob	KZOB	31.7	19.2	11.1	3.9		
1332		123	11012		FB	Y-20	石錐	Ob	KZOB	20.2	14.2	5.3	1.1		
1333		123	80986		撹乱	−	石錐	Ob	KZOB	15.8	12.0	4.3	0.6		
1334		123	81737		撹乱	−	石錐	Ob	SWHD	27.4	21.9	5.4	1.8		
1335		123	81752		表土	−	石錐	Ob	SWHD	33.2	21.4	8.0	4.9		
1336		123	50006		FB	AA-22	石錐	Ob	推定不可	20.0	14.5	5.2	1.1		
1337		123	31467		AN	AI-20	石錐	Hor		65.0	41.8	12.0	29.9		
1338		123	26762		FB	AI-29	石錐	HFT		60.1	54.8	12.9	41.5		
1339		123	6739		FB	P-16	楔形石器	Ob	KZOB	23.9	11.7	11.1	2.6		
1340		123	18958		FB	V-20	楔形石器	Ob	KZOB	27.3	12.6	12.5	3.8		
1341		123	13673		KU	P-16	楔形石器	Ob	KZOB	38.1	18.0	11.7	6.8		
1342		123	19249		FB	Y-20	楔形石器	Ob	AGKT	36.7	35.5	11.2	12.3		
1343		123	47964		FB	AA-24	楔形石器	Ob	AGKT	21.1	16.6	9.3	3.2		
1344		124	752		FB	AB-21	石核	Ob	KZOB	15.8	40.4	13.1	7.3		A-1
1345		124	62863		FB	Z-22	石核	Ob	KZOB	22.8	46.9	12.6	11.0		A-1
1346		124	59900		FB	AB-23	石核	Ob	KZOB	24.1	40.9	12.1	8.1		A-1
1347		124	11745		FB	X-21	石核	Ob	KZOB	20.8	45.0	16.9	11.9		A-1
1348		124	43139		AN	AE-22	石核	Ob	KZOB	20.1	24.8	9.1	4.1		A-1
1349		124	44412		AN	AB-21	石核	Ob	KZOB	18.8	43.5	19.1	10.1		A-1
1350		124	48192		KU	AE-21	石核	Ob	AGKT	16.9	38.3	9.2	6.0		A-1
1351		124	46790		FB	AD-22	石核	Ob	AGKT	18.8	32.4	14.5	5.3		A-1
1352		124	34901		FB	AG-25	石核	Ob	SWHD	20.2	28.4	24.4	7.0		A-1
1353		125	44393		AN	AB-23	石核	Hor		42.0	89.7	77.2	301.1		A-1
1354		124	56397		FB	AC-21	石核	Ob	WDTY	16.8	37.0	17.2	6.7		A-2
1355		124	14919		FB	W-20	石核	Ob	SWHD	16.3	23.9	13.5	5.2		A-2
1356		124	42224		AN	AD-26	石核	Ob	SWHD	17.6	27.1	23.0	9.1		A-2
1357		124	29256		FB	AJ-28	石核	Ob	SWHD	23.0	17.2	11.9	4.7		A-2
1358		124	27629		FB	AH-30	石核	Ob	AGKT	22.4	22.6	25.0	7.0		A-2
1359		124	41863		AN	AC-22	石核	Ob	KZOB	14.8	22.6	12.6	5.3		A-2
1360		124	3207		FB	ZW-1	石核	Ob	KZOB	17.3	35.1	12.1	6.2		A-2
1361		124	16129		FB	W-21	石核	Ob	KZOB	20.9	40.4	18.3	10.7		A-2
1362		124	21446		FB	Z-13	石核	Ob	KZOB	23.4	35.4	12.6	7.7		A-2
1363		124	64298		FB	AB-16	石核	Ob	KZOB	27.1	27.4	11.7	8.4		A-2
1364		124	33979		FB	AI-29	石核	Ob	KZOB	30.6	34.9	18.9	13.7		A-2
1365		124	44586		AN	AG-19	石核	Ob	KZOB	27.8	34.8	10.1	8.8		A-2
1366		124	48408		KU	AC-23	石核	Ob	KZOB	24.8	24.4	22.2	7.8		A-2
1367		124	60620		FB	AB-21	石核	Ob	KZOB	35.1	27.8	22.6	15.7		A-2
1368		124	17465		FB	X-22	石核	Ob	KZOB	41.5	30.9	22.8	27.1		A-2
1369		124	17186		FB	W-20	石核	Ob	KZOB	40.2	39.9	34.3	45.7		A-2
1370		124	66030		クロ	N-9	石核	Ob	KZOB	42.6	58.1	22.1	31.5		A-2
1371		125	43649		AN	AD-20	石核	SSi		61.9	56.8	31.5	110.0		A-2
1372		125	61065		FB	R-12	石核	GAn		67.9	87.0	36.5	234.7		A-2
1373		125	60959		KU	R-8	石核	Hor		66.9	77.6	38.0	218.8		A-2
1374			41017		FB	AJ-21	石核	Hor		47.2	101.0	126.2	668.1		B-1
1375		125	60977		FB	R-9	石核	Hor		45.1	75.9	65.9	247.9		B-1
1376		125	17053		FB	R-15	石核	Hor		42.2	124.3	71.6	555.8		B-1
1377		125	10595		−	L-14	石核	Hor		40.4	89.9	56.3	283.7		B-1
1378		125	4157		FB	ZW-0	剥片	Hor		73.6	102.2	48.6	299.1	100	B-1
			4158		FB	ZW-0	石核								B-1
1379		124	66011		AN	N-9	石核	Ob	AGKT	44.6	84.6	31.2	84.7		B-1
1380		124	19457		FB	X-20	石核	Ob	SWHD	17.9	38.5	13.3	6.4		B-2
1381		124	192		FB	Y-21	石核	Ob	KZOB	14.4	25.4	21.3	6.5		B-2
1382		125	66554		クロ	Q-10	石核	Hor		57.5	69.5	28.9	98.8		B-2
1383		125	628		FB	AA-21	石核	Hor		43.0	91.0	37.6	193.9		B-2
1384	a	125	61061		FB	R-12	石核＋剥片	GAn		43.2	36.4	50.8	81.6	233	A-1
	b		61063		FB	R-12	石核＋剥片			44.3	35.4	40.9	51.2		A-1
	c		61062		FB	R-12	剥片			50.1	47.1	24.0	40.7		
	d		61064		FB	R-12	剥片			55.8	40.4	33.2	23.7		
1385		126	80221		表土	AB-20	打製石斧	CSc		88.1	38.8	15.1	66.6		A-1
1386		126	44899		AN	AD-15	打製石斧	Hor		76.6	45.2	19.0	94.8		A-1
1387		126	80523	1	撹乱	−	打製石斧	FSS		104.2	35.7	18.7	89.7		A-2
1388		126	80228		表土	Ⅳ-2区	打製石斧	Sh		118.5	435.0	18.0	114.69		A-2
1389		126	81646		撹乱	AO-28	打製石斧	Sh		137.5	50.6	26.1	185.00		A-2
1390		126	66007		クロ	N-8	打製石斧	GC		144.6	44.5	22.7	183.74		A-2
1391		126	80681		表土	−	打製石斧	FSS		94.1	58.9	19.6	126.5		B-1
1392		126	42917		AN	AE-22	打製石斧	CSS		94.0	61.0	19.0	121.78		B-2
1393		126	66520		クロ	P-12	打製石斧	GT		118.6	56.2	28.1	206.4		B-2
1394		126	23518		クロ	AH-27	打製石斧	HSS		69.4	57.1	25.0	99.3		B-2

挿図番号	挿枝	図版番号	遺物番号	枝番	層位	グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合番号	形状分類
1395		126	80010		表土	−	打製石斧	Sh		83.0	50.0	12.0	66.22		B-3
1396		126	66748		KU	P-12	打製石斧	Sh		100.8	86.1	19.6	132.3		B-3
1397	a	126	38373		UK	AF-21	打製石斧	Sh		19.6	36.8	5.4	2.9	256	C-1
	b		43922		クロ	AE-21				110.1	85.9	34.1	273.3		
1398		126	10601		クロ	AA-15	打製石斧	Sh		138.2	84.5	22.8	276.8		C-1
1399		126	66771		FB	Q-12	打製石斧	Sh		112.5	65.6	18.7	178.8		C-2
1400		126	2768		クロ	ZW-0	打製石斧	MSS		126.5	62.6	24.5	201.8		C-2
1401		126	45110		KGP	AG-19	打製石斧	An(Py)		145.0	97.0	29.5	398.3		C-2
1402		126	9985		KU	H-10	打製石斧	FSS		120.4	91.0	34.5	362.9		C-3
1403		127	42828		AN	AE-23	打製石斧	An(Py)		142.7	89.5	29.4	417.8	235	C-3
			42830		KGP	AE-23									
1404		127	42266		AN	AD-23	打製石斧	An(Py)		142.8	86.5	30.1	431.4		C-3
1405		127	31464		AN	AI-20	打製石斧	An(Py)		112.7	96.1	22.1	302.7		C-1
1406		127	43019		AN	AF-22	打製石斧	An(Py)		160.4	88.5	19.6	244.0	234	D-3
			81420		表土	W-21									
1407		127	14946		FB	W-20	打製石斧	Hor		146.7	69.9	42.2	393.7		D-3
1408		127	80058		表土	−	打製石斧	An(Py)		119.1	52.5	20.8	176.6		D-3
1409		127	15243		AN	Z-14	打製石斧	CSc		101.4	55.4	12.8	84.8		D-3
1410			17467		FB	X-22	打製石斧	An(Py)		75.3	72.3	20.4	129.7		E
1411			48439		KU	AC-24	打製石斧	MSS		109.5	72.2	21.4	181.9	249	E
			57154		FB	AC-24									
1412		127	68001		クロ	X-12	打製石斧	HFT		72.9	56.2	24.2	117.8		E
1413		127	24956		FB	AH-26	磨製石斧	FT		73.7	47.1	18.3	87.4		
1414		127	52918		FB	Z-23	磨製石斧	SSi		84.0	35.2	18.4	62.7		
1415		127	81423		表土	−	磨製石斧	Pe		60.6	47.7	22.4	103.0		
1416		127	36190		FB	AJ-22	磨製石斧	Sp		(71.0)	(36.0)	(285.0)	(76.88)		
1417		127	52568		FB	Y-22	磨製石斧	Ba		40.6	33.7	28.3	64.2		
1418		127	81419		表土	−	磨製石斧	GT		125.3	55.1	36.1	411.5		
1419		127	62556		FB	T-8	磨製石斧	GT		124.2	46.9	28.4	276.9		
1420		127	56819		FB	Z-22	磨製石斧	GT		130.3	54.1	39.4	432.8		
1421		128	66829		FB	R-11	石錘	CSc		48.0	33.5	8.5	21.32		
1422		128	57421		KU	AC-26	石錘	Sh		39.5	39.0	10.5	21.67		
1423		128	47091	1	FB	AF-21	石錘	Sh		72.0	61.5	17.5	114.78		
1424		128	57082		FB	AC-22	石錘	GS		68.5	53.0	14.5	76.41		
1425		128	57643		FB	AD-24	石錘	MSS		77.0	61.5	20.5	135.00		
1426		128	43458		NSC	AD-24	石錘	MSS		(70.0)	(61.0)	(18.5)	(81.95)		
1427		128	26393		FB	AM-23	礫器	Hor		88.0	103.0	35.5	328.67		
1428		128	61217		FB	W-11	礫器	Hor		82.5	107.4	43.1	446.59		
1429		128	15284		AN	AA-15	礫器	FSS		84.0	63.0	24.5	156.91		
1430		129	13642		FB	Q-17	磨石・敲石類	MSS		121	89	53	840		扁平　S
1431		129	34628		FB	AI-27	磨石・敲石類	Ap		53	30	28	60		棒○　S
1432		129	31653		FB	AI-28	磨石・敲石類	Ba		114	98	35	510		扁平　T
1433		129	13833		FB	S-19	磨石・敲石類	Ba		63	49	35	150		扁平　T
1434		129	60757		FB	AB-25	磨石・敲石類	Ba		58	53	51	230		球　T
1435		129	44055		AN	AC-23	磨石・敲石類	Ba		72	67	50	360		球　T
1436		129	59796		KU	AB-24	磨石・敲石類	An(Py)		95	87	76	790		球　T
1437			68050		KU	X-11	磨石・敲石類	An(Py)		107	79	56	750		厚み　T
1438		129	25115		FB	AI-27	磨石・敲石類	An(Py)		76	63	37	270		不定形　T
1439		129	68004		KU	X-12	磨石・敲石類	An(Py)		225	58	40	780		棒他　T
1440		129	7094		KU	Z-14	磨石・敲石類	Ba		134	66	62	81		棒○　T
1441		129	11379		KU	X-21	磨石・敲石類	An(Py)		96	41	35	180		棒他　T
1442			47252		FB	AG-21	磨石・敲石類	Ba		117	97	58	760		不定形　T＋KT(1)
1443		129	589		FB	AA-22	磨石・敲石類	VAn		106	77	38	400		扁平　T＋KT(2)
1444		129	7164		KU	AG-22	磨石・敲石類	VBa		75	62	55	240		不定形　凹石(4)
1445			43911		AN	AE-20	磨石・敲石類	VBa		115	86	41	540		扁平　T＋S
1446			56834		FB	Z-22	磨石・敲石類	An(Py)		107	78	47	580		扁平　T＋S
1447			17217		FB	W-20	磨石・敲石類	An(Py)		100	84	62	730		厚み　T＋S
1448		129	476		FB	AA-21	磨石・敲石類	Ba		101	90	58	870		厚み　T＋S
1449		129	32658		クロ	AG-22	磨石・敲石類	An(Py)		(102)	(86)	(51)	(690)		厚み　T＋S
1450			7084		FB	AE-17	磨石・敲石類	FSS		61	28	21	62		棒他　T＋S
1451		129	48293		FB	AC-21	磨石・敲石類	An(Py)		101	69	38	430		扁平　T＋KS(2)
1452		129	819		FB	AC-21	磨石・敲石類	Da		112	96	48	660		扁平　T＋KS(2)
1453		129	32663		クロ	AH-22	磨石・敲石類	An(Py)		111	103	67	1,130		厚み　T＋KS(2)
1454		129	1776		FB	AA-21	磨石・敲石類	VAn		115	90	33	490		扁平　T＋S＋KT(1)
1455		129	10792		AN	Y-13	磨石・敲石類	An(Py)		119	118	39	700		扁平　T＋S＋KT(1)
1456			43022		クロ	AF-22	磨石・敲石類	Ba		149	113	40	1,100		扁平　T＋S＋KT(1)
1457			61769		FB	Z-22	磨石・敲石類	VBa		96	84	53	620		厚み　T＋S＋KT(1)
1458		129	62935		FB	Y-22	磨石・敲石類	VBa		123	103	43	850		扁平　T＋S＋KT(2)
1459			30075		FB	X-19	磨石・敲石類	VBa		95	58	31	210		扁平　TS(1)＋T
1460			35024		FB	AF-23	磨石・敲石類	Ba		148	90	57	1,080		扁平　TS(1)＋T
1461		129	132		FB	AA-21	磨石・敲石類	An(Py)		134	75	38	590		扁平　TS(1)＋T
1462			28172		FB	AJ-29	磨石・敲石類	Ba		112	77	49	560		扁平　TS(1)＋T
1463		129	58		FB	AC-21	磨石・敲石類	An(Py)		125	64	48	620		扁平　TS(1)＋T
1464			27796		FB	AI-26	磨石・敲石類	An(Py)		181	94	47	1,280	305	扁平　TS(1)＋T
			80614		表土	Y-22									
1465			57496		KU	AD-25	磨石・敲石類	VBa		162	96	77	1,300		不定形　TS(1)＋T
1466		129	59795		KU	AB-24	磨石・敲石類	Ba		188	69	51	1,030		棒扁　TS(1)＋T
1467			55174		FB	AF-19	磨石・敲石類	Ba		138	68	61	800		棒他　TS(1)＋T
1468		129	51288		FB	Y-22	磨石・敲石類	Ba		163	62	56	820		棒他　TS(1)＋T
1469			56170		FB	AE-23	磨石・敲石類	An(Py)		137	65	55	800		棒他　TS(1)＋T
1470			44589		クロ	AG-21	磨石・敲石類	An(Py)		140	70	51	650		棒他　TS(1)＋T
1471		129	4176		FB	C-1	磨石・敲石類	An(Py)		121	68	72	800		棒△　TS(1)＋T

挿図番号	挿枝	図版番号	遺物番号	枝番	層位	グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合番号	形状分類
1472			34289		FB	AH-26	磨石・敲石類	An(Py)		167	66	67	950	316	棒△　TS(1)＋T
			80750		表土	－									
1473			57426		FB	AC-26	磨石・敲石類	An(Py)		219	86	94	2,320		棒△　TS(1)＋T
1474		129	34180		FB	AH-26	磨石・敲石類	Ba		106	81	48	640		扁平　TS(1)＋T＋S
1475			2318		FB	O-7	磨石・敲石類	Ba		123	95	56	990		扁平　TS(2)＋T
1476			80299		表土	AA-23	磨石・敲石類	Ba		185	101	47	1,280	351	扁平　TS(2)＋T
			80582		撹乱	Z-21									
1477		129	31034		AN	AH-20	磨石・敲石類	VBa		166	72	41	780		棒扁　TS(2)＋T
1478		129	18670		KGP	Y-15	磨石・敲石類	An(Py)		151	71	68	1,130		棒△　TS(2)＋T
1479			41013		FB	AJ-21	磨石・敲石類	An(Py)		146	64	51	750		棒△　TS(2)＋T
1480		129	67522		FB	T-18	磨石・敲石類	An(Py)		149	82	66	960		棒△　TS(2)＋T
1481			23745		KU	AE-25	磨石・敲石類	Ba		167	65	50	920	300	棒△　TS(2)＋T
			34904		FB	AH-25									
1482			37027		FB	AH-19	磨石・敲石類	Ba		126	60	62	620		棒△　TS(2)＋T
1483		129	66328		KU	M-8	磨石・敲石類	Ba		128	70	71	950		棒○　TS(2)＋T
1484			59888		KU	AB-23	磨石・敲石類	Ba		181	76	64	1,350	346	棒他　TS(2)＋T
			81214		表土	Z-22									
1485		130	14219		FB	Q-16	磨石・敲石類	VBa		159	67	60	820		棒他　TS(2)＋T
1486		130	15430		FB	X-21	磨石・敲石類	VBa		166	70	60	990		棒他　TS(2)＋T
1487		130	14305		KGP	W-14	磨石・敲石類	An(Py)		142	71	63	900		棒他　TS(2)＋T
1488		130	52899		FB	AA-23	磨石・敲石類	An(Py)		164	61	60	630	339	棒他　TS(3)＋T
			52916		FB	Z-23									
1489		130	43557		AN	AD-22	磨石・敲石類	An(Py)		(96)	(71)	(61)	(700)		棒他　TS(2)＋T
1490		130	30678		FB	X-22	磨石・敲石類	An(Py)		102	74	56	570		棒他　TS(2)＋T
1491		130	34905		FB	AH-25	磨石・敲石類	Ba		(113)	(63)	(38)	(400)		棒扁　TS(2)＋T＋KT(2)
1492		130	19429		FB	X-19	磨石・敲石類	Ba		137	62	38	540		棒扁　TS(2)＋T＋KT(2)
1493		130	60209		FB	AC-25	磨石・敲石類	An(Py)		121	78	54	820		厚み　TS(2)＋T＋KS(2)
1494		130	17747		FB	X-21	磨石・敲石類	VBa		105	83	41	540		扁平　TS(2)＋T＋S
1495			67925		KU	W-12	磨石・敲石類	An(Py)		116	88	39	640		扁平　TS(2)＋T＋S
1496		130	31030		クロ	AH-20	磨石・敲石類	VAn		114	77	48	610		扁平　TS(2)＋T＋S
1497			47983		FB	AA-23	磨石・敲石類	Ba		117	92	51	870		扁平　TS(2)＋T＋S
1498		130	56765		FB	AA-22	磨石・敲石類	An(Py)		124	89	59	1,100		厚み　TS(2)＋T＋S
1499			10509		－	K-15	磨石・敲石類	An(Py)		(87)	(103)	(68)	(850)		厚み　TS(2)＋T＋S
1500		130	42656		AN	AB-21	磨石・敲石類	An(Py)		116	68	48	640		棒他　TS(2)＋T＋S
1501		130	32528		FB	AH-26	磨石・敲石類	An(Py)		117	60	38	430		棒扁　TS(2)＋T＋S
1502		130	24936		KU	AH-26	磨石・敲石類	VBa		154	61	50	730		棒扁　TS(2)＋T＋S
1503		130	80731		撹乱	X-19	磨石・敲石類	Ba		177	60	52	860	357	棒○　TS(3)＋T
			81358		表土	X-19									
1504		130	44405		AN	AB-22	磨石・敲石類	VAn		(120)	(60)	(69)	(820)		棒○　TS(多)＋T
1505		130	64420		YLM	AA-22	磨石・敲石類	Ba		135	63	63	788		棒他　TS(6)＋T
1506		130	1345		YL	AA-23	磨石・敲石類	An(Py)		147	71	70	990		棒他　TS(4)＋T
1507		130	64012		FB	AC-16	磨石・敲石類	Ba		128	59	57	940	347	棒他　TS(2)＋T
			80389		撹乱	W-17									
1508		130	56073		KU	AE-22	磨石・敲石類	VBa		164	71	57	900		棒他　TS(3)＋T
1509		130	36189		FB	AJ-22	磨石・敲石類	VBa		103	102	34	480		扁平　TS(全)＋S
1510		130	11730		FB	X-21	磨石・敲石類	An(Py)		102	98	38	570		扁平　TS(全)＋S＋KS(2)
1511		130	24933		KU	AH-26	磨石・敲石類	Ba		99	68	41	450		扁平　TS(全)＋T＋KT(2)
1512		130	67961		FB	W-12	石皿(小型)	An(Py)		179	132	38	1,540		
1513		130	20299		FB	AA-14	石皿(小型)	Ba		(159)	(109)	(48)	(1,170)		
1514		131	1340		FB	AA-23	石皿	VBa		340	341	105	14,600		
1515			13775		FB	P-18	石皿	VAn		328	198	83	7,440		
1516		131	34084		FB	AI-28	石皿	VBa		241	212	86	5,460		
1517		131	16158		FB	W-21	石皿	VBa		171	160	59	2,080		
1518			10300		FB	J-11	石皿	VBa		297	232	65	5,500		
1519		131	59252		FB	Z-23	石皿	VAn		347	276	148	15,000		
1520		131	25554		FB	AN-23	石皿	VBa		264	324	115	11,750		
1521		131	14173		FB	O-16	台石	An(Py)		330	351	104	16,590		
1522		131	59253		FB	Z-23	台石	An(Py)		238	194	168	11,500		
1523		131	61770		FB	Z-23	台石	VBa		499	329	139	32,500		

《形式分類の略号について》

〈石鏃〉

基部の形状	脚部の形状
A：有茎凹基	1：尖脚
B：無茎凹基	1：尖脚　2：円脚　3：平脚　4：角脚　5：脚部不明
C：無茎平基	無脚
D：無茎円基	無脚
E：不定形なもの	

〈石匙〉

A：縦型	1：左右対称　2：左右非対称
B：横型	1：左右対称　2：左右非対称

〈打製石斧〉

石斧の形状	礫面の残存
A：短冊型	1：両面　2：片面　3：なし
B：撥型	1：両面　2：片面　3：なし
C：分銅型	1：両面　2：片面　3：なし
D：尖頭型	1：両面　2：片面　3：なし
E：不明	

〈スクレイパー〉

刃部の加工	加工部位
A：片刃	1：側縁部　2：両端部　3：全周
B：両刃	1：側縁部　2：両端部　3：全周

〈石核〉

打面の形状	剥離方法
A：剥離面を打面とするもの	1：固定して一方向に剥離　2：転移させながら剥離
B：礫面を打面とするもの	1：固定して一方向に剥離　2：転移させながら剥離
C：分類しにくいもの	

〈磨石・敲石類〉

礫石器の形状	使用痕
扁平	S　：磨り痕のあるもの
厚み（扁平と球の中間）	T　：敲き痕のあるもの
球	K　：敲き痕のうち特に凹状のもの。(　) 内は面数。
不定形	KS　：礫の平坦面に凹状の磨り痕のあるもの。(　) 内は面数。
棒○：棒状で断面丸	KT　：礫の平坦面に凹状の敲き痕のあるもの。(　) 内は面数。
棒偏：棒状で扁平	TS　：礫の稜部に敲き磨り状の平坦面のあるもの。(　) 内は稜部の面数。
棒△：棒状で断面三角形	TS(多)：棒状の礫の稜部を多面にわたり敲き磨ったもの
棒他：棒状で不定形	TS(全)：楕円状の礫を全周にわたり敲き磨ったもの

第４章　弥生時代以降の遺構と遺物

弥生時代以降の遺構・遺物は、縄文時代の遺構・遺物と比較して甚少であるが、新期スコリア層面で多くの遺構が確認された。撹乱を免れていたのは、第186図で理解できるように４－３区から４－２区の一部にかかる東支谷、４－１区テラス部から２－２区の一部及び町道591号線西にかけての西支谷の区域にほぼ限定される。当然、中央尾根の土地利用も弥生時代以降行われていた可能性は否定できない。また今回、中世以降として報告した遺構は、無論近世に位置付けられる可能性を持つことをあらかじめ述べておく。

第１節　遺構と遺構出土遺物

（１）弥生時代

１　土坑（第185図　写真図版134）

当該遺構はＡＩ－20グリッドにて検出した。東支谷に位置し、栗色土層上面にて検出された。土坑の平面形は丸みの帯びた方形を呈する。土坑の計測値は長径0.49m、短径0.47m、深さは0.49mを測る。覆土第２層の黒褐色土中に新期スコリアが含まれる。

覆土中より遺物が出土している。1524・1525は土器である。1524は壺の底部と考えられる。平坦な底部から胴部が直線的に立ち上がる。指頭痕が内外面に見られる。1525は甕の口縁から頚部にかけての破片資料である。頚部から外湾しながら立ち上がり、口唇部付近で直立気味になる。口唇部は丸く仕上げ、外面に櫛状の工具により波状文が施されている。頚部には簾状文か。中部高地系の土器である。所属時期は弥生時代後期であろう。

（２）古代

１　カマド跡（第187・188図　写真図版42・134）

１号カマド跡はＡＧ－18グリッドにて検出した。東支谷に位置する。当該遺構は３号溝状遺構と重複し、一部破壊されている。確認されたカマドの掘り方の平面形は楕円形であるが、破壊されているため、本来の形状は不明である。計測値は長さ1.09m、幅0.66m、深さ0.28mを測る。新期スコリア層上面で検出された。検出時はカマド構築材である礫が崩れるように密集した状態で検出された。本来の位置を留めていないと推定された礫を除去した結果、カマド奥壁部と支柱と思しき礫を確認した。このカマドが本来属していた竪穴住居跡の痕跡は未検出であるが、主軸方向は南南東方向か。この遺構が北方向へ傾斜する地形に位置し、煙道及び焚口の方向を勘案すれば、住居自体が谷筋を指向して設けられたことが推定される。このカマド内部からは土器1526が出土している。1526は土師器甕か。底部外面に木葉痕が残る。外面にはハケ調整等の痕跡は未確認である。

２号カマド跡はＡＤ－21グリッドにて検出された。この遺構は東支谷でも中央尾根と東尾根に挟まれた狭隘な区域に位置する。当初、当該遺構は遺物集中として取り扱われていたが、整理時において出土遺物からカマドの可能性が想起された。遺構は現地調査時点で旧ＳＸ09としている。土坑の平面形はやや楕円形を呈する。計測値は長さ0.81m、幅0.76m、深さ0.13mを測る。緩やかな立ち上がりをもつ土坑である。平坦で約20㎝四方の礫を２点が土坑内で並び、拳大程度の礫が周囲に散見される。土坑北側縁辺付近に土器1527が見られる。土坑内の礫は覆土第１層中からの出土であり、第２層には含まれない。

この遺構内から多くの土器細片が出土している。1527は土坑外側で出土したもので土師器堝か。胴部は微かに内湾し、口縁部は「く」の字状に折れる。口唇部は平坦に仕上げている。胴部中位付近はヘラ削りか。頸部直下に指頭痕が見られる。口縁部はナデ整形である。時期は平安時代か。この遺構の性格として、煮沸具である1528や礫が多く出土した点からカマドである可能性がまず想起される。さすれば礫はカマドの構築材として考えられ、土坑自体はカマドの掘り方とも考えられる。

３号カマド跡はＡＥ－21・22グリッドにて検出された。この遺構は東支谷でも中央尾根と東尾根に挟まれた狭隘な区域に位置する。この遺物集中は現地調査時点で旧ＳＸ10としている。土坑の平面形は不定形である。計測値は長さ0.77m、幅0.62m、深さ0.09mを測る。この土坑の東半部に拳より大きめの礫が多く集積した状態で確認された。また土坑の東側約１mの位置に礫が散乱しており、現地調査担当の判断により、同一遺構として判断された。この遺構も当初遺物集中として取り扱われたが、カマド跡の可能性があり、この区分とした。

以上、１～３号カマド跡が位置する区域は触れているように東支谷という谷地形内に位置している。いずれのカマド跡も住居跡に付属するものと推定される。特に２・３号カマド跡が検出された区域は北東へ向かって緩やかに傾斜し、特にＡＤ・ＡＥグリッド周辺は等高線の幅が広く、さらに緩やかな傾斜となっており、山間部の生活拠点の様が想像せられる。

２　遺物集中（第189図　写真図版42）

１号遺物集中はＡＤ－22・23グリッドにて検出された。東支谷でも中央尾根と東尾根に挟まれた狭隘な区域に位置している。現地調査時点では旧ＳＸ06～08として別個に調査されたが、互いに近接した遺構であるため、一つの遺構として判断した。この遺構は集石土坑と集石で構成される。新期スコリア層上面にて検出されたものである。集石土坑旧ＳＸ07の平面形は楕円形を呈する。この土坑の計測値は長さ1.25m、幅1.10m、深さは0.18mを測る。覆土は３層に分層され、焼土粒・炭化物粒が全体的に、礫、土器細片が覆土第１・２層に集中する。覆土の状況から当該土坑で火が焚かれた可能性がある。またこの土坑は82号土坑と重複するが、その状況から時期的に82号土坑に先行する。82号土坑は掘削して直ぐに埋められたため、本来堆積していた礫・遺物が再度82号土坑覆土として埋められている。集石土坑東側約0.3mの位置に旧ＳＸ06とした遺構がある。拳大の礫が0.4m四方の範囲内に集積し､土器片が伴う。また集石土坑から西北の方向に細礫・土器細片が散乱し、旧ＳＸ08とした遺構は拳大の礫が集まる。旧ＳＸ06・08の礫・遺物はほぼ同一レベルで広がるため同一時期、互いの時期差は僅差と考えられる。但し前項で触れた竪穴住居跡のカマドである可能性は低いものと考えられる。

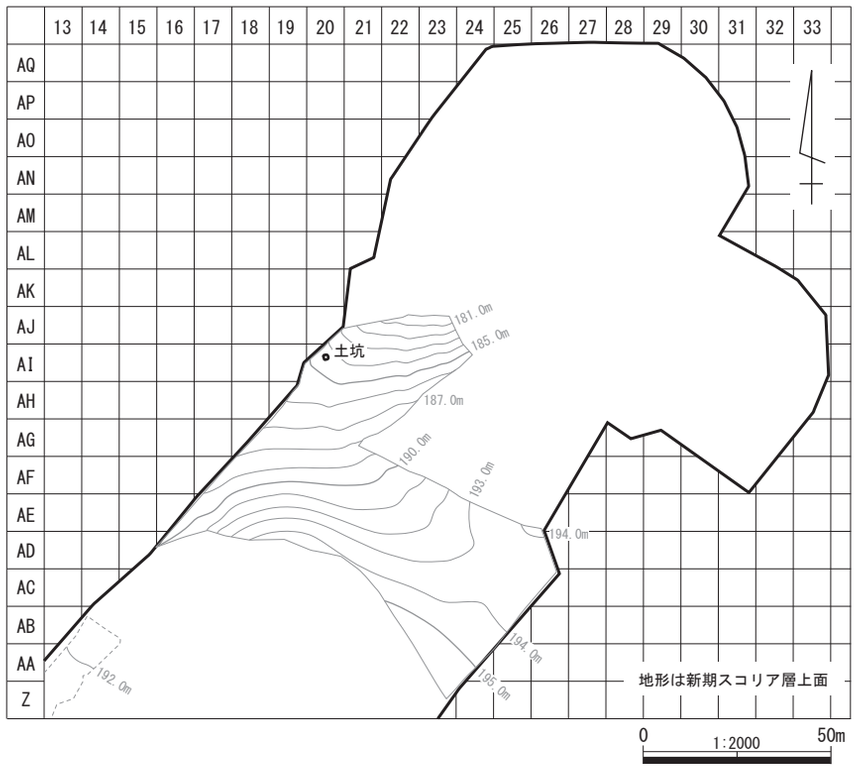
当該遺構から土器片が多く出土しているが細片が多い。1528は小型の土師器甕である。直線的な胴部から口縁部は「く」の字状に折れ、口唇部は平坦に仕上げられている。なお当該遺跡の確認調査の際、ＴＲ10より鉄製紡錘車1587が出土している。位置的に１号遺物集中に近接しているため、本来的に当該遺構に伴う可能性もある。また覆土第１層から出土した木炭を放射性炭素年代測定（IAAA-92016）した。その結果、1,140±30yrBPという^{14}Ｃ年代が測定されている。

（３）中世以降

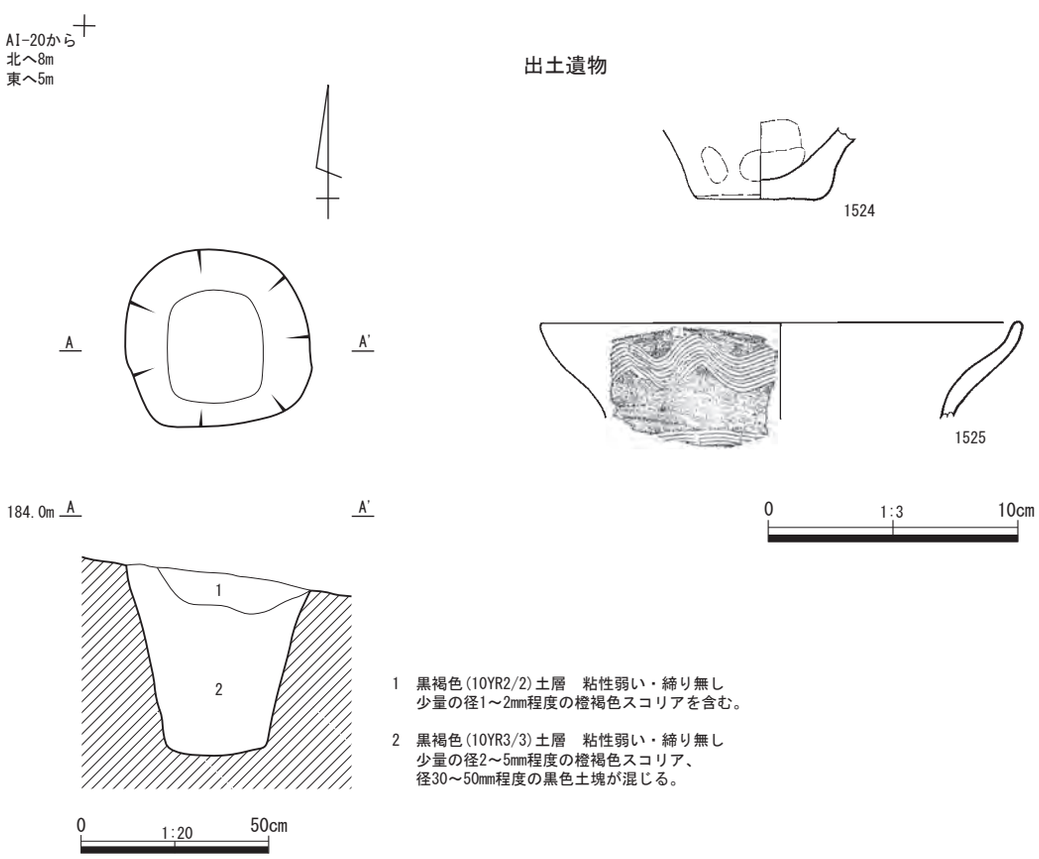
１　溝状遺構（第190・191図）

１号溝状遺構はＡＥ－20・21グリッドにて検出された。東支谷でも東尾根と中央尾根に挟まれた狭隘な区域に位置する。溝状遺構の計測値は長さ2.47m、幅0.44m、深さは0.07mを測る。新期スコリア層上面にて検出された。遺構の方向はほぼ東西方向に延び、西端部付近がわずかに北西方向に曲がる。東端部は２号溝状遺構と近接する。出土遺物は確認されていない。

弥生時代の遺構配置と地形



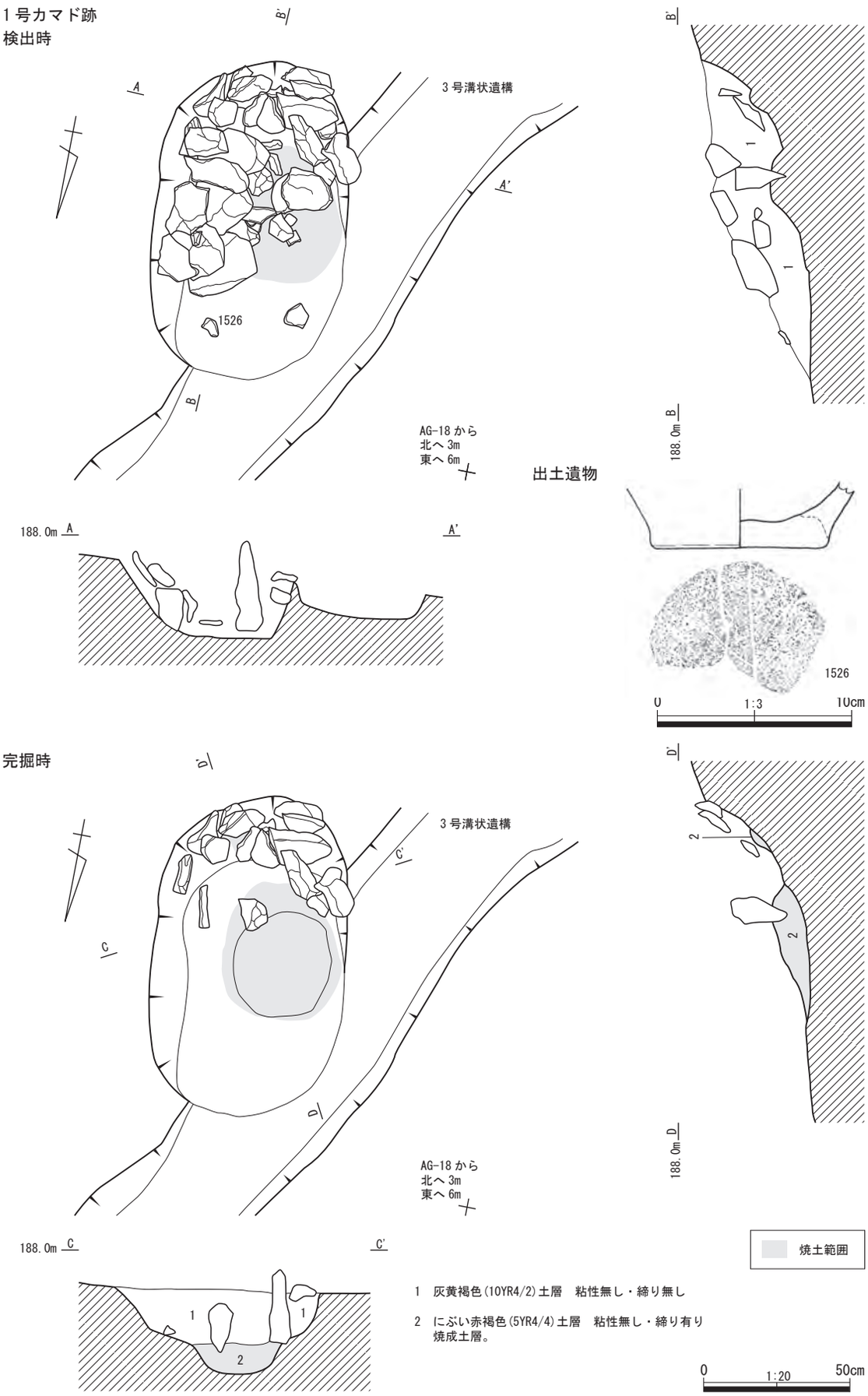
遺構図



出土遺物

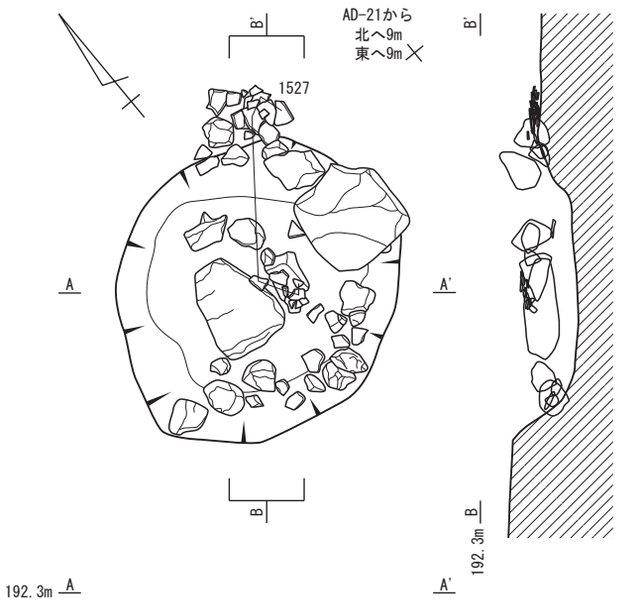
第 185 図　弥生時代の遺構

第 186 図　古代～近世の遺構位置図



第187図　古代のカマド跡1

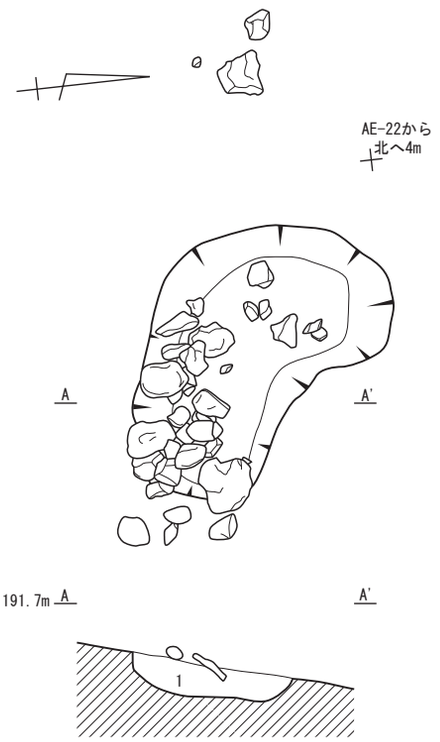
2号カマド跡



1　黒褐色(10YR3/2)土層　粘性無し・締り無し
少量の径2㎜程度の褐色スコリアを含む。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性無し・締り無し
少量の径2㎜程度の褐色スコリア、
径3㎜程度の焼土粒が混じる。

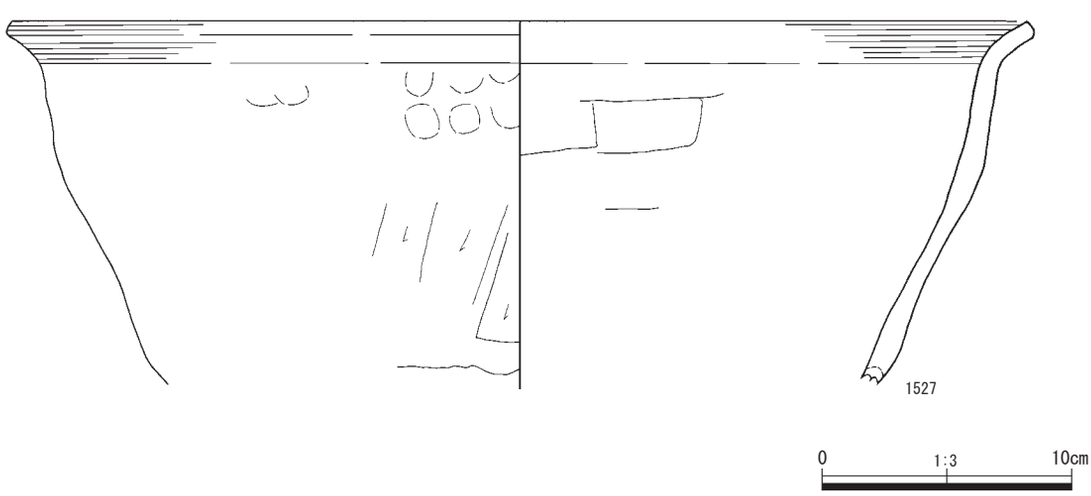
3号カマド跡



1　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性弱い・締り有り
少量の褐色スコリアを含み、径2㎜程度の焼土粒が混じる。

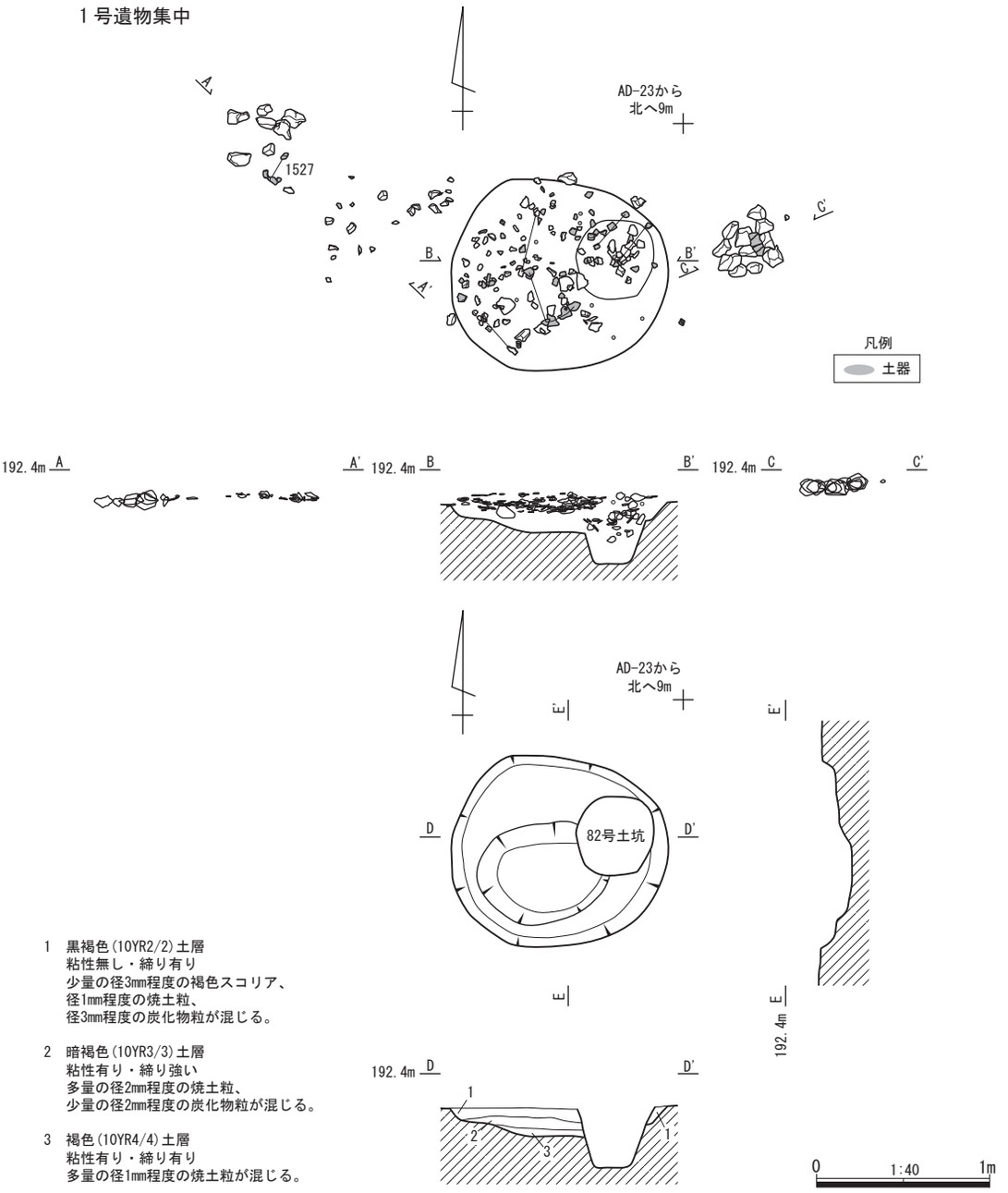
0　1：20　50cm

出土遺物



第188図　古代のカマド跡2

１号遺物集中

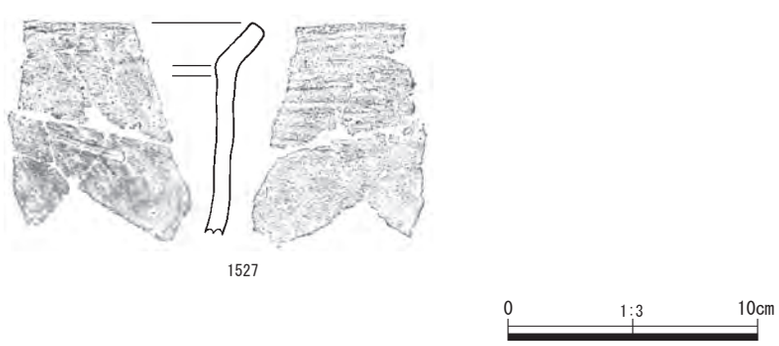


1　黒褐色(10YR2/2)土層
粘性無し・締り有り
少量の径3mm程度の褐色スコリア、
径1mm程度の焼土粒、
径3mm程度の炭化物粒が混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層
粘性有り・締り強い
多量の径2mm程度の焼土粒、
少量の径2mm程度の炭化物粒が混じる。

3　褐色(10YR4/4)土層
粘性有り・締り有り
多量の径1mm程度の焼土粒が混じる。

出土遺物



第 189 図　古代１号遺物集中

２号溝状遺構はＡＥ－20グリッドにて検出された。１号溝状遺構と同じ東支谷でも東尾根と中央尾根に挟まれた狭隘な区域に位置する。溝状遺構の計測値は長さ7.20m、幅0.61m、深さは0.11mを測る。新期スコリア層上面にて検出された。遺構の方向は１号溝状遺構と同様、ほぼ東西方向に延びるが、西端部付近が大きく北へ曲がる。これら１・２号溝状遺構は検出状況から同時期に同じ機能を有していたことが推定される。周囲には炉跡が散見されるが溝状遺構と炉跡が同時期の所産の可能性がある。付近の地形が北へ約13°傾斜し、約1.5mの位置に６～11号炉跡が密集し、特に８～11号炉跡は溝と同じ新期スコリア層で確認されているため、この溝跡が炉跡を中心とする区域を区画した可能性もある。

３号溝状遺構はＡＦ・ＡＧ－18グリッドにて検出した。東支谷に位置している。溝状遺構の計測値は長さ10.74m、幅0.60m、深さ0.23mを測る。新期スコリア層上面にて検出された。遺構は南西方向、斜面地を斜に上るように延びている。底面は全体的に平坦であるが、部分的に凹凸が見られる。緩い斜面地を登る道遺構であった可能性も想起されたが、道遺構で散見されるような硬化面等は判然としなかった。１号カマド跡を破壊しており、時期的に後出するものである。

４号溝状遺構はＡＧ－19グリッドに位置する。東支谷に位置している。溝状遺構の計測値は長さ4.46m、幅0.51m、深さ0.05mである。この遺構は南西方向に延びた後、遺構中位付近で南東に向きを変える。従って平面形は「く」の字状を呈し、屈曲部付近には小穴が１基確認される。平面形は円形で、計測値は径0.30m、深さ0.37mを測る。溝周囲に同様の小穴は未確認であるが、33号土坑が東側に位置している。西側1.5mの位置には３号溝状遺構が延びている。これら３・４号溝状遺構は近接して位置するものの、その形状や４号溝状遺構に小穴が伴う点から、性格が異なる。

２　土坑（第192・193図　写真図版40）

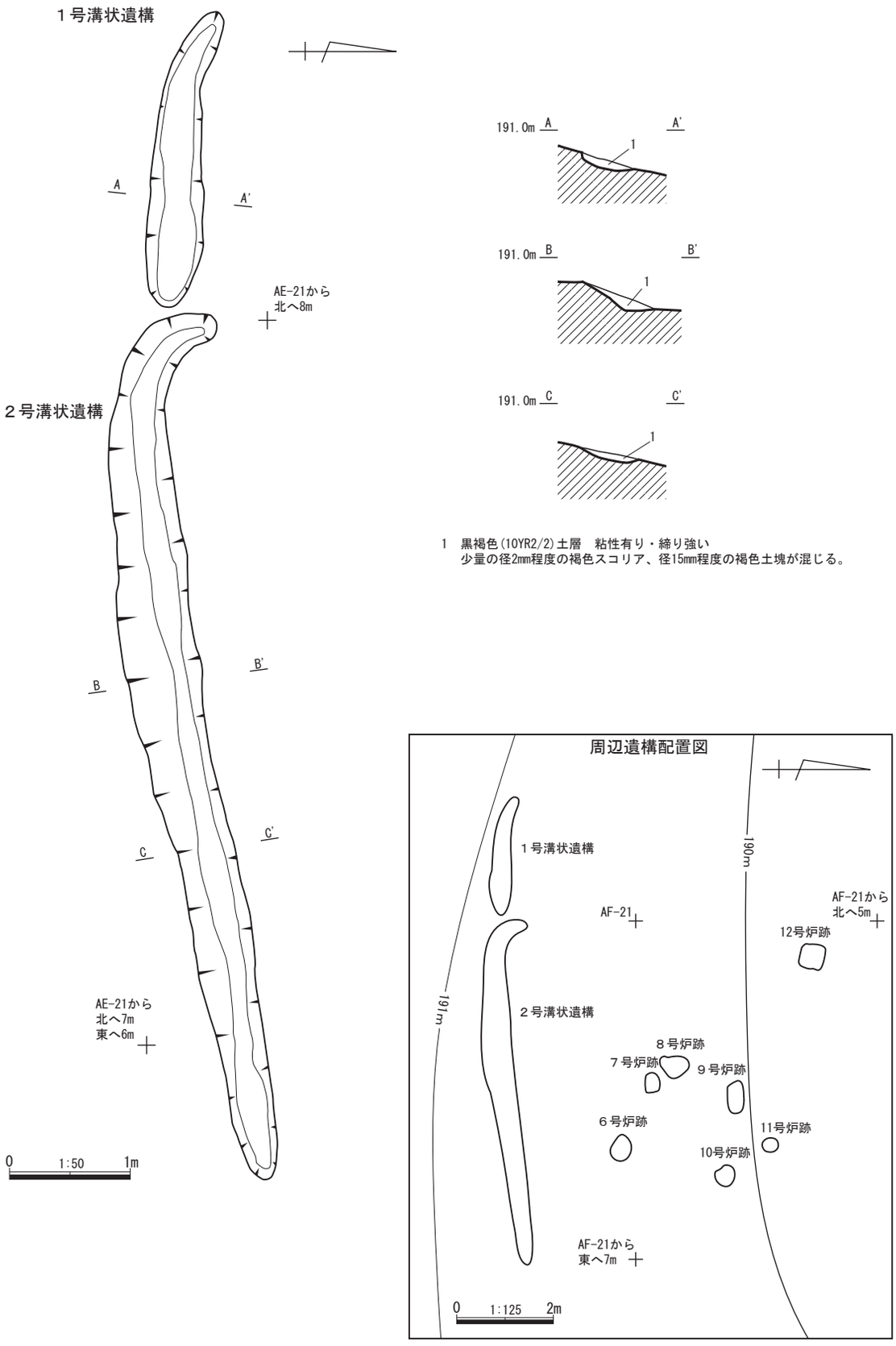
富士石遺跡で検出された土坑のうち、中世以降に位置付けられるのは81基を数え、第21表に計測値、平面形についてまとめた。また抽出した土坑のみ図を掲載した。

中世以降の土坑の殆どは新期スコリア層上面にて検出された。多く分布するのはＡＢ～ＡＦ－21～25グリッド、ＡＨ～ＡＩ－19～21グリッド、Ｐ～Ｑ－10～12グリッドの３ヶ所である。前２者は東支谷の範囲内であるが、東尾根と中央尾根に挟まれた狭隘な区域と東支谷の最下部区域にあたり、谷地形内部でも土坑の分布域が分かれる。土坑の平面形は円形・楕円形・方形等の種類があるが、ほぼ全ての土坑の長辺・長径と短辺・短径との比率は１：１～1.5：１の範疇にある。計測値では辺・径が0.7～1.3mを測る土坑が主体を占める。

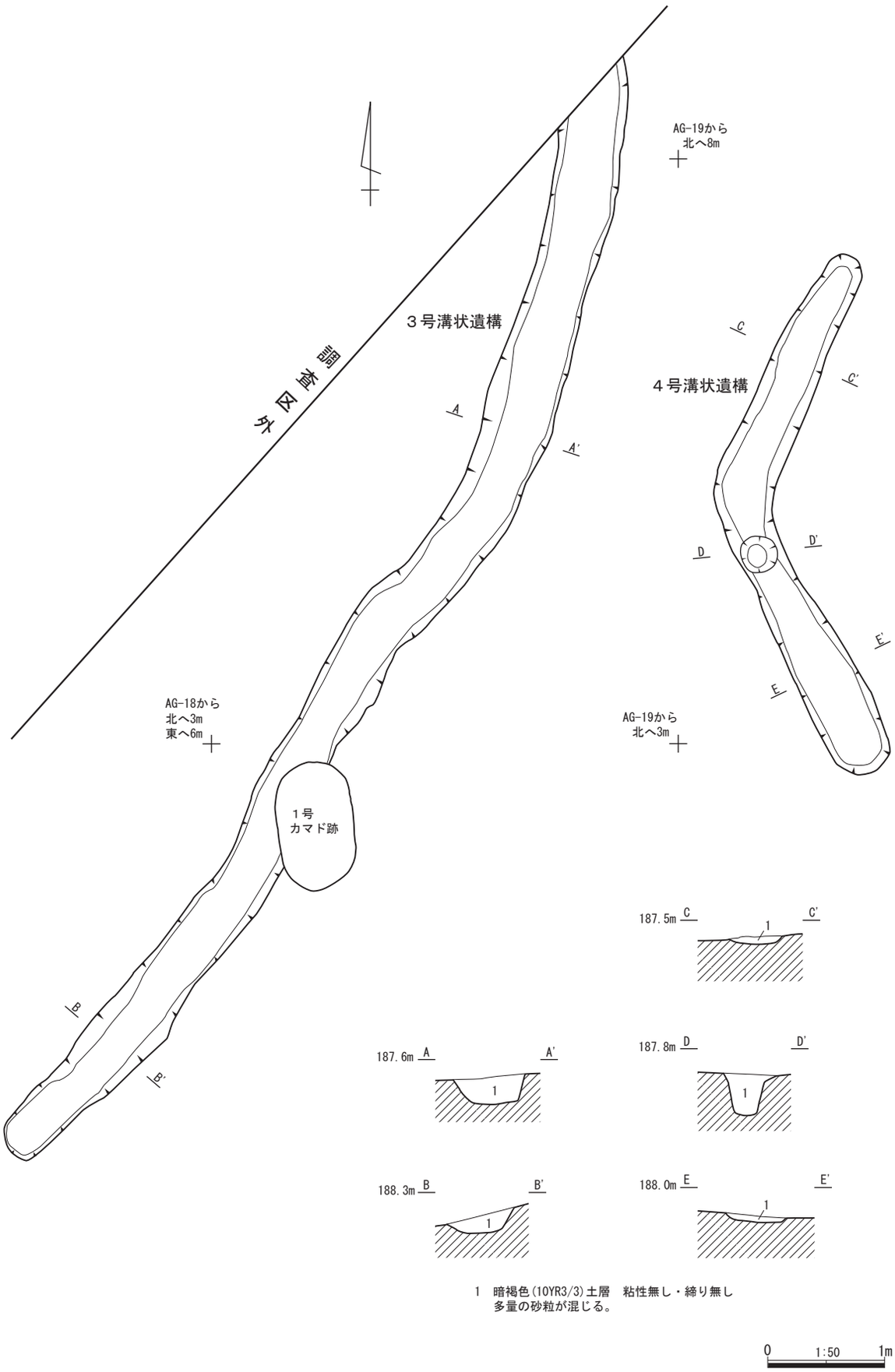
東支谷部にて検出された土坑は現地調査の段階から、その形状と配置に規則性が窺えるとの認識がされてきた。第193図は規則性を模式図化したものである。Ａ～Ｆラインは中央尾根と東尾根とに挟まれた狭隘な区域にあり、東支谷を横断するように土坑列が認められる。またＩ～ＫラインはＡ～Ｆラインと交差するように認められる。Ｇ・Ｈラインは東支谷最下部を等高線と交差するように設定されよう。Ｆラインから下方（北西方向）には土坑が少なくなるが、その方向には６～12号炉跡や１・２号溝状遺構が位置するため、土坑の配置と炉跡、溝状遺構の関連性を認める。各土坑が狩猟用の陥穴であるならば獣類の道沿いに設定がなされたと想起せられるも、平面形や深さの点から陥穴とは考えにくい。土坑から出土した遺物が皆無であるため、その性格は判然としない。ただ他遺跡での類例から墓坑の可能性が指摘されているが、積極的に首肯できる資料は当該遺跡においても得られていない。

３　炉跡（第194・195図　写真図版41）

富士石遺跡で検出された炉跡のうち、縄文時代以外の炉跡は13基を数える。第20表には中世以降と考えられた炉跡について集成した。なお当該報告では炉跡としているが、現地調査時点では焼土と報告し

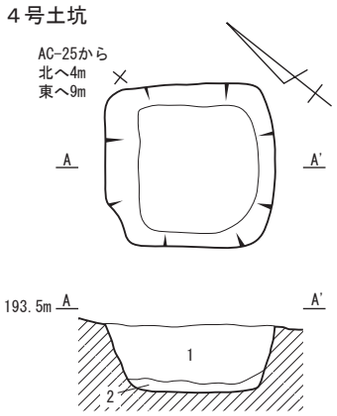


第 190 図　中世以降の溝状遺構１



第 191 図　中世以降の溝状遺構２

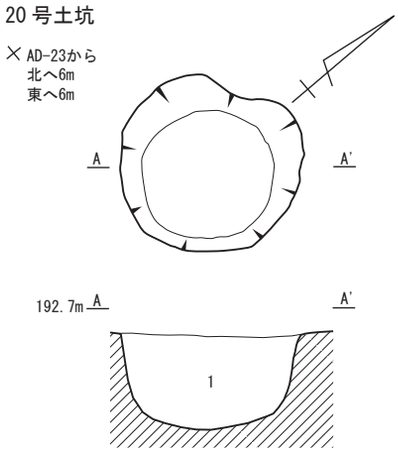
４号土坑



1　黒色(10YR2/1)土層　粘性無し・締り無し
　少量の径1～2㎜程度の褐色スコリアを含む。

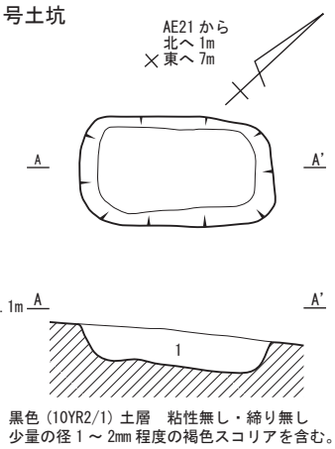
2　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性有り・締り強い
　少量の径10～30㎜程度の褐色土塊が混じる。

20 号土坑



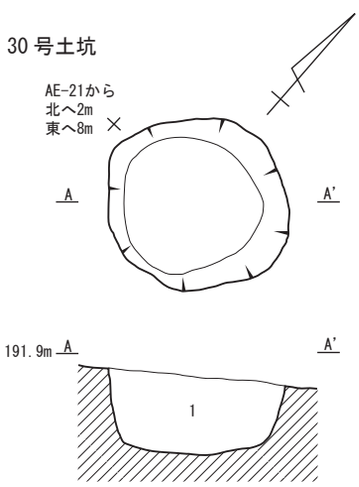
1　黒色 (10YR2/1) 土層　粘性無し・締り無し
　多量の褐色土塊が混じる。
　少量の径 1 ～ 2㎜ 程度の褐色スコリアを含む。

29 号土坑



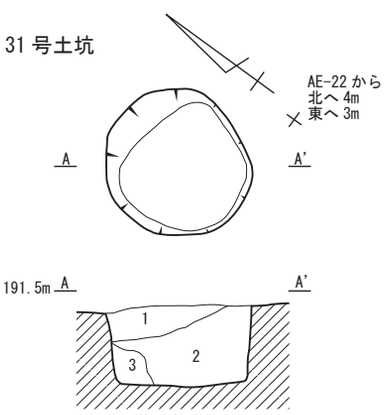
1　黒色 (10YR2/1) 土層　粘性無し・締り無し
　少量の径 1 ～ 2㎜ 程度の褐色スコリアを含む。

30 号土坑



1　黒色 (10YR2/1) 土層　粘性無し・締り無し
　多量の暗褐色土粒、褐色土塊が混じる。
　少量の径 1 ～ 2㎜ 程度の褐色スコリアを含む。

31 号土坑

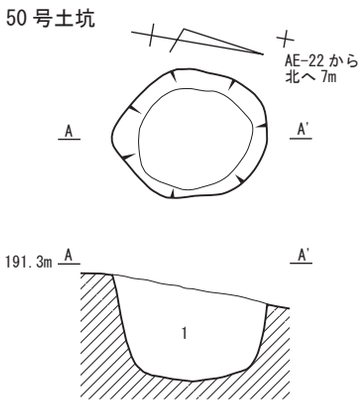


1　黒色 (10YR2/1) 土層　粘性無し・締り無し
　多量の褐色土粒が混じる。
　少量の径 1 ～ 2㎜ 程度の褐色スコリアを含む。

2　黒色 (10YR2/1) 土層　粘性無し・締り無し
　少量の径 1 ～ 2㎜ 程度の褐色スコリアを含む。

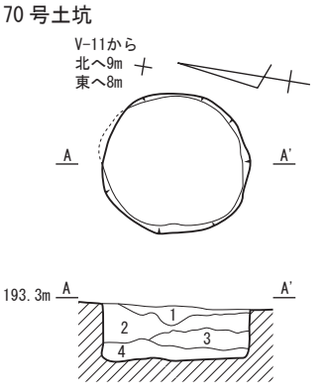
3　黒褐色 (10YR2/2) 土層　粘性有り・締り強い
　少量の褐色土塊が混じる。

50 号土坑



1　黒色 (10YR21) 土層　粘性無し・締り無し
　多量の暗褐色土粒、褐色土塊が混じる。
　少量の径 1 ～ 2㎜ 程度の褐色スコリアを含む。

70 号土坑



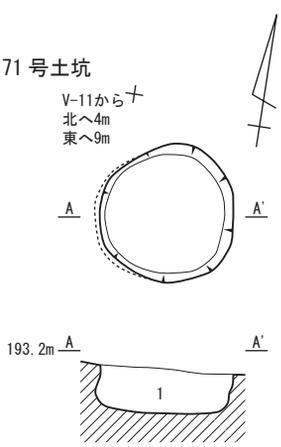
1　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性無し・締り弱い
　少量の径2～5㎜程度の褐色スコリアを含む。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性無し・締り弱い
　少量の径2～5㎜程度の褐色スコリアを含む。

3　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性無し・締り弱い

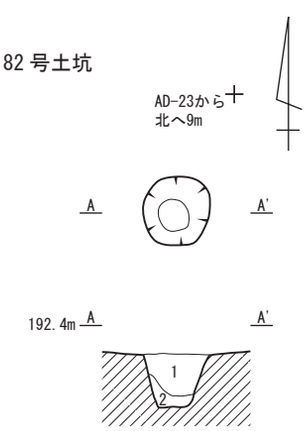
4　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性無し・締り弱い
　2層に比して若干色調が明るい。

71 号土坑



1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性無し・締り弱い
　少量の径2～5㎜程度の褐色スコリアを含む。

82 号土坑



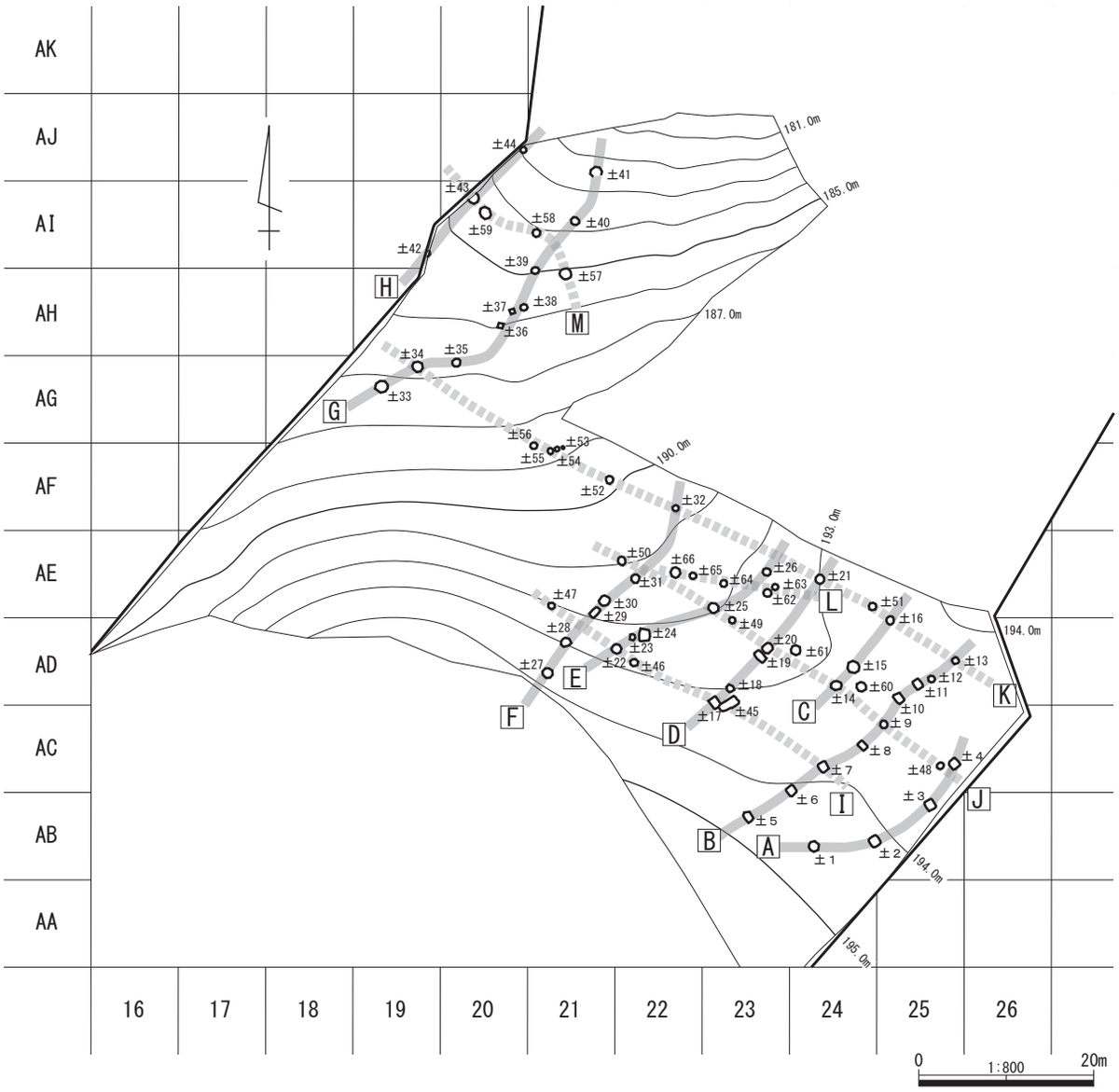
1　黒色(10YR2/1)土層　粘性有り・締り強い
　少量の褐色スコリアを含む。

2　黒褐色(10YR3/2)土層　粘性弱い・締り有り
　少量の径2㎜程度の褐色スコリアを含む。

0　1:50　1m

第 192 図　中近世の土坑

土坑列配置図

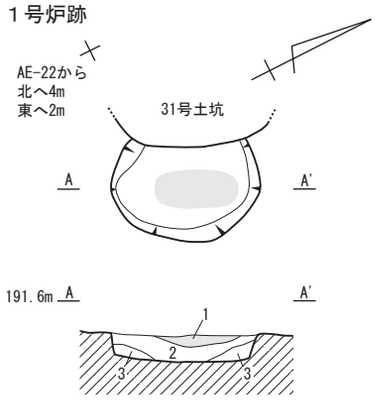


第 193 図　土坑列配置概念図

ている。必ずしもこれらが炉として機能したものではなく、今後詳細な検討が必要である。

中世以降の炉跡は全て東支谷内にて検出されたが、13号炉跡を除き全て中央尾根と東尾根に挟まれた狭隘な区域、ＡＥ・ＡＦ－21～23グリッドにて検出されたものである。特にＡＦ－21グリッド内に５基と密集する。検出されたのは殆どの炉跡の平面形は楕円形を呈し、長径：短径の比率は概ね1.2：１である。径は0.3～0.6m台が多く散見される。中には長径0.86m、短径0.76mを測る４号炉跡、長径1.66m、短径1.46mを測る13号炉跡があり、他の炉跡と区別されるべきものである。検出された炉跡は栗色土層から表土直下の黒色土層の各層で確認され、最も多いのが新期スコリア層で検出した炉跡である。最も規模の大きい13号炉跡はＡＪ－21グリッドにて検出した。この炉跡のみ、土坑列のＧラインに近接する。Ｇラインを構成する土坑と同様、新期スコリア層にて検出されており、これらの土坑と13号炉跡との関連性が想定される。一方、ＡＦ・ＡＥ－21～23グリッドに位置する12基の炉跡については土坑列や溝状遺構との関連性も想起されるが、検出層位と関連付けて考えなければならない。仮に土坑が墓坑という可能性が問われるならば付近は墓域とも考えられるが、今回「炉跡」と報告した焼土は、その規模から勘案すれば火葬施設とは考えられない。類例の集成・検討が必要である。

１号炉跡

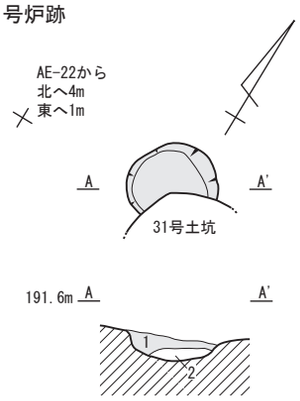


1　明赤褐色(2.5YR5/8)土層　粘性無し・締り有り
焼土集中層。
少量の径1～2㎜程度の炭化物粒が混じる。
暗褐色土が混じる。

2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性無し・締り強い
径0.5～2㎜程度の焼土粒が混じる。

3　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性無し・締り強い
微量の径1～2㎜程度の焼土粒が混じる。

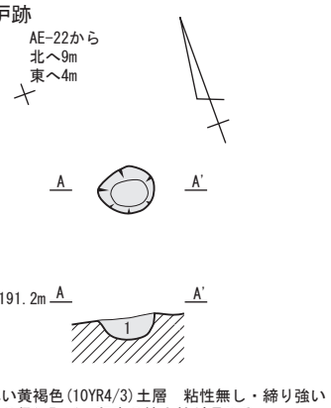
２号炉跡



1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性無し・締り有り
多量の径0.5～10㎜程度の焼土粒・塊が混じる。

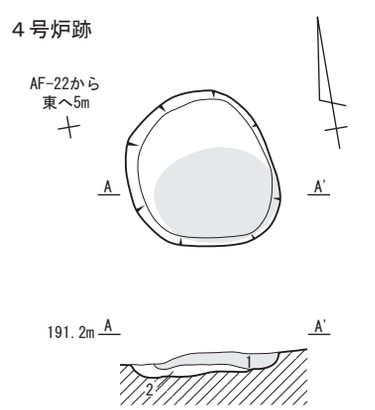
2　暗褐色(10YR3/4)土層　粘性有り・締り有り
微量の径0.5～2㎜程度の赤褐色スコリアを含む。

３号炉跡



1　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性無し・締り強い
多量の径0.5～1㎜程度の焼土粒が混じる。

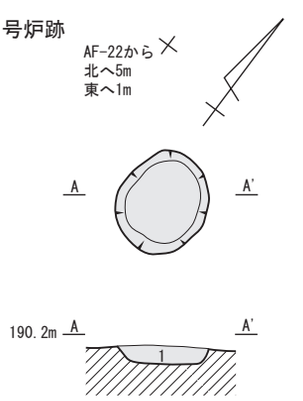
４号炉跡



1　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性無し・締り弱い
多量の径1～10㎜程度の焼土粒・塊、
少量の径2～3㎜程度の炭化物粒が混じる。

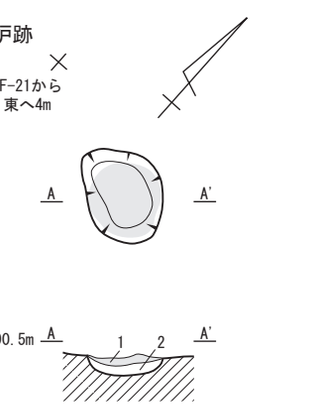
2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性無し・締り強い
微量の径1～2㎜程度の焼土粒が混じる。

５号炉跡



1　赤褐色(2.5YR4/6)土層　粘性無し・締り有り
多量の径0.5～10㎜程度の焼土粒・塊、
多量の径1～2㎜程度の黒褐色土粒が混じる。

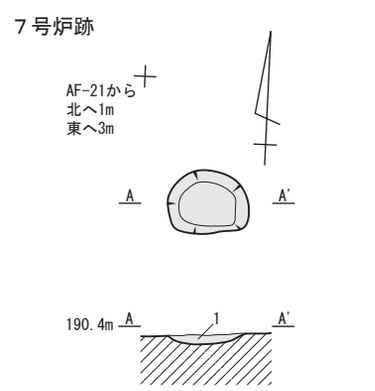
６号炉跡



1　明赤褐色(2.5YR5/8)土層　粘性有り・締り有り
焼土集中層。暗褐色土が混じる。

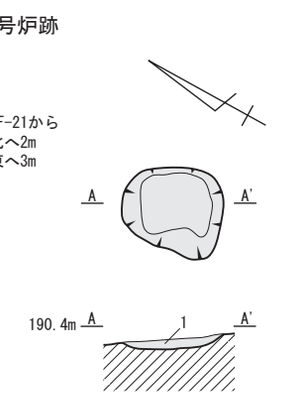
2　暗褐色(10YR3/3)土層　粘性弱い・締り有り
径0.5～2㎜程度の焼土粒・塊が混じる。

７号炉跡



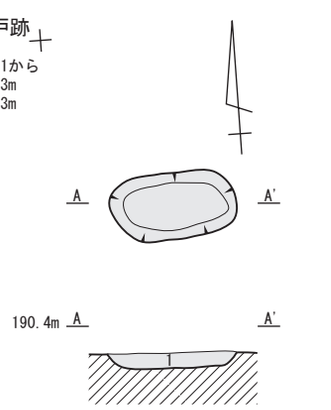
1　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性無し・締り強い
径0.5～2㎜程度の焼土粒が混じる。

８号炉跡



1　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性無し・締り強い
径0.5～2㎜程度の焼土粒が混じる。

９号炉跡

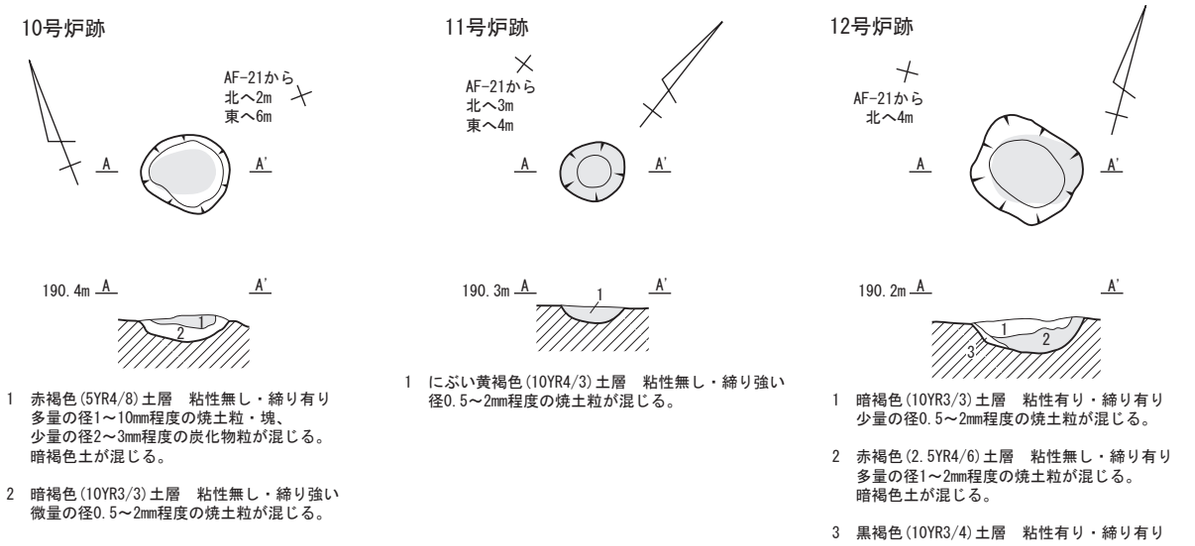


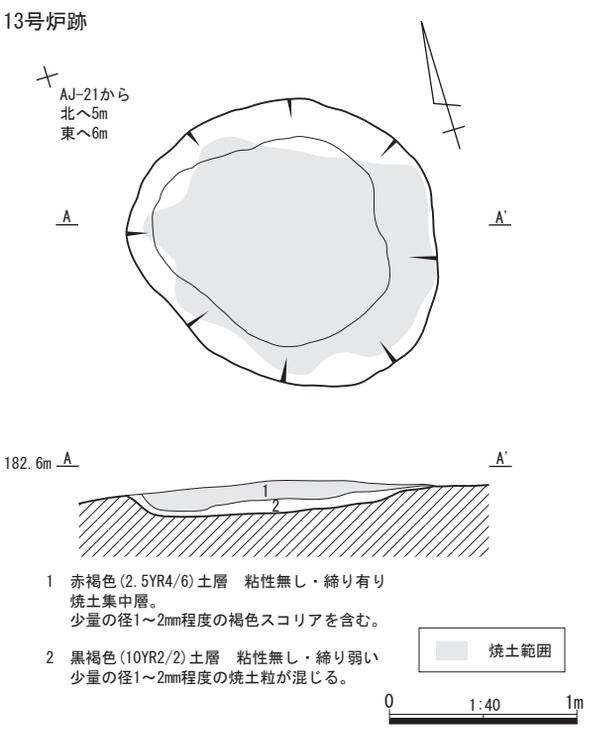
1　にぶい黄褐色(10YR3/3)土層　粘性有り・締り強い
径0.5～2㎜程度の焼土粒・塊が混じる。

焼土範囲

0　1:40　1m

第 194 図　中近世の炉跡１





第 195 図　中近世の炉跡２

4　中世墓（第196図　写真図版43・134）

この遺構はＡＨ－21グリッドにて検出された。位置は東支谷で土坑列Ｇラインに近接し、新期スコリア層上面にて検出されている。この遺構は骨蔵器と思しき壷が埋納された土坑である。土坑の平面形は円形を呈している。計測値は長径0.36m、短径0.34m、深さは0.23mを測る。土坑底面は平坦で、壁は直立気味である。土坑内部には北東方向に傾いた状態で、壷が確認された。1529は土坑内で出土した壷である。壷は頸部から口縁部にかけて欠損しているが、胴部は完存する。全体的にロクロ調整であるが、胴部下半部にはナデか。常滑の広口壷か。さすれば時期は１～２型式、12世紀後半代か。

第16表　弥生時代土坑計測表

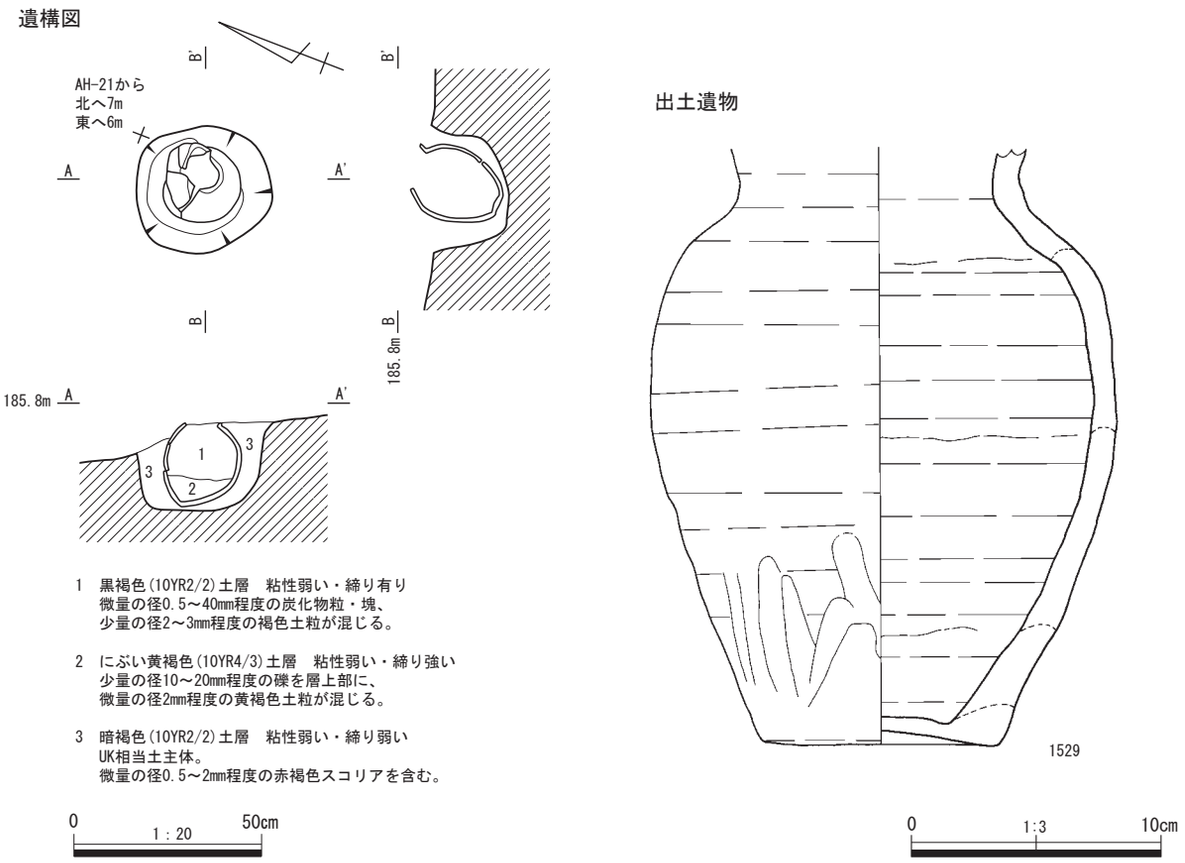
遺構名	グリッド	検出層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
弥生土坑	AI-20	KU	0.49	0.47	0.49	円形	3		2		5

第17表　古代カマド跡計測表

遺構名	グリッド	検出層位	分類	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
1号カマド跡	AG-18	NSC	竈	1.09	0.66	0.28	楕円形	11		38		49
			遺物範囲	0.94	0.66	－						
2号カマド跡	AD-21	NSC	竈	0.81	0.76	0.13	楕円形	17		23		40
			遺物範囲	0.93	0.64	－						
3号カマド跡	AE-21,22	NSC	竈	0.77	0.62	0.09	不定形	1		39		40
			遺物範囲	1.47	0.51	－						

第18表　古代遺物集中計測表

遺構名	グリッド	検出層位	分類	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
1号遺物集中	AD-22	NSC	遺物(礫)集中					1		12		13
	AD-22	NSC	焼土坑	1.25	1.10	0.18	楕円形	41	64	17	1	123
	AD-23	NSC	遺物集中	3.24	1.44	－		4	15	13		32



1　黒褐色(10YR2/2)土層　粘性弱い・締り有り
　微量の径0.5～40mm程度の炭化物粒・塊、
　少量の径2～3mm程度の褐色土粒が混じる。

2　にぶい黄褐色(10YR4/3)土層　粘性弱い・締り強い
　少量の径10～20mm程度の礫を層上部に、
　微量の径2mm程度の黄褐色土粒が混じる。

3　暗褐色(10YR2/2)土層　粘性弱い・締り弱い
　UK相当土主体。
　微量の径0.5～2mm程度の赤褐色スコリアを含む。

第 196 図　中世墓

第19表　中世以降溝状遺構計測表

遺構名	グリッド	検出層位	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	計
1号溝状遺構	AE-20	NSC	2.47	0.44	0.07					
2号溝状遺構	AE-21	NSC	7.20	0.61	0.11					
3号溝状遺構	AF・AG-18	NSC	10.74	0.60	0.23					
4号溝状遺構	AG-19	NSC	4.46	0.51	0.05		1	1		2

第20表　中近世炉跡計測表

遺構名	グリッド	検出層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	計
1号炉跡	AE-22	NSC	0.76	(0.64)	0.14					
2号炉跡	AE-22	SNZ	0.48	(0.29)	0.12					
3号炉跡	AE-22	NSC	0.30	0.25	0.12					
4号炉跡	AF-22	UK	0.86	0.76	0.12					
5号炉跡	AF-22	NSC	0.55	0.49	0.10					
6号炉跡	AE-21	KGP	0.56	0.42	0.10					
7号炉跡	AF-21	KU	0.44	0.33	0.05					
8号炉跡	AF-21	NSC	0.54	0.44	0.05					
9号炉跡	AF-21	NSC	0.68	0.35	0.08					1
10号炉跡	AF-21	NSC	0.48	0.41	0.14					
11号炉跡	AF-21	NSC	0.34	0.32	0.08					
12号炉跡	AF-21	UK	0.60	0.55	0.18	2				2
13号炉跡	AJ-21	NSC	1.66	1.46	0.18					

第21表　中近世土坑計測表

遺構名	グリッド	検出層位	分類	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
1号土坑	AB-24	NSC	横断　列A	1.22	1.21	0.10	円形					
2号土坑	AB-24,25	KGP		1.19	1.15	0.32	方形					
3号土坑	AB-25	SNZ		1.17	1.08	0.45	方形					
4号土坑	AC-25	SNZ		1.13	1.08	0.45	方形					
5号土坑	AB-23	クロ	横断　列B	1.26	0.93	0.30	長方形					
6号土坑	AB,AC-23,24	NSC		1.12	0.98	0.49	方形					
7号土坑	AC-24	NSC		1.18	0.95	0.54	方形					
8号土坑	AC-24	NSC		1.06	0.75	0.35	長方形					
9号土坑	AC-25	NSC		0.94	0.89	0.06	楕円形					
10号土坑	AD-25	SNZ		1.26	0.90	0.58	長方形					
11号土坑	AD-25	SNZ		1.12	0.92	0.43	長方形					
12号土坑	AD-25	SNZ		0.83	0.77	0.40	楕円形					
13号土坑	AD-25	NSC		0.84	0.81	0.09	長方形					
14号土坑	AD-24	NSC	横断　列C	1.25	1.04	0.16	方形					

15号土坑	AD−24	NSC		1.47	1.34	0.09	楕円形					
16号土坑	AD−25	NSC		0.98	0.88	0.12	楕円形	1				1
17号土坑	AC, AD−23	NSC	横断　列D	1.34	1.07	0.28	長方形					
18号土坑	AD−23	NSC		0.94	0.87	0.07	楕円形					
19号土坑	AD−23	NSC		1.40	0.82	0.40	長方形					
20号土坑	AD−23	NSC		1.20	1.12	0.63	楕円形					
21号土坑	AE−24	NSC		1.10	1.00	0.13	楕円形					
22号土坑	AD−21・22	NSC	横断　列E	1.19	1.12	0.13	楕円形					
23号土坑	AD−22	NSC		0.71	0.70	0.34	円形					
24号土坑	AD−22	NSC		(1.30)	(1.06)	0.60	方形					
25号土坑	AE−23	NSC		1.26	1.18	0.14	円形					
26号土坑	AE−23	NSC		0.95	0.90	0.30	楕円形					
27号土坑	AD−21	NSC	横断　列F	1.24	1.15	0.18	円形					
28号土坑	AD−21	NSC		1.23	0.92	0.20	楕円形					
29号土坑	AE−21	NSC		1.30	0.74	0.23	長方形			1		1
30号土坑	AE−21	NSC		1.20	1.15	0.52	円形					
31号土坑	AE−22	NSC		1.00	0.94	0.54	円形					
32号土坑	AF−22	NSC		0.73	0.72	0.15	円形					
33号土坑	AG−19	NSC	横断　列G	1.52	1.38	0.44	楕円形					
34号土坑	AG−19	NSC		1.28	1.23	0.38	楕円形					
35号土坑	AG−20	NSC		1.00	0.93	不明	円形					
36号土坑	AH−20	NSC		0.86	0.76	0.16	円形					
37号土坑	AH−20	NSC		0.77	0.76	0.12	円形					
38号土坑	AH−20	NSC		0.86	0.77	0.17	円形					
39号土坑	AH−21	NSC		0.93	0.83	0.24	円形					
40号土坑	AI−21	NSC		1.05	0.95	0.33	楕円形					
41号土坑	AJ−21	NSC		1.37	(1.10)	不明	円形			1		1
42号土坑	AI−19	NSC	横断　列H	(0.75)	(0.31)	0.30	円形?					
43号土坑	AI−20	NSC		1.26	(0.98)	0.30	円形?					
44号土坑	AJ−20	NSC		0.80	0.75	0.17	円形					
45号土坑	AC, AD−23	NSC	縦断　列I	2.28	0.90	0.56	長方形					
46号土坑	AD−22	NSC		0.97	0.88	0.54	楕円形					
47号土坑	AE−21	NSC		0.84	0.72	0.10	楕円形					
48号土坑	AC−25	NSC	縦断　列J	0.84	0.72	0.09	楕円形					
49号土坑	AD−23	NSC		0.78	0.77	0.21	円形					
50号土坑	AE−22	NSC		1.05	0.85	0.62	楕円形					
51号土坑	AE−24	NSC	縦断　列K	0.94	0.92	0.07	円形					
52号土坑	AF−21	NSC		0.92	0.88	0.05	楕円形					
53号土坑	AF−21	NSC		0.34	0.33	0.05	円形					
54号土坑	AF−21	NSC		0.61	0.52	0.06	円形					
55号土坑	AF−21	NSC		0.71	0.66	0.09	楕円形					
56号土坑	AF−21	NSC		0.85	0.81	0.13	円形					
57号土坑	AH−21	NSC	縦断　列I	1.36	1.23	0.44	方形	1				1
58号土坑	AI−21	NSC		0.98	0.94	0.44	円形					
59号土坑	AI−20	NSC		1.46	1.34	0.28	楕円形					
60号土坑	AD−24	NSC		1.22	1.09	0.05	楕円形					
61号土坑	AD−23・24	NSC		1.20	1.16	0.12	楕円形					
62号土坑	AE−23	NSC		0.95	0.89	0.20	円形					
63号土坑	AE−23	NSC		0.74	0.70	0.22	円形					
64号土坑	AE−23	NSC		0.84	0.81	0.17	円形					
65号土坑	AE−22	NSC		0.81	0.74	0.12	楕円形					
66号土坑	AE−22	NSC		1.24	1.12	0.09	楕円形					
67号土坑	AE−17	NSC		1.38	0.60	0.19	長方形					
68号土坑	Y−12	NSC		1.13	1.08	0.55	円形					
69号土坑	Y−12	NSC		1.18	1.18	0.47	円形					
70号土坑	V−11	NSC		0.99	0.93	0.36	円形					
71号土坑	V−11	NSC		0.92	0.91	0.30	円形					
72号土坑	Q−11	NSC		1.16	1.11	0.40	方形			1		1
73号土坑	Q−11	NSC		1.13	1.07	0.40	方形					
74号土坑	Q−11	NSC		0.73	0.63	0.37	円形					
75号土坑	Q−10	NSC		1.44	1.40	0.50	円形			1		1
76号土坑	Q−10	NSC		1.52	1.48	0.48	円形					
77号土坑	Q−10	NSC		1.44	1.35	0.50	円形			1		1
78号土坑	P−12	NSC		1.08	1.07	0.17	円形					
79号土坑	P−12	NSC		1.11	1.06	0.40	円形					
80号土坑	P−11	NSC		0.72	0.65	0.24	円形					
81号土坑	P−11	NSC		(0.83)	(0.39)	(0.06)	楕円形					
82号土坑	AD−22	NSC		0.48	0.44	0.34	円形	18	2	16		36

第22表　中世墓計測表

遺構名	グリッド	検出層位	分類	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	平面形	土器	石器	礫	炭化物	計
中世墓	AH−21		壺	0.36	0.34	0.23	円形	1				1

第23表　弥生時代以降遺構出土土器観察表

遺構名	挿図番号	図版番号	種別	器種	残存部位	器面調整		計測値	備考
						外面	内面		
弥生土坑	1524		弥生土器	壺	底部	指頭圧痕	指頭圧痕	底径　60mm	
弥生土坑	1525	132	弥生土器	甕	口縁部	櫛状の工具による波状文等	ヘラミガキ	口径　190mm	
1号カマド跡	1526		土師器	甕	底部			底径　90mm	木葉痕
2号カマド跡	1527	132	土師器	甕	口縁部	指頭圧痕 ヘラミガキ	板ナデ？	口径　380mm	
1号遺物集中	1528	132	土師器	甕	口縁部	ナデ	ナデ		
中世墓	1529	132	中世陶器	広口壺	頚部～底部	ヘラケズリ	ロクロ調整	胴部最大径　188mm　　残存高　237mm 底径　95mm	常滑 モミガラ痕

第２節　包含層出土遺物

ここでは、弥生時代以降に位置付けられる遺物で包含層及び撹乱中出土遺物を一括して報告する。これらは土器691点、石器98点、金属器１点である。該期の遺構を検出した新期スコリア層は中央尾根においては撹乱により失われ、生活の痕跡について全く手掛かりがない。当該報告において、遺構と遺物について検討が可能なのは東支谷出土遺物に限定される。第197図では東支谷の弥生時代以降の遺構出土遺物、包含層出土遺物の分布を示している。弥生時代以降の土器が層位的にも混在していた状況である。12世紀代の鍋や鉢の生活雑器の存在からも、断続的に当該区域内での生業が想像される。

１　土器

弥生時代以降の包含層出土土器について報告する。図化した資料は41点を数え、弥生時代中期から中世までの時期に帰属される。土師器の細片などが多く出土しているが、図化できなかった。

弥生時代中期の土器（第198図　写真図版135）

1530～1545は弥生時代中期に帰属される土器である。1530～1536が壺形土器、1537～1545が甕形土器である。

1530～1534は壺形土器の胴部破片である。1530～1532は外面に沈線化しつつある縦位の羽状条痕が施される。1533は外面に横位の沈線１条と波状沈線２条の計３条の沈線による施文が認められる。1534は外面に縄文が地文として施文されているものの、一部が磨り消されている。いずれも胎土の粒子は粗いが、焼成は良好で、堅く焼き締められている。1535は壺形土器の胴部から底部片である。底部から胴部にかけての立ち上がりから、胴部最大径は胴部上半にあたることが推測される。肩部から胴部上半に最大径をもち、胴部下半から底部がすぼまる器形が推測される。このような器形的特徴から、弥生時代中期の長頸壺である可能性が高い。胴部外面に刷毛目調整の痕跡と、底部に網代痕が認められる。1536は壺形土器の底部片である。底部に網代痕が確認できるとともに、外面にわずかに刷毛目調整の痕跡が認められる。

1537は甕の口縁部破片である。口縁部に横位羽状条痕が、わずかに残存する胴部上半に横位の条痕が施される。1538は甕の胴部破片である。上部に斜位の条痕が認められ、横位羽状条痕の一部の可能性がある。下部には横位の条痕が施される。器面の調整の共通性から、1537と1538は同一個体である可能性も考えられる。1539・1540は甕形土器の口縁部破片である。横位の粗い条痕が認められる。1541は甕形土器の口縁部片で、いわゆる磨消線文甕である。口唇部は指頭の押さえによって成形されている。磨消線文甕は、縦位を基調とする粗い刷毛目調整の後、胴部に指頭等によって横位の磨消線を施す。伊藤淳史氏の論考によれば、磨消線文甕の出現は伊藤編年中期Ⅱにあたり、中期Ⅲに盛行する。本資料も概ね弥生時代中期中葉から後葉の間に位置付けられようか。1542～1544は甕形土器の胴部破片である。いずれも横位の磨消線が２条認められる。消線文を境に上半と下半とで、調整の工具や方向を違えることはなく、縦位を基本とする刷毛目調整が施されていることから、典型的磨消線文甕（伊藤分類Bb）と考えられ、弥生時代中期中葉から中期後葉の古段階に該当する資料と考えられる。1545は甕形土器の底部片である。外面には刷毛目調整が施され、内面に指頭圧痕、底部に網代痕が認められる。1541～1544同様、磨消線文甕の可能性も考えられるが、定かではない。

弥生時代後期の土器（第199図　写真図版135）

1546～1553は弥生時代後期に帰属される土器である。1546・1547は壺形土器、1548～1553は甕形土器である。1546は壺形土器の頸部片である。1547は壺形土器の胴部から底部片である。底部から胴部への立ち上がりは緩やかで、胴部下半で最大径を測る。底部には木葉痕がわずかに認められる。1546・1547ともに器面の摩耗が著しい。1548は甕形土器の口縁部から胴部片である。目の細かい刷毛目調整が内外面に施され、口縁部は緩やかに外反する。1549～1553は台付甕の脚部片である。いずれも外面あるいは内面に刷毛目調整が施される。外面は縦位、内面は横位を基調とする刷毛目が認められる。東駿河における台付甕の本格的な出現は、弥生時代後期前葉以降とされ、1549～1553も弥生時代後期前葉またはそれ以降の所産と考えられる。

古墳時代の土器（第199図　写真図版136）

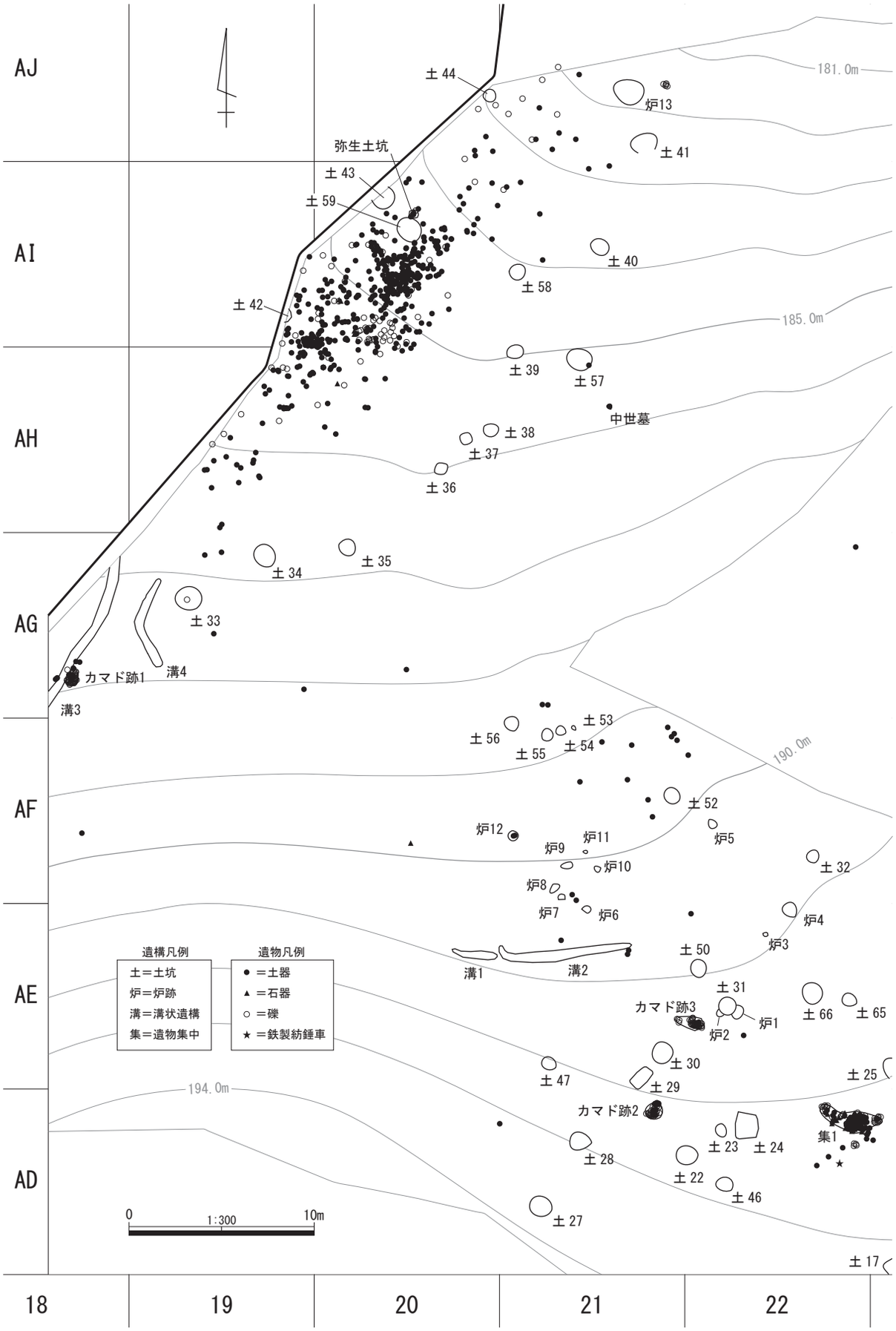
1554～1561は古墳時代に帰属される土師器である。1554は壺形土器の口縁部から底部片である。胴部最大径が胴部のほぼ中央に位置する球胴形を呈する。内外面とも摩耗が著しいが、胴部下半に篦磨き調整が施されているのが確認できる。1555は甕形土器の口縁部破片である。古墳時代前期のいわゆるS字状口縁甕にあたる。薄手硬質な作りである。1556は壺形土器の口縁部片から胴部片である。小型で胴部上半には刷毛目調整が施される。1557は甕形土器の口縁部片である。内外面に刷毛目調整が施される。1558～1560は坏形土器の口縁部から体部片である。1558・1559には篦削り調整が施される。1561は高坏形土器の脚部片である。上部に円形の透かし孔を開けた痕跡がわずかに認められる。内外面とも刷毛目調整が施される。

古代の土器（第199・200図　写真図版136）

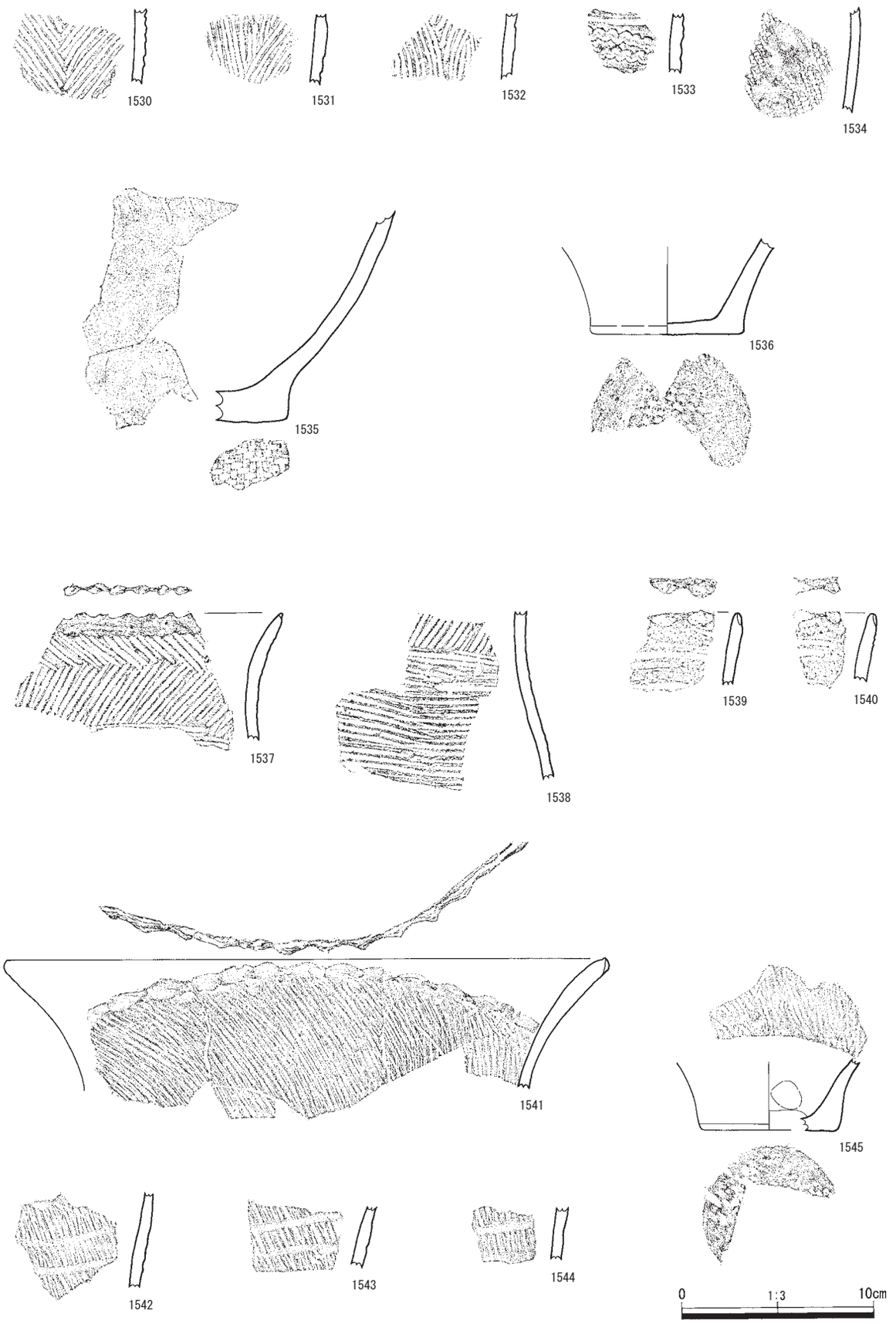
1562は古代の須恵器の坏蓋である。頂部が欠損し、摘み部も剥離している。口縁部から頂部への立ち上がりから、概ね８世紀中葉から後葉に位置付けられる。1563は古代の灰釉陶器の碗である。体部から底部片で、口縁部は遺存していない。内外面とも上部に釉薬が塗布されている。高台の形態など、器形の作りが粗雑化していることから、猿投窯編年の百代寺窯式（11世紀代）に位置付けられる。1564～1568は奈良・平安時代に帰属される土師器である。1564は甕形土器の口縁部片である。いわゆる律令期の駿東型甕で、内外面に刷毛目調整を施し、口唇部を肥厚させている。1565は塝形の口縁部から胴部片である。胴部内外面に粗い刷毛目調整が施される。塝の出現は８世紀前半以降と考えられており、本資料は口唇部の肥厚が薄くなり、口縁部が屈曲して外傾するような形態を呈すことから、８世紀後半に帰属される資料と考えられる。1566は甕形の口縁部から胴部片である。長胴で薄手であり、胴部内外面には刷毛目調整が施される。胴部最大径は、肩部付近よりもやや下位の胴部中央付近に位置する。1565同様、８世紀後半に位置付けられる長胴甕であろう。1567・1568は甕形の胴部から底部片である。1567は胴部外面に縦位の篦磨き調整が施され、底部には網代痕が認められる。

中世の土器（第200図）

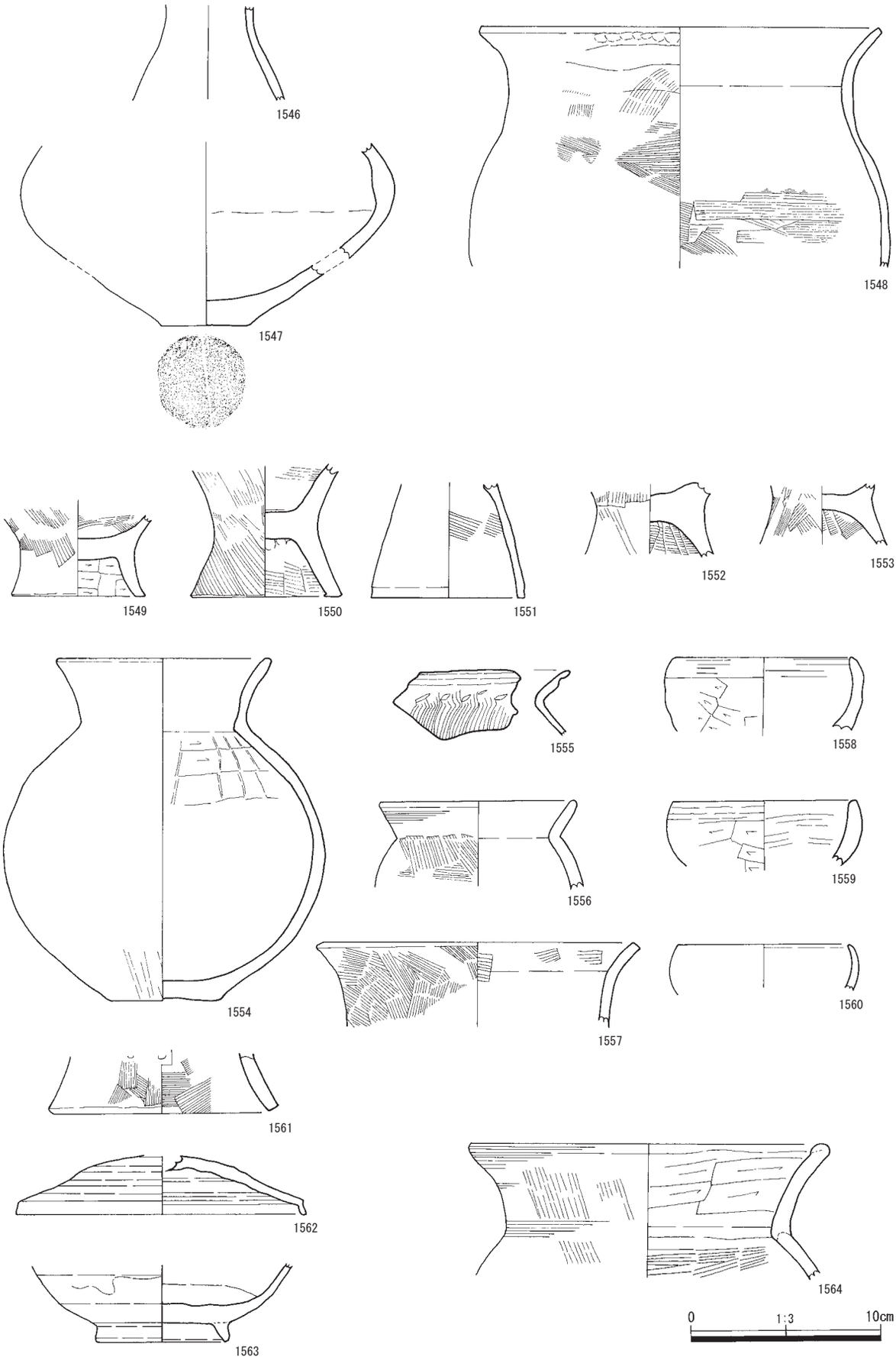
1569は鍋の口縁部片で、中世の伊勢型鍋である。薄手で口縁部が内面に折り返されたうえで大きく外反する。伊勢型鍋Ａ２～３類に位置付けられ、12世紀の所産と考えられる。1570は鉢の口縁部片である。器厚は厚手で、微かに内湾し、口唇部は丸く仕上げる。胴部下半部はヘラ削りを施している。中世の尾張系山茶碗で、12世紀の所産と考えられる。



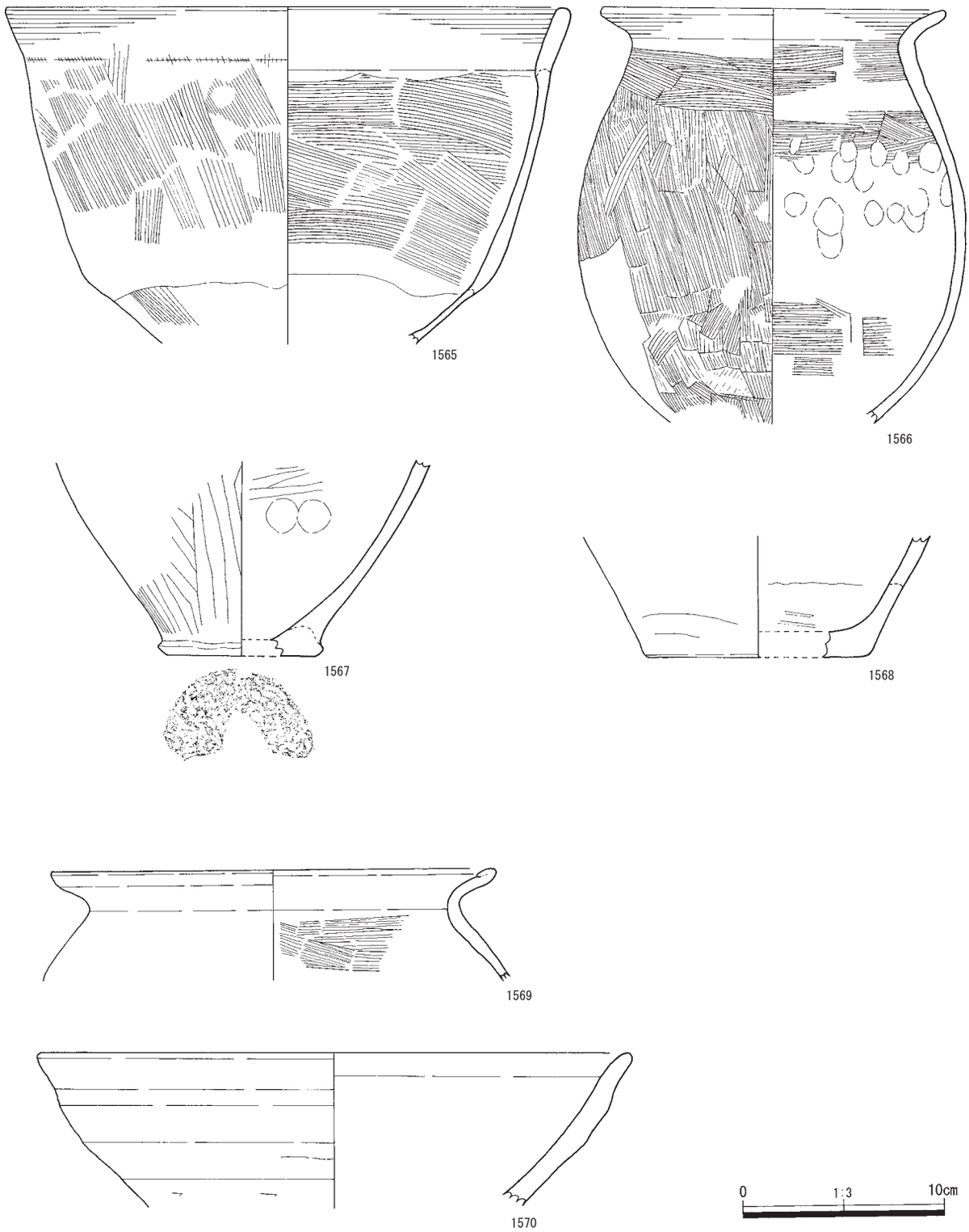
第 197 図　弥生以降出土遺物分布図



第 198 図　弥生以降の土器１



第 199 図　弥生以降の土器２



第 200 図　弥生以降の土器３

２　石器・石製品

包含層等から出土した弥生時代以降の石器・石製品の総点数は98点で、縄文時代の石器と比較して甚少である。これらの主体は弥生時代の石器である。出土土器の様相も勘案すれば相応の数量と首肯される。また砥石の中には弥生時代より新しい時期の可能性もあることをまず述べておく。

磨製石斧（第201図　写真図版137）

1571～1573は弥生時代中期代の磨製石斧である。1571は刃部から基端部までほぼ残存した資料である。刃部は両刃で一部欠損している。両主面は丁寧に研磨されているが、敲打痕が随所に認められる。基端部は平坦であるが、剥離や敲打痕が認められるため敲石に代用された可能性がある。石材は斑レイ岩である。弥生時代の伐採斧、所謂太型蛤刃石斧であろう。1572も弥生時代の伐採斧と考えられる。刃部端から側面部にかけての破片資料である。石材は蛇紋岩である。刃部・側面部はよく研磨されているが、わずかに敲打整形時の痕跡が残る。残存状況から伐採時に折損したものか。

1573は弥生時代の加工斧で所謂扁平片刃石斧の可能性がある資料である。剥片を研磨している最中で製作を止めたものか、折損品の再加工なのかは判然しない。ただ利用されている石材は軟質細粒凝灰岩であり、消耗激しい加工斧に耐えられる石材なのかやや疑問である。

磨製石鏃（第201図　写真図版137）

1574～1577は弥生時代中期代の磨製石鏃である。石材は全て珪質粘板岩である。1574・1575は逆刺が一部欠損し、1576・1577は基部中位から逆刺が失われている。これら４点はいずれも基部中位から逆刺側にかけて穿孔がなされ、研磨が丁寧に行われている。穿孔は1574のように両側穿孔のものと、1577ように片側穿孔のものがある。1574・1575は無茎鏃であるが、1576・1577は欠損のため判然としない。これらのうち1577は欠損品なれど、その残存状況から小型の磨製石鏃であり、1576は1574・1575と比較してより鏃身部の長いタイプであったことが想像される。

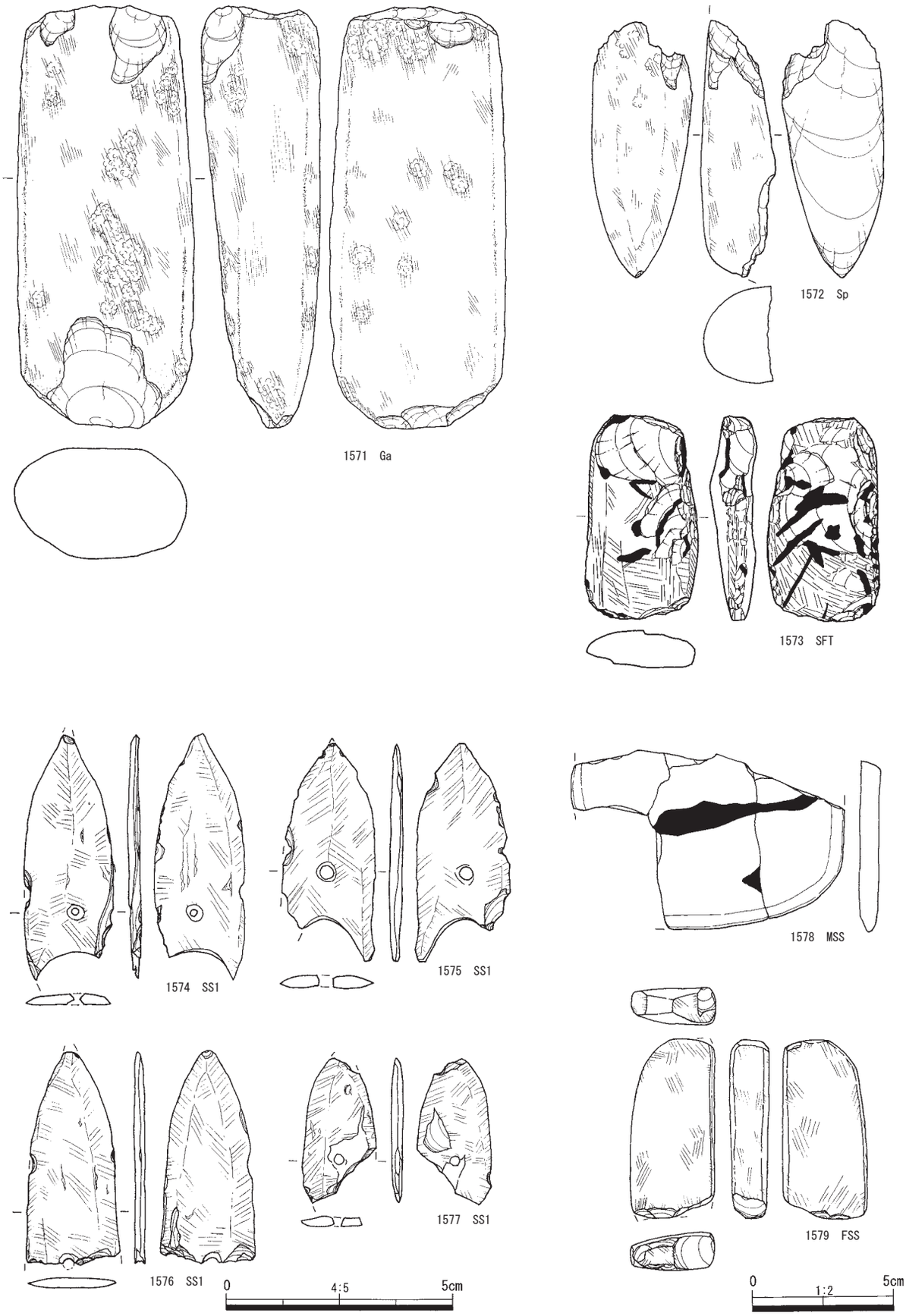
砥石・敲石（第201・202図　写真図版137）

1578～1582・1584は砥石に分類される資料である。1578・1579・1584の石材は砂岩、残りは軽石製である。1578は接合資料である。隅に丸みのある長方形を呈していたと考えられる。全面磨面で縁辺は刃部のような仕上がりである。石材は中粒砂岩で、刃部としての使用痕が一切認められない。鉄斧等の金属製品を研ぐ用途の砥石の可能性もある。1579は細粒砂岩である。下端部は折損後に磨った痕跡が残る。側面は砥面で平滑に磨られているが､両主面も磨った痕跡が残る。1584は細片資料である。全面砥面か。被熱したようで、表面がわずかに赤みを帯びる。石材は細粒砂岩である。1580～1582は軽石製の砥石である。1580は形態的に1579に類似し、両主面も砥面として機能したとみえ、明瞭な稜線が見える。1582はその形態から置砥石として機能したものか。

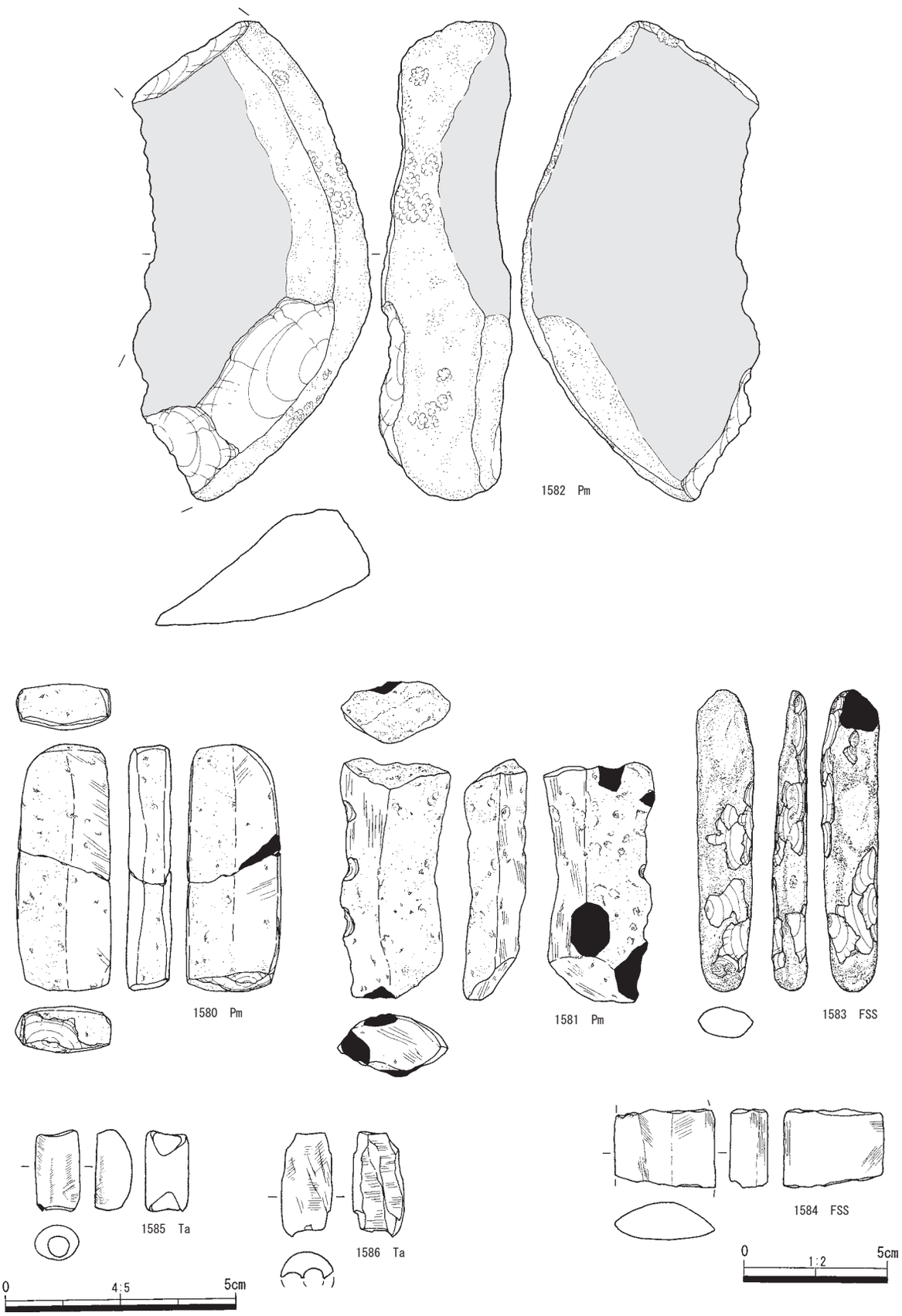
1583は細長い細粒砂岩の自然礫を利用したものである。剥離痕が見られることから敲石の可能性があるが、継続して使用された可能性は少ない。

管玉（第202図　写真図版137）

1585・1586は滑石製の管玉である。この他に図化できなかった滑石製の管玉が１点ある。



第 201 図　弥生以降の石器類 1



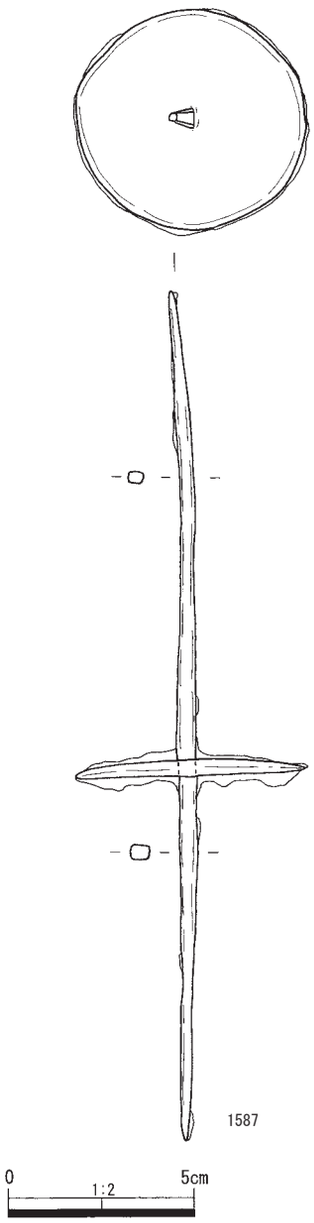
第 202 図　弥生以降の石器類２

第24表　弥生時代以降包含層土器観察表

挿図番号	図版番号	遺物番号	層位	グリッド	種別	器種	残存部位	器面調整		計測値	備考
								外面	内面		
1530		48526	FB	Z-022	弥生土器	壺	胴部破片	羽状条痕文			
1531		1304	FB	X-020	弥生土器	壺	胴部破片	羽状条痕文			
1532		17116	FB	W-020	弥生土器	壺	胴部破片	羽状条痕文			
1533		46665	FB	AD-021	弥生土器	壺	胴部破片	波状沈線文			
1534		59091	KU	AC-015	弥生土器	壺	胴部破片	縄文 (一部磨消し)			縄文区画のない 磨消し
1535		23243	UK	AI-020	弥生土器	壺	底部	ハケメ		残存高 109mm	網代痕
1536		23188	UK	AI-020	弥生土器	壺	底部	ハケメ		底径 80mm	網代痕
1536		23258	UK	AI-020	弥生土器	壺	底部	ハケメ			
1537	133	41241	UK	AH-019	弥生土器	甕	口縁部	羽状条痕文			
1538	133	25389	UK	AH-019	弥生土器	甕	胴部破片	斜位の条痕文			
1539		25351	UK	AH-020	弥生土器	甕	口縁部				
1540		25248	UK	AI-020	弥生土器	甕	口縁部	横位の条痕文			
1541	133	67020	NSC	W-012	弥生土器	甕	口縁部	指頭による横位の磨消線文		口径　310mm	磨消線文甕
1542	133	67027	NSC	W-012	弥生土器	甕	胴部破片	ハケメ			磨消線文甕
1543	133	67037	NSC	W-012	弥生土器	甕	胴部破片	ハケメ			磨消線文甕
1544	133	67023	NSC	W-012	弥生土器	甕	胴部破片	ハケメ			磨消線文甕
1545		67046	NSC	W-012	弥生土器	甕	底部	ハケメ	指頭圧痕文	底径(72mm)	網代痕
1546		23540	UK	AH-020	弥生土器	壺	頸部				
1547		23154	UK	AI-019	弥生土器	壺	底部	ナデ・ミガキ		胴部最大径 199mm 残存高 95mm　底径 48mm	木葉痕
1548	133	26731	UK	AI-020	弥生土器	台付甕	口縁部～胴部	ハケメ	ハケメ	口径 210mm　残存高 42mm	
1549	133	23168	UK	AI-020	弥生土器	台付甕	底部	ハケメ	ハケメ		
1550	133	25338	UK	AI-020	弥生土器	台付甕	底部	ハケメ	ハケメ		
1551		30894	クロ	AH-019	弥生土器	壺	底部	ハケメ	ハケメ		
1552		25289	UK	AI-020	弥生土器	台付甕	底部	ナデ	ハケメ		
1553		23178	UK	AI-020	弥生土器	台付甕	底部	ハケメ	ハケメ		
1554	134	25303	UK	AI-020	土師器	壺	頸部～底部	ヘラミガキ		胴部最大径 170mm 残存高 175mm　底径 58mm	
1555		90196	撹乱		土師器	甕	口縁部	櫛歯状沈線 ハケメ			S字甕
1556		65966	107	AP-026	土師器	坩	口縁部	ハケメ	板ナデ	口径 104mm	
1557		26861	UK	AI-020	土師器	甕	口縁部	ハケメ　板ナデ	ハケメ	口径 170mm	
1558		65963	107	AP-026	土師器	杯	口縁部	ヘラケズリ		口径 94mm	
1559		65962	107	AP-026	土師器	杯	口縁部	ヘラケズリ		口径 96mm	
1560		23149	UK	AI-019	土師器	杯	口縁部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	口径 96mm	
1561		31232	NSC	AI-020	土師器	杯	脚部	ハケメ	ハケメ		２ヶ所の透かし孔
1562	134	90197	表土		須恵器	杯蓋		ヘラケズリ		口径 150mm	
1563	134	904	NSC	AD-022	灰釉陶器	碗	底部			底径 70mm	
1564	134	23179	UK	AI-020	土師器	甕	口縁部～頚部	ナデ　ハケメ	ハケメ	口径 190mm　残存高 68mm	駿東甕
1565	134	90198	撹乱	AN-022	土師器	鍋	口縁部～胴部	ハケメ	ハケメ	口径 280mm　残存高 166mm	
1566	134	25250	UK	AI-020	土師器	甕	口縁部～胴部	ハケメ	ハケメ　板ナデ 指頭圧痕	口径 170mm　胴部最大径 194mm 残存高　204mm	
1567	134	44618	AN	AF-021	土師器	甕	底部	ヘラミガキ	ヘラミガキ 指頭圧痕	残存高 98mm　底径(80mm)	
1568		44686	AN	AG-021	土師器	甕	底部		ナデ	底径(110mm)	
1569		32687	AN	AG-022	中世土器	鍋	口縁部～頚部	ナデ	ハケメ	口径 220mm	伊勢鍋
1570		55487	KU	AE-021	山茶碗	鉢	口縁部	ヘラケズリ		口径 294mm	

第25表　弥生時代以降包含層石器・石製品計測表

挿図番号	図版番号	遺物番号	層位	グリッド	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	接合番号	備考
1571	135	47093	FB	AF-20	磨製石斧	Ga	148.0	62.0	41.5	651.58		太型蛤刃石斧
1572	135	80483	撹乱	W-18	磨製石斧	Sp	(90.0)	(26.0)	(35.0)	(107.84)		太型蛤刃石斧
1573	135	80694	撹乱	−	磨製石斧	SFT	71.8	39.6	16.2	62.8		扁平片刃石斧
1574	135	80915	表土	−	有孔磨製石鏃	SSl	47.45	19.40	2.40	3.45		
1575	135	80914	撹乱	−	有孔磨製石鏃	SSl	38.50	20.10	2.85	3.36		
1576	135	55362	FB	AF-23	有孔磨製石鏃	SSl	46.10	20.40	2.10	3.29		
1577	135	25644	UK	AI-20	有孔磨製石鏃	SSl	29.90	15.85	2.65	1.48		
1578	135	3668	FB	B-1	砥石	MSS	64.00	93.00	8.00	29.29	251	
		3669	FB	B-1								
		3670	FB	B-1								
1579	135	25597	UK	AH-20	砥石	FSS	62.65	29.50	13.50	41.22		
1580	135	25377	UK	AI-20	砥石	Pm	84.70	32.10	16.50	45.37	218	
		25378	UK	AI-20								
1581	135	25616	UK	AI-20	砥石	Pm	93.0	37.4	20.9	42.64		
1582	135	50034	FB	AA-22	砥石	Pm	165.0	82.0	45.5	350.55		
1583	135	81004	表土	V-17	敲石	FSS	103.9	19.0	12.8	41.16		
1584	135	25380	UK	AI-20	砥石	FSS	27.0	34.5	13.0	18.92		
1585	135	80213	表土	AA-22	管玉	Ta	17.1	9.1	8.3	1.95		
1586	135	57640	FB	AA-22	管玉	Ta	22.4	11.5	8.5	1.95		



第 203 図　鉄製紡錘車

3　金属器（第203図　写真図版138）

1587は鉄製紡錘車である。平成12年度確認調査その１で調査されたＴＲ10にて出土した。この資料は紡輪に紡茎が差し込まれた状態で出土した。紡輪・紡茎ともほぼ完形である。紡輪はほぼ正円形で断面凸レンズ形を呈す。最大径は61㎜、最大厚４㎜（中央付近）を測る。中央部に開いた直径５㎜程の孔に紡茎が差し込まれる。紡茎の断面形態は楕円に近い長方形である。長さ226㎜、最大厚５㎜（中央付近）を測り、端部に近くなるほど厚みを減じ、両端は釘のように尖る。紡輪・紡茎ともに麻糸等の有機質の付着は認められなかった。紡輪・紡茎を合わせた総重量は45.６ｇ（保存処理後の数値）である。

古庄浩明氏によれば鉄製紡錘車は７世紀前半頃から導入され始め、東日本においては７世紀後半から９世紀にかけて広く流通し、10世紀以降、出土数が減少していくとされる。鉄製紡錘車は、特に官衙の周辺集落や城柵内、開発された集落で出土しており、豪族による積極的な麻の製糸活動を示す資料と捉えられている。東村純子氏は律令制下での地方諸国では、集落で麻の製糸、郡衙工房で布の製織を担う分業制が成立していたとされ、一定の規格をもち、耐久性の高い鉄製紡錘車が製糸部門に導入されることによって、調庸制に対応した合理的な紡織体制が整えられていったものと考えられている。

第26表　鉄製紡錘車計測表

挿図番号	図版番号	器種	計測値					備考
			棒輪		棒茎		重量	
1587	138	鉄製紡錘車	円形	最大径　61mm	長方形	長さ　226mm	45.6g	確認調査その１ TR10より出土 グリッドAD22
				最大厚　4mm		最大厚　5mm		
			孔	径　5mm				

重量は保存処理後

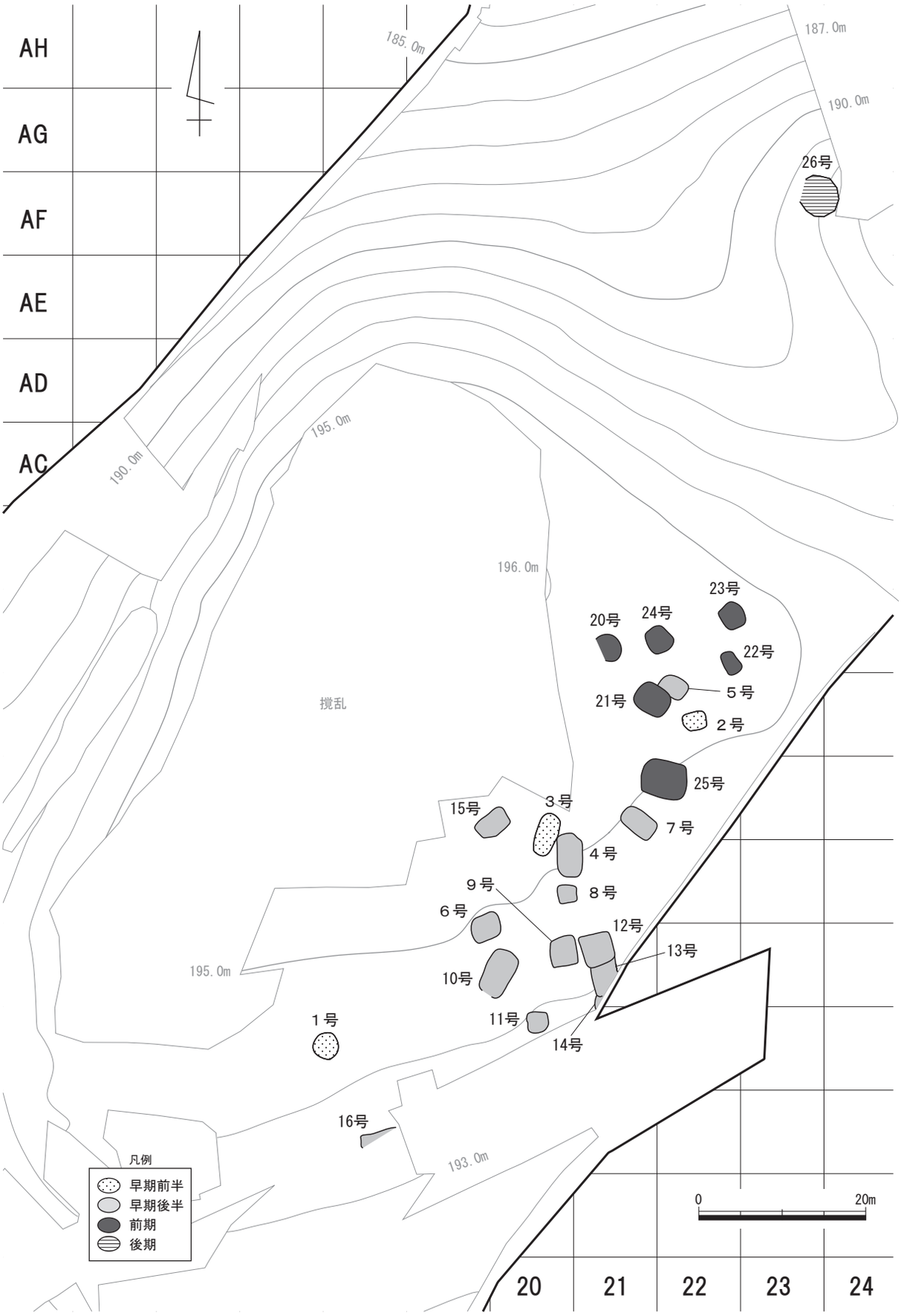
第５章　まとめ

当該遺跡において縄文時代の遺構で主体を成すのが住居跡である。第３章で述べているように住居跡は中央尾根上に多く検出され、縄文土器や石器も大量に出土している。第204図は中央尾根における住居跡の時期毎分布を示したものである。

１　早期

早期前半代に位置付けられた住居跡は１～３号住居跡は３基のみである。これらの住居跡は尾根上に散発的に位置する。第84図で既に示した縄文土器第Ⅰ群１類は住居跡が位置する中央尾根に集中し、１・２号住居跡期の生業域であったことを裏付ける。住居跡が検出されていない東尾根付近及び早期代と思しき17～19号住居跡や１号集石が位置する西尾根において、縄文土器第Ⅰ群２・３類の分布域が存在する事を勘案して、中央尾根から東尾根・西尾根に生業域が分散した可能性も認める。３号住居跡からは判ノ木山西式土器・子母口式土器が出土している点で、縄文土器第Ⅰ群６類・第Ⅱ群１類の分布域に同調しよう。前者は中央尾根から東支谷、東尾根にかけて、後者は中央尾根・東支谷に分布し、早期中頃の生業域の存在を窺う。住居跡の平面形の点において１・２号住居跡は比較的小型であるが、３号住居跡は長楕円形で、計測値を比較しても長大で、長さと幅の比率も1.75：１に近い。

早期後半代に入り中央尾根は多彩な状況を示す。該期の住居跡は４～15号住居跡で、中央尾根に位置する。住居跡は殆ど炉を設けておらず、貼床も判然としない。４号住居跡及び10号住居跡は共に長楕円形を呈し、共に長さと幅の比率は1.75：１に近い遺構である。遺構内の柱穴の位置が共に西壁寄りに多く設けられている点においても共通する。13号住居跡は２：１に近いものの、平面形は長方形である。これら長大な住居跡４・10・13号住居跡はW～Y－19～21グリッドの範囲の中に位置するが、正方形を呈する８・９・12号住居跡も同グリッド内にある。また計測値上では４・10・13号住居跡に及ばないものの、７号住居跡は長さと幅の比率が1.5：１を測るような住居跡もある。これらの同時期性もしくは時期差について読み取れないが、住居形態のバリエーションが窺える。また８号住居跡のような小規模な住居跡の床面に硬化面が顕著に残存していた点も看過できない。早期後半代の住居跡出土土器の主体は清水柳Ｅ類土器である。４号住居跡では清水柳Ｅ類土器の他に判ノ木山西式土器も見られるが、いずれも住居跡への流れ込みの遺物とも考えられたため、住居跡の所属時期は清水柳Ｅ類の時期と考えた。また４－１区西高台部と南部に挟まれた591号線区域は、昭和55年（1980）に長泉町により調査が行われ、大量の清水柳Ｅ類土器が出土しているが、検出された住居跡のうち４号竪穴住居跡が清水柳Ｅ類期に位置付けが可能である。第89図にあるように清水柳Ｅ類土器の出土分布は中央尾根、東支谷に顕著に見られ、特に中央尾根の住居跡エリアに集中する。東尾根・西尾根にも散発的に分布するものの、東支谷中の濃厚な分布から中央尾根の撹乱区域も本来清水柳Ｅ類期の生業域で遺物が谷地形に流れた可能性、谷地形内自体生業域として機能した可能性、以上の２者に該当する資料があろう。一方第Ⅱ群３類の野島式並行の土器が西尾根M～O－４～９グリッド及び中央尾根南端部P～Q－16～17グリッド付近に集中し、清水柳Ｅ類土器の分布と異にする点も看過できない。野島式並行土器が分布する西尾根（北）には、17号集石や土坑が散見されるのみで住居跡は未確認であるが、該期の生業域が存在した可能性が高い。一方第Ⅱ群５類の茅山下層式土器が東尾根、第Ⅱ群10類の上ノ山式土器が東支谷等に局所的に集中する状況がある。これらに伴う住居跡は未確認ではあるが、キャンプサイトのようなものだろうか。早期代の土器群分布の在り方について将来の検討に委ねたい。なお10号住居跡は19号土坑と重複し、時期的に土坑が後出である。18号土坑が前期の25号住居跡で重複し、住居跡が時期的に後出である。これらの土



第204図　時期別住居跡変遷図

坑は既に触れているように、逆茂木を設けた陥穴と考えられるため、中央尾根における集落は早期末～前期初頭に一時的であるが断絶した可能性があることを示している。

２　前期

前期代は中央尾根でも早期代住居跡群より北側に住居跡が展開する。これは前段階の住居跡群を意識したものか判然としない。該期の住居跡は20～25号住居跡であるが、このうち20・23・24号住居跡は小規模、かつ計測値も近似する。20・23号住居跡の平面形は多角形状にも見える点で共通するが、内部の柱穴や炉の設えに差がある。前者は木島式土器、後者は上の坊式土器の時期とも考えられ、時期差が存在する可能性がある。24号住居跡も前２者と同様小規模住居跡であるが、平面形は隅丸方形に近い点で異なる。出土遺物は23号住居跡に近い。規模が大きめの21・25号住居跡は隅丸のやや長方形で、炉を中心部に設けている点で共通する。25号住居跡は炉跡周囲の床面レベルで198の上の坊式土器、214の諸磯ｂ式土器等、前期前半・後半の土器群が混在して出土しており、当該住居跡の時期的位置付けを困難にしている。出土土器の主体は口縁部直下に刺突文列を施した清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊式土器で第Ⅳ群２類に、縄文と浮線文が施された諸磯ｂ式土器は第Ⅴ群３類に該当する。一方、21号住居跡には諸磯ｂ式土器のように清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊式土器に後出すると考えられる時期のものが未確認であり、概ね縄文時代前期前半代と捉えられたため、各々の時期差を想起せられる。22号住居跡の平面形は長楕円形で、炉も柱穴も判然としなかったタイプで、規模的にも長さと幅の比率的にも早期後半の７号住居跡をさらに矮小化した感がある。清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊式土器の時期と考えられる。以上のように前期代に比定される住居跡群にも形態上の複数のバリエーションは存在するのは明らかである。第118・119図に示したように第Ⅳ群１～４類、第Ⅴ群１～６類まで中央尾根から東支谷、東尾根にかけて分布する。第Ⅴ群３類に分類した諸磯ｂ式土器については東支谷中に濃い分布が見られ、中央尾根については25号住居跡出土遺物以外に判然としない状況が看取される。また中央尾根南・北西の東支谷、西支谷区域には前期代の土器の分布が少なく、住居跡を含めた生業域主体が中央尾根東半部から、東支谷、東尾根付近にあった可能性を認める。また１－１区Ｃ－１グリッド付近、西尾根に諸磯ｂ・ｃ式土器の集中箇所があり、該期のキャンプサイトか。

富士石遺跡周辺における前期代の遺跡として、まず想起せられるのは長泉町追平Ｂ遺跡及び中見代遺跡、東野Ⅱ橋下遺跡である。追平Ｂ遺跡は富士石遺跡から南へ約0.5㎞の尾根上に位置する。一帯は平坦で、富士石遺跡の西尾根の延長上に位置している。この遺跡からは前期の住居跡が２基確認されており、各々の平面形は第１号住居跡が円形、第２号住居跡が楕円形を呈する。両者とも前期前半代とされ、後者は清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊式土器の出土が認められる。また追平Ｂ遺跡の南側約50ｍの位置に東西に貫通する東名高速道路付近から谷地形が形成されはじめ、富士石遺跡西尾根は東西の尾根筋に分割される。その西尾根に中見代遺跡、東尾根、東名高速道路を跨ぐ東野Ⅱ橋の南側から東野Ⅱ橋下遺跡の２遺跡が位置する。この２遺跡から縄文時代前期前半の住居跡が19基確認されている。平坦で南に傾斜する地形上に住居跡が点在する状況で、東野Ⅱ橋下遺跡にて13号・18号住居跡が重複している以外は、密集した状態ではない。ただし中見代遺跡において清水ノ上Ⅱ式土器・上の坊式土器及び有尾式土器が見られる長大な住居跡（４号住居跡）で、平面形は長楕円形で長軸13.2m、短軸7.2ｍを測る大型住居跡が注目される。中見代遺跡及び東野Ⅱ橋下遺跡、そして追平Ｂ遺跡これら３遺跡一帯は縄文時代前期前半代の住居群であり、しかも３遺跡が位置する尾根は富士石遺跡西尾根に接続する。富士石遺跡における該期の住居跡群は西支谷を挟んだ中央尾根で地形的には隔絶しているが、各々の至近の集落域であるため何らかの関係を想像する。

３　中期

中期代においては今回の富士石遺跡調査において、該期の住居跡を見出していないものの、該期の土器の出土を確認している。第Ⅶ群の土器の分布は中央尾根上の分布が少量に留まり、西支谷から東支谷、東尾根及び北尾根にその分布が認められる。特に第Ⅶ群２類に分類した勝坂式土器の分布は少量ながら西支谷や北尾根まで分布が認められる。当該遺跡周辺で勝坂式期の集落の存在が認められるのが、長泉町上山地Ｂ遺跡である。富士石遺跡の南東約1.5㎞の尾根先端部付近に位置する。この一帯は平坦をなし眼下に黄瀬川を臨むが、この尾根は富士石遺跡の東尾根が南東に向かって更に発達したものか。上山地Ｂ遺跡では勝坂期の住居跡が27基確認されており、富士石遺跡における勝坂期の様相はこの上山地Ｂ遺跡との関連で今後検討が可能である。

４　後期

後期代に位置付けられた住居跡は26号住居跡のみである。平面形は円形であり、柱穴及び炉の設え、規模の点からも早～前期の住居跡との差は歴然である。第128図に示されたように第Ⅸ群１～４類に位置付けられた縄文土器は西支谷から東支谷、北尾根にかけて分布する。撹乱で大部分破壊されている中央尾根からの流れ込みもあろうが、東尾根から東支谷にかけての斜面地に位置する件の26号住居跡のように谷地形内での生業を想起せざるを得ない。中央尾根と東尾根に挟まれた狭隘な区域は東支谷に区分されるが、等高線の間隔で理解できるように比較的緩やかな地形である。当該区域が生活域として機能したのであろう。

該期の遺物については、近接する梅ノ木沢遺跡や沼津市尾壱遺跡・大谷津遺跡、富士市（旧富士川町）破魔射場遺跡等が知られるが、前段階と比べ判然としなくなる。後期以降の気候変動に同調する動きと理解されよう。

主要参考文献一覧（五十音順）

阿部芳郎1997「判ノ木山西遺跡出土土器の分類と編年」『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会

阿部芳郎・堀内真1998「考古編第２章第２節古屋敷遺跡」『富士吉田市史』史料編第１巻　富士吉田市史編さん委員会

池谷信之1990『広合遺跡（ｂ・ｃ・ｄ区）・広合南遺跡』沼津市教育委員会

池谷信之1991『広合遺跡（ｅ区）・二ッ洞遺跡（ａ区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会

池谷信之1996『柏葉尾遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会

池谷信之2001『葛原沢第Ⅳ遺跡（ａ・ｂ区）発掘調査報告書１』沼津市教育委員会

池谷信之2002『西洞遺跡（ｃ・ｄ区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会

池谷信之2003「縦位密接施文から異方向帯状施文へ－駿豆地方押型文土器の変遷と立野式－」『利根川』24・25　利根川同人会

池谷信之・守屋豊人1999「関東・中部・東海地方　早期（押型文系土器）Ⅱ・列島における縄文土器型式研究の成果と課題（２）」
『縄文時代』10　縄文文化研究会

池谷初恵1995「伊豆国における奈良平安時代の土器様相―三島市壱町田遺跡を中心として―」
『大場川遺跡群』三島市教育委員会

伊藤淳史1996「太平洋沿岸における弥生文化の展開―駿河湾岸中期弥生土器からの検討―」
『YAY！（やいっ！）弥生土器を語る会20回到達記念論文集』弥生土器を語る会

伊藤淳史1997「太平洋沿岸における弥生文化の展開・補遺」『西相模考古』第６号　西相模考古学研究会

今福利恵1999「山梨県内の諸磯式土器」『前期後半の再検討』縄文セミナーの会

植松章八2008「東駿河の奈良・平安時代遺跡と土器」『祢宜ノ前遺跡』富士市教育委員会

漆畑稔1993『長者ヶ原大平遺跡群発掘調査報告書』大仁町教育委員会

恩田勇1997「神奈川県における沈線文土器群後葉期の一様相」
『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
小笠原永隆1997「関東地方における田戸上層式・子母口式土器の様相－認識の再認識を中心として－」
『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
加藤賢二2003「論評『清水柳Ｅ類』」『利根川』24・25　利根川同人会
加納俊介・石黒立人編2002『弥生土器の様式と編年―東海編―』木耳社
亀田宗宏・廣瀬高文1989『富士石遺跡群』静岡県東部農林事務所・長泉町教育委員会
劔持直樹・鶴田晴徳・渡邊慈子2007『尾上第２遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会
小林達雄編2008『総覧　縄文土器』アムプロモーション
笹原千賀子2009「ふたつの「野島」－長泉町梅ノ木沢遺跡の第Ⅱ群土器－」
『研究紀要』第15号　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
下島健弘2003「縄文時代早期清水柳Ｅ類の成立過程」『利根川』24・25　利根川同人会
関野哲夫1992『尾上イラウネ遺跡発掘調査報告書Ⅱ　その１　－考古学的調査－』沼津市教育委員会
滝澤亮1985「古代東国における鉄製紡錘車の研究―東海道諸国の集落例を中心として―」『物質文化』44　物質文化研究会
田中総1997「中部・東海地方における沈線文土器の様相」『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
中世土器研究会編　1995『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社
中鉢賢治1994「瀬名遺跡出土の弥生式土器」『瀬名遺跡』Ⅲ（遺物編Ⅰ）　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
野内秀明2001「条痕文土器群後半期の諸段階－茅山下層式・茅山上層式土器とその周辺の土器群－」
『考古論叢　神奈川』第９集　神奈川県考古学会
原田雄紀2009『清水柳北遺跡（第３次）発掘調査報告書』沼津市教育委員会
原田雄紀・小崎晋・北佳奈子・池谷信之2010『尾壱遺跡（第２次）・清水柳北遺跡（第２次）発掘調査報告書』沼津市教育委員会
東村純子2005「律令国家形成期における鉄製紡錘車の導入と紡織体制」『洛北史学』第７号　洛北史学会
平川明夫・袴田稔1981『八分平Ｂ・富士石遺跡』公害防止事業団・静岡県教育委員会・長泉町教育委員会
廣瀬高文2006『追平Ｂ遺跡』長泉町教育委員会
廣瀬高文・渡辺康弘2001『木戸遺跡・中見代遺跡・東野Ⅱ橋下遺跡』長泉町教育委員会
松田光太郎1999「神奈川県における諸磯ａ・ｂ式土器の様相」『前期後半の再検討』縄文セミナーの会
毒島正明2009「子母口式古段階の土器について－峠遺跡出土土器を中心として－」
『竹石健二先生・澤田大多郎先生古希記念論文集』
毒島正明1983「子母口式土器研究の検討（上）」『土曜考古』第７号　土曜考古学研究会
毒島正明2004「子母口式土器研究の検討（下）」『土曜考古』第28号　土曜考古学研究会
毒島正明2005「「ミヲ坂式」「木戸上式」の再提唱について」『土曜考古』第29号　土曜考古学研究会
毒島正明2007「野島式研究序論－山内清男氏の茅山式を中心として－」『土曜考古』第31号　土曜考古学研究会
毒島正明2009「「清水柳Ｅ類土器」の学史的整理」静岡県考古学会東部例会（2009・09・12）資料
古庄浩明1992「鉄製紡錘車の研究―東日本への伝播について―」
『國學院大學考古学資料館紀要』第８輯　國學院大學考古学資料館
細田勝1999「南関東における諸磯式土器の様相」『前期後半の再検討』縄文セミナーの会
堀田孝博1999「古代における鉄製紡錘車普及の意義について―神奈川県下出土資料を中心として―」
『神奈川考古』第35号　神奈川考古同人会
守屋豊人1997「中部地方における押型文土器後半期の様相」『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
矢野健一1993「押型文土器の起源と変遷－いわゆるネガティブな楕円文を有する押型文土器群の再検討」
『考古学雑誌』第78巻第４号　日本考古学会

領家正浩2008「貝殻・沈線文土器」『縄文時代の考古学２』同成社

渡井英誉・佐野絵里・小野田晶2000『石敷遺跡』富士宮市教育委員会

報　告　書　抄　録

ふりがな	ふじいしいせき
書名	富士石遺跡Ⅲ　第二東名№142地点　縄文時代以降編
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	長泉町－11（第１分冊）
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第７集
編著者名	勝又直人・壬生亮輔・杉山和徳
編集機関	静岡県埋蔵文化財センター
所在地	〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23番20号　　TEL　054-262-4261（代）
発行年月日	2012年３月16日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町	遺跡番号					
ふじいしいせき 富士石遺跡	しずおかけん 静岡県 すんとうぐん 駿東郡 ながいずみちょう 長泉町 ひがしのあざはちぶだいら 東野字八分平 285-18他	22342		世界測地系 35°9′53″	138°52′44″	2000～2004年 2006～2009年	52,365㎡	記録保存調査
				日本測地系 35°9′42″	138°52′55″			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
富士石遺跡	集落	縄文時代	竪穴住居跡26軒・集石22基・土坑56基・炉跡15基・竪穴状遺構２基・配石遺構１基・石器埋納遺構１基・埋甕１基	縄文土器・石器	
		弥生時代	土坑１基	弥生土器・石器・石製品	
		古墳時代		土師器	
		奈良時代		須恵器	
		平安時代	カマド３基・遺物集中１基	灰釉陶器・土師器・鉄製品	
		鎌倉時代以降	溝跡４条・土坑82基・炉跡13基・墓１基	中世陶器・山茶碗・土師器	

要　約	富士石遺跡は後期旧石器時代から中世にわたる複合遺跡である。そのうち縄文時代以降、休場層上層より上位の調査成果を収録した。本書で中心になるのは縄文時代早期～前期の集落跡で、特に清水柳Ｅ類土器、野島式土器等縄文時代早期後半の土器が大量に出土している。 尾根部には竪穴住居跡が確認されているが、谷地形内の遺構・遺物の出土状況からも生業域として機能していた可能性を示す。また弥生時代以降の遺構・遺物が散見され、該期の土地利用が推定される。

静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第７集

富士石遺跡Ⅲ

第二東名№142地点
縄文時代以降編
第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
長泉町－11
（第１分冊）

平成24年３月16日発行

編集・発行　静岡県埋蔵文化財センター
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL　054－262－4261㈹
FAX　054－262－4266
印　刷　所　文光堂印刷株式会社
〒410-0871　静岡県沼津市西間門68-1
TEL　055－926－2800